茨城県教育財団文化財調査報告第102集

（仮称）北条住宅団地建設工事
地内埋蔵文化財調査報告書

中台遺跡

（中巻）

平成7年12月

茨城県住宅供給公社
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第102集

（仮称）北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書

中台（なかだい）遺跡

（中　巻）

平成7年12月

茨城県住宅供給公社
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

— 中　巻 —

第3章　遺跡 …… 8
第6節　古墳時代 …… 323
1　竪穴住居跡 …… 323
2　古墳 …… 438
3　土坑 …… 551
4　埋設遺構 …… 557
5　井戸 …… 558
6　まとめ …… 561
第7節　奈良・平安時代 …… 565
1　竪穴住居跡 …… 565
2　土坑 …… 688
3　掘立柱建物跡 …… 693
4　埋設遺構 …… 694
5　井戸 …… 701
6　溝 …… 704
7　道路状遺構 …… 710
8　まとめ …… 714
第8節　中・近世 …… 715
1　方形竪穴遺構 …… 715
2　土坑 …… 721
3　井戸 …… 733
5　遺構外出土遺物 …… 734
4　古銭 …… 736
6　まとめ …… 737
第9節　その他 …… 739
1　竪穴住居跡 …… 739
2　土坑 …… 739
3　溝 …… 745
付　編
1　縄文時代中期深鉢型土器内灰状試料分析 …… 758
2　中台遺跡横穴式石室出土鉄器の金属学的解析 …… 760
3　中台遺跡出土鉄鋌状鉄製品の金属学的解析 …… 768

— 下　巻 —

写真図版

挿 図 目 次

中 巻

第227図 第9・13・14・18・19号住居跡 ……341
第228図 第20・29号住居跡 ……342
第229図 第30・33号住居跡 ……343
第230図 第35・36・37・38号住居跡 ……344
第231図 第41・42号住居跡 ……345
第232図 第44・45号住居跡 ……346
第233図 第48・49号住居跡 ……347
第234図 第50・58号住居跡 ……348
第235図 第59・61・66号住居跡 ……349
第236図 第65・67・69号住居跡 ……350
第237図 第72・73・75号住居跡 ……351
第238図 第76・77号住居跡 ……352
第239図 第79・80・81・82号住居跡 ……353
第240図 第84・85・86・88号住居跡 ……354
第241図 第90・91・93・96号住居跡 ……355
第242図 第100・120・121号住居跡 ……356
第243図 第107・122号住居跡 ……357
第244図 第129・130・131号住居跡 ……358
第245図 第137・138・139・141号住居跡 ……359
第246図 第143・147・150号住居跡 ……360
第247図 第148・149・156・158・243・244・247号
住居跡 ……361
第248図 第168・178・181号住居跡 ……362
第249図 第207・213・230号住居跡 ……363
第250図 第225・234・236号住居跡 ……364
第251図 第245・249・252・268号住居跡 ……365
第252図 第279B・280号住居跡 ……366
第253図 第286・289・298号住居跡 ……367
第254図 第293・294号住居跡 ……368
第255図 第296・305号住居跡 ……369
第256図 第9・13・20・29号住居跡出土遺物 ……370
第257図 第29・31・33号住居跡出土遺物 ……371
第258図 第35・36・37・38・41号住居跡出土遺物 ……372
第259図 第42号住居跡出土遺物 ……373
第260図 第42・44・45・48号住居跡出土遺物 ……374
第261図 第49・50号住居跡出土遺物 ……375
第262図 第58・61・65・66・67・69・72号
住居跡出土遺物 ……376
第263図 第72号住居跡出土遺物 ……377
第264図 第72・73・75・76号住居跡出土遺物 ……378
第265図 第77・80号住居跡出土遺物 ……379
第266図 第80・81号住居跡出土遺物 ……380
第267図 第82・84・85・86・88・90・91・93号
住居跡出土遺物 ……381
第268図 第96・100・107・121・122・129・130号
住居跡出土遺物 ……382
第269図 第131・137・138・141・143・150号
住居跡出土遺物 ……383
第270図 第154・168・207号住居跡出土遺物 ……384
第271図 第213・225・230・243・245・249・268号
住居跡出土遺物 ……385
第272図 第268・279B・280・284・286・289・293号
住居跡出土遺物 ……386
第273図 第294・296・298号住居跡出土遺物 ……387
第274図 第3号住居跡，出土遺物 ……411
第275図 第2・5・8号住居跡 ……414
第276図 第6・7号住居跡，第2・5号
住居跡出土遺物 ……415
第277図 第6・7・8号住居跡出土遺物 ……416
第278図 第8号住居跡出土遺物 ……417
第279図 第1・2・3号住居跡 ……421
第280図 第4A・B・5号住居跡，第2号土坑 ……422
第281図 第6・7・8・11号住居跡 ……423
第282図 第1・3号住居跡出土遺物 ……424
第283図 第4A号住居跡出土遺物 ……425
第284図 第4B号住居跡出土遺物(1) ……426
第285図 第4B号住居跡出土遺物(2) ……427
第286図 第4B・6・7・8号住居跡出土遺物 ……428
第287図 第5号住居跡出土遺物 ……429
第288図 第2・33号墳 ……453
第289図 第2号墳 ……454
第290図 第2号墳 ……455
第291図 第3・33号墳 ……456
第292図 第4号墳 ……457
第293図 第4・6号墳 ……458
第294図 第6・7号墳 ……459
第295図 第8・9号墳 ……460
第296図 第10・11号墳 ……461
第297図 第12・13・14号墳 ……462
第298図 第14・15号墳 ……463
第299図 第16・17号墳 ……464

第300図　第18号墳 ……465
第301図　第19号墳 ……466
第302図　第19・20・21号墳 ……467
第303図　第21号墳 ……468
第304図　第21・22号墳 ……469
第305図　第23・24・25号墳 ……470
第306図　第26・27号墳 ……471
第307図　第28・29・30号墳 ……472
第308図　第31・32号墳 ……473
第309図　第34・35・68号墳 ……474
第310図　第34号墳 ……475
第311図　第36・37・38号墳 ……476
第312図　第39号墳 ……477
第313図　第41・42・43・46・47・48号墳 ……478
第314図　第44・45号墳 ……479
第315図　第45・49・50・51号墳 ……480
第316図　第52・53・56号墳 ……481
第317図　第57・58号墳 ……482
第318図　第59・60号墳 ……483
第319図　第61・62・63号墳 ……484
第320図　第64号墳 ……485
第321図　第65・66・67号墳 ……486
第322図　第67・69・72号墳 ……487
第323図　第２号墳出土遺物(1) ……488
第324図　第２号墳出土遺物(2) ……489
第325図　第２号墳出土遺物(3) ……490
第326図　第２号墳出土遺物(4) ……491
第327図　第２号墳出土遺物(5) ……492
第328図　第２号墳出土遺物(6) ……493
第329図　第２・３号墳出土遺物 ……494
第330図　第３号墳出土遺物 ……495
第331図　第３・４・６号墳出土遺物 ……496
第332図　第６・８号墳出土遺物 ……497
第333図　第９・10・11・12・14号墳出土遺物 ……498
第334図　第14号墳出土遺物 ……499
第335図　第16・18号墳出土遺物 ……500
第336図　第19・20号墳出土遺物 ……501
第337図　第20号墳出土遺物 ……502
第338図　第20・21号墳出土遺物(1) ……503
第339図　第21号墳出土遺物(2) ……504
第340図　第21号墳出土遺物(3) ……505
第341図　第21・22号墳出土遺物(1) ……506
第342図　第22号墳出土遺物(2) ……507
第343図　第22号墳出土遺物(3) ……508
第334図　第22・26号墳出土遺物(1) ……509
第345図　第26号墳出土遺物(2) ……510
第346図　第26号墳出土遺物(3) ……511
第347図　第26号墳出土遺物(4) ……512
第348図　第26号墳出土遺物(5) ……513
第349図　第26号墳出土遺物(6) ……514
第350図　第26・27・28号墳出土遺物 ……515
第351図　第28・30・31・32号墳出土遺物 ……516
第352図　第32号墳出土遺物 ……517
第353図　第32・33号墳出土遺物 ……518
第354図　第33号墳出土遺物 ……519
第355図　第33・34号墳出土遺物 ……520
第356図　第34・35・36・38・39・41・45・50・51・56号
　墳出土遺物 ……521
第357図　第57・58・59・60・61・63号墳出土遺物 ……522
第358図　第64・65号墳出土遺物 ……523
第359図　第66・67・68・69・71号墳出土遺物 ……524
第360図　第22・71・72号墳出土遺物 ……525
第361図　遺構外出土遺物 ……526
第362図　第150・615・617・846・884号
　土坑，出土遺物 ……552
第363図　第884号土坑出土遺物 ……553
第364図　第３・15・16号土坑，第３号
　土坑出土遺物 ……555
第365図　第３・15・16号土坑出土遺物 ……556
第366図　第６号埋設遺構，出土遺物 ……557
第367図　第１号井戸，第３・４・19・20・21・22・23号
　土坑 ……559
第368図　第２号井戸第12号土坑，第１・２号
　井戸出土遺物 ……560
第369図　第１・２・３・４号住居跡 ……592
第370図　第５・６・７号住居跡 ……593
第371図　第８・10・21・22・23・24号住居跡 ……594
第372図　第25・26・28・32・34・40号住居跡 ……595
第373図　第46・47・51・52号住居跡 ……596
第374図　第53・55・56・57号住居跡 ……597
第375図　第60・70・71・92・98号住居跡 ……598
第376図　第99・101・103・104号住居跡 ……599
第377図　第105・106・110号住居跡 ……600
第378図　第111・115・173・174号住居跡 ……601
第379図　第116・118・124・128・132号住居跡 ……602
第380図　第135・151・155・162号住居跡 ……603

第381図　第163A・B・C・164・169・170号住居跡 …604
第382図　第171・172・175・177・179号住居跡 ……605
第383図　第180・183・184・203号住居跡 ……606
第384図　第204・205・206・209号住居跡 ……607
第385図　第208・210・211・212号住居跡 ……608
第386図　第214・215・217・219号住居跡 ……609
第387図　第218・222・223・229号住居跡 ……610
第388図　第232・239・240・242・246号住居跡 ……611
第389図　第250・251・253号住居跡 ……612
第390図　第256・263・264・265号住居跡 ……613
第391図　第267・269・270・272号住居跡 ……614
第392図　第271・273・274号住居跡 ……615
第393図　第277・278A・279A号住居跡 ……616
第394図　第281・283・287号住居跡 ……617
第395図　第288・299・301号住居跡 ……618
第396図　第300A・B・302・304号住居跡 ……619
第397図　第303号住居跡，第1・2号
　住居跡出土遺物 ……620
第398図　第2・3・4・5号住居跡出土遺物 ……621
第399図　第5・6・7・8・21・23号住居跡出土遺物　622
第400図　第24・26・28・32・40号住居跡出土遺物 ……623
第401図　第47・51・52・53・55号住居跡出土遺物 ……624
第402図　第55・56・57・60・70号住居跡出土遺物 ……625
第403図　第70・98・99・101・103・104・105・106号
　住居跡出土遺物 ……626
第404図　第106・110・111号住居跡出土遺物 ……627
第405図　第111・113・114・115号住居跡出土遺物 …628
第406図　第115・116・118・124・128・129A・132号
　住居跡出土遺物 ……629
第407図　第135・151・155・162号住居跡出土遺物 …630
第408図　第162・163・164・169・170・171・172・173・174号
　住居跡出土遺物 ……631
第409図　第175・177・183・203・204号
　住居跡出土遺物 ……632
第410図　第204・205・206・208・209・210・211号
　住居跡出土遺物 ……633
第411図　第214・215・218・219・229・232・239・240号
　住居跡出土遺物 ……634
第412図　第240・242・246・250・251・253・256号
　住居跡出土遺物 ……635
第413図　第256・263・264・265号住居跡出土遺物 …636
第414図　第267・269・270・271号住居跡出土遺物 …637
第415図　第271・273・274・277・278号
　住居跡出土遺物 ……638
第416図　第278・279A・281号住居跡出土遺物 ……639
第417図　第281・299号住居跡出土遺物 ……640
第418図　第282・283・287・288・299号
　住居跡出土遺物 ……641
第419図　第299号住居跡出土遺物 ……642
第420図　第299・300号住居跡出土遺物 ……643
第421図　第300・301・302号住居跡出土遺物 ……644
第422図　第302・303・304号住居跡出土遺物 ……645
第423図　第1・2号住居跡 ……678
第424図　第1・2号住居跡出土遺物 ……679
第425図　第1・3・4号住居跡 ……681
第426図　第3号住居跡出土遺物(1) ……682
第427図　第3号住居跡出土遺物(2) ……683
第428図　第4号住居跡出土遺物 ……684
第429図　第9・10・12号住居跡・第11・17・18号
　土坑・第1号溝 ……687
第430図　第10・12号住居跡出土遺物 ……688
第431図　第243・248・250・252・278・345・447・491・506・
　556・851・864号土坑 ……690
第432図　第248・250・252・305・491・736号土坑出土
　遺物 ……691
第433図　第1号土坑，出土遺物 ……692
第434図　第11号土坑出土遺物 ……692
第435図　第1号掘立柱建物跡，出土遺物 ……693
第436図　第9・11・12・15・16・20号埋設遺構 ……696
第437図　第9・11・12号埋設遺構出土遺物 ……697
第438図　第15・16号埋設遺構出土遺物 ……698
第439図　第17・18・19・20号埋設遺構出土遺物 ……699
第440図　第3・4号井戸 ……702
第441図　第5号井戸 ……703
第442図　第4・5号井戸出土遺物 ……704
第443図　第1号溝・第1号道路状遺構 ……705～706
第444図　第1号溝出土遺物(1) ……707
第445図　第1号溝出土遺物(2) ……708
第446図　第1・2号溝出土遺物 ……709
第447図　第1号溝出土遺物 ……710
第448図　第1号道路状遺構出土遺物 ……710
第449図　第1・2・3・4・5・6号方形竪穴遺構 …717
第450図　第7・8・9・10・12・13号方形竪穴遺構 …718
第451図　第14・15・16・17・18・19号方形竪穴遺構 …719

第452図　第20・21号方形竪穴遺構，第20・21号方形竪穴遺構・土坑・井戸・遺構外出土遺物 ……720
第453図　第６・10・11・12・15・17・28・31・36・61・62・64・75・76・78・79号土坑 ……724
第454図　第98・102・104・107・123・128・129・131・138号土坑 ……725
第455図　第143・154・156・160・161・166・167・169・170・171・175・184・231号土坑 ……726
第456図　第236・238・240・245・262・272・275・289・290・292・300号土坑 ……727
第457図　第309・310・312・316・338・344・353・355・405・406・428・429・451号土坑 ……728
第458図　第464・479・484・485・490・500・509・514・517・526・533・534号土坑 ……729
第459図　第540・551・552・553・555Ａ・Ｂ・623Ａ・Ｂ・627号土坑 ……730
第460図　第681・690・722・725・749・752・769・808・827・834Ａ・862・867・871・872号土坑 ……731
第461図　第873・876・885・889・890・891・892・895・896・900号土坑 ……732
第462図　第902・904・906Ａ号土坑 ……733
第463図　第１・２・３・４号井戸 ……735
第464図　古銭 ……736
第465図　第12・54・68・201・290号住居跡 ……746
第466図　第285・291・292・297号住居跡 ……747
第467図　第7・12・13・15・19・25号溝 ……748
第468図　第26・31・33号溝 ……749
第469図　第35・36・37・44・47号溝 ……750
第470図　時期不明遺構外出土遺物(1) ……751
第471図　時期不明遺構外出土遺物(2) ……752
第472図　遺構外出土遺物(1) ……753
第473図　遺構外出土遺物(2) ……754
第474図　遺構外出土遺物(3) ……755
第475図　遺構外出土遺物(4) ……755

表　目　次

中　巻

表５　古墳時代Ａ地区住居跡一覧表 ……339
表６　古墳時代Ｂ地区住居跡一覧表 ……410
表７　古墳時代Ｃ地区住居跡一覧表 ……413
表８　古墳時代Ｄ地区住居跡一覧表 ……420
表９　古墳一覧表 ……451
表10　古墳時代Ａ地区土坑一覧表 ……553
表11　古墳時代Ｃ地区土坑一覧表 ……554
表12　奈良・平安時代Ａ地区住居跡一覧表 ……589
表13　奈良・平安時代Ｂ地区住居跡一覧表 ……677
表14　奈良・平安時代Ｃ地区住居跡一覧表 ……684
表15　奈良・平安時代Ｄ地区住居跡一覧表 ……686
表16　奈良・平安時代Ａ地区土坑一覧表 ……689
表17　奈良・平安時代Ｃ地区土坑一覧表 ……689
表18　奈良・平安時代Ｄ地区土坑一覧表 ……689
表19　平安時代埋設遺構一覧表 ……700
表20　奈良時代井戸一覧表 ……701
表21　奈良・平安時代Ｃ地区溝一覧表 ……710
表22　方形竪穴遺構一覧表 ……720
表23　中世Ａ地区土坑一覧表 ……721
表24　中世Ａ地区井戸一覧表 ……734
表25　古銭一覧表 ……736
表26　その他の住居跡一覧表 ……739
表27　その他のＡ地区土坑一覧表 ……739
表28　その他のＢ地区土坑一覧表 ……744
表29　その他のＣ地区土坑一覧表 ……744
表30　その他のＤ地区土坑一覧表 ……744
表31　その他のＡ地区溝一覧表 ……745
表32　その他のＢ地区溝一覧表 ……745
表33　その他のＤ地区溝一覧表 ……745

第3章　遺　跡

第6節　古墳時代

1　竪穴住居跡

当遺跡の古墳時代の竪穴住居跡は，A・B・C・D地区それぞれから確認されている。A地区で確認された竪穴住居跡は88軒で，前期が67軒，中期が21軒である。B地区で確認された竪穴住居跡は1軒で後期(前半)である。C地区で確認された竪穴住居跡は5軒で，前期が1軒，中期が1軒，後期が3軒である。D地区で確認された竪穴住居跡は，10軒ですべて後期である。古墳を確認したA・B地区からは古墳が築造された時代の住居跡は確認されなかった。これは，集落が移動し，このエリアが墓域となったためと思われる。文章化するものは，住居跡の形状および規模の明確なもの，遺物の出土状況が良好なもの，あるいは出土遺物に特徴のあるものに限り，その他のものは一覧表にすることにした。

A地区

第29号住居跡（第228図）

位置　調査A区の北部のB4d$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　北西コーナー・中央部から南壁中央部にかけて第10号墳の周溝に，南東部は第10号墳の主体部にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.80m，短軸6.58mの方形である。

主軸方向　N－0°。

壁　壁高25～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　壁下を全周している。上幅12～22cm，深さ6～10cmで，皿状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心に，よく踏み固められている。

ピット　4か所。P$_1$～P$_4$は長径34～35cm，短径25～46cmの楕円形で，深さ74～90cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　中央部北寄りに確認されている。径50cm程の円形で，床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。炉床は焼けて赤変しているが，硬化の度合いは弱い。南西部に40×14cm程の炉石をもつ。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長径85cm，短径75cmの楕円形で，深さ68cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　8層からなる。1層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を中量含んだ褐色土で，これらの層が，本跡の基本土層である。

遺物　遺物は少ない。第257図2の甕は北壁際中央部からつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。遺物が少なく，完形の遺物は甕1点しかないのは，住居跡廃棄時に片付けられたものと考えられる。

第33号住居跡（第229図）

位置　調査A区の中央部のC3f$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　北部は第14号墳の周溝に，南西部は第50号墳の周溝に，南部は第505号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［6.20］m，短軸（3.20）mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－59°－W。

壁　重複や削平されているため西側の壁のみが確認されている。壁高26cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。

ピット　確認されなかった。

炉　確認されなかった。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　3層からなる。壁際に3層のローム粒子を多量に含んだ暗褐色土が堆積し，その後にローム粒子を少量含んだ褐色土の1層とローム粒子を中量含んだ褐色土の2層が堆積している。共にしまりも粘性も普通である。

遺物　中央部を中心に出土している。中央部床面から第257図3の器台が逆位の状態で，4・5の甕が共につぶれた状態で出土している。西側覆土中から7の甕が出土している。覆土上層から流れ込みと考えられる1の高台付坏と2の皿が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第35号住居跡（第230図）

位置　調査A区の北部のB4b$_7$区を中心に確認されている。

重複関係　北西部を第18号墳の周溝に，中央部から南東部にかけて第12号墳の周溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.40m，短軸［5.96］mの方形と考えられる。

主軸方向　N－11°－E。

壁　壁高23～33cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。

ピット　2か所。P$_1$は径23cmの円形で，深さ20cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_2$は径20cmの円形で，深さ30cm程である。規模からは柱穴の可能性もある。

炉　確認されなかった。

貯蔵穴　南東コーナーに確認されている。長軸120cm，短軸105cmの隅丸方形で，深さ42cmである。断面形は逆台形である。

覆土　3層からなる。1層はローム粒子を中量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子を中量含み，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ褐色土である。それぞれの土層共しまりが強い。

遺物　床面全体から出土している。中央部から南西部床面にかけて第258図1の高坏が逆位の状態で，4・5・6・9の甕がそれぞれつぶれた状態で出土している。北東部床面から2の高坏が逆位の状態で，南東部床面か

ら7・8・10の甕と11の甑がつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第36号住居跡（第230図）

位置　調査A区の北部のB4b$_7$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸［4.41］m，短軸4.08mの方形と考えられる。

主軸方向　N－6°－W。

壁　壁高16～20cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　5か所。P$_1$～P$_4$は長径15～25cm，短径12～18cmの楕円形で，深さ9～16cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は長径29cm，短径26cmの円形で，深さ11cmである。P$_2$の東側に位置し，補助柱穴と考えられる。

炉　中央部から北寄りのP$_1$・P$_4$を結ぶ線上に確認されている。長径105cm，短径68cmの楕円形で，床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。炉床はよく焼けて硬化している。覆土は2層からなり，1層は焼土粒子を多量含んだ赤褐色土，2層は焼土粒子を微量，炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長径80cm，短径73cmのほぼ円形で，深さ43cmである。壁は外傾して，2段に立ち上がっている。

覆土　覆土は薄いが，3層確認されている。1層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を中量，焼土粒子を少量含んだ褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土小ブロックを中量含んだ褐色土である。

遺物　遺物は土師器片がわずかに出土している。覆土中層から須恵器坏(第258図1～3)が3個体並んで逆位の状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。遺物が少ないのは住居跡廃棄時に片付けられたものと考えられる。須恵器坏は本跡の埋没途中に出土位置に逆位の状態に置かれたものと考えられる。

第42号住居跡（第231図）

位置　調査A区の北部のB4g$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　西部は第43号住居跡を掘り込んでいる。北西部床面を若干掘り込んで第41号墳の箱式石棺が構築されている。

規模と平面形　長・短軸6.70mの方形である。

主軸方向　N－8°－W。

壁　壁高17～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。中央部を中心につよく踏み固められている。

ピット　3か所。P$_1$・P$_2$は径23・24cmの円形で，深さ19・24cmである。規模から柱穴と考えられる。位置からP$_1$は主柱穴で，P$_2$は主柱穴とするには位置がずれているので補助柱穴の可能性もある。P$_3$は径27cmの円形で，深さ11cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉　確認されなかった。

貯蔵穴　南東コーナー（貯蔵穴A）と南西コーナー（貯蔵穴B）の2か所。貯蔵穴Aは径約74cmの円形で，深さ45cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子を中量，炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層は炭化粒子を少量含んだ黒褐色土である。遺物は確認されなかった。貯蔵穴Bは径約95cmの円形で，深さ50cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり，いずれの土層もローム粒子を少量から微量含んだ暗褐色土である。2層を中心に遺物が出土している。

覆土　4層からなる。1層は炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子を少量含み，炭化粒子を中量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土，4層はローム粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。いずれの土層もしまりが強い。

遺物　中央部を除いた壁際から多く出土している。土師器片1315片で，特に高坏が多い。高坏は破片で330，個体数で35個体程出土している。南東部と北東部床面直上でまとまって遺物が出土している。南東部床面直上では，第260図20の甕が1個体まとまって正位の状態でつぶれたように，19の甕は横位の状態で出土している。南西部からは第259図1・5・7・10・16の高坏がまとまって出土している。貯蔵穴Bの東側から9・10・15の高坏が出土している。北東部床面直上で8・11の高坏と22の坩が出土している。第41号墳の北側覆土中層から4・6の高坏がそれぞれ横位の状態で出土している。

所見　本跡の遺物で特徴的なのは，高坏が35個体出土していることと床面中央部からほとんど出土せず，壁際から数多く出土していることにある。この出土の状況はあたかも中央部を避けるかのようであり，何か高坏を利用しての祭祀的な行為が行われたように感じられる。時期は古墳時代中期である。

第44号住居跡（第232図）

位置　調査A区の北部のB4j$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　東壁は後世の撹乱を受けている。東部は第514号土坑に，中央部は第515号土坑に，南部は第516号土坑に，西壁は第517号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.60m，短軸［7.28］mの方形である。

主軸方向　N－9°－W。

壁　壁高9～14cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　南壁下中央部のみ確認されている。上幅15cm，深さ8cmで皿状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　4か所。P$_1$～P$_4$は長径57～87cm，短径41～63cmの楕円形で，深さ53～75cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　中央部やや北寄りに確認されている。長径63cm，短径53cmの楕円形で，床面を6cm程掘り窪めた地床炉である。炉床はよく焼けて赤変硬化している。覆土は4層からなる。1層は焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ赤褐色土，2層は焼土粒子を多量含んだ赤褐色土，3層は焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ極暗赤褐色土，4層はローム粒子を多量，炭化粒子を微量含んだ褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長径71cm，短径69cmの円形で，深さ73cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり，1層と4層から遺物が出土している。

覆土　覆土は薄いが9層からなる。1層のローム粒子を微量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土が覆

土の大部分を占めている。

遺物　北部床面と貯蔵穴内及び貯蔵穴周辺から出土している。第260図4の甕は北部床面からつぶれた状態で出土している。3の坩は貯蔵穴内から，2の器台は貯蔵穴壁際の床面から逆位の状態で出土している。5の土製鏡形模造品は北西壁際床面から横位の状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第48号住居跡（第233図）

位置　調査A区の中央部のC3j$_3$区を中心に確認されている。

重複関係　南部は第202号住居跡を掘り込んで，南西コーナーは第506号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.20m，短軸5.43mの長方形である。

主軸方向　N－10°－W。

壁　壁高8～29cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。

ピット　確認されなかった。

炉　中央部から北寄りに確認されている。長径42cm，短径38cmの円形で，床面を15cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化しているが，特に南側でその度合いが大きい。覆土は4層からなる。1層は焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，2層は焼土粒子を多量含んだ赤褐色土，3層はローム粒子を中量含んだ褐色土，4層はローム粒子を中量含み，焼土粒子を微量含んだ褐色土である。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　4層からなる。1層は炭化粒子・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，2層は炭化粒子・炭化物を中量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土，4層はローム粒子を多量含んだ褐色土である。1．2層が基本土層である。

遺物　床面全体からまばらに出土している。東側覆土下層から第260図3の高坏，床面直上で5の坩が横位の状態で出土している。北西壁際から4の器台が出土している。北西部覆土中から2の高坏と1の須恵器坏が正位の状態で出土している。

所見　住居跡の基本土層の1・2層から焼土粒子が少量，炭化粒子・炭化物が少量から中量確認されることや床面から炭化材が貼り付くように確認されることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代前期である。

第49号住居跡（第233図）

位置　調査A区の中央部C3b$_2$区を中心に確認されている。

重複関係　西側を第47号住居跡に，南西部を第484号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.46］m，短軸5.20mの方形である。

主軸方向　N－10°－W。

壁　壁高4～14cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦で，中央部はきわめて硬い。

ピット　確認されなかった。

炉　中央部からやや北寄りに確認されている。長径100cm，短径70cmの楕円形で，床面を15cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は焼けて硬化している。

貯蔵穴　南東コーナーに確認されている。長径85cm，短径70cmの楕円形で，深さ38cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。1層はローム粒子を少量，炭化粒子を微量含んだ褐色土，2層はローム粒子を微量，炭化粒子を少量含んだ褐色土である。

遺物　東側床面からややまとまって出土している。第261図2の器台は斜位の状態で出土している。6・7の台付甕は東側床面直上で出土している。5の台付甕は南東部床面直上でまとまっていたものと東側床面直上の破片とが接合されたものである。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第50号住居跡（第234図）

位置　調査A区の中央部の$C3d_2$区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第14号墳に，中央部南側は第485号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.55m，短軸（5.87）mの長方形である。

主軸方向　N－10°－W。

壁　壁高16～36cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　南側壁下と西側壁下と北西壁下から確認されている。上幅18～34cm，深さ6～10cmでU字状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心に踏み固められている。

ピット　4か所。P_1～P_4は長径57～87cm，短径41～63cmの不整円形で，深さ53～75cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　中央部やや北西寄りに確認されている。地床炉で炉床のみの確認である。床面からほんのわずか掘り窪めているだけであるが，赤変硬化している。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長軸75cm，短軸63cmの隅丸長方形で，深さ64cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1・2層はローム粒子と炭化粒子を微量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を多量含んだ褐色土でしまりがつよい。

覆土　5層からなる。1層はローム中ブロックを少量含んだ黒褐色土，2層はローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子と焼土粒子を少量含んだ黒褐色土，4層はローム小ブロックを少量含んだ黒褐色土，5層はローム粒子を中量含んだ暗褐色土である。3と4・5層が壁際に堆積した後に2→1層の順で堆積したと考えられる。

遺物　中央部床面と南西コーナーから集中して出土している。中央部床面から第261図3の甕がつぶれた状態で出土している。中央部から6の甕と8の台付甕が出土している。南西コーナー床面から1の鉢と5の甕と12のミニチュア土器が出土している。4の甕は斜位の状態で，2の甕はつぶれた状態で，11のミニチュア土器は逆位の状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第65号住居跡（第236図）

位置　調査A区の中央部のD3h$_9$区を中心に確認されている。

重複関係　北西部を第17号墳の周溝が，南西部を第18号墳の横穴式石室がそれぞれ掘り込んでいる。東側は後世の溝による撹乱を受けている。

規模と平面形　長軸（5.55）m，短軸5.28mの長方形である。

主軸方向　N－9°－E。

壁　壁高6～16cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心に踏み固められている。

ピット　6か所。P$_1$～P$_3$は径23～43cm程の円形で，深さ25～43cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。配列からは北東部にも位置するのが自然と考えられるが確認できなかった。後世の溝による撹乱のため確認できなかった可能性も考えられる。P$_4$～P$_6$は長径28～40cm，短径22～38cmの楕円形で，深さ12～16cmである。配置が不規則で，性格は不明である。

炉　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

覆土　覆土が薄く，明確な堆積状況は不明であるが，8層に分けられた。1～5・7・8層は褐色土で，6層は黒褐色土である。いずれの層共ローム粒子を中量から多量含み，3層を除いて，焼土粒子・炭化粒子・炭化物が少量含んでいる。いずれの層もしまりがつよい。

遺物　中央部床面を中心に出土している。中央部床面から第262図4の坩が正位の状態で，1の甕は斜位の状態で，3の甕はつぶれた状態で，2の甕は正位の状態で出土している。

所見　中央部床面から炭化材が出土していることや覆土中から焼土粒子・炭化粒子が確認されていることから焼失家屋と考えられる。覆土が薄いので明確ではないが，中央部からの遺物の出土状況から突発的な火災によるものと考えられる。時期は古墳時代前期と考えられる。

第72号住居跡（第237図）

位置　調査A区の中央部のC4j$_8$区を中心に確認されている。

重複関係　北側を第51号墳に，東側は第73号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［6.13］m，短軸（4.13）mで，方形と考えられる。

主軸方向　N－31°－W。

壁　北側・東側は不明であるが，壁高0～18cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　南西側壁下のみ確認されている。上幅6～12cm，深さ10～20cmで，U字型をしている。通常の壁溝に比べ，幅が狭く深い。

床　平坦。貯蔵穴西側に，上幅10cm，深さ18cmでU字型をした溝が確認されている。何らかの間仕切りのためかとも考えられる。

ピット　5か所。P$_1$～P$_3$は長径27～46cm，短径25～38cmの楕円形で，深さ17～60cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_4$・P$_5$は径20～25cmの円形で，深さ17～32cmである。配置から出入り口施設に伴うピットとも考えられる。

炉　中央部からやや西寄りに確認されている。長径84cm，短径60cmの不定形をし，床面を10cm程掘り窪めた地

床炉である。この炉内に第264図4の器台が正位の状態に置かれて出土している。

貯蔵穴　南コーナーに確認されている。長軸64cm，短軸62cmの方形で，深さ47cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　5層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを少量，炭化物・炭化粒子を多量含んだ黒褐色土，3・4層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，5層はローム粒子・炭化物を中量，焼土粒子を少量含んだ黒褐色土である。いずれの層もしまりがつよい。

遺物　床面全体から多量に出土している。中央部から第262図，5の坩，6の壺，第263図の11・12・13の甕，16・19の台付甕がまとまって出土している。北西部から3の高坏，14の甕が出土している。

所見　床面に貼り付くように炭化材が確認されることや覆土中から焼土粒子・炭化粒子が見られることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代前期と考えられる。

第73号住居跡（第237図）

位置　調査A区の中央部のC4j$_9$区を中心に確認されている。

重複関係　北側は第51号墳の周溝に，北東部は第42号溝にそれぞれ掘り込まれている。西側は第72号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸（5.60）m，短軸（4.67）mで，長方形と考えられる。

主軸方向　N－3°－W。

壁　南側と南東部のみ確認でき，壁高4～20cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認できなかった。

床　平坦。

ピット　4か所。P$_1$・P$_2$は長径30cm，短径23cmの楕円形で，深さ79cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_3$は長径40cm，短径33cmの不定形で，深さ4cmで，P$_4$は長径26cm，短径21cmの楕円形で，深さ31cmであるが，性格は共に不明である。

炉　中央部に2か所。炉Aは炉Bの南東側に位置する。炉Aは炉床だけの確認であるが，長径64cm，短径40cmの楕円形をした地床炉で，よく焼けて硬くなっている。硬化の程度は炉Bよりもつよい。炉Bは径58cm程の円形で，床面を10cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は焼けて硬化している。西側に炉石と思われる10cm四方程の石が確認されている。

貯蔵穴　南側に確認されている。径68cm程の円形で，深さは10cmである。壁は外傾して立ち上がっている。浅いので貯蔵穴でない可能性もある。

覆土　5層からなる。6層はローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土，7層はローム粒子・炭化物を少量，焼土粒子を多量含んだ暗赤褐色土，8層はローム粒子・焼土粒子を中量，炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，9層はローム粒子・焼土粒子・炭化物を中量含んだ黒褐色土，10層はローム粒子・焼土粒子を中量含んだ暗褐色土である。

遺物　中央部から南東部にかけて多量に出土している。中央部から第264図4の壺が出土している。南東部から1・3の高坏，5の甕が出土している。

所見　床面から炭化材が出土していることと覆土中から焼土粒子や炭化粒子が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代中期である。

第76号住居跡（第238図）

位置　調査A区の中央部のD4b$_8$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長・短軸共に4.91mの方形である。

主軸方向　N－22°－W。

壁　壁高2～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　壁下を全周している。上幅14～58cm，深さ4～22cmでU字型をしている。

床　平坦。炉跡を中心に広い範囲が踏み固められ硬化している。

ピット　8か所。P$_1$～P$_3$は，長径34～36cm，短径26～31cmの楕円形で，深さ23～66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_4$は径20cmの円形で，深さ13cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P$_5$・P$_6$は長径21～29cmで，短径18～20cmの楕円形で，深さ13～20cmである。配置から補助柱穴と考えられる。P$_7$・P$_8$は長径55cm，短径41～48cmの楕円形で，深さ11～26cmである。性格は不明であるが，それぞれ壁際に位置することから，同じような用途に使われたのかもしれない。

炉　中央部に確認されている。炉床のみの確認で，長径70cm，短径40cmの楕円形をした地床炉である。南側に20cm四方程の石が確認されている。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長径120cm，短径98cmの不整楕円形で，深さ68cmである。覆土は5層からなる。1層はローム粒子・炭化物を中量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を中量，炭化物を多量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・粘土ブロックを中量，炭化粒子・炭化物を多量含んだ暗褐色土，4層は粘土大ブロックの灰黄褐色土，5層はローム粒子・ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。2層から柱材と思われる炭化材が西側壁際から流れ込むようにして出土している。

覆土　覆土は薄いが，4層からなる。1層はローム粒子を中量，炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土，2層はローム小ブロックを少量，炭化物を多量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子を少量，炭化粒子を中量含んだ暗褐色土，4層はローム粒子を多量含んだ暗褐色土である。

遺物　北西部と貯蔵穴周辺から比較的多く出土している。炉跡の北側から第264図5の甕が斜位の状態で出土している。北西壁際から3の壺と7の甕が2つ並んで正位の状態で出土している。貯蔵穴周辺の床面から4の甕はつぶれた状態で，1・2の高坏もつぶれた状態で出土している。貯蔵穴覆土中から坩の破片が，2層からは6の甕が出土している。

所見　床面に貼り付くように，しかも中央に倒れたように炭化材が確認されることと覆土中から炭化物や炭化粒子が見られることから，焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代前期と考えられる。

第77号住居跡（第238図）

位置　調査A区の中央部のD4i$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　第2号墳の墳丘下に位置し，北東部が第78号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長・短軸6.95mの方形である。

主軸方向　N－1°－W。

壁　壁高25～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　それぞれのコーナー部を除いて，壁下を掘り込んでいる。上幅9～32cm，深さ6～11cmで皿状をしている。東壁下はU字型で他に比べやや深い。

床　平坦。南側中央部に上幅8～16cmで，深さ5cmのU字型をした溝が確認されている。

ピット　6か所。P_1 ～ P_4は長径32～69cm，短径31～50cmの円形や楕円形で，深さ31～50cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は長径29cm，短径25cmの楕円形で，深さ43cmである。配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_6は長径55cm，短径34cmの楕円形で，深さ11cmである。配列的には主柱穴の位置であるが，規模からP_3が主柱穴，P_6が補助柱穴と考えられる。

炉　中央部やや北西寄りに確認されている。長径82cm，短径47cmの楕円形をし，床面を8cm程掘り窪めた地床炉である。南部から長さ46cm，幅10cmの石が炉床を掘り込むようにして確認されている。覆土は1層で，ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物を少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長・短径82cmで不定形をし，深さ41cmである。壁は2段になり外傾して立ち上がっている。

覆土　6層からなり，すべて褐色土である。壁際に4・5・6層が堆積した後に，3→2→1層の順に堆積したものと考えられる。

遺物　中央部床面と東側から比較的多く出土している。炉床に置かれたように第265図4の器台が正位の状態で出土している。炉の南東側から2の粗製鉢が正位の状態で，南西側から3の鉢がつぶれた状態で，北側から6の甕が正位の状態で出土している。東壁際から1の鉢が逆位の状態で出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第80号住居跡（第239図）

位置　調査A区の中央部のD4h$_8$区を中心に確認されている。

重複関係　第2号墳の墳丘下に位置する。東コーナーから西コーナーにかけて第21号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.10m，短軸4.65mの方形である。

主軸方向　N－25°－W。

壁　壁高5～18cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　壁下をほぼ全周している。上幅14～28cm，深さ6～8cmで，皿状をしている。

床　平坦。南コーナーに焼土を含んだ土手状の高まりが見られる。

ピット　2か所。P_1は長径35cm，短径26cmの円形で，深さ18cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径30cm程の円形で，深さ12cmであり，壁柱穴の可能性もあるが，不明である。

炉　中央部やや北寄りに確認されている。長径60cm，短径40cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めた地床炉である。

貯蔵穴　北コーナーに確認されている。長径125cm，短径80cmの楕円形で，深さ28cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は1層で，ローム粒子を極めて多量，ローム小ブロックを少量含んだ褐色土である。覆土10層からなる。東西覆土は壁際に3・5層のローム粒子を極めて多量に含んだ褐色土と，4層はローム粒子を中量含んだ暗褐色土が堆積し，その後に2層のローム粒子・焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，1層のローム粒子・焼土粒子を中量含んだ褐色土の順に堆積している。

遺物　炉南側の床面中央部と北側の貯蔵穴の周辺を中心に多量に出土している。床面中央部から第266図14・15・16・17の甕がそれぞれつぶれた状態で，第265図5・7の坩が出土している。貯蔵穴の西側から11・13の甕が，南側からは4の坩が出土している。東コーナーから8の壺が正位の状態で出土している。

所見　北部と南部の床面に貼り付くように，しかも中央部に向かって倒れたかのように炭化材が出土していること，覆土中から焼土粒子が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代前期と考えられ

る。

第82号住居跡（第239図）

位置　調査A区の中央部のE4a$_0$区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第2号墳の周溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.70］m，短軸［4.25］mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－90°－E。

壁　北・西側の壁のみ確認されている。壁高2～13cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。

ピット　4か所。P$_1$は長径35cm，短径31cmの円形で，深さ15cmである。西側に位置するが規模と壁の方向に立ち上がっていることから，出入り口施設に伴うピットと判断した。P$_2$・P$_3$は長径38～65cm，短径30～55cmの円形で，深さ50～72cmである。配置は不自然であるが，規模としては主柱穴として十分なピットである。P$_4$は径62cmの円形で，深さ12cmで，性格は不明である。

炉　中央部東寄りに確認されている。長径80cm，短径53cmの楕円形で，床面を3cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は強く焼けて硬化している。覆土は1層で，焼土粒子を極めて多量，焼土小ブロックを中量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　北東部に確認されている。長軸84cm，短軸73cmの隅丸長方形をし，深さ58cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなる。3層には粘土が北側から流れ込むように見られる。この層から土器が出土している。

覆土　5層からなる。1～3層はローム粒子を中～多量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，4層は炭化物を中量，焼土粒子を多量含んだ暗赤褐色土，5層はローム粒子・炭化物を多量，炭化材を中量，焼土粒子を少量含んだ黒褐色土である。

遺物　北東部床面から集中して出土している。高坏が破片を含めて60片，個体数で6個体出土している。北東部床面の貯蔵穴を取り囲むように，第267図1・2・3の高坏が出土している。

所見　床面から炭化材が貼り付くように出土していること，南東部床面からは焼土が確認されていること，覆土中から炭化材や焼土粒子が見られることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代中期である。

第86号住居跡（第240図）

位置　調査A区の南部東側のE5j$_7$区を中心に確認されている。

重複関係　北西部はわずかに第85号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.66m，短軸5.31mの方形である。

主軸方向　N－19°－W。

壁　壁高5～9cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　北東コーナーと南西コーナー貯蔵穴の部分を除いて，壁下を全周している。上幅14～26cm，深さ6～14cmで，U字型をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　8か所。P$_1$～P$_4$は長径16～36cm，短径15～24cmの円形・楕円形で，深さ25～68cmである。規模と配

列から主柱穴と考えられる。P_5はP_1の北東側に位置し，径25cmの円形で，深さ18cmである。P_6は北東コーナー壁際に位置し，長径48cm，短径34cmの楕円形で，深さ38cmである。P_7・P_8はP_2の南東側に位置し，長径36cm，短径28～30cmの楕円形で，深さ24cmである。それぞれのピットの性格は不明である。

炉　中央部やや北寄りに確認されている。長径155cm，短径87cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めた地床炉である。床面はよく焼けてつよく硬化している。覆土は2層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ赤褐色，2層は焼土粒子を中量，炭化粒子を少量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長軸105cm，短軸82cmの隅丸長方形で，深さ42cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土である。これらの土層で覆土の大部分を占めている。

遺物　全体に遺物量は少ない。北西部から土師器片が出土している。第267図2の台付甕は北西コーナー壁際から横位の状態で出土している。

所見　北西部床面を中心に炭化材や焼土が確認されること，覆土中から焼土粒子・炭化粒子が見られることから，焼失家屋と考えられる。遺物が少ないのは，住居廃棄時に持ち去ったものと考えられる。時期は古墳時代前期である。

第90号住居跡（第241図）

位置　調査A区の南部東側のE5a_9区を中心に確認されている。

重複関係　南東部を第32号墳の周溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.24］m，短軸（3.52）mの方形と考えられる。

主軸方向　N－59°－W。

壁　北西と南西の壁のみ確認されている。壁高10～27cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。西コーナー付近はやや凹凸している。

ピット　9か所。P_1・P_2は長径34～55cm，短径32～41cmの円形・楕円形で，深さ34～46cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3～P_5は長径17～28cm，短径15～26cm円形で，深さ5～15cmである。北西壁際に並んだ配置なので壁柱穴の可能性もある。P6～P9は長径18～37cm，短径17～29cmの円形で，深さ8～40cmである。性格は不明であるが，P_2を取り囲むような配置をしている。

炉　中央部に確認されている。長径70cm，短径40cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めた地床炉である。炉床中央部に20×11cmの石が置かれている。覆土は1層で，焼土粒子を極めて多量，焼土小ブロックを中量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　3層からなる。1層はローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含んだ褐色土である。

遺物　中央部から北部にかけて出土している。北西壁際から第267図2の壺がつぶれた状態で出土している。中

央部から３の甕，４の手捏土器が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期末の住居跡である。

第100号住居跡（第242図）

位置　調査Ａ区の中央部のＤ3j$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　南壁中央部を第14号墳の横穴式石室に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［6.34］m，短軸［6.04］mの方形である。

主軸方向　Ｎ－12°－Ｅ。

壁　東壁のみ確認されている。壁高０～23cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦であるが，桑の根による凹凸が見られる。主柱穴に囲まれた部分は踏み固められて硬化している。

ピット　６か所。P_1 ～ P_4は長径21～48cm，短径19～35cmの円形で，深さ57～68cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は径65cmの円形で，深さ34cmである。配置から出入り口施設に伴うピットと考えられるが，規模から違う用途も考えられる。P_6は長軸70cm，短軸50cmの長方形で，深さ60cmであるが，性格は不明である。

炉　中央部やや北西寄りに確認されている。長径70cm，短径64cmの円形で，床面を10cm程掘り窪めた地床炉である。覆土は１層で，ローム粒子・焼土粒子を中量含んだ暗褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。長径135cm，短径78cmの楕円形で，深さ53cmである。壁は２段に外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。１層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土で，覆土の大部分を占めている。床面に２・３層のローム粒子を多量含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物　貯蔵穴内と北東部を中心に出土している。南西部床面から第268図１の器台が出土している。貯蔵穴内から２の器台，３の台付甕，４・５・６の手捏土器が出土している。

所見　貯蔵穴内から３個体まとまって同じ器形の手捏土器が出土していることが特徴的である。時期は古墳時代前期である。

第107号住居跡（第243図）

位置　調査Ａ区の北部のＥ3e$_3$区を中心に確認されている。

重複関係　南コーナーは第20号墳の周溝に，南壁中央部は第238号土坑に，北壁中央部は第240号土坑に，東壁は第236・237・245号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.34m，短軸7.04mの方形である。

主軸方向　Ｎ－11°－Ｅ。

壁　壁高10～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている

壁溝　壁下をほぼ全周している。上幅20～40cm，深さ６～12cmで，Ｕ字型をしている。

床　平坦。ほぼ全面が硬化している。

ピット　７か所。P_1 ～ P_4長径36～54cm，短径31～42cmの円形で，深さ６～42cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。ただし，P_3・P_4は共に浅いピットである。P_5は径47cmの円形で，深さ11cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_6・P_7は径36・37cmの円形で，深さ13～17cmである。P_4を挟

むように確認され，補助柱穴の可能性も考えられる。

古墳時代

炉　中央部北寄りに確認されている。長径38cm，短径20cmの楕円形で，床面を3cm程掘り窪めた地床炉である。炉床の硬化の度合いは弱い。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　10層からなる。壁際に堆積した5・10層は褐色土と黒褐色土である。基本土層は1・2・3・4・7層で，1層から土器片が比較的多く出土している。

遺物　覆土下層を中心に，比較的多く出土している。中央部覆土下層から第268図4の器台，中央部床面から2の高坏が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第143号住居跡（第246図）

位置　調査A区の南部のF3c$_8$区を中心に確認されている。

重複関係　北西壁中央部から南東壁中央部にかけて第25号墳の周溝に，南西部は第681号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.89m，短軸7.81mの方形である。

主軸方向　N－35°－W。

壁　壁高7～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　東西南北各コーナーを除いて壁下をほぼ全周している。上幅12～34cm，深さ6～10cmで皿状である。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　7か所。P$_1$～P$_4$は長径40～61cm，短径37～50cmの円形・楕円形で，深さ30～60cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は長径61cm，短径30cmの楕円形で，深さ10cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P$_6$・P$_7$は長径30～57cm，短径25～42cmの楕円形で，深さ10～14cmである。それぞれ壁際に位置している。性格は不明であるが，補助柱穴の可能性もある。

炉　中央部に2か所確認されている。炉Aは炉Bの北西にある。炉Aは長径90cm，短径60cmの楕円形をした地床炉である。炉床は床面と同じレベルである。炉Bは長径58cm，短径55cmの不整円形で，床面を3cm程掘り窪めた地床炉である。

貯蔵穴　東コーナーに確認されている。長軸90cm，短軸80cmの長方形で，深さ52cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり，1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土である。1・2層から遺物が多く出土している。

覆土　7層からなる。壁際に4・5・6層が堆積している。1層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土で，2層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土で，この2つの層が基本土層であろう。

遺物　床面全体から出土している。貯蔵穴内から第269図8の坩と11の甕が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第168号住居跡（第248図）

位置　調査Ａ区の中央部のＤ3f8区を中心に確認されている。

重複関係　第60号住居跡の下に確認されている。北部は第17号墳に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸（6.10）m，短軸5.95ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－55°－Ｗ。

壁　壁高５～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　東壁中央部及び第17号墳に掘り込まれている部分を除いて壁下を全周している。上幅８～16cm，深さ４～６cmで，Ｕ字型をしている。

床　平坦で，主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。南壁中央部に接して，長さ94cm，幅154cmの長方形をし，深さ16cmの落ち込みが確認されている。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。出入り口に伴う施設の可能性もある。

ピット　12か所。P_1 ～ P_4は径14～19cmの円形で，深さ14～22cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。Ｐ5は南壁際の落ち込みの中に確認され，長径15cm，短径10cmの楕円形で，深さ３cmである。床面からの深さは16cmとなり，出入り口施設に伴うピットの可能性もある。P_6 ～ P_{11}は長径21～64cm，短径21～62cmの円形・楕円形で，深さ12～41cmである。規模と配列に規格性がなく，性格は不明である。P_9はP_1の東隣にあり，補助柱穴の可能性がある。P_{12}は径30cmの円形で，深さ52cmである。南西コーナー壁溝内に確認されている。

炉　中央部から北西寄りのP_1・P_4を結んだ直線上に，炉床のみ確認されている。長径55cm，短径38cmの楕円形をした地床炉である。

貯蔵穴　南東コーナーに確認されている。長径106cm，短径100cmの円形で，深さ82cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は４層からなり，いずれも暗褐色土である。１層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量，２層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量，３層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量，粘土を多量，４層はローム粒子・焼土粒子を少量，炭化粒子を中量，炭化物を多量含んでいる。粘土塊が覆土中・下層から，覆土中層から底面にかけて炭化材が多量に確認されている。炭化材の上に粘土塊が落ち込んだような様相である。

覆土　11層からなる。ローム粒子を含む暗褐色土が中心で，６層のみが褐色土である。９層を除くすべての層から，焼土粒子・炭化粒子・炭化物が確認されている。

遺物　北東部と貯蔵穴周辺から出土している。貯蔵穴覆土中層から第270図１・３の高坏が，貯蔵穴覆土上層から６・７の坩が出土している。貯蔵穴周辺からは10の甕が出土している。

所見　床面から炭化材が貼り付くように出土していること，覆土中から炭化材や焼土粒子が見られることから焼失家屋と考えられる。時期は古墳時代中期である。

第207号住居跡（第249図）

位置　調査Ａ区の中央部のＣ3g9区を中心に確認されている。

重複関係　北部は第68号墳に掘り込まれている。北東部は第530号土坑を掘り込んでいる。東壁は第213号住居跡と接している。第213号住居跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形　長軸（4.90）m，短軸［4.45］mの方形と考えられる。

主軸方向　Ｎ－０°。

壁　壁高21～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されなかった。

床　平坦。炉を中心に，主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　3か所。P_1 ～ P_3は長径40～51cm，短径35～42cmの円形・楕円形で，深さ24～40cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。北東部にも存在したと考えられるが，第530号土坑と重複し，確認できなかった。

炉　中央部に確認されている。長径86cm，短径65cmの楕円形で，床面を5cm程掘り窪めた地床炉である。炉床はよく焼けて硬化している。覆土は3層からなり，1層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を多量含んだ赤褐色土，2層はローム粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を多量含んだ褐色土である。

貯蔵穴　南東コーナーに確認されている。長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さ42cmである。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり，1層はローム粒子・炭化粒子を中量含んだ暗褐色土，2・3層はローム粒子を多量含んだ褐色土，4層は焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，5層は粘土を多量含んだ灰オリーブ色である。

覆土　6層からなる。1層は暗褐色土，2層は褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量，炭化物を中量含んだ暗褐色土，4層は焼土粒子・炭化粒子を中量，炭化物を少量含んだ暗褐色土，5層はローム粒子・炭化粒子を中量，焼土粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土，6層は焼土粒子を多量，炭化粒子を少量含んだ明赤褐色土である。

遺物　中央部床面と貯蔵穴周辺から多く出土している。貯蔵穴覆土上層から第270図2の器台が，貯蔵穴の南側床面から6の台付甕が出土している。北東部床面から3の坩が逆位の状態で，南部から5の甕がつぶれた状態で，南西部から1の埦が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

第225号住居跡（第250図）

位置　調査A区の中央部のC3c6区を中心に確認されている。

重複関係　南西部は第226号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.40m，短軸5.20mの方形である。

主軸方向　N－22°－W。

壁　壁高12～25cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　北壁のみ確認されている。上幅14～23cm，深さ6cm程で，皿状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　4か所。P_1 ～ P_4は長径33～45cm，短径28～40cmの円形・楕円形で，深さ20～86cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　中央部やや北寄りに確認されている。長径58cm，短径38cmの楕円形で，床面を18cm程掘り窪めた地床炉である。炉床はよく焼けて硬化している。覆土は5層からなり，1層は焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層は炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，4層は焼土粒子を多量含んだ明赤褐色土，5層は焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　3層からなる。1層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子・炭化物を中量含んだ黒褐色土で，覆土の大部分を占め，人為的に埋め戻した様相を示している。2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含ん

だ暗褐色土，3層はローム粒子・ローム小ブロックを中量，炭化粒子を少量含んだ褐色土である。

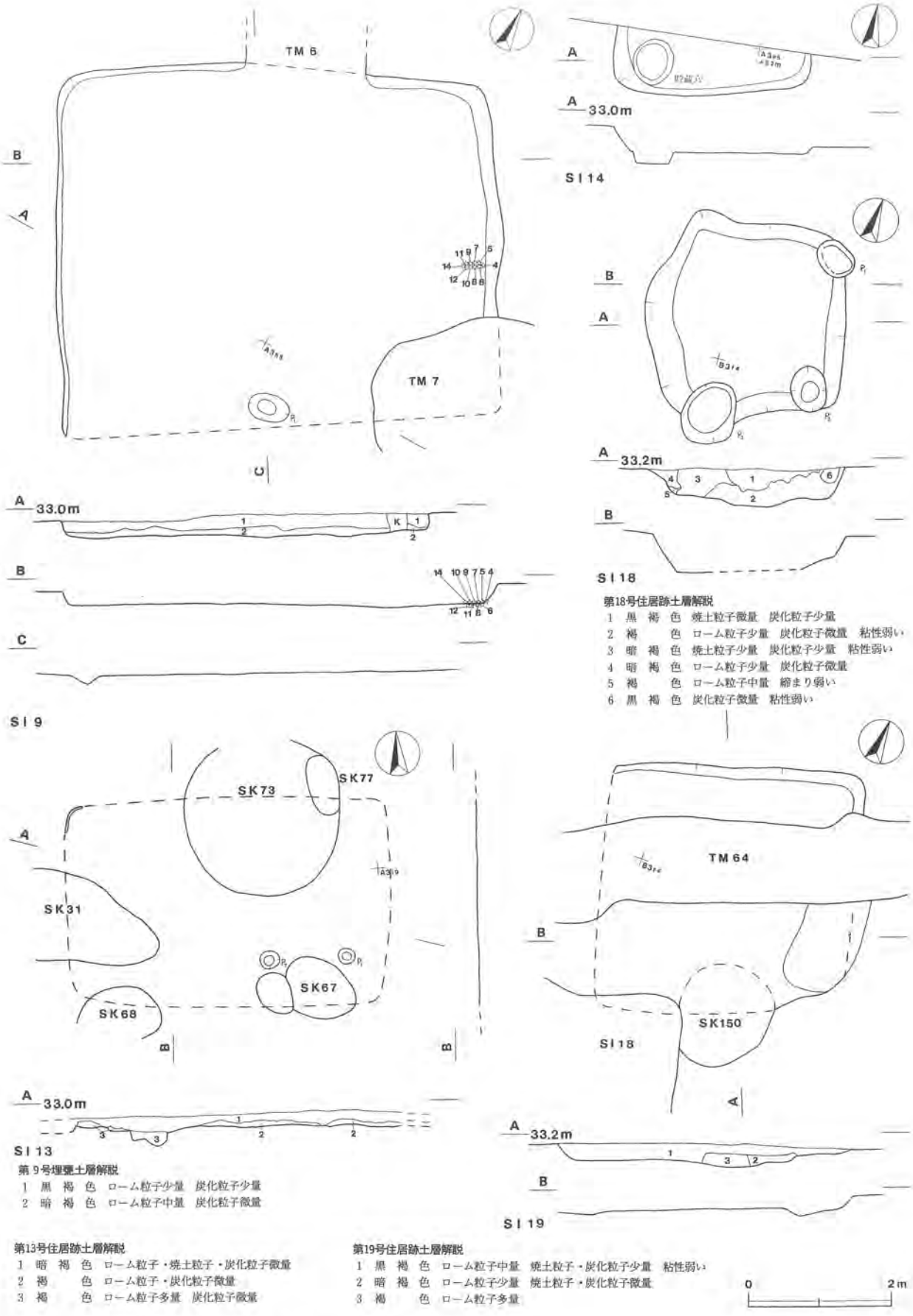
遺物　南西部覆土中層から土師器が一括して出土している。第271図2の器台はP_2の覆土最上層の壁際から逆位の状態で出土している。南西部の覆土中層から一括して1の高坏，3の坩，4の壺，5の甕が出土している。

所見　本跡は古墳時代前期の住居跡である。

表5　古墳時代A地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
9	A3g4	N−29°−W	[長方形]	6.32×[5.25]	15〜29	平坦				1			自然	土師器(甕・鉢・器台)，須恵器片，縄文式土器片，凹石，鉄鏃	前期　第227図
13	A3h8	N−89°−E	[長方形]	[4.65]×[3.01]		平坦				2			自然	土師器（台付甕），縄文式土器，埴輪片，凹石	前期　第227図
14	A3e4	N−10°−W	[方　形]	2.86×(0.91)	9〜36	平坦			南西コーナー				自然	土師器片	前期　第227図
17	A3g0	N−90°−E	[方　形]	[2.04]×[2.02]		平坦							不明	土師器片，縄文式土器片	前期
18	B3e4	N−78°−E	方　形	2.85×2.71	26〜35	平坦				3			自然	土師器片，縄文式土器片，土製円板	前期　第227図
19	B3e4	N−13°−W	[方　形]	[3.40]×[3.40]	10〜35	平坦							人為	土師器片，縄文式土器片	前期　第227図
20	B3g2	N−4°−E	[不整長方形]	6.12×[5.05]	14	凹凸		2		4			自然	土師器（高坏・甕・高台付坏），縄文式土器片，磨製石斧	前期　第228図
29	B4d1	N−0°	方　形	6.80×6.58	25〜28	平坦	全　周	4	南西コーナー	4		炉	自然	土師器（高坏・壺・甕），縄文式土器片	前期　第228図
30	B4j1	N−16°−W	長方形	7.40×6.60	8〜19	平坦	北西コーナー	4	南東コーナー	5	ピット	炉	自然	土師器（甕），縄文式土器片	前期　第229図
33	C3f5	N−57°−W	[長方形]	[6.20]×(3.20)	26	平坦							自然	土師器(器台・甕・台付甕・坏・高台付坏)，縄文式土器片，埴輪片	前期　第229図
35	B4b7	N−11°−E	方　形	6.40×[5.96]	23〜33	平坦		2	南東コーナー	2			自然	土師器（高坏・壺・甕・甑），縄文式土器片,埴輪片	前期　第230図
36	B4c8	N−6°−W	方　形	[4.41]×4.08	16〜20	平坦		4	南西コーナー	5		炉	自然	土師器片,須恵器（坏）	前期　第230図
37	B4b8	N−9°−W	方　形	[3.10]×(2.86)	0〜7	平坦							不明	土師器（坩・甑），縄文式土器片	前期　第230図
38	B4g7	N−65°−E	方　形	4.32×4.05	10〜25	平坦				3			自然	土師器（埦・器台・甕），縄文式土器片	前期　第230図
41	B4g2	N−65°−E	長方形	5.51×[5.36]	13〜25	平坦		1	南コーナー	1		炉	自然	土師器（甕・坏），縄文式土器片	前期　第231図
42	B4g5	N−8°−W	方　形	6.70×6.70	17〜33	平坦			2南東・南西	3			自然	土師器（高坏・坩・甕），縄文式土器片	中期　第231図
44	B4h7	N−9°−W	方　形	7.60×[7.28]	9〜14	平坦	南	4	南西コーナー	4		炉	自然	土師器（器台・壺・甕・坏），縄文式土器片	前期　第232図
45	B4j7	N−21°−W	長方形	7.50×5.82	0〜3	平坦						炉	自然	土師器（壺・甕・器台），縄文式土器片	前期　第232図
48	C3j3	N−10°−W	長方形	6.20×5.43	8〜29	平坦						炉	人為	土師器（器台・壺），須恵器（坏），縄文式土器(鉢)	前期・焼失　第233図
49	C3b2	N−10°−W	方　形	[5.46]×5.20	4〜14	平坦			南東コーナー			炉	自然	土師器（器台・壺・台付甕），縄文式土器片	前期　第233図
50	C3D2	N−10°−W	長方形	6.55×(5.87)	16〜36	平坦	南・北西	4	南西コーナー	4		炉	自然	土師器(埦・甕・台付甕・手捏土器)，縄文式土器片	前期　第234図
58	D3b8	N−41°−E	不　明	(3.70)×(3.28)	28	平坦	西						自然	土師器（甕），縄文式土器片	前期　第234図
59	D3b9	N−37°−W	方　形	[5.26]×[4.97]	4〜6	平坦	東			8		炉	自然	土師器（坩・甕），縄文式土器片	前期　第235図
61	D3f1	N−12°−E	方　形	5.55×[5.50]	5〜17	平坦	北	4	北東コーナー	5			自然	土師器（坏・甕），縄文式土器片	中期　第235図
65	D3h9	N−9°−E	長方形	(5.55)×5.28	6〜16	平坦		3		6			人為	土師器（器台・坩・甕・台付甕），縄文式土器片	前期・焼失　第236図
66	D4c2	N−12°−E	不　明	(1.75)×(1.60)		平坦						炉	不明	土師器（高坏）	中期　第235図
67	D4b1	N−2°−E	[長方形]	[5.23]×(4.48)	2〜7	平坦				2			人為	土師器（高坏・器台・甕）	中期　第236図
69	D4a6	N−20°−E	方　形	2.58×(1.37)	7〜9	平坦							不明	土師器（器台・甕),縄文式土器片	中期　第236図
72	C4j8	N−31°−W	[方　形]	[6.13]×(4.13)	0〜18	平坦	西　側	3	南コーナー	5		炉	人為	土師器(埦・高坏・器台・坩・壺・甕・台付甕)，須恵器片,縄文式土器片	前期・焼失　第237図
73	C4j9	N−3°−W	長方形	(5.60)×(4.67)	4〜20	平坦		2	南中央部	4		炉	人為	土師器（高坏・壺・甕），縄文式土器片	中期・焼失　第237図
75	C4h9		不　明			平坦							不明	土師器（坩），縄文式土器片	中期　第237図
76	D4b8	N−22°−W	方　形	4.91×4.91	5〜22	平坦	全　周	5	南西コーナー	8		炉	人為	土師器（埦・鉢・高坏・坩・甕），縄文式土器片	前期・焼失　第238図
77	D4i5	N−1°−W	方　形	6.95×6.95	25〜40	平坦	全　周	4	南西コーナー	6	ピット	炉	自然	土師器（鉢・器台・ミニチュア土器・手捏土器），縄文式土器片	前期　第238図
79	D4g5		不　明			平坦				1		炉	不明	土師器（坏）	前期　第239図
80	D4h8	N−25°−W	長方形	5.10×4.65	5〜18	平坦	全　周		北東コーナー	2		炉	人為	土師器（高坏・坩・壺・甕・ミニチュア土器），陶器（埦），縄文式土器片	前期・焼失　第239図
81	D4g8	N−0°	方　形	[4.65]×[4.45]	6〜7	平坦		2		2			自然	土師器（高坏・手捏土器・ミニチュア土器），縄文式土器片	中期　第239図
82	E4a0	N−90°−E	[長方形]	[5.70]×[4.25]	2〜13	平坦		2	北　東	4		炉	人為	土師器（高坏・壺・甕・台付甕・手捏土器），縄文式土器片	中期・焼失　第239図
84	D5j5	N−38°−W	不　明	(3.60)×(2.12)		平坦				1			不明	土師器（器台）	前期　第240図
85	D5i6	N−48°−W	[方　形]	[4.53]×(3.45)	4〜10	平坦		2		7		炉	不明	土師器（器台・ミニチュア土器），縄文式土器片	前期　第240図

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉・竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
86	E5j7	N－19°－W	方形	5.66 × 5.31	5～9	平坦	全周	4	南西コーナー	8		炉	人為	土師器（埦・台付甕），縄文式土器片	前期 第240図
88	E6c1	N－45°－W	[方形]	(5.18)×(2.82)	11	平坦				2			不明	土師器（器台），縄文式土器（深鉢）	前期 第240図
90	E5a9	N－59°－E	[方形]	[5.24]×(3.52)	10～27	平坦		2		9		炉	自然	土師器（高坏・壺・甕・手捏土器），弥生式土器（壺）縄文式土器片	前期 第241図
91	D5j0	N－46°－W	不明	(4.80)×(2.66)		平坦				3		炉	不明	土師器（高坏・手捏土器・ミニチュア土器），縄文式土器片	前期 第241図
93	E6a2	N－18°－W	不明	(4.06)×(3.60)		平坦			南東コーナー				自然	土師器（埦・壺・甕），縄文式土器片	中期 第241図
96	E4c7	N－34°－W	不明	[5.16]×[4.17]	0～6	凹凸				3			不明	土師器（壺・甕・皿），縄文式土器片	前期 第241図
100	D3j4	N－12°－E	方形	[6.34]×[6.04]	0～23	平坦		4	南西コーナー	6		炉	自然	土師器（器台・台付甕・手捏土器），縄文式土器（深鉢）	前期 第242図
107	E3e3	N－11°－E	方形	7.34 × 7.04	10～30	平坦	全周	4		7	ピット	炉	自然	土師器（埦・高坏・器台・坩・高台付埦），須恵器（坏），縄文式土器（深鉢）	前期 第243図
120	E4g9	N－41°－E	不明	[2.80]×(1.75)		平坦			西コーナー	2			不明	土師器片	中期 第242図
121	E4g7	N－2°－E	不明	(3.86)×(3.04)		平坦						炉	不明	土師器（坏・甕），縄文式土器（深鉢）	前期 第242図
122	E4i9	N－3°－E	方形	[4.90]×[4.85]		平坦		3		5		炉	不明	土師器（器台），縄文式土器片	前期 第243図
129B	F4g7	N－67°－W	不明	(4.17)×(3.55)		平坦						炉	人為	土師器（甕），縄文式土器片	中期 第244図
130	F4d6	N－55°－E	方形	2.55 × 2.45	18～24	平坦							人為	土師器（壺・甕），縄文式土器片	前期 第244図
131	F4e3	N－31°－W	長方形	[6.90]× 5.86	0～15	平坦				4			不明	土師器（高坏・坏），縄文式土器片	中期 第244図
137	F3g0	N－45°－W	方形	5.62 × 5.51	2～5	平坦	全周	4		4		炉	不明	土師器（ミニチュア土器），縄文式土器片	前期 第245図
138	F4i3	N－51°－W	[方形]	(3.10)×(2.87)	8～32	平坦			南コーナー2	1		炉	自然	土師器（鉢・高坏・甕），縄文式土器片	中期 第245図
139	F4j4	N－45°－W	不明	(3.83)×(2.35)						1			自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第245図
141	F3h8	N－45°－W	不整方形	5.82 × 5.48	5～20	平坦				12			自然	土師器（坩），須恵器片，縄文式土器片	中期 第245図
143	F3c8	N－35°－W	方形	7.87 × 7.81	7～30	平坦	全周	4	東コーナー	7		炉2	自然	土師器片（高坏・器台・坩・甕・台付甕），縄文式土器片	前期 第246図
147	F3g6	N－27°－E	不明	(2.21)× 2.04	7～17	平坦							人為	土師器片，縄文式土器片	前期 第246図
149	F3h2	N－14°－E	不明	(3.40)×(2.36)		平坦				1		炉	自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第247図
150	F3e1	N－8°－W	不整長方形	6.00 × 5.25	10～26				南東コーナー	4		炉	自然	土師器（器台・甕・ミニチュア土器・坏），縄文式土器片	前期 第246図
154	F2a5	N－64°－W	[方形]	4.12 ×(2.53)	31	平坦			南東コーナー			炉	人為	土師器（壺・高坏），縄文式土器片	中期
156	F2a2	N－18°－E	[長方形]	[3.76]×[3.37]	0～8	平坦		4		5			自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第247図
158	F1d0	N－87°－W	[長方形]	[4.23]×[3.50]	0～2	平坦						炉	自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第247図
168	D3f8	N－55°－W	[方形]	(6.10)× 5.95	5～20	平坦	南	4	南東コーナー	12		炉	人為	土師器（高坏・坩・甕），縄文式土器片，土製品（管状土錘）	中期・焼失 第248図
178	D3c7	N－90°－W	長方形	5.34 × 4.58	8～14	平坦				6			自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第248図
181	D3f4	N－80°－W	[方形]	4.72 ×[4.37]	5～20	平坦							自然	土師器片，縄文式土器片	前期 第248図
207	C3g9	N－0°	長方形	(4.90)×[4.45]	21～25	平坦		3	南東コーナー	4		炉	自然	土師器（器台・埦・坩・甕・台付甕），縄文式土器片	前期 第249図
213	C3f0	N－4°－W	方形	4.98 × 4.91	9～17	平坦		1	南西コーナー	1			人為	土師器（甕），縄文式土器片	前期 第249図
225	C3c6	N－22°－E	方形	5.40 × 5.20	12～25	平坦		4		4		炉	人為	土師器（高坏・器台・坩・壺・甕），縄文式土器片	前期 第250図
230	D3f0	N－1°－W	[楕円形]	4.44 ×(1.75)		平坦							不明	土師器（台付甕）	前期 第249図
234	F2b6	N－42°－W	楕円形	5.07 ×(2.86)		平坦						炉	不明	土師器片	前期 第250図
236	F2b4	N－28°－W	[方形]	[4.25]×(3.00)		凹凸				1		炉	自然	土師器（器台），縄文式土器片	前期 第250図
243	F3g1	N－14°－W	不明	[4.85]×[3.88]		平坦						炉	自然	土師器（器台・甕・ミニチュア土器），縄文式土器片，弥生式土器片	前期 第247図
245	F2f8	N－45°－W	方形	5.14 × 4.58	34～43	平坦	南東	3		3		炉	自然	土師器（壺），縄文式土器片	前期 第251図
247	F3g1	N－56°－W	不明	(3.25)×(2.02)		平坦				1			不明	土師器片	前期 第247図
249	F3b3	N－57°－W	不明	(3.68)×(2.09)	0～8	平坦							自然	土師器（器台・埦・坏），縄文式土器片	前期 第251図
252	F3b2	N－37°－E	長方形	[5.82]× 5.00	10～22	平坦							自然	土師器片，須恵器片，縄文式土器片	前期 第251図
268	F4h0	N－95°－W	[長方形]	4.40 ×(3.02)	4～10	平坦	西～北	2		3		炉	自然	土師器（高坏・壺・埦），縄文式土器片	中期 第251図
279B	F5a3	N－18°－W	長方形	7.05 × 5.99	9～12	平坦		5	南西コーナー	6		炉	自然	土師器片	中期 第252図
280	F4a0	N－39°－E	不整方形	5.72 × 5.33	10～20	平坦	全周	4		4			自然	土師器（高坏・坩・甕・高台付坏），縄文式土器片，石器（凹石・石斧）	中期 第252図
286	E5h3	N－4°－W	方形	6.87 × 6.52		平坦	全周	4	南東コーナー	12		炉	自然	土師器（高坏・壺・甕），縄文式土器片	前期 第253図
289	E5d5	N－10°－E	[方形]	5.20 ×(2.00)	10～36	凹凸		2		4			人為	土師器（高坏・ミニチュア土器・高台付坏），縄文式土器片	前期・焼失 第253図
293	B3i3	N－73°－E	[方形]	5.75 ×[5.37]	5～10	平坦		4		4		炉	自然	土師器（手捏土器），縄文式土器片	前期 第254図
294	B3h4	N－18°－W	長方形	4.84 ×[4.16]	5～17	平坦	西			1			自然	土師器（鉢・器台・甕・台付甕），縄文式土器片	前期 第254図
296	C3a5	N－10°－W	長方形	7.82 × 6.46	15～20	平坦	全周	2	北東コーナー	5	ピット	炉	人為	土師器（高坏・甕・台付甕・脚付甕），縄文式土器片	前期 第255図
298	E6f7	N－26°－W	不明	4.53 ×(3.67)	17～20	平坦	西		北コーナー	2			自然	土師器（高坏・坩・壺），縄文式土器片	中期 第253図
305	E6e8	N－60°－W	不明	4.80 ×(1.50)	15～40	平坦		1		4			人為	土師器片	前期・焼失 第255図



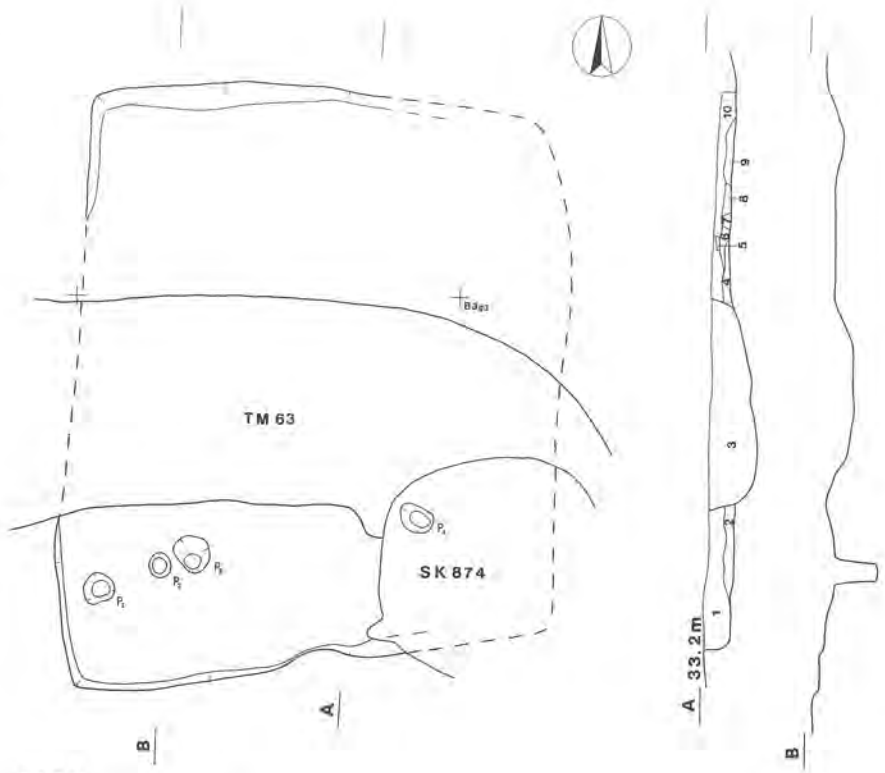
第18号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 焼土粒子微量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量 粘性弱い
3 暗 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子少量 粘性弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子中量 締まり弱い
6 黒 褐 色 炭化粒子微量 粘性弱い

第 9 号埋甕土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量

第13号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子微量

第19号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量

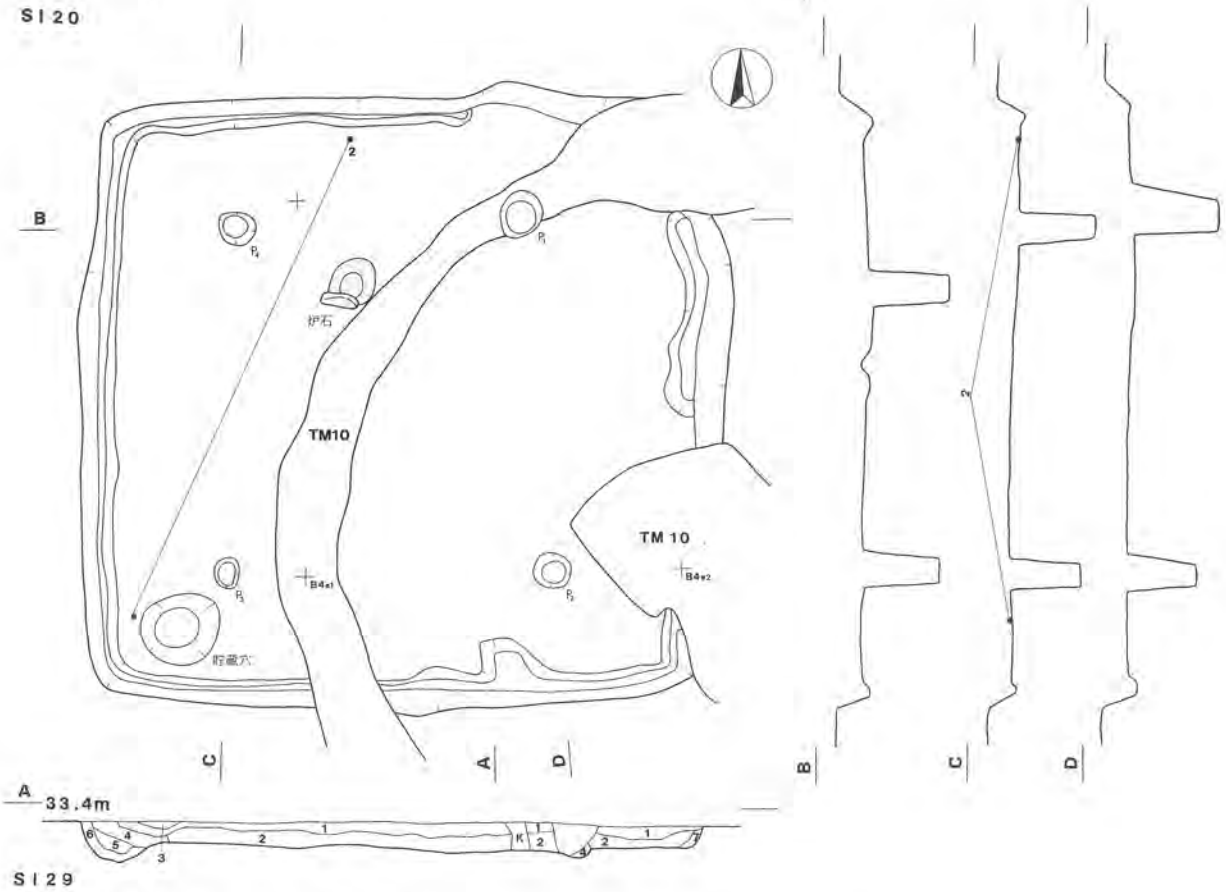
第227図　第 9・13・14・18・19号住居跡



SI 20

第20号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 褐 色 ローム粒子多量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子多量
7 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
8 褐 色 ローム粒子多量
9 黒 褐 色 炭化粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量



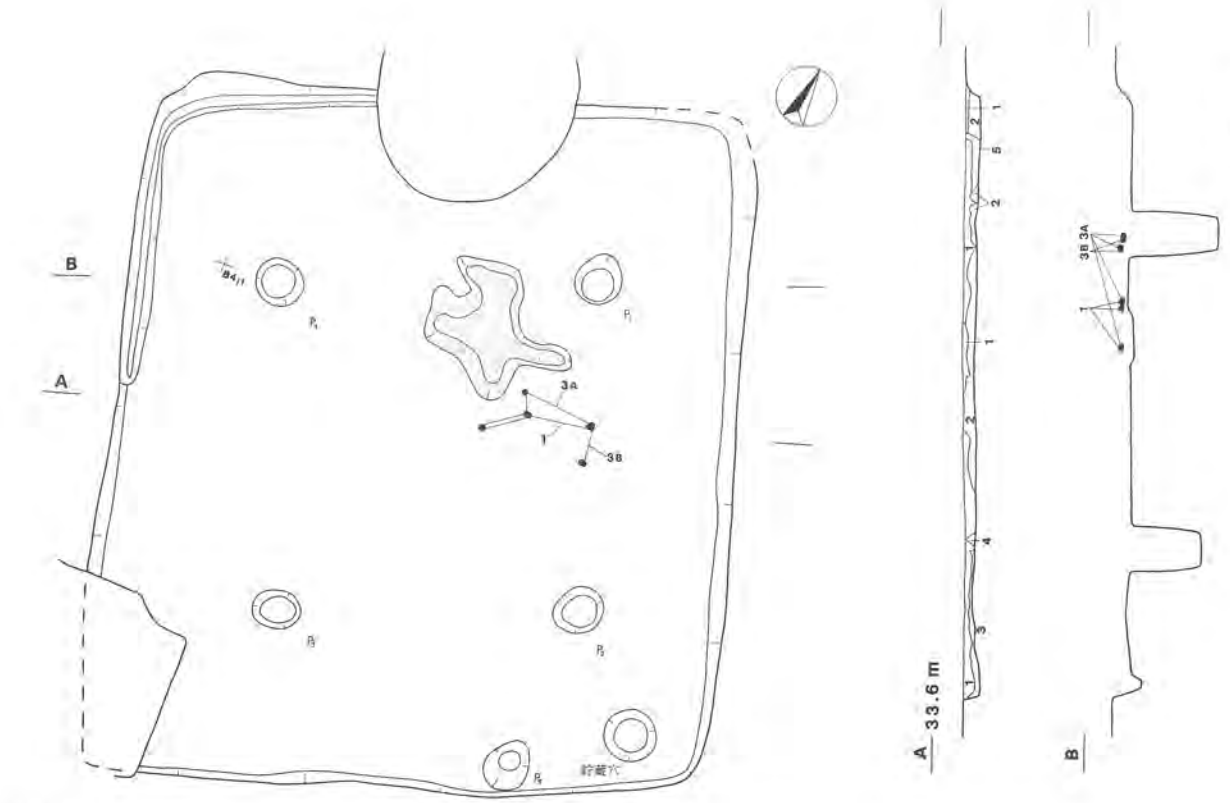
SI 29

第29号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 締まり弱い
2 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量 締まり弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量 焼土ブロック中量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量
5 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量 粘性・締まり弱い
6 褐 色 ローム粒子多量 粘性強い
7 褐 色 ローム粒子多量

0 2m

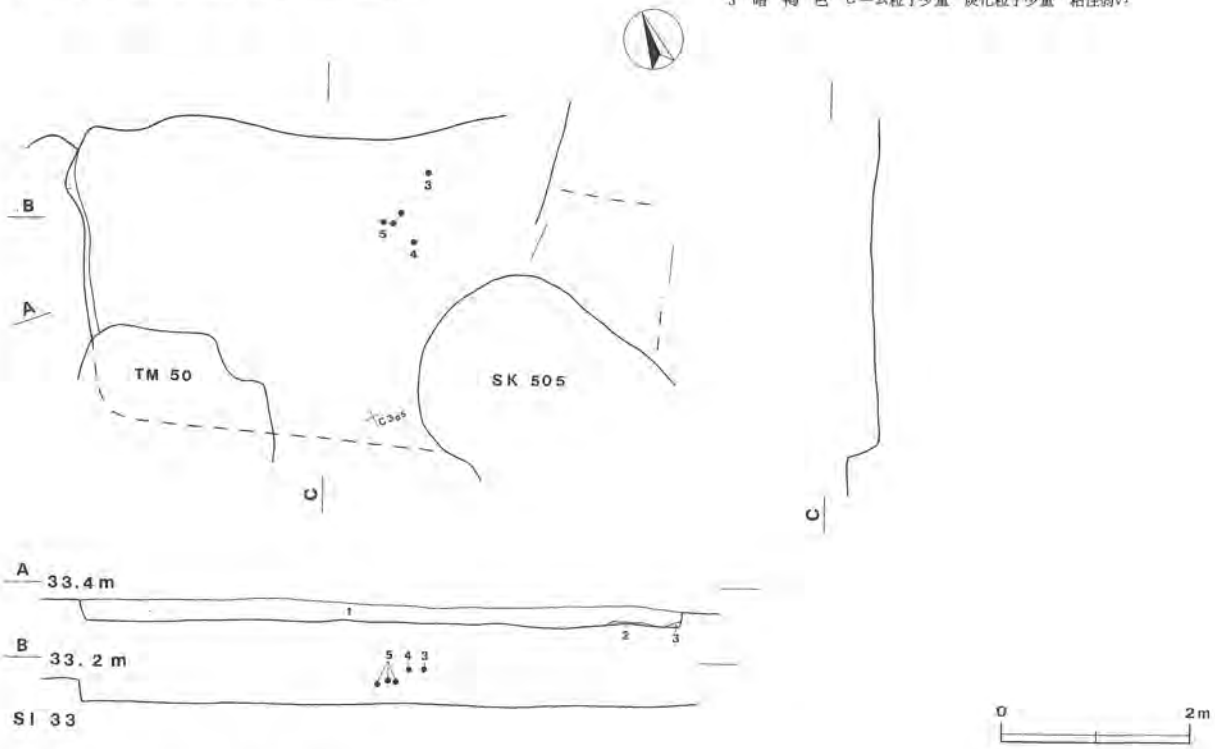
第228図 第20・29号住居跡



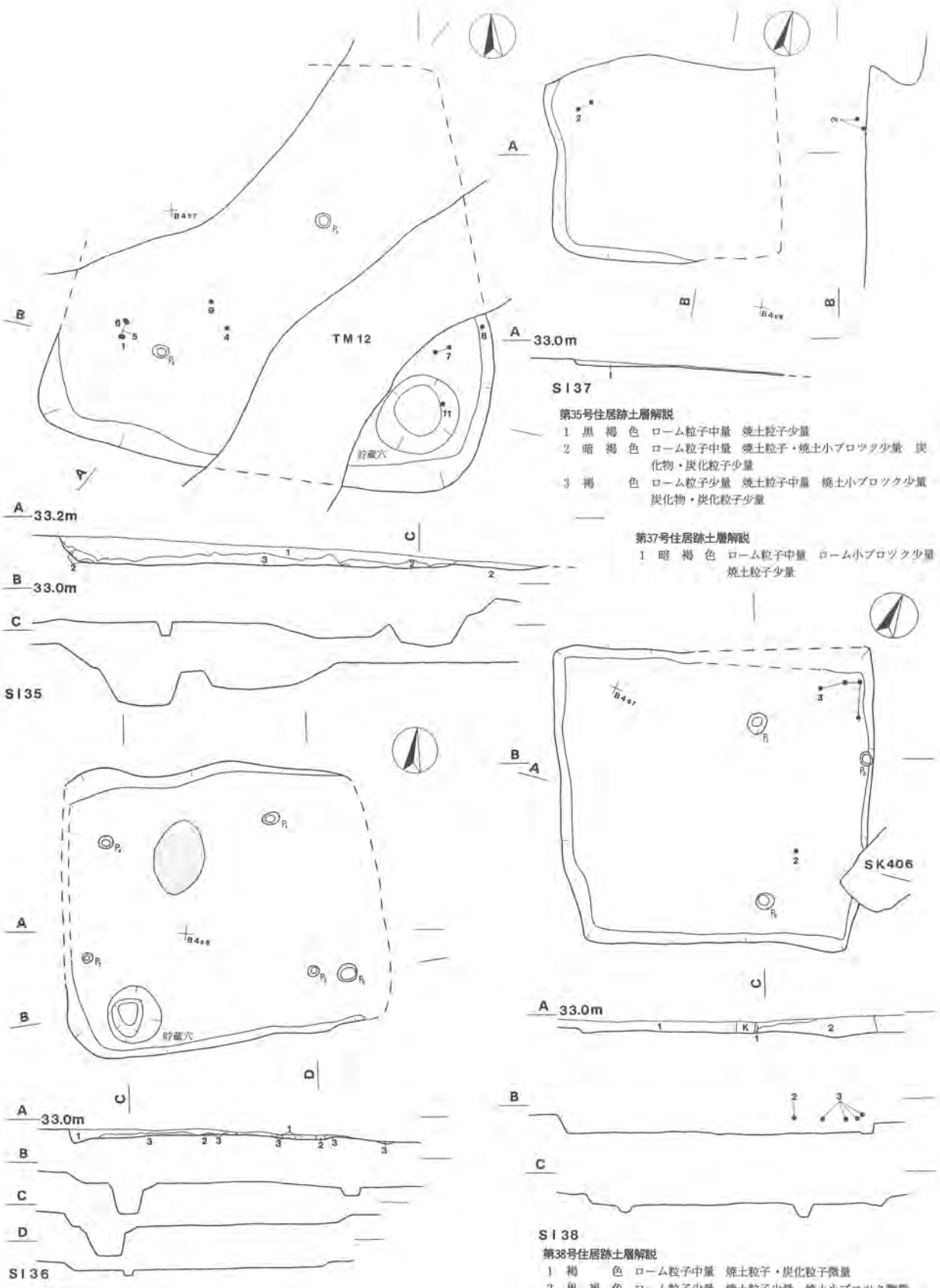
SI 30

第30号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子粒子少量
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子中量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 粘性弱い

第33号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 粘性弱い



第229図 第30・33号住居跡



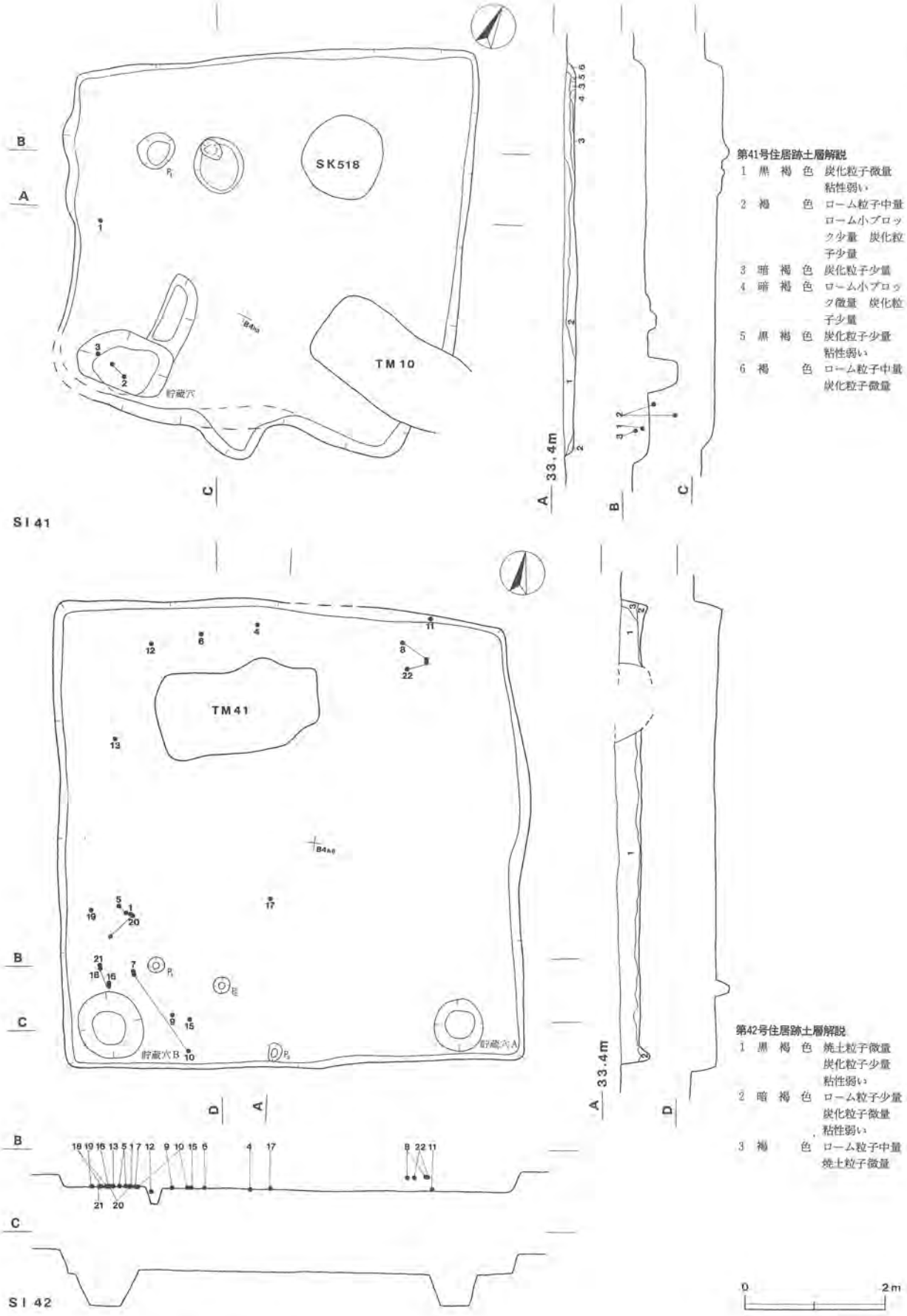
第35号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロツタ少量 炭化物・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロツク少量 炭化物・炭化粒子少量

第37号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロツク少量 焼土粒子少量

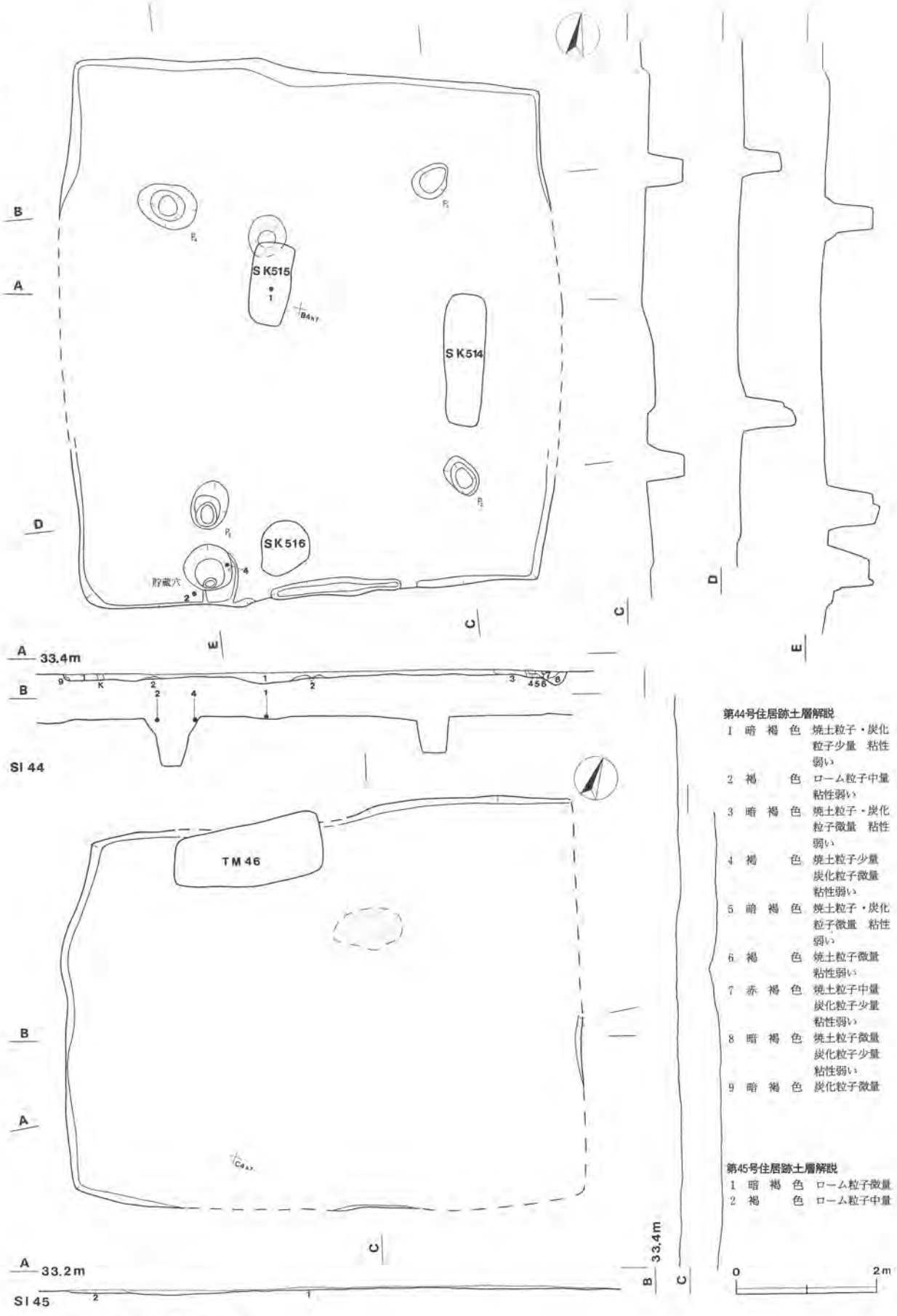
第36号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子少量 焼土小ブロツク中量 炭化粒子少量

第38号住居跡土層解説
1 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 焼土小ブロツク微量

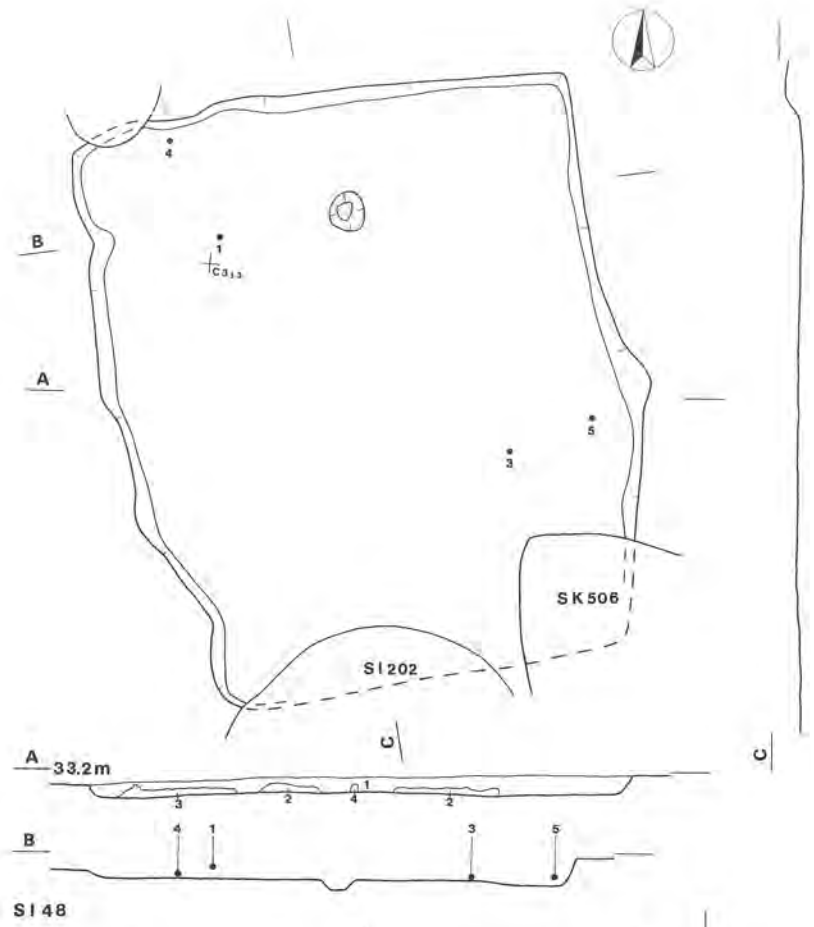
第230図 第35・36・37・38号住居跡



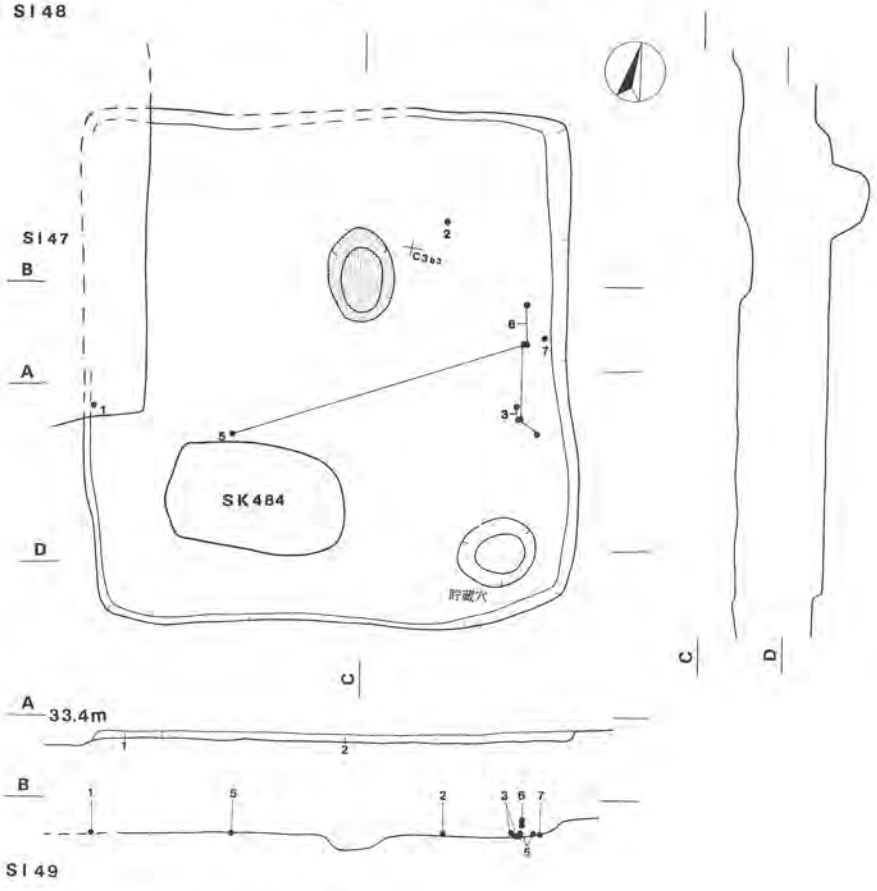
第231図　第41・42号住居跡



第232図　第44・45号住居跡



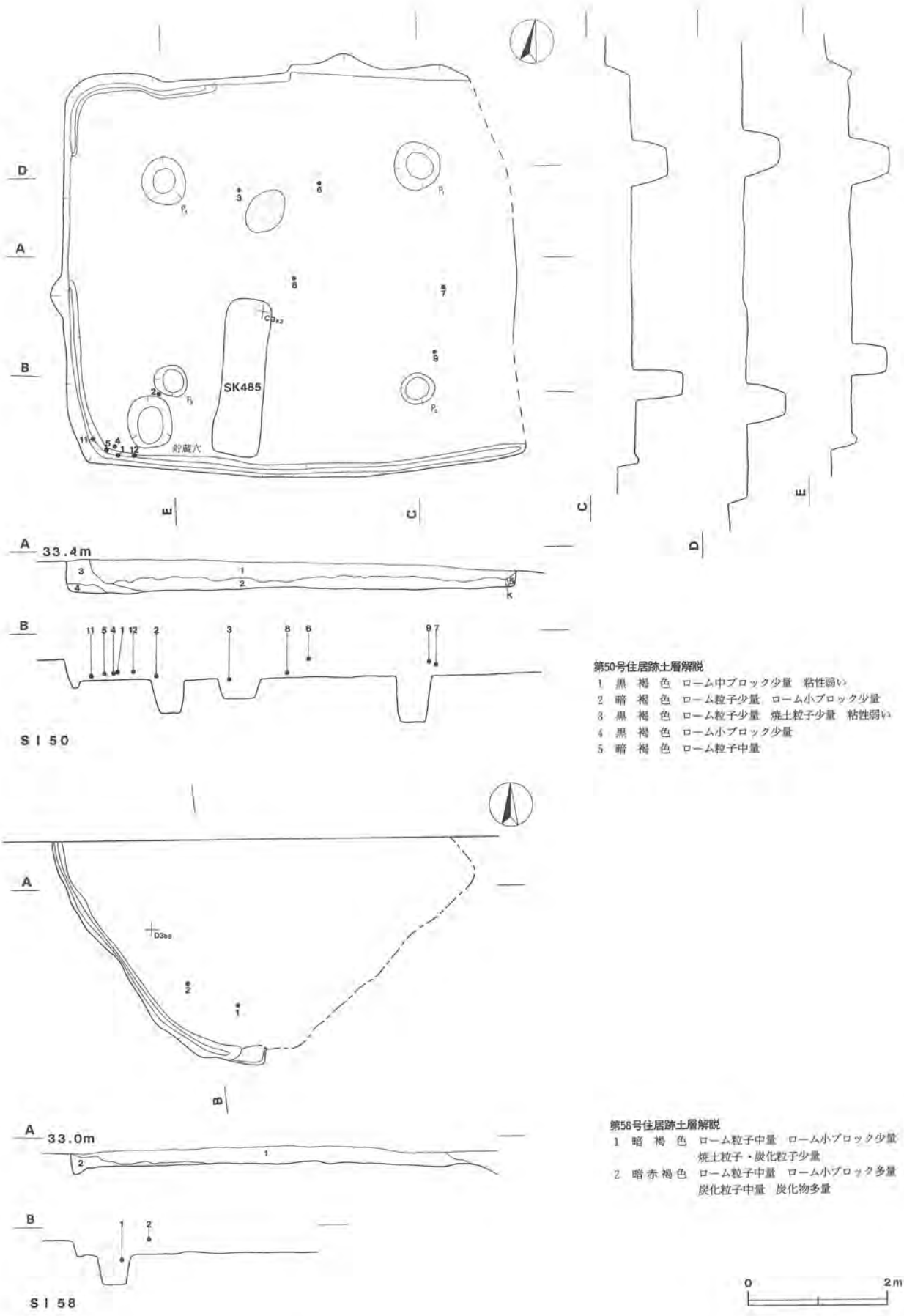
第48号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 焼土粒子少量 炭化物・炭化粒子少量 粘性弱い
2 黒 褐 色 炭化物・炭化粒子中量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 粘性弱い
4 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子微量



第49号住居跡土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 暗 褐 色 焼土粒子少量 粘性弱い

0 2m

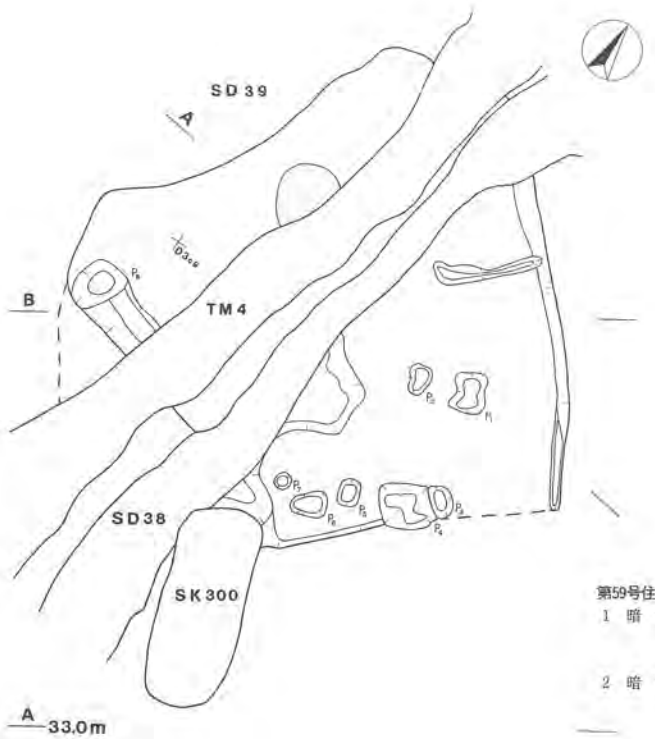
第233図 第48・49号住居跡



第50号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム中ブロック少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 粘性弱い
4 黒 褐 色 ローム小ブロック少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量

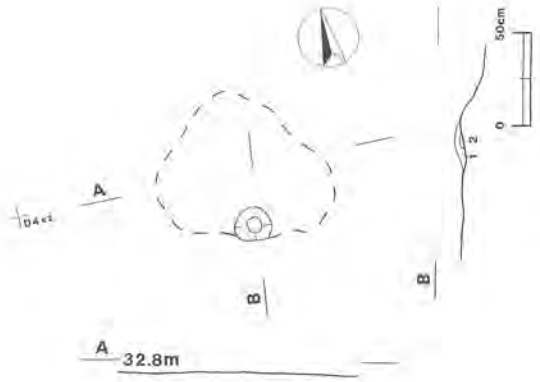
第58号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗赤褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック多量
炭化粒子中量 炭化物多量

第234図 第50・58号住居跡



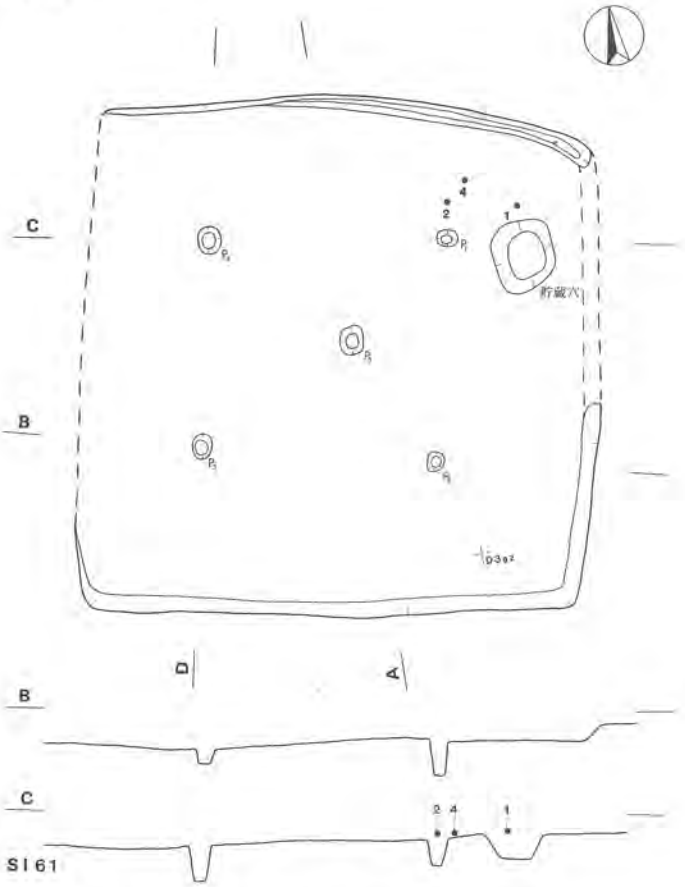
SI59

第59号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量



SI66

第66号住居跡（カマド）
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
2 橙 焼土小ブロック多量

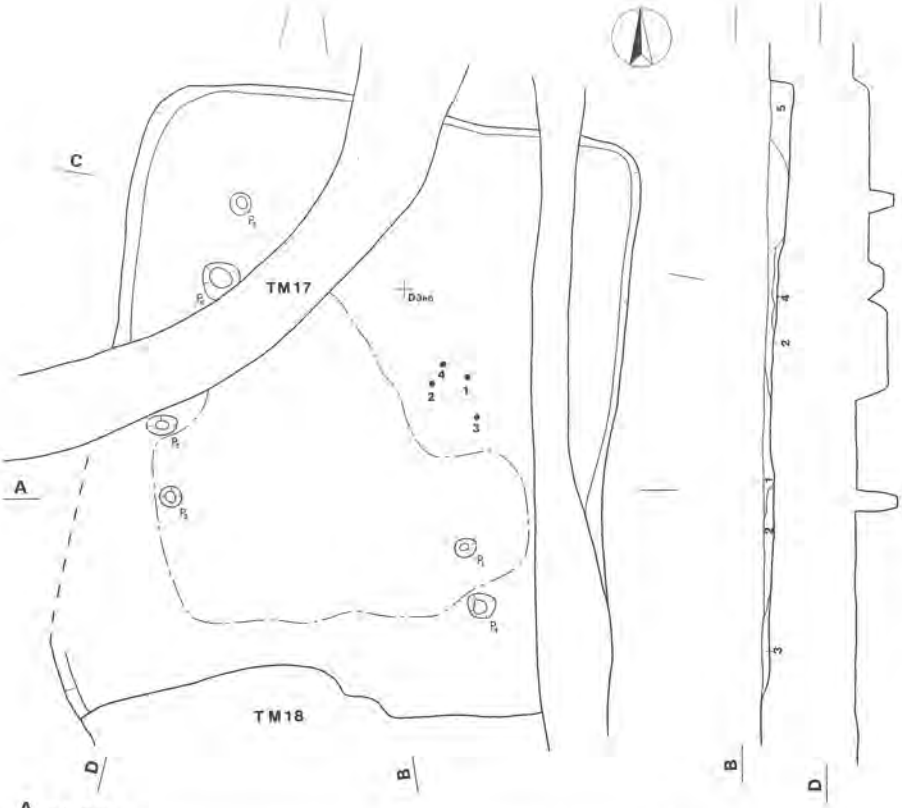


SI61

第61号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量

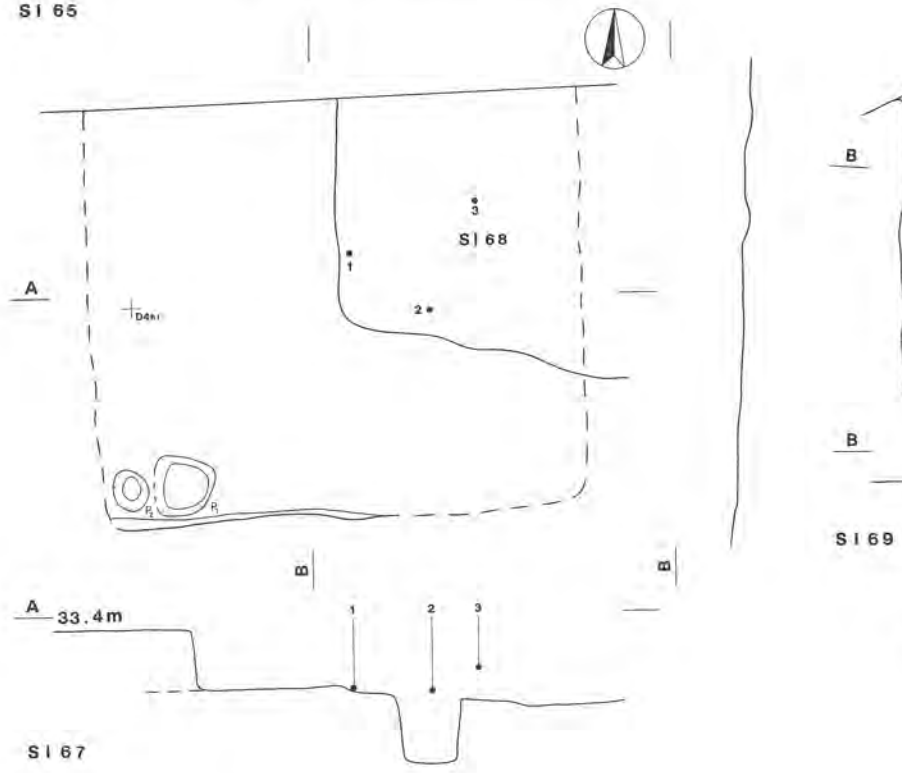
0 2m

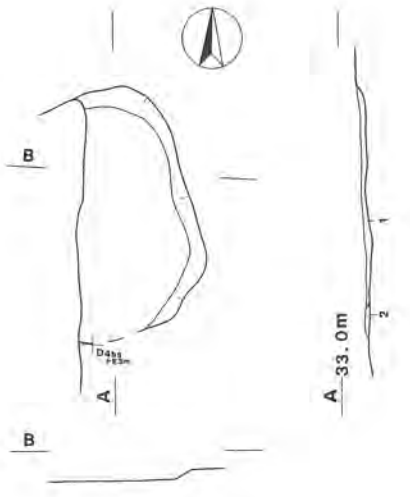
第235図 第59・61・66号住居跡



第65号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物多量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 極めて硬く締まる
5 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小中ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量極めて硬く締まる
6 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物中量
7 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 炭化粒子少量

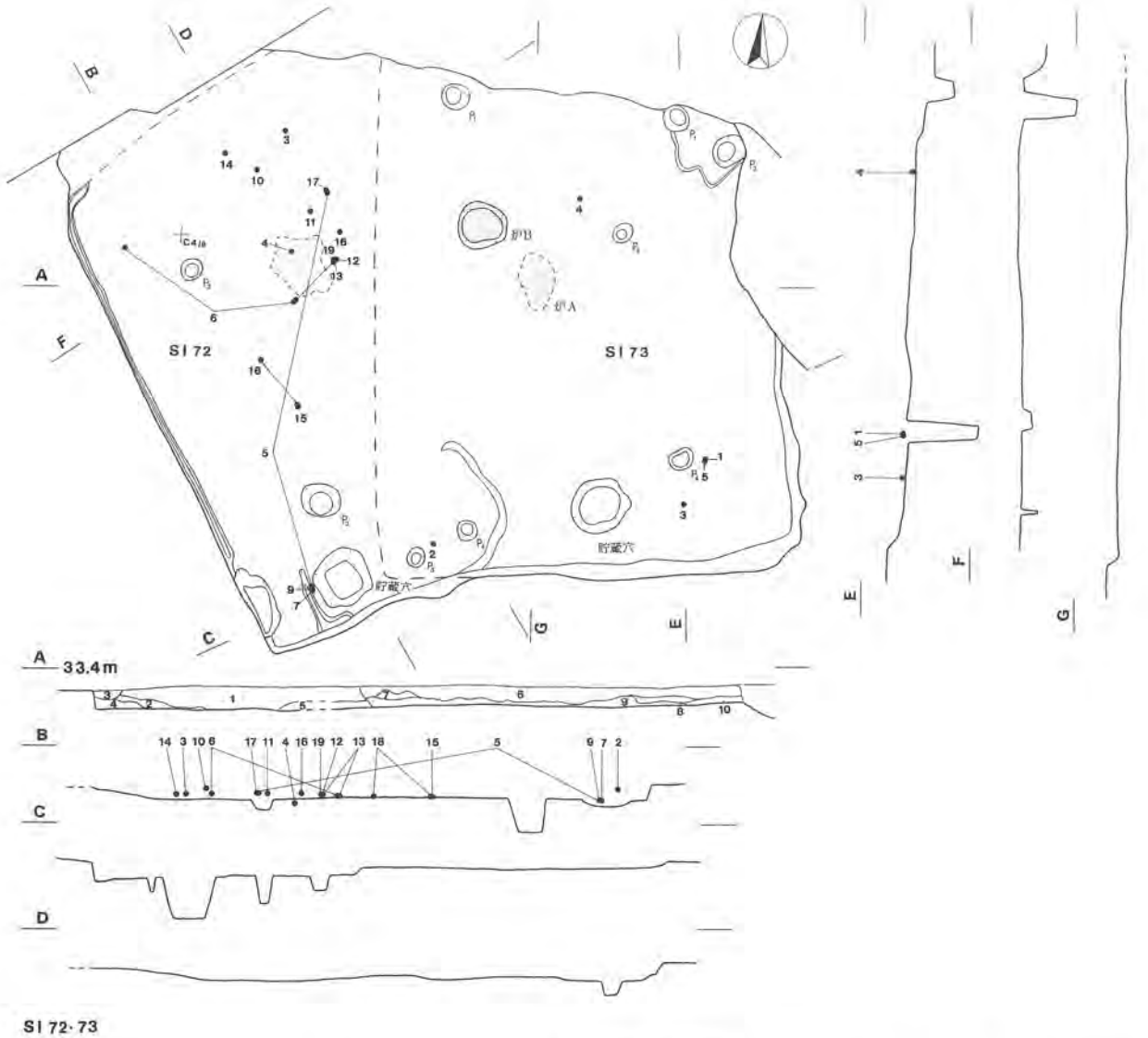




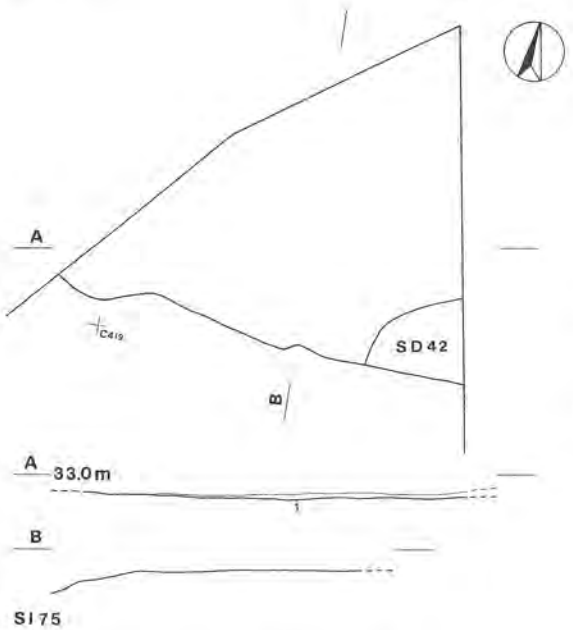
第69号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック焼土粒子 焼土粒子少量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子多量

第236図　第65・67・69号住居跡



SI 72·73



SI 75

第72・73号住居跡土層解説

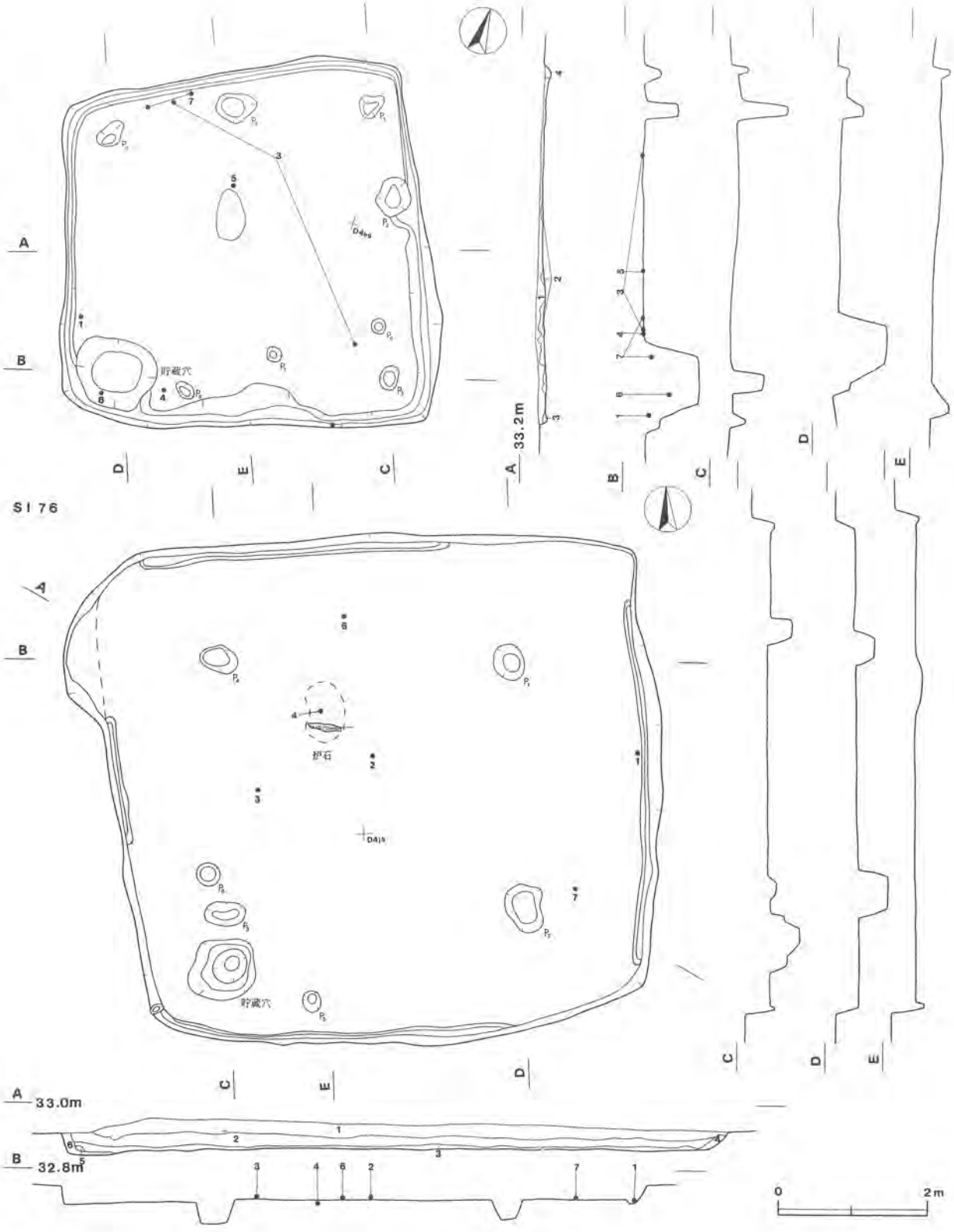
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子多量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 粘性弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物中量 粘性弱い
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 粘性弱い
7 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子多量 焼土小ブロック少量 炭化物少量 粘性弱い
8 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 粘性弱い
9 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 炭化物中量 炭化粒子少量 粘性弱い
10 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量 粘性弱い

第75号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物少量 粘性弱い

0 2m

第237図　第72・73・75号住居跡



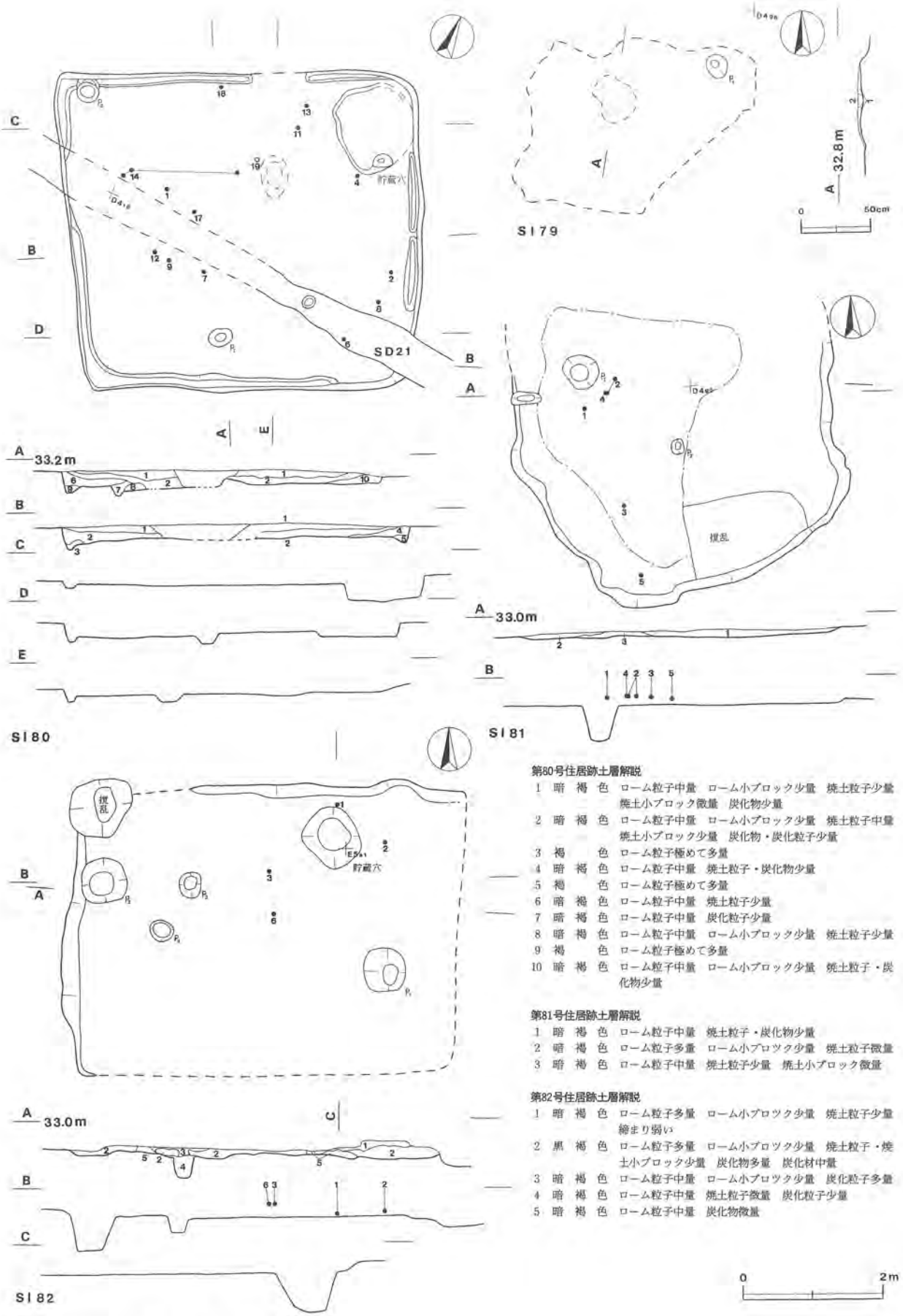
第76号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 炭化物多量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子中量 締まり弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子微量

第77号住居跡土層解説

1 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子中量 締まり弱い
3 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
4 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック中量 粘性・締まり弱い
5 褐 色 ローム粒子多量 粘性弱い
6 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 締まり弱い

第238図　第76・77号住居跡



第80号住居跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 焼土小ブロック微量 炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
3 褐色 ローム粒子極めて多量
4 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物少量
5 褐色 ローム粒子極めて多量
6 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
7 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
9 褐色 ローム粒子極めて多量
10 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量

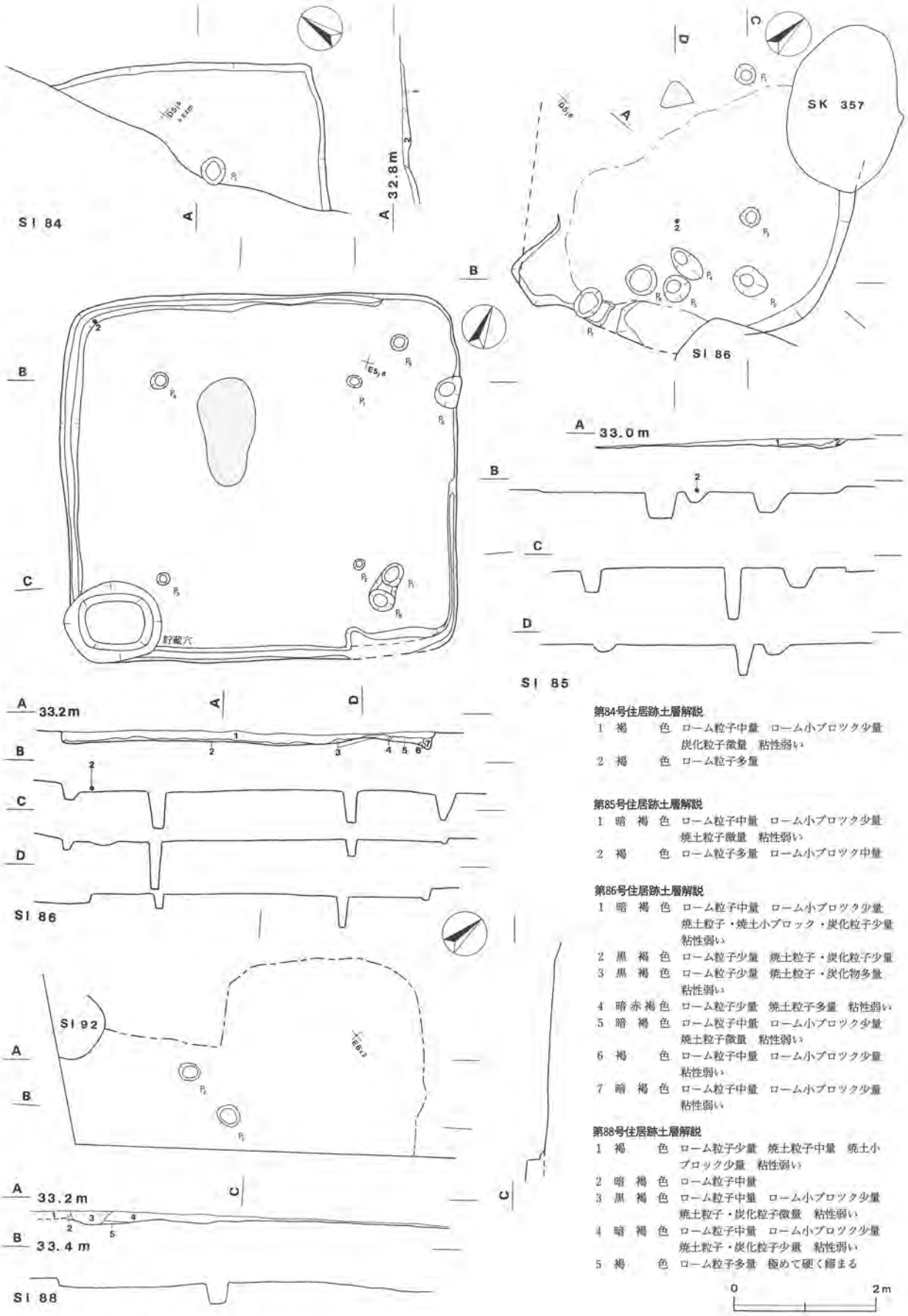
第81号住居跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 焼土小ブロック微量

第82号住居跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 締まり弱い
2 黒褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物多量 炭化材中量
3 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子多量
4 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子中量 炭化物微量

第239図　第79・80・81・82号住居跡



第84号住居跡土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　炭化粒子微量　粘性弱い
2 褐　色　ローム粒子多量

第85号住居跡土層解説

1 暗褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子微量　粘性弱い
2 褐　色　ローム粒子多量　ローム小ブロック中量

第86号住居跡土層解説

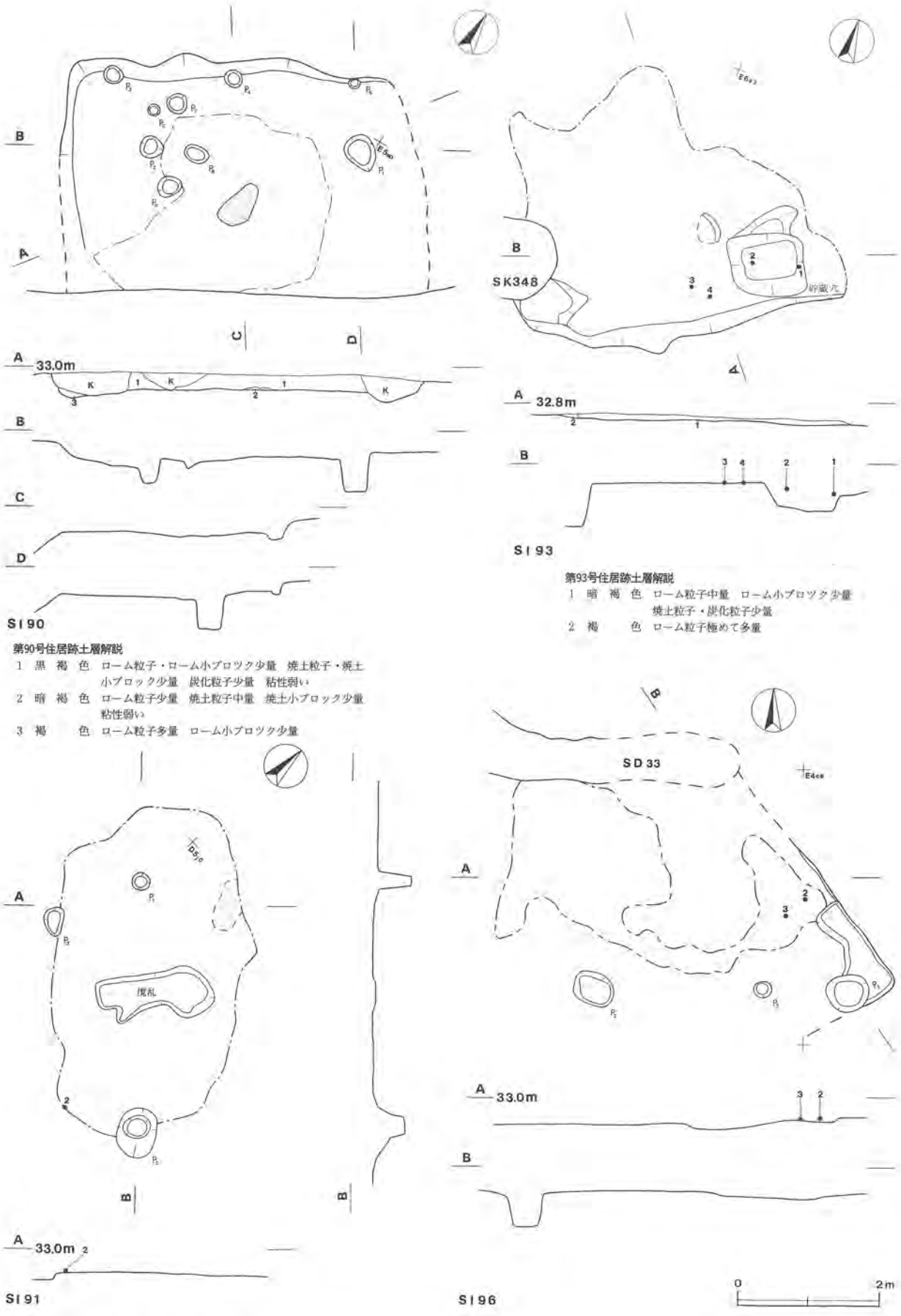
1 暗褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量　粘性弱い
2 黒褐色　ローム粒子少量　焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色　ローム粒子少量　焼土粒子・炭化物多量　粘性弱い
4 暗赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子多量　粘性弱い
5 暗褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子微量　粘性弱い
6 褐　色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　粘性弱い
7 暗褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　粘性弱い

第88号住居跡土層解説

1 褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子中量　焼土小ブロック少量　粘性弱い
2 暗褐色　ローム粒子中量
3 黒褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子・炭化粒子微量　粘性弱い
4 暗褐色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子・炭化粒子少量　粘性弱い
5 褐　色　ローム粒子多量　極めて硬く締まる

0　2m

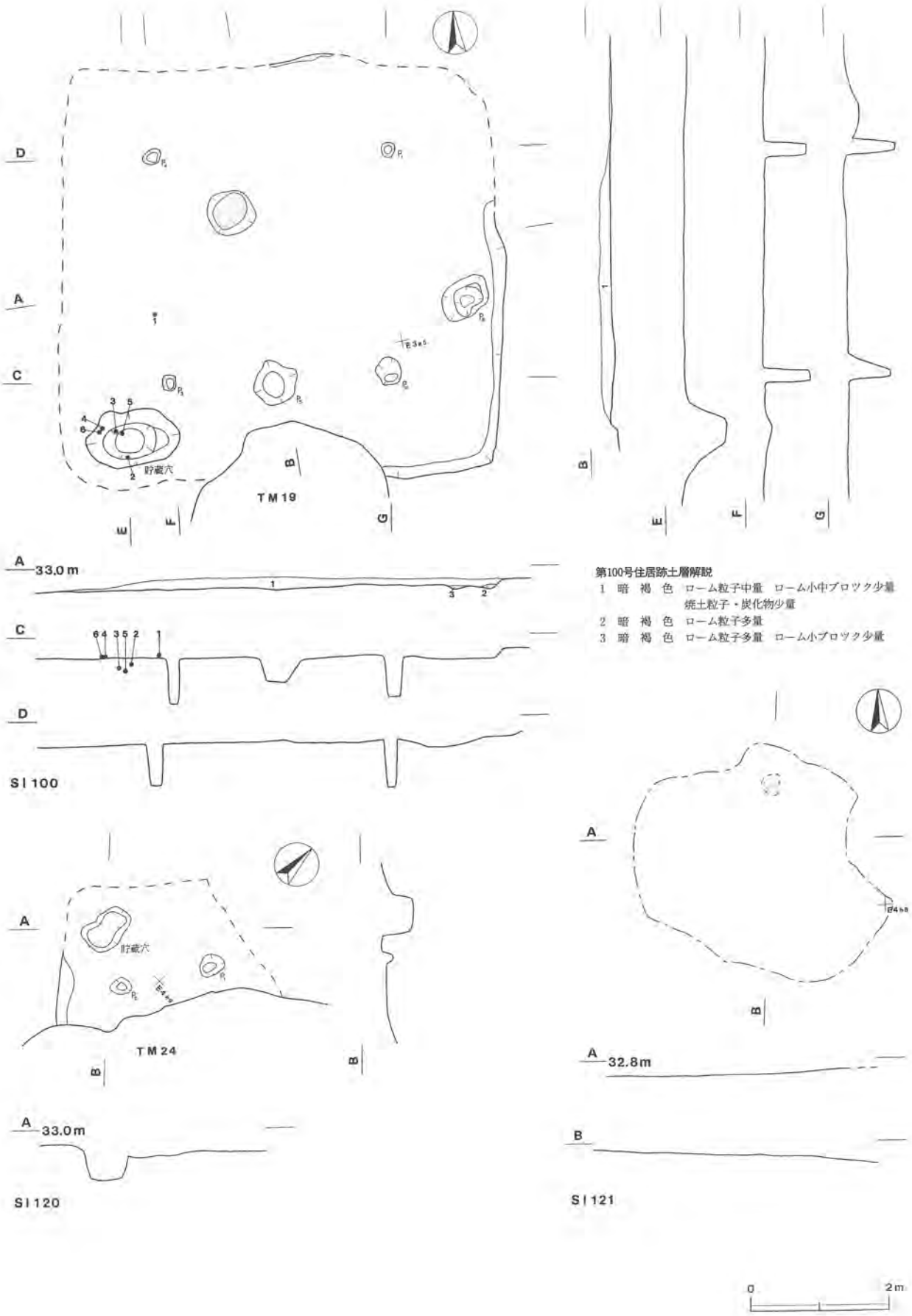
第240図　第84・85・86・88号住居跡



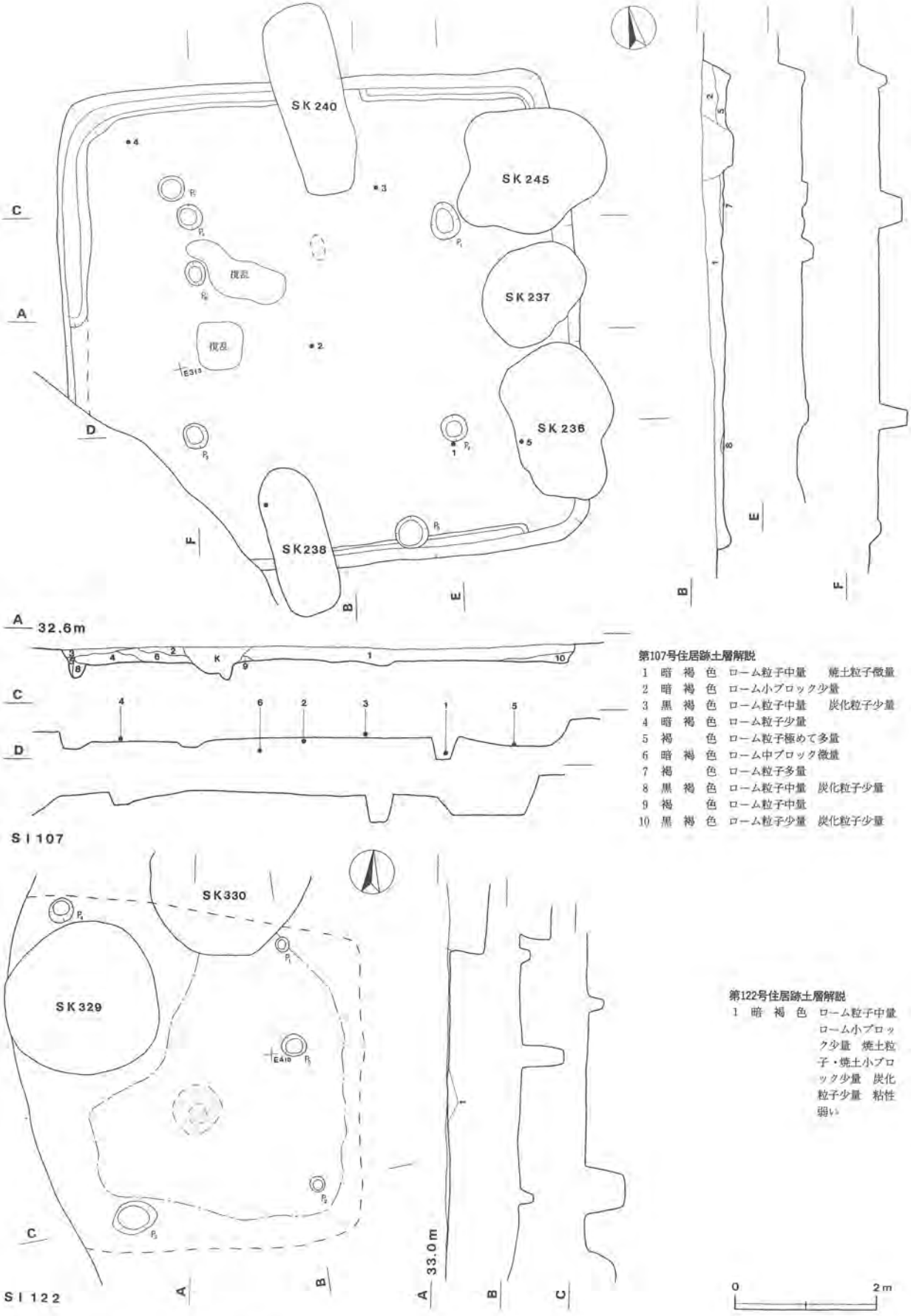
第90号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 粘性弱い
3 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量

第93号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子極めて多量

第241図　第90・91・93・96号住居跡



第242図　第100・120・121号住居跡



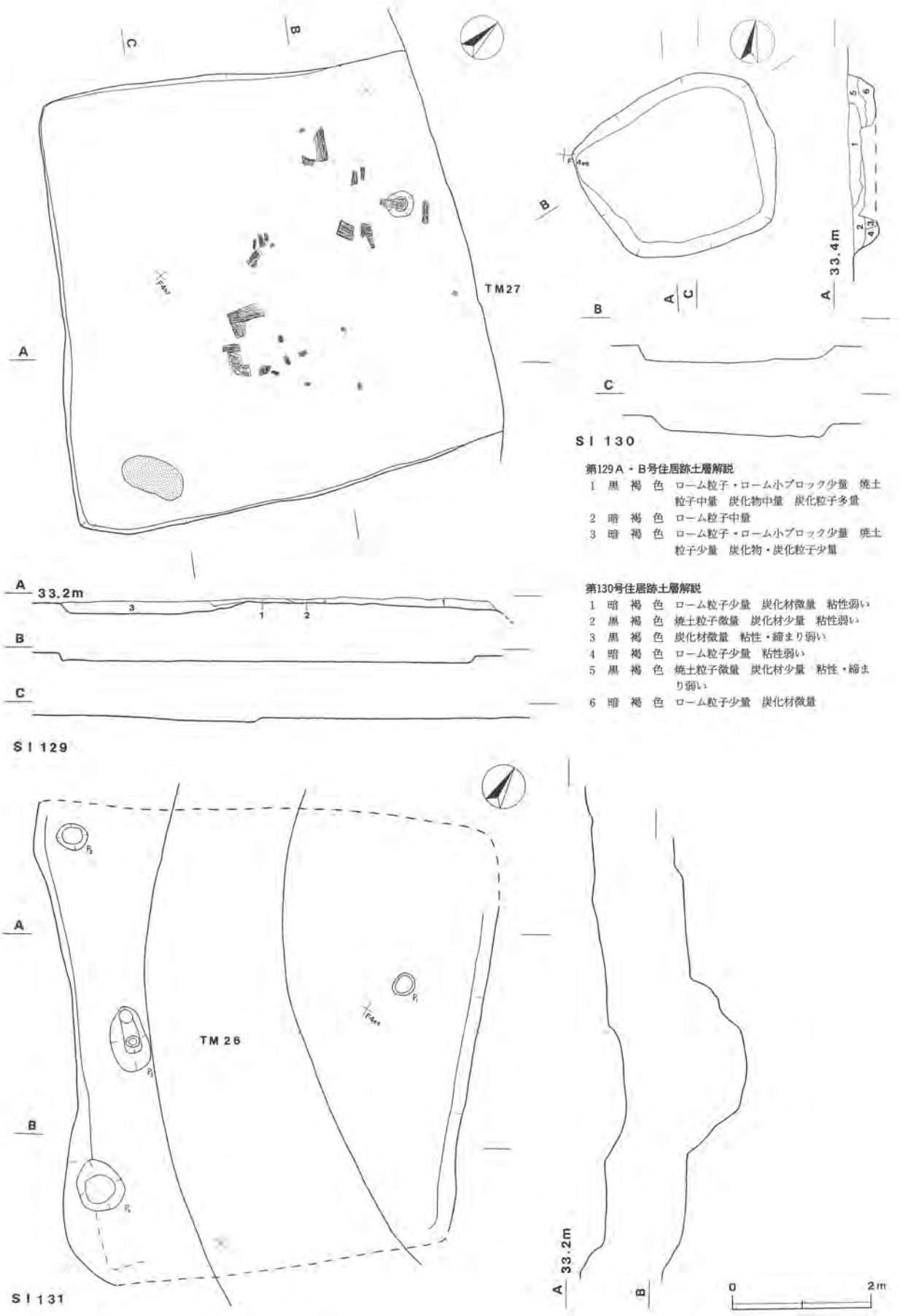
第107号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 褐 色 ローム粒子極めて多量
6 暗 褐 色 ローム中ブロック微量
7 褐 色 ローム粒子多量
8 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
9 褐 色 ローム粒子中量
10 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

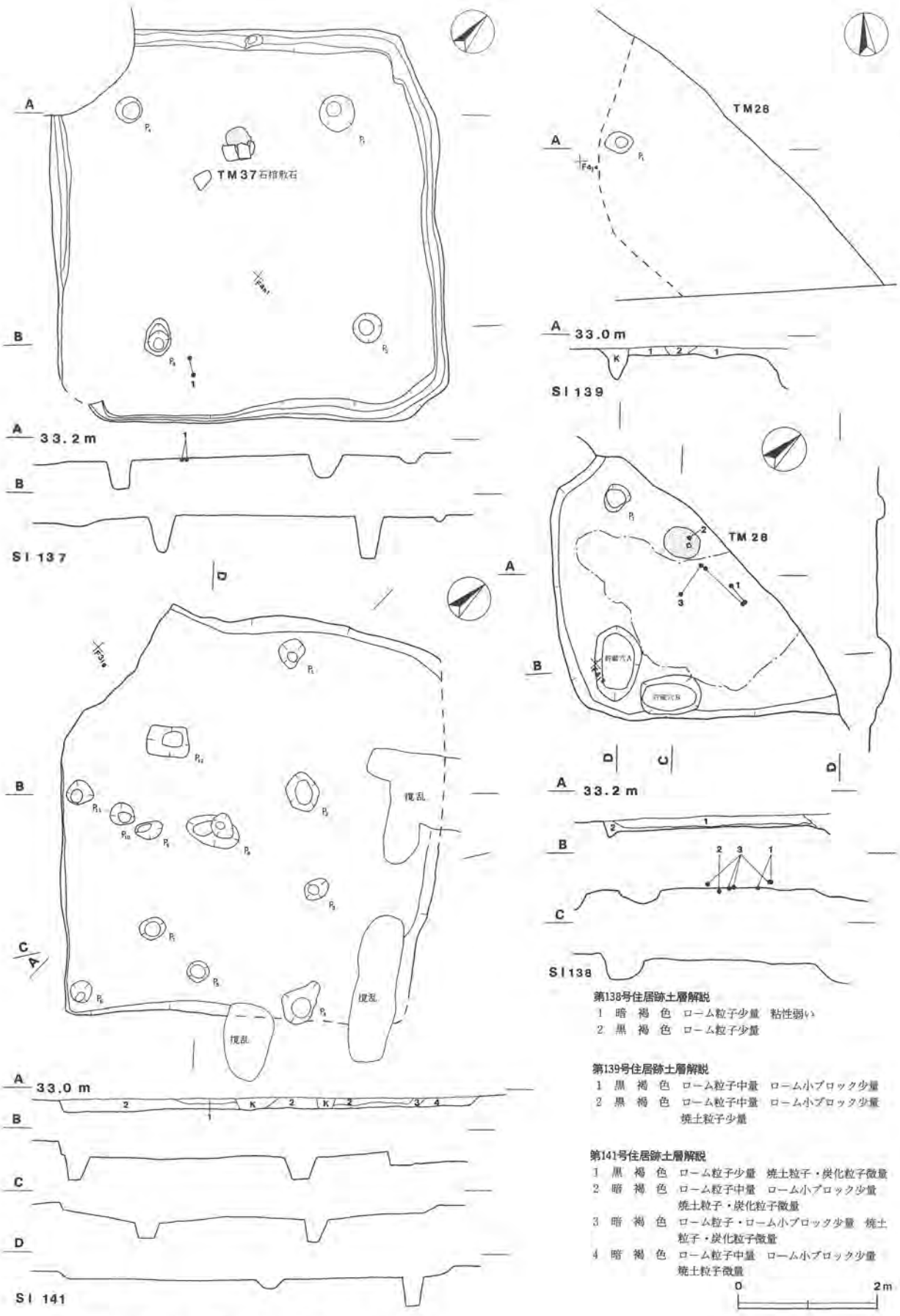
第122号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 粘性弱い

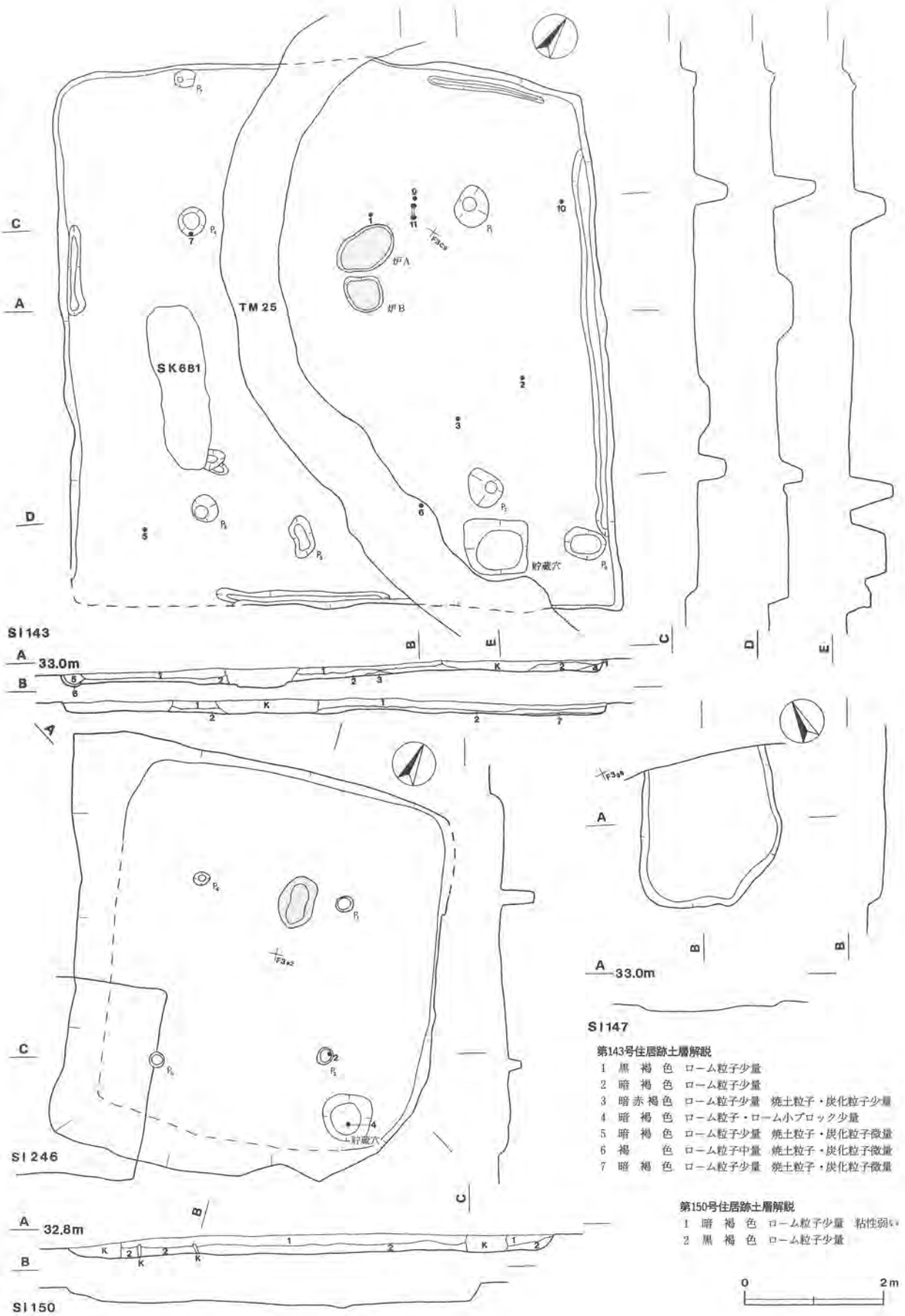
第243図　第107・122号住居跡



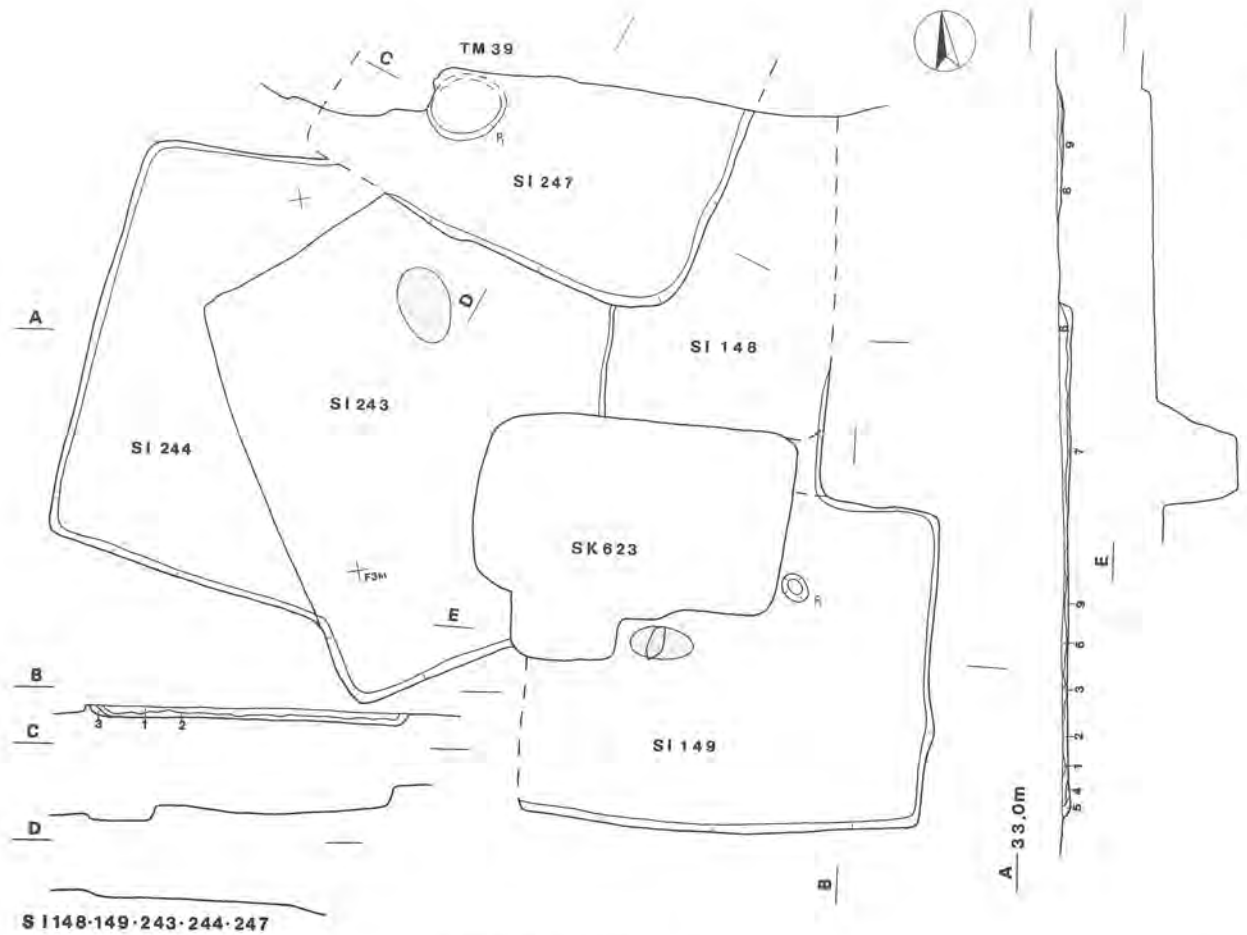
第244図　第129・130・131号住居跡



第245図　第137・138・139・141号住居跡



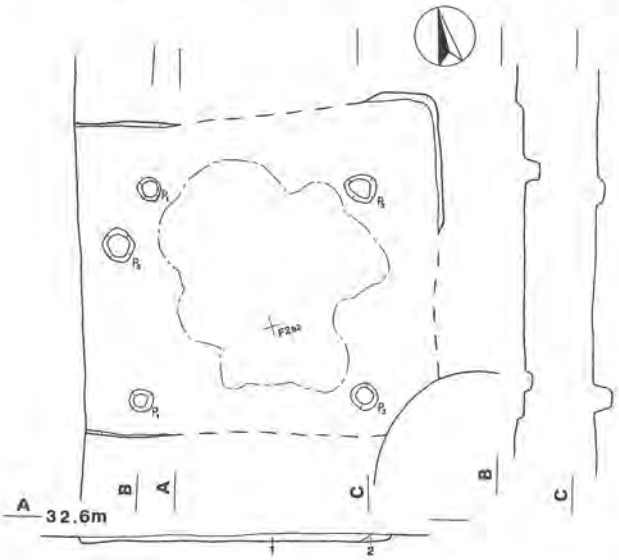
第246図　第143・147・150号住居跡



SI148·149·243·244·247

第149・243・244号住居跡

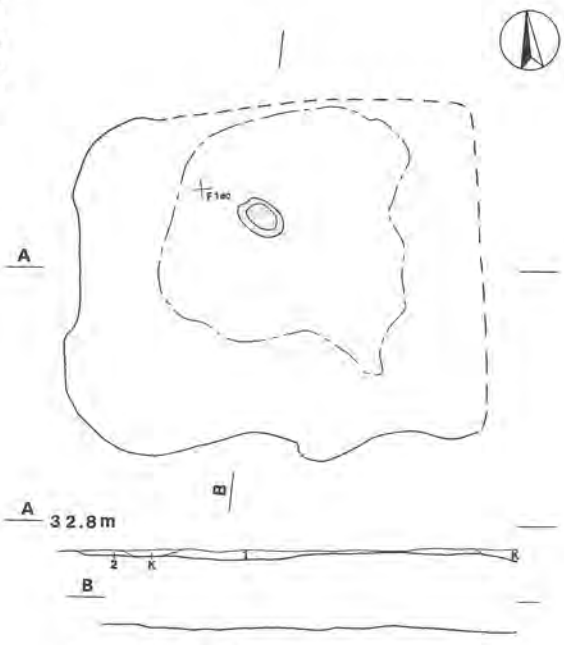
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 粘性弱い
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
4 黒 褐 色 ローム粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量
9 黒 褐 色 ローム粒子少量



SI156

第156号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量



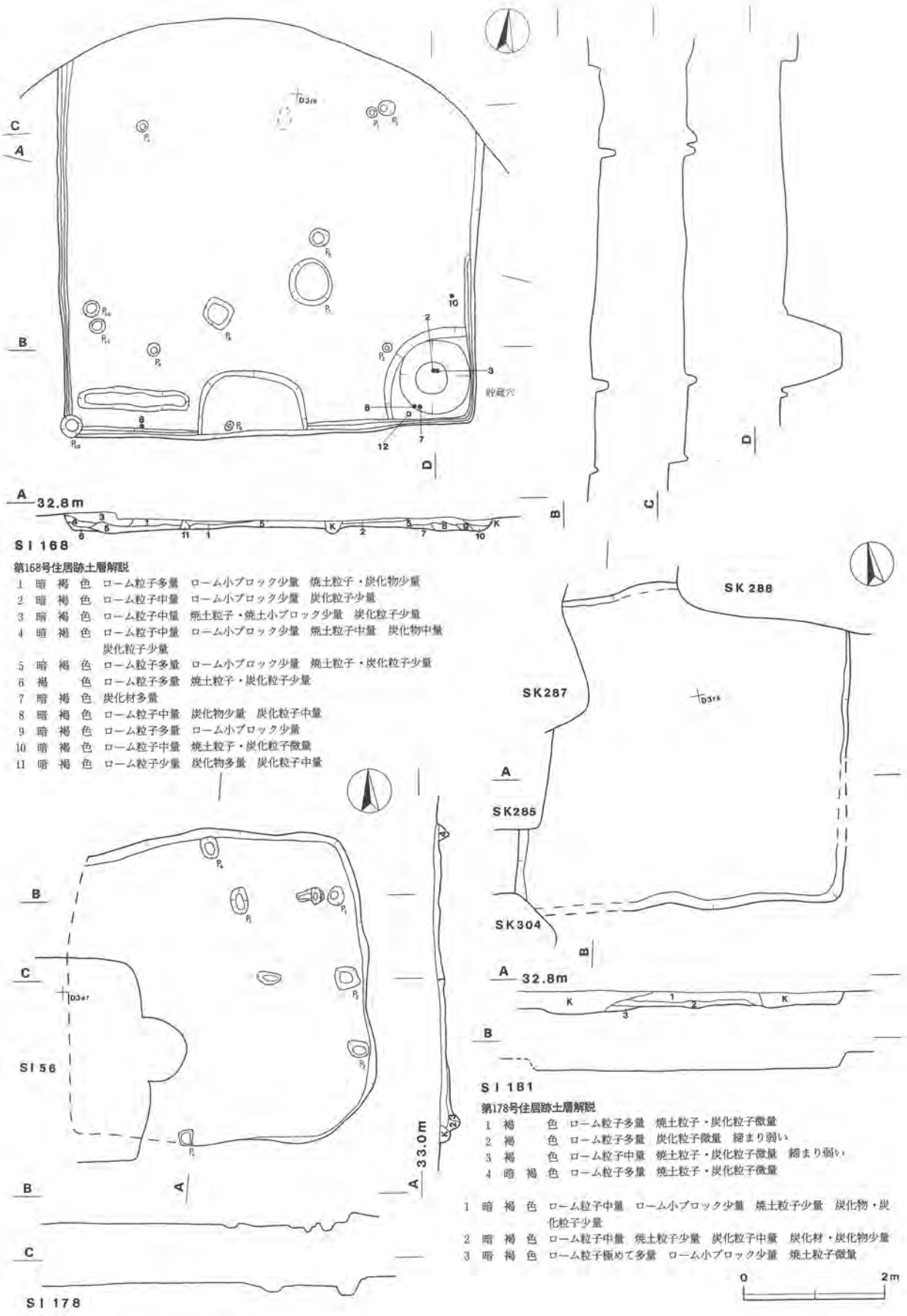
第158号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い

SI 158

0 2m

第247図 第148・149・156・158・243・244・247号住居跡



第168号住居跡土層解説

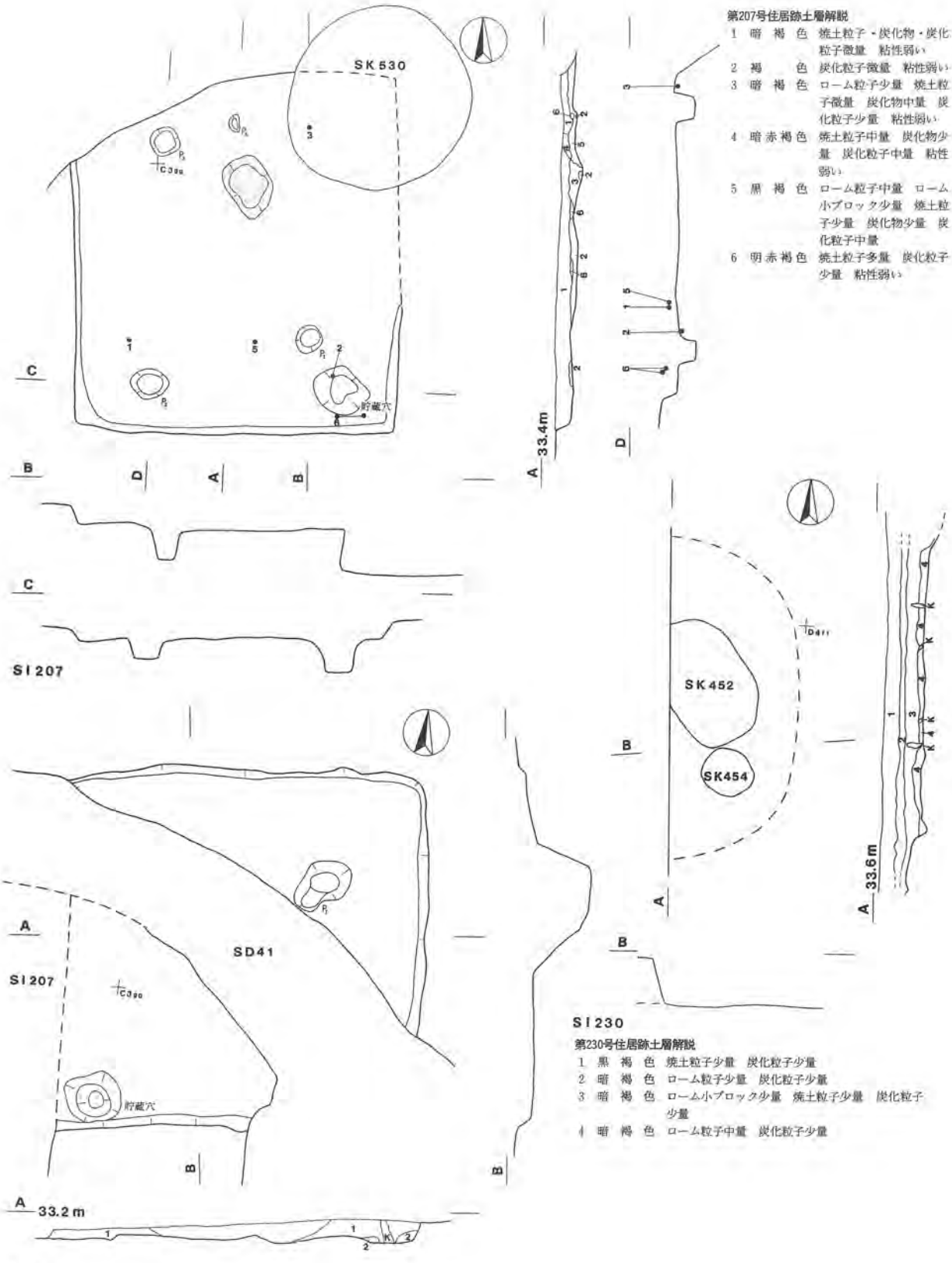
1 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 炭化物中量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
6 褐色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色 炭化材多量
8 暗褐色 ローム粒子中量 炭化物少量 炭化粒子中量
9 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
10 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
11 暗褐色 ローム粒子少量 炭化物多量 炭化粒子中量

第178号住居跡土層解説

1 褐色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量 炭化粒子微量 締まり弱い
3 褐色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量 締まり弱い
4 暗褐色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子微量

1 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化物・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 炭化材・炭化物少量
3 暗褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量

第248図　第168・178・181号住居跡

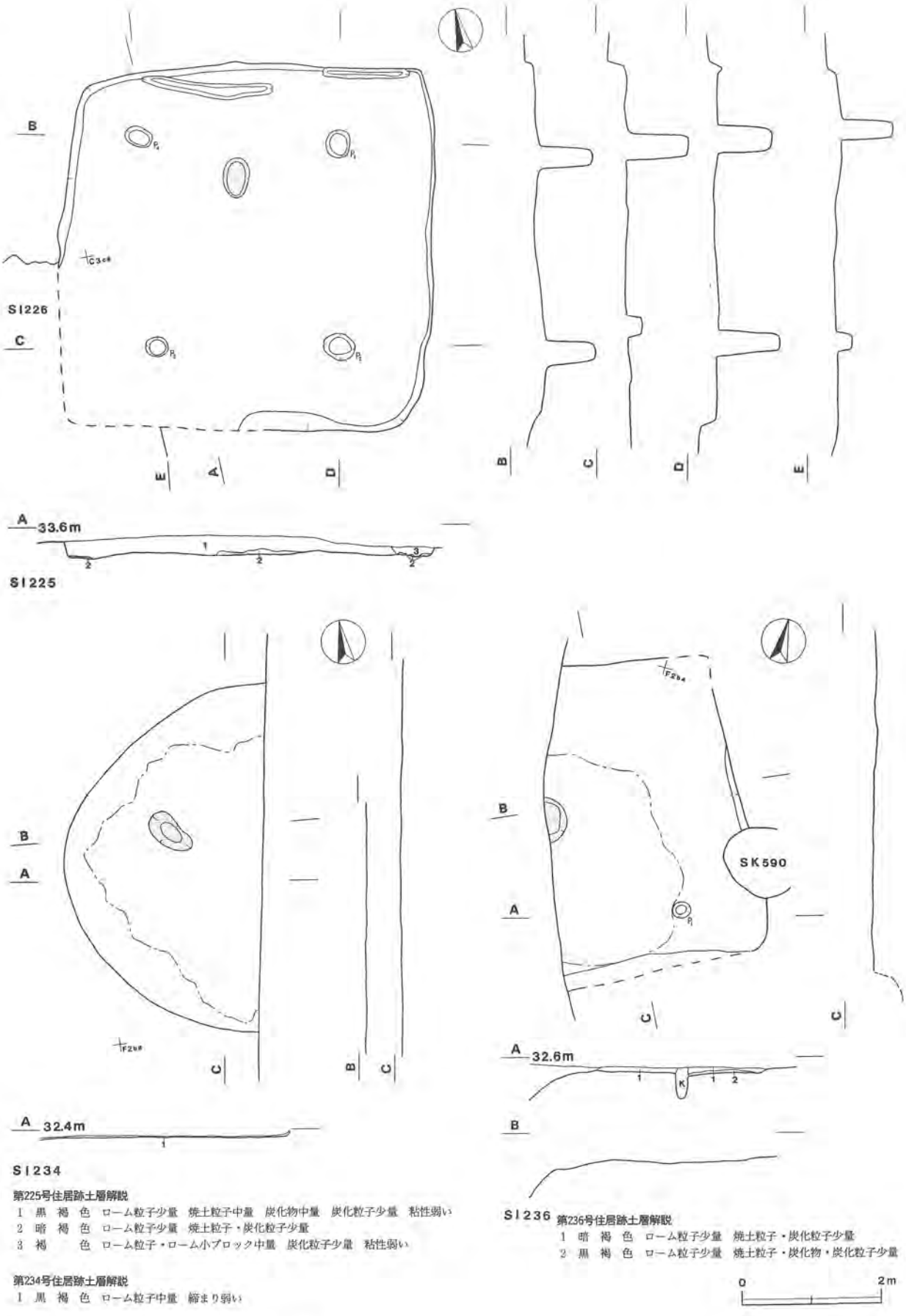


第207号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 炭化粒子微量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物中量 炭化粒子少量 粘性弱い
4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物少量 炭化粒子中量 粘性弱い
5 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化物少量 炭化粒子中量
6 明赤褐色 焼土粒子多量 炭化粒子少量 粘性弱い

第230号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

第213号住居跡土層解説
1 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック微量
2 褐 色 ローム粒子多量

第249図　第207・213・230号住居跡

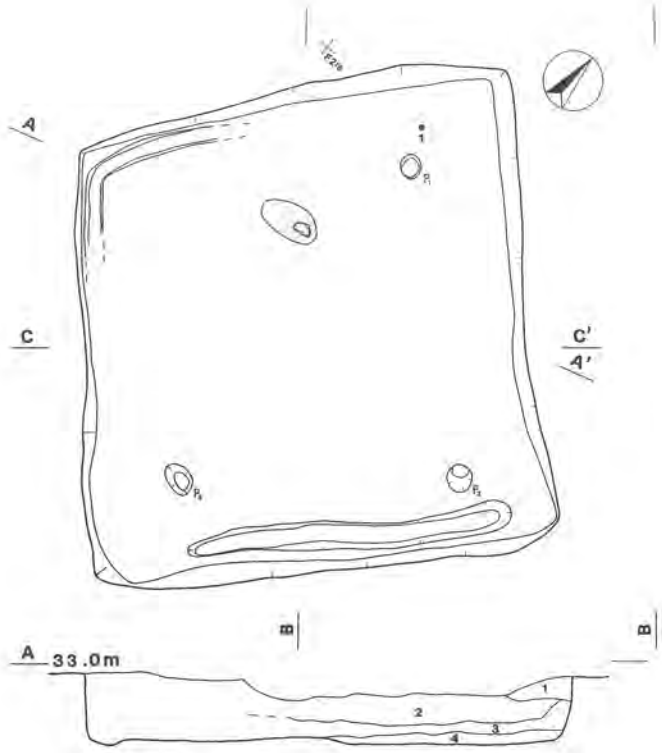


第225号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化物中量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 炭化粒子少量 粘性弱い

第234号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 締まり弱い

第236号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

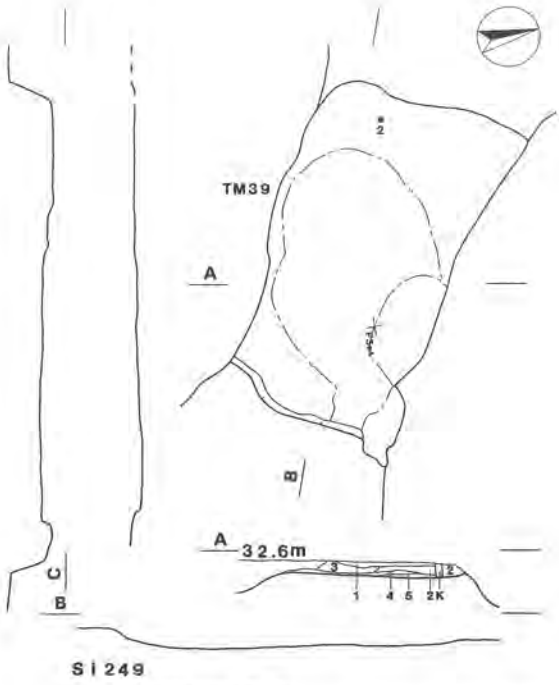
第250図　第225・234・236号住居跡



SI245

第245号住居跡土層解説

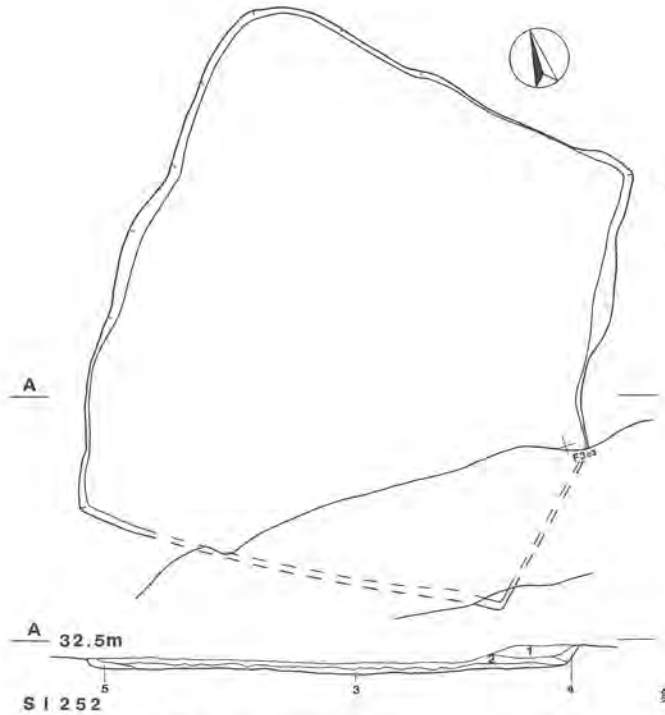
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量



SI249

第249号住居跡土層解説

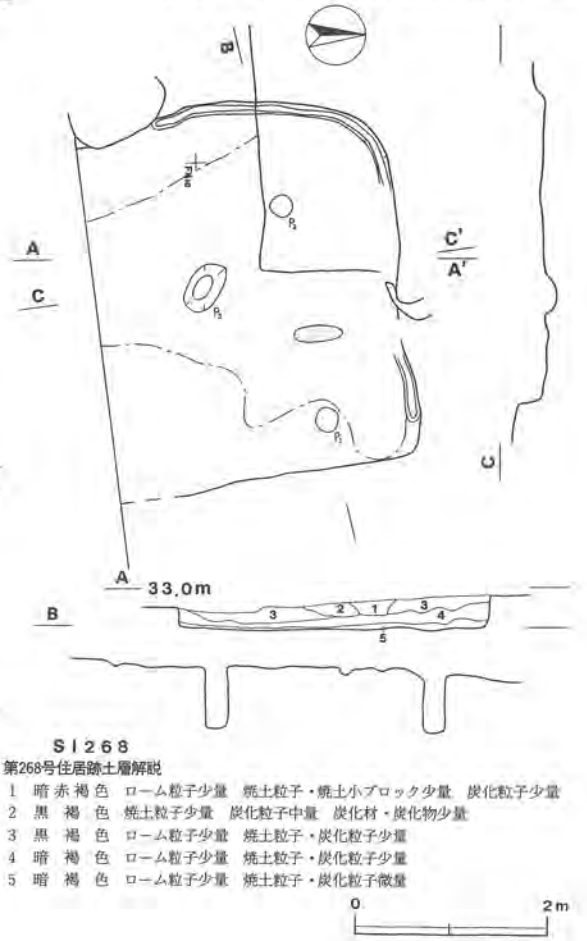
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量



SI252

第252号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化物少量
5 褐 色 ローム粒子多量

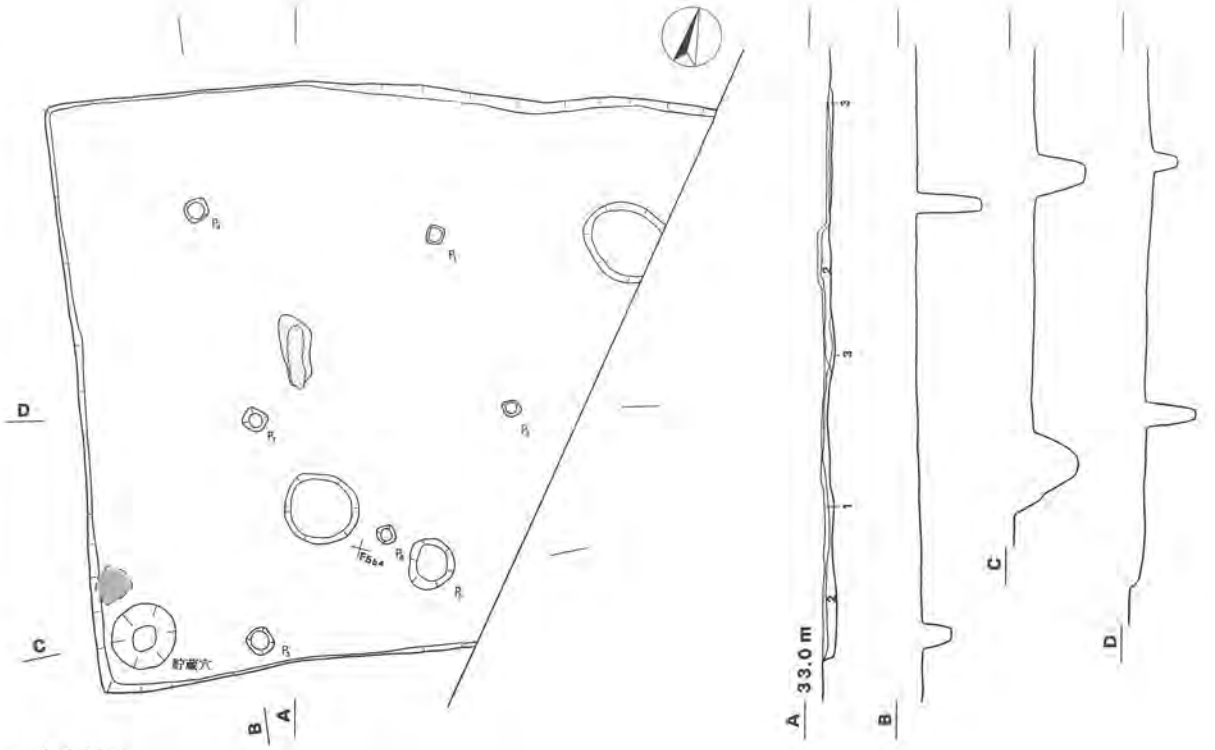


SI268

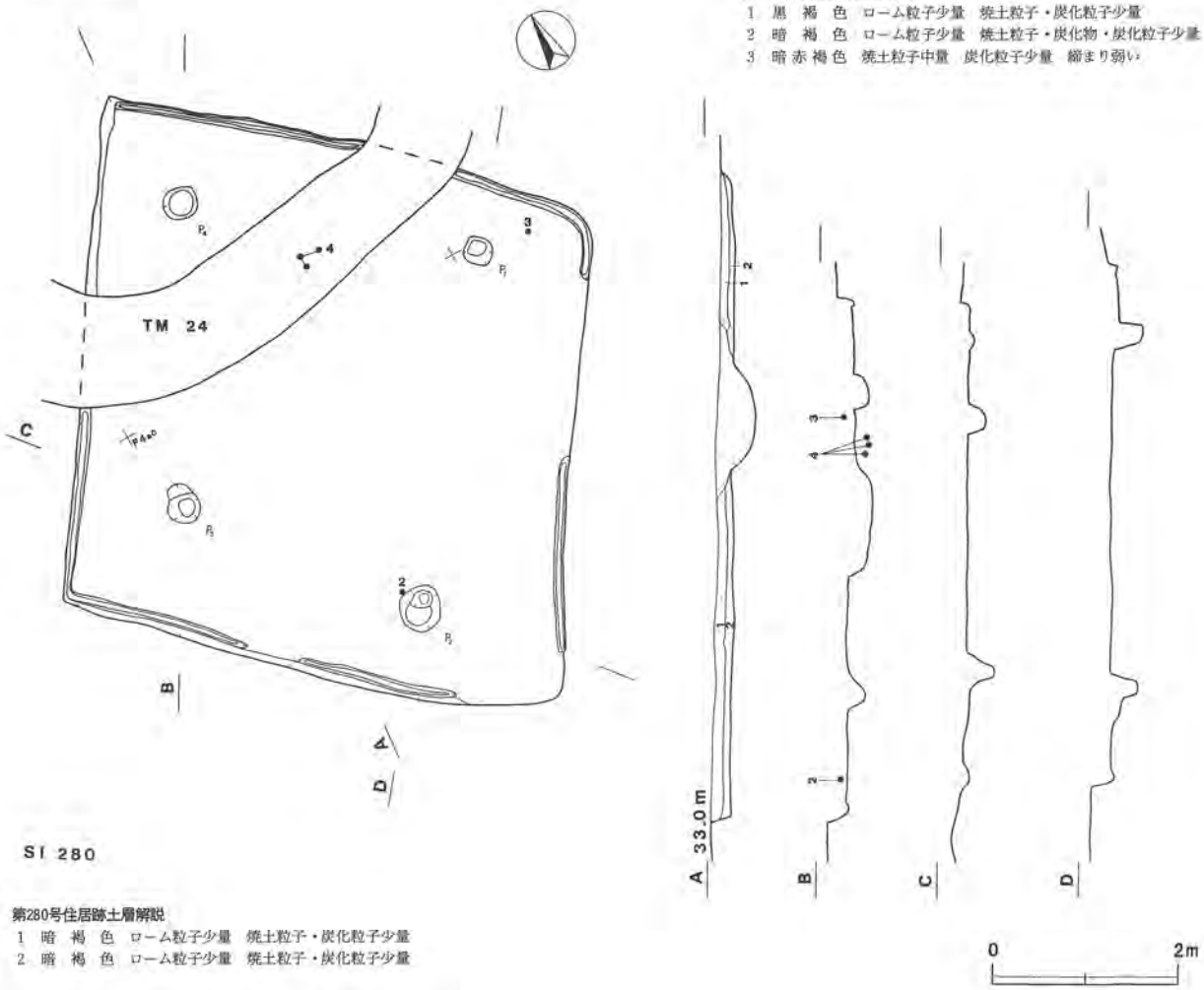
第268号住居跡土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 炭化材・炭化物少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量

第251図　第245・249・252・268号住居跡

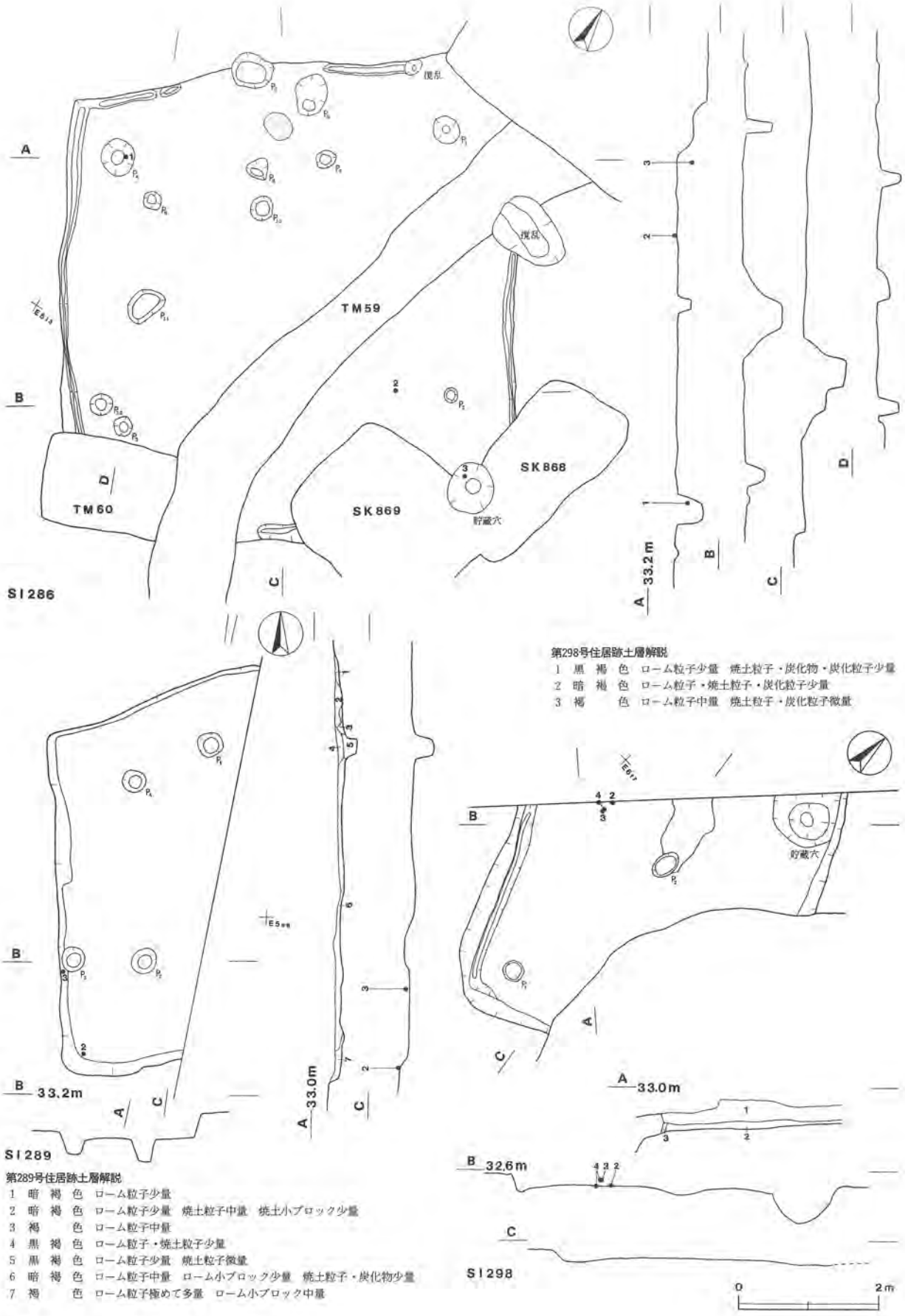


第279B号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量 締まり弱い



第280号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量

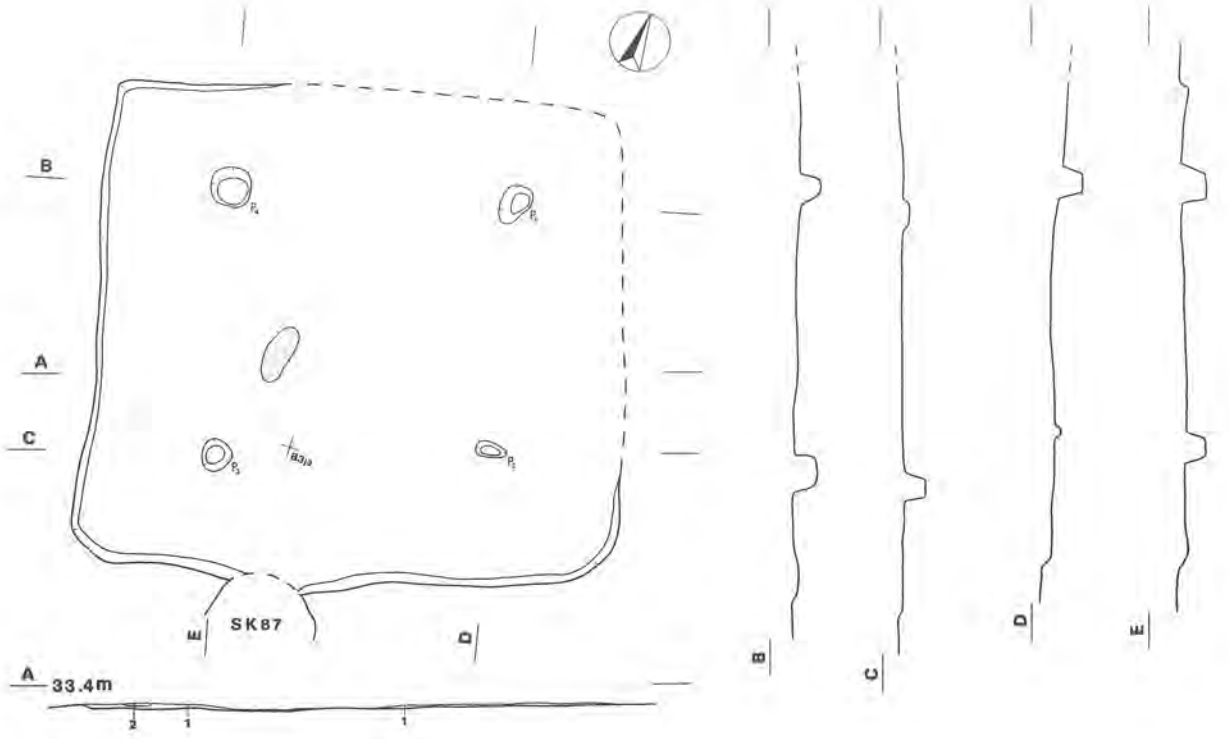
第252図 第279B・280号住居跡



第298号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量

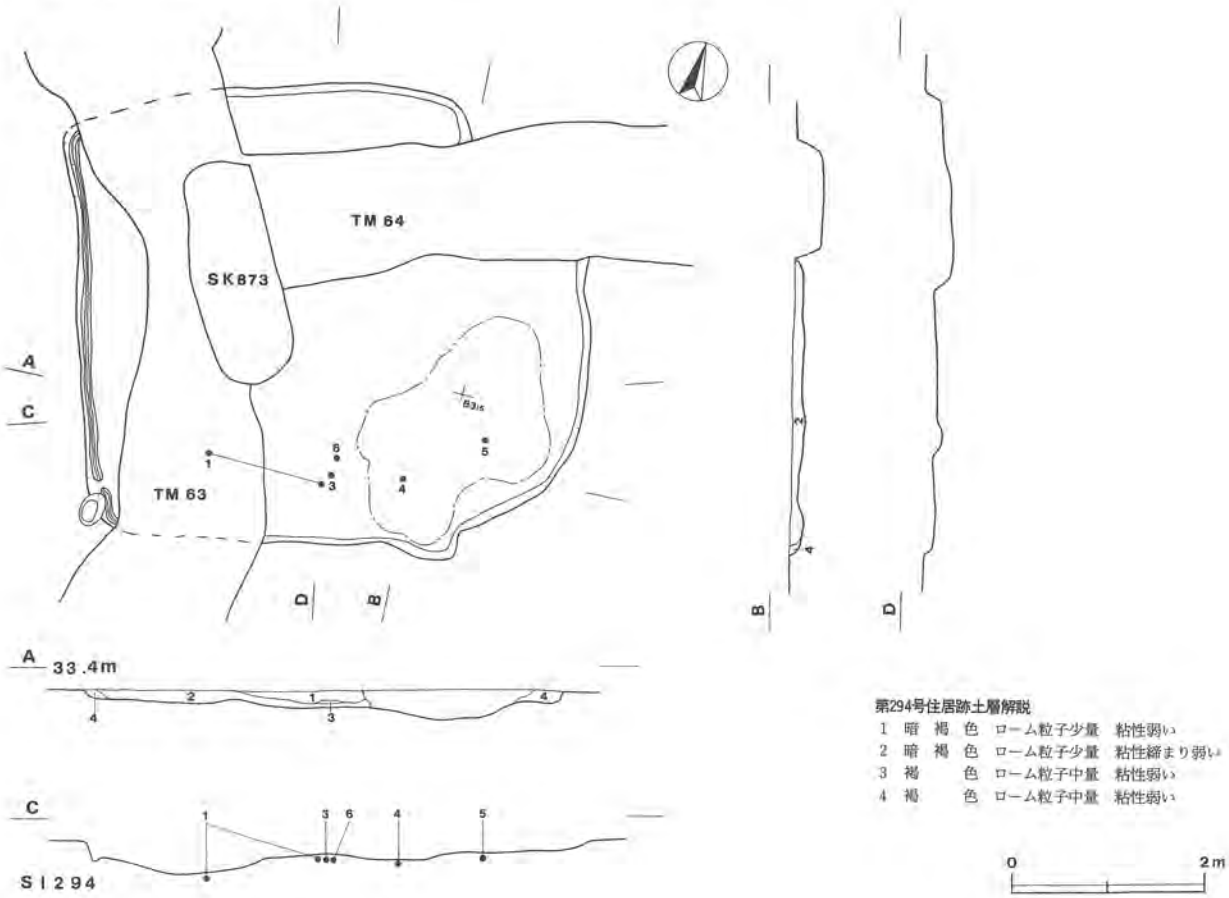
第289号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
7 褐 色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量

第253図 第286・289・298号住居跡



SI293

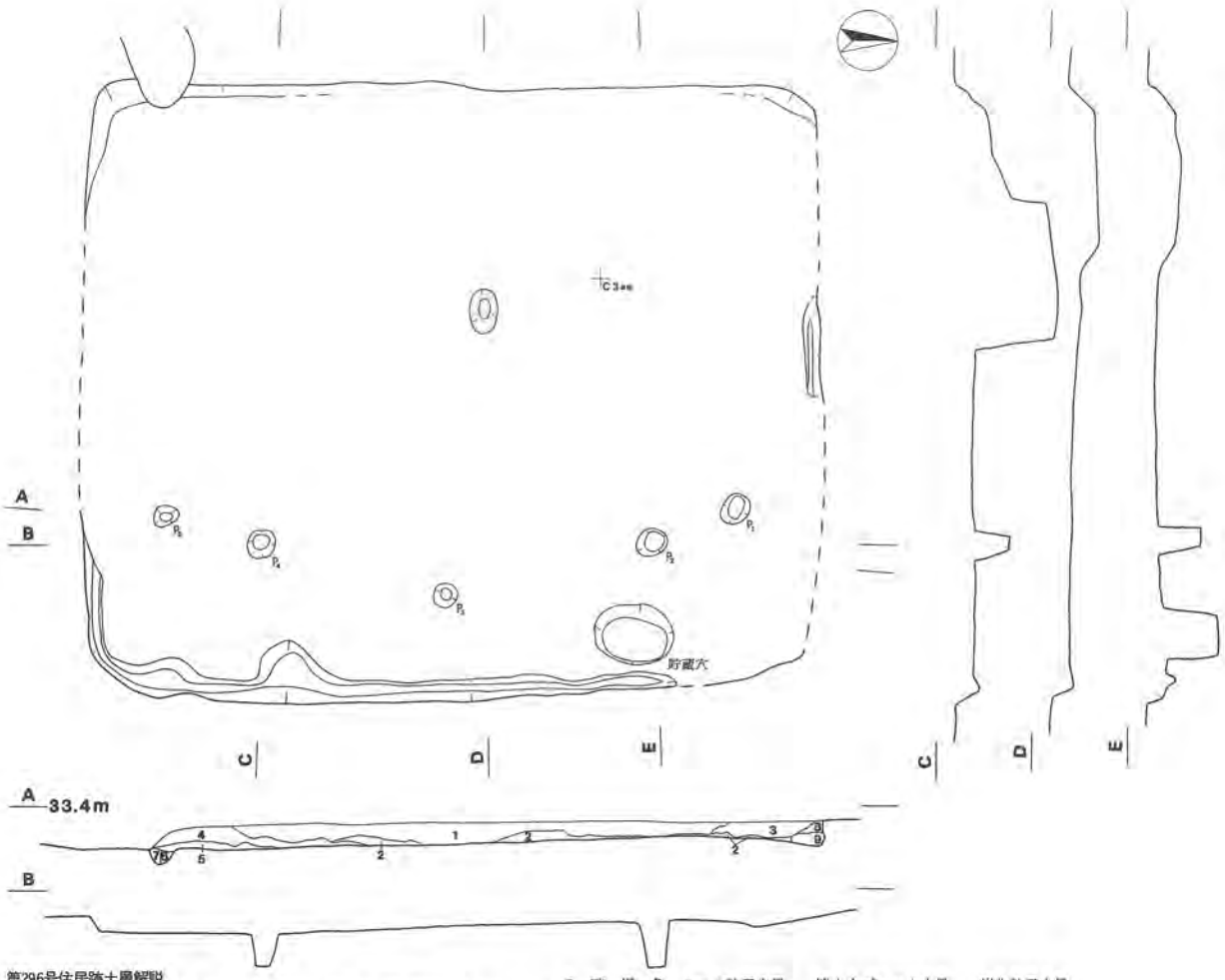
第293号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化材微量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 締まり弱い



第294号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性締まり弱い
3 褐 色 ローム粒子中量 粘性弱い
4 褐 色 ローム粒子中量 粘性弱い

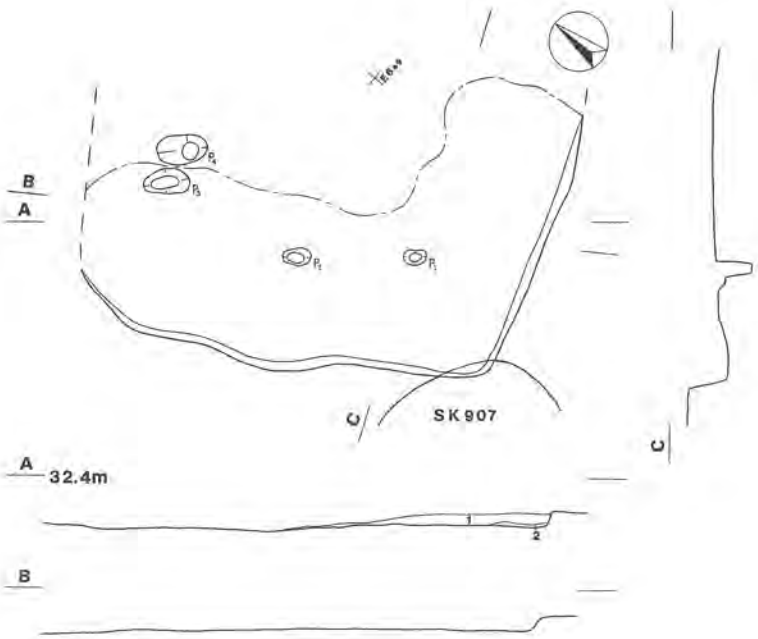
0 2m

第254図 第293・294号住居跡



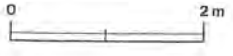
第296号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量　焼土小ブロック少量　炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック少量　焼土小ブロック少量　炭化粒子少量
4 褐　　色 ローム小ブロック少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量　焼土小ブロック少量　炭化粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量
7 褐　　色 ローム小ブロック少量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量
9 暗 褐 色 ローム小ブロック少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量



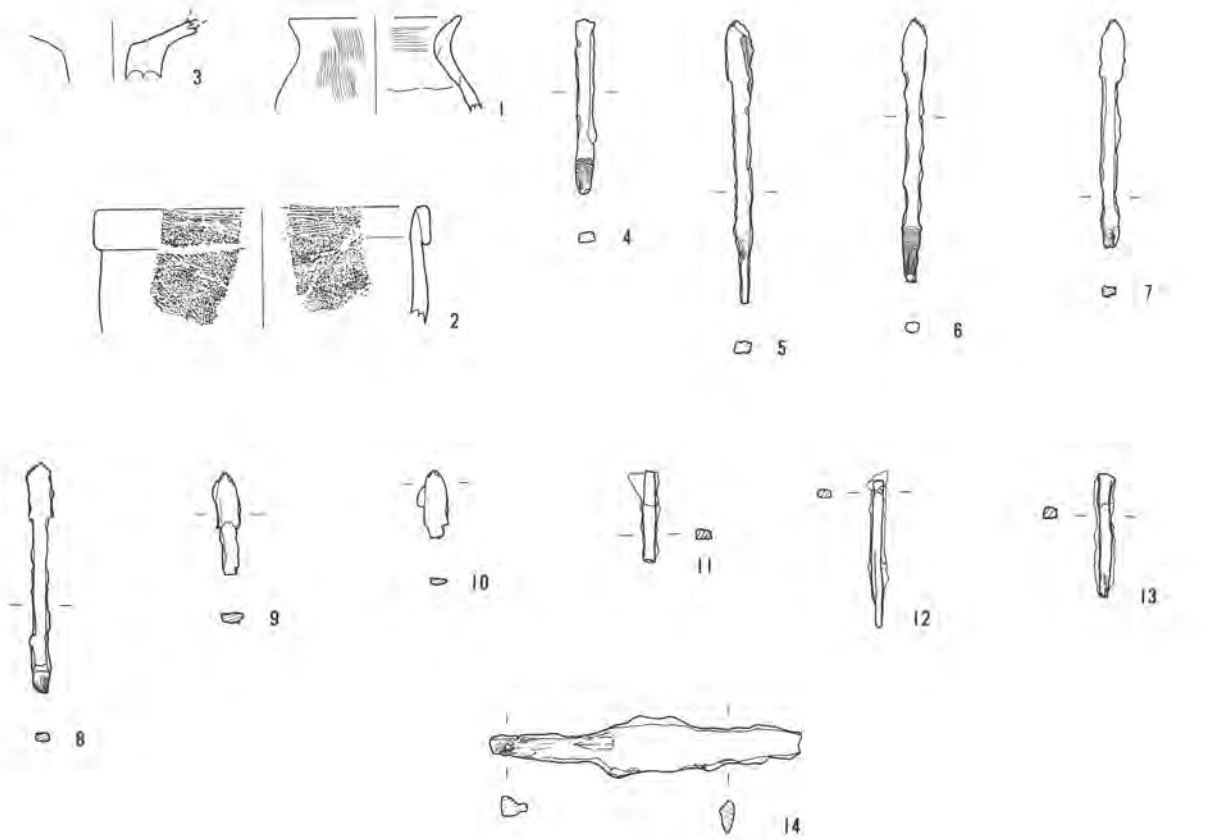
第305号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土粒子・焼土小ブロック少量　炭化物中量
2 褐　　色 ローム粒子多量　ローム小ブロック少量



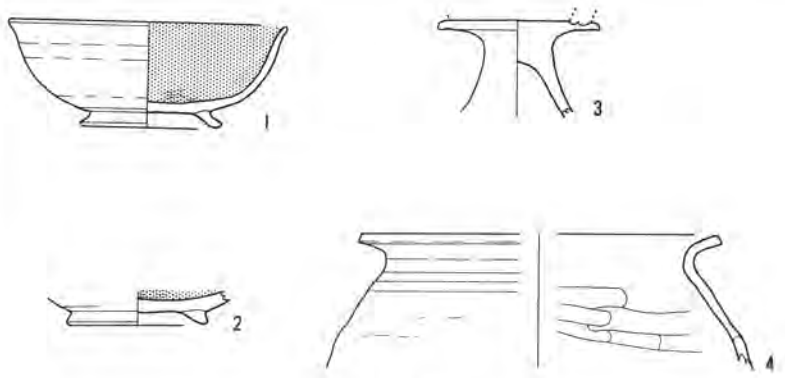
SI305

第255図　第296・305号住居跡



SI 9

SI 13

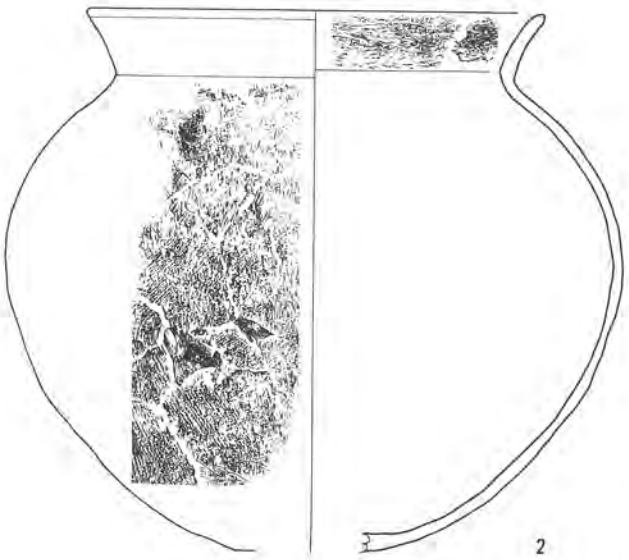


SI 20

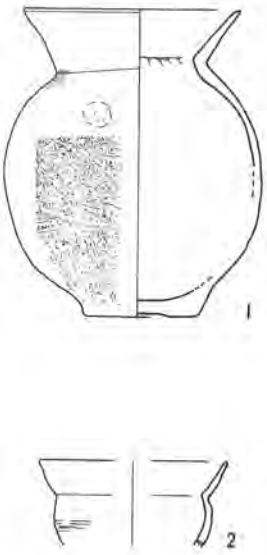
SI 29

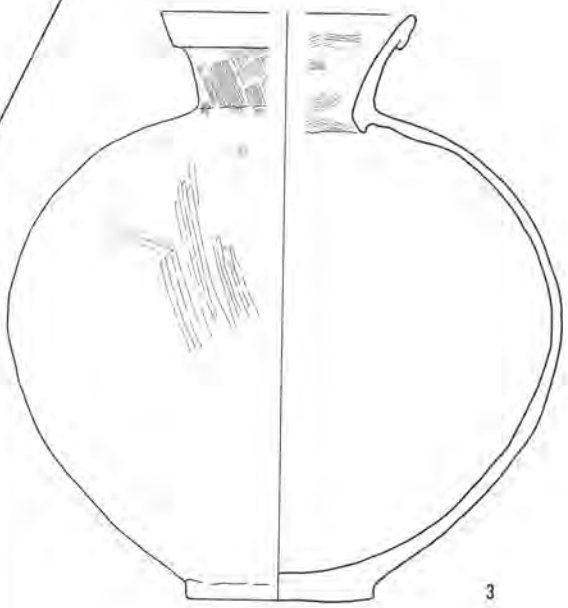
0 10cm

第256図　第9・13・20・29号住居跡出土遺物

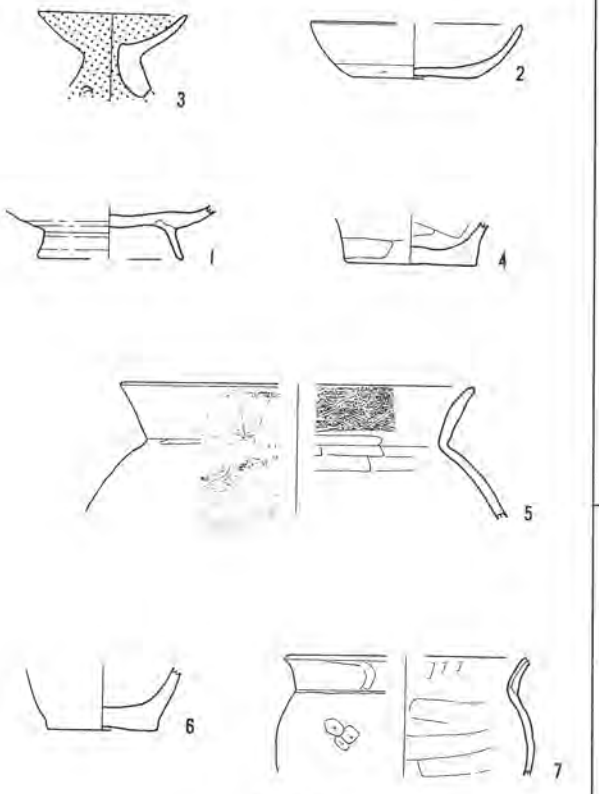


SI 29





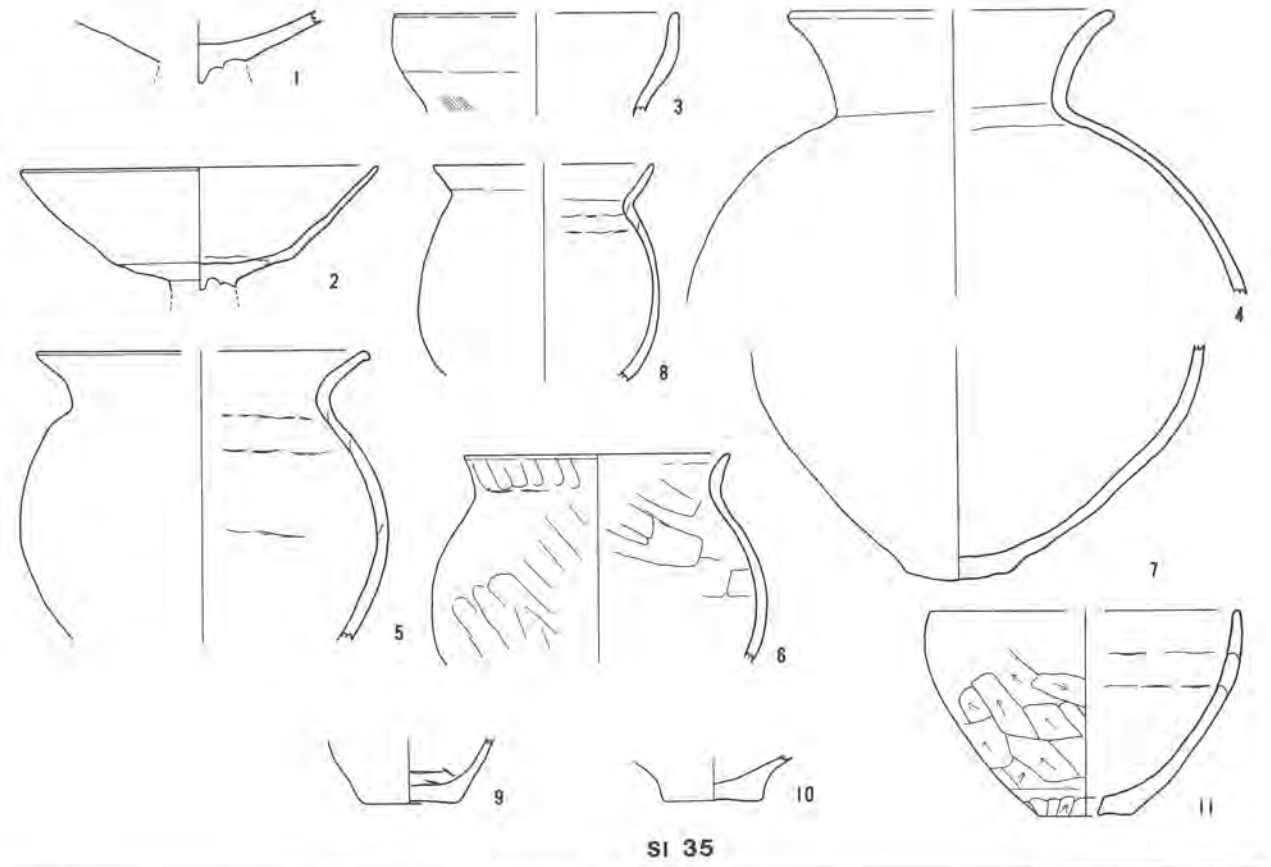
SI 30

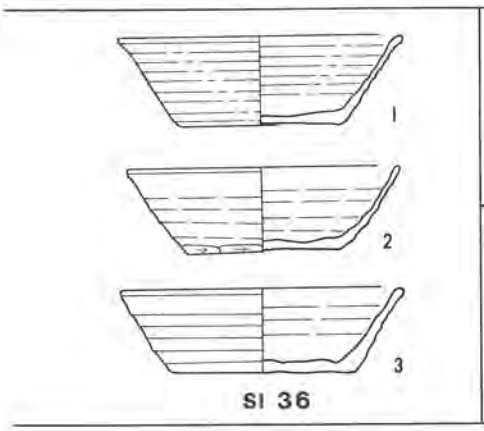


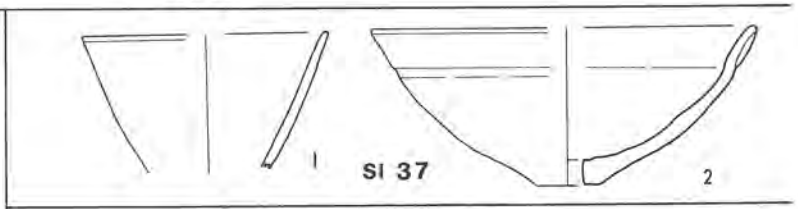
SI 33

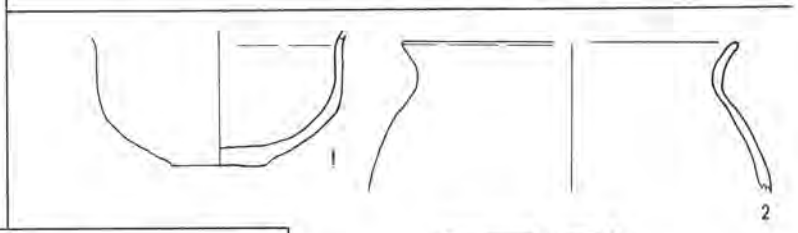
SI 31

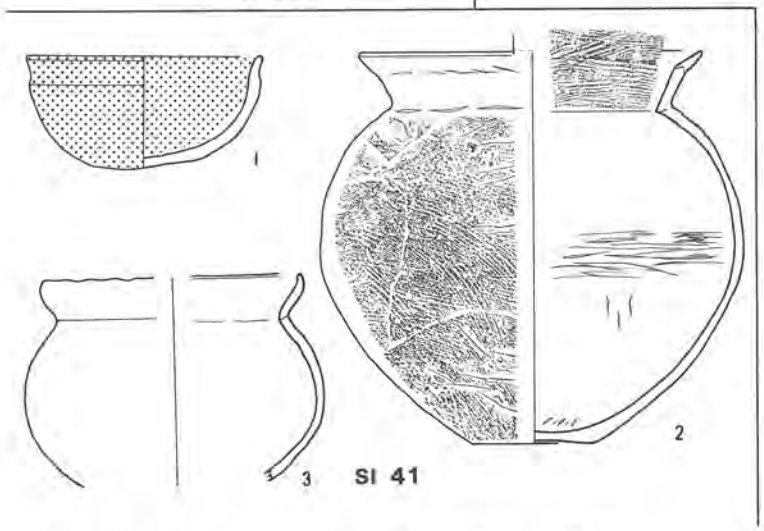
第257図　第29・30・31・33号住居跡出土遺物

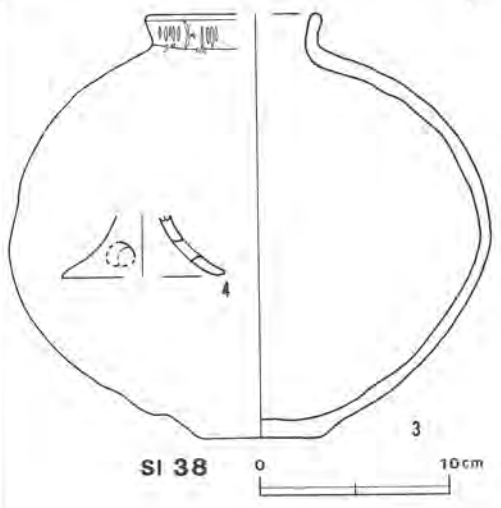




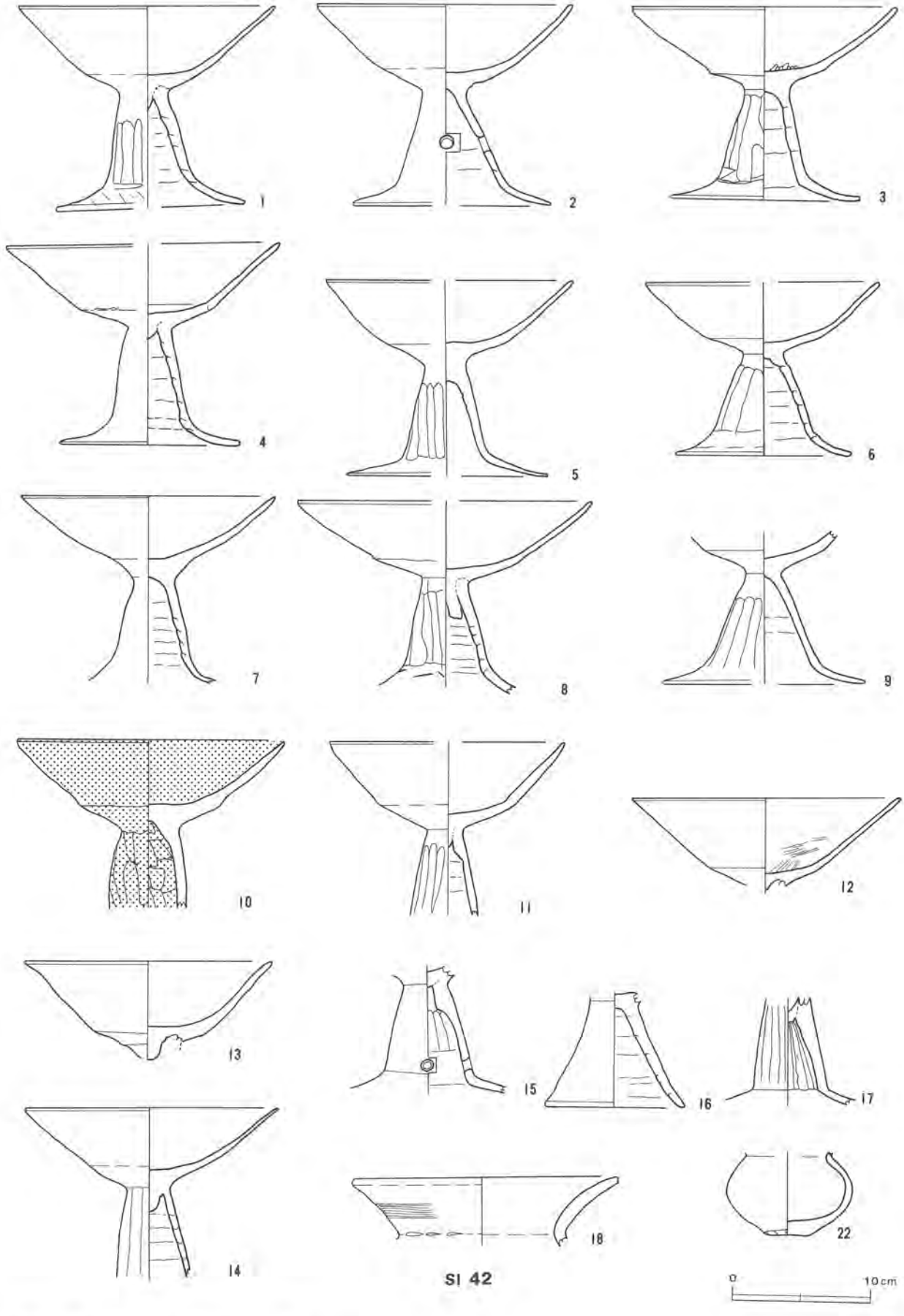




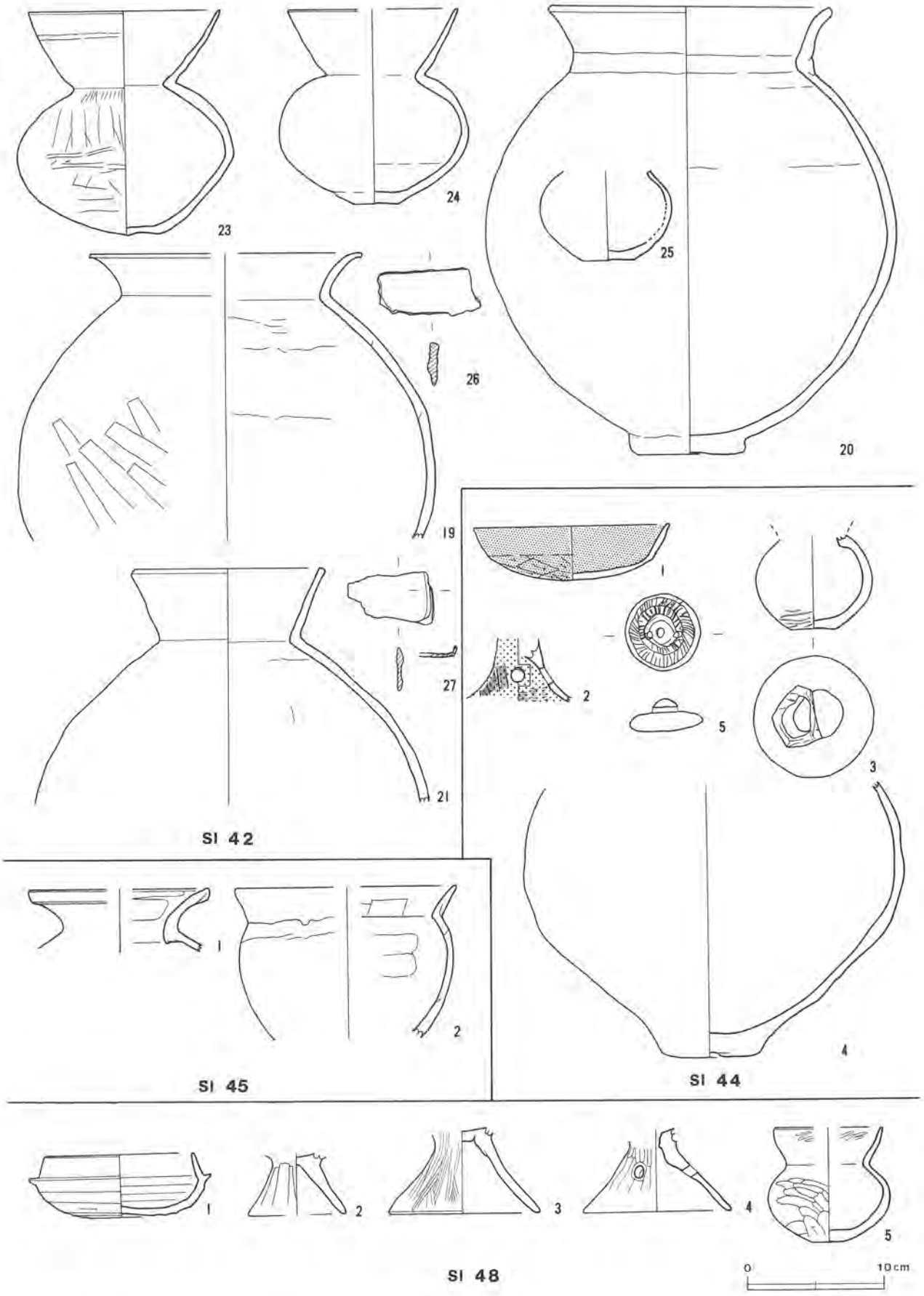




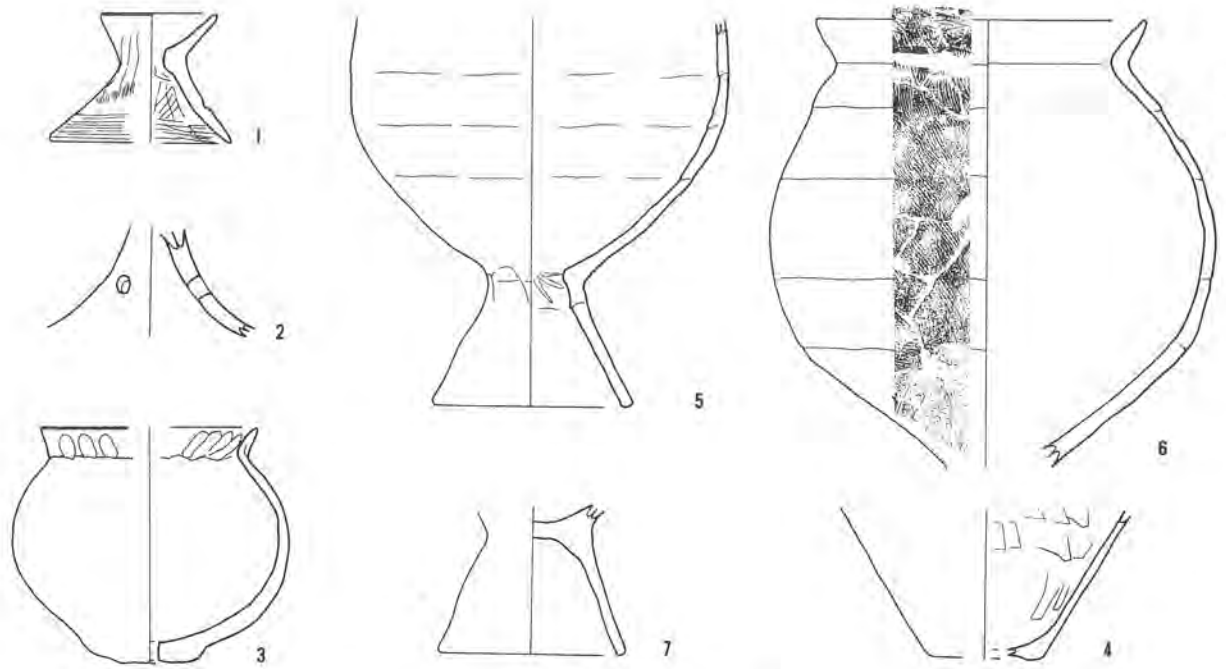
第258図　第35・36・37・38・41号住居跡出土遺物

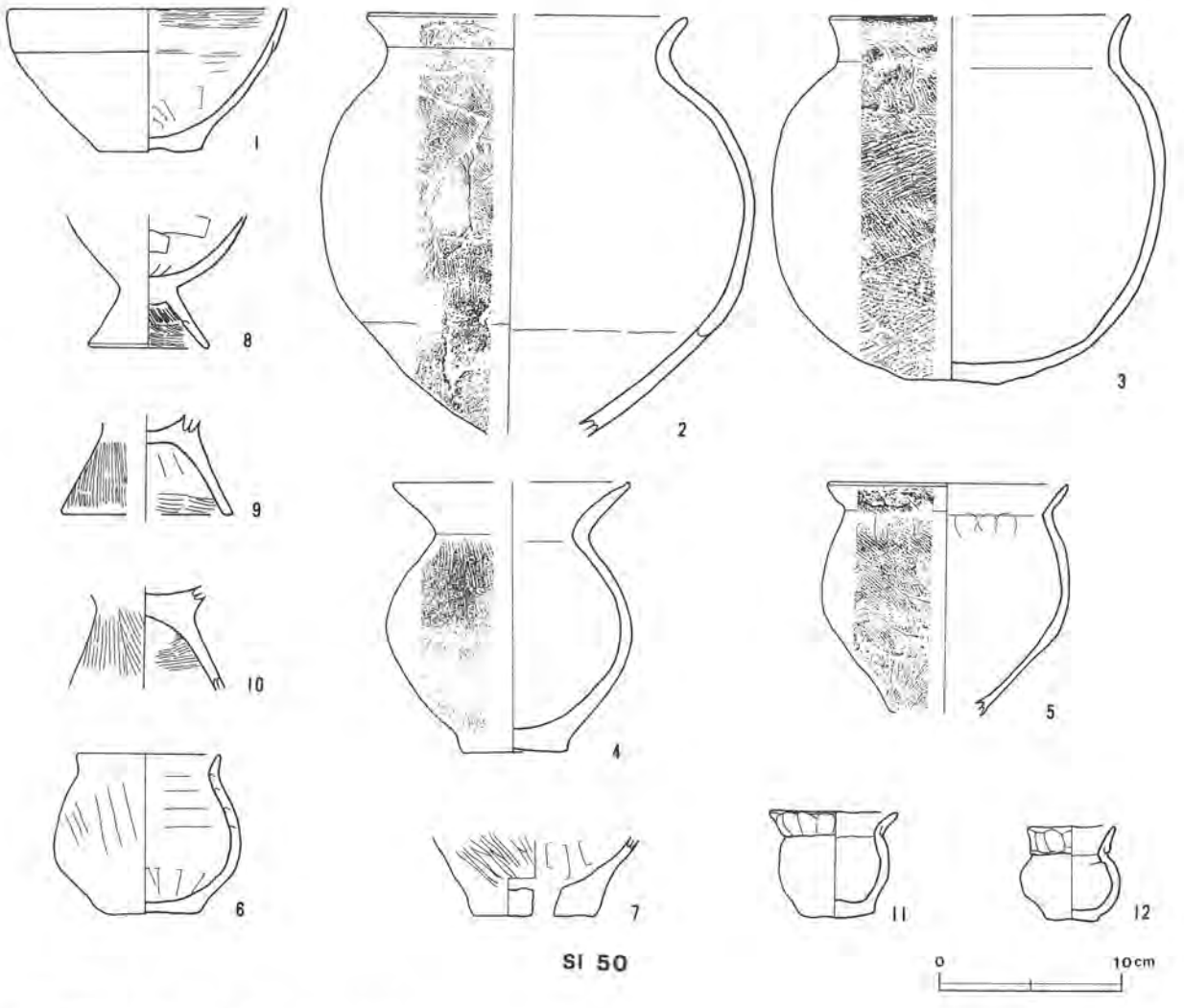


第259図　第42号住居跡出土遺物

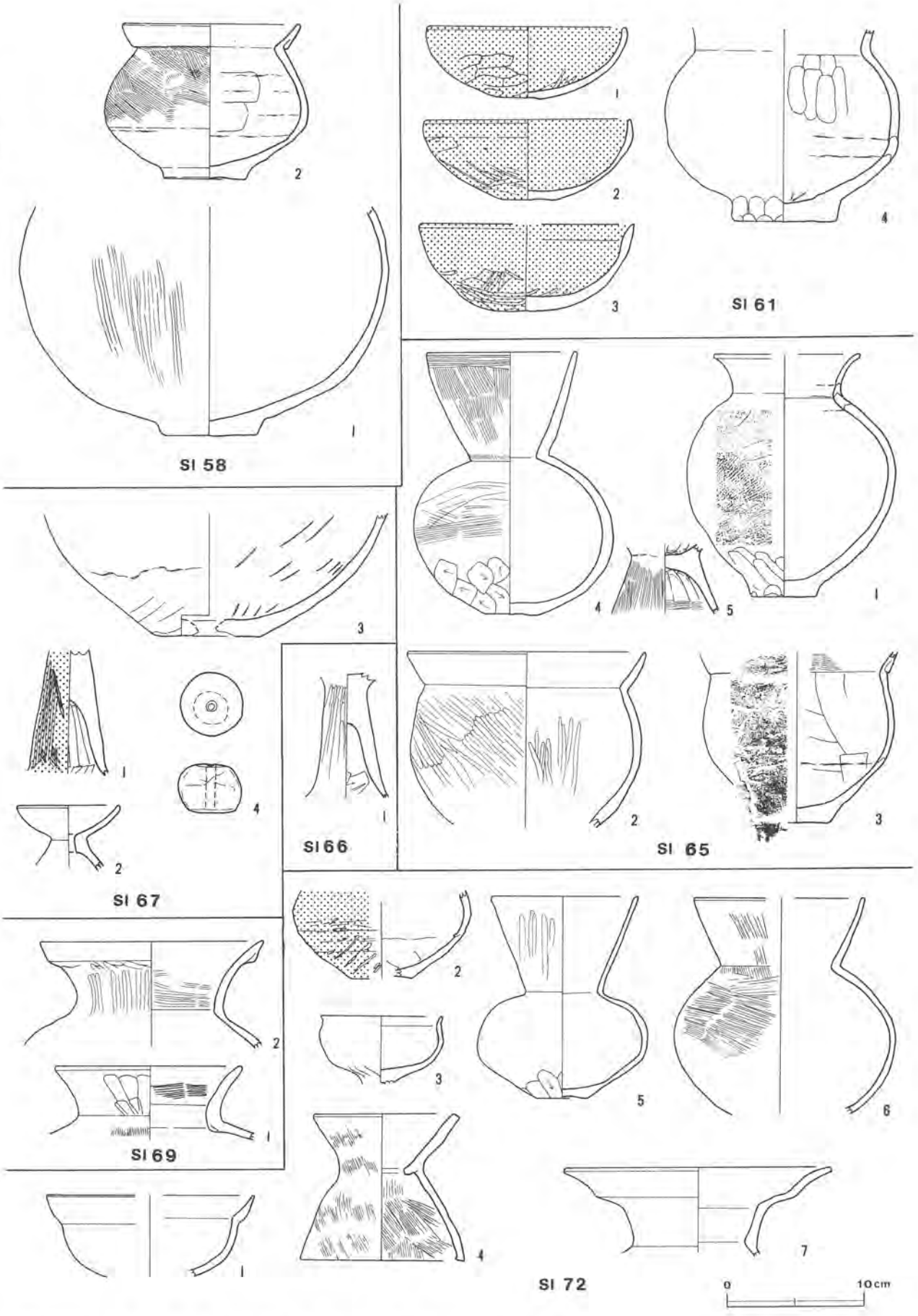


第260図　第42・44・45・48号住居跡出土遺物

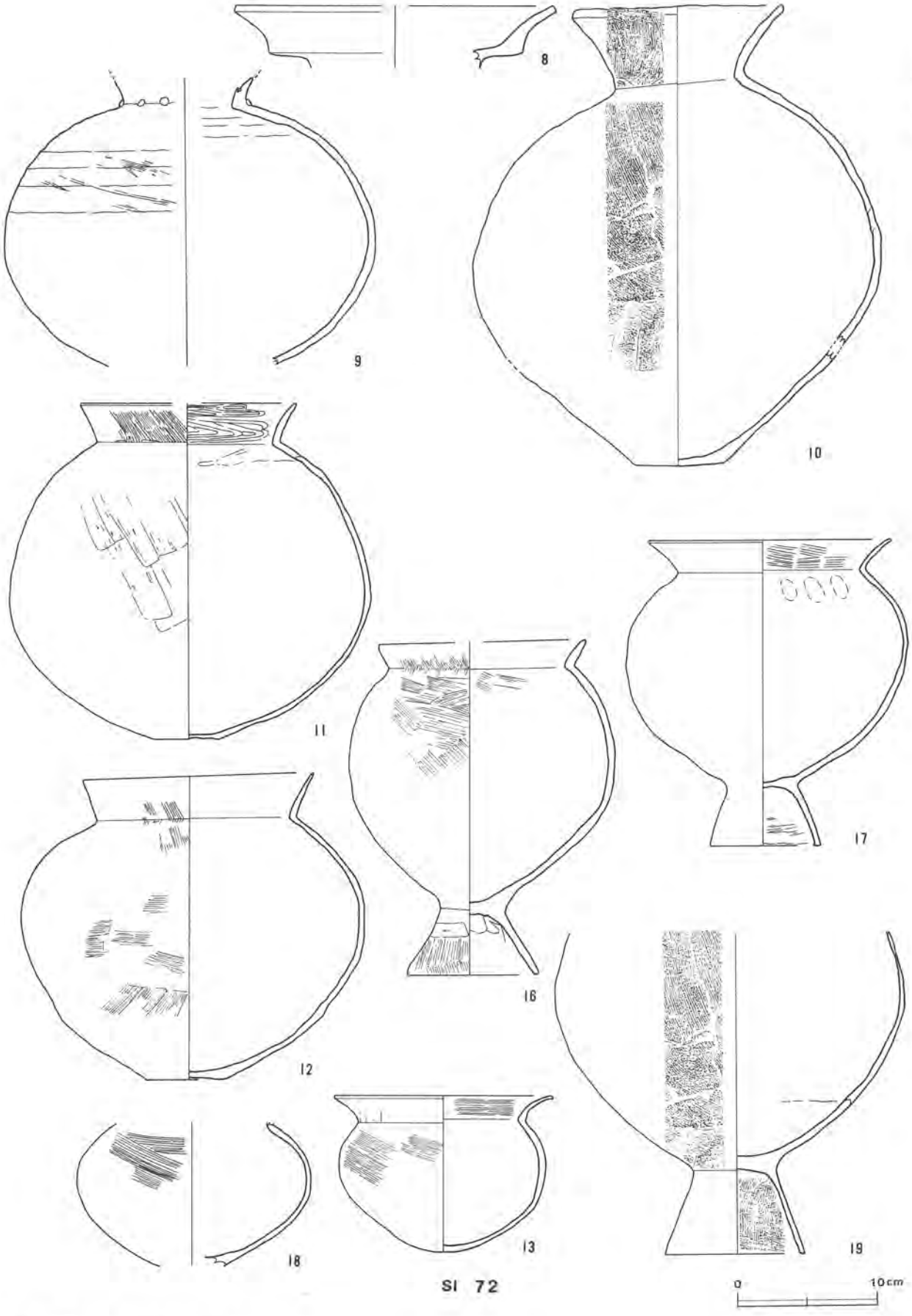




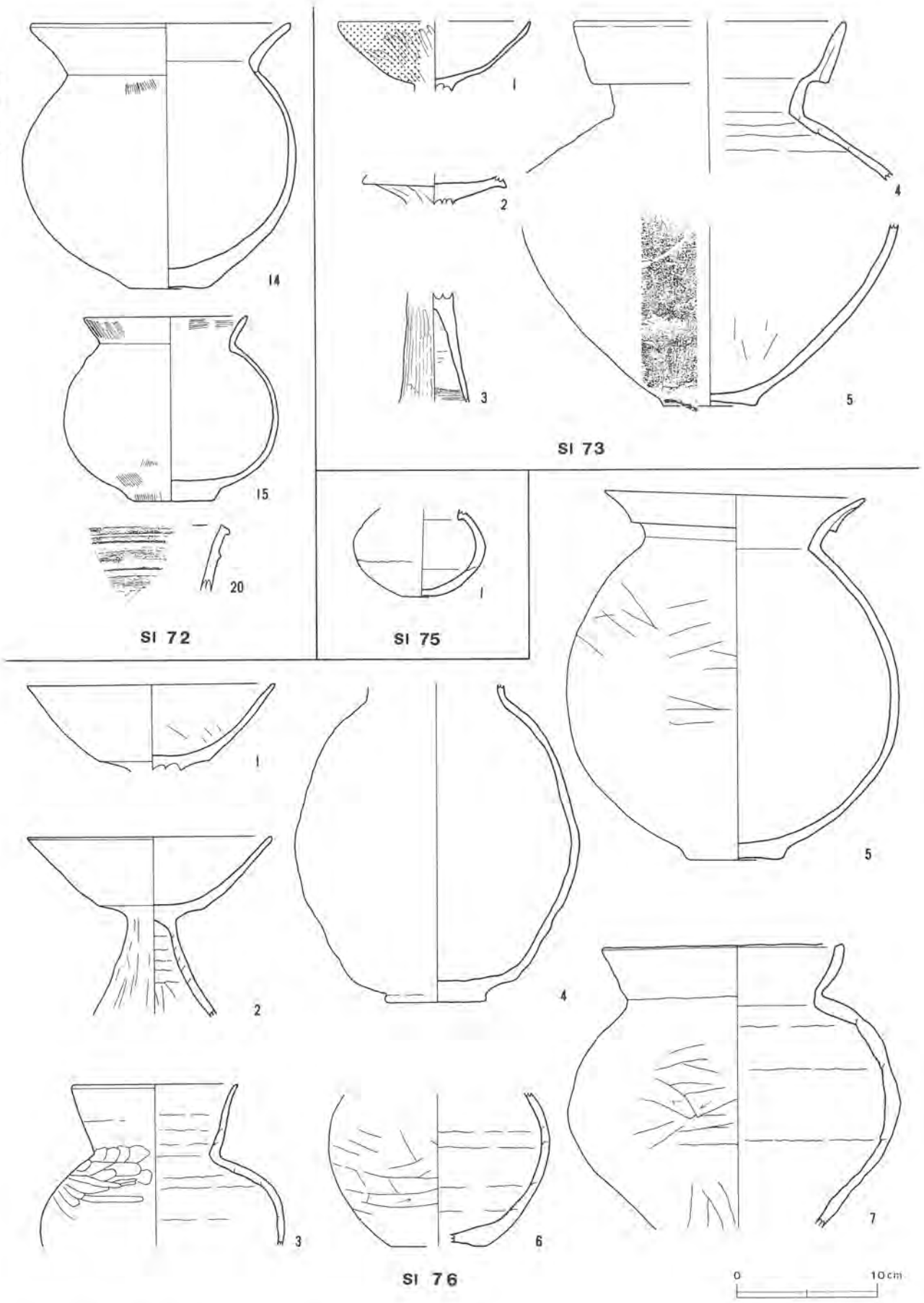
第261図　第49・50号住居跡出土遺物



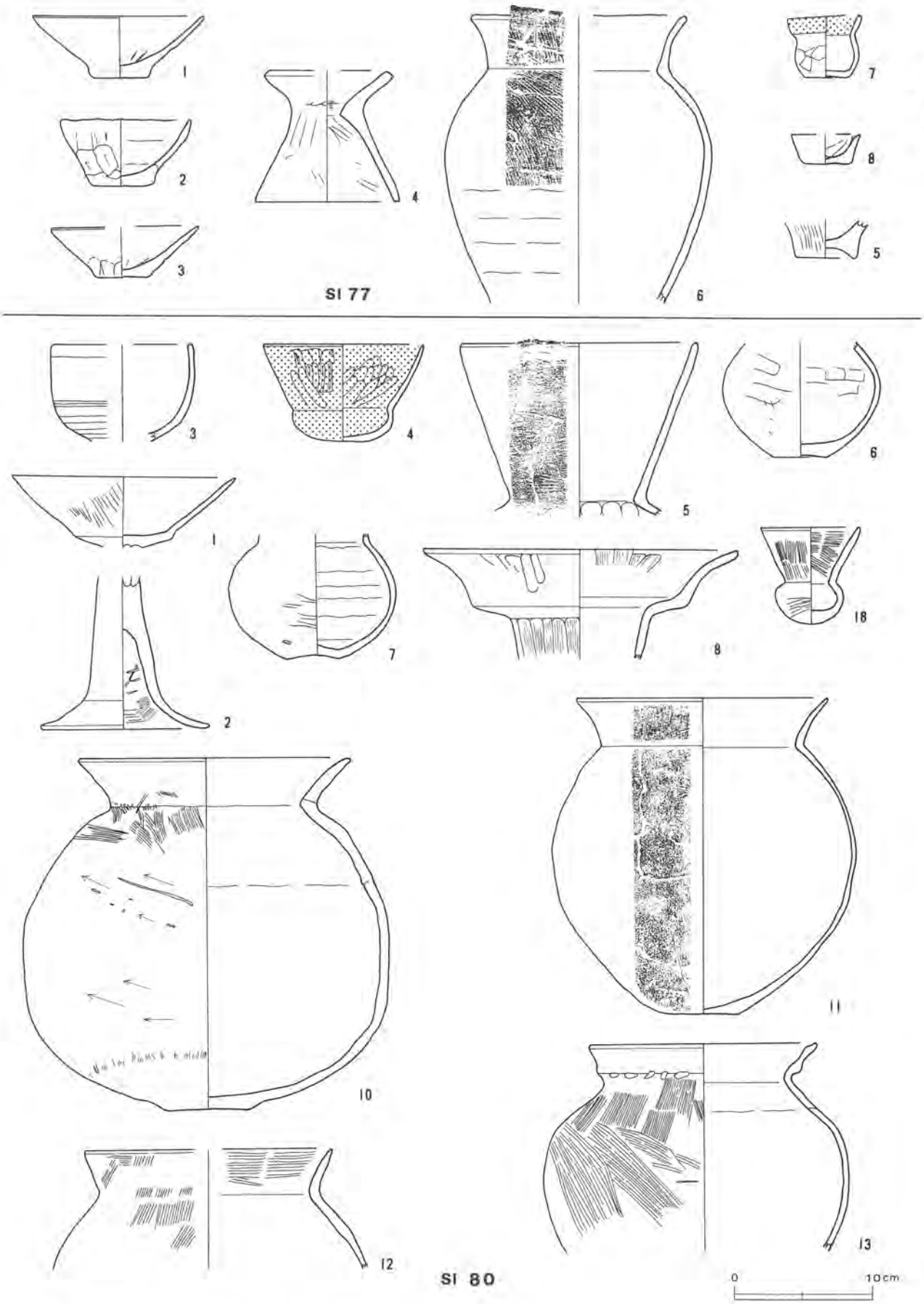
第262図　第58・61・65・66・67・69・72号住居跡出土遺物



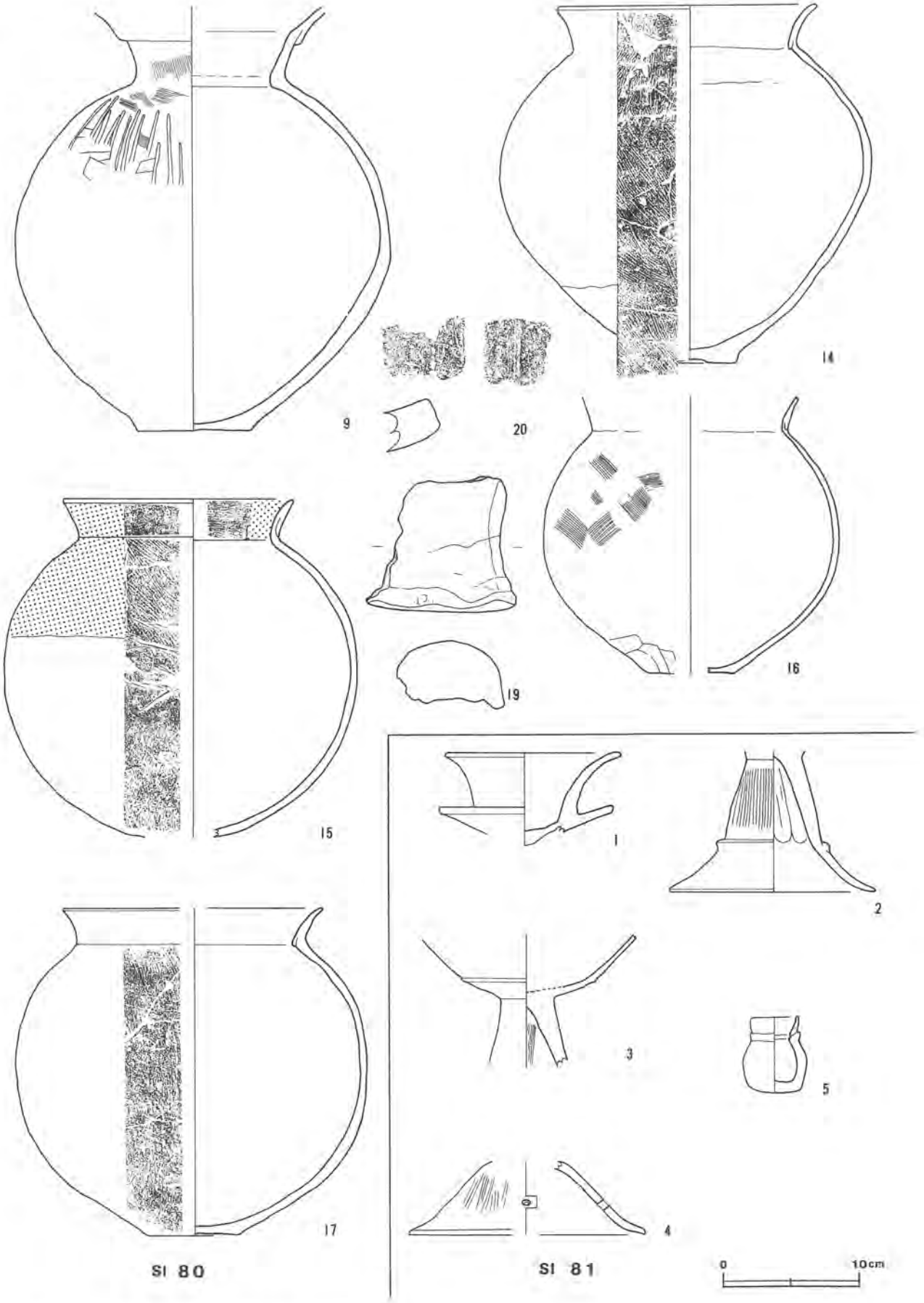
第263図　第72号住居跡出土遺物



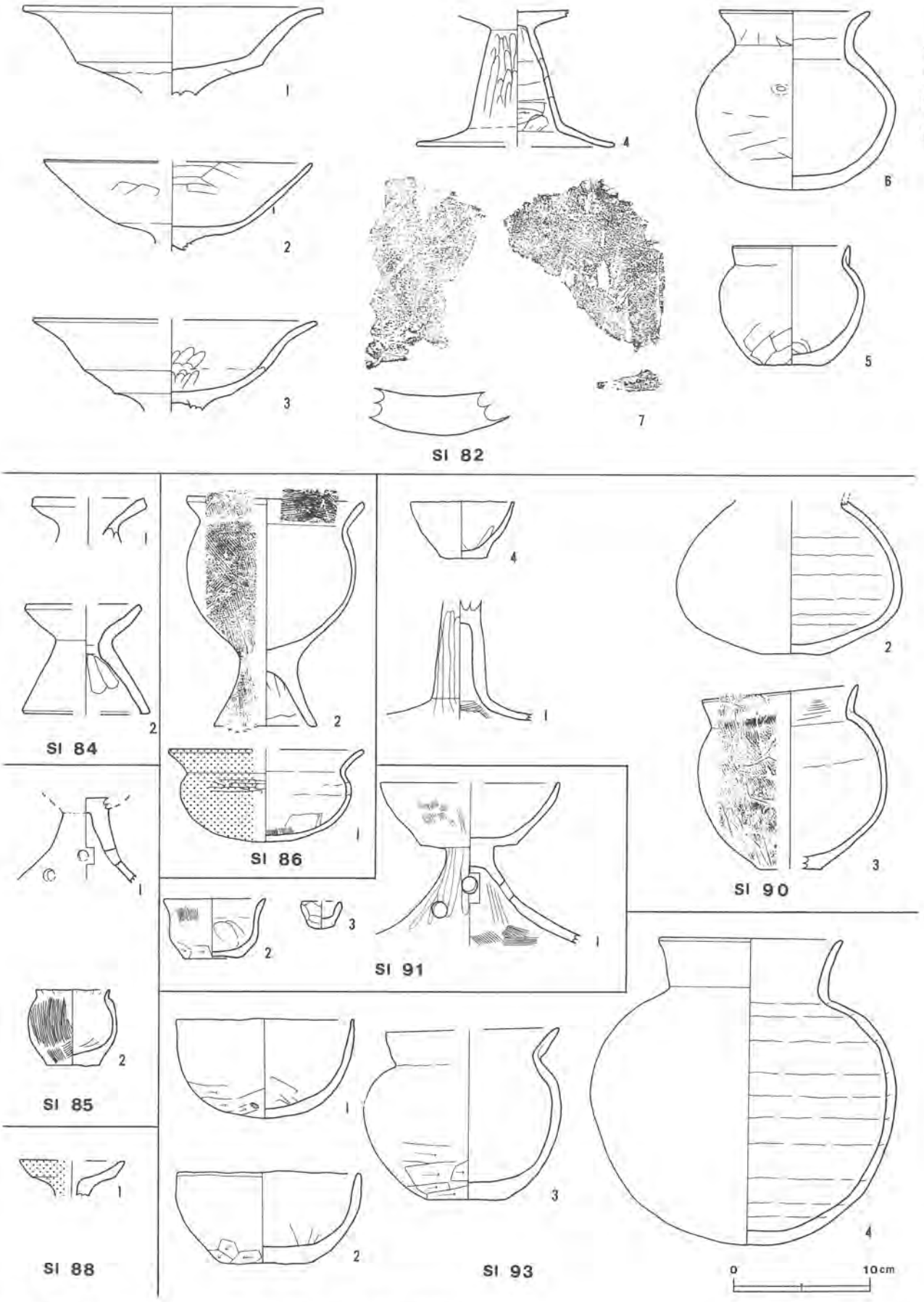
第264図　第72・73・75・76号住居跡出土遺物



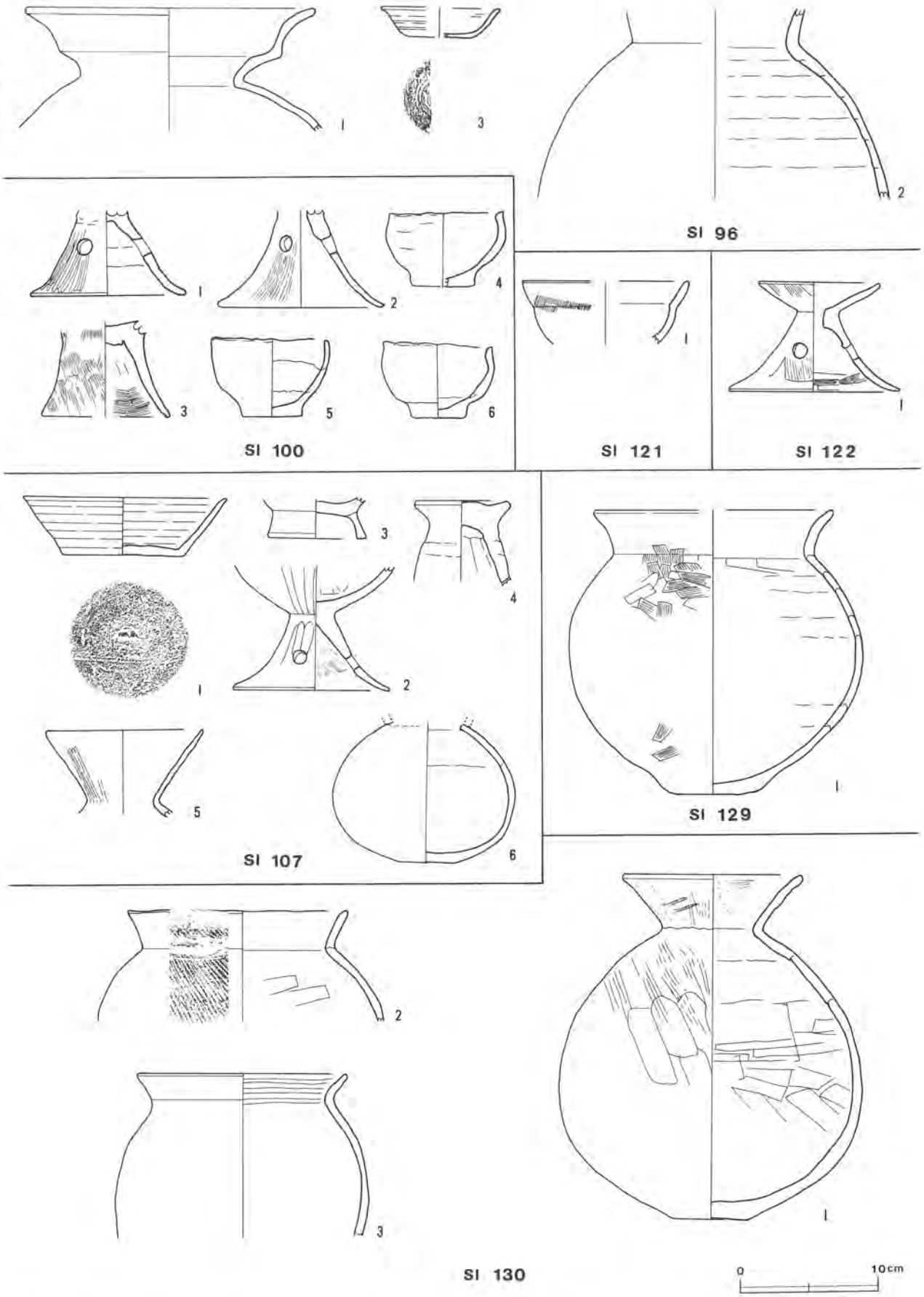
第265図　第77・80号住居跡出土遺物



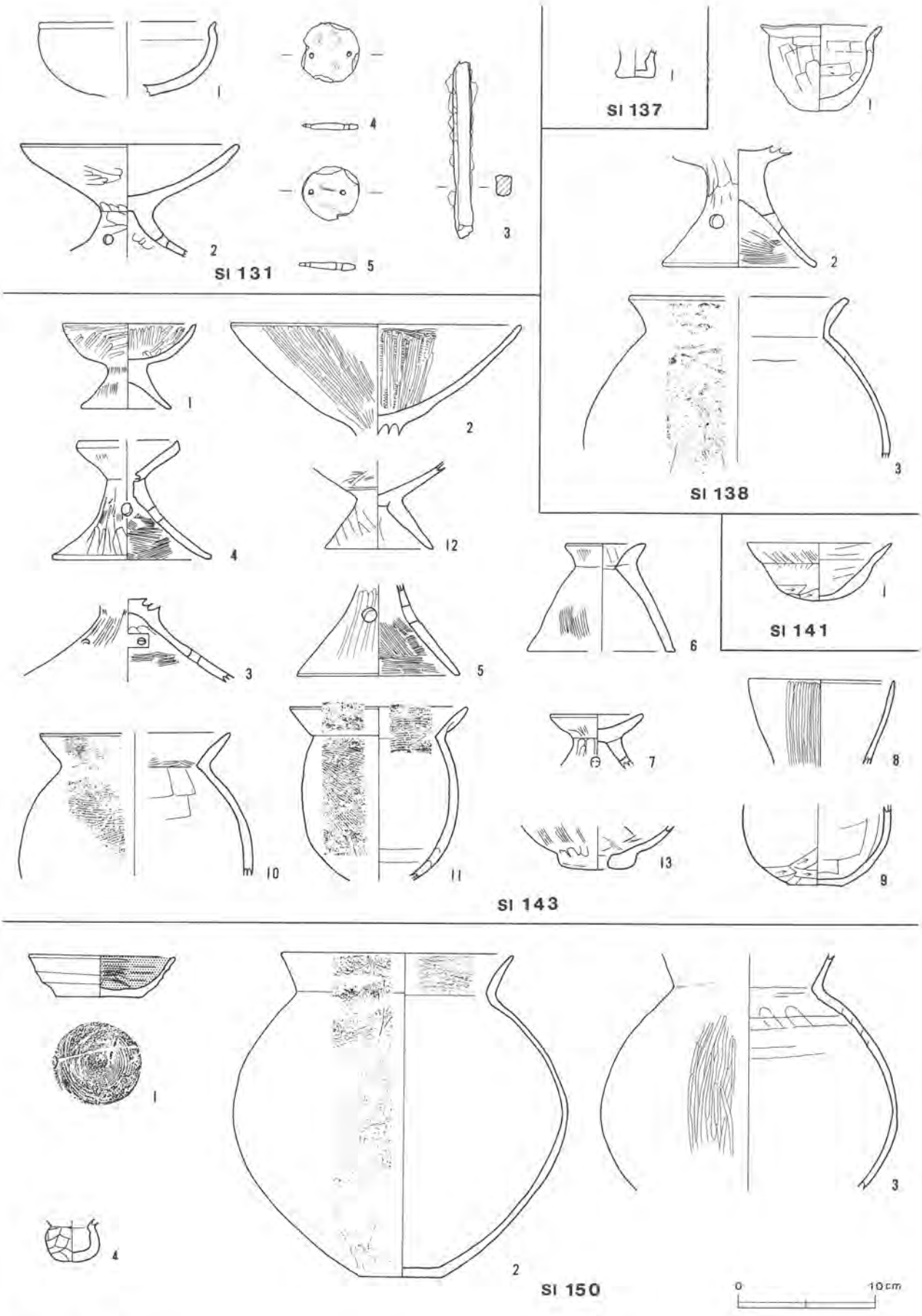
第266図　第80・81号住居跡出土遺物



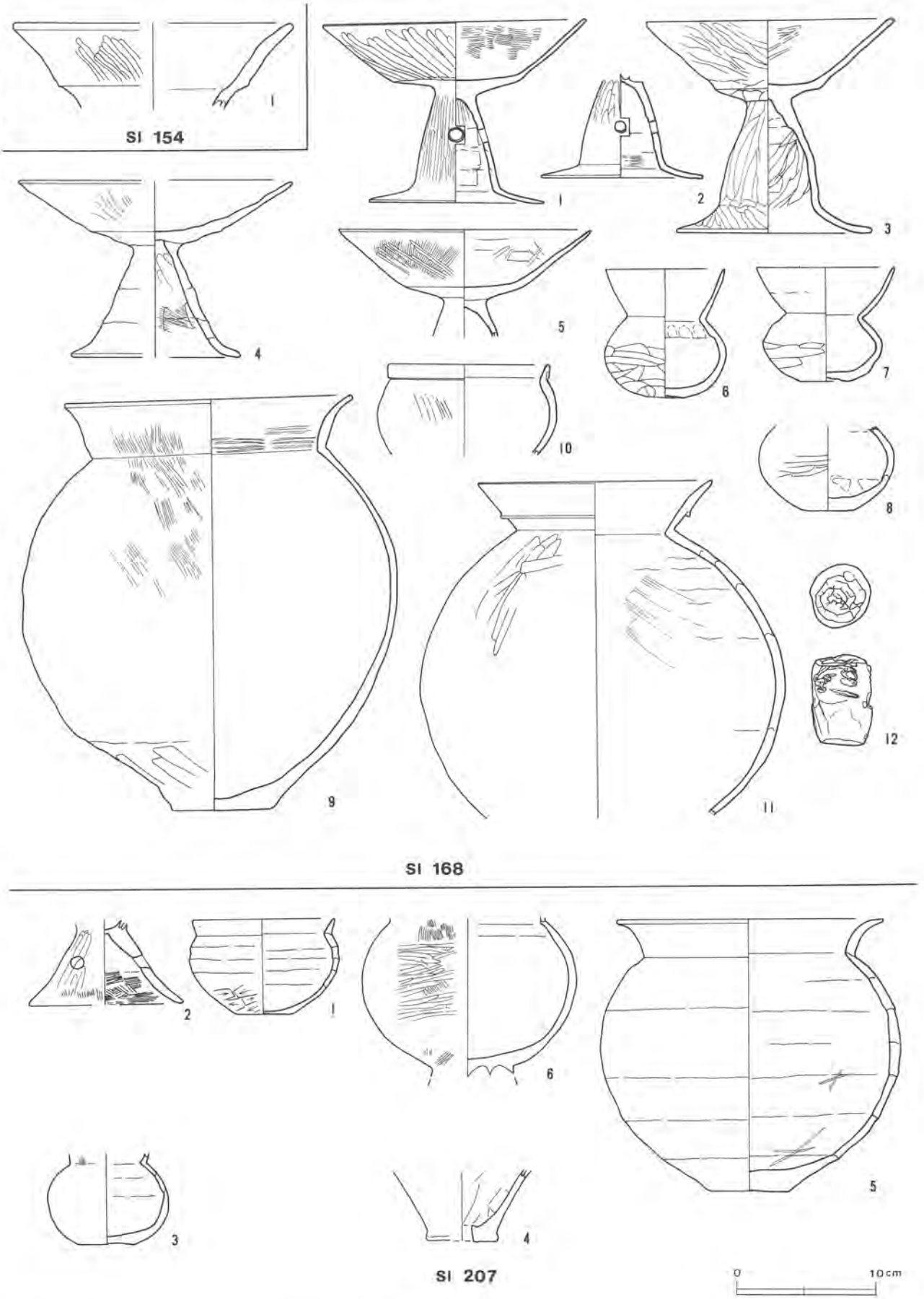
第267図　第82・84・85・86・88・90・91・93号住居跡出土遺物



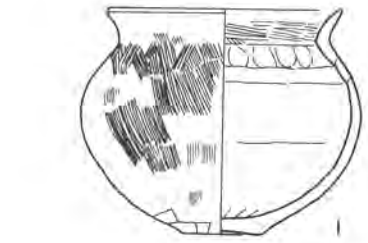
第268図　第96・100・107・121・122・129・130号住居跡出土遺物



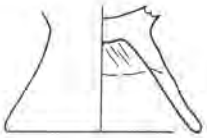
第269図　第131・137・138・141・143・150号住居跡出土遺物



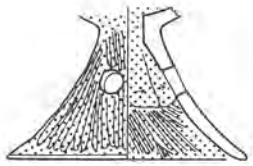
第270図　第154・168・207号住居跡出土遺物

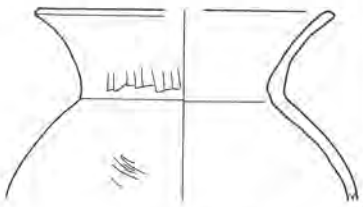


SI 213

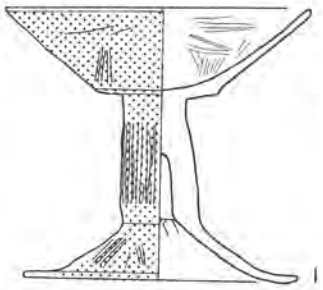


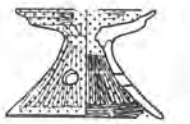
SI 230

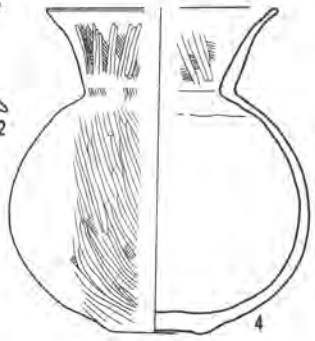


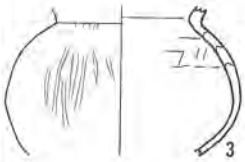


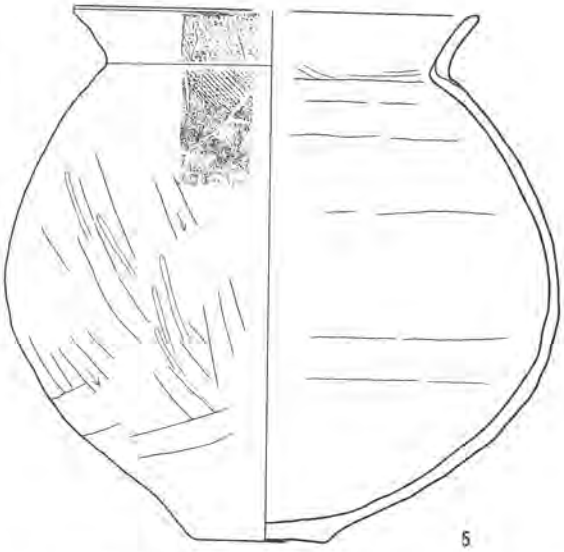
SI 243



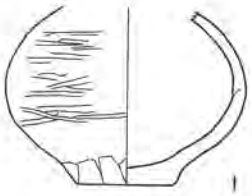




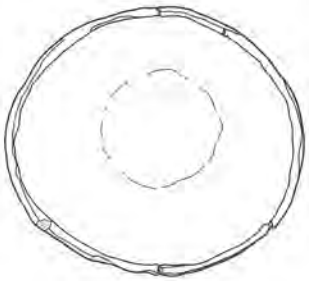


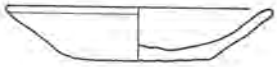


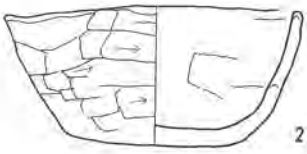
SI 225



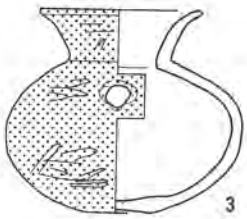
SI 245

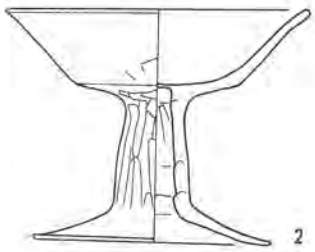






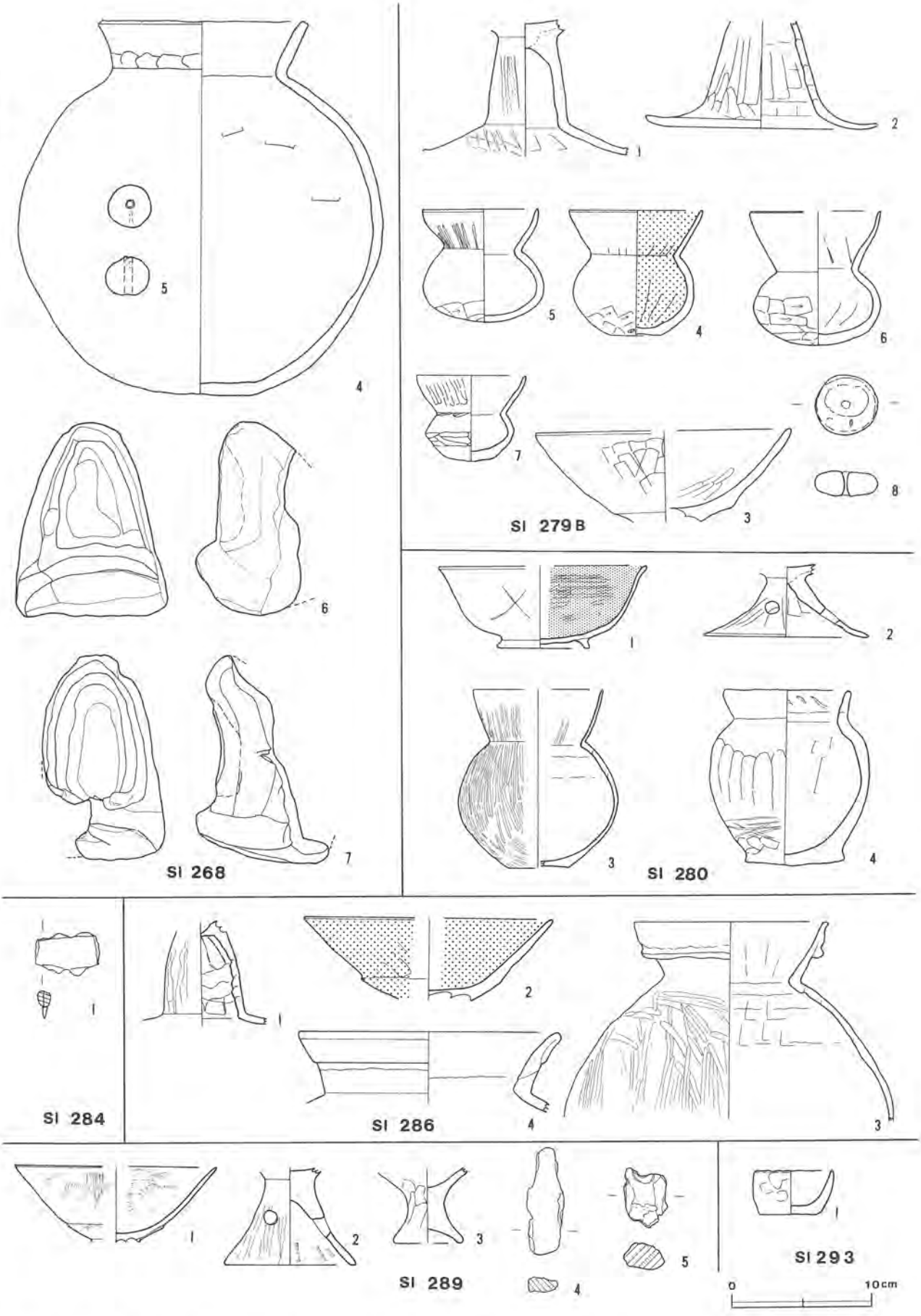
SI 249



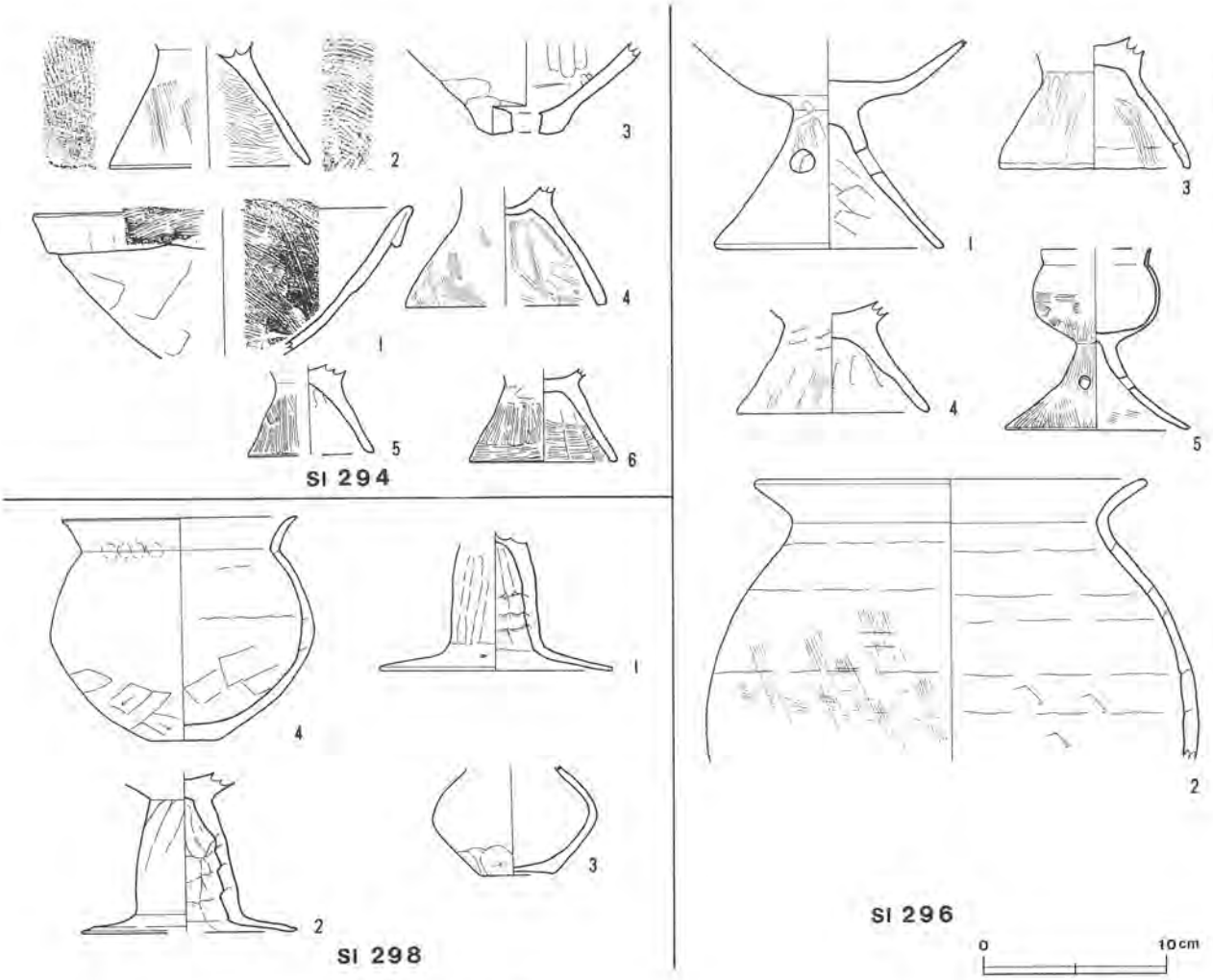


SI 268

第271図　第213・225・230・243・245・249・268号住居跡出土遺物



第272図　第268・279B・280・284・286・289・293号住居跡出土遺物



第273図　第294・296・298号住居跡出土遺物

第９号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	甕 土師器	A［9.0］ B（5.2）	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面幅広の縦位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。体部内面ナデ，輪積み痕が残る。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P74 20％ 南東部覆土
2	甕 土師器	A［17.2］ B（6.3）	口縁部片。折り返し口縁。	口縁部外面縦位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P71 10％ 北西部覆土
3	器台 土師器	B（3.0）	器受部片。	器受部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P72 10％ 北東部覆土

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	台付甕 土師器	A［12.8］ B（15.9）	台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面斜位のハケ目整形，内面横位のハケ整形。体部外面横位・斜位のハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 褐灰色 やや不良	P78 30％ 西側覆土

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	高台付坏 土師器	A 14.3 B 5.5 D 6.8 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P80 80％ 東側覆土
2	高台付坏 土師器	B (1.7) D 7.0 E 0.6	高台部片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P81 20％ 北東部覆土
3	高坏 土師器	B (5.1)	脚部はラッパ状に開く。坏部下端に横外方に開く段をもつ。	坏端部上面にハケ目痕あり。脚部外面縦位のナデ，下位にハケ目痕残る。内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P82 25％
4	甕 土師器	A [18.6] B (7.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はつよく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口唇部に凹みが巡る。頸部に明瞭な2条のナデ。体部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄褐色 普通	P83 10％ 北東部覆土 煤付着

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	埦 土師器	B (6.5) C [5.0]	体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P112 20％ 南部覆土
第257図 2	甕 土師器	A [24.2] B 28.5 C [7.0]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。	砂粒多・長石・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P113 35％ 二次焼成を受ける
第256図 3	器台 土師器	E (6.0)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P111 10％ 北西部覆土

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	甕 土師器	A 11.2 B 16.3 C 5.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のハケ目整形。体部外面縦・斜位のヘラナデ。体部上位に径2cm程の凹み，中に布目状の圧痕。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P115 80％
2	甕 土師器	A [9.8] B (4.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面わずかにハケ目痕残る，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P116 15％ 北東部覆土
3	壺 土師器	A [13.2] B 31.0 C 9.8	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面及び頸部内面横位のハケ目整形。頸部外面縦位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P114 50％

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	高台付坏 土師器	B (2.8) D [7.6] E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部外面下端に横ナデ痕明瞭に残る。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P126 15％ 覆土
2	皿 土師質土器	A [10.9] B 2.9 C [6.7]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P125 50％ 北東部覆土
3	器台 土師器	A 7.8 B (4.3)	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。脚部3孔。器受部中央に単孔。	器受部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲母 赤色 普通	P119 70％ 覆土
4	甕 土師器	B (2.3) C 6.6	底部片。平底。	底部ナデ。体部内・外面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P122 10％ 覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A [18.6] B (7.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部にヘラの痕跡あり。体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 黄褐色 普通	P121 10％ 覆土
6	甕 土師器	B (3.1) C 5.6	底部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦位のナデ，内面横位のナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　普通	P123　10％ 西側覆土
7	甕 土師器	A [13.0] B (6.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 赤褐色　普通	P120 20％　覆土

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	高坏 土師器	B (3.8)	坏部片。坏部は外傾して立ち上がる		砂粒・長石・石英 橙色　不良	P128　20％
2	高坏 土師器	A 18.6 B 6.8	坏部片。坏部下端に稜をもち，内彎気味に大きく立ち上がる。	坏口縁部内・外面ナデ。内・外面摩滅。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色　不良	P127　50％
3	壺 土師器	A [14.6] B (5.5)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がり，上端で直立する。	口縁部内・外面横位のナデ。頸部にハケ目痕残る。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P129 10％ 南東部覆土
4	甕 土師器	A 16.7 B (15.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・赤褐色粒子　明赤褐色 普通	P130 40％
5	甕 土師器	A [17.1] B (15.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 黒褐色　普通	P131　35％
6	甕 土師器	A 14.0 B (11.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面指ナデ後横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り後ナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明褐色 普通	P132 30％
7	甕 土師器	B (12.3) C 5.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 不良	P133　20％ NO.15 二次焼成を受ける
8	甕 土師器	A [11.4] B (11.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。全体に摩滅が著しい。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　不良	P135　40％
9	甕 土師器	B (3.4) C 4.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ，ヘラの圧痕あり。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P136 20％
10	甕 土師器	B (2.3) C 5.2	平底。体部は外反気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P137 15％
11	甑 土師器	A [16.2] B 10.8 C 4.9 孔径 1.4	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面縦位・斜位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り。内面摩滅が著しい。	砂粒多・長石・石英・雲母 橙色 普通	P138 45％ 覆土

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	坏 須恵器	A 15.0 B 4.7 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部下端ヘラ切り後一方向のヘラ削り。内面に煤付着。	砂粒・長石・石英・雲母 灰色 不良	P139 100％
2	坏 須恵器	A 13.9 B 4.3 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端横位のヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。内面斑点状に煤付着。	砂粒・長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P140 100％
3	坏 須恵器	A 14.4 B 4.5 C 9.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P141 100％

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	坩 土師器	A [13.0] B (7.2)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P142 25% 北西部覆土
2	甑 土師器	A [20.0] B 8.4 C 3.4 孔径 1.6	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のナデ。口縁部に煤付着。	砂粒・雲母 橙色 普通	P143 50%

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	椀 土師器	B (7.0) C 4.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P144 15% 南東部覆土
2	甕 土師器	A [17.6] B (7.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形。口縁部内面横位のハケ目整形，体部内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P147 20%
3	壺 土師器	A [8.9] B 22.4 C 6.2	平底。体部は球形状で，口縁部は短く外傾する。	口縁部外面縦位のハケ目，内面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P146 80% 覆土
4	器台 土師器	D [8.4] E (3.2)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P145 20% 南西部覆土

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図 1	椀 土師器	A 12.4 B 6.0 C 5.9	すわりのよくない平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面横位のヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P150 100%
2	甕 土師器	A [17.9] B 20.6 C 6.4	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾し，上端でさらに外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形，内面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P152 40%
3	甕 土師器	A [13.6] B (10.9)	体部は球形状で，口縁部は外傾し，上端で内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P153 30%

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 1	高坏 土師器	A 18.2 B 14.2 D [13.6] E 8.2	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面弱いナデ。脚部外面縦位のヘラナデ，裾部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P154 80%
2	高坏 土師器	A 18.2 B 14.6 D [14.0] E 8.6	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部1孔。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ，内面ナデ。裾部に煤付着。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P155 70% 貯蔵穴覆土
3	高坏 土師器	A [18.8] B 14.0 D 13.5 E 8.3	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラナデ。坏部内面煤付着。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色 良好	P156 60% 貯蔵穴覆土
4	高坏 土師器	A [19.5] B 16.7 D 12.8 E 8.4	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。坏部稜の部分に粘土のナデ付け痕。脚部外面縦位のヘラナデ。坏部内・外面に煤付着。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P157 70%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	高坏 土師器	A [17.6] B 14.1	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P158 50％
6	高坏 土師器	A [16.6] B 12.5 D 12.6 E 7.4	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 良好	P159 70％
7	高坏 土師器	A 18.0 B (13.5) E (7.4)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P160 50％
8	高坏 土師器	A [21.0] B (14.2) E (7.8)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。坏部内面全体煤付着。脚部外面縦位のヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P161 50％
9	高坏 土師器	B (11.0) D [14.4] E 8.0	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に弱い稜をもつ。	坏部内面摩滅。脚部外面縦位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P162 35％
10	高坏 土師器	A 19.2 B (12.1) E (5.6)	脚部は円筒状で，裾部欠損。坏部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	P163 60％
11	高坏 土師器	A [17.0] B (12.5) E (6.2)	脚部は円筒状で，裾部欠損。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P164 30％
12	高坏 土師器	A 19.0 B (6.3)	脚部欠損。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏口縁部内・外面及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P165 40％
13	高坏 土師器	A [17.8] B (7.1)	脚部欠損。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面ナデ。内面摩滅。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色　やや不良	P166 30％
14	高坏 土師器	A 18.1 B (12.4) E (6.7)	脚部は円筒状である。坏部は下位に弱い稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P5181 70％
15	高坏 土師器	B (9.2) E (8.0)	坏部欠損。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部下位１孔。	脚部外面縦位のナデ，内面上位縦位のナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色　やや不良	P167 30％
16	高坏 土師器	D 10.0 E 7.6	坏部欠損。脚部はラッパ状に広がる。	脚部外面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P168 30％
17	高坏 土師器	E (7.7)	坏部欠損。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラナデ，内面縦位のナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色　普通	P169 25％
18	甕 土師器	A [19.1] B (5.0)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部ヘラの圧痕。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　普通	P174 15％
第260図 19	甕 土師器	A [19.5] B (20.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 灰褐色　普通	P172 20％
20	甕 土師器	A 20.2 B 32.5 C 7.7	平底。体部は球形状で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P171 70％
21	甕 土師器	A 13.1 B (15.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 褐色　普通	P173　20％
第259図 22	坩 土師器	B (6.0) C 3.0	平底。体部は丸みをもった算盤玉状である。	体部内・外面ナデ，外面下端ヘラ削り。内・外面摩滅。	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	P170 30％
第260図 23	坩 土師器	A 14.0 B 16.3 C 6.5	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P5182 80％
24	坩 土師器	A [12.3] B 14.2 C 3.1	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 赤色 普通	P5183 70％
25	坩 土師器	B (6.6) C 3.6	平底。体部は算盤玉状である。	体部外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色　普通	P5184　60％

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第260図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.9	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。体部と口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P184 95％
2	器台 土師器	B (4.6)	脚部片。脚部はラッパ状に広がる。	脚部外面ハケ目整形後ナデ，内面ハケ目整形。内・外面赤彩。	砂粒・石英 赤色 普通	P181 10％
3	坩 土師器	B (6.8) C 3.4	平底。体部は球形状である。底部に径3cm程の穿孔。	体部外面横位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 良好	P182 60％ 貯蔵穴覆土
4	甕 土師器	B (19.7) C 5.0	やや凹んだ平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P183 50％

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第260図 1	甕 土師器	A [13.0] B (4.2)	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部外面横ナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P186 5％ 南側覆土
2	甕 土師器	A 15.7 B (11.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾する。折り返し口縁。	口縁部外面横ナデ，体部外面ナデ。口縁部及び体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英 淡赤橙色 普通	P185 40％ 二次焼成を受ける

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第260図 1	坏 須恵器	A 10.7 B 4.5 C 7.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，受部に至る。受部はほぼ水平に伸び，端部は尖る。立ち上がりは，内傾して立ち上がる。	立ち上がりから体部上端内・外面横ナデ。体部下端及び底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 良好	P195 95％
2	高坏 土師器	B (4.4) D [7.0] E 3.6	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P198 30％ 北西部覆土
3	高坏 土師器	D 10.7 E (6.2)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P197 45％
4	器台 土師器	D 10.6 E 4.6	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面斜位のナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P196 60％
5	坩 土師器	A 7.9 B 8.3 C [2.4]	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラナデ，外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P199 45％

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第261図 1	器台 土師器	A 5.9 B 6.9 D [9.7] E 4.6	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ナデ。脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P201 70％
2	器台 土師器	B (5.2)	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	内・外面摩滅。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P202 30％
3	壺 土師器	A [11.3] B 12.4 C 5.6 孔径 1.5	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。折り返し口縁。底部穿孔。	口縁部内・外面指頭による押圧痕。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P203 50％
4	甕 土師器	B (7.8) C [6.0] 孔径 [2.4]	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部穿孔。	体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P206 10％ 南側覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	台付甕 土師器	B (20.6) D 10.5	台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部及び脚部外面ナデ。脚部内面に強くヘラナデ痕が残る。内・外面輪積み痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P204 50%
6	台付甕 土師器	A 17.1 B (23.7)	台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部外面斜位のハケ目整形。口縁部外面上端ハケ目整形後ナデ，内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石・雲母・ｽｺﾘｱ 暗赤褐色 普通	P205 50%
7	台付甕 土師器	B (7.9) D 8.7 E 6.5	台部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面及び内面下端ハケ目整形，内面上端指頭によるナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P207 20%

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第261図 1	鉢 土師器	A 15.1 B 7.8 C 5.7	平底。中央部やや凹む。体部は内彎しながら立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面煤付着。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P208 70%
2	甕 土師器	A [17.2] B 23.1 C [5.5]	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面斜位のハケ目整形。口縁部内面ハケ目整形。体部外面煤付着。	砂粒・長石・石英・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P214 70%
3	甕 土師器	A [16.3] B 20.4 C 5.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形。体部外面煤付着。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 普通	P209 90%
4	甕 土師器	A [12.9] B 14.9 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。内面上端かるく凹む。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P210 90%
5	甕 土師器	A 13.2 B 12.8 C [5.2]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横位のハケ目整形。頸部内面ナデ体部外面斜位のハケ目整形。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P211 60%
6	甕 土師器	A 7.8 B 8.8 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面指ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P212 60%
7	甕 土師器	B (4.3) C 6.7 孔径 1.2	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部に中央からややずれて穿孔。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P213 5%
8	台付甕 土師器	B (7.3) D 6.5 E 3.5	台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部から台部外面及び台部内面ハケ目整形。体部内面ヘラナデ。体部から台部外面煤付着。	砂粒・長石・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい褐色 普通	P215 20%
9	台付甕 土師器	B (5.5) D [9.4] E 4.5	台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面ハケ目整形，内面上位ヘラナデ，下位横位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P216 10%
10	台付甕 土師器	B (5.8)	台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面斜位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P217 10%
11	ﾐﾆﾁｭｱ土器 土師器	A 6.8 B 5.9 C 4.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部外面指頭によるナデ，内面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 良好	P218 100%
12	ﾐﾆﾁｭｱ土器 土師器	A 4.7 B 5.2 C 2.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面指頭によるナデ。体部外面ナデ。体部外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P219 100%

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	壺 土師器	B (16.8) C 7.0	平底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P256 70％
2	甕 土師器	A 12.6 B 11.4 C 5.8	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位斜位のハケ目整形，下位ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P255 100％

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 土師器	A 14.3 B 5.3 C 3.2	丸底に近い平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 暗褐色 普通	P269 90％
2	坏 土師器	A 14.8 B 5.9 C 3.3	丸底に近い平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，下位に砥石痕。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P270 60％
3	坏 土師器	A [15.5] B 5.5 C 3.1	丸底に近い平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P271 40％ 北東部覆土
4	甕 土師器	B (14.1) C 7.8	平底。体部は球形状である。	体部外面ナデ，下端に指による圧痕内面ナデ，下端ヘラナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P272 70％

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	甕 土師器	A [10.6] B 17.7 C 4.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P278 70％
2	甕 土師器	A 17.1 B (12.9)	体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P280 80％
3	甕 土師器	B (12.4) C 4.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P279 40％
4	坩 土師器	A 10.7 B 19.3 C 3.9	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ，下位ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐色 良好	P277 90％
5	台付甕 土師器	B (5.1)	台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面縦位のハケ目整形，内面上位指頭によるナデ，下位横位のハケ目整形。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P281 20％ 覆土

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	高坏 土師器	B (9.1)	脚部片。脚部は棒状である。	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P282 20％ 確認面

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	高坏 土師器	B (9.0)	脚部片。脚部は棒状である。	脚部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。脚部外面刃傷痕。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P283 20%
2	器台 土師器	A 7.3 B (4.8)	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P284 60%
3	甕 土師器	B (8.9) C 7.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。底部焼成後穿孔。	体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P285 10%

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	甕 土師器	A 13.6 B (5.4)	口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面縦位のハケ目整形。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P290 10% 南部覆土
2	壺 土師器	A 15.7 B (7.8)	頸部は外反し，口縁部は外傾する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P289 10%

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	埦 土師器	A [15.0] B (6.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部も内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 橙色 普通	P300 30% 北東部覆土
2	埦 土師器	B (6.4) C [4.5]	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P304 20%
3	高坏 土師器	A 8.8 B (5.0)	脚部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P301 60%
4	器台 土師器	A 10.2 B 10.9 D 11.9 E 6.3	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央部の貫通孔は上から下にあけられている。	器受部内・外面及び脚部内・外面ハケ目整形。二次焼成を受けている。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P302 80%
5	坩 土師器	A 10.6 B 14.8 C 3.8	体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P303 90%
6	壺 土師器	A 12.5 B (15.8)	体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部上位外面ハケ目整形。体部下位外面ヘラ削り。口縁部内面横ナデ。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P305 50%
7	壺 土師器	A 19.6 B (6.0)	頸部は外傾し，口縁部は外反する。有段口縁。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P307 15%
第263図 8	壺 土師器	A [23.0] B (4.5)	口縁部は外反する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P308 5% 南東部覆土
9	壺 土師器	B (20.7)	体部は偏平な球形状で，口縁部は外反する。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位の櫛描による押圧整形後ボタン状貼付文が巡る。体部上位12本櫛歯による横走文，その下位に擦糸による押圧文が巡る。体部外面下位横位のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 良好	P306 30%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	壺 土師器	A 14.8 B [33.0] C 6.5	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面縦位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。体部外面斜位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 明褐色 普通	P312 30％
11	甕 土師器	A [15.4] B 24.2 C 4.6	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面斜位のハケ目整形，内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。外面煤付着。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P309 60％
12	甕 土師器	A 16.5 B 22.1 C 5.8	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石多 にぶい橙色 普通	P310 60％
13	甕 土師器	A 15.2 B 11.2	丸底。体部は球形状で，口縁部は外傾し，上位で外反する。	口縁部外面横ナデ，内面横位のハケ目整形。頸部から体部外面ハケ目整形。体部外面下位ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・ｽｺﾘｱ 明赤褐色 普通	P313 60％
第264図 14	甕 土師器	A 18.9 B 19.5 C 6.1	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ナデ。外面摩滅が著しい。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 やや不良	P311 70％
15	甕 土師器	A [11.8] B 13.5 C 5.9	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形。外面摩滅。口縁部内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P314 50％
第263図 16	台付甕 土師器	A [14.8] B 24.0 D 9.1 E 4.5	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のハケ目整形。体部外面及び内面上位斜・横位のハケ目整形。台部外面ハケ目整形後ヘラ削り，内面上位指ナデ，下位横位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P316 80％
17	台付甕 土師器	A 17.4 B 22.0 D 8.0 E 4.5	台部は「ハ」の字状に開く。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部及び体部及び台部外面斜位のハケ目整形。口縁部内面横位のハケ目整形。台部内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P315 80％
18	台付甕 土師器	B (10.3)	体部は算盤玉状である。	体部外面ハケ目整形，外面下位ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P318 40％
19	台付甕 土師器	B (23.1) D 10.0 E 6.1	台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部及び台部外面斜位や縦位のハケ目整形。台部内面横位のハケ目整形。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P317 30％

第73号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	高坏 土師器	A [13.9] B (5.1)	坏部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面ヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色　普通	P320　30％
2	高坏 土師器	B (2.3)	坏部下位周縁が突き出ている。	坏部下端ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　普通	P321　20％ 覆土
3	高坏 土師器	B (9.0)	脚部は円筒状である。	脚部外面にヘラ磨き，内面下位横位のハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P322　20％
4	壺 土師器	A [19.5] B (11.6)	口縁部は外傾して立ち上がる。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色　普通	P324　20％
5	甕 土師器	B (13.2) C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英 黄橙色　普通	P326　20％

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	坩 土師器	B (6.5) C 2.7	平底。体部は算盤玉状である。	体部外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　普通	P327　50％

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第264図 1	高坏 土師器	A 18.0 B (6.3)	坏部下端に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ，内面下位ヘラナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P331 40％
2	高坏 土師器	A 17.8 B (13.0)	脚部はラッパ状に開く。坏部下端に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き，内外ヘラナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P330 80％
3	壺 土師器	A 12.0 B (10.8)	体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P337 60％
4	甕 土師器	B (23.1) C 7.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。外面摩滅。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P335 75％
5	甕 土師器	A 18.5 B 27.2 C [6.7]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P334 75％
6	甕 土師器	B (11.2) C [7.1]	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P329 40％
7	甕 土師器	A 17.4 B (20.8)	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P336 40％

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	鉢 土師器	A 12.4 B 4.5 C 4.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P338 100％
2	粗製鉢 土師器	A 9.3 B 4.8 C 4.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で内彎する。	口縁部内・外面指頭によるナデ。体部外面ヘラ削り。手捏的。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P339 100％
3	鉢 土師器	A [10.7] B 3.7 C 3.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P340 50％
4	器台 土師器	A (9.4) B 9.6 D 10.4 E 6.5	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央の貫通孔は上から下にあけられている。	器受部外面ナデ，内面横ナデ。脚部外面にヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P342 90％
5	鉢 土師器	B (2.9) C 4.0	上げ底。体部は外反気味に立ち上がる。	体部外面縦位のハケ目整形。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P346 10％ 南部覆土
6	甕 土師器	A [15.2] B (20.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部外面斜位のハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。体部外面斜位から縦位のハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 赤褐色 不良	P345 20％
7	ミニチュア土器 土師器	A 5.3 B 4.6 C 3.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。口縁部内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P343 100％
8	ミニチュア土器 土師器	A [5.0] B 2.2 C 3.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内面指頭によるナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P344 60％ 北部覆土

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	高坏 土師器	A 16.1 B (5.2)	坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部は下位に稜をもつ。	坏部外面縦位のヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P349 30％
2	高坏 土師器	B (11.0) D 12.2	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面上位ヘラナデ，下位ハケ目整形後ヘラナデ。外面摩滅。	砂粒・雲母・スコリア多 橙色 普通	P351 50％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	碗 陶器	A [9.7] B (7.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でほぼ垂直に立ち上がる。	内・外面に鉄釉。	緻密 (胎土)灰白色 (釉)明黄褐色 良好	P368 20％ 北西部覆土
4	坩 土師器	A 11.6 B 7.1 C 2.9	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラナデ後横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P353 95％
5	坩 土師器	A 17.0 B (12.2)	口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ削り。口縁部内・外面上端横ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P354 40％
6	坩 土師器	B (8.4) C 3.9	平底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。外面煤付着。	砂粒・雲母 橙色 普通	P356 30％
7	坩 土師器	B (9.1) C 3.6	平底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ磨き。外面に籾痕。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P355 50％
8	壺 土師器	A 22.5 B (7.9)	口縁部は外傾し，上位で大きく外反する。有段口縁。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。頸部外面ハケ目整形。	砂粒・雲母・スコリア多 にぶい橙色 普通	P357 20％
第266図 9	壺 土師器	B (31.0) C 8.2	平底。体部は球形状で，口縁部で外反する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。外面摩滅。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P358 70％
第265図 10	甕 土師器	A 19.4 B 25.7 C 5.8	平底。体部は球形状で．口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ハケ目整形，下位ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P363 50％
11	甕 土師器	A [18.4] B 23.0 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・雲母 明褐色 普通	P364 40％
12	甕 土師器	A [17.7] B (8.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P367 15％
13	甕 土師器	A 16.3 B (15.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部下位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に指頭によるナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	20％ 不良
第266図 14	甕 土師器	A 18.6 B 26.2 C 6.8	中央部の凹む平底。体部は内彎しながらに立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石 橙色 普通	P360 80％
15	甕 土師器	A 16.7 B (24.6)	体部は球形状で，口縁部は外反する。折り返し口縁。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面ハケ目整形。口縁部内・外面及び体部外面上位赤彩。	砂粒・長石 橙色 普通	P362 50％
16	甕 土師器	B (20.2) C [6.0]	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形，下端ヘラ削り。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P365 20％
17	甕 土師器	A [18.8] B 23.8 C 6.6	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面上位ハケ目整形後ナデ，下位ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P361 60％
第265図 18	ミニチュア土器 (坩) 土師器	A 12.2 B 7.1	体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面縦位のハケ目整形，上位横ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面横位のヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P369 80％

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第266図 1	高坏 土師器	A 15.7 B (6.0)	坏部は下位に周縁が突き出ており，口縁部は外反して大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P371 50％
2	高坏 土師器	B (10.2) D 15.0	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部と裾部との境に段を有する。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P370 55％
3	高坏 土師器	B (9.5) E (4.9)	脚部は円筒状で，坏部は下位に稜をもち，内彎しながら立ち上がる。	脚部内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P372 50％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	高坏 土師器	B (5.4) D [17.1]	脚部はラッパ状で，裾部で開く。脚部4孔。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P373 20％
5	ミニチュア土器 土師器	A 3.3 B 5.6 C 3.8	座りの悪い平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口縁貼り付け。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 良好	P375 100％

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	高坏 土師器	A 26.6 B (6.4)	坏部は下位に稜をもち，外反して大きく開く。	坏口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P376 40％
2	高坏 土師器	A [19.4] B (6.4)	坏部は下位に弱い稜をもち，外反して大きく開く。	坏口縁部内・外面横ナデ，体部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P377 30％
3	高坏 土師器	A [20.4] B (6.0)	坏部は下位に二段に稜をもち，内彎しながら立ち上がり，上位で外反する。	坏口縁部内・外面横ナデ，体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P378 30％
4	高坏 土師器	B (10.1) D [14.4] E (8.7)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P379 20％ 貯蔵穴覆土
5	甕 土師器	A [8.6] B 8.8 C 4.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直角する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面指頭によるナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P382 50％ 貯蔵穴覆土
6	甕 土師器	A 20.9 B 13.1 C 4.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。外面に籾圧痕。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P383 95％

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	器台 土師器	A 8.0 B (3.2)	器受部は外傾して立ち上がる。	器受部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P388 20％ 南東部覆土
2	器台 土師器	A 8.3 B 7.9 D 9.1 E 4.1	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央の貫通孔は上から下にあけられている。	器受部外面ナデ，内面横ナデ。脚部内面ヘラナデ。	砂粒・石英 明赤褐色 普通	P387 50％ 南東部覆土

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	器台 土師器	B (6.3)	脚部はラッパ状に開く。脚部に6孔。	脚部外面縦位のヘラ削り。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P389 40％ 南西部覆土
2	ミニチュア土器 土師器	A 5.4 B 5.5 C 3.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内．外面指頭によるナデ。体部外面にハケ目整形。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P390 80％

第86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	埦 土師器	A [14.1] B 6.7	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。外面赤彩。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ磨き，内面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P391 50％ 覆土
2	台付甕 土師器	A 12.5 B 16.8 D 7.4 E 5.6	台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部及び台部外面ハケ目整形。口縁部内面横位のハケ目整形台部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P392 90％

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	器台 土師器	A [7.6] B 2.6	器受部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P395 30％ 南西部覆土

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	高坏 土師器	B (9.7)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部及び裾部外面ヘラ磨き，内面ナデ。裾部内面ハケ目整形。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	P397 30％ 覆土
2	壺 土師器	B (11.2) C 4.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。最大径を下位にもつ。	体部外面ナデ。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P399 30％
3	甕 土師器	A 11.4 B 13.5 C [4.5]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P400 70％
4	手捏土器 土師器	A 7.5 B 4.2 C 3.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部及び口縁部外面指頭による圧痕。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P402 95％

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	高坏 土師器	A [12.9] B (11.6) E (6.9)	脚部はラッパ状に大きく開く。坏部は下端に水平面をもち，そこから内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。脚部に6孔。	坏部外面ハケ目整形後磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，下位ハケ目整形。	砂粒・石英・雲母 明褐色 普通	P405 70％
2	ミニチュア土器 土師器	A 7.2 B 4.3 C 4.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P406 100％
3	手捏土器 土師器	A [2.7] B 2.1	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面指頭による圧痕。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色	P407 60％

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	埦 土師器	A 12.8 B 7.3	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でほぼ直角に立ち上がる。	口縁部内・外面指頭によるナデ後横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。外面に籾圧痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P411 70％
2	埦 土師器	A 13.2 B 6.6 C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でほぼ直角に立ち上がる。	口縁部内・外面指頭によるナデ後横ナデ。体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P410 90％.
3	甕 土師器	A [12.6] B 12.6 C 5.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P415 80％
4	甕 土師器	A 13.1 B 22.2	丸底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P414 40％

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	壺 土師器	A 20.7 B (8.8)	口縁部は外反して開く。口縁部下位に明瞭な僚を有する。	口縁部内・外面横ナデ。二次焼成を受ける。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P417 20%
2	壺 土師器	B (13.8)	体部は球形状である。		砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P418 20%
3	皿 土師質土器	A [8.6] B 2.2 C [4.6]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内外面横ナデ，横ナデ痕が明瞭。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P416 40% 北西部覆土

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	器台 土師器	B (6.3) D 11.2	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面横ナデ。	細砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P435 40%
2	器台 土師器	B (7.0) D 12.0	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。中央の貫通孔は上から下にあけられている。	脚部外面に縦位のヘラ磨き。	細砂粒 明赤褐色 普通	P434 40%
3	台付甕 土師器	D [9.1] E (6.1)	台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面縦位のハケ整形，内面上位ヘラナデ，下位横位のハケ目整形。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 不良	P436 15%
4	手捏土器 土師器	A 8.2 B 5.5 C [4.5]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面指による押さえ痕。体部外面削り。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 やや不良	P438 70%
5	手捏土器 土師器	A 8.3 B 5.7 C 4.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面指による押さえ痕。体部外面削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P437 100%
6	手捏土器 土師器	A 7.9 B 5.2 C 3.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面指による押さえ痕。体部外面削り。	砂粒・長石・スコリア 橙色 やや不良	P439 70%

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	坏 須恵器	A 14.7 B 4.2 C 8.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P477 95%
2	高坏 土師器	B (9.0) D 11.3 E 5.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎しながら立ち上がる。脚部3孔。	坏部外面縦位のヘラナデ，内面ヘラナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P480 30%
3	高台付坏 土師器	B (3.0) D 7.1 E 2.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P479 10%
4	器台 土師器	A 7.0 B (5.7)	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は皿状である。	器受部内・外面横ナデ。脚部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P481 20%
5	坩 土師器	A 11.4 B (6.3)	口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面ヘラ磨き，上位内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P483 20%
6	壺 土師器	B 10.1 C 4.2	平底。体部は球形状で，頸部に至る。	体部内・外面ナデ。二次焼成を受けている。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P484 60%

第121号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	坩 土師器	A [12.0] B (4.6)	体部は半球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ハケ目整形。	砂粒・長石 橙色 普通	P554 15% 南東部覆土

第122号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	器台 土師器	A 8.8 B 7.9 D 12.3 E 5.7	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。中央の貫通孔は上から下にあけられている。器受部は外傾しながら立ち上がる。	器受部から脚部にかけての外面ハケ目整形。脚部内面下端横位のハケ目整形。	砂粒・雲母 橙色 普通	P557 90%

第129号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	甕 土師器	A [17.4] B 20.7 C 6.5	平底。体部は球形状で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形，内面ナデ。体部外面摩滅。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P569 70%

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第268図 1	壺 土師器	A 12.8 B 25.1 C 5.1	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P571 70%
2	甕 土師器	A 15.5 B (8.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面斜位のハケ目整形後横ナデ，内面横位のハケ目整形後横ナデ。体部外面斜位のハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P572 20%
3	甕 土師器	A 14.9 B (11.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面斜位のハケ目整形後ヘラ磨き，内面横位のハケ目整形後ヘラ磨き。体部外面多方向のハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P5186 50%

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	椀 土師器	A (12.6) B (5.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P573 40%
2	高坏 土師器	A 15.7 B (8.2) E (3.3)	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面ヘラ磨き後横ナデ，内面横ナデ。脚部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P574 70%

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	ミニチュア土器 土師器	B (2.1) C 2.6	平底。体部はほぼ直立して立ち上がる。	体部外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P587 20% 覆土

第138号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	鉢 土師器	A 8.7 B 6.1 C 2.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ，内面横位ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P588 95%
2	高坏 土師器	B (8.9) D 11.3	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	脚部外面ヘラナデ，内面下位横位のハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P589 50%
3	甕 土師器	A [15.6] B (11.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部上端外面及び内面横ナデ。口縁部及び体部がハケ目整形。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P590 10%

第141号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	坩 土師器	A 10.5 B 4.2	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部上端外面及び内面横ナデ。口縁部外面ハケ目整形。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P609 95%

第143号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	高坏 土師器	A 9.6 B 6.2 D 6.4 E 3.2	脚部はラッパ状に開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	坏部内・外面ヘラ磨き。脚部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P611 85%
2	高坏 土師器	A 21.0 B (8.0)	坏体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のハケ目整形後縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P612 50%
3	高坏 土師器	B (6.1)	脚部はラッパ状に大きく開く。脚部3孔。	脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面上位ヘラナデ，下位横位のハケ目整形。	砂粒・細雲母 にぶい黄橙色 普通	P613 30%
4	器台 土師器	A [7.1] B 8.7 D 11.5 E 5.7	脚部はラッパ状に開く。器受部は外傾して立ち上がる。中央の貫通孔は上から下にあけられている。	器受部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ。脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面横位のハケ目整形。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P614 70%
5	器台 土師器	B (6.6) D 11.8	脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ハケ目整形，下端横ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P619 40%
6	器台 土師器	A 5.6 B 7.8 D [10.6]	脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外反する。中央の貫通孔は下から上にあけられている。粗製。	器受部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。脚部外面ハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P621 40%
7	器台 土師器	A 6.6 B (3.4) E (1.7)	器受部は外傾して立ち上がる。	器受部外面ハケ目整形後横ナデ，内面ナデ。脚部外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P616 30%
8	坩 土師器	A 10.6 B (6.1)	口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P622 30%
9	坩 土師器	B (5.8) C 3.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P623 40%
10	甕 土師器	A [13.7] B (10.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面ハケ目整形。体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P625 20%
11	甕 土師器	A 12.7 B (12.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。折り返し口縁。	口縁部外面ハケ目整形後ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P624 90%
12	台付甕 土師器	B (6.4) D 7.8 E 3.7	台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。台部外面ヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P627 30% 貯蔵穴覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 13	甕 土師器	B (3.1) C 4.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。底部穿孔。	体部外面ハケ目整形，下端指頭によるナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P628 10％ 南側覆土

第150号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	坏 土師器	A 10.5 B 3.0 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P639 70％ 覆土
2	甕 土師器	A 16.9 B 23.5 C 6.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部外面斜位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。体部外面横・斜位のハケ目整形。二次焼成をうける。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P634 80％
3	甕 土師器	B (17.2)	体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P636 40％
4	ミニチュア土器 土師器	B (3.0) C 2.0	すわりのわるい平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	体部外面ナデ。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P638 90％ 貯蔵穴覆土

第154号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	壺 土師器	A [20.2] B (6.3)	口縁部は外反して，大きく開く。口縁部下端に稜をもつ。	口縁部外面縦位のヘラ磨き後横ナデ，内面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	P653　20％

第168号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	高坏 土師器	A 18.1 B 13.5 D 12.5 E 8.0	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部1孔。坏部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。裾部内面ハケ目整形。	砂粒・雲母 赤褐色 良好	P676 95％
2	高坏 土師器	D 11.8 E (7.1)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部1孔。	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母 橙色　普通	P680 25％
3	高坏 土師器	A 17.9 B 15.8 D 14.0 E 9.9	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に稜をもち，外傾して立り上がる。	坏部内・外面ヘラ磨き。脚部から裾部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 赤褐色 良好	P677 90％
4	高坏 土師器	A [19.9] B 12.9 D [12.3] E 8.1	脚部はラッパ状に開く。坏部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P679 50％
5	高坏 土師器	A 18.2 B (7.9)	坏部は下位に稜をもち，外傾して立り上がる。	坏部内・外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリア 明赤褐色　普通	P678　50％
6	坩 土師器	A 8.6 B 9.5 C 2.8	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。頸部内面指ナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P681 90％
7	坩 土師器	A 8.6 B 9.5 C 2.8	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P682 90％
8	坩 土師器	B (6.2) C 3.6	平底。体部は球形状である。	体部外面ナデ，内面下端指ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色　普通	P683 70％
9	甕 土師器	A 20.7 B 30.1 C 7.2	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面ハケ目整形。体部外面下位ヘラ削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P684 70％
10	甕 土師器	A 11.4 B (6.6)	体部は球形状で，口縁部はほぼ直立して立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・雲母 赤褐色　普通	P688 20％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 11	甕 土師器	A 17.2 B (24.7)	体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部中位までの折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P685 50％

第207号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	椀 土師器	A 10.3 B 7.0 C 4.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P770 80％
2	器台 土師器	B (6.2) D [11.2] E 5.5	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。	脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P769 40％
3	坩 土師器	B (6.6) C 3.8	平底。体部は球形状である。	体部外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P771 50％
4	甕 土師器	B (5.1) C [5.2]	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部穿孔。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P774 10％ 南西部覆土
5	甕 土師器	A 19.0 B 20.0 C 5.7	平底。体部は球形状で，口縁部で外反する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P772 60％
6	台付甕 土師器	B (11.2)	体部は球形状である。	体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・雲母 暗褐色 普通	P773 40％

第213号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	甕 土師器	A 12.2 B 12.0 C 4.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形，口縁部内面横位のハケ目整形。体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P788 100％

第225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	高坏 土師器	A 16.0 B 14.6 D 14.3 E 10.0	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面ヘラ磨き。脚部及び裾部外面ヘラ磨き，裾部内外面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P808 70％
2	器台 土師器	A [7.3] B 5.7 D 7.7 E 4.3	脚部はラッパ状に開く。器受部は内彎しながらに立ち上がり，上位で外傾する。中央の貫通孔は上から下にあけられている。脚部3孔。	器受部は内・外面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内外面横位のハケ目整形。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	P809 75％ P_2覆土
3	坩 土師器	B (7.9)	体部は球形状である。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P810 40％
4	壺 土師器	A [12.0] B 17.3 C 4.8	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，口縁部内面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P812 80％
5	甕 土師器	A [20.9] B 28.0 C 7.0	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部及び頸部外面ハケ目整形，内面ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P813 70％

第230号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	台付甕 土師器	B (6.7) D 10.1 E 6.0	台部は「ハ」の字状に開く。	台部，外面摩滅，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P832 30%

第243号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	器台 土師器	B (8.0) D 12.3 E 6.8	脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面上位横位のヘラ削り，下位ハケ目整形。中央の貫通孔は上から下にあけられている。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P856 50%
2	甕 土師器	A [15.2] B (10.0)	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ハケ目。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P857 40% 南東部覆土

第245号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	壺 土師器	B (9.4) C 5.0	平底。体部は球形状である。	体部外面横位のヘラ磨き，下端ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P860 50%

第249号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	坏 土師器	A 13.9 B 2.8 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P864 60% 北東部覆土
2	鉢 土師器	A 15.8 B 9.4 C 9.2	粗製の鉢。丸みをもった平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P865 100%

第268号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	埦 土師器	A 12.1 B 6.3 C 4.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でも内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。内面摩滅。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P902 80%
2	高坏 土師器	A 16.0 B 12.5 D 12.6 E 7.5	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。脚部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P903 95%
3	壺 土師器	A 8.3 B 10.7 C 3.4	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外反する。体部は中央部に外から内に焼成後に穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P904 90%
第272図 4	甕 土師器	A 14.6 B 27.3 C 7.6	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P905 90% 覆土

第279B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	高坏 土師器	A [18.3] B (6.6)	坏部片。坏部下位に稜を持ち，外傾して立ち上がる。	坏部外面幅広のヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P946 40％
2	高坏 土師器	B (9.9) E (8.7)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部はヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P947 40％
3	高坏 土師器	B (7.8) D 16.5	脚部片。脚部はラッパ状で，裾部で大きく開く。	脚部内・外面縦位のヘラナデ。裾部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P948 30％
4	坩 土師器	A 9.6 B 9.2 C 3.4	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端でわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部が下端ヘラ削り，内面ヘラナデ。内面赤彩。体部外面下端に籾痕あり。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P951 90％
5	坩 土師器	A 8.4 B 8.2	体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端でわずかに内彎する。	口縁部外面ヘラ磨き後横ナデ，内面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 明赤褐色 良好	P950 95％
6	坩 土師器	A [9.5] B 9.7	体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端でわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 良好	P952 80％
7	坩 土師器	A 7.8 B 6.3	体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端でわずかに内彎する。	口縁部外面横ナデ後ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 良好	P953 90％

第280号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	高台付坏 土師器	A [15.1] B 6.1 D 6.8 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部大きく体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P954 70％ 覆土（流れ込み） 体部外面ヘラ記号「メ」
2	高坏 土師器	B (5.3) D 11.8 E 4.3	脚部片。脚部はラッパ状に大きく開く。脚部３孔。	脚部外面ヘラ磨き，ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 良好	P955 40％
3	坩 土師器	A [9.4] B 13.0 C [4.4]	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 良好	P958 45％
4	甕 土師器	A 9.0 B 12.8 C 7.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直立して立ち上がる。	口縁部外面横ナデ，内面指ナデ後横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。体部外面下端指ナデ。	砂粒・雲母 橙色 良好	P959 100％

第286号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	高坏 土師器	B (7.6)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面ヘラ削りヘラ磨き，内面指ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P974 30％
2	高坏 土師器	A [18.0] B (6.0)	坏部片。坏部は下位に明瞭な稜を持ち，外傾して立ち上がる。	坏部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P972 30％
3	壺 土師器	A 13.8 B (14.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。折り返し口縁。	口縁部外面ヘラ削り後横ナデ，内面ヘラナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P975 30％
4	甕 土師器	A 18.5 B (5.8)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P976 10％ 覆土

第289号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	高坏 土師器	A [14.6] B (5.5)	坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 良好	P988 20％ 覆土
2	器台 土師器	B (6.8) D 9.7 E 6.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ磨き，内面横位のハケ目整形。	砂粒 橙色 普通	P990 30％
3	ミニチュア土器 土師器	B (5.5) D 5.0 E 3.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎しながら立ち上がる。	外面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P989 60％

第293号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	手捏土器 土師器	A 5.7 B 3.2 C 4.1	平底。体部はほぼ直立して立ち上がる。	体部外面指ナデ，内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P991 95％

第294号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	鉢 土師器	A [20.6] B (8.0)	体部は外傾して立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部外面ハケ目整形。口縁部及び体部内面ハケ目整形。体部外面ヘラナデ。	長石・雲母 赤褐色 普通	P992 10％
2	器台 土師器	B (6.8) D [10.8] E 6.3	脚部片。脚部はラッパ状に開く。中央に穿孔。	脚部内・外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P994 10％ 覆土
3	壺 土師器	B (5.1) C 4.6 孔径 1.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部穿孔。	体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P993 10％
4	台付甕 土師器	B (6.5) D [11.0] E 6.0	台部片。台部はラッパ状に開く。	台部内・外面ハケ目整形。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P996 20％
5	台付甕 土師器	B (4.9) D 7.0 E 4.0	台部片。台部はラッパ状に開く。	台部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P998 10％
6	台付甕 土師器	B (4.8) D 8.2 E 4.4	台部片。台部はラッパ状に開く。	台部内・外面ハケ目整形。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P997 30％

第296号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	高坏 土師器	B (11.5) D 12.6 E 7.6	脚部はラッパ状に開く。坏部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P5033 60％
2	甕 土師器	A 21.2 B (15.5)	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P5034 30％
3	台付甕 土師器	B (7.3) D 10.5 E 5.3	台部片。台部はラッパ状に開く。	台部外面ヘラ磨き，内面横ナデ後ヘラ磨き。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 良好	P5035 30％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 4	台付甕 土師器	B (6.3) D 10.6 E 4.8	台部片。台部はラッパ状に開く。	台部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P5036 30％
5	脚付甕 土師器	A [6.0] B 10.0 D 10.2 E 5.0	脚部はラッパ状に大きく開く。甕体部は内彎しながら立ち上がり，甕口縁部は外反する。	甕口縁部内・外面横ナデ，体部外面ハケ目整形。脚部内・外面ハケ目整形。	雲母 黒褐色 良好	P5037 70％

第298号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	高坏 土師器	B (7.1) D 12.8	脚部片。脚部は円筒状で，裾部て水平近くに開く。	脚部外面ヘラ磨き，指ナデ。裾部外面籾痕あり。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P999 50％
2	高坏 土師器	B (8.8) D [11.8] E 7.2	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で水平近くに開く。裾端部に弱い稜をもつ。	脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P5049 40％
3	坩 土師器	B (6.0) C 2.0	体部は算盤玉状である。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P5000 55％
4	甕 土師器	A 13.0 B 12.3 C 3.8	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P5001 55％

B地区

第3号住居跡（第274図）

位置　調査B区の東側のC6c4区を中心に確認されている。本跡は第3号墳の墳丘下から確認され，南西部は削平され，なだらかに傾斜して不明である。

重複関係　第3号墳の墳丘下から確認されているので，第3号墳よりも古いと考えられる。

規模と平面形　長軸3.2m，短軸（1.97）mで，方形あるいは長方形と考えられる。

主軸方向　N－41°－W。

壁　壁高30～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認できなかった。

床　ローム質で，平坦である。

ピット　確認できなかった。

竈　北西壁中央部に付設されていたと考えられ，この部分が焼土化している。袖部はすでになく，規模・構造共はっきりしないが，長軸70cm程であり，壁外への掘り込みはほとんど見られない。

貯蔵穴　東コーナーに確認されている。平面形は，長径98cm，短径78cmの楕円形で，深さ40cmである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　ほぼ2層からなり，1層は褐色土で，砂質粘土の小ブロックが多く，2層は黄褐色土で，砂質粘土の小ブロックは上層に比べ少ない。両層とも粘性・しまりともにつよい。

遺物　床面及び覆土中・下層から土師器片等が出土している。竈内から第274図1の埦と甕片が重なるように出土している。竈の東側床面直上で2の埦と6の埦がそれぞれ正位の状態で出土している。貯蔵穴覆土上層から3の埦と9の甑が出土している。貯蔵穴付近から4の埦が正位の状態で，5の埦が逆位の状態で出土している。

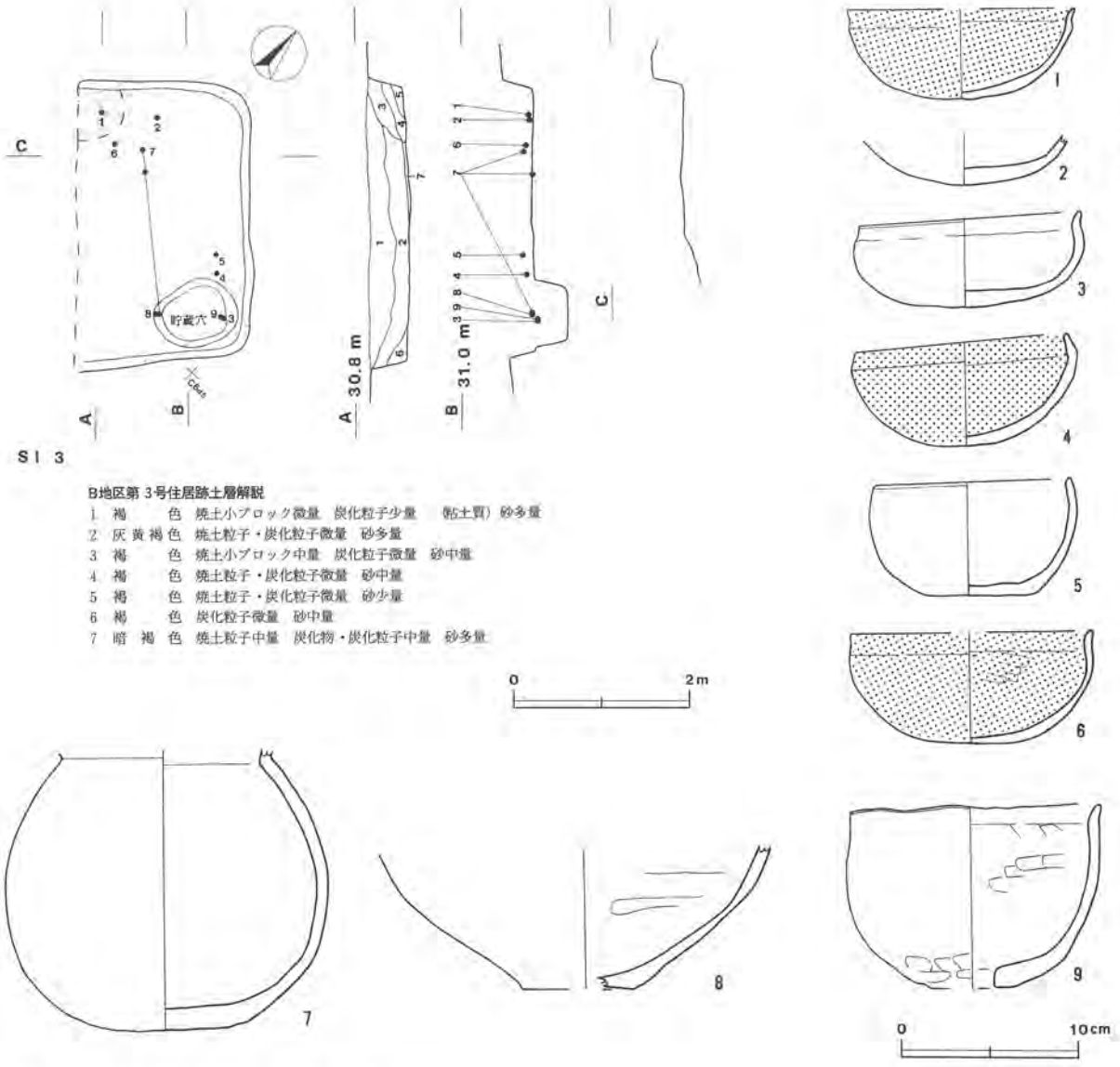
所見　本跡は古墳時代後期の住居跡である。

表6　古墳時代B地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口					
3	C6c4	N－41°－W	方形か長方形	3.2 ×(1.97)	30～35	平坦			東コーナー			竈	自然	土師器（坏・埦・甕・甑）	後期　本跡→TM3	第274図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第274図1	埦 土師器	A［12.8］ B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤色　普通	P4014　50％
2	埦 土師器	B（2.9）	丸底。底・体部は内彎しながら立ちがる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P4015　20％
3	埦 土師器	A 12.5 B 5.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 やや不良	P4013 90％
4	埦 土師器	A 12.0 B 6.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・長石・雲母 黄橙色　普通	P4016　100％
5	埦 土師器	A 11.0 B 6.6 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面摩滅。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4017 100％



B地区第3号住居跡土層解説

1 褐　　色 焼土小ブロック微量 炭化粒子少量 (粘土質) 砂多量
2 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 砂多量
3 褐　　色 焼土小ブロック中量 炭化粒子微量 砂中量
4 褐　　色 焼土粒子・炭化粒子微量 砂中量
5 褐　　色 焼土粒子・炭化粒子微量 砂少量
6 褐　　色 炭化粒子微量 砂中量
7 暗 褐 色 焼土粒子中量 炭化物・炭化粒子中量 砂多量

第274図　第3号住居跡，出土遺物

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第274図 6	埦 土師器	A [13.5] B 6.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P4018 60%
7	甕 土師器	B (15.7) C 7.2	平底。体部は球形状である。	体部外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4020 70%
8	甕 土師器	B (7.8) C [6.3]	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。外面摩滅。	砂粒・長石・雲母 橙色 やや不良	P4021 30%
9	甑 土師器	A 14.2 B 10.4 孔径 3.2	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端指ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4022 100%

C地区

第5号住居跡（第275図）

位置　調査C区の中央部のF8j$_8$区を中心に確認されている。本跡の東側は削平されていて不明である。

重複関係　本跡の西側の覆土の上に貼って，第4号住居跡の床面が構築してある。

規模と平面形　長軸5.09m，短軸［3.73］mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－22°－W。

壁　東側壁は削平されていて，確認できなかった。その他の壁は壁高12～19cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　南壁のみ確認されている。上幅26～43cm，深さ6cmで，皿状をしている。

床　平坦。中央部はきわめて硬く幾分凹凸している。

ピット　16か所。P$_1$～P$_4$は，径40～53cmの円形で，深さ65cm程である。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は，長径67cm，短径34cmの楕円形で，深さ48cmである。配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P$_6$～P$_{16}$は，径30～46cm程の円形・楕円形で，深さ10～30cm程である。性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に5cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に削平されている。規模は長さ78cm，幅54cmであると考えられる。

貯蔵穴　確認されなかった。

覆土　4層からなる。1・2層はローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだしまりのつよい暗褐色土である。3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。4層はローム粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土である。

遺物　北西部と南西部床面及び覆土から土師器片が出土している。南西部床面から裏返しになった第276図5の甕が一括して，中央部西寄りから1の坏が直立して出土している。北西部から2の坏，7の支脚が出土している。

所見　本跡は第4号住居跡より古く，古墳時代後期（7世紀代）の住居跡である。

第6号住居跡（第277図）

位置　調査C区の中央部東側のF8j$_0$区に確認されている。東側は削平されていて不明である。

重複関係　北西部は第7号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［6.70］m，短軸［2.37］mで，長方形と考えられる。

主軸方向　N－30°－W。

壁　壁高16cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　南コーナーから南西側だけ確認できた。上幅18～32cm，深さ13cm程で，断面形は皿状をしている。

床　平坦。床面は砂質粘土をたたきしめていて，きわめて硬い。

ピット　6か所。P$_1$～P$_6$は，径18～50cm程の円形・楕円形で，深さ17～54cmである。規模と配列から主柱穴とは考えづらく，性格は不明である。

竈　北西壁中央部に火床と思われる焼土が確認できたので，ここに付設されていたと考えられる。

貯蔵穴　確認できなかった。

覆土　2層からなる。1層は炭化粒子を中量含んだ黒褐色土で，2層はローム粒子を中量含んだ褐色土で，共に粘性のつよい土層である。

遺物　床面と覆土中・下層から土師器片が出土している。中央部床面から第277図1・2・3の坏3枚が正位の

状態で，西コーナーの覆土下層から4の坏と7の甕が出土している。

所見　本跡は第7号住居跡より新しく，古墳時代後期（6～7世紀にかけて）の住居跡である。

表7　古墳時代C地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口					
2	F8h2	N－90°－E	［長方形］	[4.70]×(2.96)	7	平坦			南西	4			人為	土師器（坩）	前期	第275図
5	F8j8	N－22°－W	長方形	5.09×[3.73]	12～19	平坦	南	4		14	ピット	竈	自然	土師器（坏・鉢・高坏・甕），須恵器片，縄文式土器片，土玉，支脚	後期	第275図
6	F8j0	N－30°－W	［長方形］	[6.70]×[2.37]	16	平坦	西			7		［竈］	自然	土師器（坏・甕），須恵器片，縄文式土器片，瓦	後期	第276図
7	F8i9	N－73°－E	［長方形］	[5.57]×(3.32)	17	平坦	南		南西	4			自然	土師器（坏・甑・壺・甕・甑），縄文式土器片，瓦	中期	第276図
8	F8i9	N－30°－W	［長方形］	(3.70)×(3.45)	36	平坦	南			4			自然	土師器（坏・高坏），須恵器片，縄文式土器片，石鏃，瓦	後期	第275図

第2号住居跡出土遺物観察表

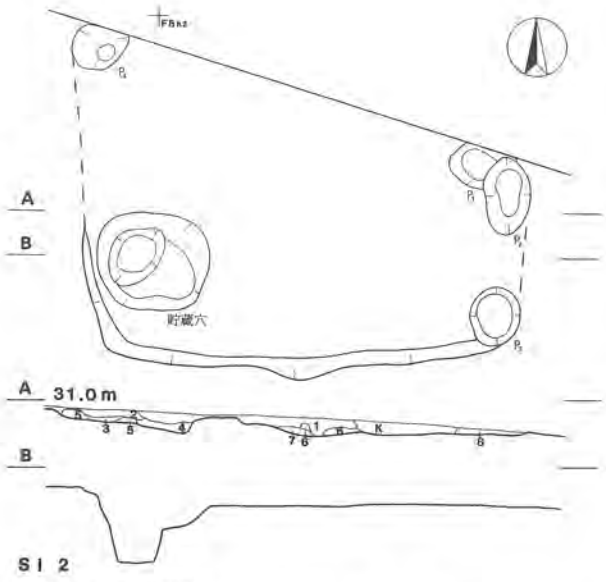
図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第276図 1	坩 土師器	A　4.8 B　6.0 C　3.0	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端で内彎する。	口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 にぶい赤褐色 普通	P4025 100％ 貯蔵穴内

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第276図 1	坏 土師器	A　11.9 B　4.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリア 浅黄橙色　普通	P4055　95％
2	坏 土師器	A [13.8] B　4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色　良好	P4056　70％ 覆土
3	坏 土師器	A [12.0] B　4.0	丸底・底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 明褐色　普通	P4057　40％ P2覆土
4	高坏 土師器	A [12.4] B（4.7） E（1.4）	坏部片。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4060 25％ 覆土
5	甕 土師器	A [14.2] B (27.3)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色　普通	P4061　40％ 覆土

第6号住居跡出土遺物観察表

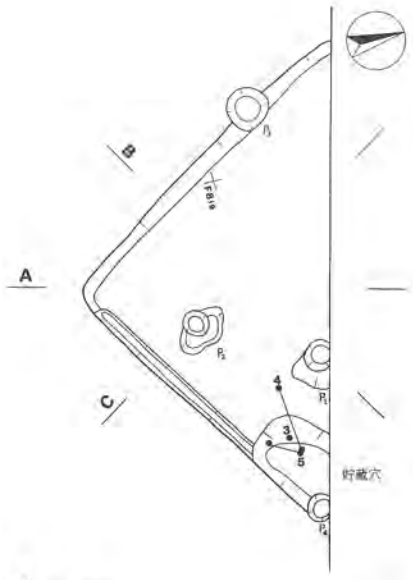
図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A　12.8 B　4.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	長石 にぶい黄橙色 普通	P4064 100％
2	坏 土師器	A　12.4 B　4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 にぶい黄橙色 普通	P4065 95％
3	坏 土師器	A　12.1 B　5.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4066 100％
4	坏 土師器	A　13.2 B　4.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4067 60％
5	坏 土師器	A [11.2] B（3.2）	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色　普通	P4068　10％ 北側覆土



SI 2

C地区第 2号住居跡土層解説

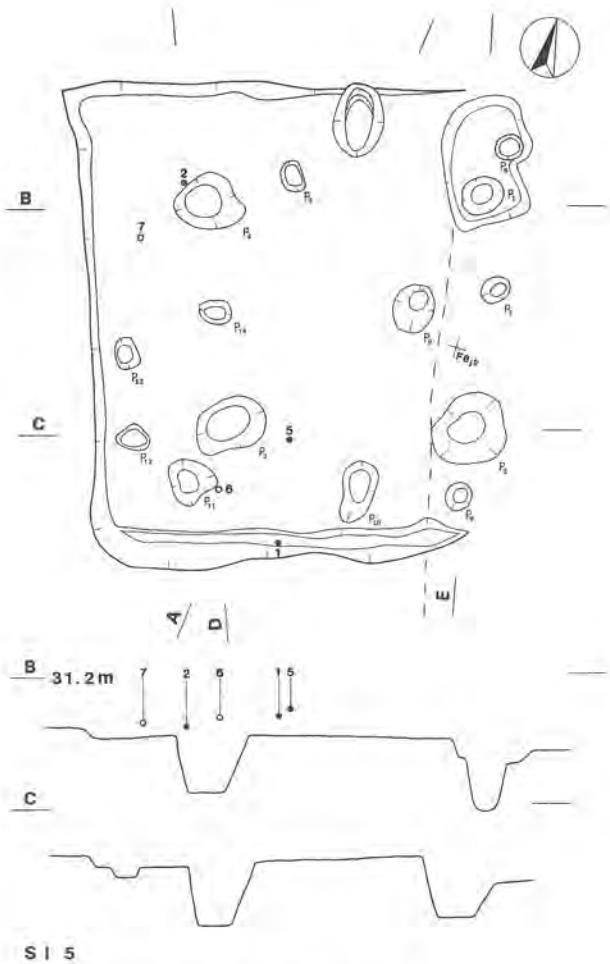
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 ローム小ブロック微量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量
6 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量



SI 8

C地区第 8号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子微量
炭化粒子少量
粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量
炭化粒子微量



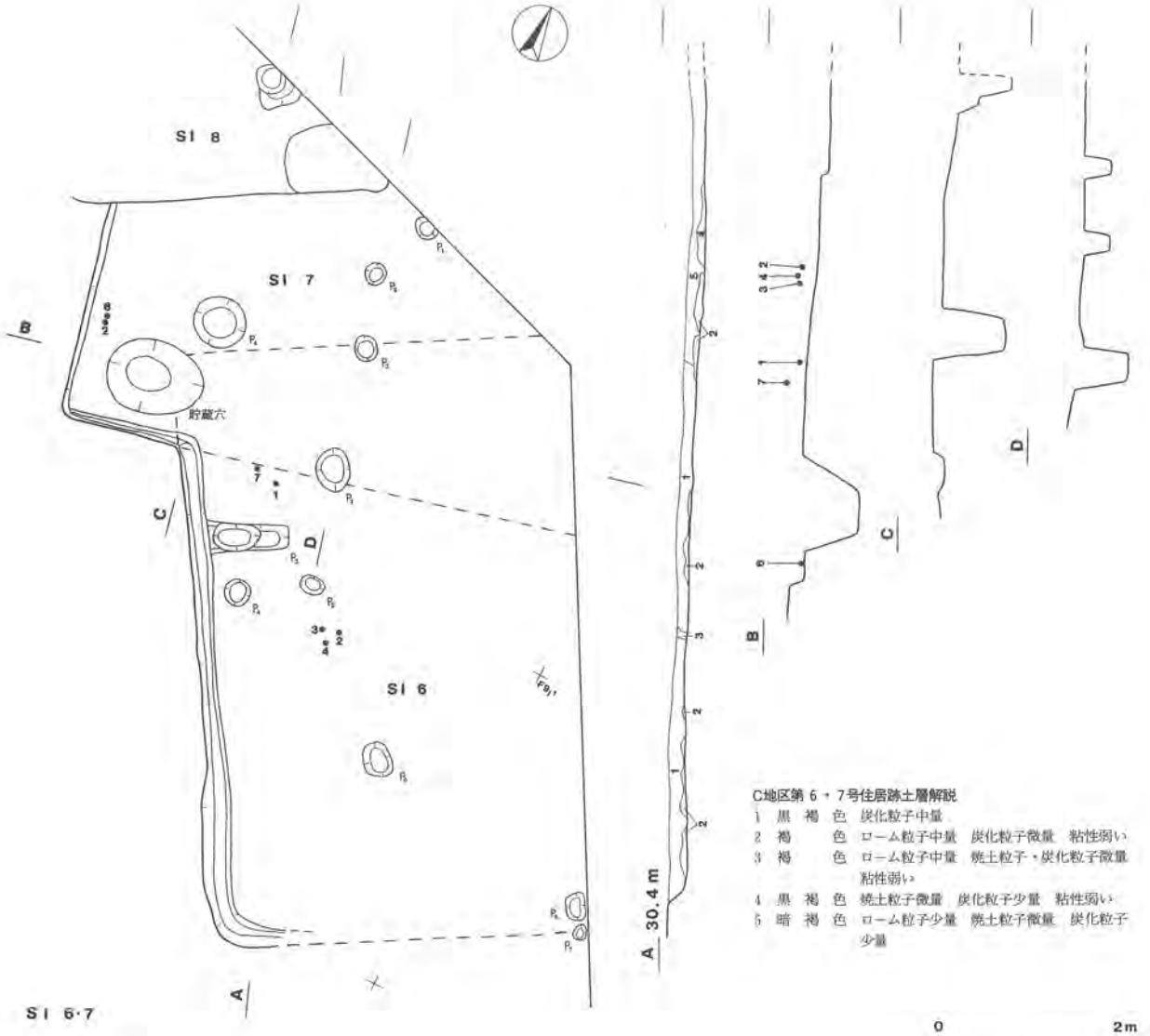
SI 5

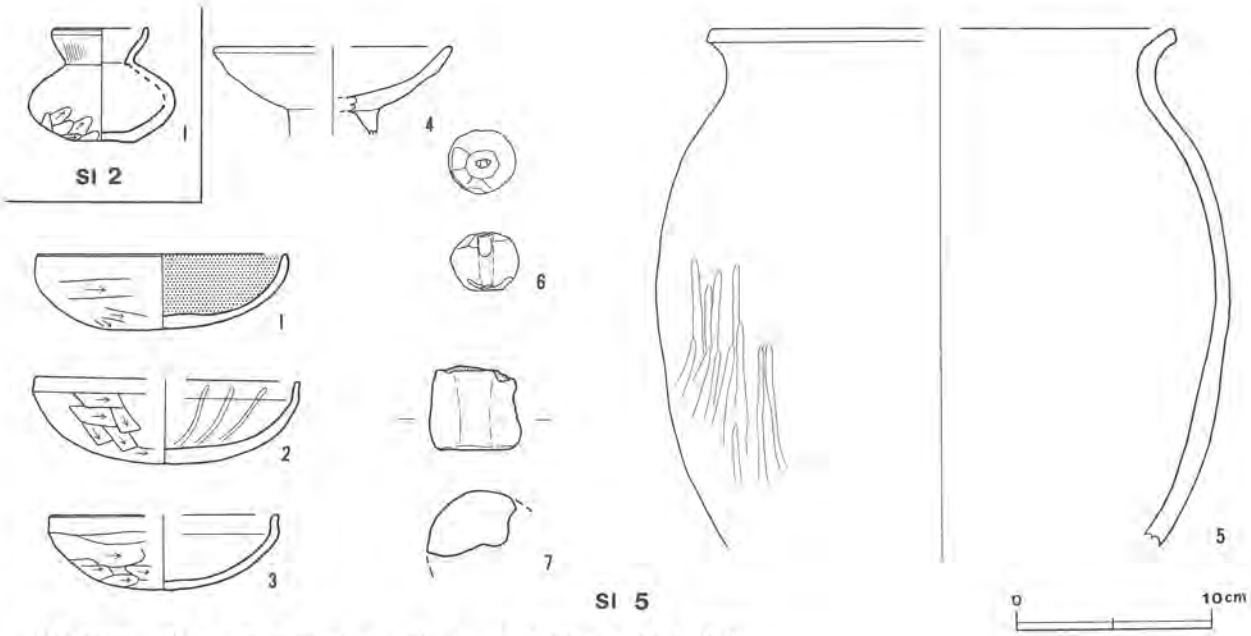
C地区第 5号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
焼土小ブロック微量 炭化物・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 焼土小ブロック微量 炭化物微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 焼土小ブロック微量 炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量

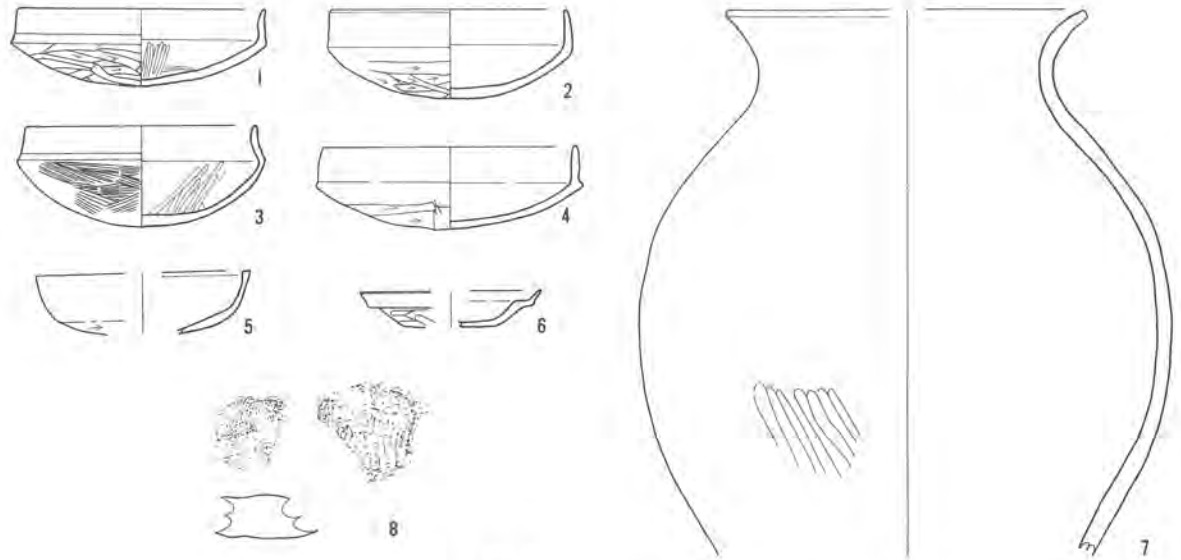
0 2m

第275図 第 2・5・8 号住居跡

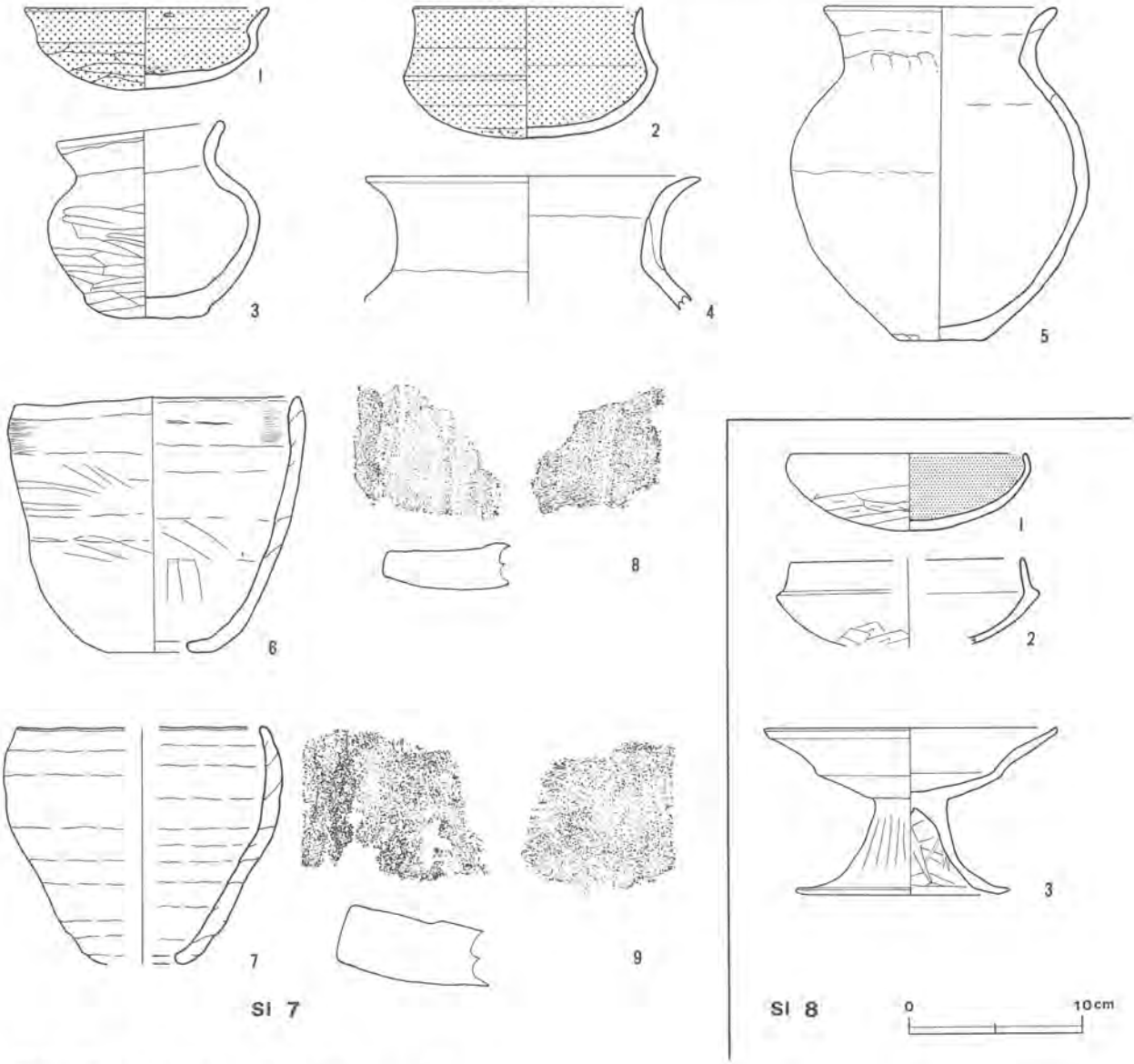




第276図　第6・7号住居跡，第2・5号住居跡出土遺物



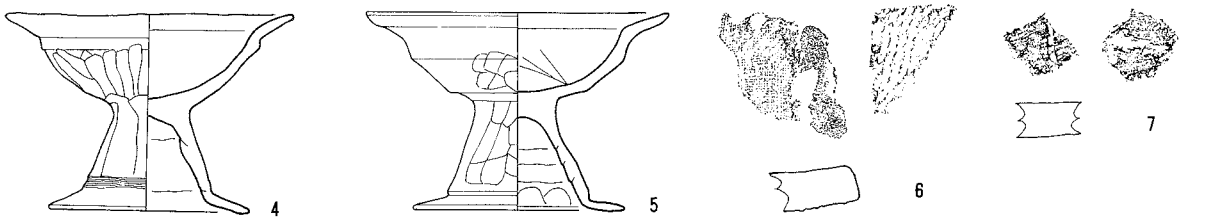
SI 6



SI 7

SI 8

第277図　第6・7・8号住居跡出土遺物



第278図　第8号住居跡出土遺物

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 6	坩 土師器	A [9.4] B 1.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は段をもち，外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4069 10% 覆土
7	甕 土師器	A [18.6] B (28.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4071 30% 覆土

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面に籾痕有り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P4072 80% 覆土
2	埦 土師器	A 13.1 B 7.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は長く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P4074 90%
3	壺 土師器	A 9.6 B 11.1 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P4076 100%
4	甕 土師器	A 13.5 B 19.2 C 4.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，下端ヘラ削り。	礫・砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P4077 80%
5	甕 土師器	A 19.0 B (7.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4078 20% P_1覆土
6	甑 土師器	A 16.4 B 14.8 C 5.0 孔径 2.7	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。輪積み痕明瞭に残る。	石英・長石・スコリア 明褐色 普通	P4079 90%
7	甑 土師器	A [14.1] B 13.8 孔径[4.2]	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面指ナデ，内面横位のナデ。輪積み痕明瞭に残る。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色 やや不良	P4080 30% P_1覆土

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P4081 100%
2	坏 土師器	A [13.4] B (4.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部のと境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4082 40% 覆土
3	高坏 土師器	A 16.7 B 14.6 D 12.4 E 5.5	脚部はラッパ状で，裾部で大きく開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。脚部内・外面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4084 80%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第278図 4	高坏 土師器	A 15.1 B 10.6 D 10.5 E 5.6	脚部はラッパ状で，裾部で大きく開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。脚部外面ヘラ削り後ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 良好	P4083 90％
5	高坏 土師器	A 15.5 B 10.4 D 11.0 E 5.8	脚部はラッパ状で，裾部で大きく開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。脚部外面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4085 70％

D地区

第3号住居跡（第279図）

位置　調査D区の南東部のJ12h$_5$区を中心に確認されている。東側は調査エリア外に延びている。

重複関係　北西部は第4B号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.80m，短軸（4.95）mで，方形と考えられる。

主軸方向　N－32°－W。

壁　壁高54cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　西コーナーのみ確認されている。上幅14cm，深さ5cmで，皿状をしている。

床　平坦。床面から部分的に焼土と炭化物が確認されている。この焼土は，床面が焼けたと感じる程度のもので，炉とは考えられない。

ピット　確認できなかった。

炉　確認できなかった。

貯蔵穴　南東壁際中央部に確認されている。平面形は長径105cm，短径80cmの楕円形で，深さ43cmである。覆土は3層からなる。1層はローム粒子を中量，炭化粒子と焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子と炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を少量，砂を極めて多量に含んだ褐色土で，すべての層共しまりが強い。

覆土　7層からなる。1層はローム粒子を中量，炭化粒子と焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子と炭化粒子と焼土粒子を少量含んだ黒褐色土，3～6層はローム粒子を少量から中量，炭化粒子と焼土粒子を微量から少量含んだ暗褐色土，7層はローム粒子と炭化粒子と焼土粒子を少量，焼土小ブロックを多量に含んだ暗赤褐色土である。2・4層から遺物が多く出土している。この覆土の上に第4B号住居跡の土層が流れるように堆積している。

遺物　中央部の覆土中層から床面にかけて土師器が多量に出土している。特に坏類が多い。第282図3・4・5・6・7・9・13・16の坏等で，しかも完形あるいは完形に近いものである。中央部床面から20の壺，21の甕が出土している。北西部からは11・12の坏，17の高坏が出土している。貯蔵穴覆土最上層から22の土鈴が出土している。

所見　床面から焼土と炭化物が確認されること，覆土中から炭化粒子・焼土粒子が見られることから焼失家屋と考えられる。第4B号住居跡よりは古いが，古墳時代後期の住居跡である。

第4A号住居跡（第280図）

位置　調査D区の南東部のJ12g4区を中心に確認されている。東側は調査エリア外に延びている。北西壁中央部は撹乱を受けている。

重複関係　南部は第4B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［4.60］m，短軸（1.97）mの方形と考えられる。

主軸方向　N－43°－W。

壁　壁高60cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。南側床面と北西壁際から中央よりに焼土が確認されている。

ピット　2か所。P1・P2は径26～34cmの楕円形で，深さ25～26cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

竈　北西壁中央部にあったものと推定され，長径66cm，短径40cmの楕円形状の焼土の範囲が確認されている。しかし，この先の部分は後世の撹乱を受けているので，不明である。

貯蔵穴　確認できなかった。

覆土　4層からなる。1・2・4層はローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土である。3層はローム粒子と粘土質の砂を中量，炭化粒子・焼土粒子を含んだ暗褐色土である。4層ともすべてしまりが強い。

遺物　中央部から南側を中心にして，土師器が多量に出土している。特に坏類が多い。北側床面直上で第283図3の坏が正位の状態で，中央部床面直上で20・22・23の高坏が，南側から19・21の高坏がそれぞれ斜位の状態で，18の鉢がつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は第4B号住居跡よりは新しく，古墳時代後期の住居跡と考えられる。

第4B号住居跡（第280図）

位置　調査D区の南東部のJ12g5区を中心に確認されている。東側は調査エリア外に延びている。

重複関係　北部は第4A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.68m，短軸5.49mの方形である。

主軸方向　N－48°－E。

壁　壁高43～63cmで，垂直に立ち上がっている。北西から南西にかけての壁上半は真っ赤に焼けているが，下半はあまり焼けていない。

壁溝　南東壁南側から南西壁・北西壁西側から確認されている。上幅12～22cm，深さ4cmで，皿状をしている。

床　平坦であるが，あまり硬化していない。中央部やや東側から西側床面全体にかけて焼土・炭化材・炭化物が確認されている。P1から北東壁にかけて，上幅16cm，深さ18cmで，U字型をした溝が確認されている。P3から南西壁にかけて，上幅18cm，深さ5cmで，皿状をした溝が確認されている。

ピット　4か所。P1～P3は径20～25cmで円形で，深さ20～85cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。南東部からは確認できなかった。P4は径18cmの円形で，深さ10cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　確認できなかった。

貯蔵穴　確認できなかった。

覆土　9層からなる。すべて暗褐色土である。4層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物を少量含み，この層を中心に多量の遺物が出土している。この下層の5層からはローム粒子・焼土粒子・

炭化粒子を少量，砂質粘土を極めて多量に含んでいる。

遺物　中央部やや東側から西側にかけての焼土・炭化材・炭化物の確認された同じ範囲から大部分が出土しているが，そのほかからはほとんど出土していない。出土状況は，床面直上で出土する物は少なく，覆土中層から極めて多量の遺物が出土している。西コーナー覆土中から第286図28の坩，30・31の壺，第285図37の甑が出土している。南西壁際からは第284図３・５の坏，35・第285図36の甑，39の置きカマドはつぶれた状態で出土している。南東壁際中央部床面から29の壺，第284図１・２の坏が出土している。１・２の坏は重なって，底部には網代状の炭化物が付着している。中央部床面からは38の甑が横位の状態で出土している。

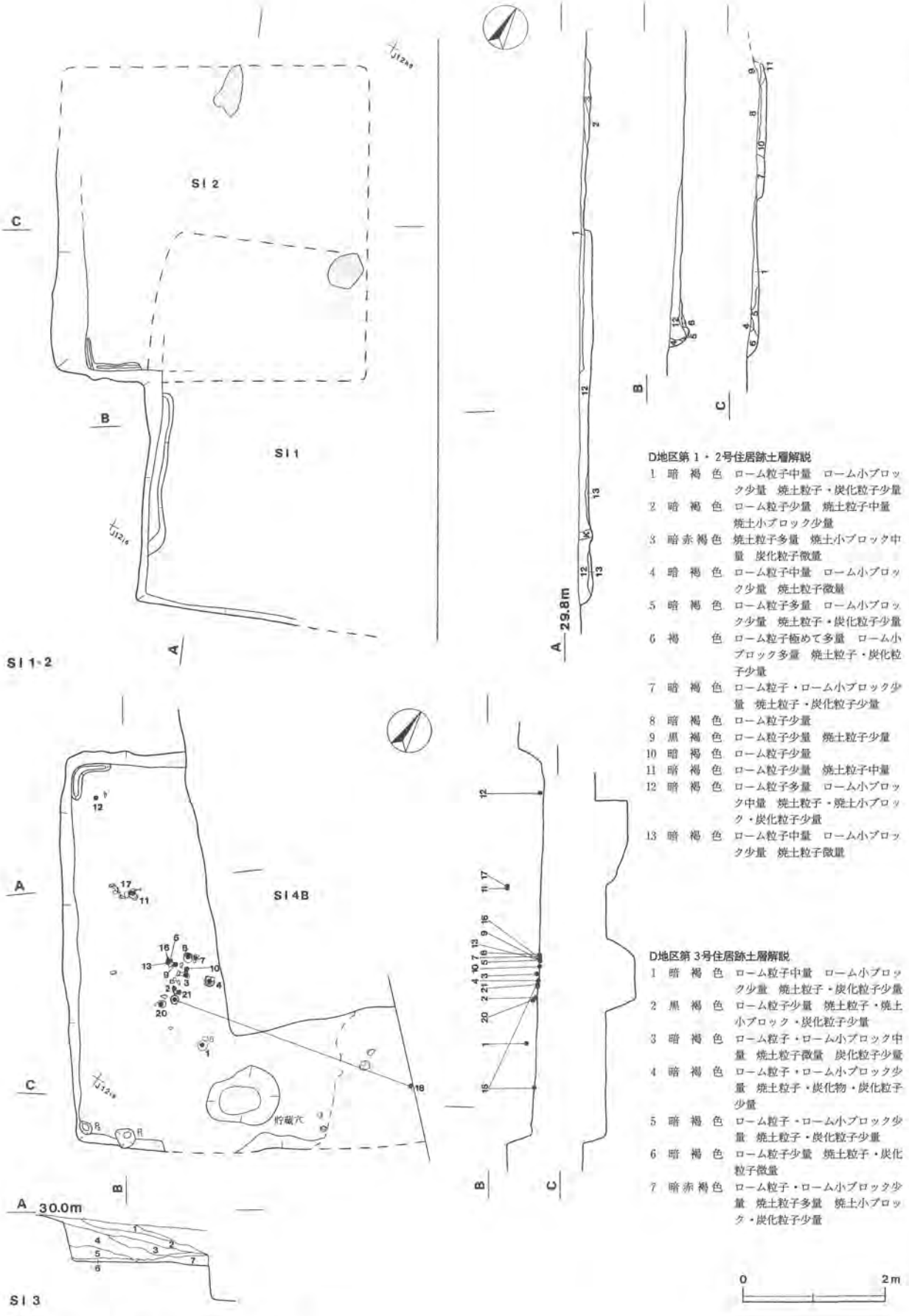
所見　床面から焼土・炭化材・炭化物が確認されること，北西から南西にかけての壁の上半が真っ赤に焼けていることから焼失家屋の可能性は考えられる。しかし，中央部や東側からは焼土・炭化材は確認されなかったことと，壁の下半はあまり焼けていないので，単なる焼失家屋とは考えられない。意図的に火災を行わせ，人為的に埋め戻し，廃棄後に大量の土器を投棄したような状況である。39の置きカマドは日常的に使用して火を受けたような痕跡は確認できない。以上のような点から，本跡は住居跡廃棄に伴い置きカマドを利用しての祭祀的行為が行われたものと考えられる。

表８　古墳時代Ｄ地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模（ｍ）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口					
1	J12i6	N－23°－W	不明	[5.40]×[4.25]	21～23	凹凸	西					竈	自然	土師器片	後期	第279図
2	J12h5	N－28°－W	不明	[4.55]×[4.41]	18	平坦	南西					竈	自然	土師器片	後期	第279図
3	J12h5	N－32°－W	[方形]	5.80 ×(4.95)	54	平坦	北西		南東壁際中央部				自然	土師器（坏・高坏・壺・甕），土製品（鈴），石製模造品（双孔円板）	後期	第279図
4A	J12g4	N－43°－W	[方形]	[4.60]×(1.97)	60	平坦				2			人為	土師器（坏・鉢・高坏・壺），土製品（土玉）	後期	第280図
4B	J12g5	N－48°－E	方形	5.68 × 5.49	43～63	平坦	西～南	4		5	ピット		人為	土師器（坏・壺・坩・甑・高坏），置きカマド	後期間仕切り溝	第280図
5	J12j5	N－66°－E	[長方形]	[4.23]×(1.12)	30	平坦							人為	土師器片	後期	第280図
6	J12i5	N－121°－W	不明	2.75 ×(1.60)	9	平坦							自然	土師器片	後期	第281図
7	J12i5	N－31°－W	不明	4.08 ×(3.50)	34～37	平坦	南西		南西コーナー		ピット	竈	自然	土師器（坏）	後期	第281図
8	J12f3	N－48°－E	不明	4.05 ×(2.35)	12～25	平坦			南				自然	土師器（埦・高坏・坩・壺），石器（斧），石製品（管玉）	後期	第281図
11	J11e9	N－30°－W	不明	[5.82]×(5.60)	18	平坦	南～西	2		17		竈	自然	土師器（坏），土製品（支脚）	後期	第281図

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A [12.9] B 3.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色　普通	P4246　70%
2	坏 土師器	A [15.2] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P4247　35%



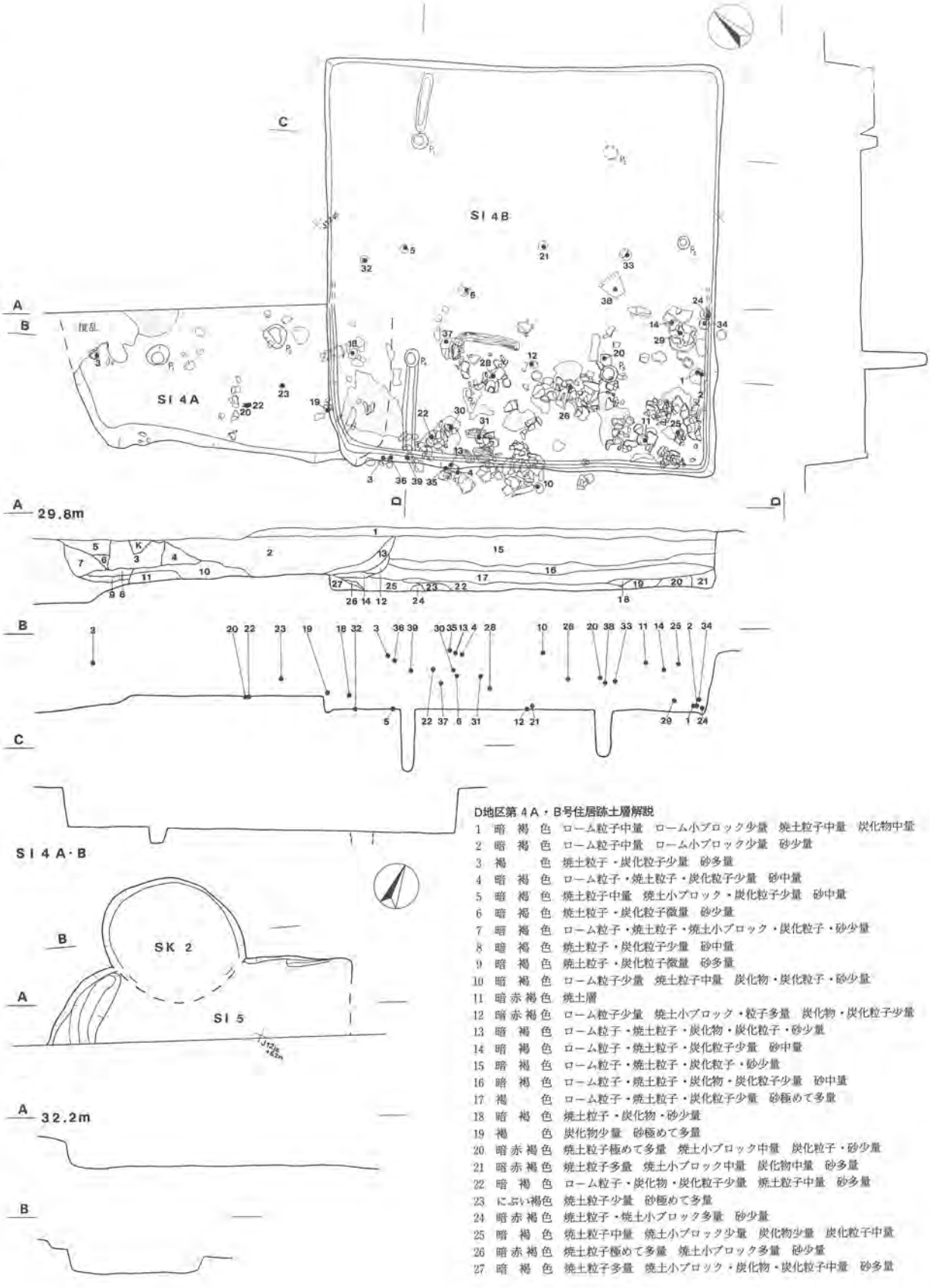
D地区第1・2号住居跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量
3 暗赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
6 褐色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック多量 焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子少量
9 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
10 暗褐色 ローム粒子少量
11 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量
12 暗褐色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
13 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量

D地区第3号住居跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗赤褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子多量 焼土小ブロック・炭化粒子少量

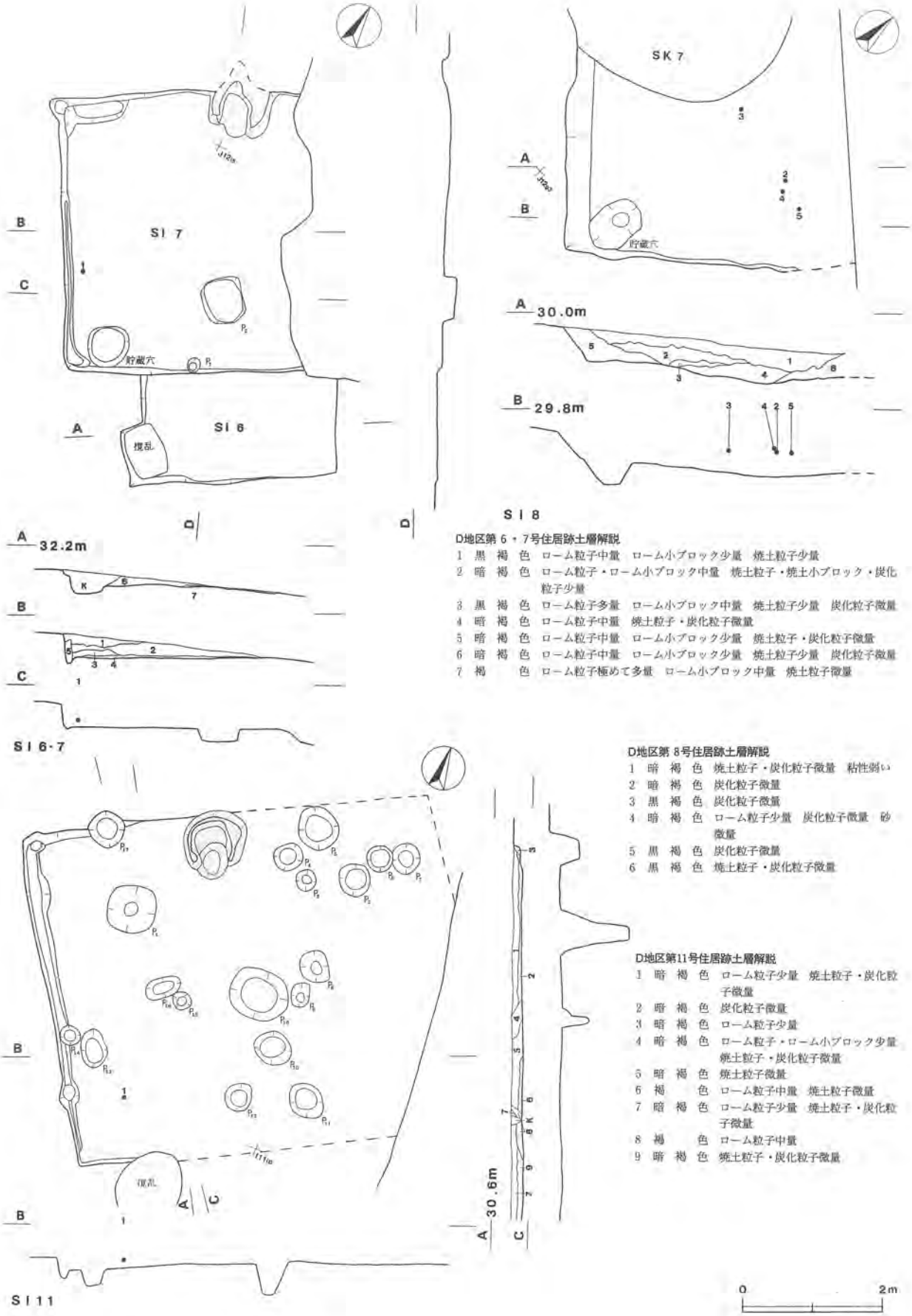
第279図　第1・2・3号住居跡



D地区第４A・B号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 炭化物中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 砂少量
3 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 砂多量
4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 砂中量
5 暗 褐 色 焼土粒子中量 焼土小ブロック・炭化粒子少量 砂中量
6 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 砂少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂少量
8 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 砂中量
9 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 砂多量
10 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化物・炭化粒子・砂少量
11 暗赤褐色 焼土層
12 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土小ブロック・粒子多量 炭化物・炭化粒子少量
13 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂少量
14 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 砂中量
15 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
16 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 砂中量
17 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 砂極めて多量
18 暗 褐 色 焼土粒子・炭化物・砂少量
19 褐 色 炭化物少量 砂極めて多量
20 暗赤褐色 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック中量 炭化粒子・砂少量
21 暗赤褐色 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 炭化物中量 砂多量
22 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量 焼土粒子中量 砂多量
23 にぶい褐色 焼土粒子少量 砂極めて多量
24 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量 砂少量
25 暗 褐 色 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物少量 炭化粒子中量
26 暗赤褐色 焼土粒子極めて多量 焼土小ブロック多量 砂少量
27 暗 褐 色 焼土粒子多量 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量 砂多量

第280図 第４A・B・５号住居跡，第２号土坑



D地区第 6・7号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
7 褐 色 ローム粒子極めて多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子微量

D地区第 8号住居跡土層解説

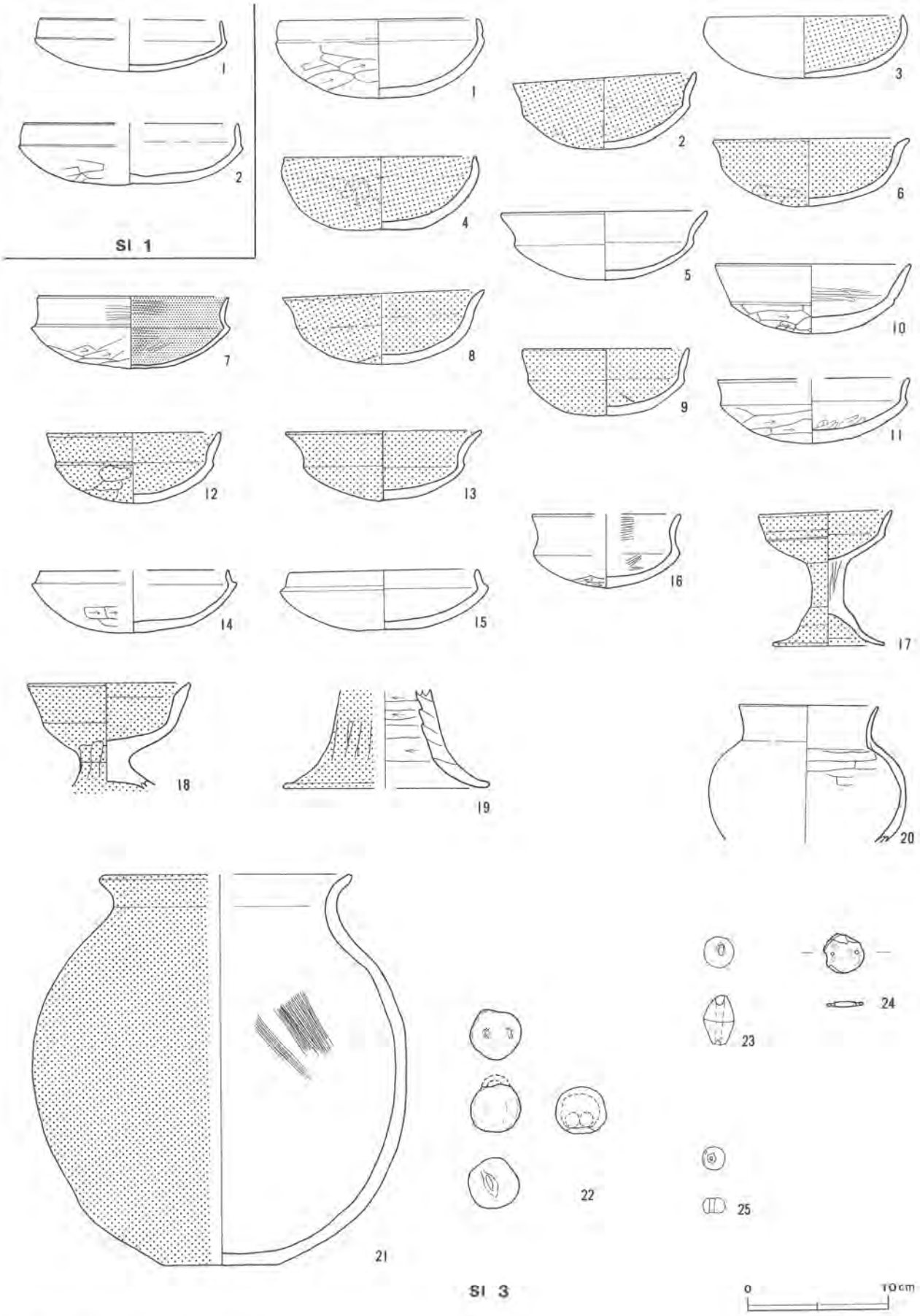
1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
2 暗 褐 色 炭化粒子微量
3 黒 褐 色 炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量 砂微量
5 黒 褐 色 炭化粒子微量
6 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

D地区第11号住居跡土層解説

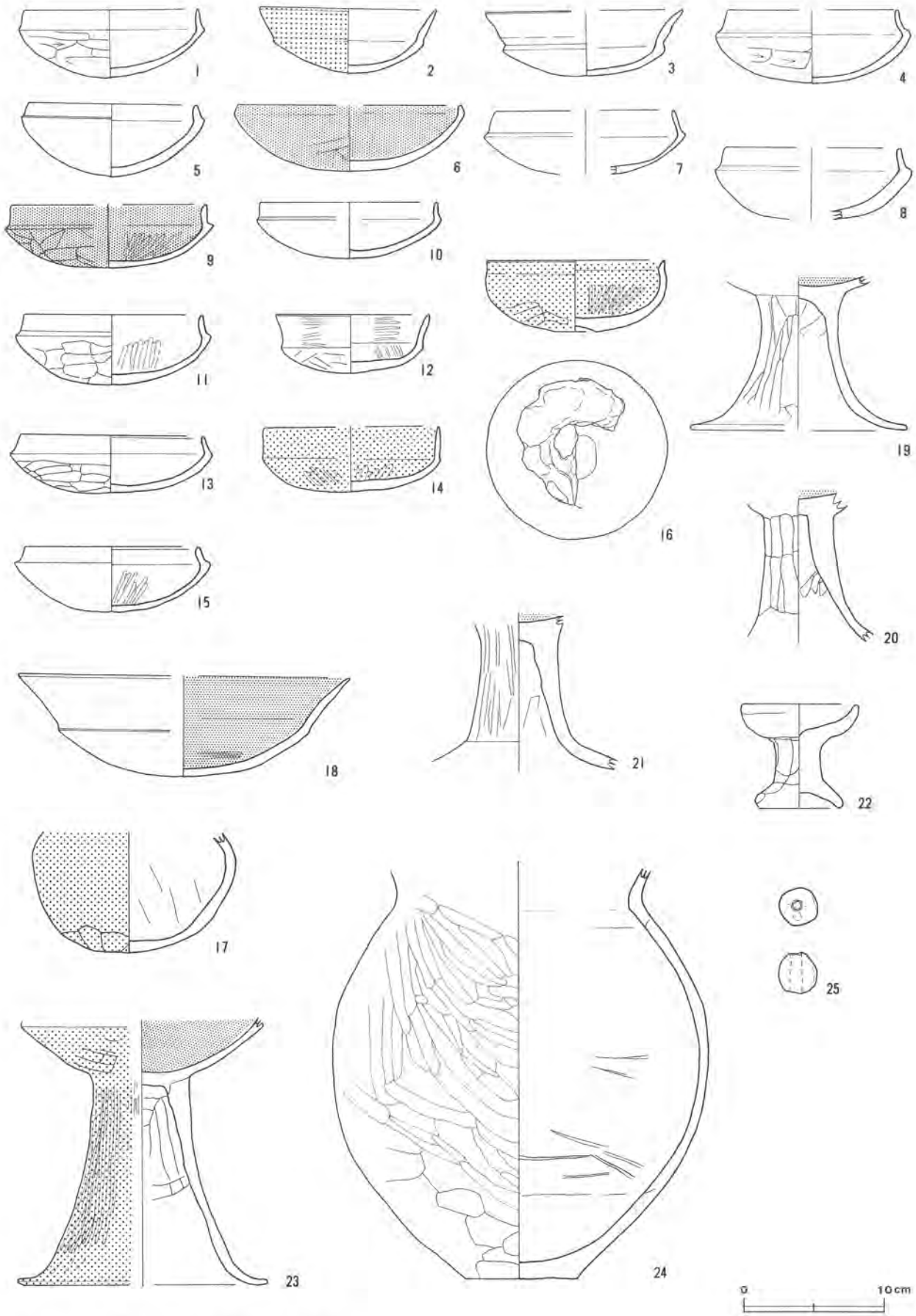
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 焼土粒子微量
6 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量
7 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐 色 ローム粒子中量
9 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

第281図　第6・7・8・11号住居跡

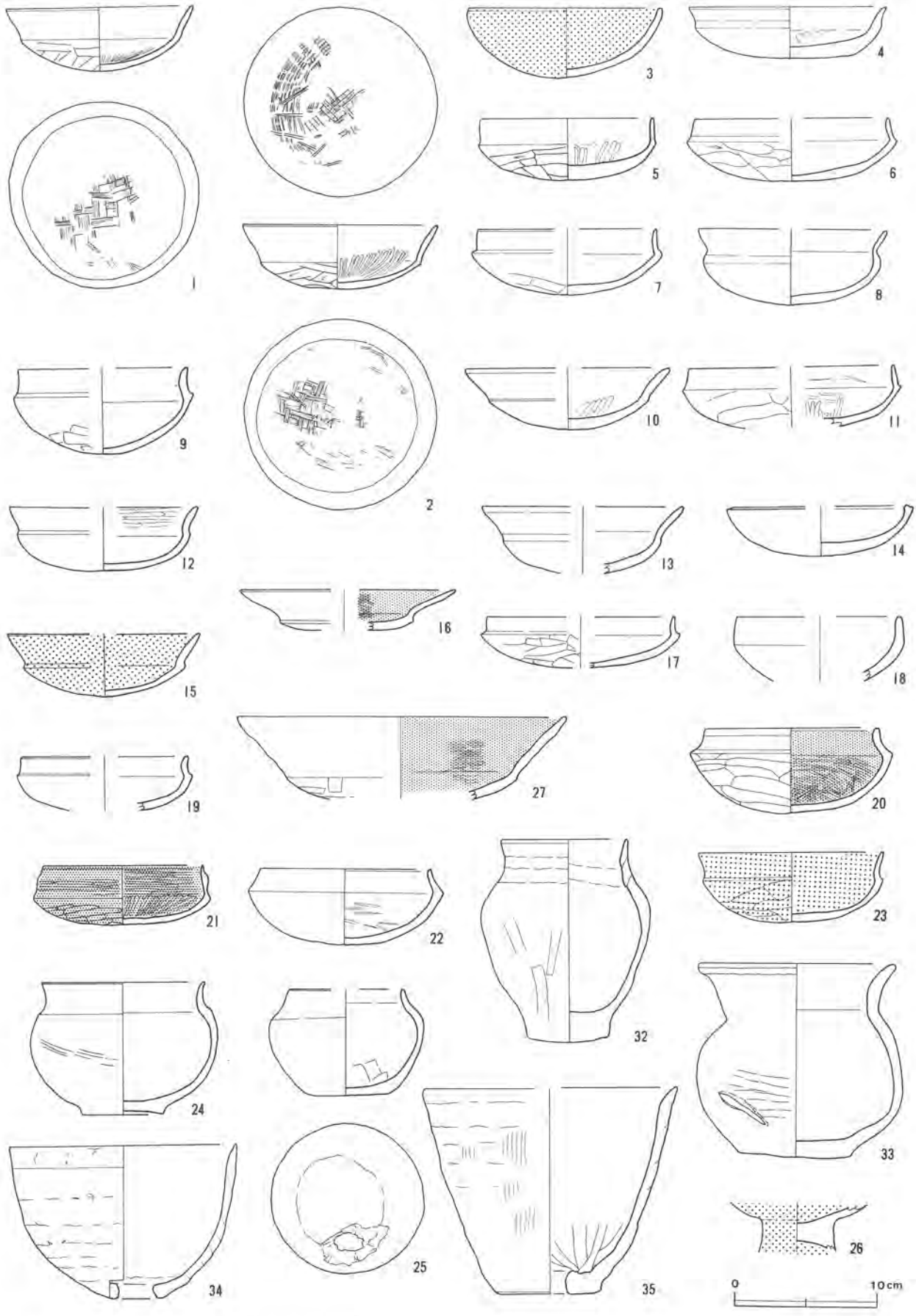
古墳時代



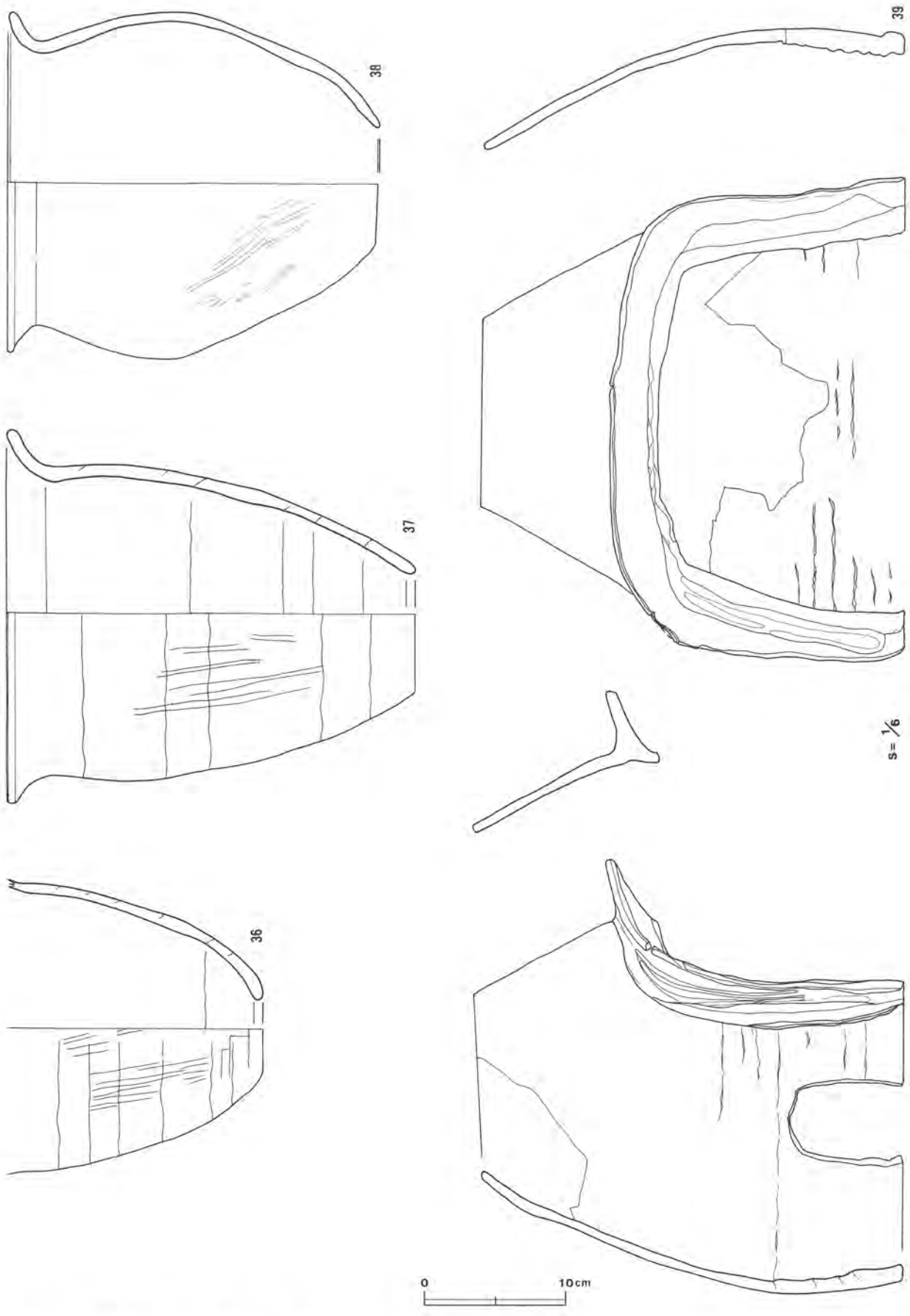
第282図　第1・3号住居跡出土遺物



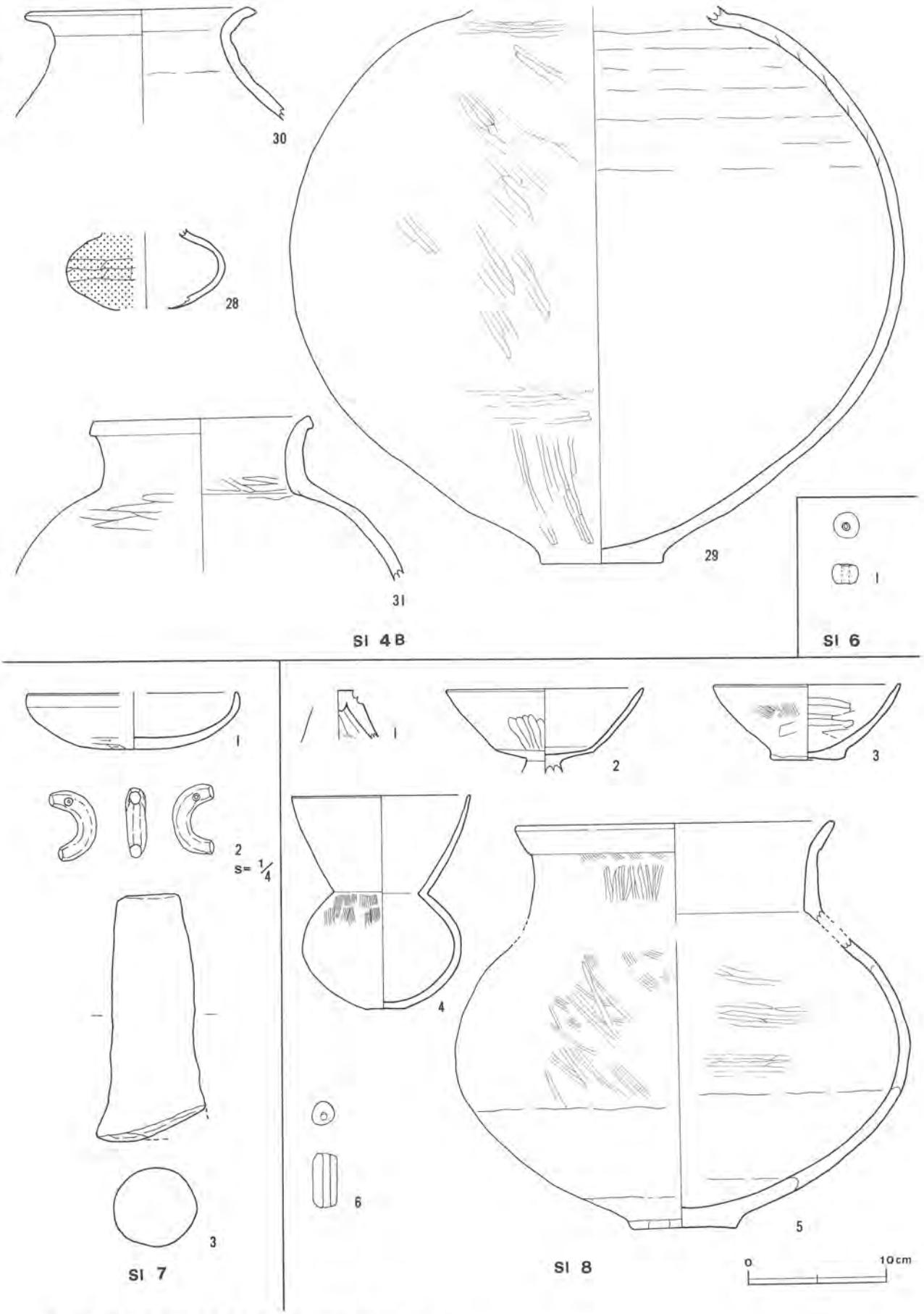
第283図　第４Ａ号住居跡出土遺物



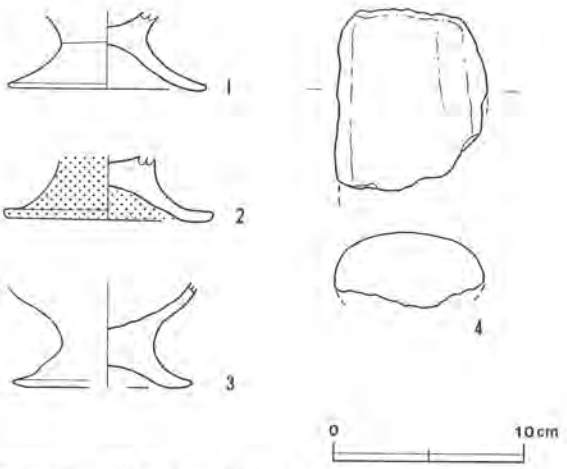
第284図　第４Ｂ号住居跡出土遺物(1)



第285図　第４Ｂ号住居跡出土遺物(2)



第286図　第4B・6・7・8号住居跡出土遺物



第287図　第5号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A 14.2 B 5.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4123 100%
2	坏 土師器	A 13.0 B 5.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P4125 95%
3	坏 土師器	A 13.8 B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面赤彩。	長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P4124　100%
4	坏 土師器	A 13.7 B 5.2 C 5.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P4126 100%
5	坏 土師器	A 14.7 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P4128 90%
6	坏 土師器	A 13.8 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P4127　95%
7	坏 土師器	A 13.7 B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母 褐灰色 普通	P4129 85%
8	坏 土師器	A 14.6 B 5.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4130 85% 覆土
9	坏 土師器	A 11.9 B 4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4134 80%
10	坏 土師器	A 13.8 B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P4131 85%
11	坏 土師器	A [13.7] B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4135 60%
12	坏 土師器	A 12.3 B 5.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4132 90%
13	坏 土師器	A 14.1 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤色 普通	P4133 80%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	坏 土師器	A [13.4] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4136 50％ 北東部覆土
15	坏 土師器	A [13.5] B 4.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4137 40％ 北西部覆土
16	坏 土師器	A [10.6] B 5.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4138 40％
17	高坏 土師器	A 9.3 B 9.8 D 7.9 E 6.0	脚部は円柱状で，裾部はラッパ状に開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P4139 80％
18	高坏 土師器	A 11.5 B (7.6) E (1.9)	坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 暗赤褐色 普通	P4140 55％
19	高坏 土師器	B (7.1) D [14.8]	脚部片。脚部はラッパ状に大きく開く。	脚部外面ヘラナデ，内面横位のヘラ削り。外面赤彩。内面煤付着。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P4141 20％ 北東部覆土
20	壺 土師器	A 10.0 B (9.9)	体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4142 40％
21	甕 土師器	A [17.5] B 28.3 C 8.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P4143 80％

第4A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第283図1	坏 土師器	A 12.3 B 4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4144 100％
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。外面赤彩。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P4145 95％
3	坏 土師器	A [10.4] B 4.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 やや不良	P4146 60％
4	坏 土師器	A [12.2] B 5.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4147 40％
5	坏 土師器	A 11.9 B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4148 50％
6	坏 土師器	A [15.8] B 4.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P4149 30％ 南東部覆土
7	坏 土師器	A [12.5] B (4.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4150 30％ 北東部覆土
8	坏 土師器	A [12.5] B (5.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4151 30％ 北東部覆土
9	坏 土師器	A [13.8] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P4152 25％ 南東部覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	坏 土師器	A [12.7] B 4.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4153 40％
11	坏 土師器	A 12.7 B 5.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 明褐色 良好	P4231
12	坏 土師器	A 9.9 B 4.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P4232 100％
13	坏 土師器	A 12.9 B 4.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4233 100％
14	坏 土師器	A [12.4] B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 褐灰色　普通	P4234　85％
15	坏 土師器	A 12.4 B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。底部外面から雑に穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4235 95％
16	坏 土師器	A 12.5 B 5.1	上げ底気味。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。底部外面から雑に穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラな，内面放射状のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P4236 90％
17	埦 土師器	B (8.6)	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色　普通	P4155　60％ 北東部覆土
18	鉢 土師器	A [23.6] B 7.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4154 60％
19	高坏 土師器	B (11.0) D [15.4] E 9.8	脚部片。脚部はラッパ状に大きく開く。	脚部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。坏部内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4157 35％
20	高坏 土師器	B (10.7)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で開く。	脚部外面ヘラナデ，内面ナデ。坏部内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	P4159　30％
21	高坏 土師器	B (11.0)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。坏部内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4158 30％
22	高坏 土師器	A 8.2 B 7.4 D 5.8 E 5.1	脚部は円柱状で，裾部で開く。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	内・外面指ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4160 80％
23	高坏 土師器	B (19.1) D [17.8] E 15.0	脚部はラッパ状に大きく開く。坏部は内彎しながら立ち上がる。	坏部外面ヘラ削り。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。坏部内面黒色処理。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P4156 35％
24	甕 土師器	B (29.4) C 8.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	体部ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	石英・長石 褐色　普通	P4161　55％

第4B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第284図 1	坏 土師器	A 13.2 B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。体部外面網代状の炭化物付着。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4163 100％
2	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底・体部内・外面に網代状の炭化物付着。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4162 100％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏 土師器	A 13.8 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 淡橙色 普通	P4164 95％
4	坏 土師器	A 13.8 B 3.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。重量が275.9ｇで，同器形の他の土器に比べ100ｇ以上重い。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4165 85％
5	坏 土師器	A 12.4 B 4.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4166 80％
6	坏 土師器	A [13.7] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面よわいヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4167 60％
7	坏 土師器	A [12.8] B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面よわい。体部外面ヘラ削り，内面よわいヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4168 60％ 北東部覆土
8	坏 土師器	A [13.3] B 5.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4169 50％
9	坏 土師器	A [12.1] B 6.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4172 30％
10	坏 土師器	A [14.5] B 4.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P4170 55％
11	坏 土師器	A [14.4] B 4.4	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。底部外面から雑に穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4171 50％
12	坏 土師器	A [13.3] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4176 30％ 北東部覆土
13	坏 土師器	A [14.4] B (4.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4174 30％ 覆土
14	坏 土師器	A [12.4] B 3.6	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P4175 30％
15	坏 土師器	A [13.7] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4177 30％ 北東部覆土
16	坏 土師器	A [15.4] B (2.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4173 30％ 北東部覆土
17	坏 土師器	A [13.5] B 3.7	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P4178 30％ 南東部覆土
18	坏 土師器	A [11.6] B (4.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母 明赤褐色 普通	P4179 25％ 覆土
19	坏 土師器	A [11.8] B (3.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4181 15％ 北東部覆土
20	坏 土師器	A 12.0 B 6.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面黒色処理後ヘラ磨き。	雲母・スコリア にぶい橙色 良好	P4237 95％
21	坏 土師器	A 11.4 B 4.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き，内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 黒褐色 良好	P4239 95％
22	坏 土師器	A 12.1 B 5.5	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4240 80％
23	坏 土師器	A 13.0 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4238 90％
24	埦 土師器	A 11.4 B 9.5 C 5.8	上げ底気味の平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4243 95％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
25	埦 土師器	A [8.2] B 7.7 C 5.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。底部外面から雑に穿孔。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4244 80%
26	高坏 土師器	B (3.5) E (2.3)	脚部片。	内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P4192 10%
27	鉢 土師器	A [23.4] B (5.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P4180 20% 南東部覆土
第286図 28	坩 土師器	B (5.7)	体部は算盤玉状である。	体部外面ヘラ削り。外面赤彩。	砂粒・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P4182 45%
29	壺 土師器	B (40.5) C 9.0	平底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。底部ヘラ磨き痕跡有り。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P4184 50%
30	壺 土師器	A 15.5 B (8.3)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反し，上端で大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P4187 40%
31	壺 土師器	A 16.2 B (12.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4186 20%
第284図 32	甕 土師器	A 8.9 B 14.6 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で直立する。	体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4241 90%
33	甕 土師器	A 13.7 B 14.0 C 7.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。体部外面下位に長さ5cm程の鋭利物のよる痕跡が内面まで達している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。外面煤付着。	砂粒・雲母・雲母 明赤褐色 普通	P4242 95%
34	甑 土師器	A 16.0 B 11.0 孔径 2.7	無底式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4245 100%
35	甑 土師器	A [18.0] B 14.9 C 7.0 孔径 2.6	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケによるナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P4191 40%
第285図 36	甑 土師器	B (18.2) 孔径 6.0	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縁部はヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4190 30%
37	甑 土師器	A 26.2 B 29.1 孔径 9.0	無底式。体部は長胴形で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4189 90%
38	甑 土師器	A 24.6 B 26.4 孔径 8.3	無底式。体部は長胴形で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4188 90%
39	置カマド	A 22.0 B・前部45.5 B・後部44.4 C 45.6 焚口高 26.2	体部は円筒形で上位でアーチ状に内傾する。焚口を回るように鍔が取り付けられている。両側面に底部から9×12cm程の方形の窓が見られる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P4193 60%

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第286図 1	坏 土師器	A [15.0] B 4.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部でわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P4194 35%

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第286図 1	高坏 土師器	B (3.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ヘラナデ。外面摩滅。	砂粒・長石 明褐色 普通	P419 75% 覆土
2	高坏 土師器	A 14.3 B (6.1) E (0.9)	坏部片。坏体部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P4196 50%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	鉢 土師器	A 13.5 B 5.5 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4195 100％
4	坩 土師器	A 12.7 B 15.5 C 2.8	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部縦位のヘラ磨き。体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4198 80％
5	壺 土師器	A 22.8 B [29.0] C 7.4	平底。体部は球形状で，口縁部は直立し，上端で外傾する。	口縁部外面上端ハケ目整形後横ナデ下位ヘラ磨き。体部外面上端ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4199 60％

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第287図1	高坏 土師器	B (4.1) D 10.3 E 2.6	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4205 40％
2	高坏 土師器	D 10.7 E (3.4)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P4206 40％
3	高坏 土師器	B (5.7) D [9.5] E 3.0	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎しながら立ち上がる。	内・外面ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4207 35％

A地区出土土製品一覧表

図版番号	器種	計測値 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	孔径 (cm)	重量 (g)	現存率 (％)	出土地点	備考
第225図3	紡錘車	4.2	4.2	1.2	0.5	27.5	100	SI275	DP62 全面に刺突文が施されている。
第260図5	鏡形模造品	5.6	5.4	2.4	0.5	47.1	100	SI44	DP9 上面に櫛状による文様が施されている。つくりはていねい。
第262図4	土玉	3.6	4.6	4.5	0.7	79.8	100	SI67	DP16 表面黒色。
第266図19	支脚	(9.9)	(11.0)	(5.2)	—	(479.1)	20	SI80	DP18
第270図12	棒状土製品	6.7	4.2	4.6	—	152.6	100	SI168	DP50
第272図5	土玉	2.8	3.0	3.1	0.5	24.2	100	SI268	DP59
6	支脚	14.2	10.9	(7.6)	—	(800.2)	70	SI268	DP60 火を受けた痕跡あり。
7	支脚	15.0	9.1	(9.7)	—	(570.2)	50	SI268	DP61 火を受けた痕跡あり。
第272図8	紡錘車	4.4	4.6	1.9	0.2	(147.5)	100	SI279B	DP65
第336図8	不明土製品	5.5	3.1	1.6	—	(21.8)		TM19	DP3372
第338図14	紡錘車	4.3	4.4	2.0	0.5	(40.3)	90	TM20	DP3133
第340図73	不明土製品	4.7	3.4	2.8	—	(35.3)		TM21	DP3151 全面に刺突文が施されている。
74	不明土製品	(5.0)	0.9	1.0	—	(4.6)		TM21	DP3152
第350図57	紡錘車	(4.5)	(2.1)	1.0	(0.6)	(17.2)	40	TM26	DP3273
58	不明土製品	(4.5)	1.0	1.0	—	(4.4)		TM26	DP3274
第351図4	支脚	13.2	8.1	7.4	1.0	677.4	100	TM28	DP3275
第351図2	紡錘車	4.9	4.7	2.2	0.5	45.5	100	TM31	DP3281
3	紡錘車	4.8	4.7	1.9	0.6	52.3	100	TM31	DP3282
第356図1	スプーン形土製品	14.2	5.8	3.6	0.5	(87.9)	95	TM38	DP3393
第357図1	土玉	3.0	3.5	3.4	0.5	(31.7)	95	TM58	DP3334
第398図9	土玉	2.4	3.5	3.4	0.6	32.1	100	SI4	DP1 全面に刺突文が施されている。表面黒色。
10	土玉	3.5	3.9	3.8	0.5	(55.9)	95	SI4	DP2 表面黒色。
11	土玉	(2.7)	(3.3)	(1.8)	0.5	(16.0)	50	SI4	DP3 全面に刺突文が施されている。表面黒色。
第403図2	不明土製品	(6.1)	2.9	2.5	—	(35.4)		SI98	DP21
第406図8	紡錘車	7.3	7.3	2.1	0.9	(117.0)	100	SI128	DP35
第407図5	紡錘車	5.3	5.4	1.8	0.6	49.9	100	SI151	DP45
第408図8	紡錘車	5.3	5.3	1.6	0.5	(58.8)	95	SI169	DP51 全面に刺突文が施されている。
第412図3	管状土製品	(7.8)	2.9	2.6	0.6	(44.7)	70	SI240	DP57 つくりが雑。
4	管状土製品	(7.3)	2.6	2.6	0.5	(42.5)	70	SI240	DP58 つくりが雑。
5	管状土製品	(8.0)	2.6	2.5	0.5	(37.4)	90	SI240	DP55 つくりが雑。
第422図4	支脚	(9.4)	5.2	(4.0)	—		30	SI303	DP70
第470図10	不明土製品	(7.8)	(6.4)	2.8	—			SI235	DP93 埴輪の可能性あり

図版番号	器種	計測値(cm) 最大長	最大幅	最大厚	孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
第470図11	紡錘車	4.1	(2.7)	1.5	0.4		50	SK485	DP1026　全面に刺突文が施されている。
第470図15	土玉	1.4	1.4	1.4	0.5		100	SK623	DP1042
第470図12	支脚	(6.8)	5.7	(2.4)	−		20	SK629	DP1043
第470図13	不明土製品	2.6	1.1	1.1	−		100	SK637	DP1045
第470図16	土玉	2.6	2.8	2.7	0.6		100	SK674	DP1047
17	土玉	2.5	2.7	2.5	0.6		100	SK674	DP1048
18	土玉	2.4	2.5	2.5	0.6		100	SK674	DP1049
19	土玉	2.6	2.5	2.5	0.6		90	SK674	DP1050
第470図14	不明土製品	(6.9)	(4.0)	(2.5)	2.2		20	SK707	DP1054
第470図8	不明土製品	(10.0)	(6.9)	(4.4)	4.0			表採	DP101

C地区出土土製品一覧表

図版番号	器種	計測値(cm) 最大長	最大幅	最大厚	孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
第276図6	土玉	3.1	3.6	3.4	0.8	33.9	100	SI5	DP4001
7	支脚	(4.5)	(4.9)	(3.6)	−	(87.1)	10	SI5	DP4003

D地区出土土製品一覧表

図版番号	器種	計測値(cm) 最大長	最大幅	最大厚	孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
第282図22	鈴	(3.4)	3.7	3.7	−	(29.6)	90	SI3	DP4011　内部に2個の球形物が入っている
23	棗玉	1.8	1.1	1.1	0.3	1.5	95	SI3	DP4012　表面黒色
第283図25	土玉	3.0	2.7	2.7	0.9	20.5	100	SI4A	DP4013
第286図1	小玉	0.7	1.0	1.0	0.3	0.7	100	SI6	DP4014　臼形的
第286図2	勾玉	5.1	3.2	1.5	0.6	15.2	100	SI7	DP4015　孔は貫通しない
3	支脚	17.9	(8.0)	(8.0)	−	(881.5)	95	SI7	DP4016
第287図4	支脚	(9.6)	(7.9)	(3.6)	−	(244.6)	30	SI11	DP4017
第368図5	支脚	(11.1)	(6.2)	(3.1)	(2.6)	(166.4)	40	SE2	DP4018　上下に貫通
第442図2	支脚	(10.5)	(6.9)	(4.4)	−		40	SE4	DP4019
第442図3	土玉	2.7	2.7	2.7	0.4	(16.7)	70	SE5	DP4021
第470図20	勾玉	1.2	0.8	0.6	0.2	0.5	100	SK8	DP4020　ミニチュア
第474図8	土玉	2.9	2.9	2.9	0.9	22.9	100	表採	DP4022　表面に煤付着
9	土玉	2.7	2.6	2.7	0.6	18.4	100	表採	DP4023　表面に煤付着
10	小玉	0.7	0.9	0.9	0.2	0.5	100	表採	DP4024　孔は貫通しない

A地区出土石器・石製品一覧表

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第269図4	双孔円板	4.3	4.0	0.5	(14.8)	滑石	SI131	Q92　孔径0.3cm
5	双孔円板	4.0	4.2	0.5	(12.1)	滑石	SI131	Q91　孔径0.4cm
第324図55	砥石	6.7	7.4	1.2	(98.7)	凝灰岩	TM2墳丘	Q3052
56	砥石	11.3	4.3	2.5	(203.9)	凝灰岩	TM2墳丘	Q3053
第332図17	管玉	2.5	1.0	0.9	3.5	滑石	TM6石室	Q3081　孔径0.2cm
第333図2	不明石製品	3.3	2.7	0.4	5.4	滑石	TM11周溝	Q3106
第335図11	切子玉	1.1	1.4	1.2	2.5	水晶	TM18石室	Q3139　孔径0.3cm
12	棗玉	1.6	1.5	0.9	1.1	琥珀	TM18石室	Q3140　孔径0.2cm
13	ガラス玉	(0.4)	0.6	0.6	(0.2)	ガラス	TM18石室	Q3141　孔径0.2cm群青色
第336図11	勾玉	2.9	1.0	0.9	5.3	赤メノウ	TM19石室	Q3146　孔径0.2cm
12	勾玉	3.2	1.1	0.9	8.0	赤メノウ	TM19石室	Q3424　孔径0.4cm

古墳時代

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
13	砥石	(4.7)	3.4	1.4	(32.7)	凝灰岩	TM19周溝	Q3144
第340図42	切子玉	2.4	1.6	1.4	6.3	水晶	TM21石室	Q3196 孔径0.4cm
43	琥珀玉	(3.3)	2.2	1.8	(7.4)	琥珀	TM21石室	Q3441 孔径0.3cm
44	切子玉	1.8	1.4	1.4	4.5	水晶	TM21石室	Q3428
45	管玉	2.3	0.9	0.9	3.3	碧玉	TM21石室	Q3425
46	小玉	1.0	1.1	1.1	1.2	グリーンタフ	TM21墓道	Q3191 孔径0.4cm
47	ガラス玉	0.8	1.0	1.0	0.9	ガラス	TM21石室	Q3426 孔径0.2cm群青色
48	ガラス玉	0.8	0.9	0.8	0.7	ガラス	TM21石室	Q3427 孔径0.2cm群青色
49	ガラス玉	0.4	0.5	0.5	0.1	ガラス	TM21石室	Q3193 孔径0.2cmエメラルド
50	ガラス玉	0.3	0.5	0.4	0.1	ガラス	TM21石室	Q3194 孔径0.2cm青色
51	ガラス玉	0.5	0.4	0.4	0.1	ガラス	TM21石室	Q3195 孔径0.2cmエメラルド
52	ガラス玉	0.4	0.6	0.7	0.2	ガラス	TM21石室	Q3429 孔径0.2cm紺色
53	ガラス玉	0.4	0.6	0.7	0.1	ガラス	TM21石室	Q3430 孔径0.2cm紺色
54	ガラス玉	0.4	0.6	0.6	0.1	ガラス	TM21石室	Q3431 孔径0.2cm青色
55	ガラス玉	0.2	0.5	0.5	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3434 孔径0.1cm青色
56	ガラス玉	0.4	0.7	0.7	0.3	ガラス	TM21石室	Q3192 孔径0.2cm群青色
57	ガラス玉	0.4	0.45	0.45	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3436 孔径0.1cm群青色
58	ガラス玉	0.45	0.45	0.45	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3437 孔径0.1cmエメラルド
59	ガラス玉	0.25	0.4	0.4	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3438 孔径0.1cm群青色
60	ガラス玉	0.3	0.4	0.4	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3439 孔径0.1cmグリーン
61	ガラス玉	0.25	0.35	0.35	[0.05]	ガラス	TM21石室	Q3440 孔径0.1cm紺色
62	ガラス玉	0.4	0.45	0.45	約0.1	ガラス	TM21石室	Q3435 孔径0.1cm群青色
75	砥石	11.7	9.6	1.3	(246.6)	凝灰岩	TM21周溝	Q3186
第341図77	砥石	(6.3)	3.6	3.1	(124.7)	凝灰岩	TM21周溝	Q3187
第350図59	双孔円板	3.0	3.0	0.4	6.1	滑石	TM26周溝	Q3225 孔径0.2cm
60	双孔円板	2.6	2.3	0.3	2.3	滑石	TM26周溝	Q3227 孔径0.2cm
61	双孔円板	2.5	2.6	0.3	3.7	滑石	TM26周溝	Q3226 孔径0.2cm
第350図2	不明石製品	(5.8)	1.2	1.2	(11.2)	滑石	TM28周溝	Q3234
3	不明石製品	3.0	1.3	0.6	4.1	滑石	TM28周溝	Q3235
第355図3	剣形模造品	3.9	2.0	0.6	(6.7)	滑石	TM34石室	Q3279 孔は貫通せず
第359図9	切子玉	2.1	1.6	1.5	6.3	水晶	TM66石棺	Q3400 孔径0.4cm
10	琥珀玉	(2.9)	2.0	1.7	(5.59	琥珀	TM66石棺	Q3432 孔径0.3cm
11	琥珀玉	(1.8)	1.5	1.3	(1.7)	琥珀	TM66石棺	Q3443 孔径0.3cm
12	小玉	1.0	1.1	1.0	1.6	グリーンタフ	TM66石棺	Q3401 孔径0.3cm
13	小玉	1.1	1.2	1.1	1.6	グリーンタフ	TM66石棺	Q3402 孔径0.4cm
14	小玉	0.9	1.0	1.0	1.5	グリーンタフ	TM66石棺	Q3403 孔径0.3cm
15	小玉	0.9	1.0	1.1	1.4	グリーンタフ	TM66石棺	Q3404 孔径0.3cm
16	小玉	1.0	1.1	1.1	1.7	グリーンタフ	TM66石棺	Q3405 孔径0.3cm
17	小玉	1.0	1.0	1.0	1.7	グリーンタフ	TM66石棺	Q3406 孔径0.3cm
18	小玉	1.0	1.1	1.1	1.9	グリーンタフ	TM66石棺	Q3407 孔径0.3cm
19	琥珀玉	(2.2)	1.7	1.5	(3.0)	琥珀	TM66石棺	Q3442 孔径0.2cm
20	小玉	1.0	1.0	1.0	1.6	グリーンタフ	TM66石棺	Q3409 孔径0.3cm
21	小玉	1.0	1.0	1.0	2.0	グリーンタフ	TM66石棺	Q3410 孔径0.3cm
22	小玉	1.0	1.0	1.0	1.5	グリーンタフ	TM66石棺	Q3411 孔径0.3cm
23	小玉	1.0	1.0	1.0	1.6	グリーンタフ	TM66石棺	Q3412 孔径0.3cm
24	小玉	1.0	1.0	1.0	1.8	グリーンタフ	TM66石棺	Q3408 孔径0.3cm
25	小玉	0.9	1.0	1.0	1.4	グリーンタフ	TM66石棺	Q3413 孔径0.3cm
26	小玉	1.0	0.8	0.8	(0.2)	グリーンタフ	TM66石棺	Q3414 孔径0.2cm
第361図5	双孔円板	3.7	3.6	0.3		滑石	表採	Q211 孔径0.2cm
6	砥石	(7.6)	3.1	2.4	(90.2)	凝灰岩	表採	Q183
7	琥珀玉	5.3	3.6	3.4	35.8	琥珀	表採	Q3433 孔径0.7cm，表面加工痕無し，TM60付近のE5ℓ区表採
第470図29	砥石	14.7	5.8	0.9	110.3	凝灰岩	SI117	Q88

D地区出土石器・石製品一覧表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
第282図24	双孔円板	2.8	2.9	0.4	(4.1)	グリーン	S I 3	Q4011 孔径0.4cm
25	小玉	0.8	0.8	0.6	0.4	滑石	S I 3	Q4012 孔径0.2cm
第286図6	管玉	2.0	0.8	0.8	1.9	碧玉	S I 8	Q4014 孔径0.3cm
第442図4	紡錘車	4.4	4.4	1.6	47.0	滑石	S E 5	Q4015 孔径0.5cm側面全周の3分の1程に鋸歯文が施されている。
第474図7	紡錘車	4.3	(3.9)	1.1	(17.9)	滑石	表採	Q4018 孔径0.5cm
11	砥石	(10.9)	5.8	3.0	(219.9)	硬砂岩	表採	Q4017

A地区住居跡・土坑出土鉄製品一覧表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第225図1	不明鉄製品	4.9	4.4	0.6	31.4	SI134	M26 孔径2.2cm
第256図4	鉄鏃	(9.2)	0.9	0.6	(9.3)	S I 9	M3 茎部木質一部残存
5	鉄鏃	15.1	0.9	0.7	(15.8)	S I 9	M4 茎部・鏃身部木質付着
6	鉄鏃	14.0	0.7	0.6	14.4	S I 9	M5 茎部木質一部残存
7	鉄鏃	(12.2)	0.7	0.5	(13.5)	S I 9	M6 茎部木質一部残存
8	鉄鏃	(12.2)	0.7	0.6	(13.2)	S I 9	M7 茎部木質一部残存
9	鉄鏃	(5.4)	0.8	0.6	(4.7)	S I 9	M8
10	鉄鏃	(3.6)	0.7	0.6	(3.3)	S I 9	M9
11	鉄鏃	(4.8)	0.8	0.5	(6.1)	S I 9	M10
12	鉄鏃	(8.2)	0.7	0.4	(6.5)	S I 9	M11
13	鉄鏃	(6.6)	0.7	0.6	(8.7)	S I 9	M43 茎部木質一部残存
14	刀子	(15.8)	3.1	0.7	(47.6)	S I 9	M12 茎部木質一部残存
第257図1	不明鉄製品	(3.1)	(2.4)	0.6	(12.6)	SI31	M16
第260図26	鉄鎌	(7.4)	3.3	0.7	(26.6)	SI42	M18
27	鉄鎌	(6.3)	3.9	0.5	(20.0)	SI42	M17
第269図3	不明鉄製品	(12.9)	1.1	1.4	(72.7)	SI131	M25
第272図1	不明鉄製品	(4.7)	2.1	0.5	(14.9)	SI284	M33
第272図4	刀子	(7.9)	2.8	1.1	(24.4)	SI289	M37
5	不明鉄製品	(4.2)	3.0	1.8	(33.1)	SI289	M38
第362図2	鉸具	5.7	4.7	0.8	28.1	SK884	M1013
3	鉄鏃	(6.3)	0.9	0.6	(6.1)	SK884	M1015
4	鉄鏃	(11.9)	1.1	0.4	(8.5)	SK884	M1016 茎部木質一部残存
5	鉄鏃	(16.4)	1.3	0.5	(12.2)	SK884	M1017 茎部木質一部残存
6	鉄鏃	(9.4)	0.8	0.6	(7.5)	SK884	M1018
7	鉄鏃	(9.7)	0.7	0.5	(8.0)	SK884	M1019
8	鉄鏃	(9.3)	0.6	0.4	(9.3)	SK884	M1020
第363図9	鉄鏃	(9.5)	1.4	0.3	(7.2)	SK884	M1024 茎部木質一部残存
10	鉄鏃	13.0	1.3	0.5	10.8	SK884	M1025 茎部木質一部残存
11	鉄鏃	11.9	0.8	0.4	(11.1)	SK884	M1026 茎部木質一部残存
12	鉄鏃	(3.5)	0.6	0.6	(2.1)	SK884	M1027 基部木質一部残存
13	鉄鏃	(6.2)	1.8	0.5	(3.8)	SK884	M1021 茎部木質一部残存
14	鉄鏃	(8.2)	0.8	0.5	(4.9)	SK884	M1022 茎部木質一部残存
15	鉄鏃	12.6	1.2	0.6	10.9	SK884	M1023 茎部木質一部残存
—	刀子	(8.1)	1.5	0.6	(18.2)	SK908	M1028
第397図3	鉄鏃	(7.8)	4.1	0.6	(23.1)	S I 1	M1
4	鉄鎌	(12.6)	2.1	0.9	(49.8)	S I 1	M2
第398図11	不明鉄製品	(6.2)	1.1	1.0	(14.8)	S I 5	M42
第399図6	刀子	(13.6)	1.7	0.5	(21.6)	SI23	M14 茎部木質一部残存
7	不明鉄製品	(4.1)	0.7	0.4	(5.2)	SI23	M15
第401図3	不明鉄製品	(4.1)	0.7	0.7	(6.3)	SI53	M21
4	不明鉄製品	(5.1)	0.6	0.5	(7.5)	SI53	M20
第403図5	刀子	(6.0)	1.0	0.6	(6.9)	SI101	M22
第403図2	紡錘車	(18.6)	5.3	0.5	(47.0)	SI104	M23
第409図13	不明鉄製品	(2.6)	1.4	0.5	(3.5)	SI183	M27

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第410図6	不明鉄製品	(7.0)	1.6	1.2	(37.0)	SI205	M28
第412図11	不明鉄製品	(4.1)	0.6	0.4	(3.0)	SI251	M30　茎部木質一部残存茎部中空
第415図4	鉄鏃	(4.2)	0.6	0.6	(3.9)	SI272	M31
5	不明鉄製品	(8.8)	2.3	1.5	(43.2)	SI272	M32
第418図3	鉄鏃	15.5	0.6	0.5	(22.9)	SI287	M35
第418図6	刀子	(4.8)	1.3	0.7	(6.1)	SI288	M36
第418図9	紡錘車	(20.9)	4.0	0.9	(35.0)	SI299	M39
第422図5	不明鉄製品	(9.5)	1.0	0.6	(31.1)	SI303	M40
6	不明鉄製品	(11.2)	0.9	0.8	(19.9)	SI303	M41
第432図2	鉄鏃	28.8	2.3	0.7	225.7	SK250	M1031
3	鉄鏃	27.4	2.2	0.9	161.8	SK250	M1032
4	鉄鏃	27.9	2.0	1.1	189.4	SK250	M1034
5	鉄鏃	29.5	2.0	0.9	203.7	SK250	M1033
6	鉄鏃	26.9	2.2	0.9	192.3	SK250	M1035
7	鉄鏃	26.7	1.9	0.8	187.1	SK250	M1036
8	鉄鏃	28.0	2.2	1.0	215.7	SK250	M1037
9	鉄鏃	27.3	2.1	0.9	193.4	SK250	M1038
第470図27	不明鉄製品	(3.7)	1.6	0.6	(4.5)	SK123	M1029
第470図21	不明鉄製品	(6.9)	0.5	0.5	(4.0)	SK166	M1003　木質一部残存
第470図22	不明鉄製品	(5.6)	1.3	0.5	(6.8)	SK180	M1004　木質一部残存
第470図23	刀子	(12.1)	1.8	0.4	(23.1)	SK235	M1005
第470図24	鉄鏃	(9.2)	1.2	0.4	(23.0)	SK237	M1006　雁股鏃
26	棒状鉄製品	(51.2)	0.9	1.0	(51.2)	SK237	M1007
第470図28	刀子	(23.8)	1.8	0.6	(77.1)	SK290	M1009
第470図25	不明鉄製品	(7.1)	0.7	0.5	(9.4)	SK639B	M1011

C地区土坑出土鉄製品一覧表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第365図1	鉄鎌	(11.4)	4.1	0.7	(131.6)	S K 3	M4002　基部木質一部残存

2　古墳

当遺跡から確認された方形周溝墓及び古墳は，方形周溝墓2基，円墳・前方後円墳65基である。各古墳に付した遺構番号のうち，第2・3・4号墳については，『筑波町史』に記載された番号と一致する。第1号墳は調査エリア外の南東側に位置する2m内・外の巨石を組み合わせた大型の横穴式石室をもつ古墳である。第5号墳は調査エリア外の南側に位置し，つくば市教育委員会が平成3年に調査している。この第1・5号墳は本報告書では欠番にしている。また，第4号墳第1号箱式石棺は，つくば市教育委員会によって平成2年度に調査されている。

今回の調査で確認した2基の方形周溝墓は，調査エリアA区の北部から確認されている。65基の古墳の分布は，調査A区の台地全面に64基と集中しており，B区からは前方後円墳の第3号墳，1基が確認されている。台地の東側縁辺部に位置するC・D区からは古墳は確認されていない。これらの古墳は，前方後円墳が5基，そのうち帆立貝式は2基である。円墳が44基，主体部のみが16基である。主体部をみると，横穴式石室が6基，箱式石棺が24基，円筒埴輪棺が1基，主体部の確認できなかった古墳が34基である。

古墳の解説は，古墳の形状および規模が明確なもの，遺物の出土状況が良好なもの，あるいは出土遺物に特徴のあるものに限り記述し，その他のものは一覧表に記載した。記載方法は，第○号墳とし，古墳だけでなく，

方形周溝墓も含めている。その区別は，墳形の項目で，円墳・前方後円墳・帆立貝式・方形周溝墓として表記した。

第2号墳（第288図）

位置　調査A区の中央部からやや南寄り，D4・5，E4・5区に確認されている。第33号墳を壊して構築している。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約36mである。

墳丘　封土はほとんど削平されているが，横穴式石室の天井石の一部が露出している状態で，その横穴式石室を取り囲むように長さ15.1m，幅12.8m，高さ1.7mの墳丘が確認されている。

墳丘主軸方向　N－9°－E

埋葬施設　埋葬施設はきわめて大型の横穴式石室で，墳丘の中央部のやや南側から確認され，雲母片岩により構築されている。主軸方向はN－9°－Eである。石室内に盗掘の跡と思われる撹乱と巨木による撹乱が見られる。石室は天井石がやや崩落した状態で確認されているので，本来の高さは不明である。奥壁は1枚石がほぼ垂直に据えられている。側壁は東側側壁の1枚は抜き取られているが，両側壁とも横長に2枚ずつほぼ垂直に据えられている。石室構造は，大きく羨道と玄室に分かれ，玄室は前室と後室に分かれた複式構造である。前室と後室の仕切りには，2.4×0.4×0.22mの1枚石がほぼ垂直に据えられている。さらに，後室を1.1×0.4×0.2mの1枚石によって東西2室に仕切っている。石室の平面形は，後室と前室はほぼ同じ大きさの正方形プランで，続く羨道は同じ幅であるが長さが0.5m程長い。後室より羨道まで，幅に大きな違いはなく直線的であり，長方形プランをもつ。石室の規模は，全長約7.6m，玄室は長さ4.35m，後室は長さ2.05m，幅は仕切り部で2.25m，奥壁部で2.4m，前室は長さ2.0m，幅は玄門部で1.95m，仕切り部で2.3m，羨道は長さ約2.5m，幅は玄門側で約1.85m，羨門側で1.8mである。玄室と羨道の境には梱（しきみ）石が置かれている。羨道に長さ7.4m，幅1.45mの墓道が続き，周溝まで延びている。玄室の奥壁は，約2.1×2.9×0.45mの巨大な1枚石を垂直に据えている。側壁は，東側は2.5×1.0×0.4mの，西側は2.4×0.9×0.35mと1.9×1.0×0.3mの2枚の雲母片岩の板石を横長にしてほぼ垂直に据えている。羨道の側壁は，東側は1.55×0.95×0.3mの，西側は1.6×0.8×0.25mの1枚の雲母片岩を玄室と同じように横長にしてほぼ垂直に据えている。床面は，撹乱を受けた部分を除いて，10～75cmの雲母片岩の小礫や板石が敷き詰められている。

周溝　周溝は墳丘を全周している。断面形は皿状である。幅・深さは，A－A′ラインで上幅8.8m・下幅3.7m，深さ1.2m，B－B′ラインで上幅7.5m・下幅3.1m，深さ0.8mである。（第288図）。堆積状況は5層からなる黒褐色土と褐色土がみられる。

遺物　横穴式石室前室東側覆土中層から鞍金具（鉄地金銅張鋲留），前室西側覆土中層から金銅製耳環，後室東側覆土下層と仕切り石際中層から馬鈴2個，後室から鉄鏃・刀子・直刀片・土師器鉢及び古銭3枚（1枚は「開元通宝」）が出土しているが，盗掘の痕跡が確認されたので，原位置を止めていない可能性が大きい。後室の前室との仕切り際から大腿部と思われる人骨片がまとって確認された。周溝内から人物埴輪の美豆良や顔，翳（さしば）形埴輪が出土している。北東部や南東部の周溝から円筒埴輪や朝顔形円筒埴輪がつぶれた状態で出土している。この円筒埴輪の中には第33号墳の出土遺物との接合関係にあるものがみられるので，本墳に伴わない可能性も考えられる。墳丘から多量の古墳時代中期の土師器が出土しているので，墳丘築造前には，住居跡があったものと思われる。また，横穴式石棺の周辺の北側・西側から多量の近世陶磁器が集中して出土している。

所見　本墳は町史によると通称「男塚」と呼ばれている。横穴式石室内出土遺物や埴輪から，6世紀後半の古

墳である。本群集墳のなかでは，比較的古い古墳と考えられる。

第33号墳（第288図）

位置　調査A区の中央部，D 4 区で第 2 号墳の墳丘下に確認されている。

墳形及び規模　円墳。北部は陸橋部として掘り残しが見られる。周溝内径は約 17.2m である。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－19°－W

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。

周溝　平面形は円形で，断面形は皿状をしている。北部に陸橋部として掘り残しが見られる。幅・深さは，C－C′ ラインで上幅1.92m・下幅1.4m，深さ0.32m，D－D′ ラインで上幅2.26m・下幅1.48m，深さ0.3m，E－E′ ラインで上幅 1.96m・下幅 1.3m，深さ 0.1m である。覆土は，3 層からなり，ローム粒子を少量，炭化粒子を多量に含む黒褐色土と暗褐色土がみられる。

遺物　周溝内及び周溝の内側の南西墳丘裾部から円筒埴輪が出土している。円筒埴輪の出土状況は周溝内からつぶれた状態ではあるが，1 個体毎に比較的まとまって底部を内側に向けて出土している。第 2 号墳出土円筒埴輪と接合関係にあるものが見られる。

所見　本墳は第 2 号墳より古い古墳であり，円筒埴輪から 6 世紀後半の古墳と考えられる。

第 3 号墳（第291図）

位置　調査B区のC 7・C 8 区の台地縁辺部にある。遺構の北側・東側・南側は調査エリア外に延びている。墳丘盛土下に第 3 号住居跡（5 世紀後半～ 6 世紀初め）があり，周溝のくびれ部は第 9 号土坑に掘り込まれている。

墳形及び規模　前方後円墳。周溝の確認状況から推測して，全長約39m，前方部幅約11m・長さ約17m，後円部は直径約23m と考えられる。

墳丘　墳丘は耕作により削平されているが，高さ 1.5m，長径14m 程の楕円形状の高まりが，後円部中央からくびれ部にかけて確認されていた。墳丘の土層は14層からなっている。1 層は暗褐色土の表土，2・3・4・7・11・12層は本墳の盛土である。2 層は褐色土で砂質粘土ブロックをきわめて多量に含み，3 層は暗褐色土で，4・7・12層は灰褐色土で，11層は暗褐色土である。8 層は暗褐色土で旧表土と考えられる。その下の 9・10層は褐色土で自然層であり，12層は砂質粘土の基盤層である。8 層を掘り込むように13・14層の落ち込みがある。

墳丘主軸方向　［N－60°－W］

埋葬施設　確認できなかったが，墳丘の土層から観察すると，13層は褐色土で灰褐色粘土を多量に含む層で，14層は赤褐色土で焼土小ブロックを多量に含む層であり，このC8c4区に主体部があった可能性も考えられる。

周溝　周溝は調査エリア外を除いて墳丘を全周している。断面形は，くびれ部はかなりなだらかな皿状をし，幅6.8m・深さ 0.35m であり，前方部はなだらかな皿状をし，幅 3.6m・深さ 0.40～0.45m であり，砂を含んだ黒褐色土と暗褐色土が堆積し，粘性が強く，締まりも強い。

遺物　残存墳丘中央部の南西側中層から土師器坏が出土している。これは本墳に伴うものかもしれない。周溝の前方部から埴輪が細かくつぶれた状態で出土している。くびれ部から後円部にかけてからは，前方部に比べ比較的多く，円筒埴輪や形象埴輪（馬）や人物埴輪（美豆良・腕）や須恵器甕がつぶれた状態で出土している。

出土している埴輪は，いずれも表面が劣化している。

所見　本墳は町史によると通称「女塚」と呼ばれ，本群集墳の中では数少ない前方後円墳である。埴輪から6世紀後半の古墳と考えられる。

第4号墳（第292図）

位置　調査A区の中央部，C3・D3区に確認されている。本墳の北側は，生活道路に切られているため，はっきりしない。南側くびれ部付近は第70号墳に掘り込まれている。

墳形及び規模　前方後円墳。周溝内径から全長は23.5mである。くびれ部は，道路で切断され，第70号墳に掘り込まれているため，不明である。前方部は，長さ6.0m，幅は道路で切断されているため8.5mだけの確認である。後円部は直径約17.5mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－90°－E

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で2基確認されている。第1号箱式石棺はつくば市教育委員会が既に調査し，埋め戻している。再調査を実施したが，主軸方向は，N－80°－Eであり，墳丘のくびれ部に位置し，雲母片岩により構築されている。石棺は，全長1.9m，東側幅1.0m・西側幅0.85mである。蓋石は105×80×20cmと80×70×20cmの2枚の板石が残されていた。側石は30×30cm～70×50cm程の石を小口積みにしている。小口板は東側が100×95×10cm，西側が90×85×10cmの1枚の板石をそれぞれ横位にして立てている。底石は10cm四方の小さく割った石と40cm四方の板石を敷き詰めている。側石のコーナーと小口板のコーナーを接するようにして組合せている。第2号箱式石棺は，主軸方向N－55°－Eであり，後円部中央に位置し，雲母片岩により構築されている。石棺は，全長1.05m，北東側幅0.31m・南西側幅0.25mである。蓋石は60×40×12cmの3枚の板石である。北側側石は50×30×12cmと80×30×10cmの2枚の板石を横位にして立て，南側は55×30×12cm程の2枚の板石を横位にして立て，そのつなぎ目を30×30×8cmの板石で補強している。小口板は東側・西側それぞれ40×30×10cmの1枚の板石を横位にして立てている。底石は60×40cmの2枚の板石を敷き詰めている。小口板は側石の間に組み込まれ，側石は粘土によって裏込めされている。石棺内覆土は2層からなり，上層は暗褐色，下層は黒褐色で，それぞれ炭化粒子を微量含んでいる。第2号箱式石棺は第1号箱式石棺に比べかなり小形のものであり，板石のみで構築されている点で第1号箱式石棺とは異なる。

周溝　平面形は前方後円形で，南部で幅が広くなるが，南西部ははっきりしない。南部は，幅4.1m，深さ0.8m程で皿状をしている。覆土は4層からなり，1層は黒褐色，2・3層は暗褐色，4層は褐色で，上層から下層になるにしたがいローム粒子が多く含むようになる。

遺物　後円部周溝内南側覆土からは土師器の甕・高台付坏・ミニチュア土器の坩が出土している。第2号石棺内の北コーナー付近に人骨片がわずかに残るが，副葬品はみられない。

所見　本墳は本群集墳の中で，唯一埋葬施設を複数（箱式石棺2基）もつ古墳である。本墳に伴うと考えられる遺物がないため，明確な時期は決めがたいが，箱式石棺の構造と埴輪が出土していないことから，7世紀前半の古墳と考えられる。

古墳時代

第6号墳（第293図）

位置　調査A区の北部西寄りのA２・３区に確認されている。第１～５・８・10号住居跡は古墳の周溝上に構築されており，本墳より新しい。第９号住居跡は周溝に切られており，本墳より古い。本墳の東側に第７号墳箱式石棺が，東側周溝内に，平面長方形の第129号土坑が，その隣に平面長方形の第128号土坑が位置している。共に墓壙と考えられる。本墳の西側周溝は第71号墳の周溝に掘り込まれている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約23.0mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－4°－W。

埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，主軸方向N－4°－Wで，中央部からやや南寄りに確認されている。石室は，雲母片岩により構築されており，天井石は既になく，奥壁は１枚石が据えられ，両側壁は最下段のみが残存しているだけである。平面形は，縦長の長方形プラン（やや羽子板型）で，石室の規模は，全長約5.2mである。石室は，玄室と羨道に分けられ，玄室は，長さ約2.55m，幅は奥壁で約1.75m・玄門部で1.55mである。羨道は，長さ約1.9m，幅は玄門側で約1.5m・羨門側で1.2mである。玄室と羨道の境には，0.7×0.4×0.2mの梱石が東側のみ確認されている。奥壁は2.3×1.85×0.36mの１枚石がほぼ垂直に据えられている。側壁は約1.05×0.6×0.3mの石を小口積みにしている。側壁には花崗岩がわずかに使われている。床面は小さく割れた雲母片岩や板石を敷き詰めている。石室南東部は側壁・敷石を抜かれ，撹乱を受けている。墓道が羨道から周溝まで延び，長さは約5.25m，幅は羨道付近で約1.75m・周溝付近で約1.0mである。

周溝　周溝は西側は調査エリア外に延びている。平面形は円形と考えられるが，部分的に広い部分と狭い部分があり，方形に近い円形で隅丸方形のような形状である。断面形は皿状で，南東部では幅2.2m・深さ0.4mである。覆土は２層からなり，共に暗褐色土である。

遺物　横穴式石室の羨道と玄室との仕切り際床面から二連轡，玄室の中央部やや南側から刀子片，西側壁際から数本の鉄鏃，羨道との仕切り際から鉄鏃２本，そのほかメノウ勾玉，管玉が出土している。墓道から須恵器壺が出土している。北東部周溝から人物埴輪の手が，北西端周溝から人骨片が出土している。

所見　本墳は石室の構造と出土遺物から６世紀後半と考えられる。石室の奥壁は，地元では鞍掛石と呼ばれ，周知の古墳である。

第7号墳（第294図）

位置　調査A区の北部，A３区に確認されている。本墳の西側に第６号墳が，北西に隣接して，平面長方形をした墓壙と考えられる第128・129号土坑が位置している。

墳形及び規模　不明。

墳丘　不明。

墳丘主軸方向　不明。

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で，雲母片岩により構築されている。主軸方向はN－54°－Eである。石棺は，全長2.0m，北東側幅0.55m・南西側幅0.63mである。蓋石及び南西側小口板は調査時に既になかった。北東側小口板は70×58×16cm１枚の板石を横位にして立てている。側石の一部は調査時に既に破壊されていたが，北東側小口板に一番近い左右の側石のみが横位にして立て，あとはすべて小口積みで構築されている。底石は10cm四方から30cm四方の板状の雲母片岩が３個と小さく割れた雲母片岩を敷き詰めている。側石コーナーと小口石コーナーを接するようにして組合わせている。南西側小口板の抜き取られた跡が確認できた。

周溝　本墳に伴うと思われる周溝は確認できなかった。

遺物　石棺内からの遺物は全くなかった。

所見　本墳は主体部のみで周溝を伴わないタイプと考えられるが，本群集墳の箱式石棺の中では，比較的大きく，中型のタイプである。石室・石棺の構築方法から，隣接する第6号墳より古く，6世紀後半の古墳と考えられる。

第10号墳（第296図）

位置　調査A区の北部，A4，B3・4区に確認されている。周溝の東側は第11号墳と南東部は第65号墳と重複するが，切り合いからみると，第65号墳→本墳→第11号墳の順で構築されたと考えられる。第29号住居跡は本墳の北東部周溝に掘り込まれている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約7.4mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－29°－W。

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で，墳丘のほぼ中央部から確認されている。主軸方向はN－29°－Wである。調査時には既に蓋石はなく，側石・小口板も抜き取られており，小さく割った雲母片岩を敷いた底石がわずかに残っているのみである。掘り方は，確認面で南北5.5m・東西3.6m，深さ0.7mで，底面は南北4.5m・東西2.4mである。石棺内から裏込め用と思われる粘土が確認されている。

周溝　平面形は円形で全周し，断面形は皿状である。幅・深さは，Aラインで上幅3.5m・下幅1.9m，深さ0.1m，Bラインで上幅2.1m・下幅0.9m，深さ0.7m，C－C′ラインで上幅2.3m・下幅1.3m，深さ0.4mである。覆土は4層からなり，黒褐色土と褐色土が堆積している。

遺物　箱式石棺内からの遺物の出土はみられなかった。周溝内からの出土遺物は縄文式土器がほとんどで，本墳に伴うと考えられる遺物は土師器や須恵器の小細片である。

所見　本墳は遺物が少なく，明確な時期は不明であるが，埴輪が確認できなかったので，当地域での埴輪消滅後の7世紀前半の古墳と考えられる。

第14号墳（第297図）

位置　調査A区の中央部北寄り，B3，C3区に確認されている。周溝上に床を貼って第32・33号住居跡が構築され，本墳よりも新しい。周溝の南東部を第34号墳の周溝と接している。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約26.1mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。

周溝　周溝は円形で全周している。断面形は，逆台形である。幅・深さは，Aラインで上幅1.6m・下幅1.1m，深さ0.3mで，Bラインで上幅4.4m・下幅2.2m，深さ0.7mで，C－C′ラインで上幅1.7m・下幅1.1m，深さ0.5mである。西側覆土は，10層からなり，ローム粒子や炭化粒子を含む黒褐色土・褐色土・暗褐色土が堆積している。

遺物　周溝内覆土から円筒埴輪・人物埴輪（美豆良・腕・武人埴輪の一部）・形象埴輪（馬）がつぶれた状態で出土している。周溝南側覆土中・下層から人骨片（下顎・歯）が出土した。

所見　本墳は第34号墳より古く，出土遺物から6世紀後半の築造と考えられる。

第15号墳（第298図）

位置　調査Ａ区の中央部北寄り，Ｃ４区に確認されている。本墳の東側に第51号墳，南側に第２・33号墳，西側に第４・17号墳，北側に第34・68号墳が位置している。

墳形及び規模　不明。

墳丘　不明。

墳丘主軸方向　不明。

埋葬施設　埋葬施設は小型の組合せ式箱式石棺で，雲母片岩により構築されている。主軸方向はＮ－45°－Ｅである。掘り方は確認面で長径3.5m，短径1.9m，深さ約0.7mで，底面は長径3.2m，短径1.6mである。石棺は全長2.0m，北東側幅0.5m・南西側幅0.45mである。蓋石は80×50×12cmの５枚の板石で組まれている。北東側小口板は60×42×12cmの１枚の板石を，南西側は60×40×８cmの１枚の板石を，南東側側石は70×50×12cmと82×45×12cmと44×36×14cmと30×36×14cmの３枚の板石を，北西側は70×50×16cmと52×42×12cmと72×44×16cmの４枚の板石をそれぞれ横位にして立てている。底石は20～40cmの方形や楕円形の４枚の板石と小さく割いた石を敷き詰めている。側石のコーナーと小口板のコーナーを接するようにして組合わせている。

周溝　本墳に伴う周溝は，確認できなかった。

遺物　箱式石棺内北東部から人骨片（頭部と思われる）が出土しているが，それ以外の遺物は出土していない。

所見　本墳は主体部のみで周溝を伴わないタイプと考えられるが，この調査エリア付近からは，箱式石棺のみの古墳は他に確認できなかった。人骨の出土状況から北東側が頭部，南西側が脚部と考えられる。遺物が出土していないので，明確な時期は不明であるが，石棺の構築方法から７世紀前半と推定される。

第16号墳（第299図）

位置　調査Ａ区の中央部西寄り，Ｄ２・３区に確認されている。西側は調査エリア外に延びている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約20.6mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。西側調査エリア外に位置する可能性も考えられる。

周溝　平面形は円形で，断面形は皿状である。幅・深さは，Ａラインで上幅2.9m・下幅0.9m，深さ0.6m，Ｂ－Ｂ′ラインで上幅3.7m・下幅1.5m，深さ0.5mである。覆土は３層からなり，ローム粒子を含んだ黒褐色土と暗褐色土が堆積している。

遺物　北東部周溝内から円筒埴輪・形象埴輪馬鈴がつぶれた状態で，南東部周溝覆土から土師器坏が出土している。

所見　本墳は出土遺物から６世紀後半に築造されたものと思われる。

第18号墳（第300図）

位置　調査Ａ区の中央部，Ｄ３・４区に確認されている。第17号墳に掘り込まれている。

墳形及び規模　円墳。全長は重複関係　が著しく，明確ではないが，約19.0mと考えられる。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　Ｎ－12°－Ｗ

埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，主軸方向はＮ－12°－Ｗである。調査時には，既に天井石はなく，奥壁も抜き取られていた。規模は全長約4.2mで，玄室は長さ約2.55m，幅は奥壁部で約1.9m・玄門部で1.5mの羽

子板状プランである。羨道は長さ約1.6m，幅約0.85mの長方形プランをもつが，玄室に比べ幅がかなり狭くなり，石室は両袖タイプと考えられる。側壁は，玄室・羨道共に40×20×15cm～80×40×20cmの雲母片岩を小口積みにしている。床面は，板状にした20×15cm～90×75cmの雲母片岩を敷きつめているが，羨道では剝がされている。玄室と羨道の境に梱石が置かれている。羨道に長さ5.5m，幅1.1mの墓道が続き，周溝まで延びている。

周溝　平面形は円形と考えられるが，はっきりしない部分が多い。南西部は陸橋部としての掘り残しの可能性も考えられるが，周溝は確認できなかった。北側は第17号墳に掘り込まれているため，不明である。東側は撹乱をうけているためか，はっきりしない。断面形は上幅1.0m・下幅0.5m，深さ0.6mで，皿状をしている。

遺物　横穴式石室の玄室の奥壁際から刀子と人骨片，羨道東側覆土中層から琥珀製棗玉，東壁際から鉄鏃，西壁際から水晶製切子玉，そのほかガラス玉が出土している。横穴式石室から続く墓道から人物埴輪（男子全身立像）が出土している。

所見　本墳の明確な時期は不明であるが，人物埴輪から7世紀初頭頃と考えられる。隣接する第19号墳よりは，古いと考えられる。

第19号墳（第301図）

位置　調査A区の中央部南寄りのD3，E3区に確認されている。

墳形及び規模　円墳。北西部と南東部に陸橋部としての掘り残しが見られる。周溝内径は約16.0mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－50°－E。

埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，中央部からやや南東部寄りに確認され，雲母片岩により構築されている。主軸方向はN－50°－Eである。掘り方は確認面で南北6.2m，東西2.9m，深さ0.6mで，底面は南北5.5m，東西2.5mである。調査時には既に天井石はなく，側壁は根石のみである。羨道の西側側壁もすべて抜き取られている。奥壁も抜き取られ，その痕跡と思われる撹乱穴が確認できた。この撹乱穴から，奥壁は1枚石と考えられる。石室は，羨道と玄室に分けられ，玄室は前室と後室とに分かれる複式構造である。前室と後室の境に仕切り石が横長に2枚ほぼ垂直に据えられている。規模は全長約4.5m，玄室は長さ3.35m，後室は長さ2.0m，幅は奥壁部で1.46m・仕切り部で1.3mである。前室は長さ1.15m，幅は仕切り部で1.34m・玄門部で1.2mの羽子板状プランである。羨道は長さ1.12m，幅は玄門側で1.3m・羨門側で1.25mの長方形プランをもつ。玄室と羨道は，ほとんど同じ幅で石室は無袖タイプと考えられる。羨道から長さ約3.0m・幅約1.4mの墓道が周溝まで延びている。玄室と羨道の境には梱石が置かれている。側壁は60×30×10cmの石を小口積みにして構築されている。玄室の床面から羨道の一部にかけて10～20cmの雲母片岩の小石が敷き詰められている。

周溝　平面形は円形で，断面形は皿状である。幅・深さは，C－C′ラインで上幅2.1m・下幅1.2m，深さ0.3m，D－D′ラインで上幅1.5m・下幅0.73m，深さ0.41mである。覆土は3層からなり，黒褐色土・暗褐色土・褐色土が堆積し，しまりは弱い。

遺物　横穴式石室の玄室の西側壁際から直刀・小刀，北西コーナー壁際から刀子・金銅製耳環，中央部から瑪瑙勾玉・鉄製耳環・銅製鈴が出土している。周溝内南東部から土師器坏，北西部から鉄鏃が出土している。

所見　本墳の横穴式石室は，本群集墳のなかでは中規模程度のものであるが，遺物の残存は比較的良好である。本墳は出土遺物から判断して，本群集墳の中心的位置を占めるものと思われる。時期は直刀や鉄鏃から，また，埴輪が出土していないことから，隣接する第18号墳よりは新しく，7世紀前葉頃と考えられる。

第20号墳（第302図）

位置　調査A区の南部西寄り，E2・3区に確認されている。西側は調査エリア外に延びている。周溝上に第106号住居跡が床を貼って構築されている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約16.0mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。調査エリア外の西側に存在する可能性も考えられる。

周溝　平面形は円形で，断面形は皿状である。幅・深さは，Aラインで上幅3.4m・下幅1.7m，深さ0.7m，B－B′ラインで上幅3.7m・下幅2.4m，深さ0.4mである。覆土は3層からなり，ローム粒子・小ブロックを少量含む黒褐色土で，しまりが強い。

遺物　周溝内東側から円筒埴輪・人物埴輪がつぶれた状態で，南東部覆土中から土師器坏・高坏が，北側覆土から坩・鉄鎌が出土している。

所見　本墳は出土遺物から6世紀後半に築造されたものと考えられる。

第21号墳（第303図）

位置　調査A区の南部，E3，F3区に確認されている。北東部は第22号墳の後円部南西部を掘り込んでいる。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約15.0mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－43°－E。

埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，雲母片岩により構築されている。主軸方向N－43°－Eで，中央部からやや南東寄りに確認されている。調査時には既に天井石はなく，奥壁も抜き取られていた。石室は，羨道と玄室に分けられ，規模は全長約4.7m，玄室は長さ約2.6m，幅は奥壁部で1.36m・玄門部で1.41mで長方形プランである。羨道は長さ1.85m，幅は玄門側で1.34m・羨門側で1.32mで長方形プランをもつ。石室は無袖タイプと考えられる。羨道から長さ約2.5m・幅約1.5mの墓道が周溝まで延びている。羨道と玄室の境には梱石が置かれている。側壁の構築は東側は奥壁に近い根石と西側の玄門に近い根石とだけが横長に据えられ，あとはすべて小口積みである。玄室の床面には15×20～50×70cmの石が一面に敷かれている。羨道の床面の石は剝がされている。

周溝　平面形は円形で全周し，断面形は皿状である。幅・深さは，Aラインで上幅2.4m・下幅1.0m，深さ0.34m，B－B′ラインで上幅3.0m・下幅0.8m，深さ0.6m，C－C′ラインで上幅1.9m・下幅0.6m，深さ0.34mである。覆土は3・4層からなり，黒褐色土と暗褐色土が堆積している。

遺物　横穴式石室玄室南東壁際床面から飾太刀・直刀・刀子・鉄鏃・銅釧・鉸具・轡引手輪，その他玄室内から馬鈴・碧玉製管玉，奥壁前床面から水晶切子玉と人骨片が出土している。人骨片は，床面から若干浮いた状態でみられる。中央部覆土中層から琥珀玉，羨道中央部床面から埦具・刀子，中央部覆土下層からガラス玉，南西部からガラス玉と切子玉が出土している。墓道東側から須恵器壺・甕が出土している。周溝南西部からつぶれた状態で円筒埴輪・人物埴輪（武人の胴部）・形象埴輪（鳥か・馬の尾）が出土している。その他，周溝内から土師器坏・坩，須恵器大甕・甕・鉢が出土している。

所見　本墳は第22号墳より新しい古墳であり，横穴式石室の出土遺物から，7世紀初頭頃と考えられる。

第22号墳（第304図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｅ３・４区に確認されている。後円部の南西は第21号墳に掘り込まれている。

墳形及び規模　帆立貝式。周溝内径は約29.0mであり，くびれ部幅5.5m，前方部幅7.8m・長さ6.0m，後円部は直径23.0mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　Ｎ－29°－Ｗ。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。

周溝　平面形は帆立貝の形をした前方後円形で，断面形は皿状である。幅・深さは，Ａ－Ａ′ラインで上幅3.7m・下幅1.5m，深さ0.6m，Ｂ－Ｂ′ラインで上幅3.1m・下幅1.4m，深さ0.6m，Ｃ－Ｃ′ラインで上幅3.0m・下幅2.1m，深さ0.5m，Ｄ－Ｄ′ラインで上幅3.6m・下幅2.6m，深さ0.4mである。覆土は4層からなり，ローム粒子・小ブロックを中量含んだ黒褐色土と暗褐色土が堆積している。

遺物　東側の前方部から後円部にかけての周溝の墳丘側から円筒埴輪・人物埴輪（腕）・形象埴輪（鳥・馬）がつぶれて底面から浮いた状態で出土している。盾持埴輪は前方部周溝内側からつぶれた状態で出土している。その他須恵器甕・長頸壺・坏・蓋が出土している。須恵器甕は周溝くびれ部から出土している。

所見　本墳は第21号墳より古い古墳である。帆立貝式タイプの古墳で，埴輪のもつものである。埴輪から6世紀後半の古墳と考えられる。

第26号墳（第306図）

位置　調査Ａ区の南部東寄り，Ｅ４，Ｆ４区に確認されている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約17.5mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。

周溝　平面形は円形で，断面形は皿状である。幅・深さは，Ａラインで上幅3.2m・下幅1.3m，深さ0.6m，Ｂラインで上幅2.4m・下幅0.9m，深さ1.0m，Ｃ－Ｃ′ラインで上幅2.5m・下幅1.3m，深さ0.7mである。覆土は3層からなり，暗褐色土と褐色土が堆積し，しまりは強い。

遺物　周溝内から多量の円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪と須恵器坏が出土している。これらの円筒埴輪は，周溝内側の覆土上・中層からつぶれた状態で出土しているので，墳丘の縁に並べて置いたものが，周溝が埋まるときに，自然に流れて行ったように考えられる。円筒埴輪は東側から北側，西側にかけて特に多量に出土している。南側覆土上層から人物埴輪（頭・首・美豆良）・形象埴輪（水鳥・馬）・盾持埴輪が出土している。人物埴輪頭はうつ伏せの状態で，盾持埴輪は盾の部分を下向きにし，顔の部分もつぶれた状態で出土している。この盾持埴輪は盾の上部に顔が乗り，顔の上に小鳥が横向きで乗っているものである。

所見　本墳の埴輪の出土状況は，周溝内から極めて多量の円筒埴輪が出土している点と南側から形象埴輪である人物と水鳥と盾持埴輪がまとまって出土している点で，本群集墳の中では特徴的である。形象埴輪は，周溝南東部からしか出土していない。これは，埴輪樹立に特別な意味があるように思える。主体部が確認できなかったので，明確なことは言えないが，この南東部を意識して，何か祭祀的な行為が行われたことが考えられる。時期は須恵器坏（ＭＴ15～ＴＫ10と考えられる）から6世紀前半であるが，埴輪から6世紀後半と考える。

第29号墳（第307図）

位置　調査Ａ区の南部，Ｆ３区に確認されている。

墳形及び規模　不明。

墳丘　不明。

墳丘主軸方向　不明。

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で，雲母片岩により構築されている。主軸方向はＮ－４°－Ｗである。蓋石の一部は調査時に現存していた。石棺は全長1.68m，北側幅0.86m・南側幅0.71mである。東側側石は60×110×13cmと65×70×８cmと60×35×８cmの３枚の板石を，西側は150×50×13cmと70×50×12cmの２枚の板石をそれぞれ横位にして立てている。南側小口板は70×50×10cmの１枚の板石を横位にして立てているが，北側は抜き取られている。底石は30～40cmと10～20cm四方の板石を全面に敷いている。石のつなぎ目には粘土が使用されている。小口板は側石の間に組み込まれている。

周溝　本墳に伴うと考えられる周溝は確認できなかった。

遺物　本墳に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

所見　本墳は主体部のみで周溝の伴わないタイプと考えられるが，箱式石棺の規模が，他の主体部のみで周溝の伴わないタイプの古墳よりも大きい。また，主軸方向は南北方向で，本古墳群の箱式石棺では数少ない一つである。時期は，重複関係・出土遺物がないため不明であるが，石棺の組み方から７世紀前半と推定される。

第32号墳（第308図）

位置　調査Ａ区の中央部東側，Ｄ５・６，Ｅ５・６区に確認されている。南東部がわずかに調査エリア外に延びている。

墳形及び規模　円墳。北東部に陸橋部として掘り残しが見られる。周溝内径は約25.0ｍである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　Ｎ－43°－Ｗ。

埋葬施設　墳丘と周溝内を精査したが，確認できなかった。

周溝　平面形は円形で，断面形は逆台形状をしている。幅・深さは，Ａ－Ａ′ラインで上幅4.0m・下幅2.6m，深さ1.0m，Ｂ－Ｂ′ラインで上幅5.4m・下幅1.5m，深さ0.9m，Ｃ－Ｃ′ラインで上幅4.8m・下幅1.1m，深さ1.1m，Ｄ－Ｄ′ラインで上幅5.3m・下幅1.6m，深さ0.7mである。覆土は東側では４層で，ローム粒子を中量含む暗褐色土と褐色土が堆積し，西側ではローム粒子を多量に含むしまりの強い褐色土と暗褐色土が堆積している。

遺物　周溝内から円筒埴輪・人物埴輪（頭・腕）・形象埴輪（四足の動物）がつぶれて，底面から浮いた状態で出土している。周溝北西端から土師器甕がつぶれた状態で出土している。

所見　本墳は出土遺物から６世紀後半の築造と考えられる。

第34号墳（第309図）

位置　調査Ａ区の中央部北寄り，Ｃ３・４区に確認されている。本墳の主体部は第68号墳の周溝を壊して構築している。東側周溝は第35号墳の周溝に掘り込まれ，南東部周溝は第14号墳の周溝を掘り込んで構築している。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約26.5mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－6°－W。

埋葬施設　埋葬施設は横穴式石室で，墳丘の中央部から南側に確認され，雲母片岩により構築されている。主軸方向はN－6°－Wである。天井石は調査時には既になく，奥壁も既に抜き取られ，その痕跡と思われる大きな撹乱穴がある。この痕跡から奥壁は1枚石と考えられる。石室の掘り方は，長さ約6.3m，幅約3.5mの隅丸長方形状を示している。規模は全長約4.75m，玄室は長さ約3.2m・幅は奥壁部で約2.1m・玄門部で約1.5mの羽子板状プランである。羨道は長さ約1.7m，幅は玄門側で約1.3m・羨門側で1.0mと若干幅は狭くなるが長方形プランをもち，石室は無袖タイプと考えられる。羨道に続いて，長さ4.8m・幅1.8mの墓道が周溝まで延びている。側壁は上段の石は削平されてなく，下段の石は雲母片岩の切石を小口積みにして構築している。床面は，玄室では10×15cm～30×40cmの雲母片岩を敷き詰めているが，羨道では剝がされている。

周溝　平面形は円形で全周している。断面形は逆台形状で，上幅3.3m・下幅1.2m，深さ0.9mである。覆土は4層からなり，ローム粒子を含んだ黒褐色土・褐色土・暗褐色土が堆積している。

遺物　横穴式石室玄室西壁寄りから直刀・刀子が出土している。墓道底面直上から土師器坏が正位の状態で，その他石製模造品が出土している。周溝内から朝顔形円筒埴輪・人物埴輪（腕・美豆良）・形象埴輪（鹿の角？）が出土している。特に西側から多く出土している。流れ込みと考えられる湖西産の長頸瓶が北東部覆土から出土している。

所見　本墳は出土遺物から6世紀末から7世紀初めの時期と考えられる。

第41号墳（第313図）

位置　調査A区の北部東寄り，B4区に確認されている。周辺に箱式石棺のみと考えられる第42・43・46・47・48号墳が確認されている。

墳形及び規模　不明。

墳丘　不明。

墳丘主軸方向　不明。

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で，雲母片岩により構築されている。主軸方向はN－75°－Eである。調査時に蓋石とおもわれる20cm四方の雲母片岩の板石が3つ確認できた。石棺は全長1.58m，北東側幅4.8m・南西側幅5.8mである。北側側石は62×56×16cm，58×60×11cm，60×50×11cmの3枚の板石を，南側は52×61×18cm，52×58×14cm，43×55×16cm，39×52×11cmの4枚の板石をそれぞれ横位にして幾分内傾して立てている。東側小口板は63×69×18cmの1枚の板石を，西側は55×60×10cmの1枚の板石をそれぞれ横位にしてほぼ垂直に立てている。底石は35×45cm～35×55cmの4枚の板石を敷き詰めている。東側小口板は北側側石を挟むように，南側側石には挟まれるように組合されている。西側小口板は南北両側石の間に挟まれて組合わされている。北東側小口板と側石と側石のつなぎ目には，粘土が詰められている。

周溝　本墳に伴う周溝は確認できなかった。

遺物　箱式石棺南西部覆土から耳環（銅地銀張り）が出土している。

所見　本墳は，周辺から確認されている第42・43・46・47・48号墳同様に，周溝の伴わない埋葬施設，あるいは，周溝外の埋葬施設の古墳と考えられる。時期は耳環から判断することは難しいが，石棺の構造と合わせて判断すると，7世紀前半と推定される。

第61号墳（第319図）

位置　調査Ａ区の南部東寄り，Ｅ５区に確認されている。

墳形及び規模　不明。

墳丘規模　不明。

墳丘主軸方向　不明。

埋葬施設　埋葬施設は埴輪円筒棺で，埴輪円筒棺の主軸方向はＮ－86°－Ｅである。本群集墳で通常に見られる円筒埴輪を２本使用し，円筒埴輪を横位に合わせ，接点を粘土で塞いだ状態で確認された。埴輪円筒棺の上部は削られているが，２個体とも完形であったものと考えられる。埴輪円筒棺は，地山を掘り込んだ幅2.2m，長さ1.2m，深さ0.45mの土坑の上層に，幾分盛り上がるようにして埋設してあった。土坑の形状は隅丸長方形で，長軸方向はＮ－54°－Ｗである。埴輪棺内の覆土からは，極少量の骨片が確認されている。

周溝　本墳に伴うと考えられる周溝は，確認できなかった。

遺物　副葬品はみられない。

所見　本墳は周溝を伴わない埋葬施設，あるいは，周溝外の埋葬施設の古墳と考えられる。本群集墳では，比較的小型の箱式石棺も周溝を伴っていない。この点を考え合わせると，埴輪円筒棺の被葬者は，周溝を伴わないタイプの古墳と同様な可能性が考えられる。本墳の時期については，円筒埴輪から６世紀後半と考えられる。

第64号墳（第320図）

位置　調査Ａ区の北部南西寄り，Ｂ３区に確認されている。南西コーナーは，第63号墳に掘り込まれている。

墳形及び規模　方形周溝墓。周溝内法で東西9.5m，南北9.3mである。

墳丘規模　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　Ｎ－72°－Ｅ。

埋葬施設　周溝内北西コーナーから土坑に埋設された合口壺棺が確認された。土坑の平面形は，長径1.5m，短径1.27mの不整円形で，深さ0.67mであり，長軸方向はＮ－46°－Ｗである。合口壺棺は第358図３大型の壺を正位に据えて，その上に２の壺の上半部を逆位にし，さらに，その上に１の甕の胴部片をのせている。この壺棺から少量の骨片が確認されている。

周溝　平面形は方形で，断面形はやや深めの逆台形状である。幅・深さは，Ａ－Ａ′ラインで上幅1.30m・下幅0.60m，深さ0.80mで，Ｂ－Ｂ′ラインで上幅1.50m・下幅0.66m，深さ1.14mで，Ｃ－Ｃ′ラインで上幅1.50m・下幅1.04m，深さ1.18mである。覆土は，２・３層からなり，褐色土と暗褐色土が堆積している。

遺物　周溝内から土師器台付甕が出土している。周溝内土坑から第358図１の甕と２・３の壺が埋葬施設として出土している。

所見　本墳は当初，溝と考え，第10号溝として扱っていたが，溝の状況や合口壺棺から方形周溝墓と判断し，第64号墳として調査した。時期は出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

第66号墳（第321図）

位置　調査Ａ区南部から東へ60m程離れたＥ６・７区に確認されている。東側はなだらかに傾斜している調査エリア外に延びている。

墳形及び規模　円墳と推定される。周溝内径は約18.4mである。

墳丘　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。

墳丘主軸方向　N－9°－W。

埋葬施設　埋葬施設は組合せ式箱式石棺で，墳丘の中央部からやや南東側に確認された。主軸方向は，N－9°－Wである。この箱式石棺は，雲母片岩により構築されているが，底石が確認されただけである。掘り方は，確認面で長軸4.2m，短軸2.5mである。石棺は全長2.6m，幅1.45mである。底石は雲母片岩を小さく割ったものである。側石は1枚岩を立てたもので，その痕跡が見られる。

周溝　平面形は円形である。断面形は皿状で，幅1.1～1.94m，深さ0.4mである。北・東側は調査エリア外に延びている。南東部は陸橋部として掘り残してある。

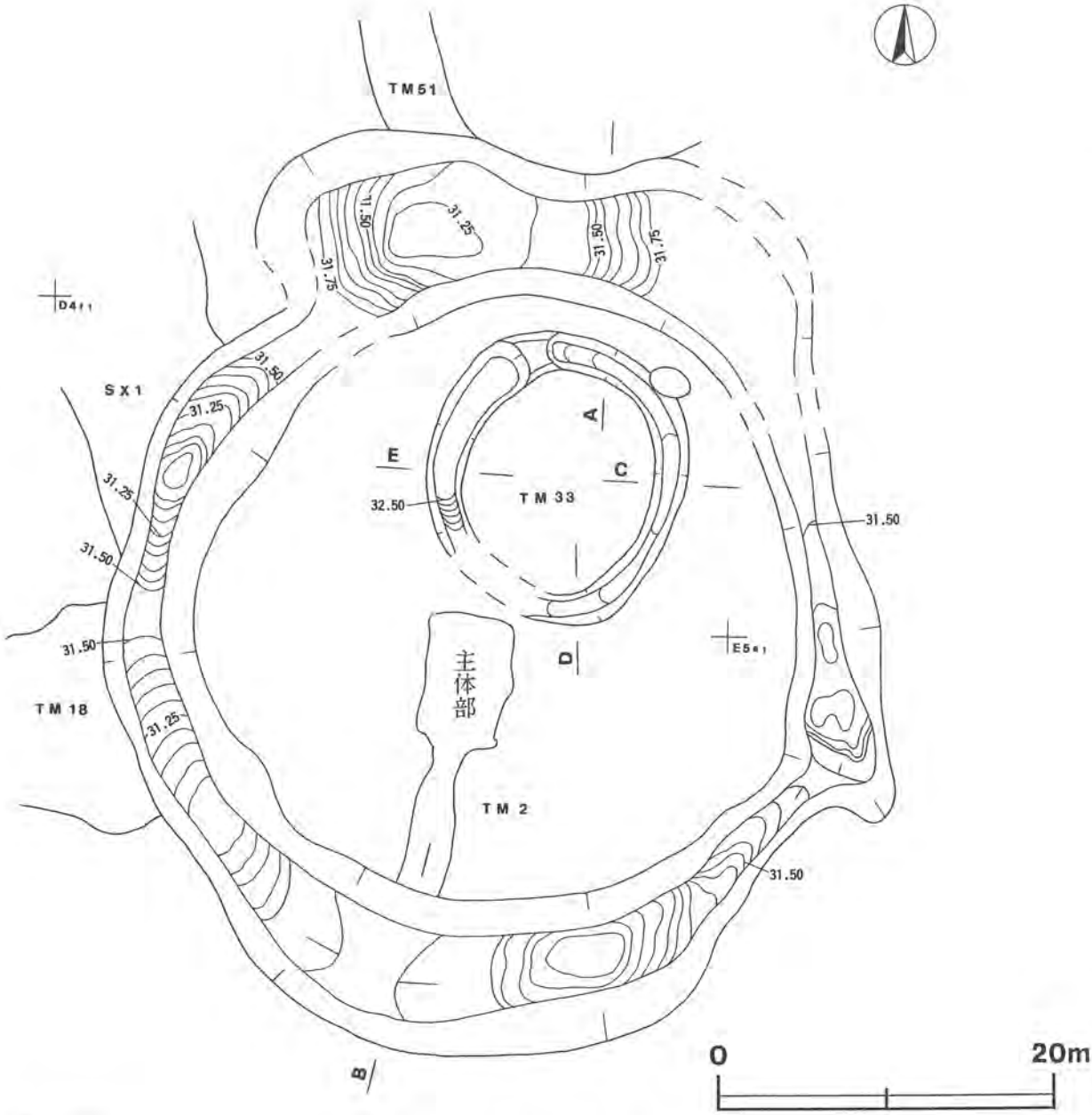
遺物　箱式石棺中央部やや北寄り底面直上で石製小玉10個と水晶切子玉1個が，中央部底面直上で琥珀玉2個が，南西部底面直上で不明鉄製品がそれぞれまとまった状態で出土している。

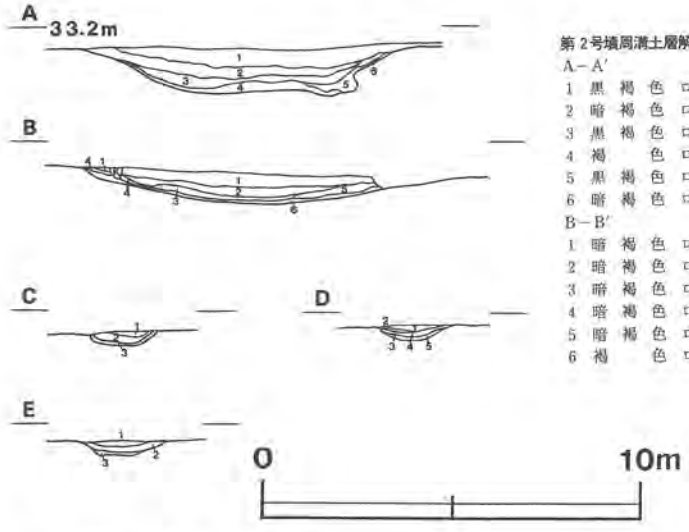
所見　本墳の埋葬施設は箱式石棺と考えているが，底石のみであり明確ではない。本古墳群から確認された箱式石棺・横穴式石室とは，底石が雲母片岩を小さく割ったものを敷き詰めている（横穴式石室的である）こと，側石は1枚石を立てている（箱式石棺的である）こと，墓道がみられない（箱式石棺的である）ことなどいくつかの相違点がみられる。以上の点から横口式石槨（武者塚タイプ）の可能性も考えられる。時期は埴輪が出土していない点と埋葬施設の構造から7世紀前半と考えられる。

表9　古墳一覧表

古墳名	位置（区）	墳型	墳丘規模（m）					墳丘主軸方向	埋葬施設			周溝			備考 旧→新
			全長	後円部径	くびれ部幅	前方部幅	残存高		主体部	主軸方向	遺物	幅（m）	深さ（m）	遺物	
2	D4・5, E4・5	円墳	53.2	－	－	－	－	N－9°－E	横穴式石室	N－9°－E	鞍金具（鉄地金銅張鋲留）・馬鈴2金銅製耳環・直刀・刀子・鉄鏃・鉸具	13.8～7.5	1.2	円筒埴輪，形象埴輪（盾），人物埴輪（美豆良・腕・足）	TM33→TM2 第288,289,290図
3	C7・8	前方後円墳	[39.0]	[23.0]		[11.0]	1.5	[N－60°－W]				3.6	0.45	円筒埴輪，人物埴輪（美豆良・腕），形象埴輪（馬）須恵器（甕）	墳丘から鉄鋼 第291図
4	C3, D3	前方後円墳	26.7	不明	(6.6)	20.4	－	N－90°－E	箱式石棺1	N－80°－E		4.1	0.8		TM4→TM70 第292図
									2	N－50°－E					
6	A2・3	[円墳]	23.0	－	－	－	－	N－4°－W	横穴室石室	N－4°－W	二連轡・刀子・鉄鏃・瑪瑙勾玉・管玉・須恵器（壺）	1.7～1.2	0.35	円筒埴輪，人物埴輪	TM7→TM6→TM71 第293,294図
7	A3	－	－	－	－	－	－	－	箱式石棺	N－56°－E		－	－		TM7→TM6 第294図
8	B3	[円墳]	17.5	－	－	－	－	N－3°－E	－	－		3.2～1.7	0.5		第295図
9	A3, B3	方形周溝墓	11.0	－	－	－	－	N－9.5°－W	－	－		2.5～1.5	0.7	土師器（甕・台付甕）	第295図
10	A4, B3・4	円墳	7.4	－	－	－	－	N－29°－W	箱式石棺	N－29°－W	不明鉄製品	1.4～0.8	0.3	埴輪を持たない	南東部が浅い（ブリッチとしての掘り残し）TM10→TM11 第296図
11	A4, B4	円墳	12.3	－	－	－	－	N－2°－W	－	－		2.1～1.2	0.5	埴輪をもたない	TM10→TM11 第296図
12	A4, B4	[円墳]	16.4	－	－	－	－	N－4°－W	－	－		1.65～0.9	0.5	埴輪をもたない	
13	B3・4, C3・4	円墳	19.45	－	－	－	－	N－53°－E	－	－		3.0～1.7	1.1	埴輪をもたない	ブリッチを持つ 第297図
14	B3, C3	円墳	26.1	－	－	－	－	N－81°－E	－	－		4.4～1.6	0.7	円筒埴輪，人物埴輪（腕・美豆良・武人），形象埴輪（馬）	TM14→TM34 第297,298図
15	C4	－	－	－	－	－	－	－	箱式石棺	N－45°－E		－	－		第298図
16	D2・3	[円墳]	20.6	－	－	－	－	N－6°－E	－	－		3.3～1.5	0.7	円筒埴輪	第299図
17	D3	円墳		－	－	－	－		－	－		1.0～0.8	0.30	埴輪をもたない	TM18→TM17 第299図
18	D3・4	円墳	[19.0]	－	－	－	－		横穴式石室	N－12°－W	水晶切子玉・ガラス玉・棗玉・鉄鏃	1.0	0.6	人物埴輪（男子全身立像・足），形象埴輪（馬の腹部か）	TM18→TM17 第300図
19	D3, E3	円墳	16.0	－	－	－	－	N－50°－E	横穴式石室	N－50°－E	直刀・小刀・鉄鏃・瑪瑙勾玉・金銅製耳環	1.4～0.5	0.4	埴輪をもたない	第301,302図
20	E2・3	[円墳]	16.0	－	－	－	－	N－3.5°－E	－	－		3.4～1.6	0.7	鉄鏃，円筒埴輪，人物埴輪	第302図
21	E3, F3	円墳	15.0	－	－	－	－	N－43°－E	横穴式石室	N－43°－E	飾大刀・直刀・刀子・馬鈴・鉄鏃・銅釧・鉸具2・切子玉・琥珀玉・ガラス玉・碧玉製管玉・雲母耳輪 須恵器（壺・甕）	2.9～1.3	0.7	円筒埴輪，人物埴輪（武人の胴部），形象埴輪（鳥か・馬の尾），須恵器（大甕・甕）	TM22→TM21 第302,303,304図
22	E3・4	帆立貝式	29.0	－	－	－	－	N－29°－W	－	－		4.0～2.0	0.6	円筒埴輪，人物埴輪（腕），形象埴輪（鳥・馬），盾持埴輪，不明鉄製品，須恵器（甕・長頸壺・坏・甕）	TM22→TM21 第304図

古墳名	位置(区)	墳型	墳丘規模(m) 全長	後円部径	くびれ部幅	前方部幅	残存高	墳丘主軸方向	埋葬施設 主体部	主軸方向	遺物	周溝 幅(m)	深さ(m)	遺物	備考 旧→新
23	E4	円墳		—	—	—	—	N−75°−W	箱式石棺	N−75°−W		0.94〜0.4	0.5〜0.9	埴輪をもたない	第305図
24	E4・5	円墳	14.3	—	—	—	—	N−0°	—	—		1.8〜1.2	0.8	埴輪をもたない	第305図
25	F3	円墳	9.8	—	—	—	—	N−0°	—	—		1.0〜0.5	0.3	埴輪をもたない	第305図
26	E4,F4	円墳	17.5	—	—	—	—	N−0°	—	—		3.0〜1.3	0.9	円筒埴輪，朝顔形円筒埴輪，人物埴輪（頭・首・美豆良），形象埴輪（水鳥・馬），盾持埴輪，須恵器（坏），土師器（坏），双孔円板	第306図
27	F4	(円墳)	12.0	—	—	—	—	N−13°−W	—	—		1.6〜0.8	0.4	埴輪をもたない	第306図
28	F4	[円墳]	[19.1]	—	—	—	—	N−0°	—	—		1.4〜0.5	0.3	埴輪をもたない	第307図
29	F3	—		—	—	—	—	—	箱式石棺	N−4°−W		—	—		第307図
30	F2	[円墳]	(20.0)	—	—	—	—	N−95°−E	—	—		3.4〜1.1	0.9	埴輪をもたない	第307図
31	F1	[円墳]	(3.7)	—	—	—	—	N−10°−E	—	—		2.0〜0.9	0.8	埴輪をもたない	第308図
32	D5・6, E5・6	円墳	25.0	—	—	—	—	N−43°−W	—	—		4.3〜2.8	1.0	円筒埴輪，人物埴輪（頭・腕），形象埴輪	第308図
33	D4	円墳	17.2	—	—	—	—	N−0°	—	—		2.3〜1.9	0.3	円筒埴輪	TM33→TM2 第288,291図
34	C3・4	円墳		—	—	—	—	N−0°	横穴式石室	N−92°−E	直刀・刀子	3.3	0.9	朝顔形円筒埴輪，人物埴輪（腕・美豆良），形象埴輪（鹿の角）	TM68→TM34 第309,310図
35	C4	[円墳]	(16.0)	—	—	—	—	N−2°−W	—	—		2.6〜1.5	0.4	埴輪をもたない	第309図
36	B4, C4・5	[円墳]	[12.1]	—	—	—	—	N−108°−W	—	—		1.3〜0.7	0.5	円筒埴輪	第311図
37	F3・4	円墳	16.5	—	—	—	—	N−16°−W	—	—		1.3〜0.9	0.4	埴輪をもたない	第311図
38	F3	[円墳]	15.0	—	—	—	—	[N−0°]	—	—		2.3〜1.3	1.0	埴輪をもたない	第311図
39	F2・3	円墳	14.1	—	—	—	—	N−0°	箱式石棺	N−92°−E	金環	1.1〜0.7	0.3	埴輪をもたない	第312図
41	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−75°−E	耳環（銅地銀張）	—	—		第313図
42	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−85°−W		—	—		第313図
43	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−8°−W		—	—		第313図
44	F3	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−8°−W		—	—		第314図
45	F2	[円墳]							箱式石棺		耳環	—	—		第314図
46	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−61°−E		—	—		第313図
47	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−63°−E		—	—		第313図
48	B4	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−4°−W		—	—		第313図
49	C2	円墳										—	—		第315図
50	C3	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−17°−E		—	—		第315図
51	C4, D4	[円墳]	18.0	—	—	—	—	N−8°−E	—	—		3.6〜2.5	0.8	埴輪をもたない	第315図
52	F1・2	円墳	16.3	—	—	—	—	N−0°	箱式石棺	N−102°−E		2.6〜0.9	0.8	埴輪をもたない	第316図
53	F1	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺	N−2°−E		—	—		第316図
56	F5	円墳	—	—	—	—	—	[N−0°]	—	—		2.8	2.2	人物埴輪（腕）	第316図
57	F4・5	円墳	8.4	—	—	—	—	N−40°−W	—	—		1.1〜0.8	0.6	埴輪をもたない	第317図
58	E5,F5	帆立貝式	15.6	—	—	—	—	N−20°−W	箱式石棺	N−20°−W		1.0〜0.5	0.4	刀子，埴輪をもたない	第317図
59	E5	円墳	—	—	—	—	—	—	箱式石棺(エリア外)			1.1〜0.9	1.1	土師器（短頸壺），埴輪をもたない	第318図
60	E5	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺		不明鉄製品	—	—		第318図
61	E5	—	—	—	—	—	—	—	埴輪円筒棺	N−86°−E	円筒埴輪2本	—	—		第319図
62	E5	—	—	—	—	—	—	—	箱式石棺			—	—		第319図
63	B2・3	円墳	18.4	—	—	—	—	—	—	—		2.7〜1.8	1.0	須恵器（提瓶），埴輪をもたない	第319図
64	B3	方形周溝墓	9.5	—	—	—	—	N−72°−E	合口壺棺	N−46°−W	土師器（壺）	1.5〜1.3	1.2	土師器（甕・壺・鉢）	第320図
65	B3・4	[円墳]	11.2	—	—	—	—	N−45°−E	—	—		1.3〜0.6	0.5	埴輪をもたない	第321図
66	E6・7	[円墳]	18.4	—	—	—	—	N−9°−W	箱式石棺	N−9°−W	不明鉄製品・水晶製切子玉・石製小玉・琥珀玉	1.94〜1.1	0.4	埴輪をもたない	第321図
67	A3	前方後円墳	—	—	14.19	[18.9]	—	N−97°−W	—	—		2.69〜1.6	0.57	形象埴輪	第321,322図
68	C3・4	円墳	11.8	—	—	—	—	N−0°	—	—		1.3〜0.7	0.9	埴輪をもたない	第309図
69	D3	[円墳]	[8.6]	—	—	—	—	N−0°	—	—		0.98〜0.6	0.2	形象埴輪	第322図
70	D3	円墳										1.2	0.4		TM4→TM70 第292図
71	A2	円墳	—	—	—	—	—	—				1.5	0.5		TM6→TM71 第293図
72	D6	—	—	—	—				箱式石棺			—	—		SK351としたが，箱式石棺の痕跡が見られ，TM72とした 第322図





第 2号墳周溝土層解説表

A－A′
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
5 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量

B－B′
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
6 褐 色 ローム粒子多量

TM 2·33

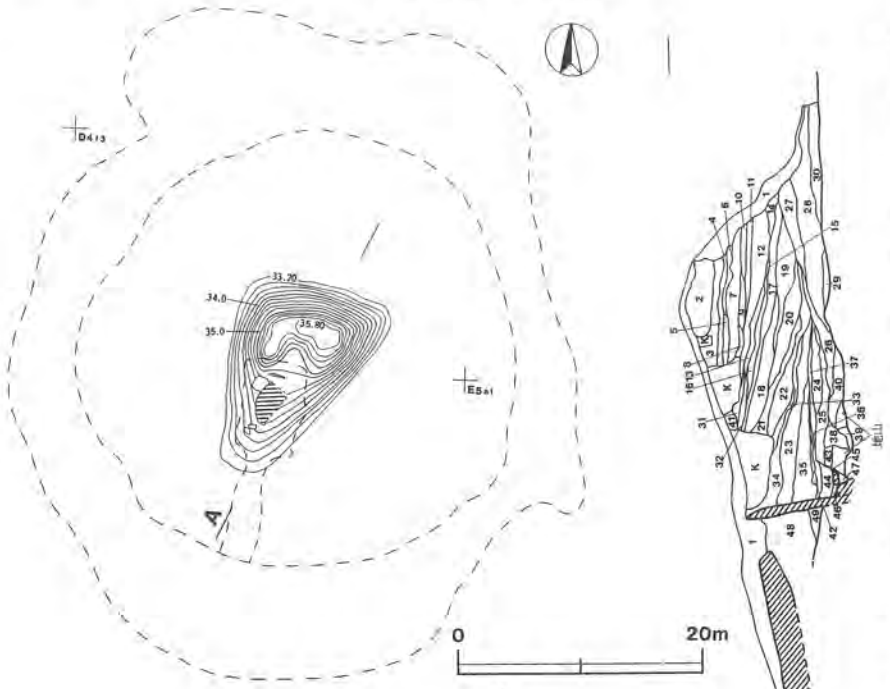
第288図 第 2・33号墳

第33号墳周溝土層解説表

C－C′
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量

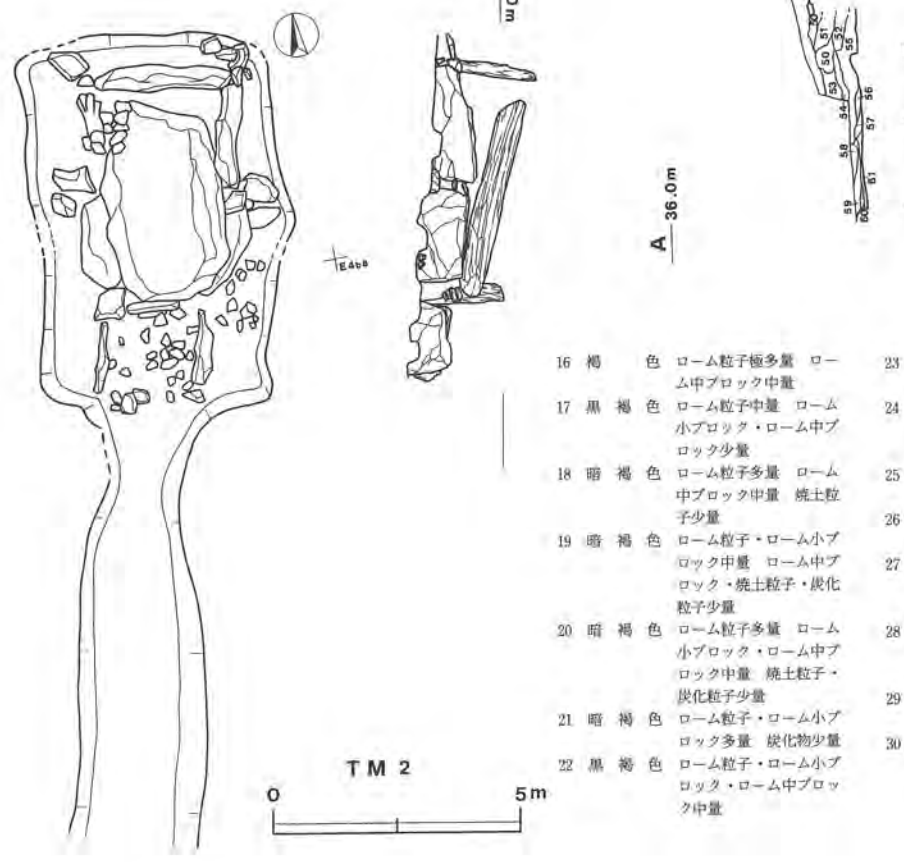
D－D′
1 黒 褐 色 炭化粒子中量 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量

E－E′
1 黒 褐 色 炭化粒子多量 ローム粒子少量
2 黒 褐 色 炭化粒子多量 ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量



第2号墳墳丘土層解説表

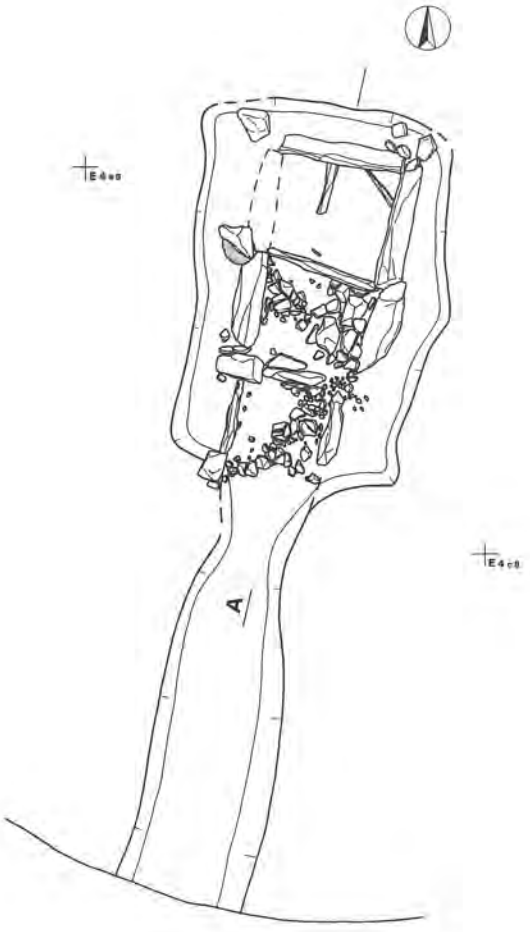
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 (表土)
2 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量
5 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
7 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量 ローム中ブロック少量
8 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
9 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量 ローム中ブロック少量
10 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック少量
11 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック少量
12 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
13 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム中ブロック中量 ローム中ブロック少量
14 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
15 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量



16 褐 色 ローム粒子極多量 ローム中ブロック中量
17 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
18 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム中ブロック中量 焼土粒子少量
19 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
20 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子少量
21 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量 炭化物少量
22 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
23 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
24 暗 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
25 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
26 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
27 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
28 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
29 黒 褐 色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子少量
30 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子中量 炭化粒子少量

第289図 第2号墳

31 褐　色　ローム粒子極多量　ローム小ブロック多量　ローム中ブロック中量
32 褐　色　ローム粒子多量　ローム小ブロック少量
33 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
34 褐　色　ローム粒子極多量　ローム小ブロック中量　ローム中ブロック少量
35 暗 褐 色　ローム粒子多量　ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
36 明褐灰色　粘土層
37 褐　色　ローム粒子極多量　ローム小ブロック多量
38 暗 褐 色　ローム粒子多量　ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
39 褐　色　ローム粒子極多量
40 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
41 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量
42 黒 褐 色　ローム粒子・粘土少量
43 暗 褐 色　ローム粒子中量
44 褐　色　ローム粒子極多量
45 黒 褐 色　ローム粒子少量
46 明褐灰色　粘土層
47 褐　色　粘土極多量
48 黒 褐 色　ローム粒子少量
49 黒 褐 色　ローム粒子・粘土少量
50 暗 褐 色　礫多量　ローム粒子少量
51 暗 褐 色　ローム粒子・粘土中量　ローム小ブロック・炭化物少量
52 暗 褐 色　礫多量　ローム粒子少量
53 黒 褐 色　ローム粒子少量
54 黒 褐 色　ローム粒子中量
55 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック・粘土少量
56 暗 褐 色　ローム粒子中量　粘土・礫少量
57 暗 褐 色　粘土多量　中量
58 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量
59 褐　色　ローム粒子極多量　ローム小ブロック中量
60 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量　ローム中ブロック少量
61 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量



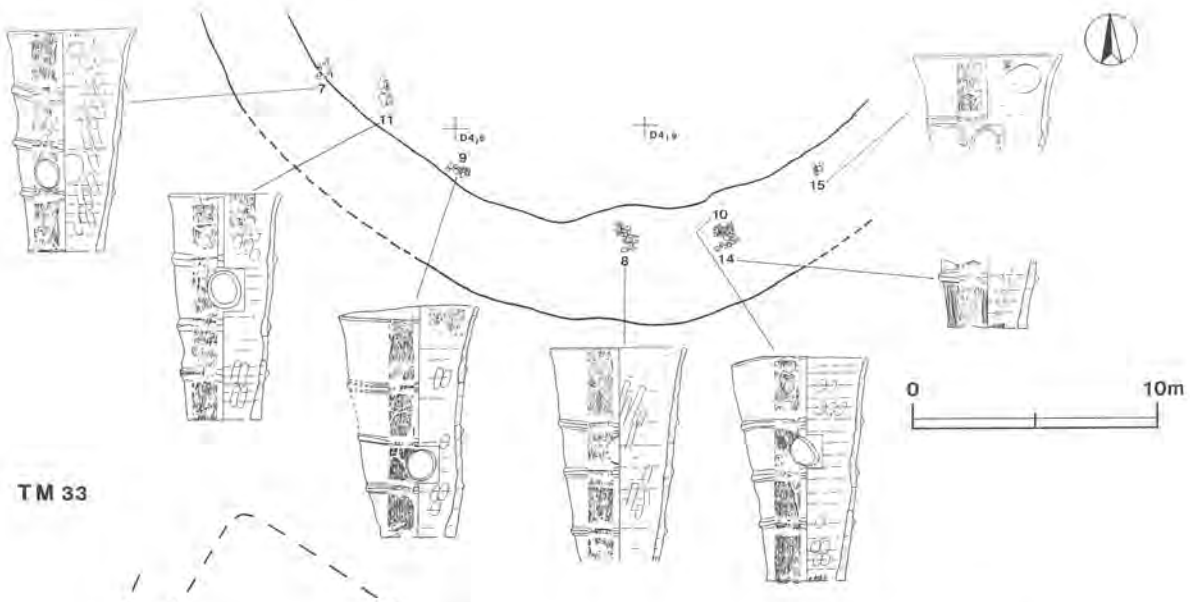
TM 2

第2号墳石室土層解説表

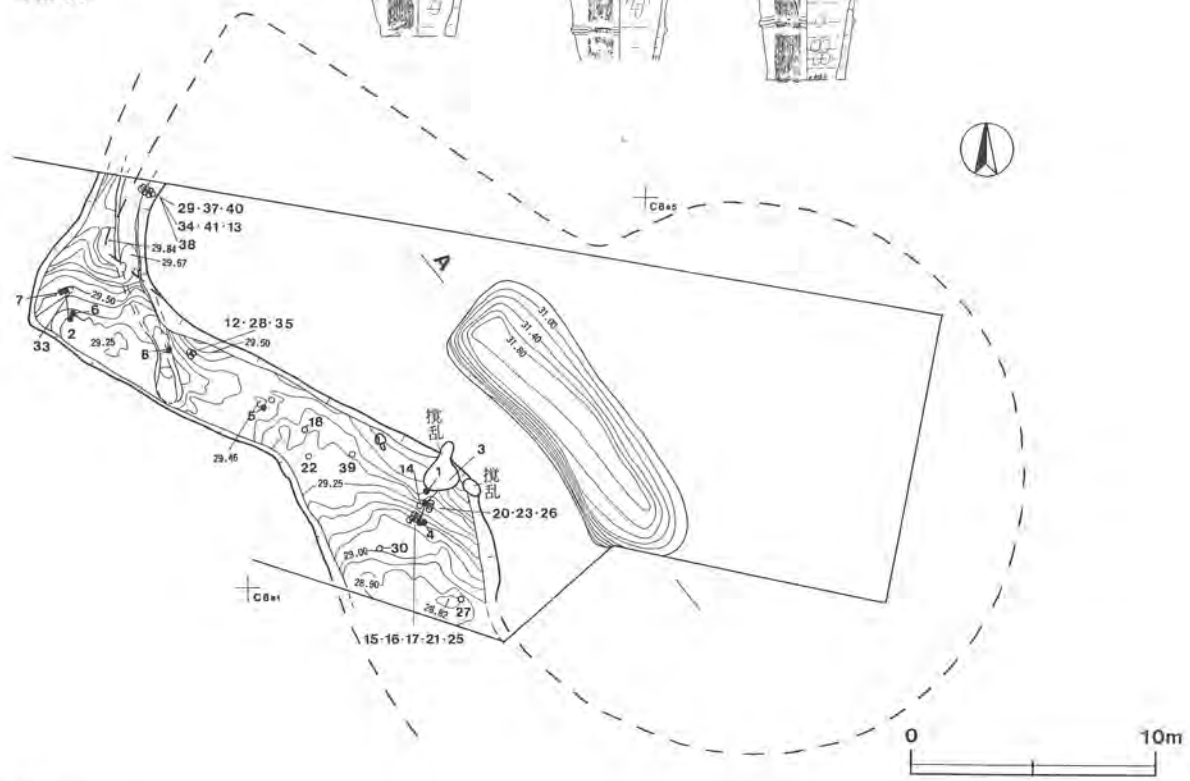
1 黒 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック・礫少量
2 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック・粘土少量
3 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土中量　ローム中ブロック少量
4 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量
5 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック，ローム中ブロック・礫少量
6 暗 褐 色　ローム粒子多量　ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
7 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
8 暗 褐 色　ローム粒子多量　ローム小ブロック少量
9 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック・粘土少量
10 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック多量　ローム中ブロック・粘土中量
11 暗 褐 色　ローム粒子多量　ローム小ブロック・ローム中ブロック・粘土中量
12 灰 褐 色　粘土極多量
13 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量　粘土少量
14 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・粘土中量

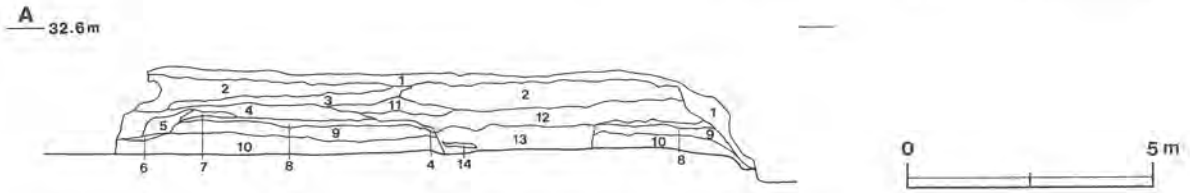
0　5m

第290図　第2号墳



TM 33



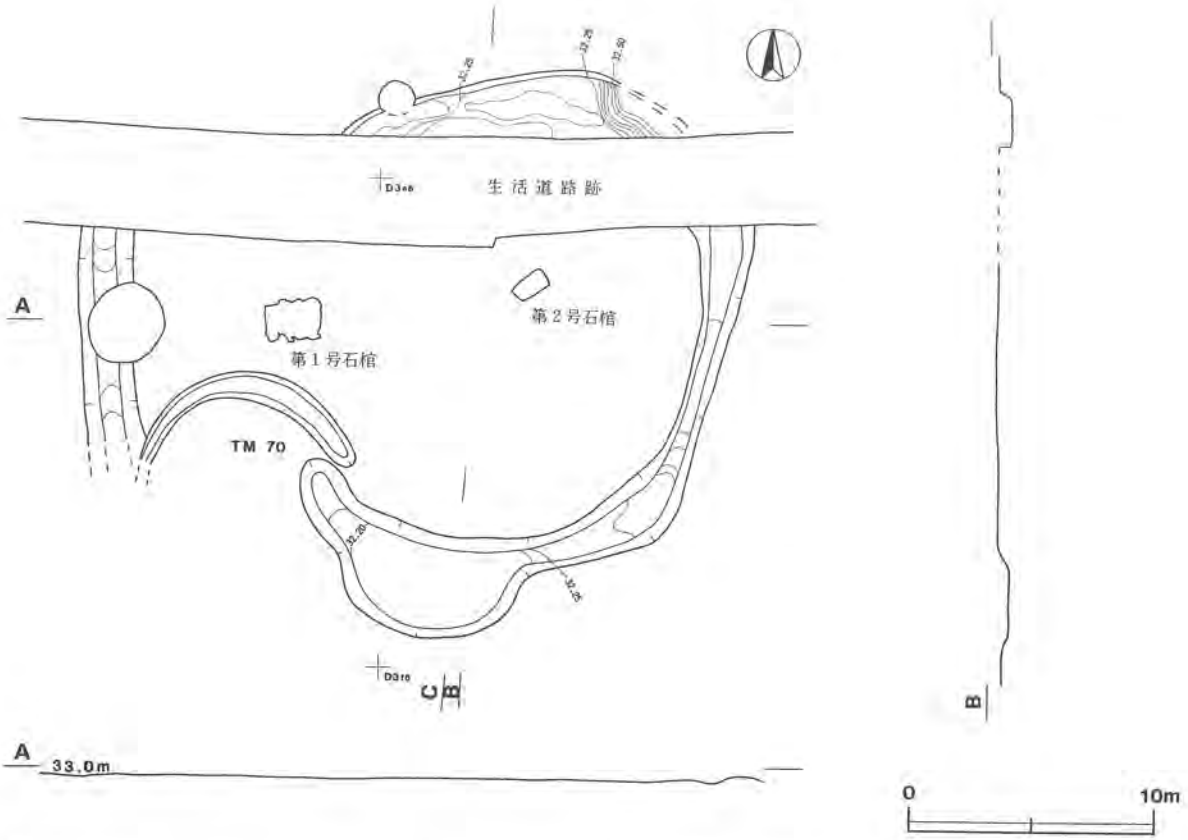


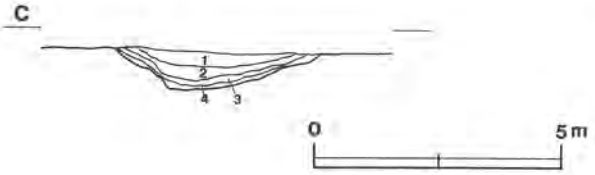
第3号墳墳丘土層解説表

1 暗 褐 色 砂質粘土微量 (炭土)
2 褐 色 砂質粘土・砂質粘土ブロック極多量
3 暗 褐 色 砂質粘土少量
4 灰 褐 色 炭化粒子微量
5 灰 褐 色 粘土ブロック少量で粘性・しまり共に極めて強い
6 にぶい黄褐色 砂質粘土多量で粘性・しまり共に極めて強い
7 灰 褐 色 炭化粒子微量
8 暗 褐 色 炭化粒子微量でしまり極めて強い
9 褐 色 砂質粘土微量でしまり極めて強い
10 褐 色 砂質粘土多量
11 暗 褐 色 砂質粘土微量
12 灰 褐 色 砂質粘土中量
13 褐 色 灰 褐 色 粘土多量 砂質粘土少量
14 赤 褐 色 焼土小ブロック多量

TM 3

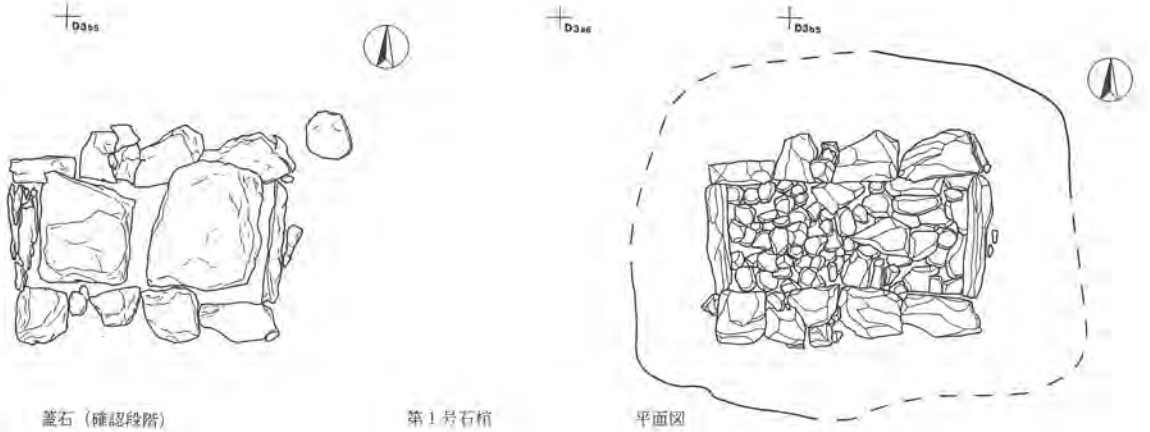
第291図 第3・33号墳





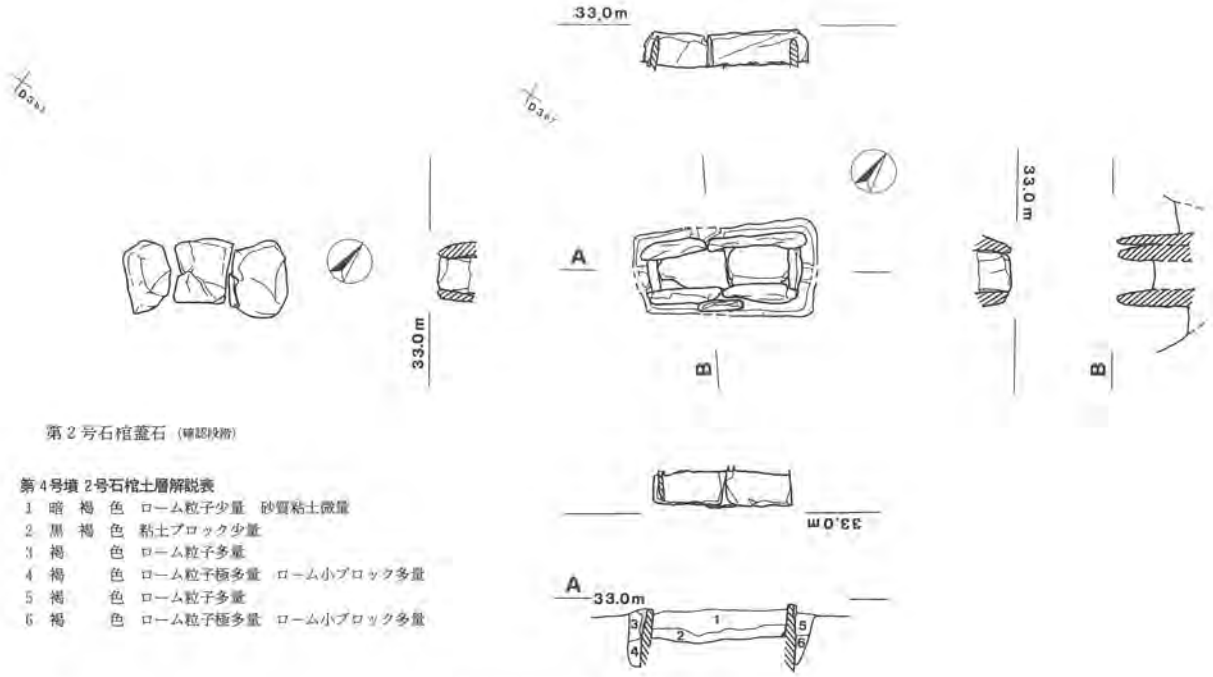
第4号墳周溝土層解説表

1	黒 褐	色	ローム粒子中量　焼土粒子少量
2	暗 褐	色	ローム粒子多量　ローム小ブロック・焼土粒子少量
3	暗 褐	色	ローム粒子多量　ローム小ブロック少量
4	褐	色	ローム粒子極多量



TM 4

第292図　第4号墳



第2号石棺蓋石（確認状態）

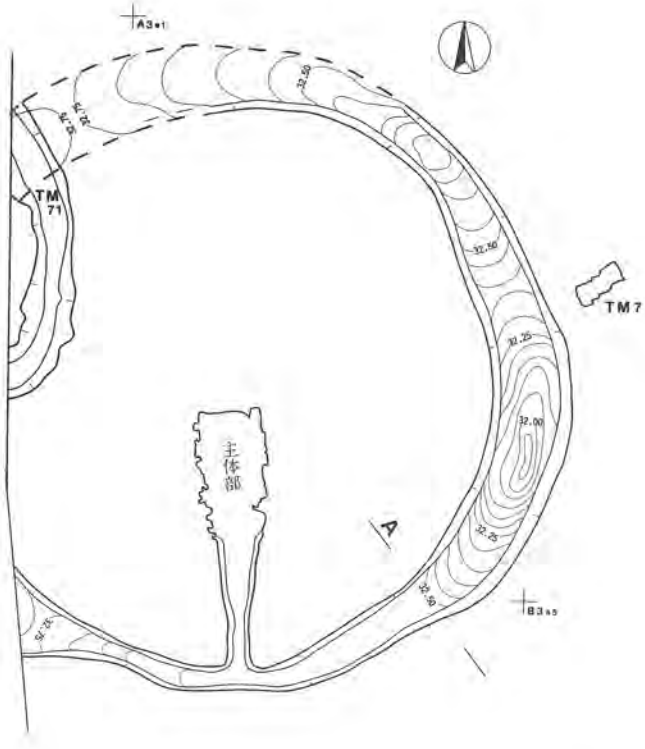
第4号墳 2号石棺土層解説表

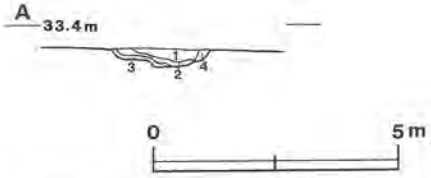
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 砂質粘土微量
2 黒 褐 色 粘土ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量
5 褐 色 ローム粒子多量
6 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量

第2号石棺展開図・平面図

TM4

0 2m





0 5m

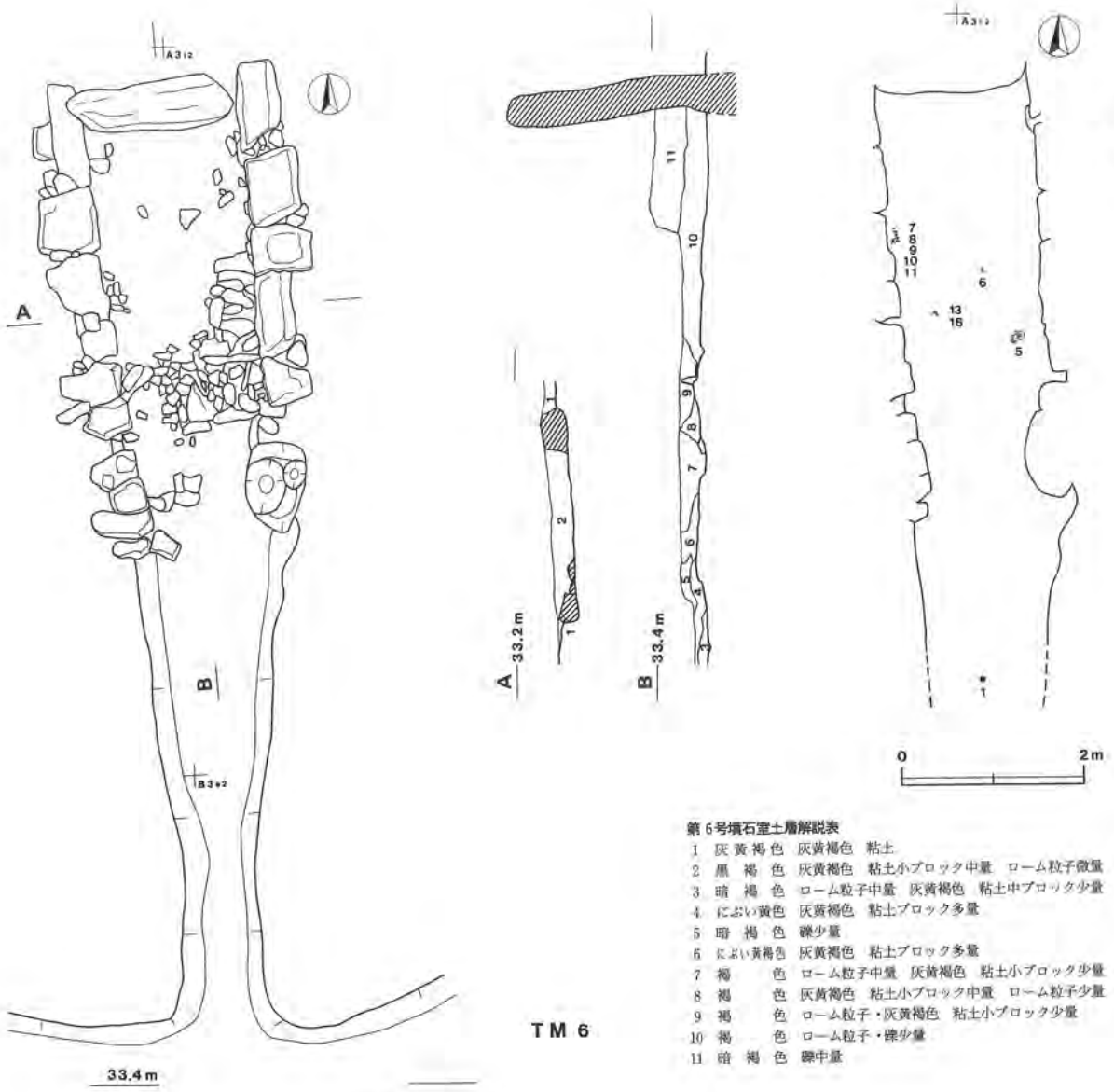
第6号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量

TM6

0 10m

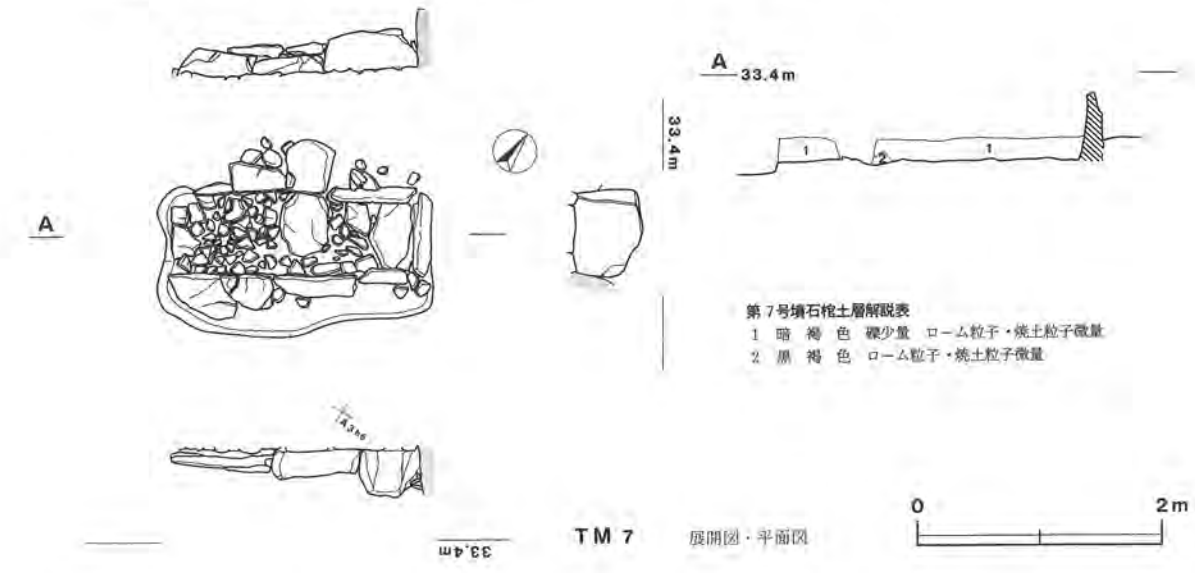
第293図 第4・6号墳



TM 6

第6号墳石室土層解説表

1	灰黄褐色	灰黄褐色	粘土	
2	黒 褐 色	灰黄褐色	粘土小ブロック中量	ローム粒子微量
3	暗 褐 色	ローム粒子中量	灰黄褐色	粘土中ブロック少量
4	にぶい黄色	灰黄褐色	粘土ブロック多量	
5	暗 褐 色	礫少量		
6	にぶい黄褐色	灰黄褐色	粘土ブロック多量	
7	褐 色	ローム粒子中量	灰黄褐色	粘土小ブロック少量
8	褐 色	灰黄褐色	粘土小ブロック中量	ローム粒子少量
9	褐 色	ローム粒子・灰黄褐色	粘土小ブロック少量	
10	褐 色	ローム粒子・礫少量		
11	暗 褐 色	礫中量		



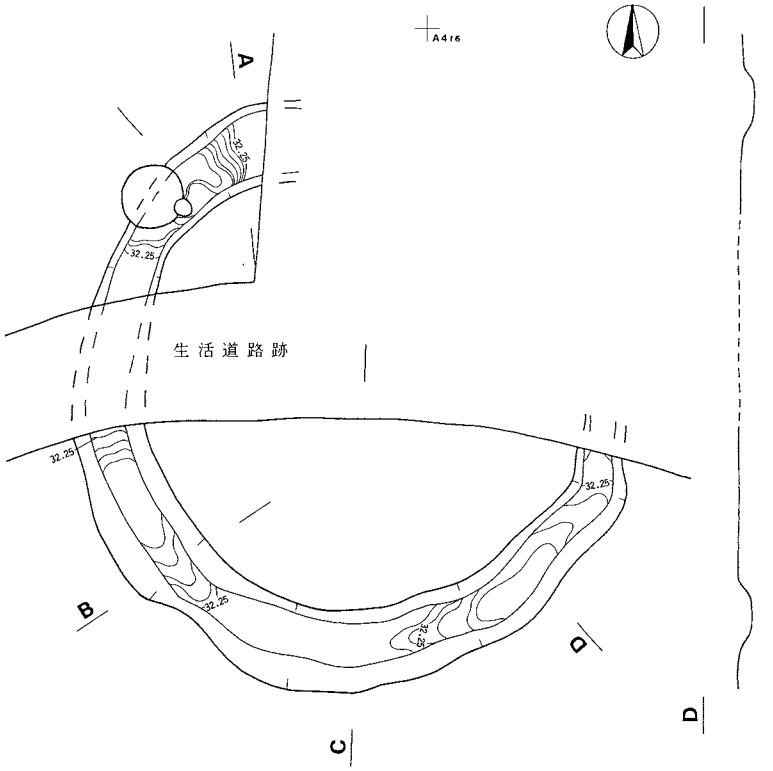
TM 7

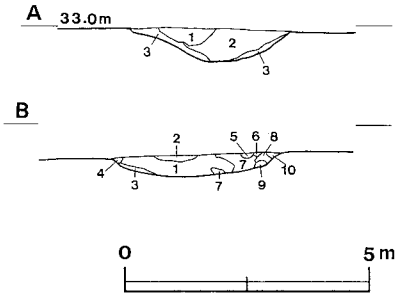
第7号墳石棺土層解説表

1	暗 褐 色	礫少量	ローム粒子・焼土粒子微量	
2	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量		

展開図・平面図

第294図　第6・7号墳

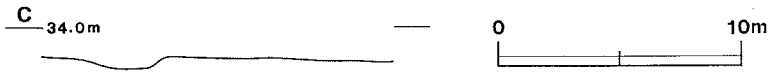




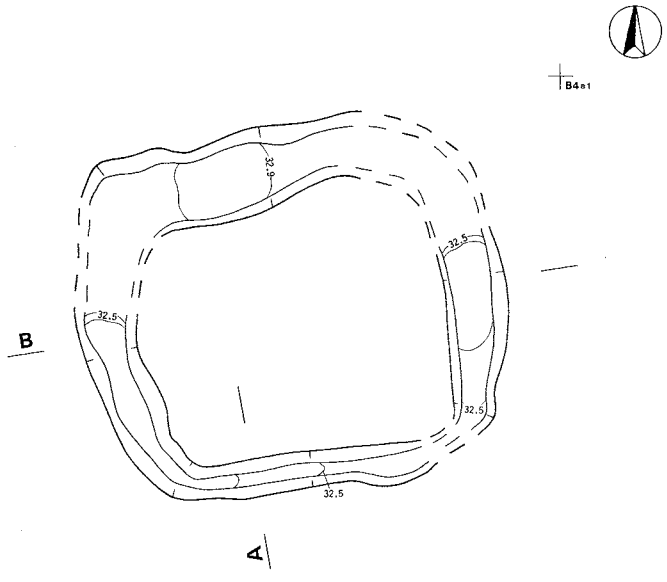
第8号墳周溝土層解説表

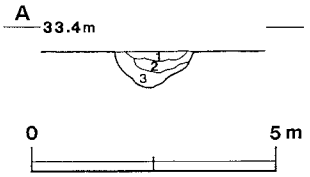
A－A′
1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 炭化粒子中量 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

B－B′
1 暗 褐 色 炭化粒子・粘土少量
2 オリーブ黄色 粘土多量
3 褐 色 粘土少量
4 明 褐 色 粘土中量
5 暗 褐 色 粘土少量
6 明 褐 色 粘土中量
7 暗 褐 色 粘土中量 ローム粒子少量
8 暗 褐 色 粘土少量
9 暗 褐 色 粘土少量
10 褐 色 粘土中量



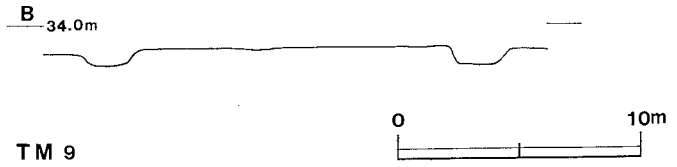
TM 8





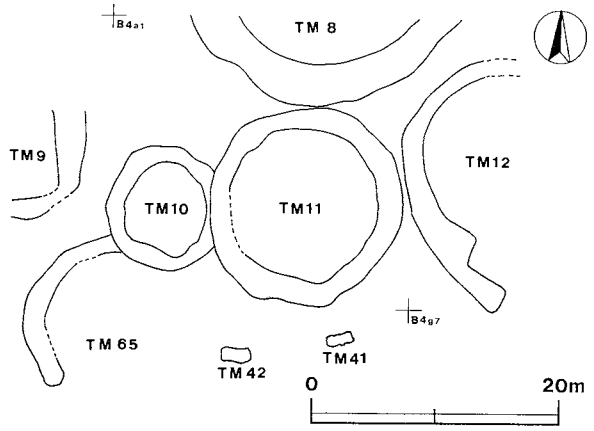
第9号墳周溝土層解説表

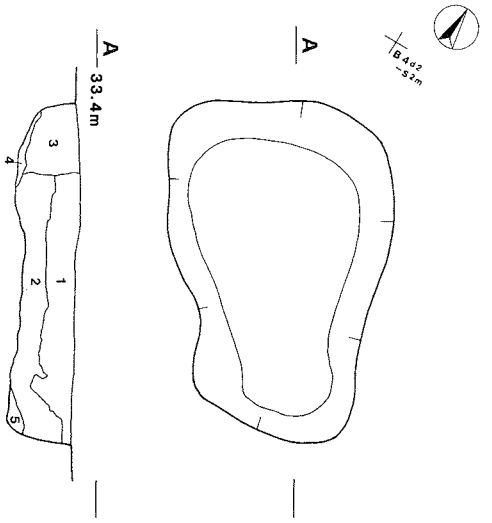
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



TM 9

第295図 第8・9号墳

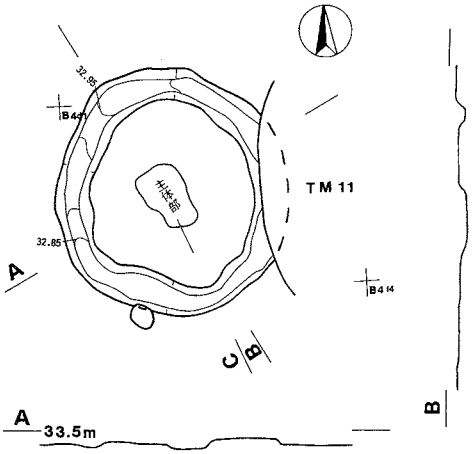


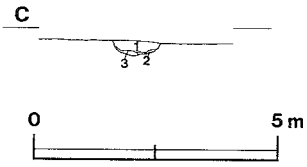


TM 10

第10号墳石棺土層解説表

1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 黒 褐 色 炭化粒子少量

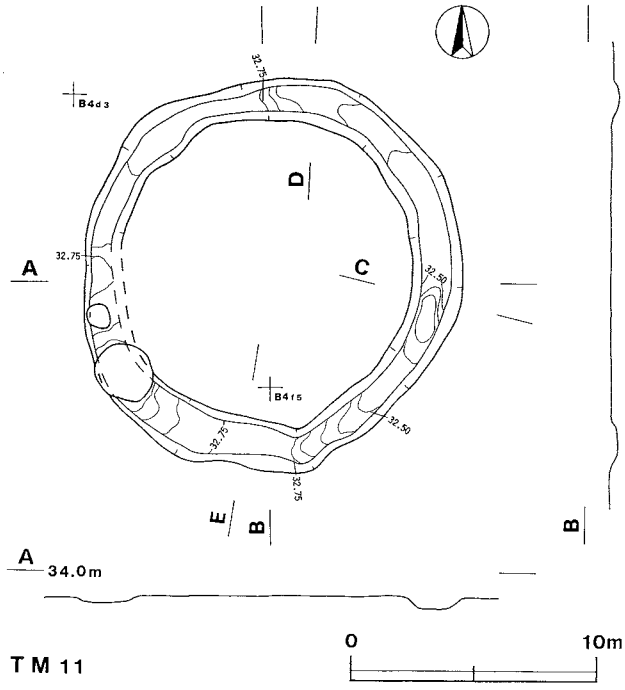




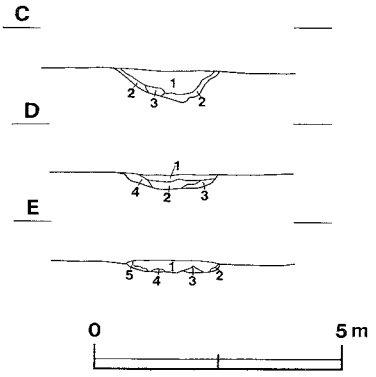
第10号墳周溝土層解説表

1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 褐 色 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量

TM 10



TM 11



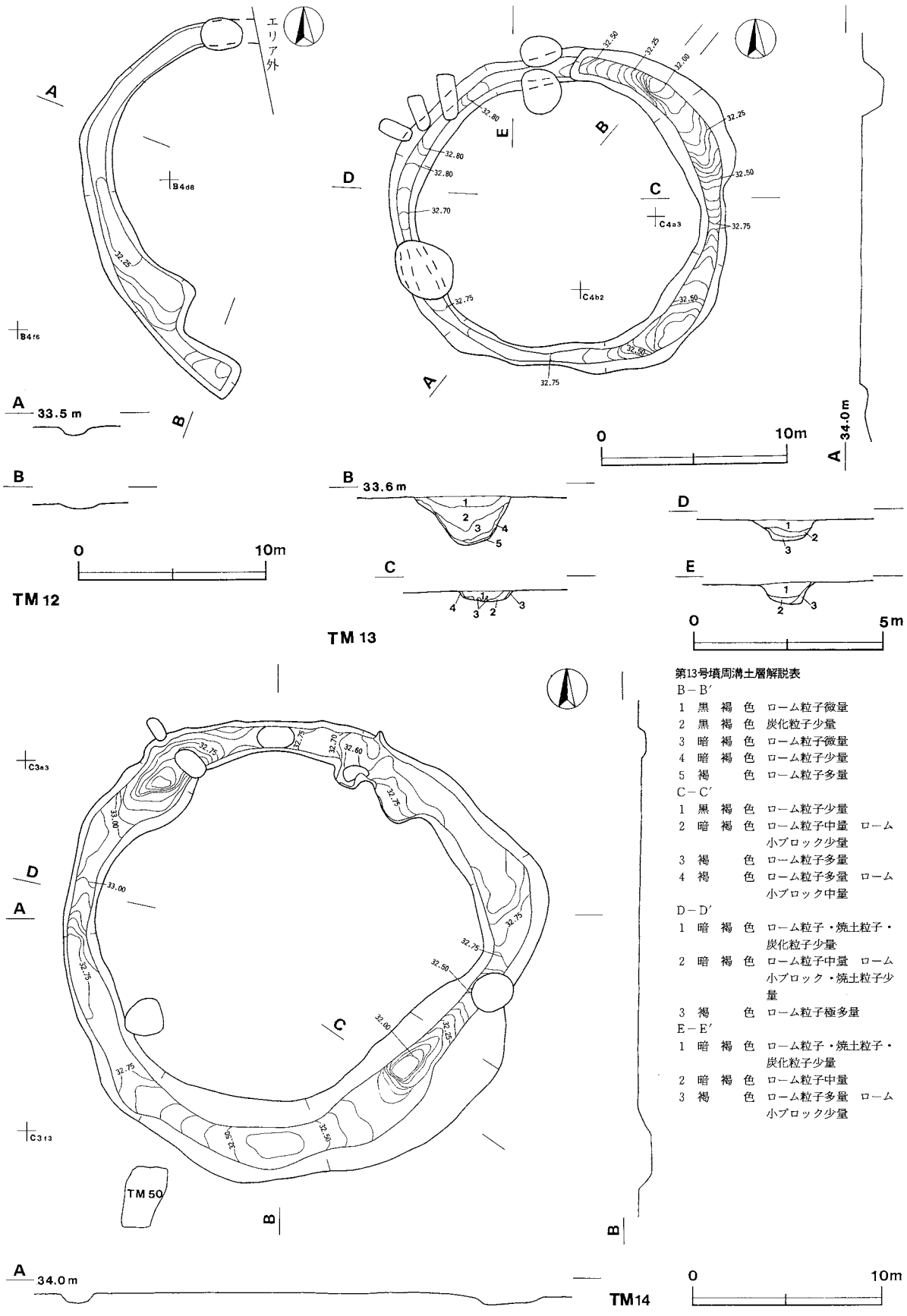
第11号墳周溝土層解説表

C－C′
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化
粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量

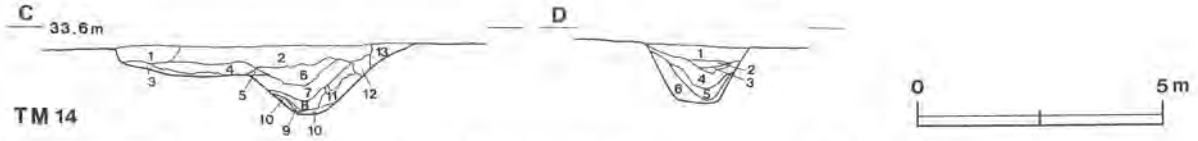
D－D′
1 黒 褐 色 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量

E－E′
1 暗 褐 色 炭化粒子少量
2 明 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子中量
炭化粒子少量

第296図　第10・11号墳



第297図　第12・13・14号墳



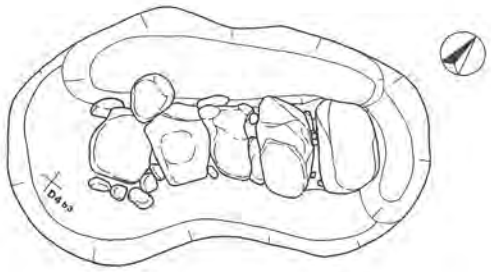
第14号墳周溝土層解説表

C－C'

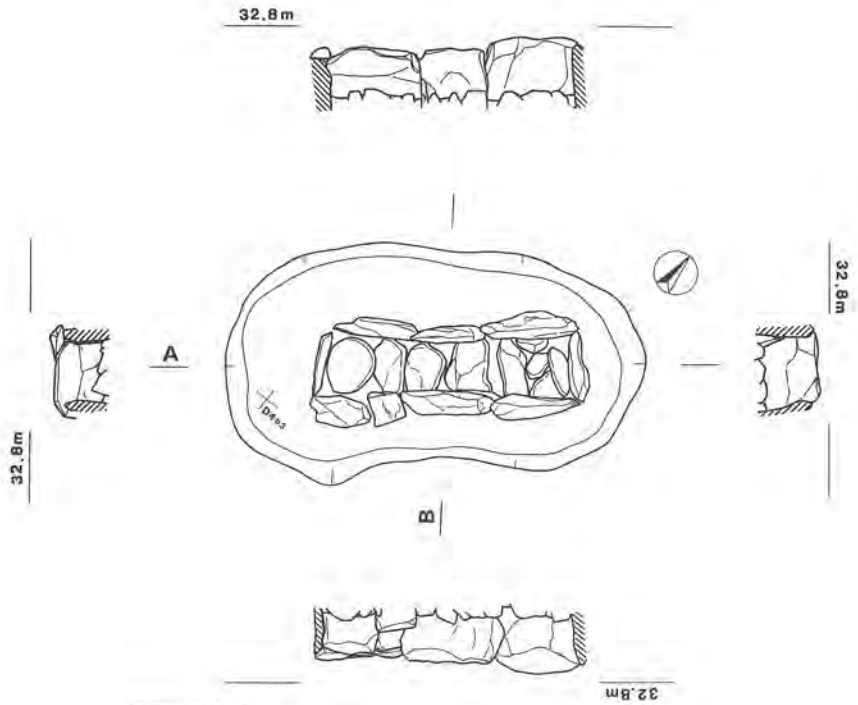
1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・粘土中量
2 黒 褐 色 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 炭化粒子少量
4 黒 褐 色 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量
6 黒 褐 色 ローム粒子微量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量
9 暗 褐 色 ローム粒子中量
10 明 褐 色 ローム粒子多量
11 暗 褐 色 ローム粒子少量
12 暗 褐 色 ローム粒子少量
13 褐 色 炭化粒子多量 ローム粒子中量 炭化粒子少量

D－D'

1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 暗 褐 色 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子微量
6 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量



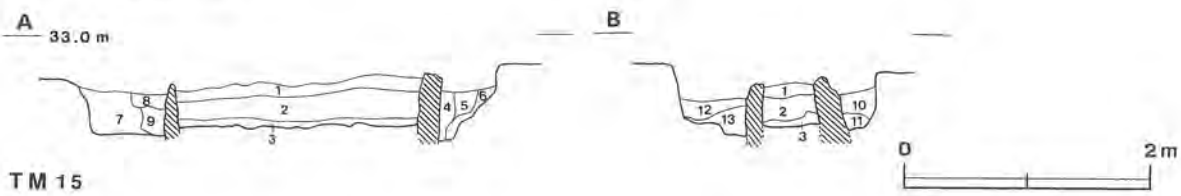
蓋石（確認段階）



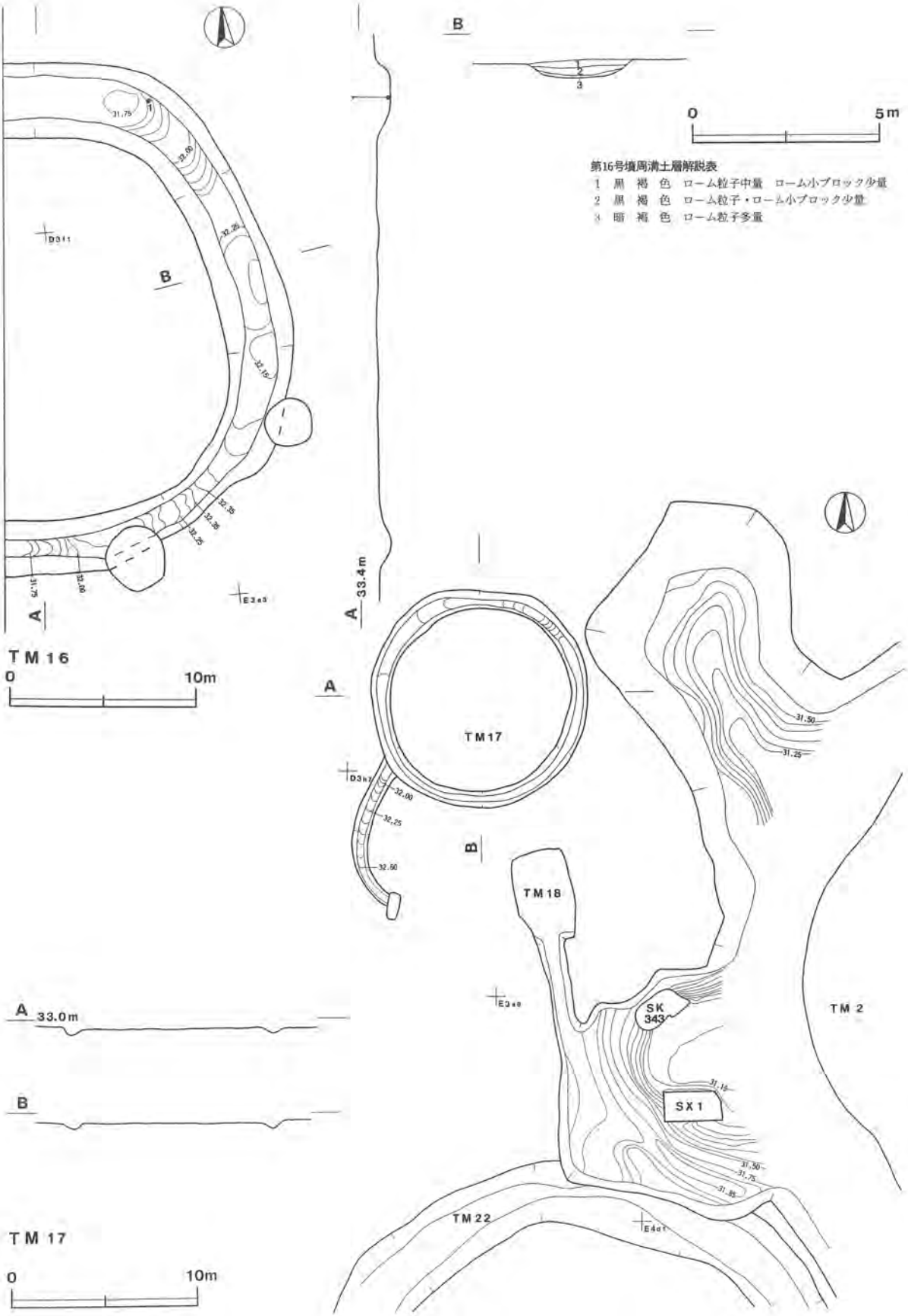
展開図・平面図

第15号墳石棺土層解説表

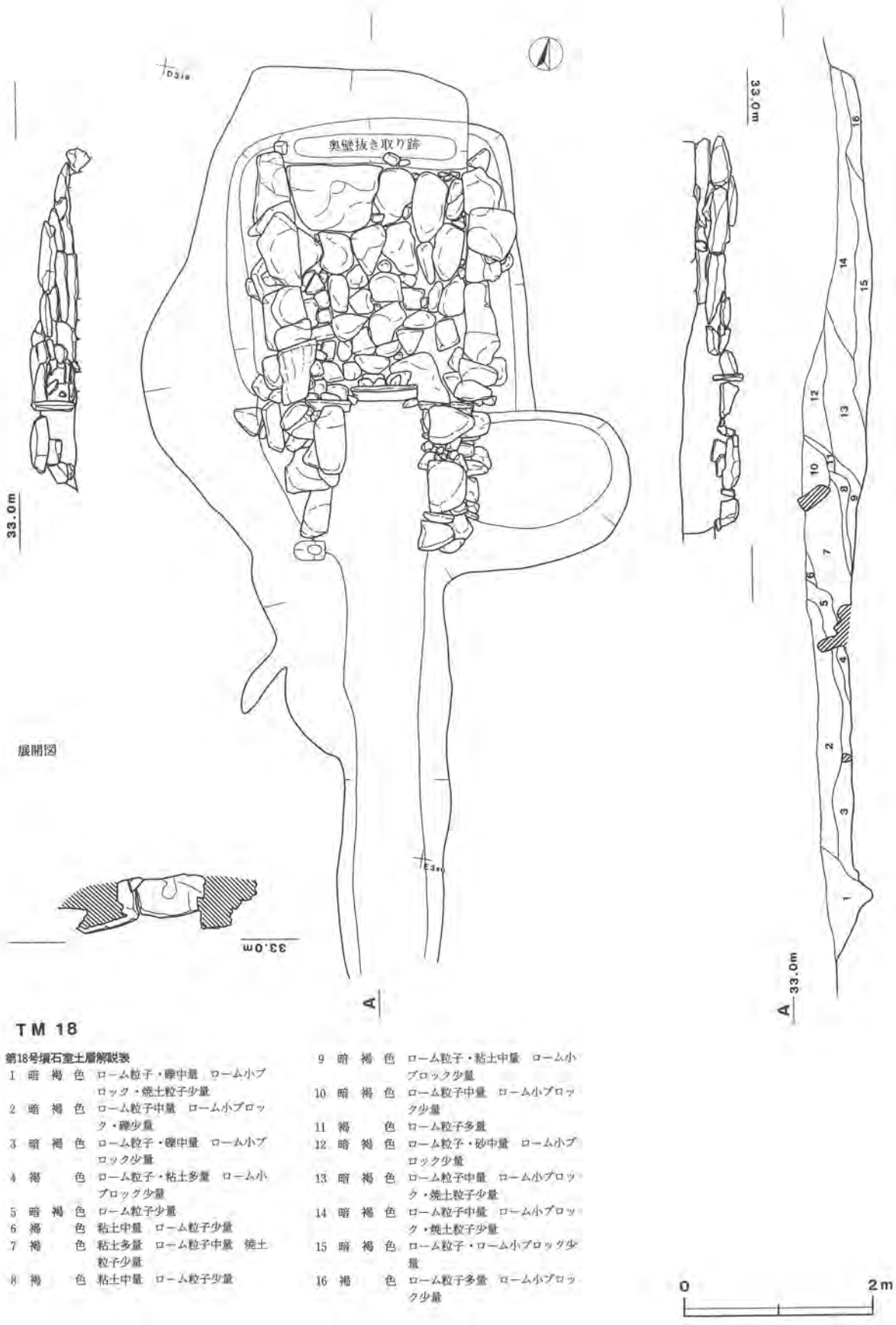
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 粘土少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 粘土少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・粘土少量
4 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック少量でしまり極めて強い
5 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量でしまり極めて強い
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量
7 暗 褐 色 ローム粒子多量
8 褐 色 粘土多量 ローム粒子中量でしまり極めて強い
9 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量しまり極めて強い
10 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
11 暗 褐 色 ローム粒子多量
12 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
13 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量



第298図 第14・15号墳



第299図　第16・17号墳

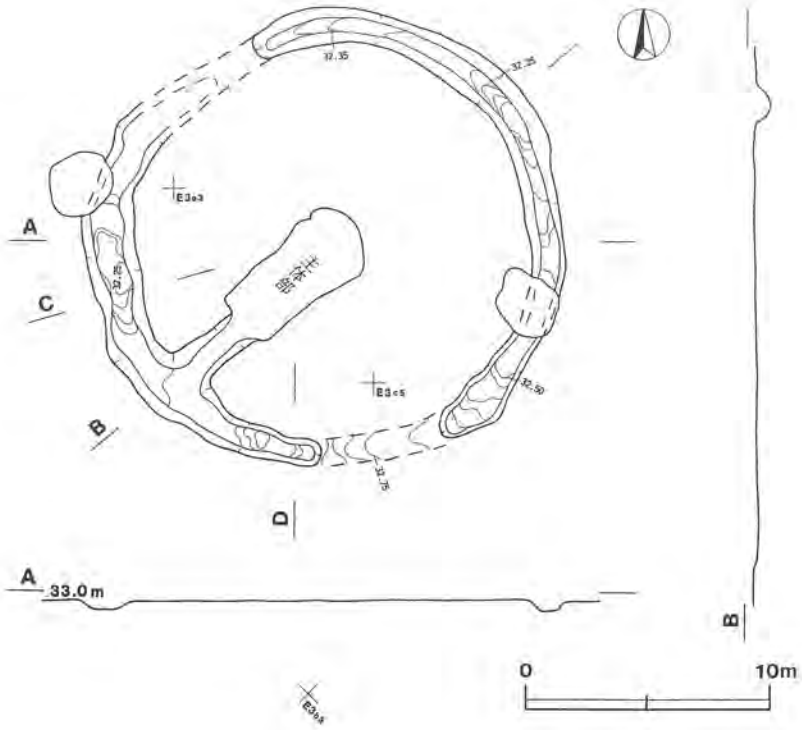


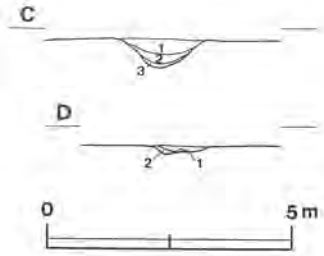
TM 18

第18号墳石室土層解説表

1	暗褐色	ローム粒子・礫中量	ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック・礫少量
3	暗褐色	ローム粒子・礫中量	ローム小ブロック少量
4	褐色	ローム粒子・粘土多量	ローム小ブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子少量	
6	褐色	粘土中量	ローム粒子少量
7	褐色	粘土多量	ローム粒子中量 焼土粒子少量
8	褐色	粘土中量	ローム粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子・粘土中量	ローム小ブロック少量
10	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック少量
11	褐色	ローム粒子多量	
12	暗褐色	ローム粒子・砂中量	ローム小ブロック少量
13	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック・焼土粒子少量
14	暗褐色	ローム粒子中量	ローム小ブロック・焼土粒子少量
15	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量	
16	褐色	ローム粒子多量	ローム小ブロック少量

第300図　第18号墳

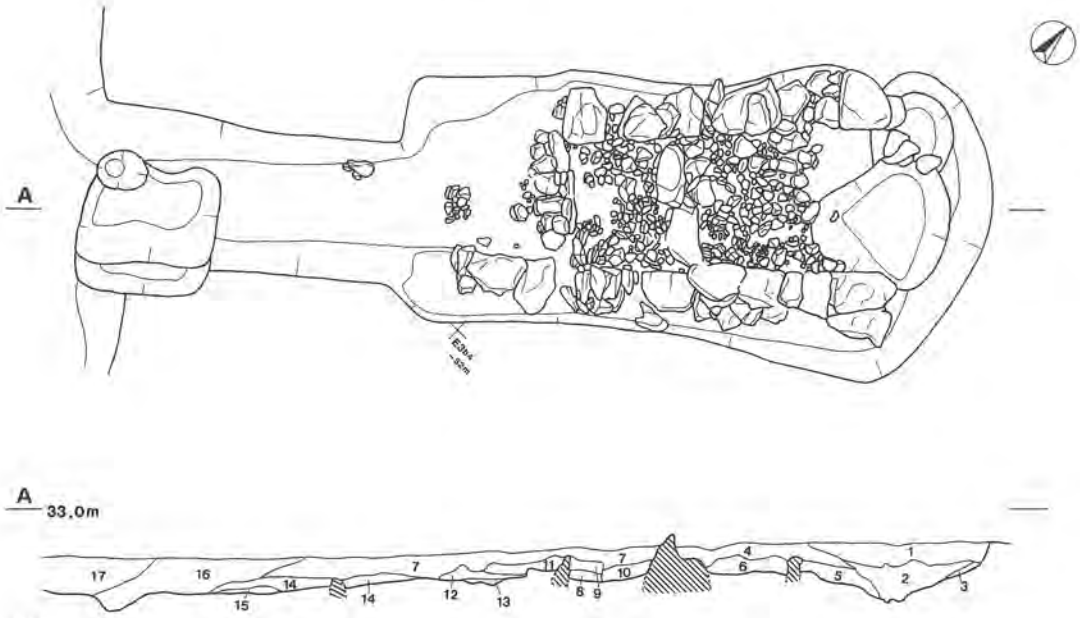




第19号墳周溝土層解説表

C－C′
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量

D－D′
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子多量



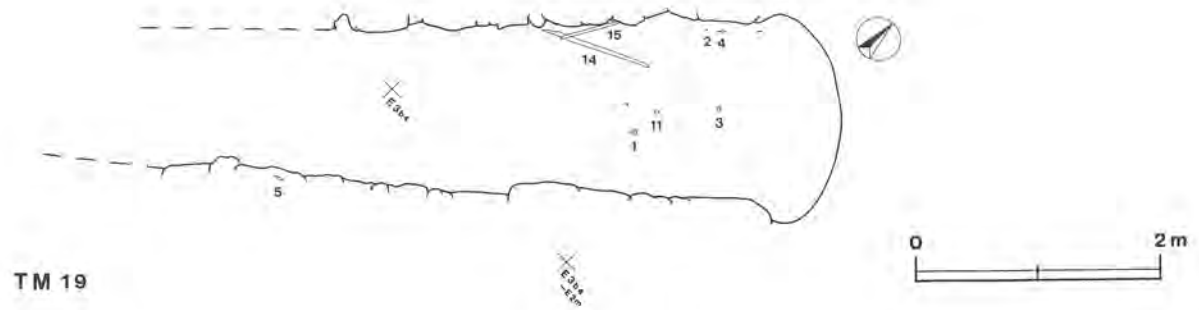
TM 19

第19号墳石室土層解説表

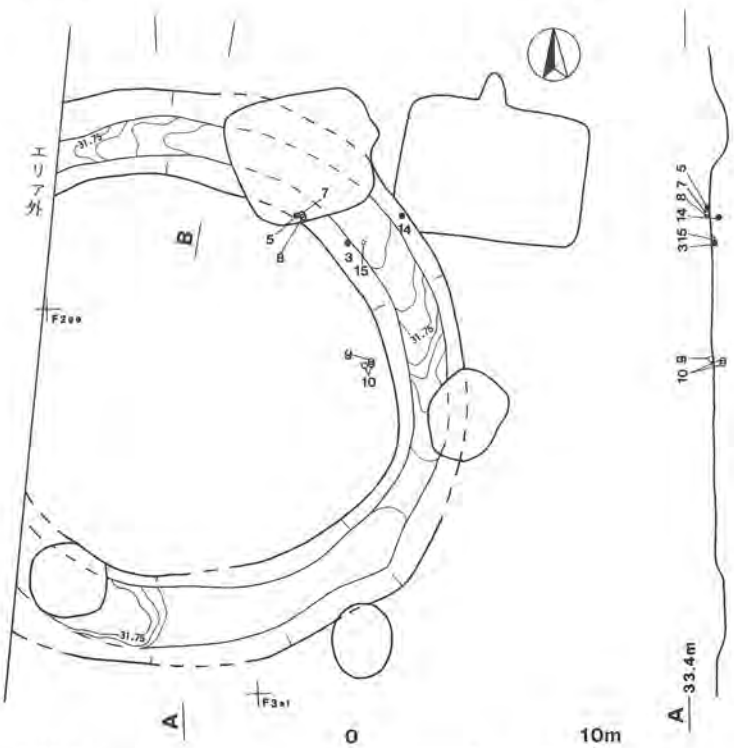
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
6 黒 褐 色 粘土中量 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
9 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子多量 粘土少量
11 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
12 褐 色 粘土極多量 ローム粒子多量
13 暗 褐 色 ローム粒子少量
14 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
15 褐 色 ローム粒子多量
16 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
17 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量

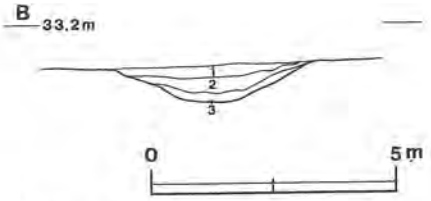
TM 19

第301図　第19号墳



TM 19

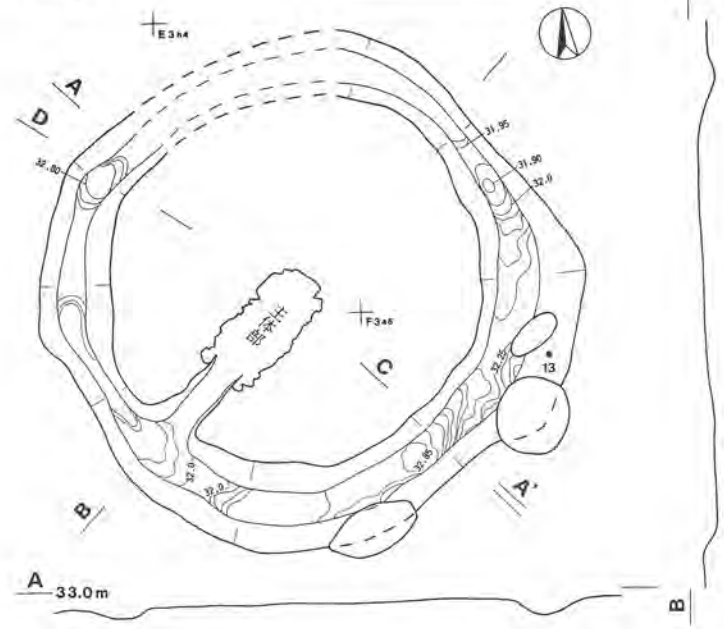


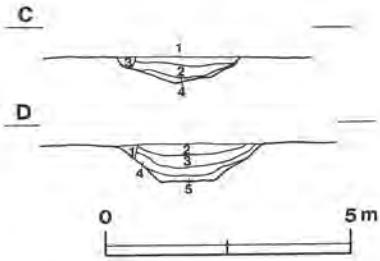


第20号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量

TM 20





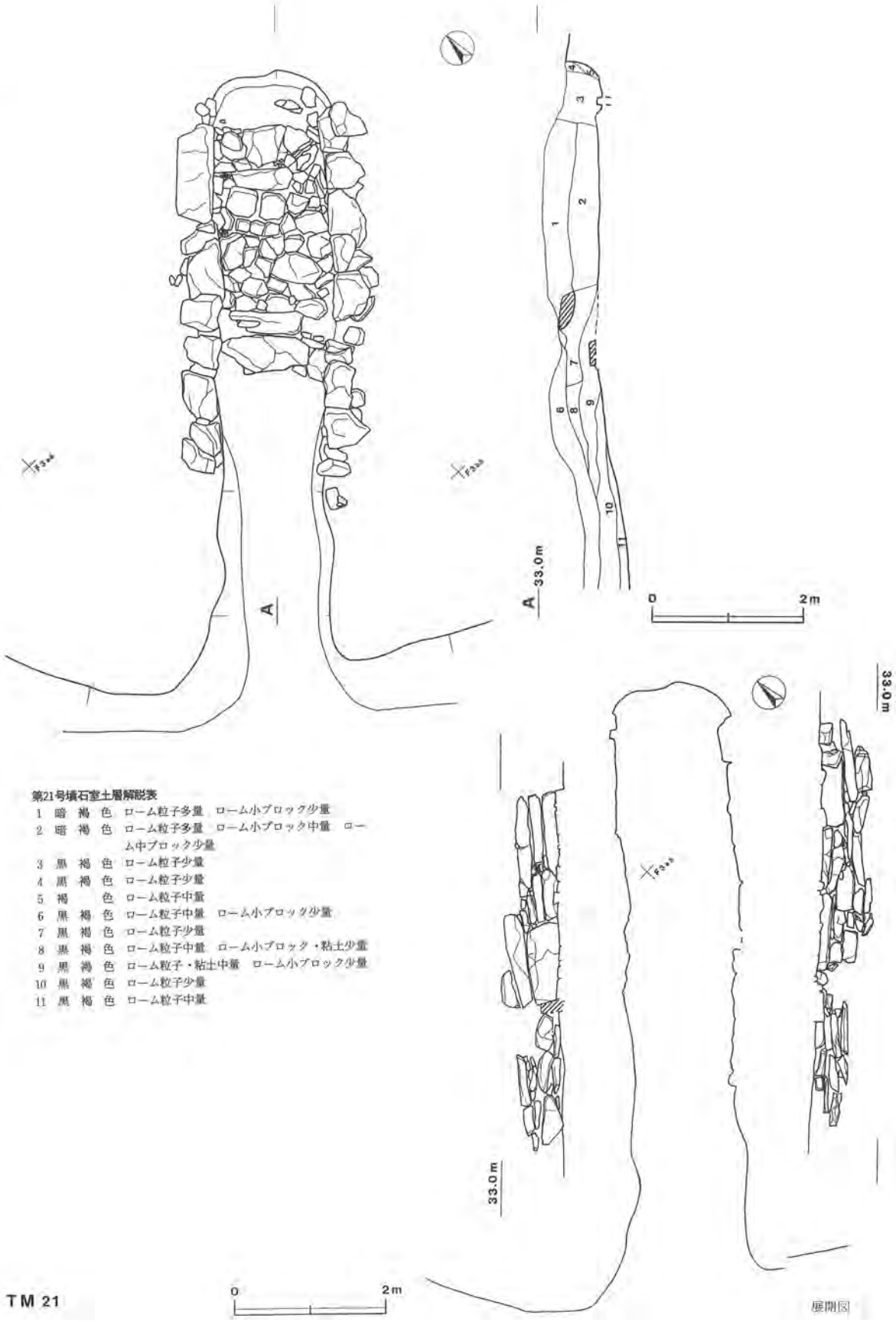
第21号墳周溝土層解説表

C－C'
1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量

D－D'
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・炭化物少量
5 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

TM 21

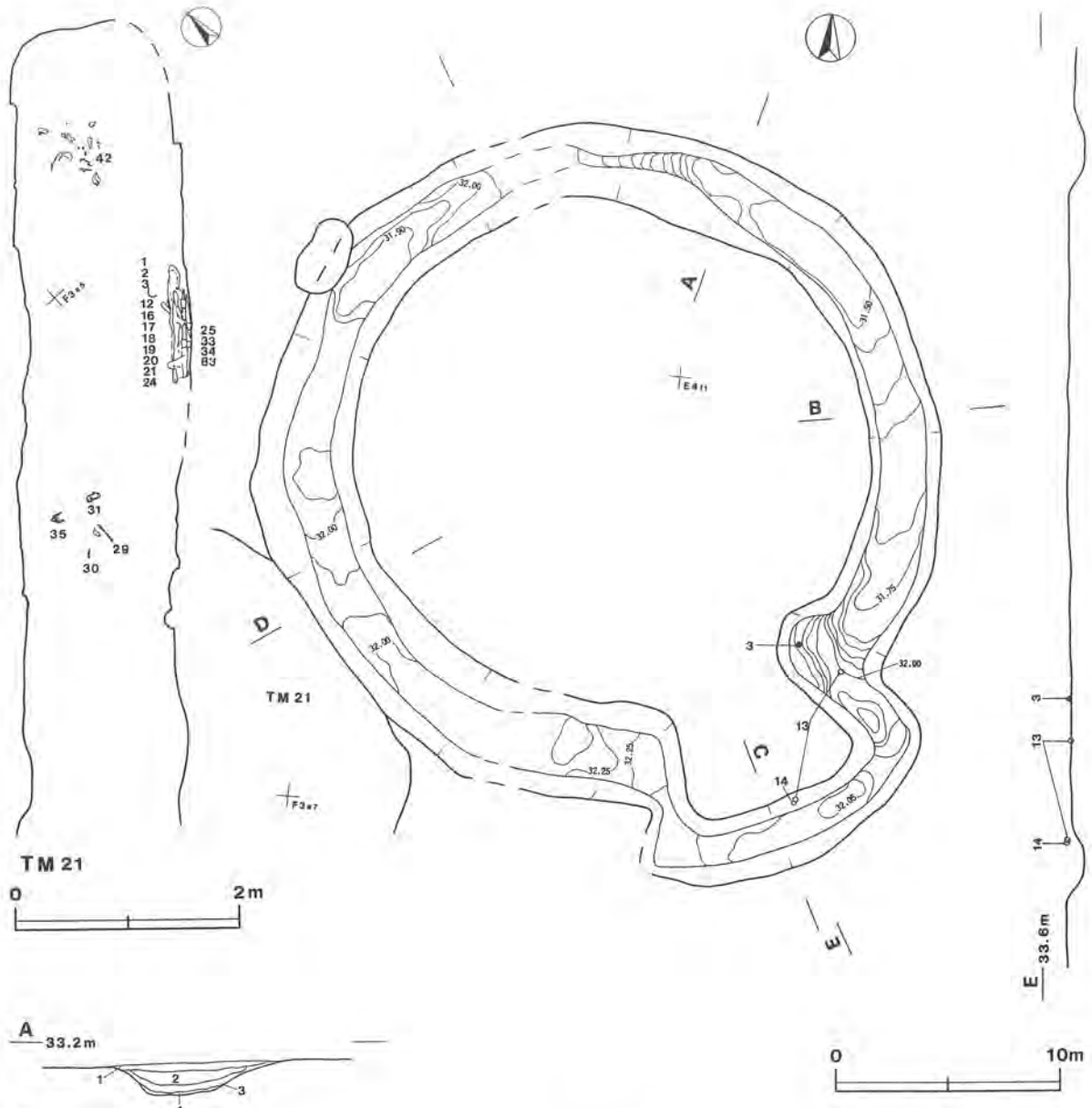
第302図 第19・20・21号墳



第21号墳石室土層解説表

1	暗	褐	色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
2	暗	褐	色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック少量
3	黒	褐	色 ローム粒子少量
4	黒	褐	色 ローム粒子少量
5	褐		色 ローム粒子中量
6	黒	褐	色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
7	黒	褐	色 ローム粒子少量
8	黒	褐	色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・粘土少量
9	黒	褐	色 ローム粒子・粘土中量 ローム小ブロック少量
10	黒	褐	色 ローム粒子少量
11	黒	褐	色 ローム粒子中量

第303図　第21号墳



第22号墳周溝土層解説表

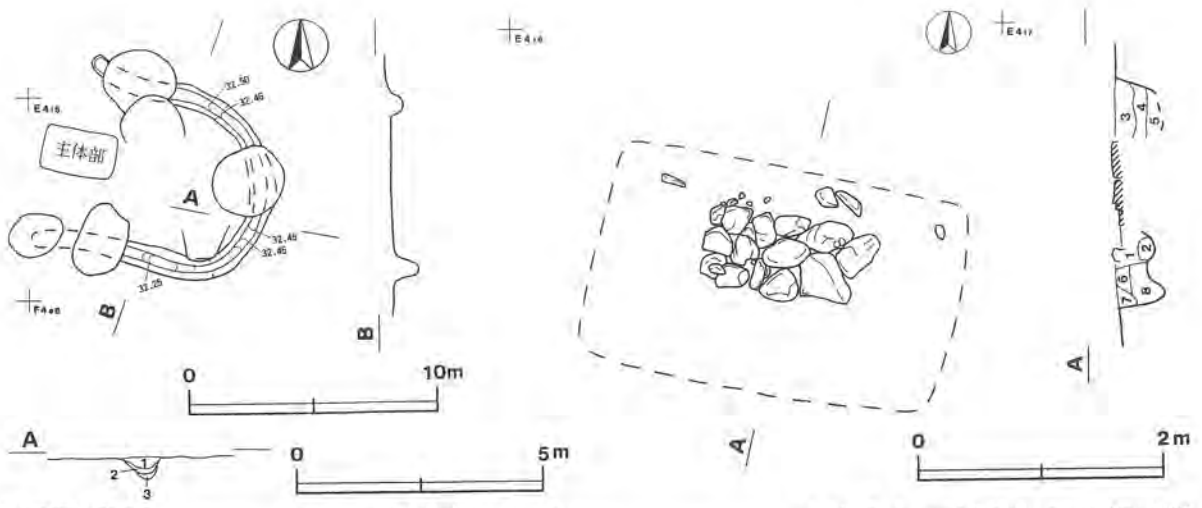
A－A′
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子極多量

B－B′
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック少量

C－C′
1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子極多量

D－D′
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子極多量

第304図　第21・22号墳



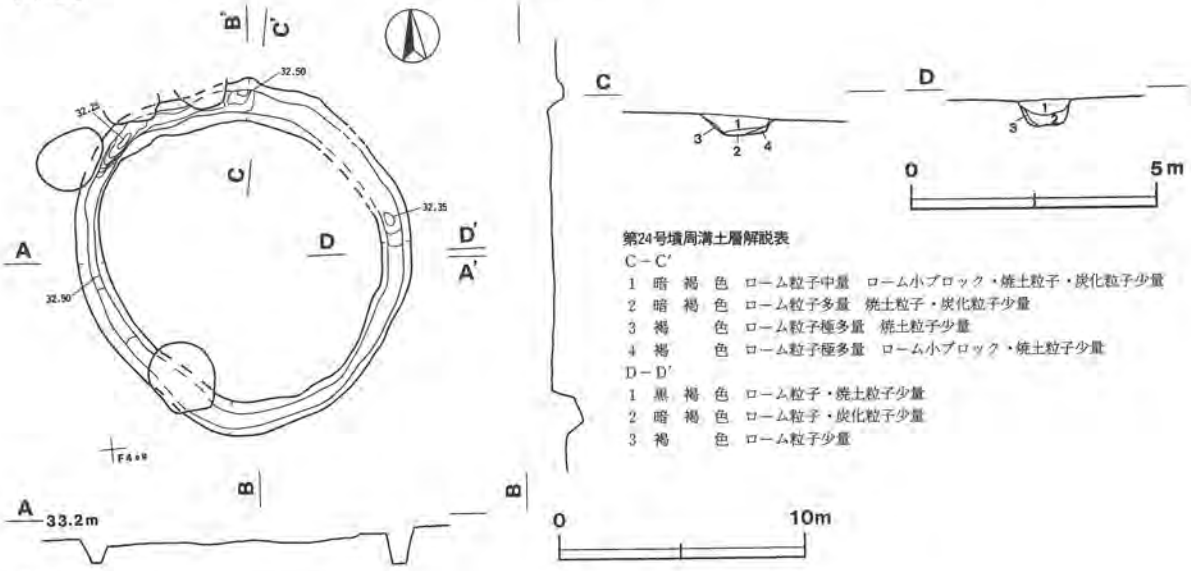
第23号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量

第23号墳石棺土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
7 褐 色 ローム粒子極多量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量

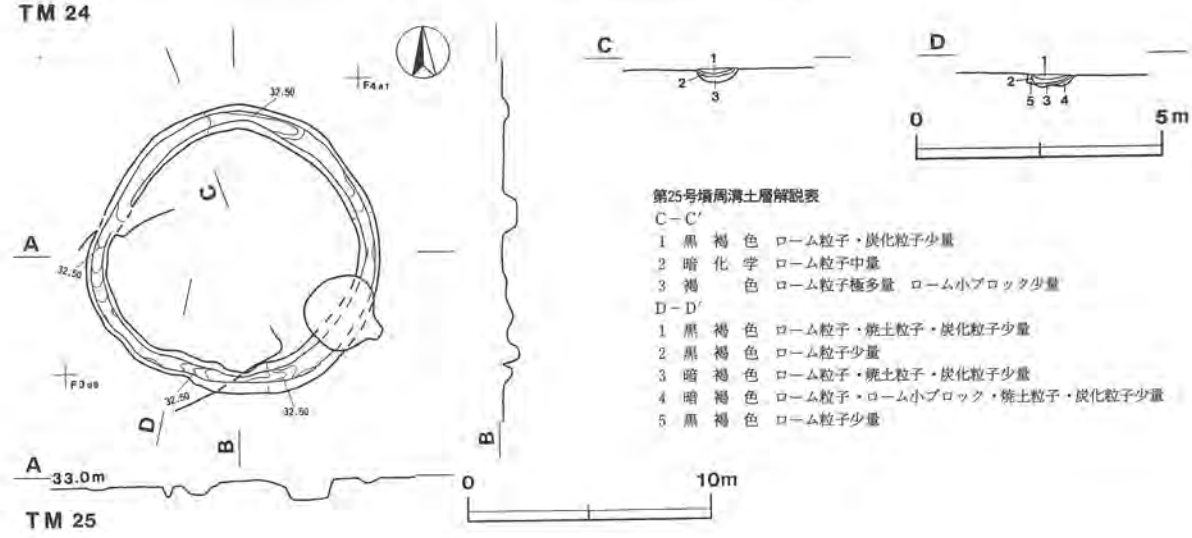
TM 23



第24号墳周溝土層解説表

C－C′
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子極多量 焼土粒子少量
4 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
D－D′
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量

TM 24

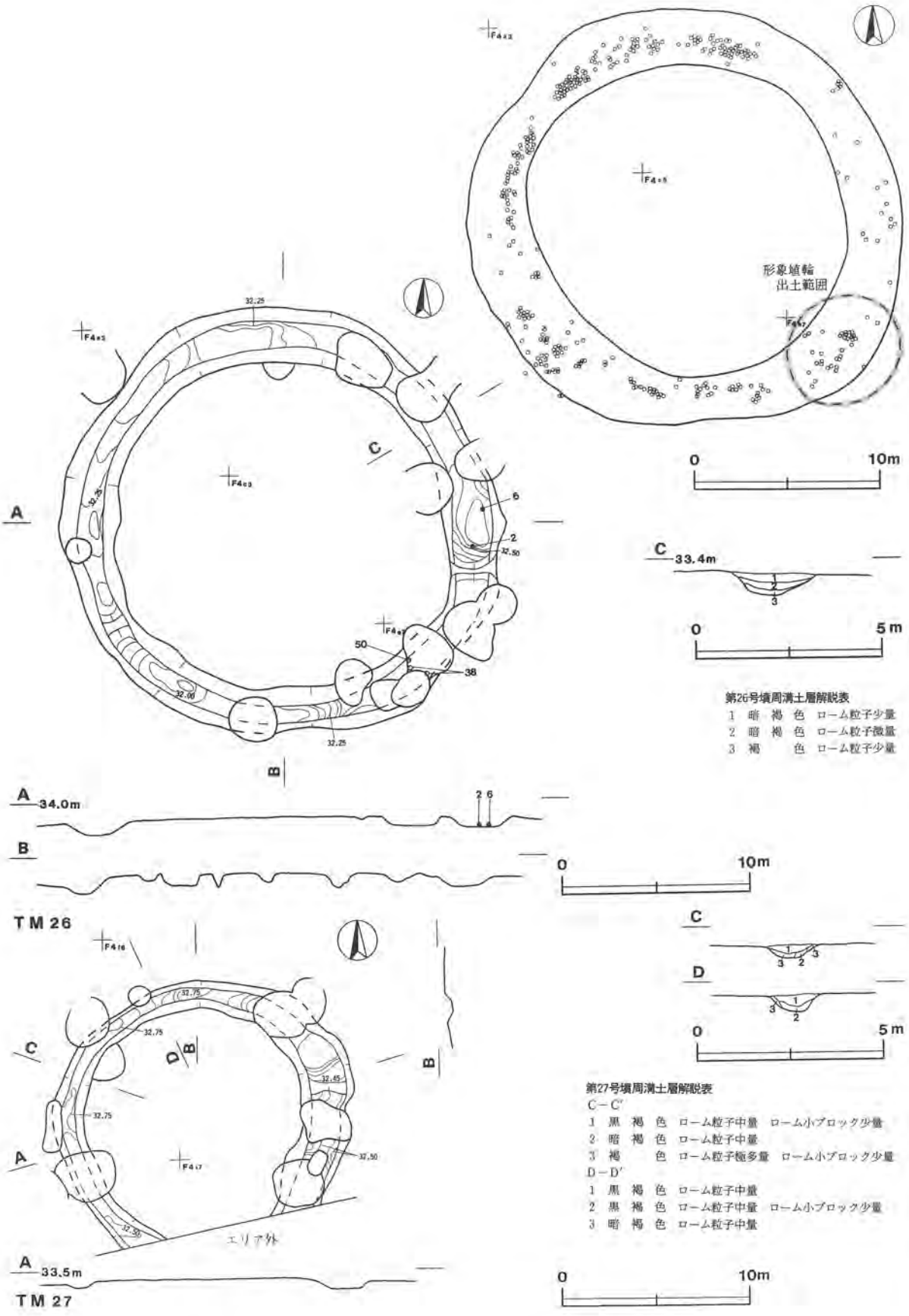


第25号墳周溝土層解説表

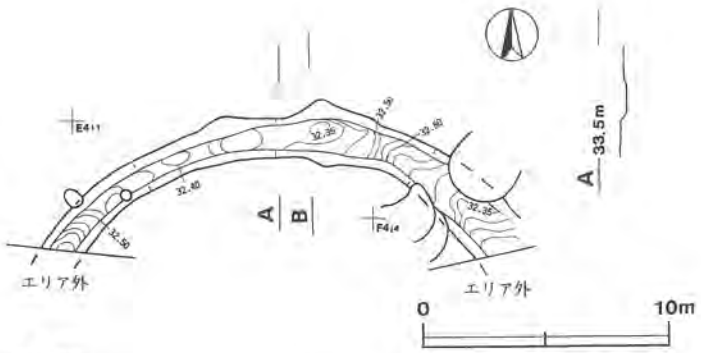
C－C′
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 化 学 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック少量
D－D′
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量

TM 25

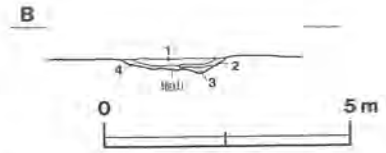
第305図　第23・24・25号墳



第306図　第26・27号墳

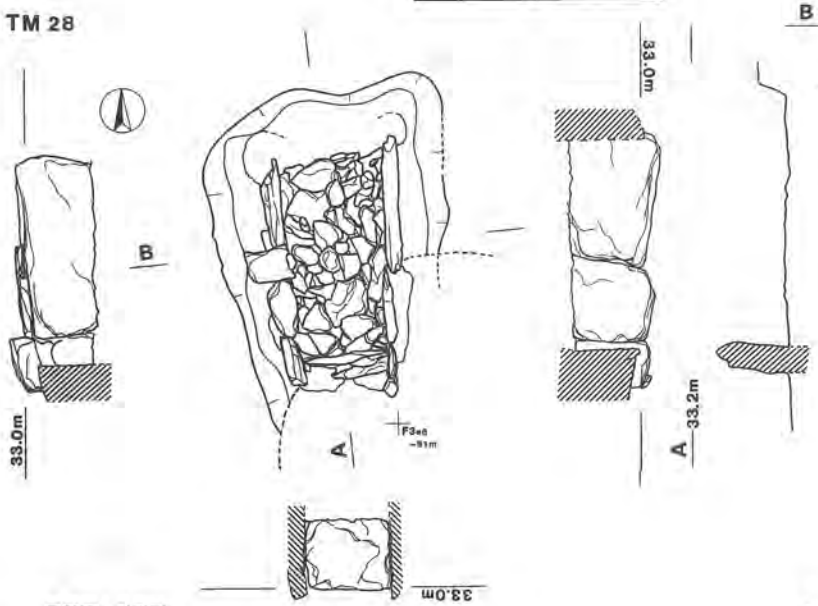


TM 28

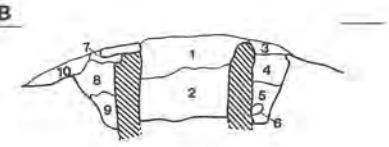


第28号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子極多量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



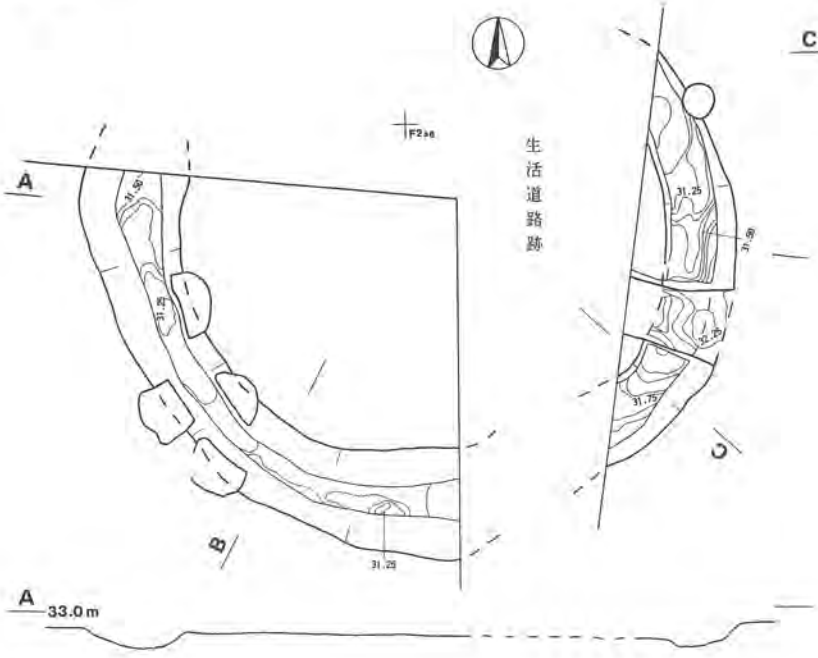
展開図・平面図



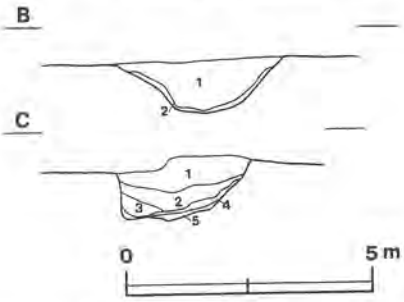
第29号墳石棺土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・粘土ブロック微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 粘土ブロック多量 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量
6 青 灰 色 粘土ブロック多量
7 暗 褐 色 ローム粒子・粘土ブロック中量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量
9 暗 褐 色 ローム粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子中量

TM 29



TM 30

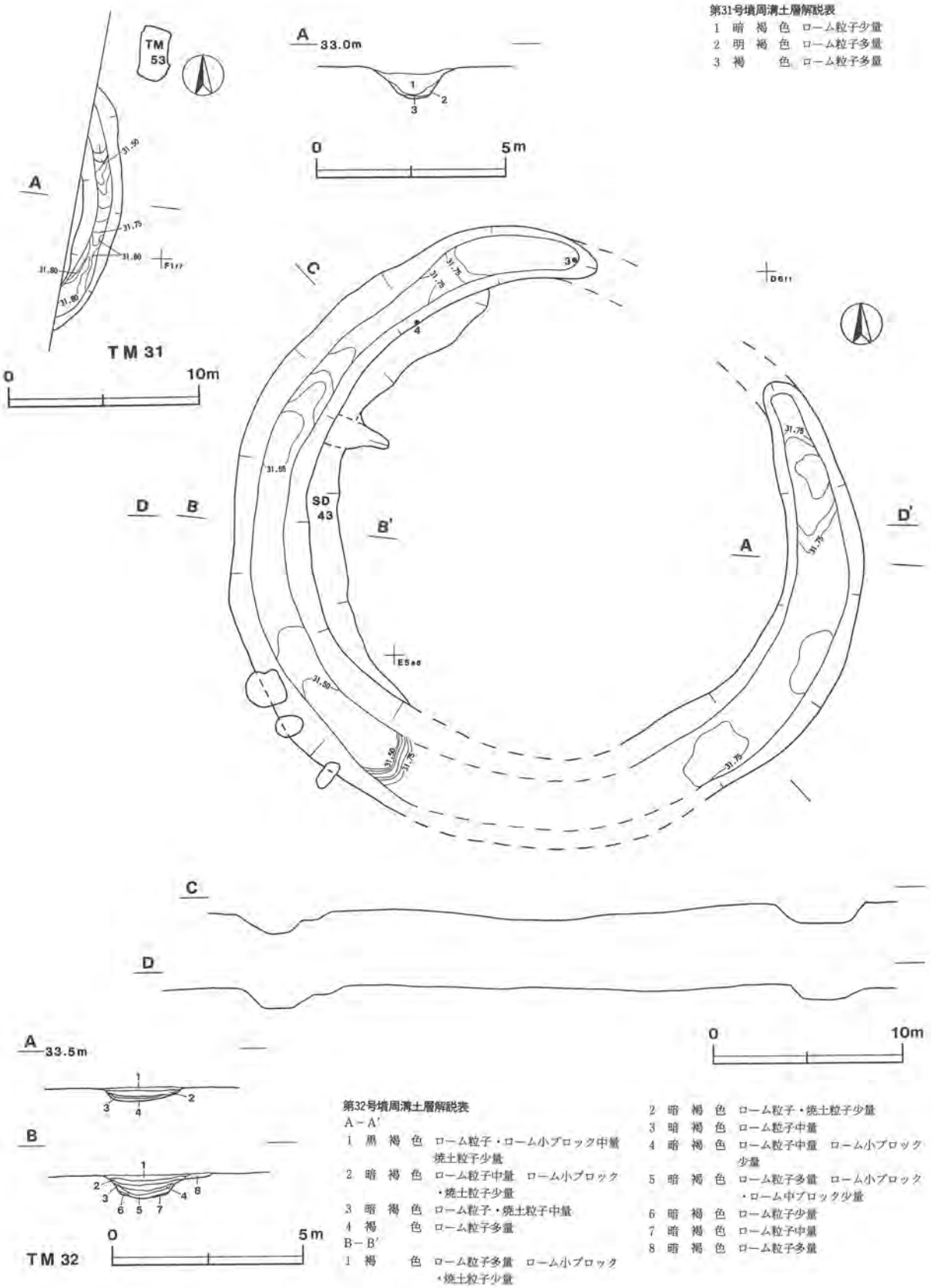


第30号墳周溝土層解説表

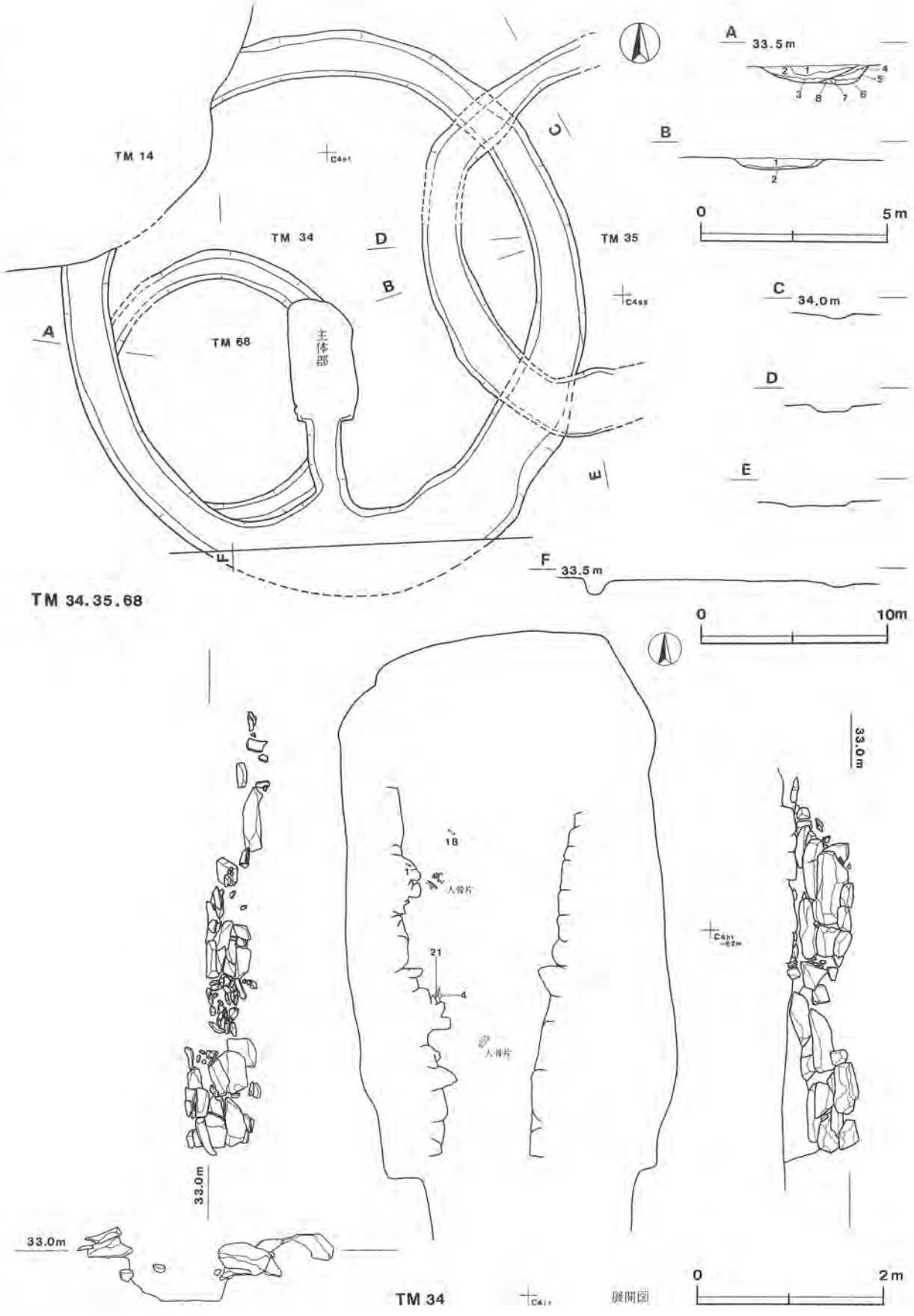
C－C'
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子中量

B－B'
1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子少量

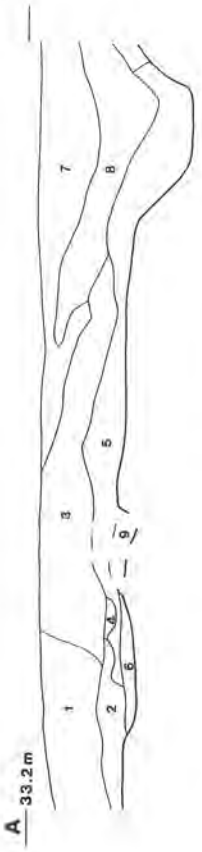
第307図　第28・29・30号墳



第308図　第31・32号墳



第309図　第34・35・68号墳

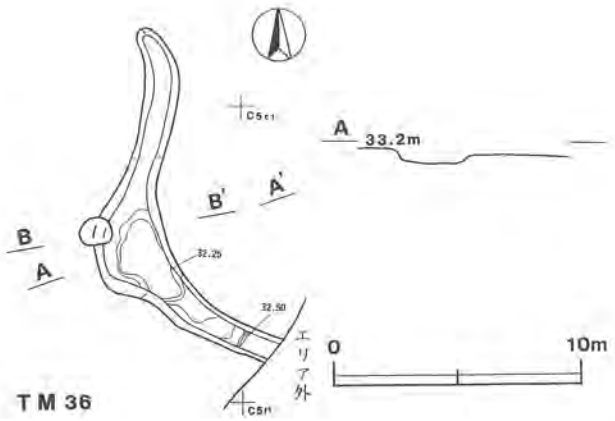


第34号墳石質土層解説表

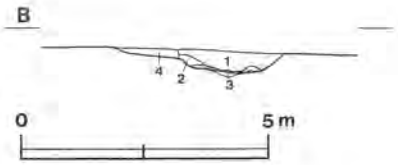
1	黒	褐	色 炭化粒子少量
2	黒	褐	色 ローム粒子微量
3	暗	褐	色 粘土粒子少量
4	黒	褐	色 粘土中ブロック中量
5	暗	褐	色 粘土小ブロック少量
6	黒	褐	色 ローム粒子微量
7	暗	褐	色 粘土小ブロック中量 ローム粒子・ローム小ブロック・礫少量
8	暗	褐	色 礫多量

TM 34

第310図　第34号墳

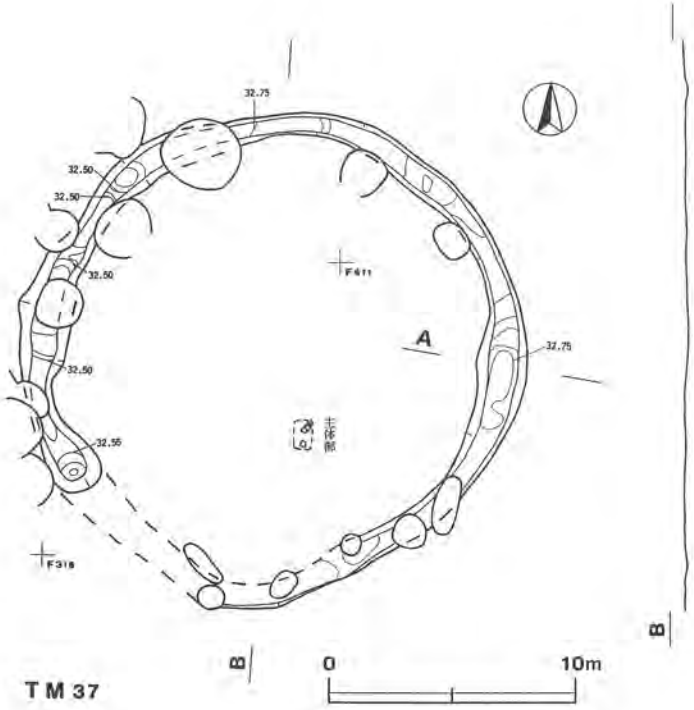


TM 36

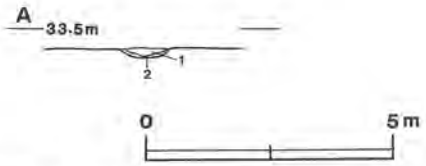


第36号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
2 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 炭化粒子・炭化物少量

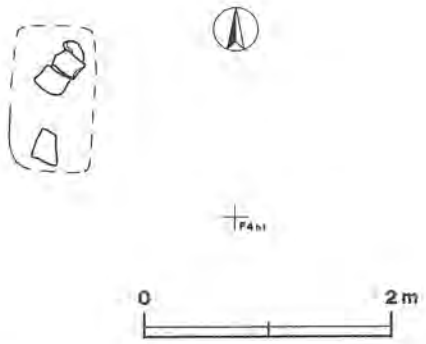


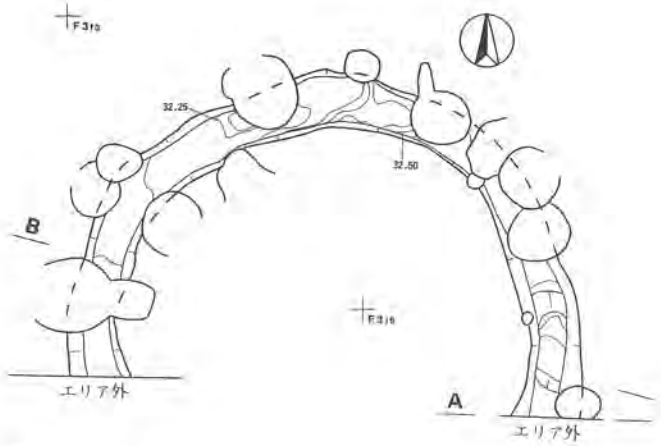
TM 37

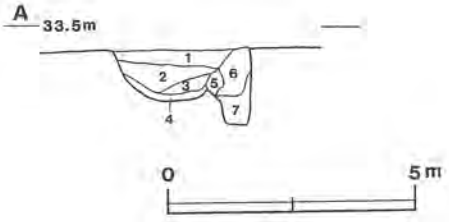


第37号墳周溝土層解説表

1 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量





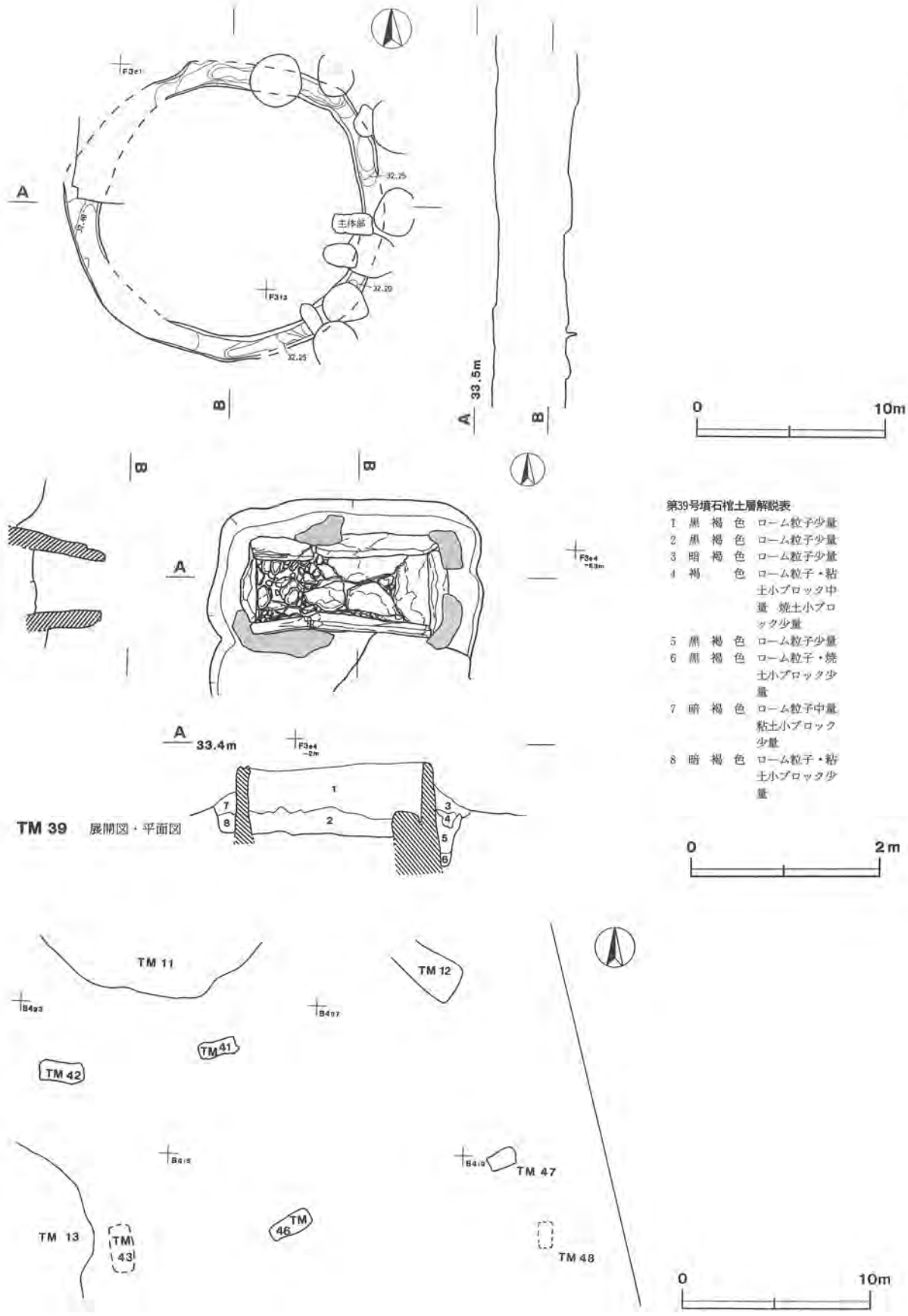


第38号墳周溝土層解説表

1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子微量
4 極暗褐色 ローム粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量
7 黒 褐 色 ローム微量

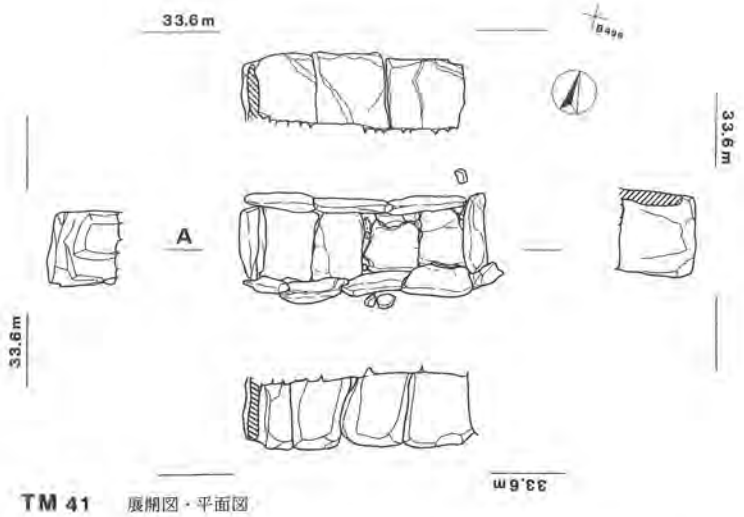
TM 38

第311図 第36・37・38号墳

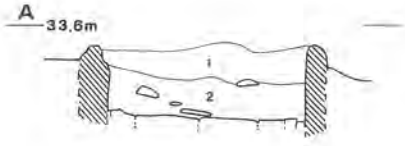


TM 39 展開図・平面図

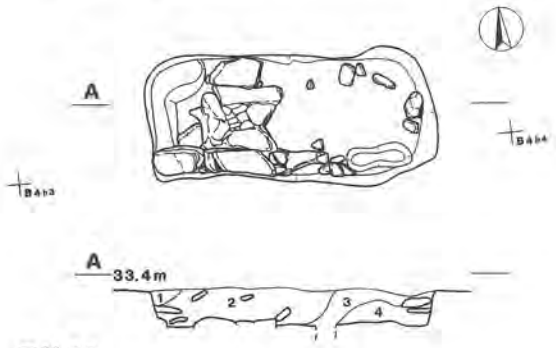
第312図 第39号墳



TM 41　展開図・平面図



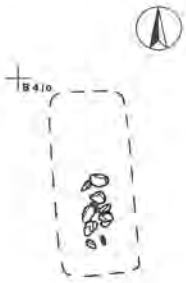
第41号墳石棺土層解説表
1 褐　色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量



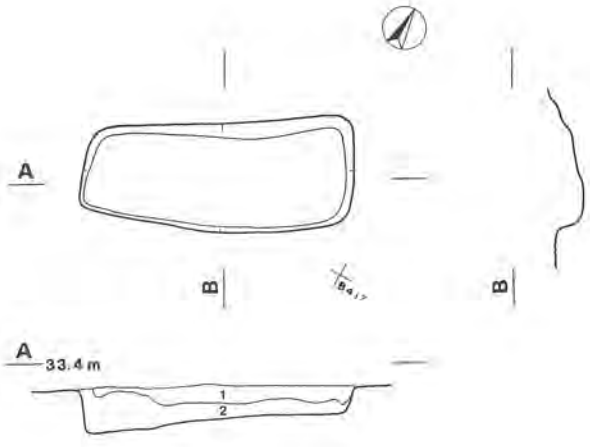
TM 42

第42号墳石棺土層解説表
1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土中ブロック少量
2 黒 褐 色 粘土小ブロック中量 ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子・粘土小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム小ブロック・粘土粒子少量

TM 43

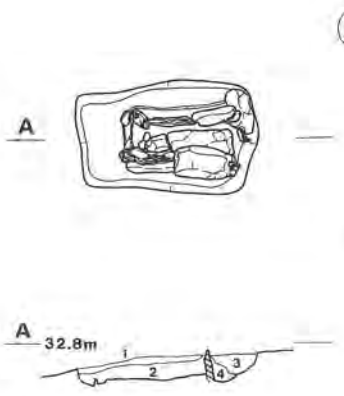


TM 48



TM 46

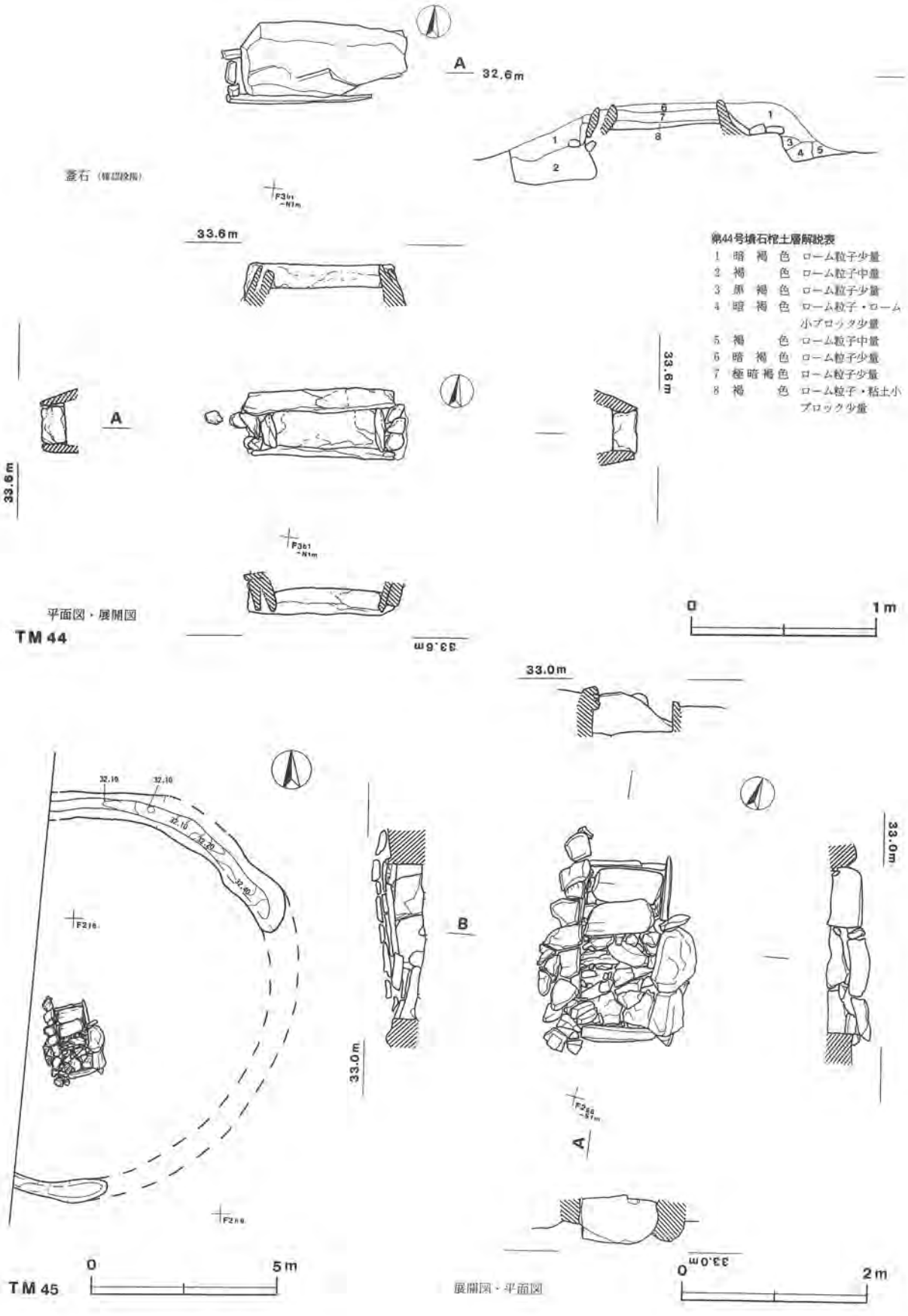
第46号墳石棺土層解説表
1 暗 褐 色 粘土小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



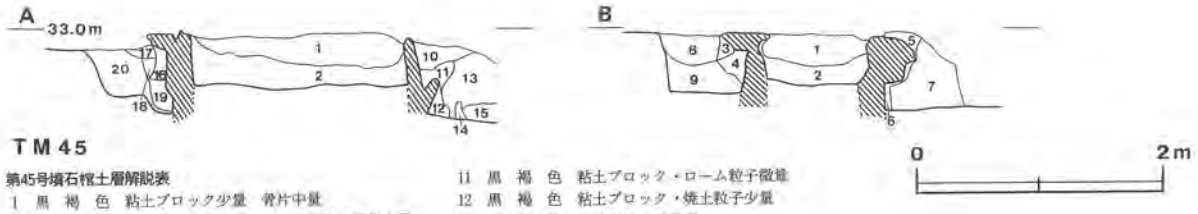
TM 47

第47号墳石棺土層解説表
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 粘土小ブロック微量
4 褐　色 ローム粒子中量

第313図　第41・42・43・46・47・48号墳



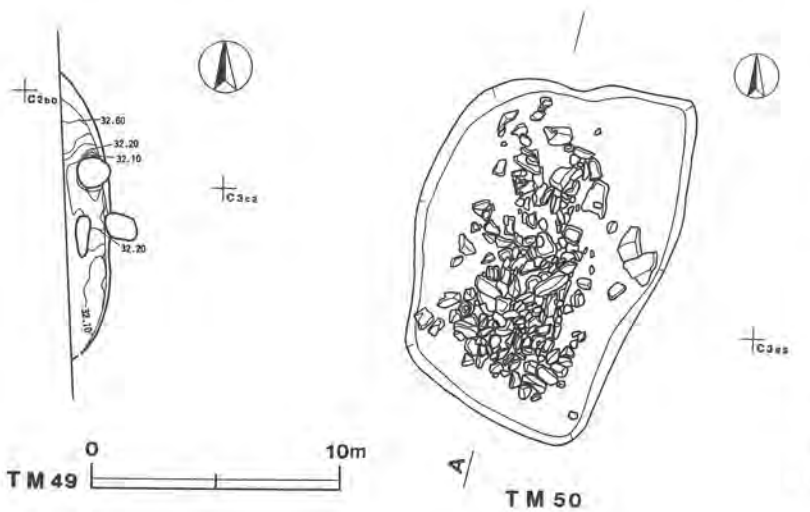
第314図　第44・45号墳



TM 45

第45号墳石棺土層解説表

1 黒 褐 色 粘土ブロック少量 骨片中量
2 黒 褐 色 粘土ブロック中量 ローム粒子・骨片少量
3 灰 褐 色 粘土ブロック多量 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 粘土ブロック中量
5 緑 灰 色 粘土ブロック多量
6 灰 褐 色 粘土ブロック中量 ローム粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子微量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量
9 褐 色 ローム粒子中量
10 黒 褐 色 粘土ブロック微量
11 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
12 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子少量
13 暗 褐 色 粘土ブロック微量
14 明 褐 色 ローム
15 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
16 暗 褐 色 ローム粒子少量
17 暗 褐 色 ローム粒子中量
18 暗 褐 色 ローム粒子少量
19 黒 褐 色 粘土ブロック少量
20 明 褐 色 ローム

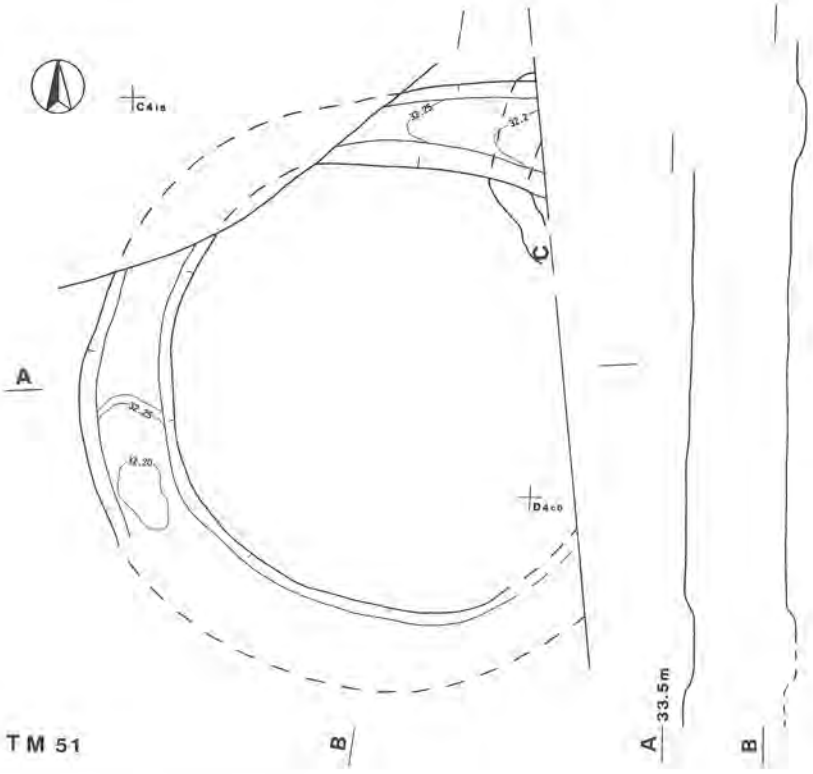


TM 49

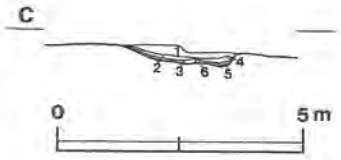
TM 50

第50号墳石棺土層解説表

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 でしまり極めて強い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム小ブロック微量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子微量



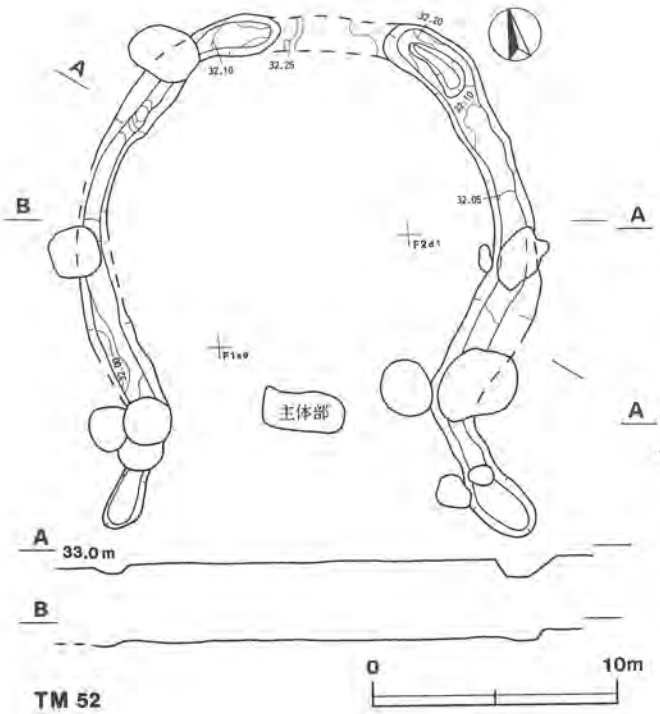
TM 51

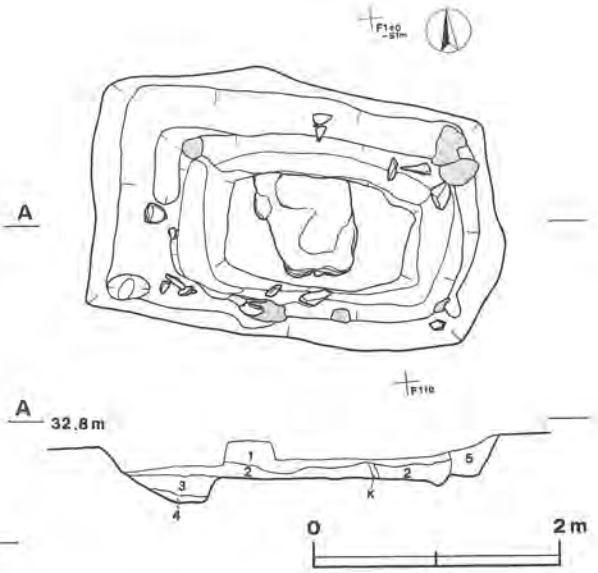


第51号墳周溝土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量
4 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量

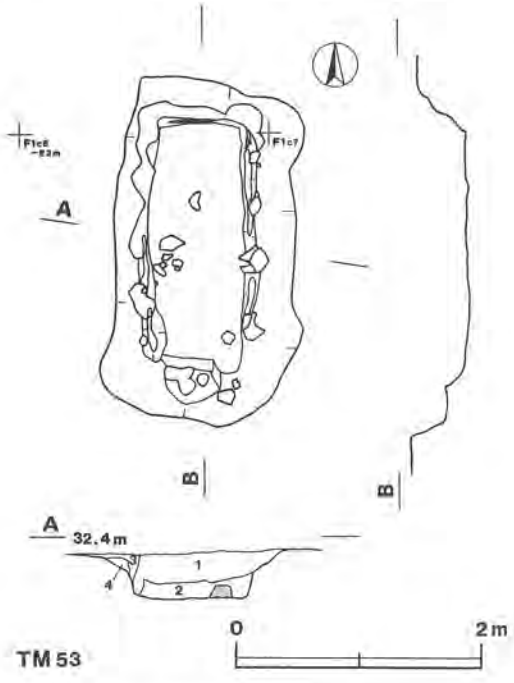
第315図 第45・49・50・51号墳





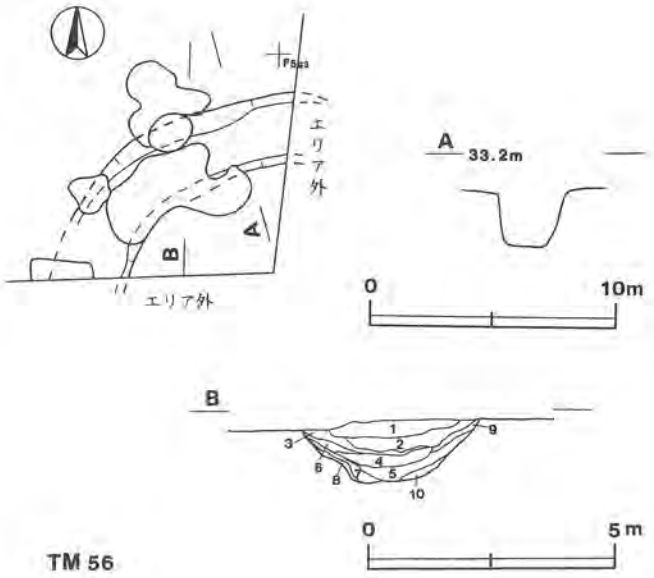
第52号墳石棺土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量



第53号石棺土層解説表

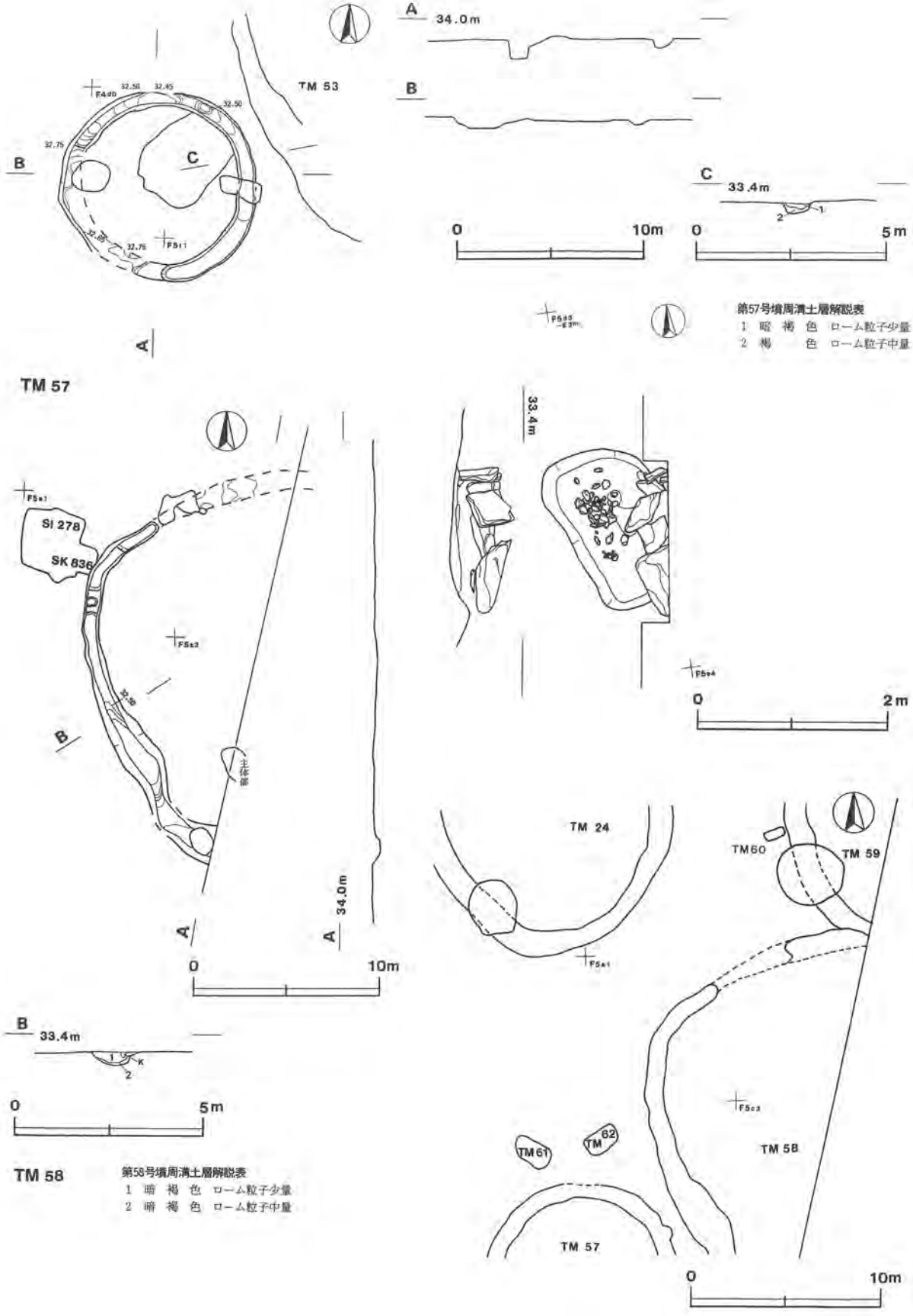
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子・粘土ブロック中量
4 褐 色 ローム粒子中量・粘土ブロック少量



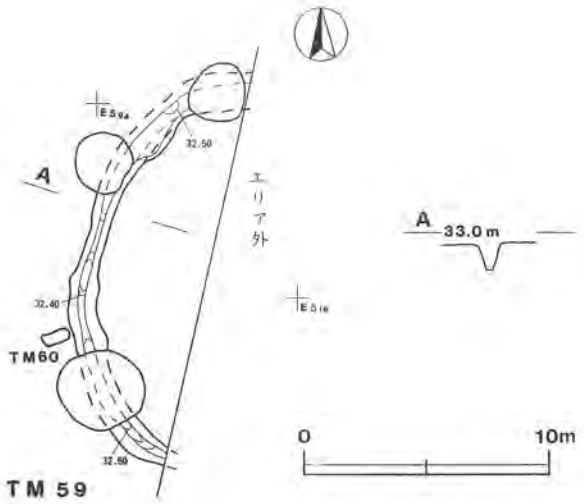
第56号墳周溝土層解説表

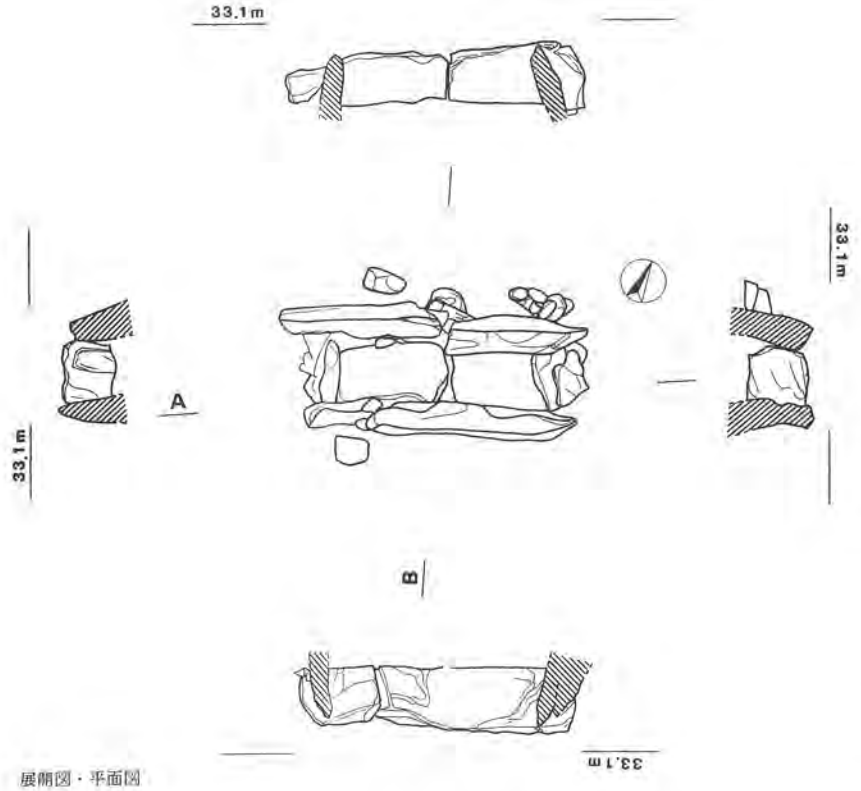
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
8 褐 色 ローム粒子多量
9 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子中量

第316図　第52・53・56号墳



第317図　第57・58号墳

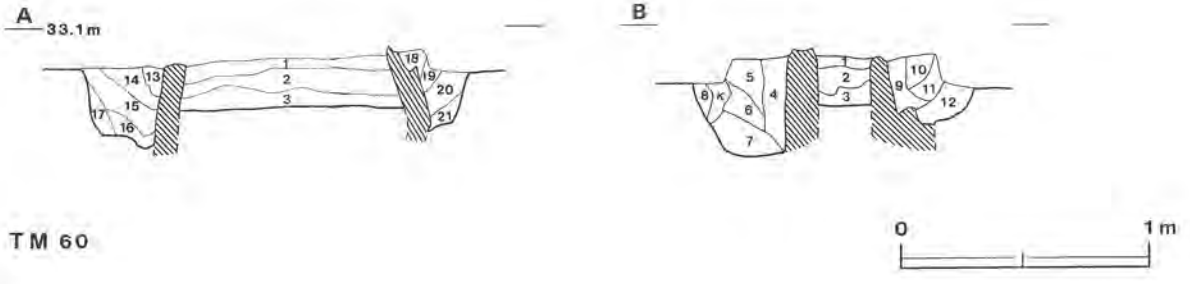




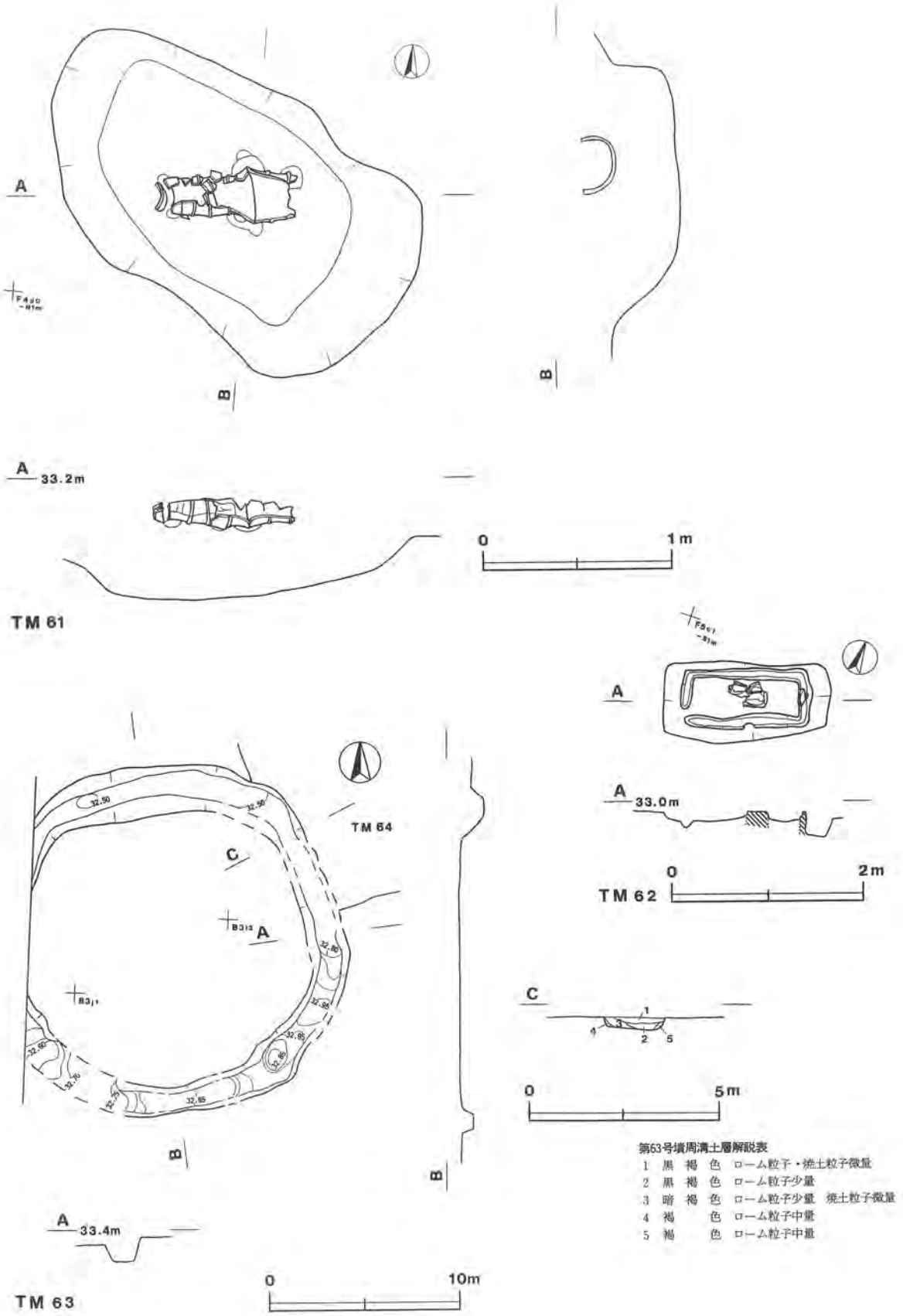
展開図・平面図

第60号墳石棺土層解説表

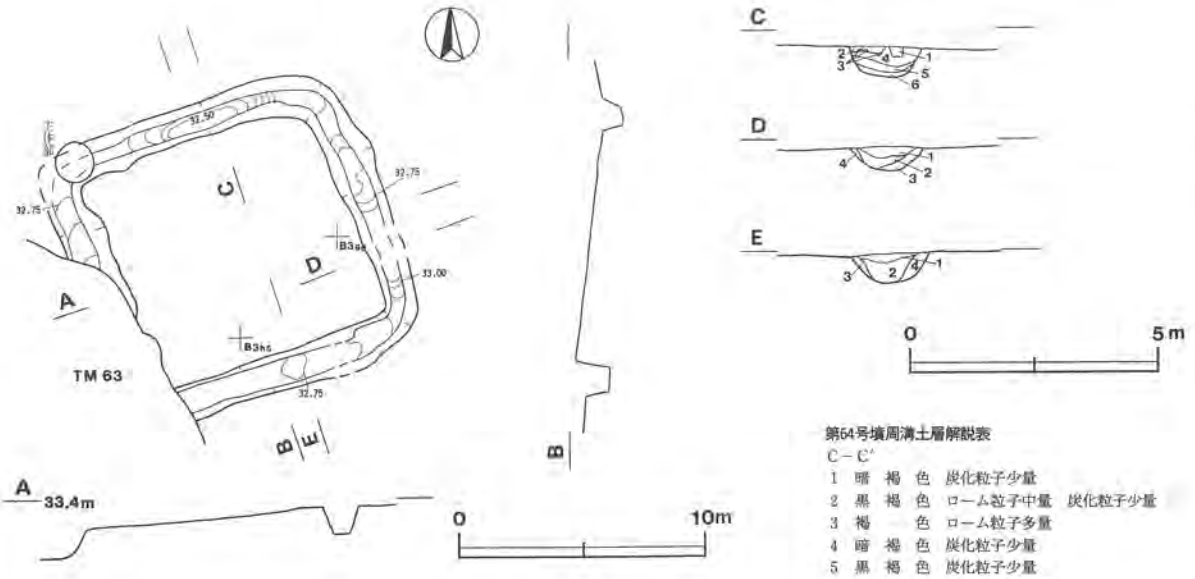
1	暗	褐	色	ローム粒子少量 粘土ブロック微量
2	暗	褐	色	粘土ブロック少量
3	暗	褐	色	粘土ブロック少量
4	暗	褐	色	ローム粒子微量
5	暗	褐	色	ローム粒子少量 焼土粒子微量
6	暗	褐	色	ローム粒子少量
7	暗	褐	色	ローム粒子微量
8	暗	褐	色	ローム粒子微量
9	灰	褐	色	粘土ブロック多量
10	暗	褐	色	ローム粒子少量
11	暗	褐	色	ローム粒子微量
12	暗	褐	色	ローム粒子少量
13	灰	褐	色	粘土ブロック多量 ローム粒子少量
14	暗	褐	色	ローム粒子少量 粘土ブロック微量
15	黒	褐	色	ローム粒子微量
16	褐		色	ローム粒子中量
17	黒	褐	色	ローム粒子少量
18	暗	褐	色	ローム粒子・粘土ブロック微量
19	暗	褐	色	ローム粒子微量
20	暗	褐	色	ローム粒子微量
21	暗	褐	色	ローム粒子・礫微量



第318図　第59・60号墳



第319図　第61・62・63号墳

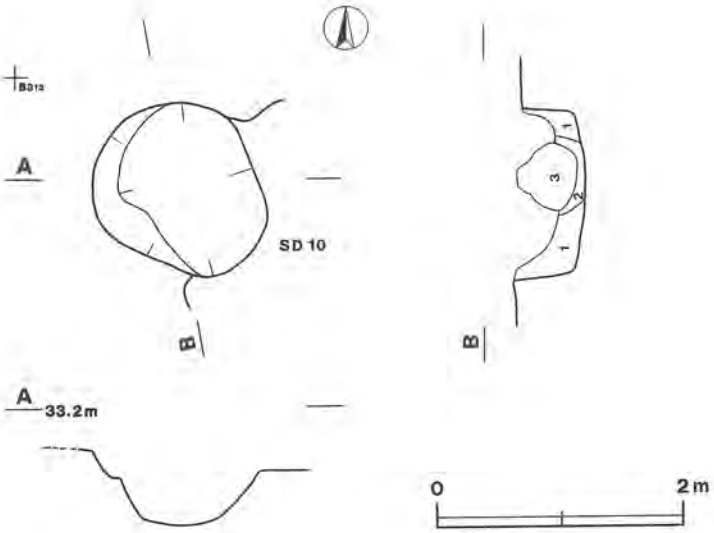


第54号墳周溝土層解説表

C－C'
1 暗 褐 色 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 炭化粒子少量
5 黒 褐 色 炭化粒子少量
6 褐 色 ローム粒子多量

D－D'
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 明 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子中量

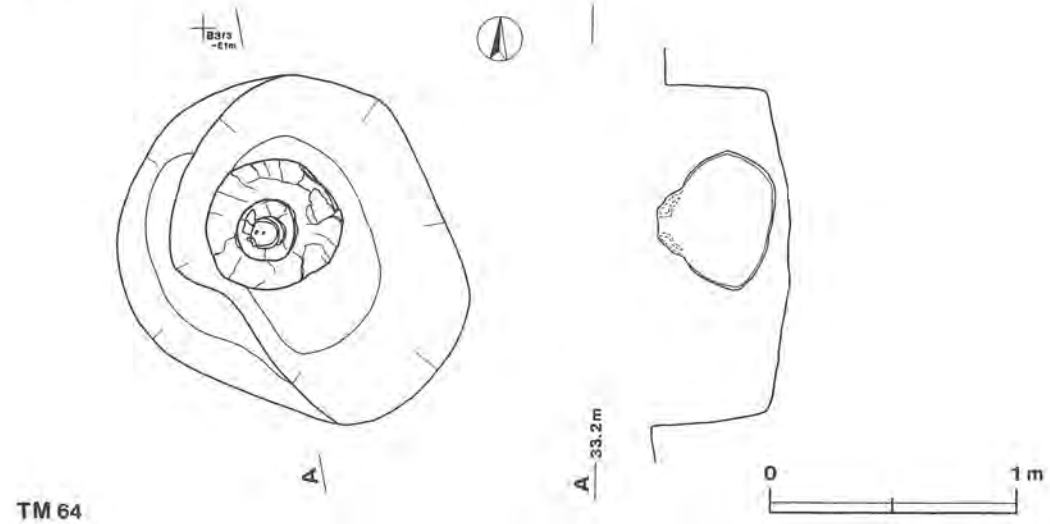
E－E'
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 明 褐 色 ローム粒子多量



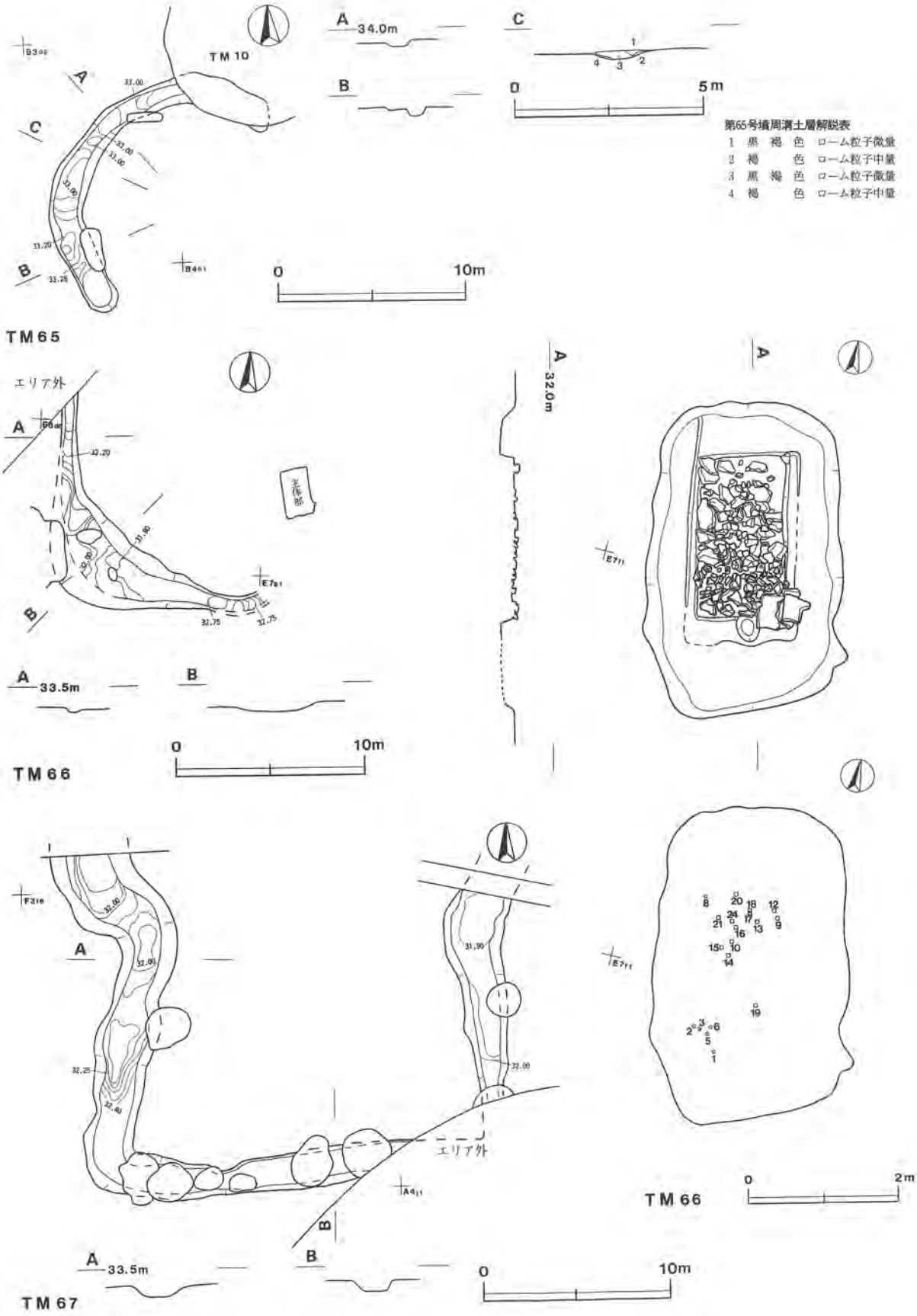
合口壺棺

第64号墳合口壺棺土層解説表

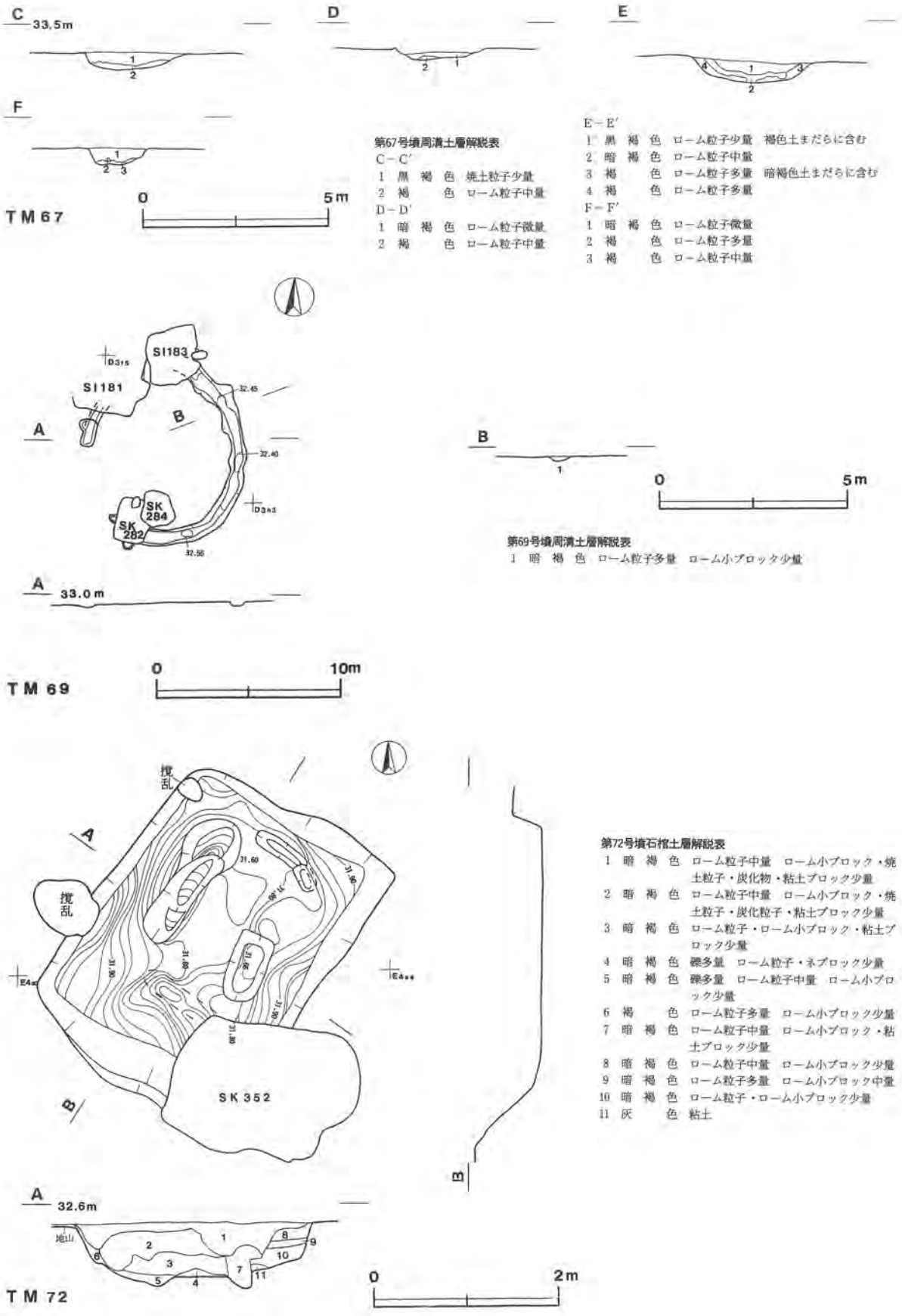
1 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・骨片微量



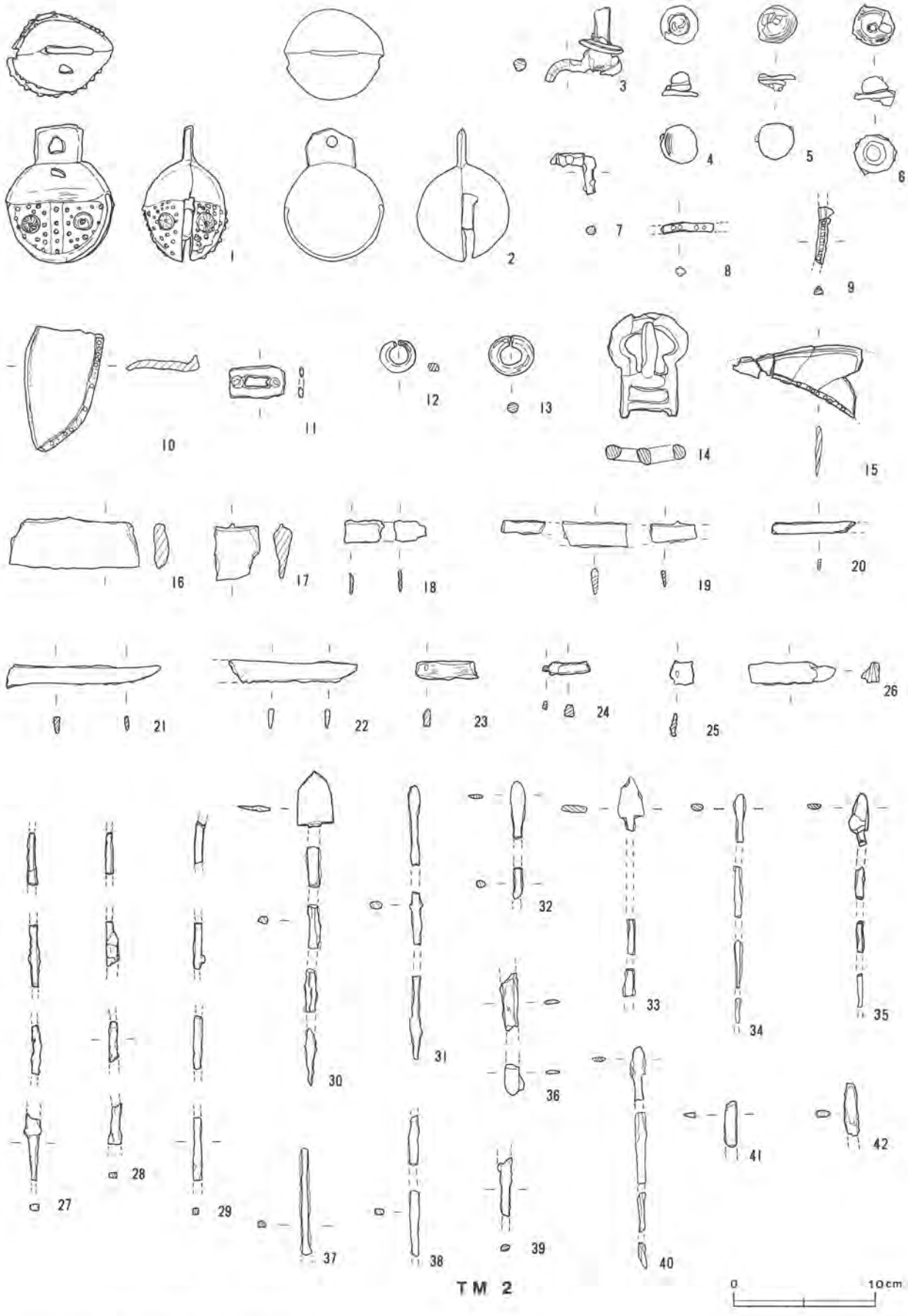
第320図　第64号墳



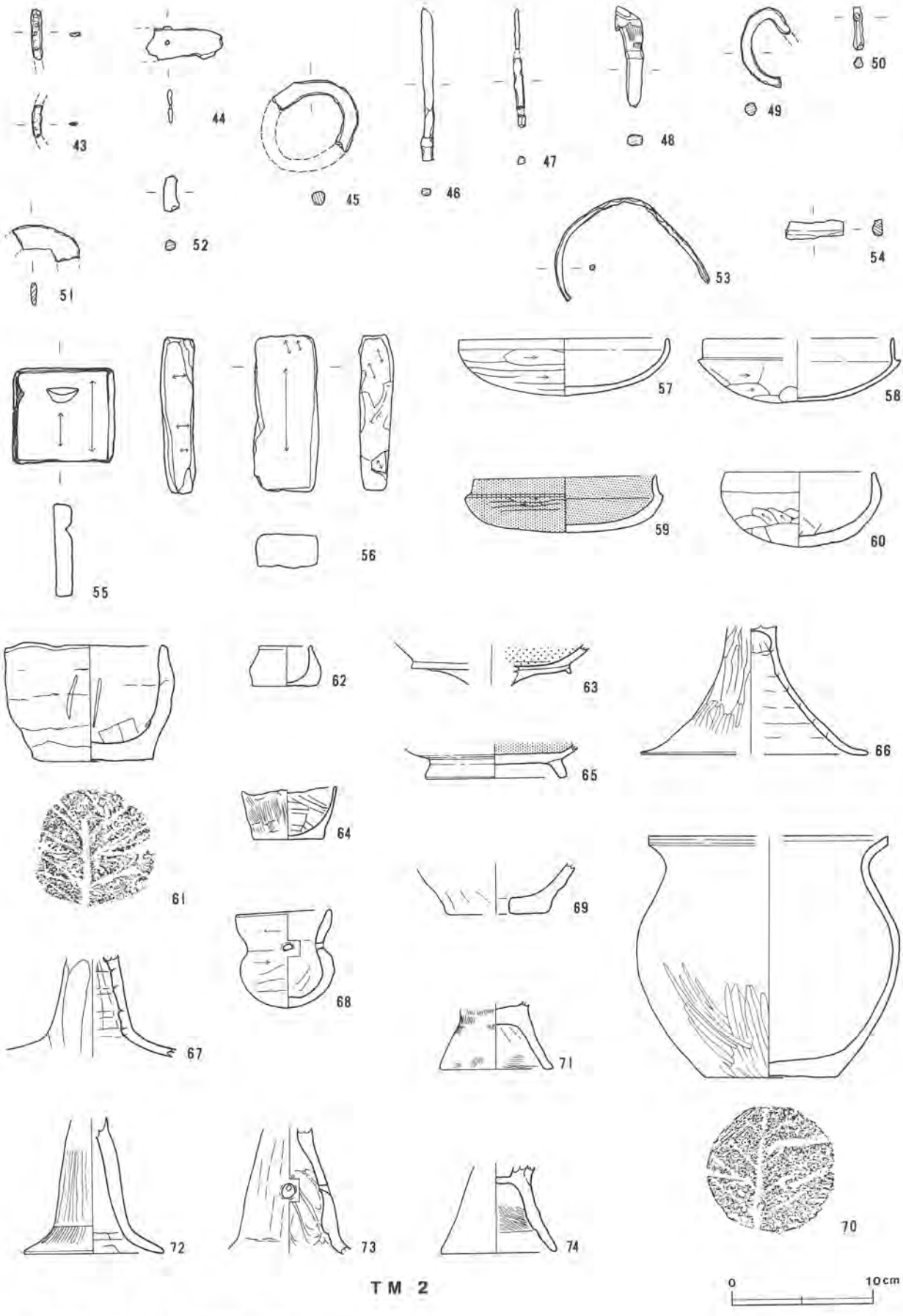
第321図　第65・66・67号墳



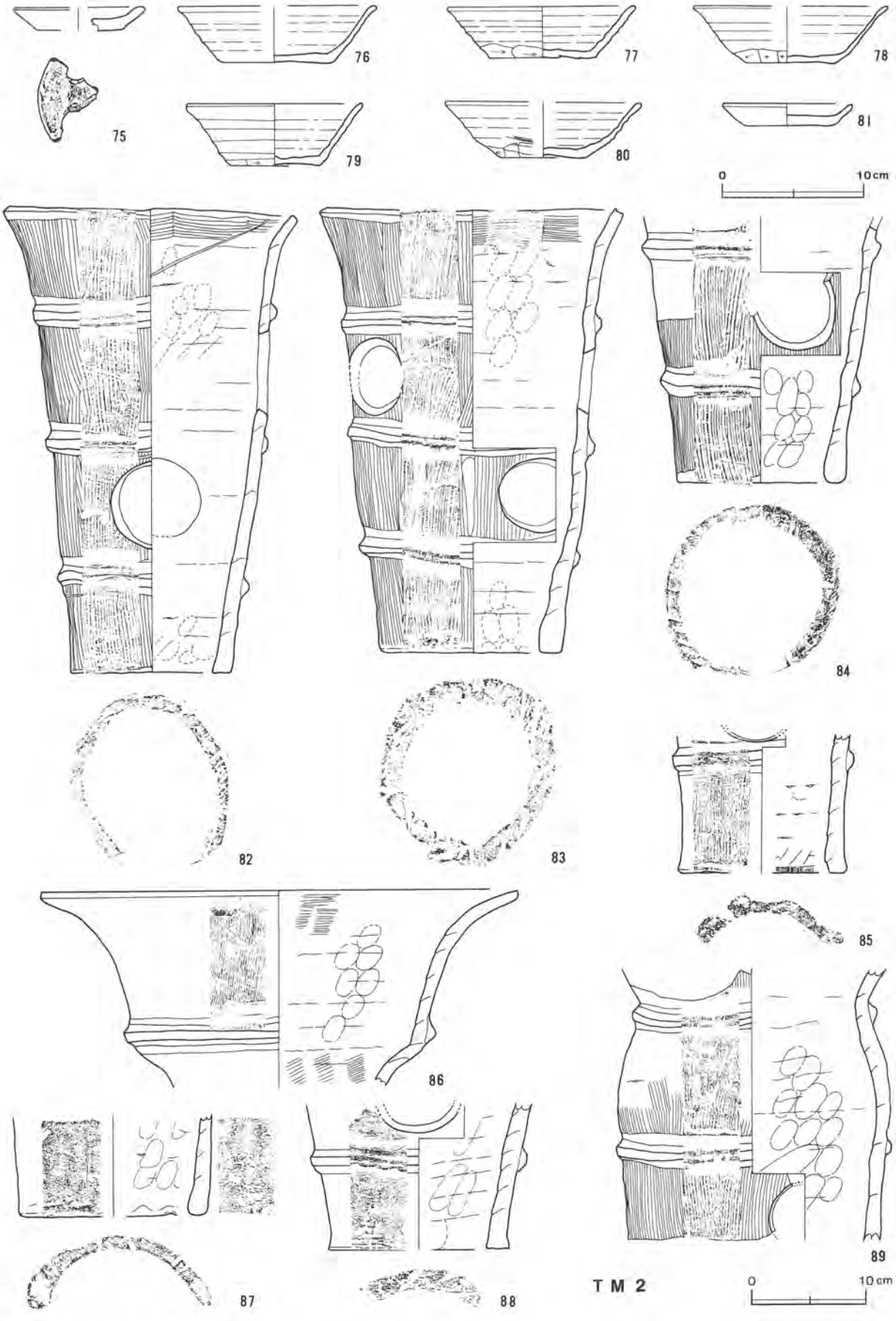
第322図　第67・69・72号墳



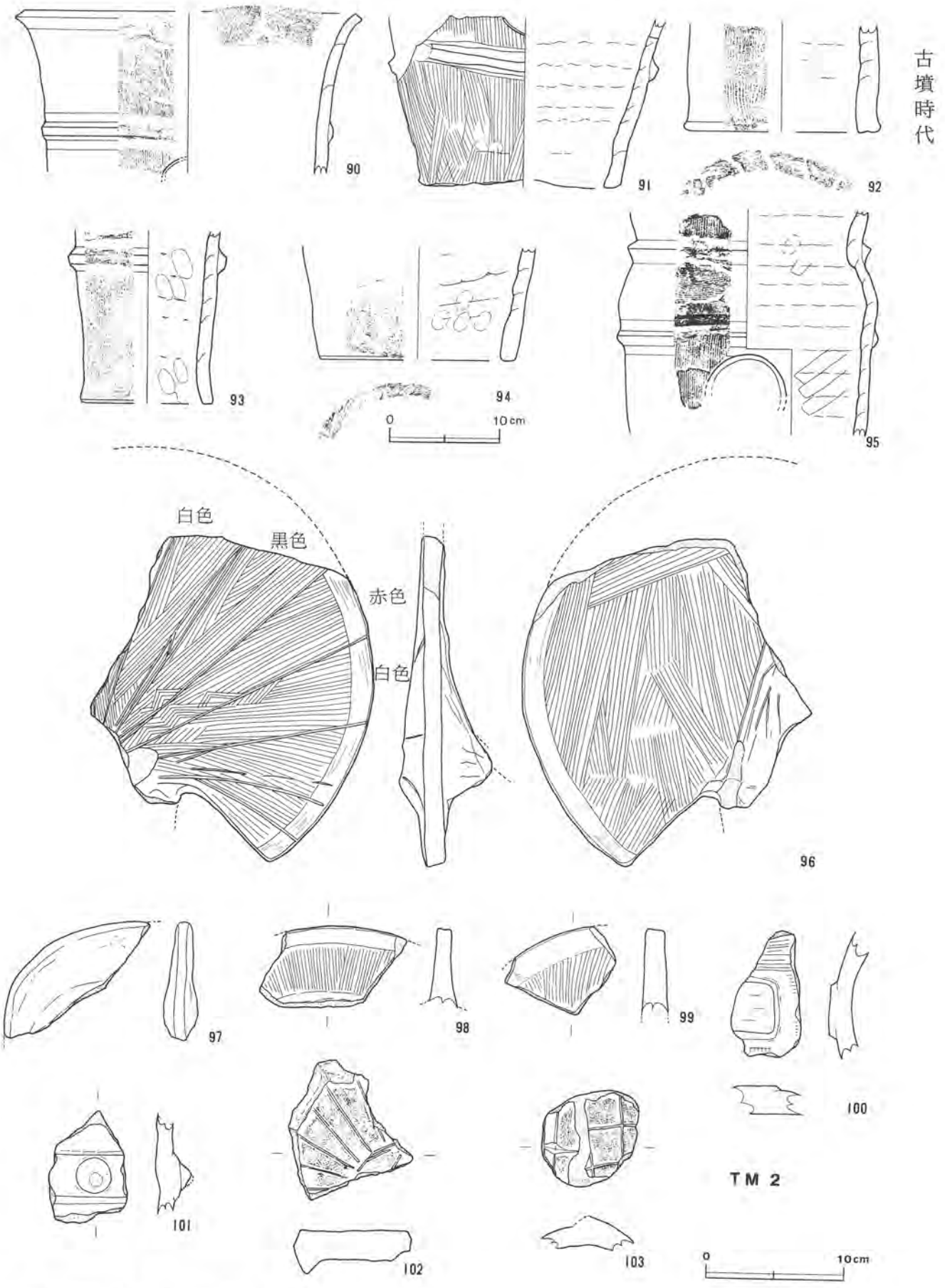
第323図　第２号墳出土遺物(1)



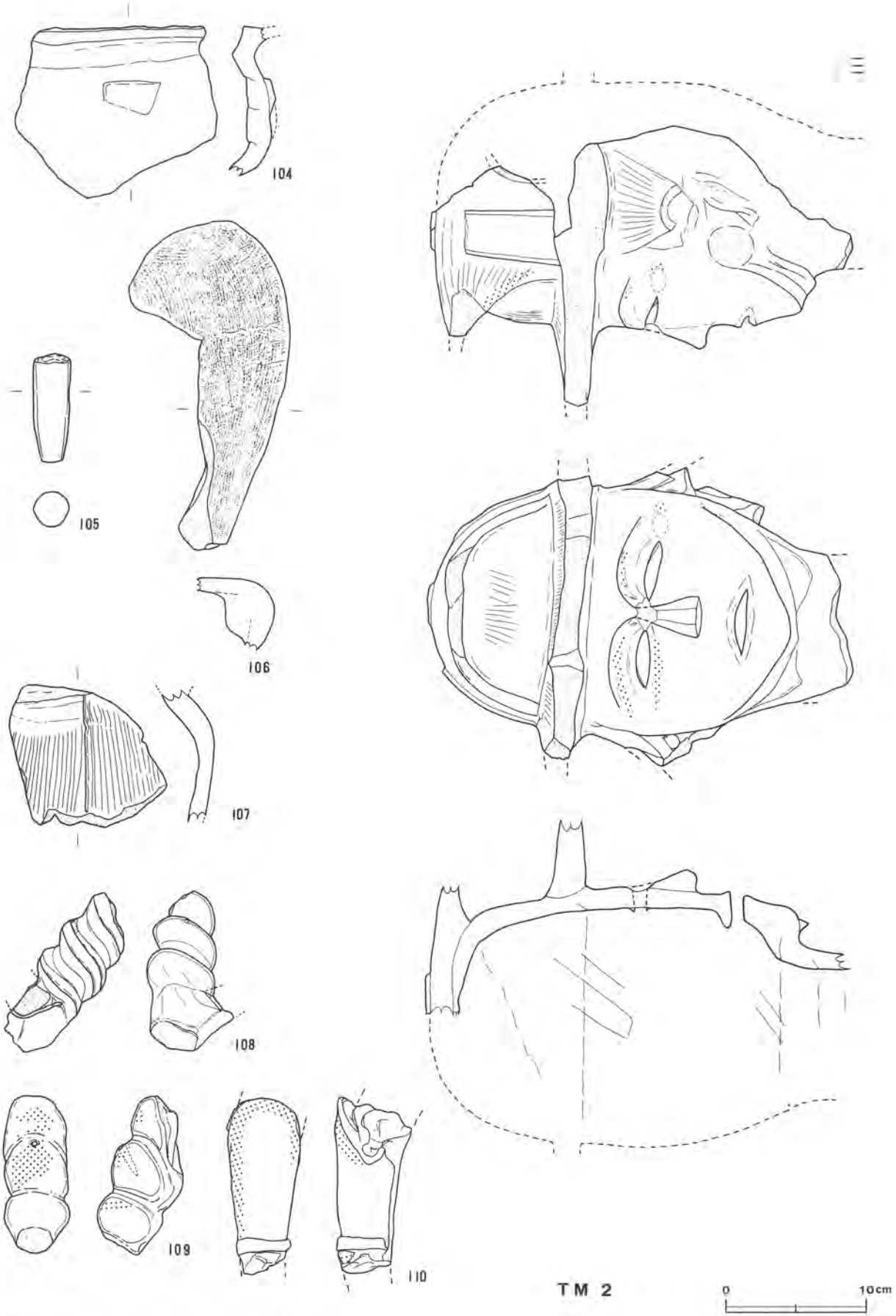
第324図　第２号墳出土遺物(2)



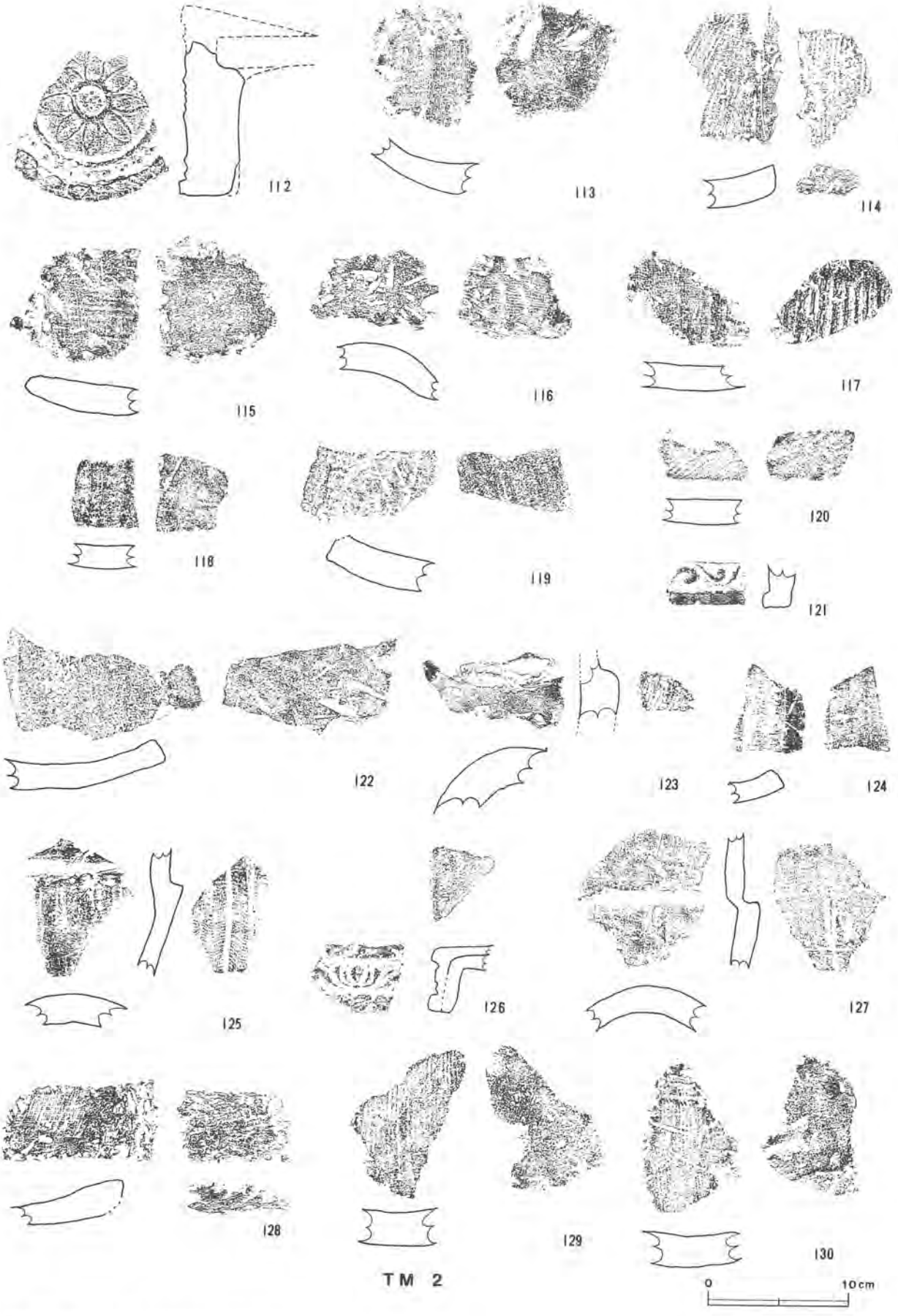
第325図　第２号墳出土遺物(3)



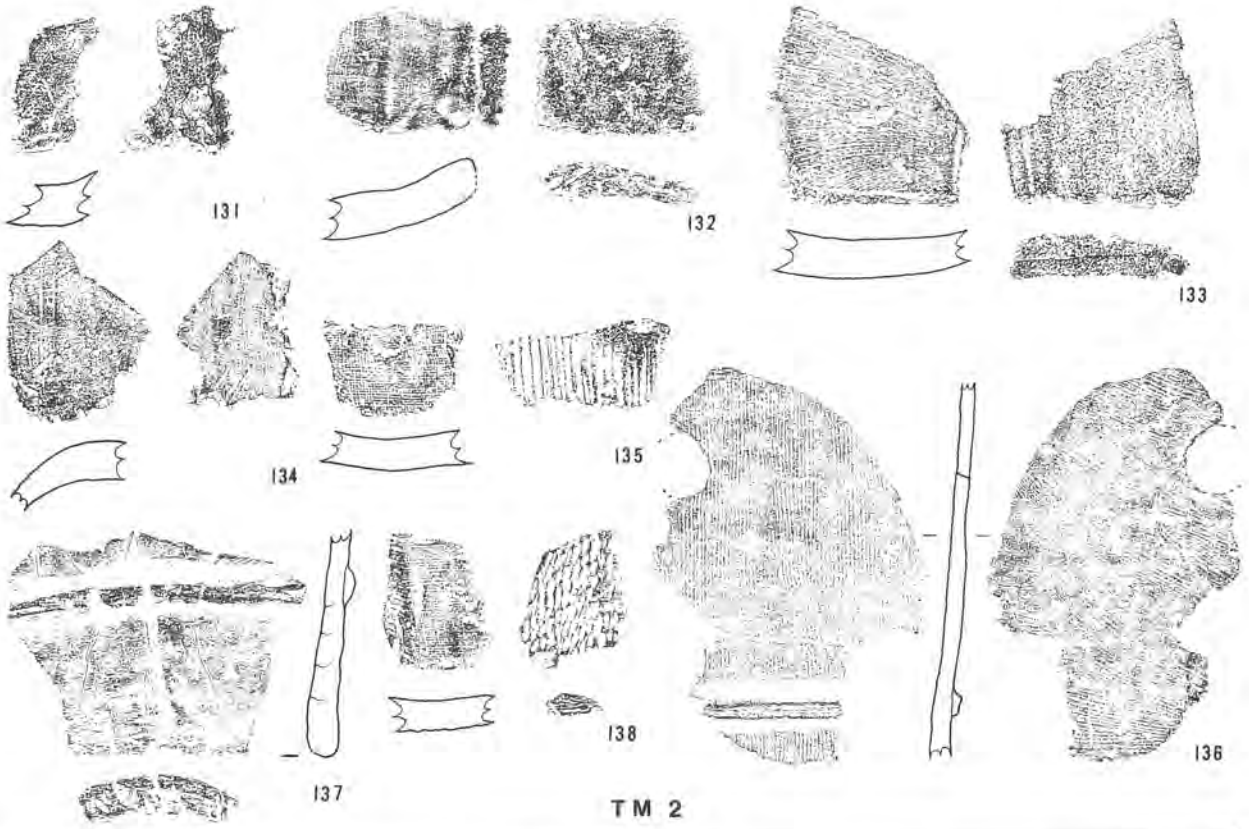
第326図　第２号墳出土遺物(4)

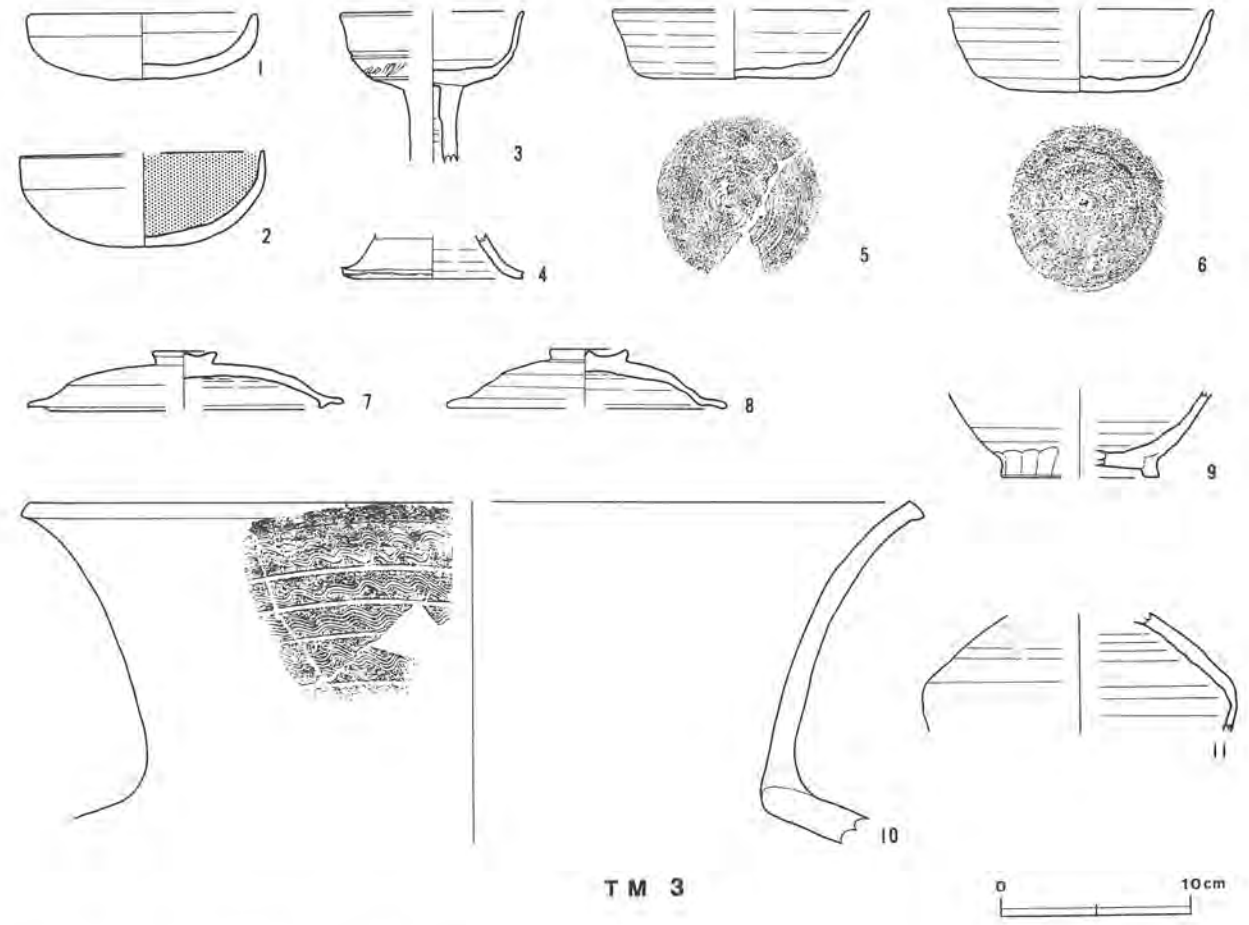


第327図　第２号墳出土遺物(5)

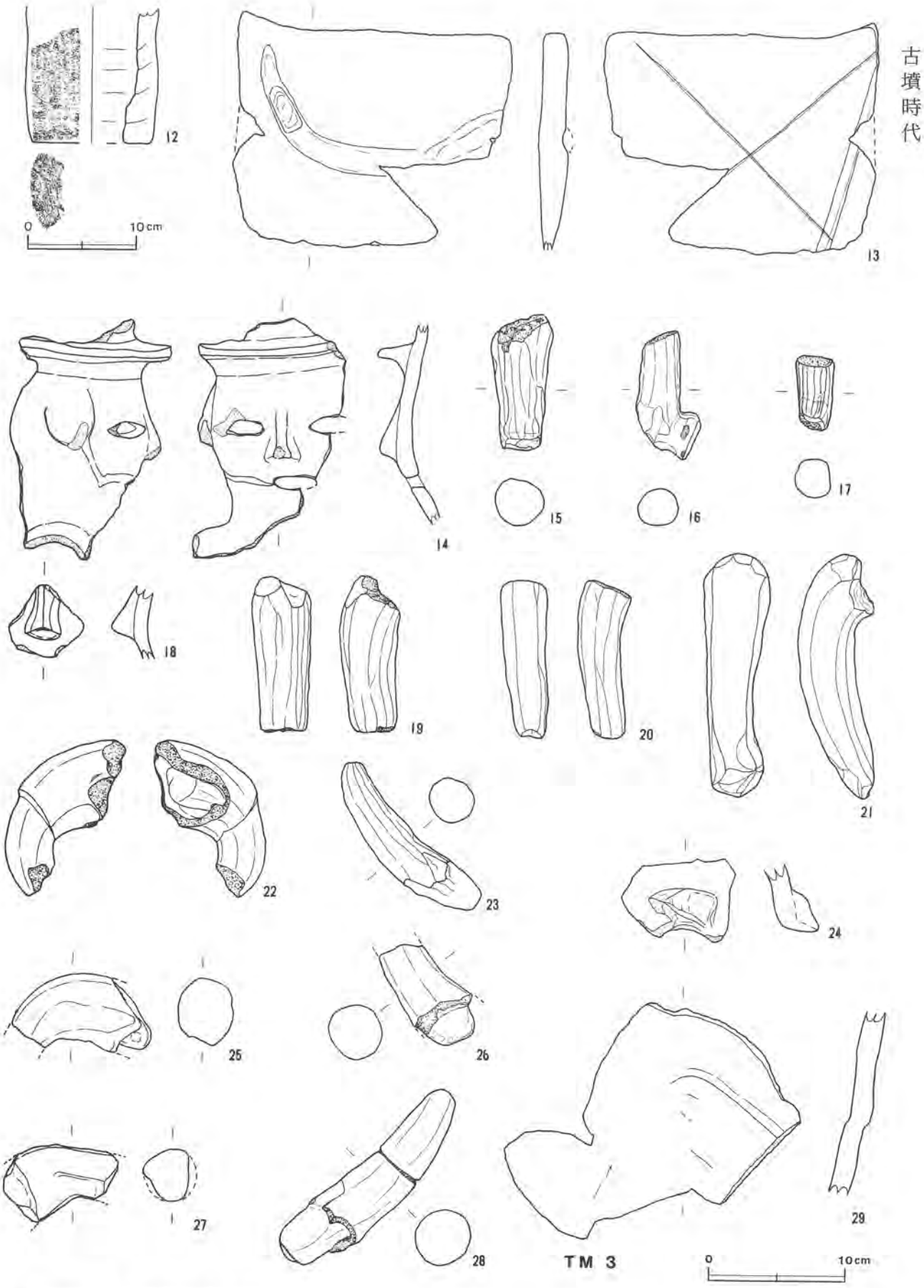


第328図　第２号墳出土遺物(6)

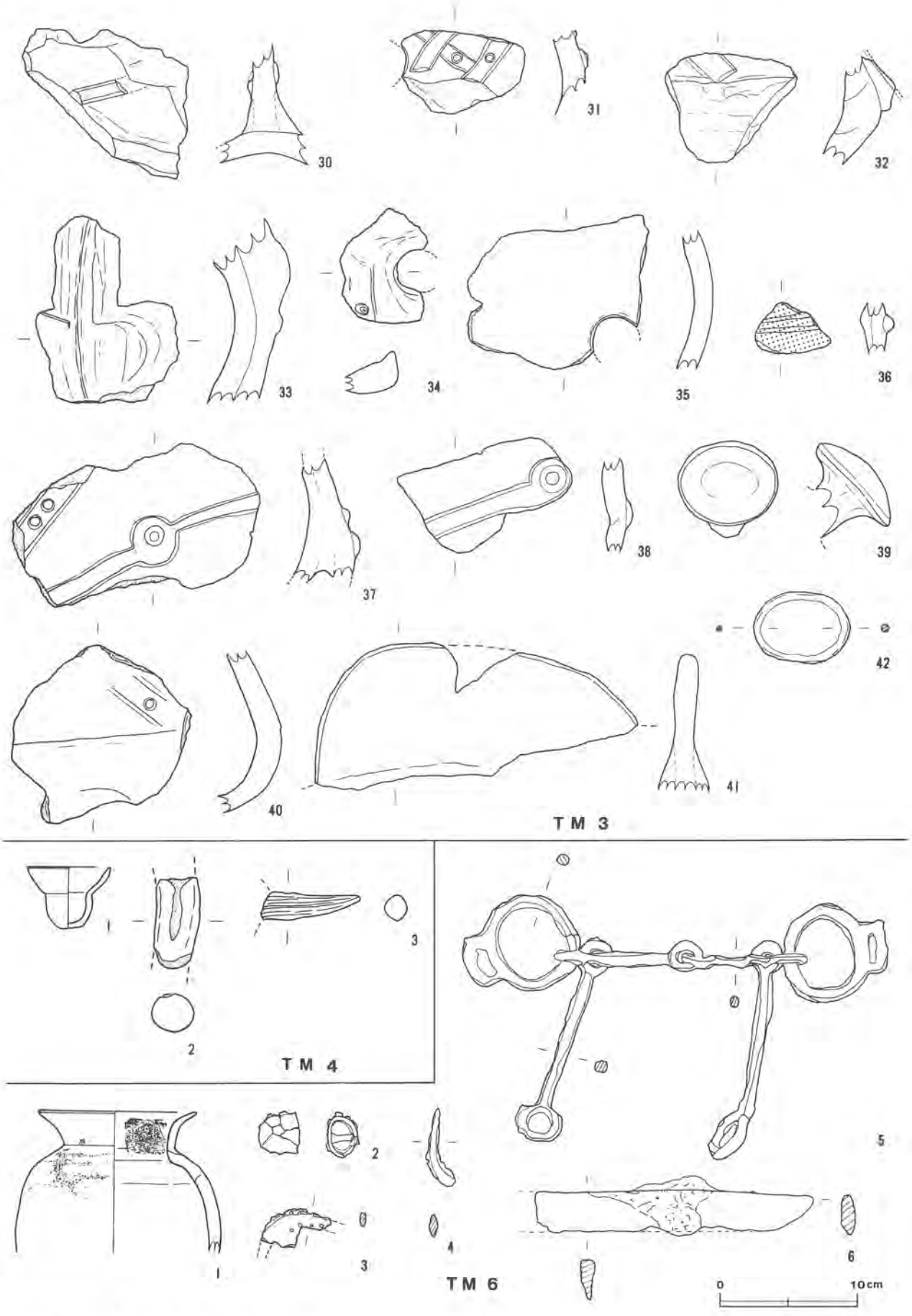




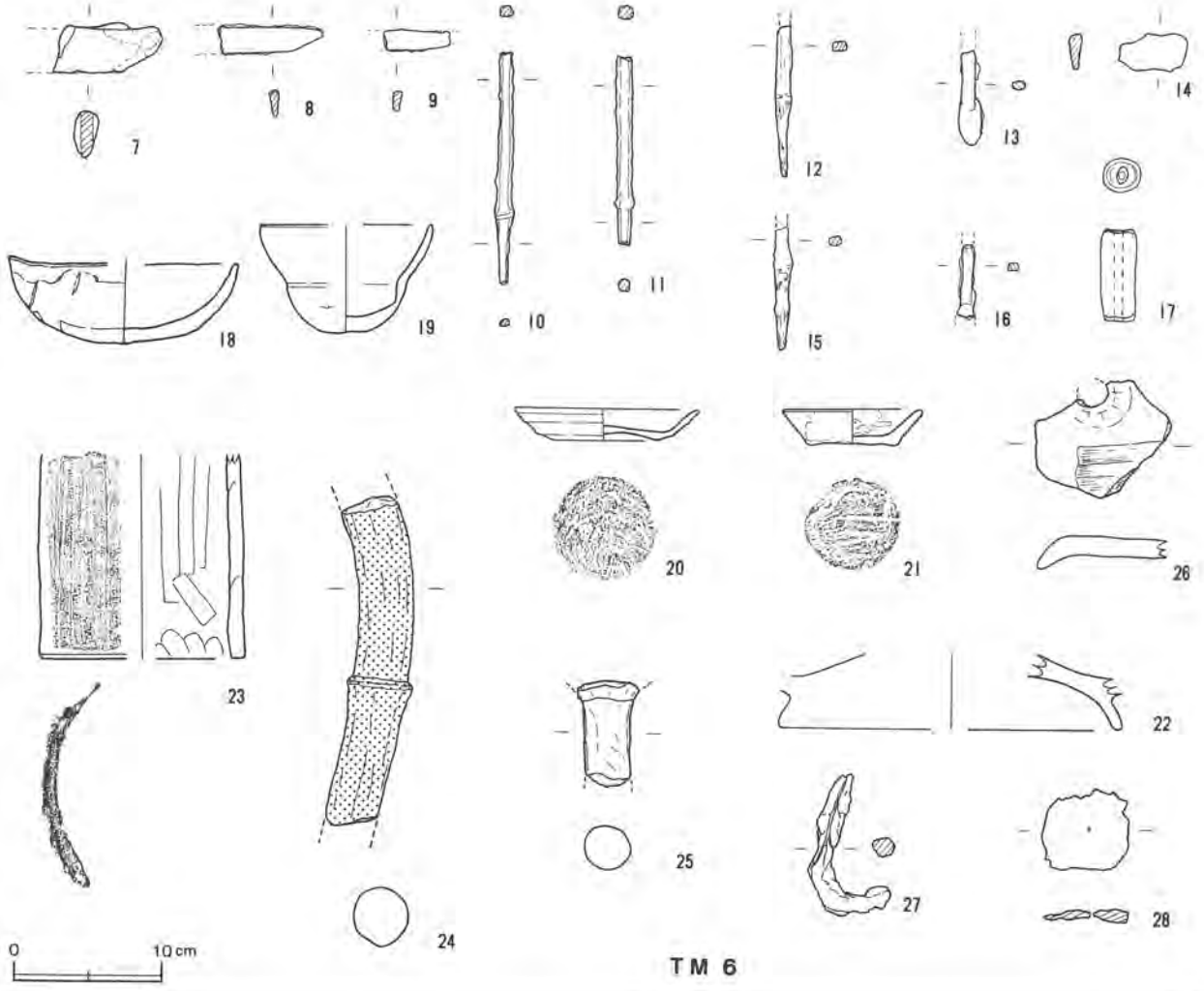
第329図　第２・３号墳出土遺物

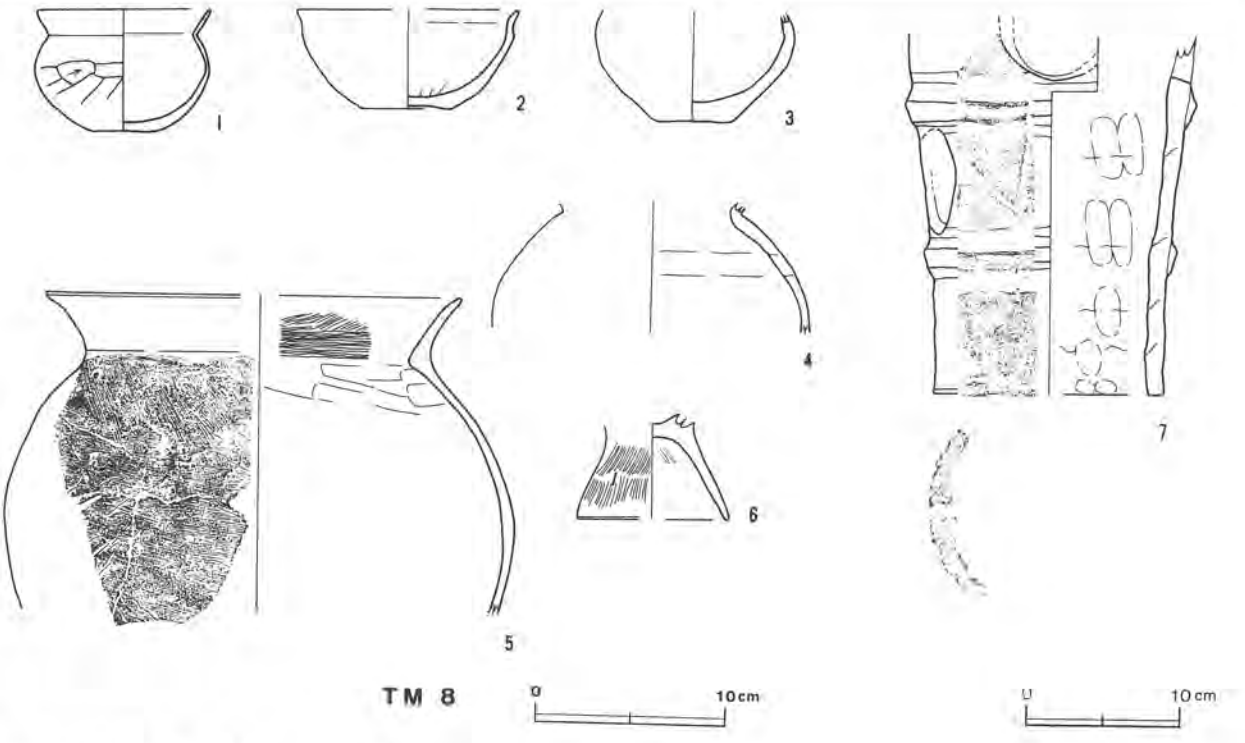


第330図　第３号墳出土遺物

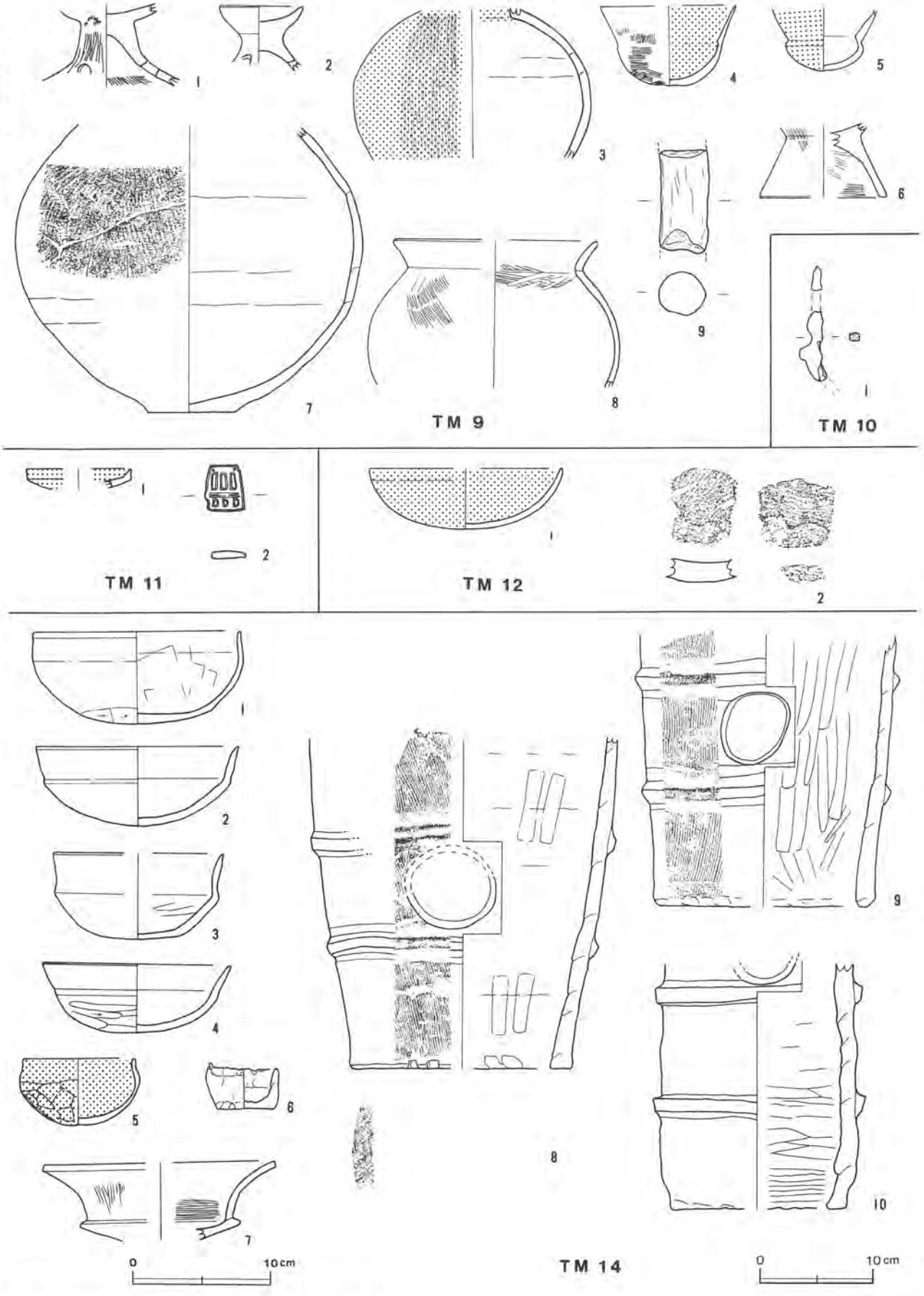


第331図　第３・４・６号墳出土遺物

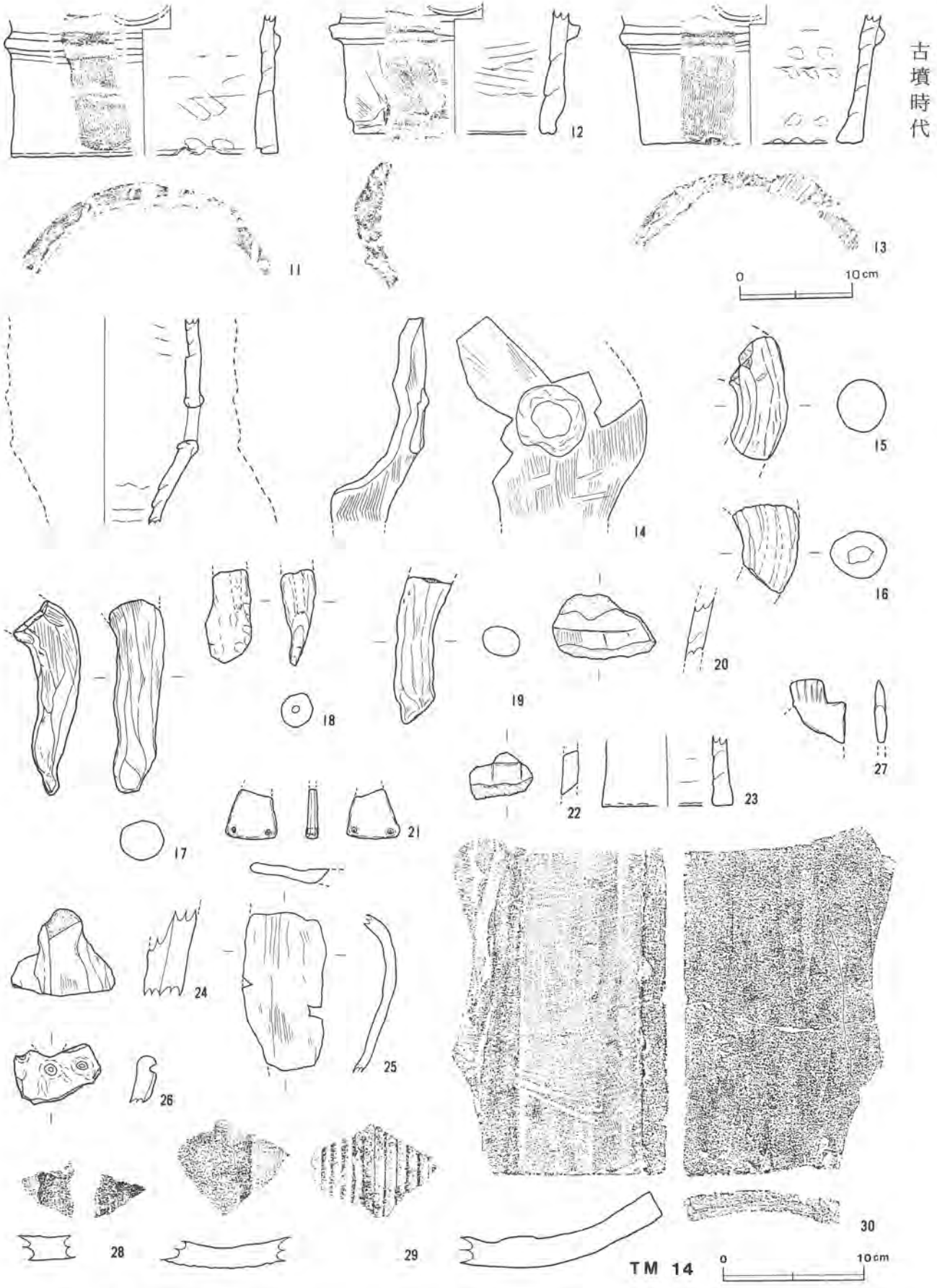




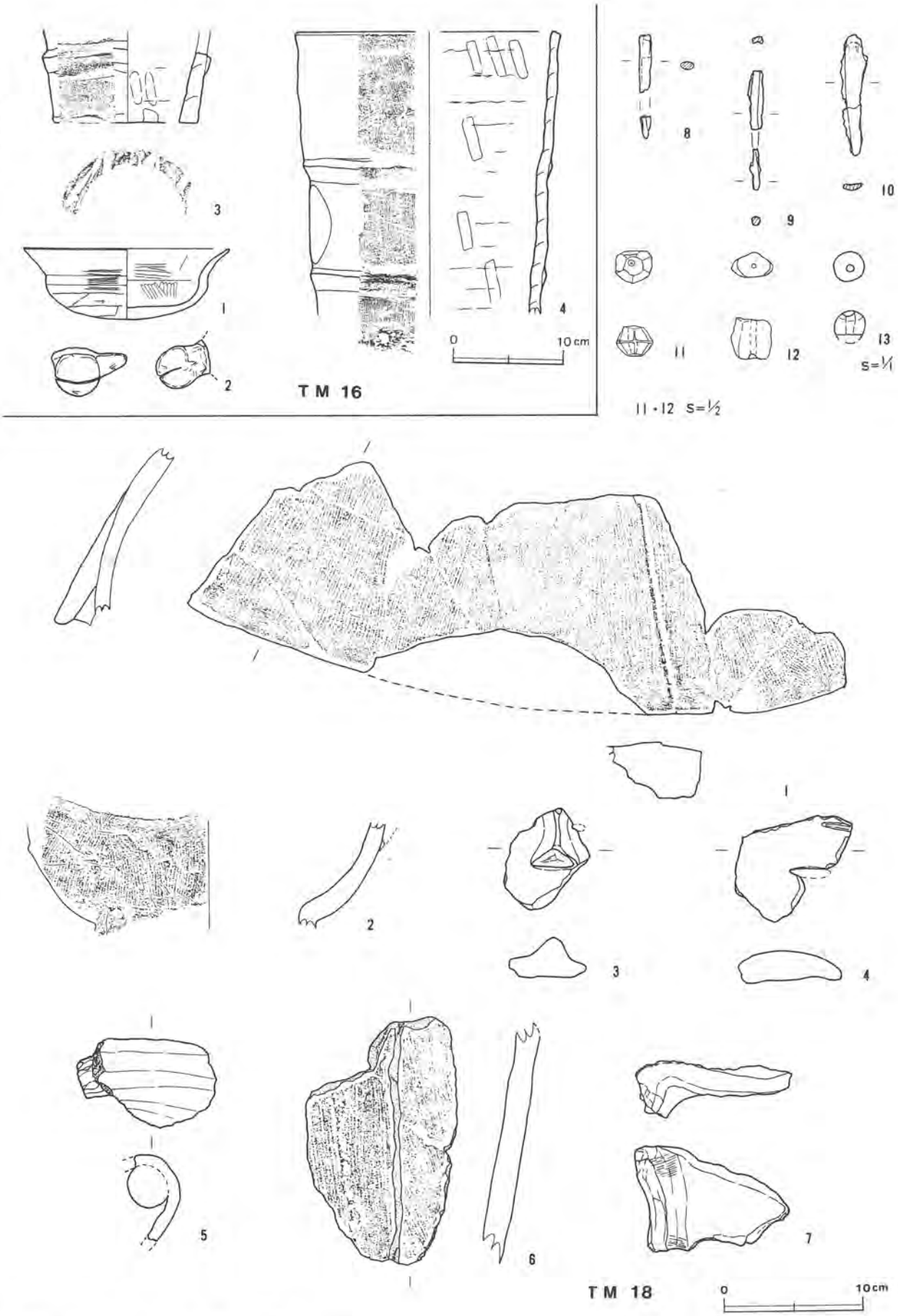
第332図　第6・8号墳出土遺物



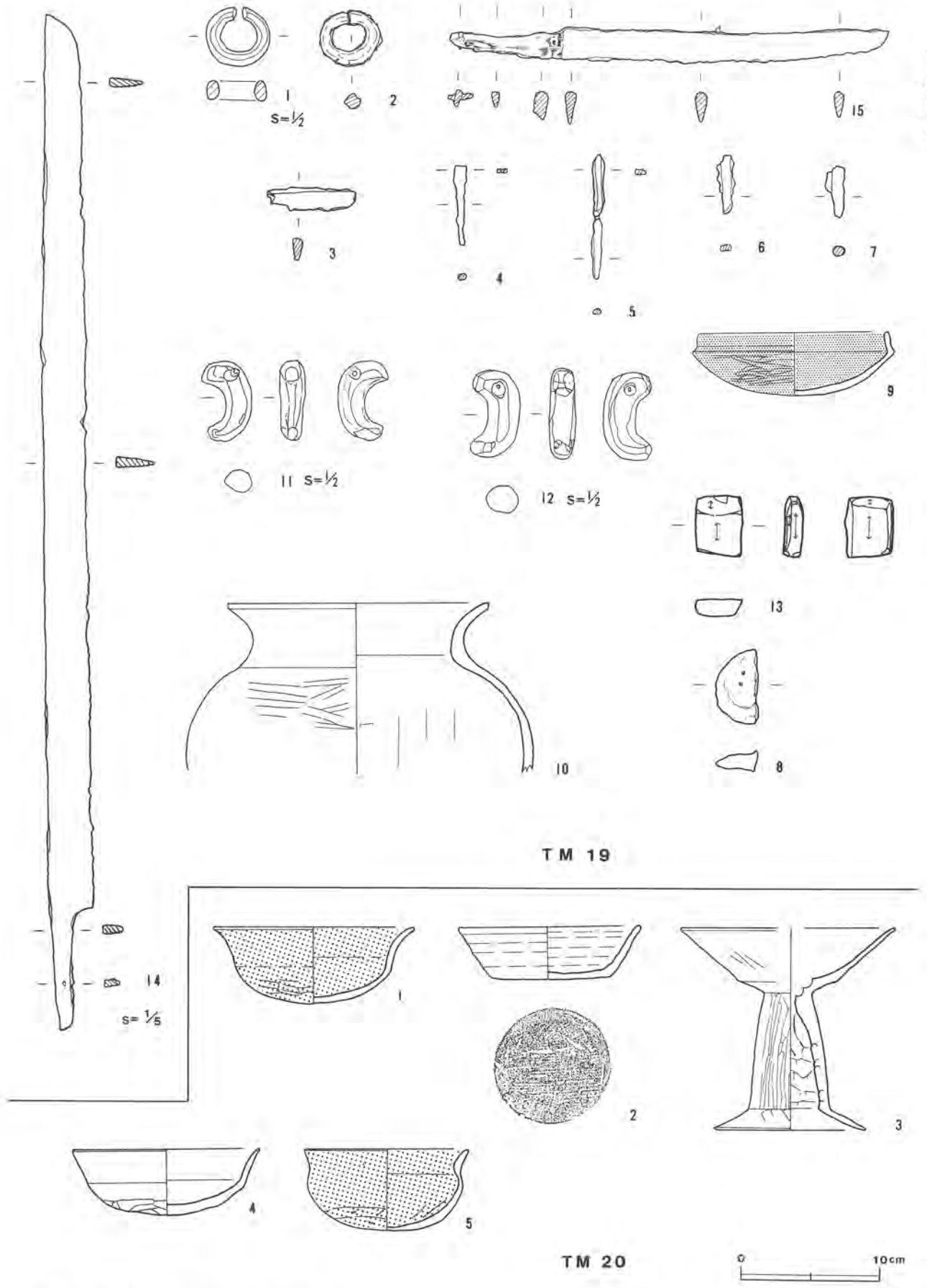
第333図　9・10・11・12・14号墳出土遺物



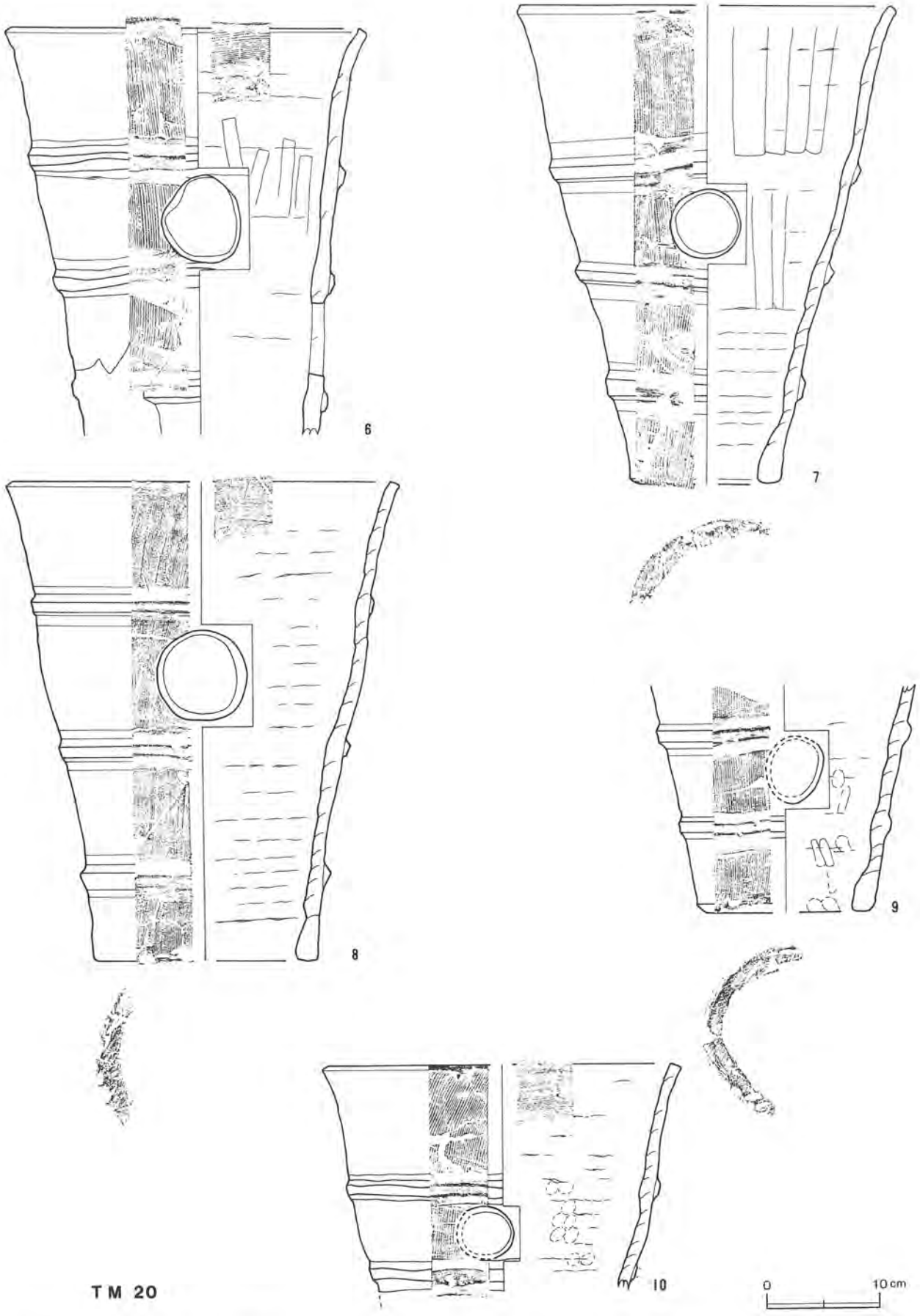
第334図　第14号墳出土遺物



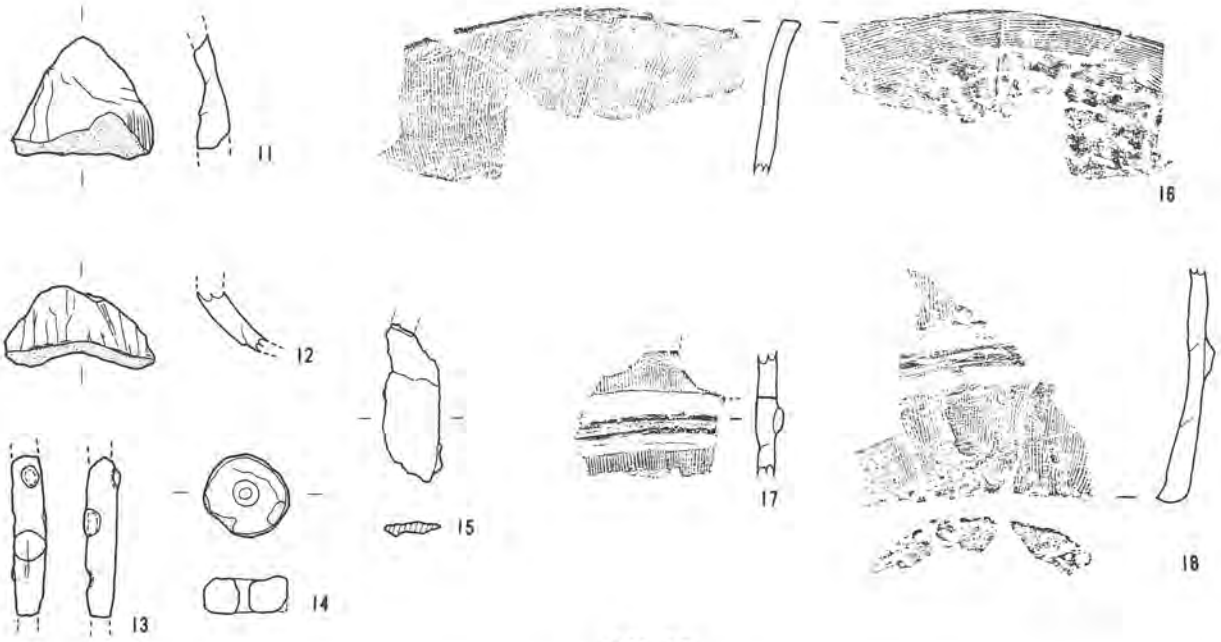
第335図　第16・18号墳出土遺物



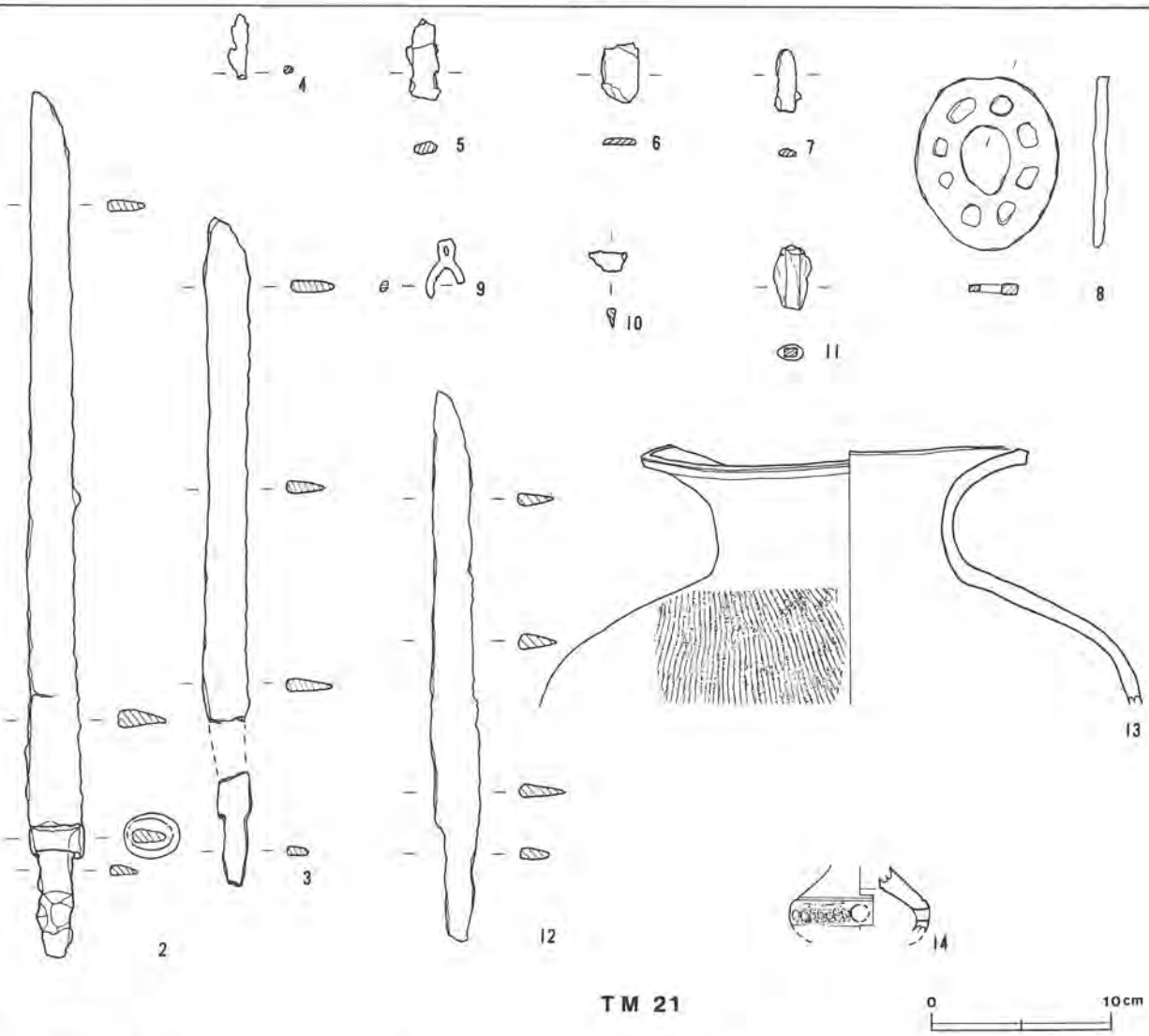
第336図　第19・20号墳出土遺物



第337図　第20号墳出土遺物

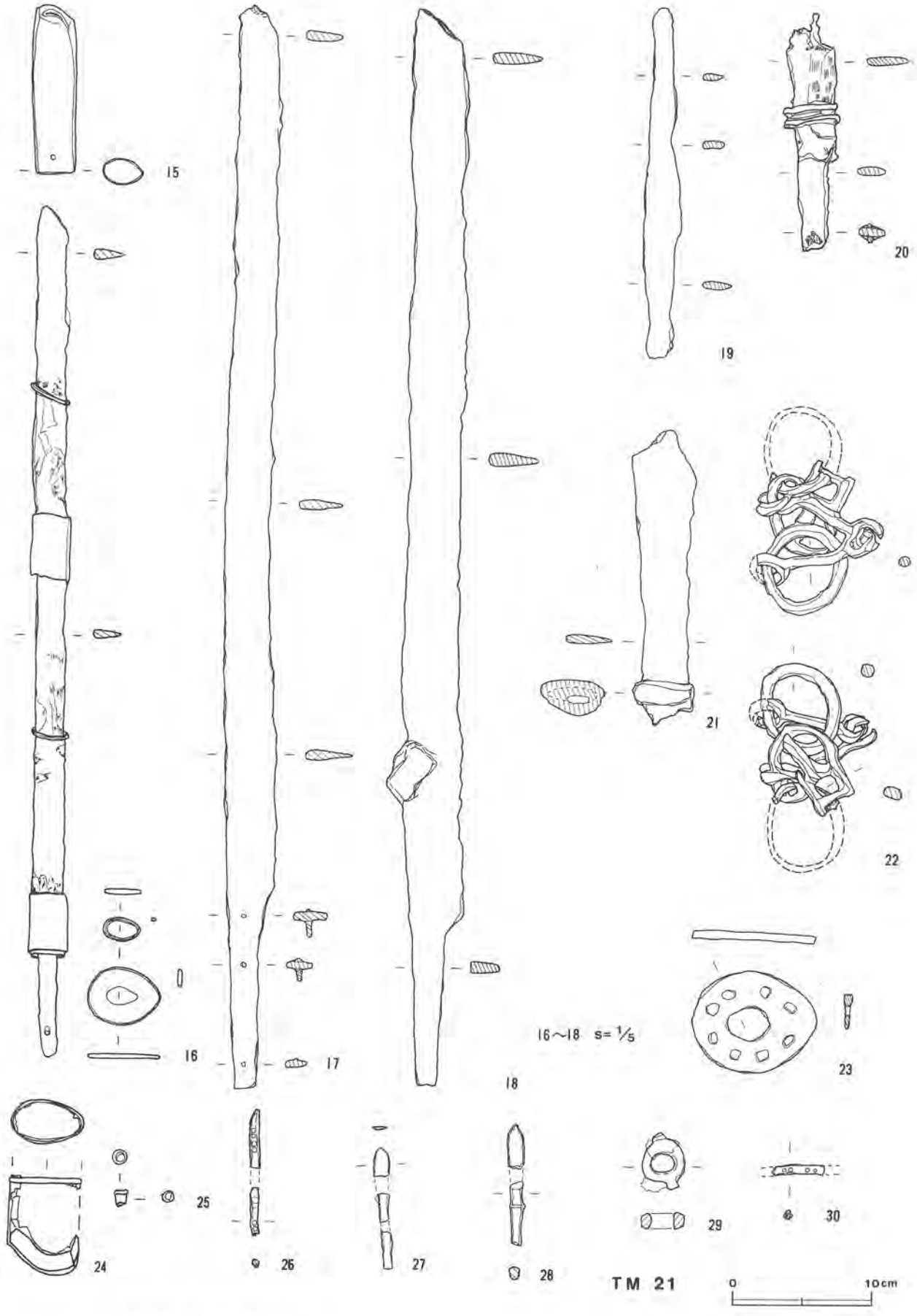


TM 20

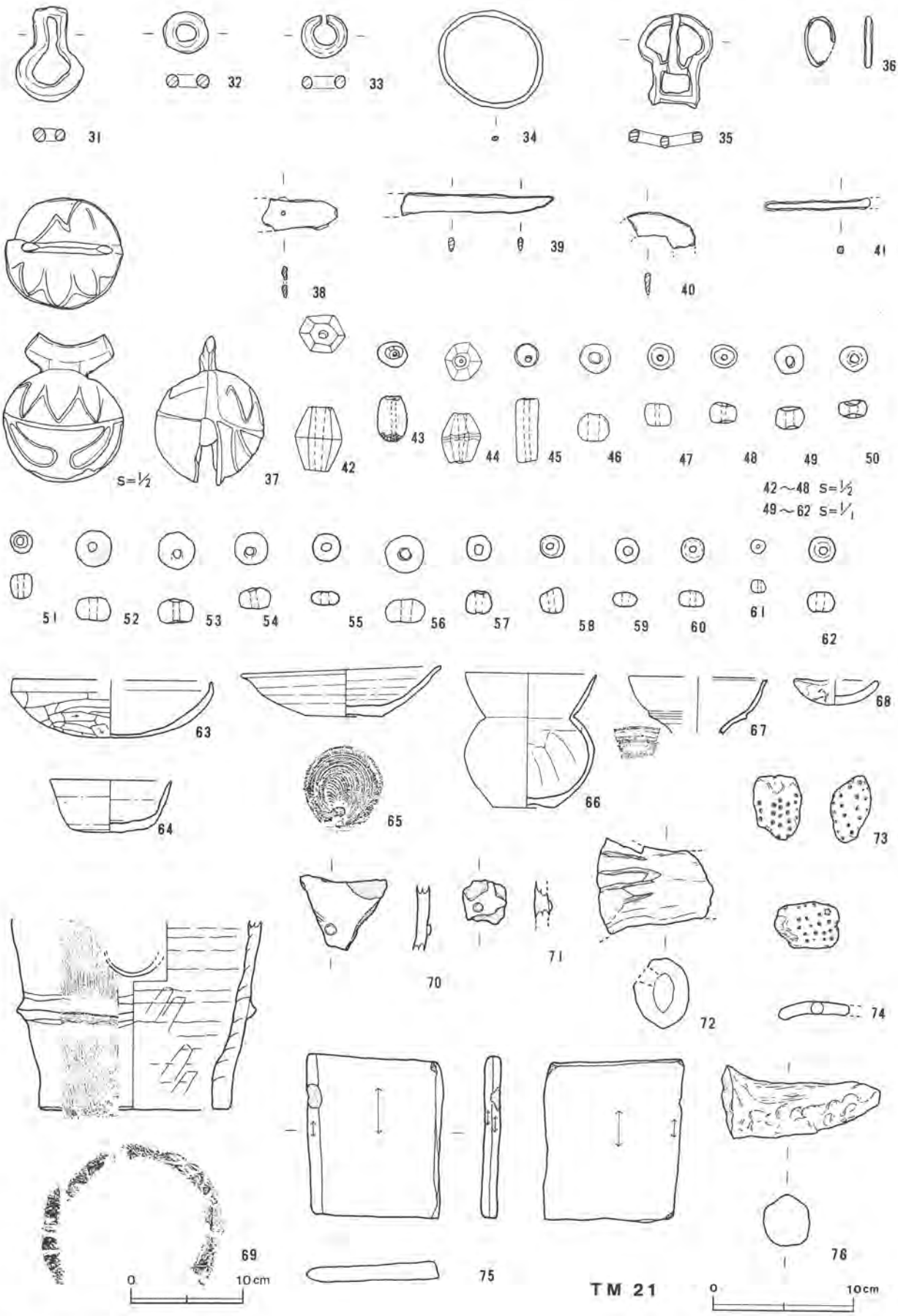


TM 21

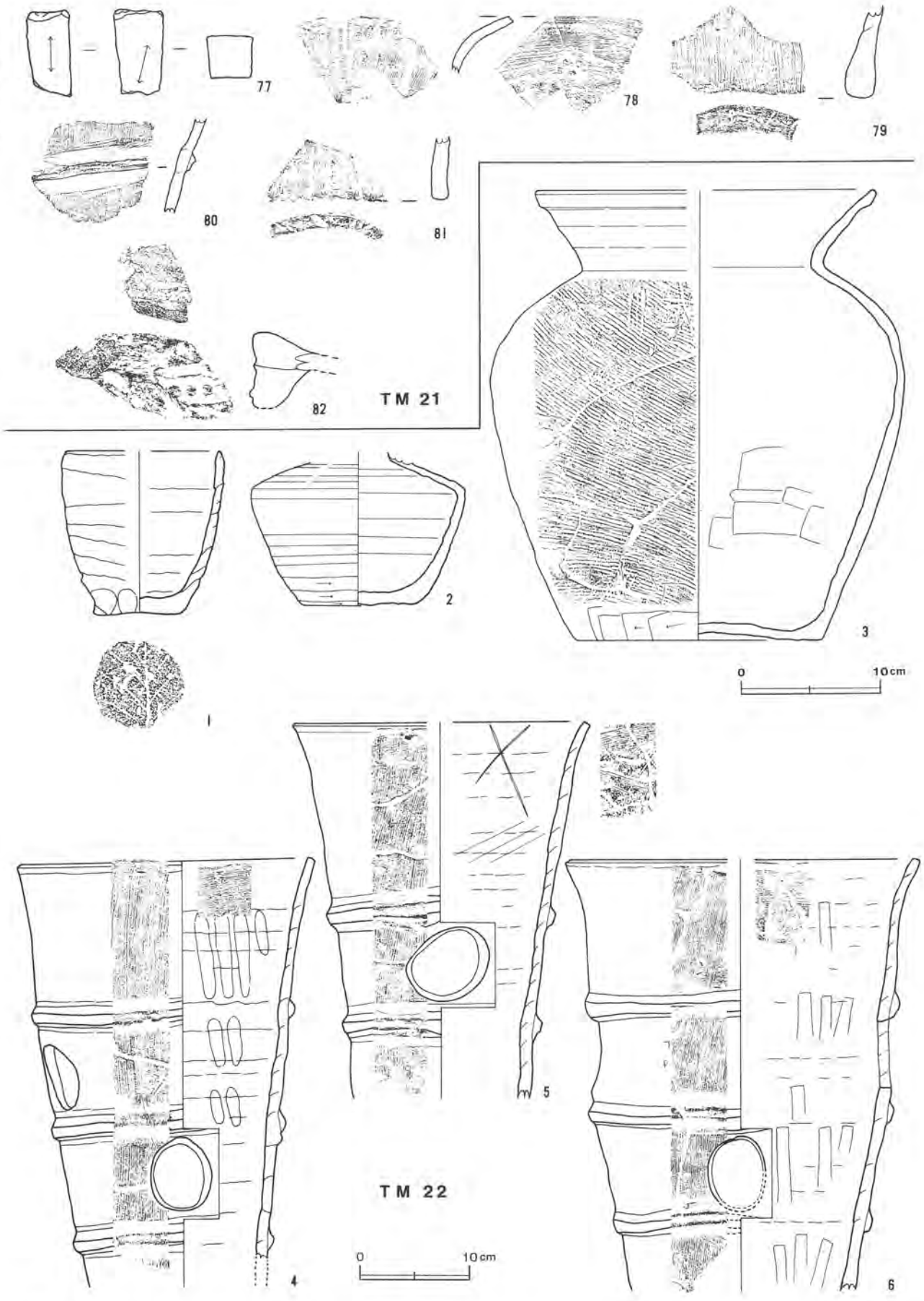
第338図　第20・21号墳出土遺物(1)



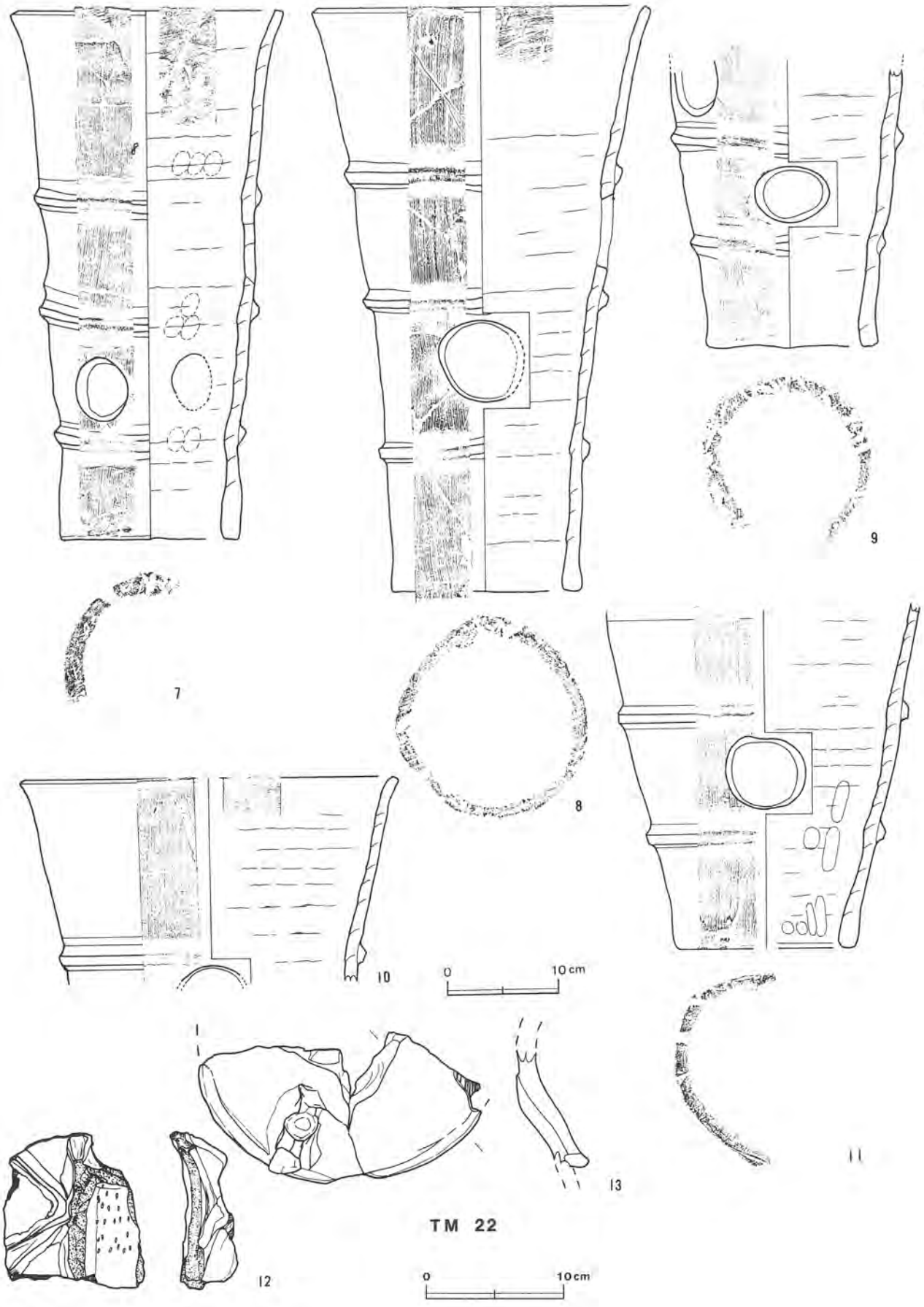
第339図　第21号墳出土遺物(2)



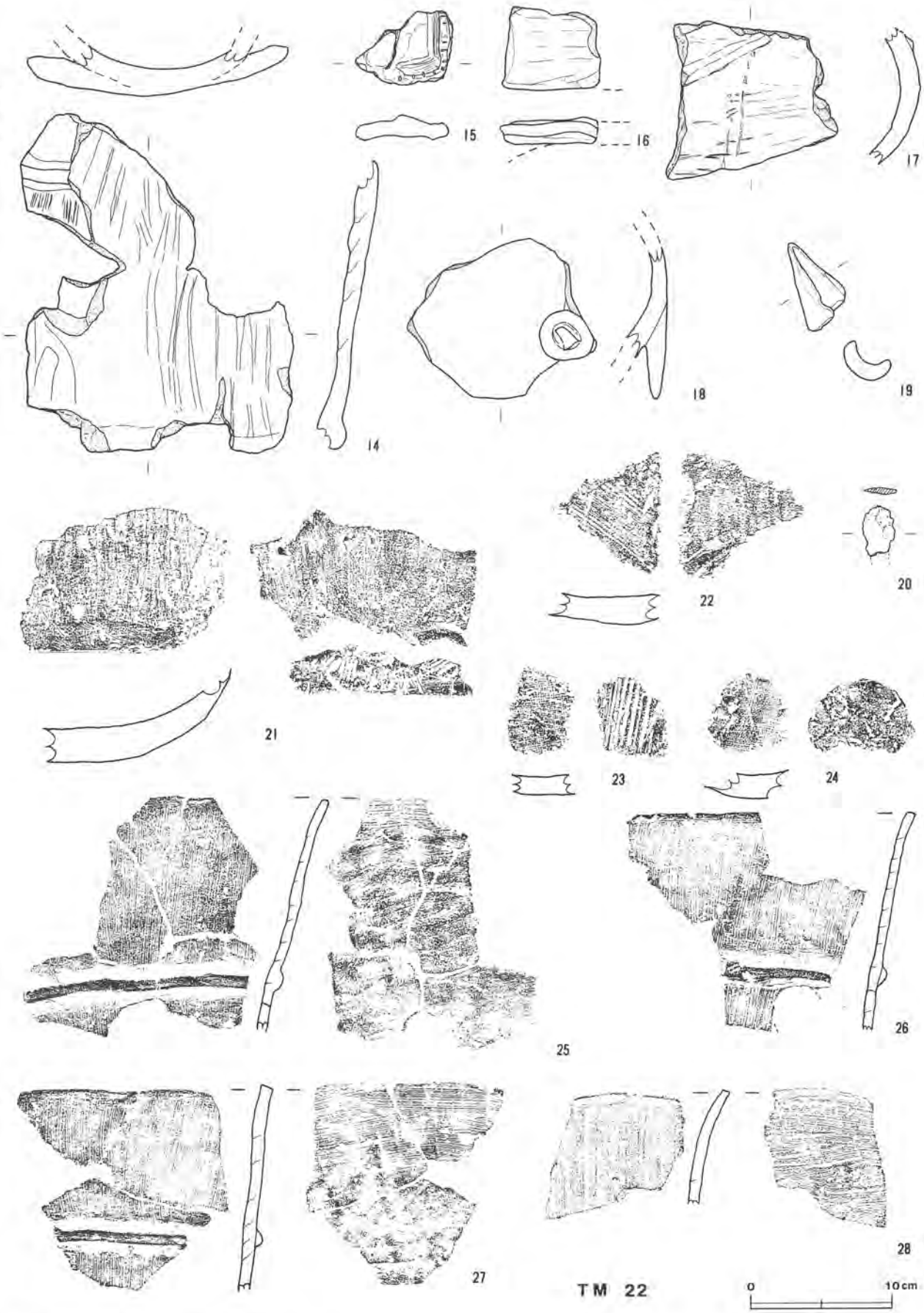
第340図　第21号墳出土遺物(3)



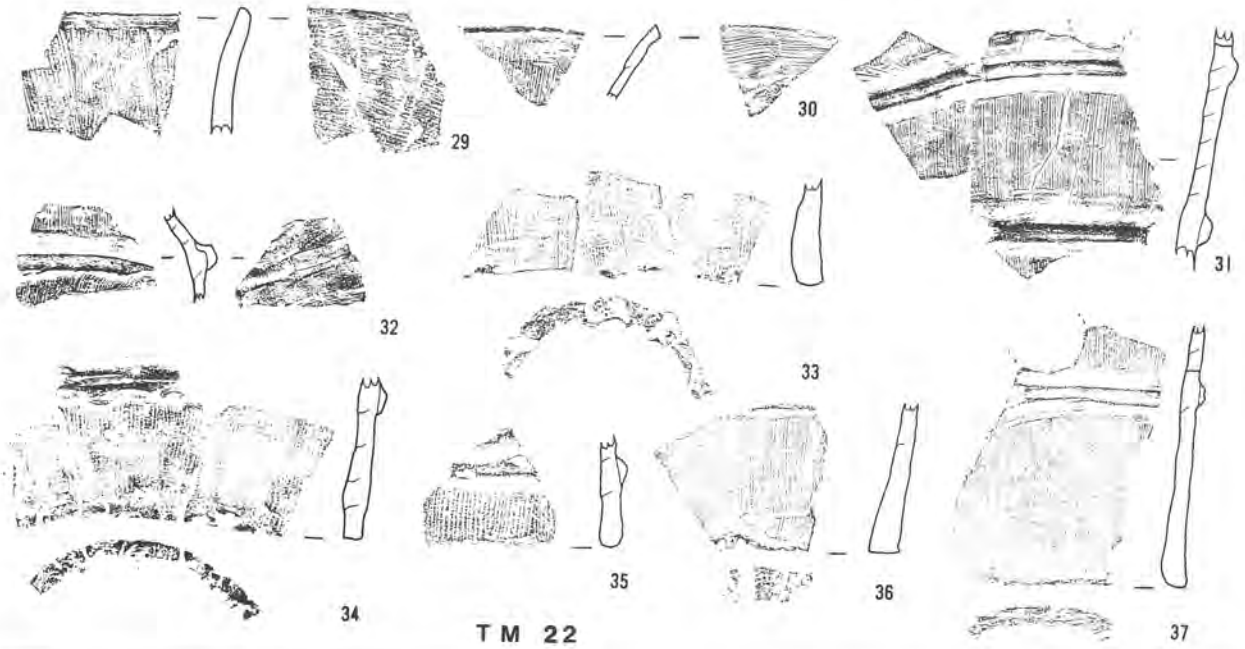
第341図　第21・22号墳出土遺物(1)

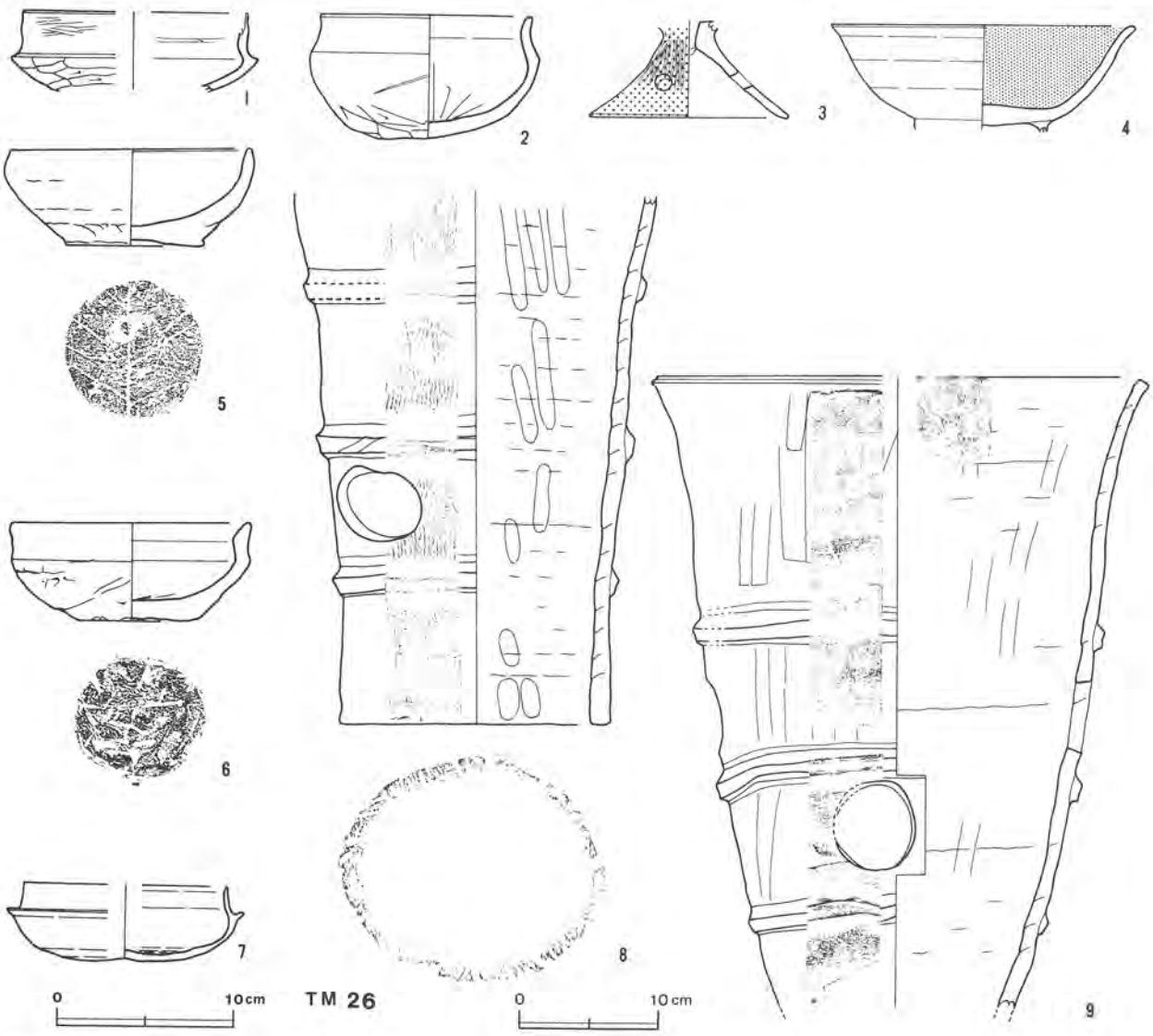


第342図　第22号墳出土遺物(2)

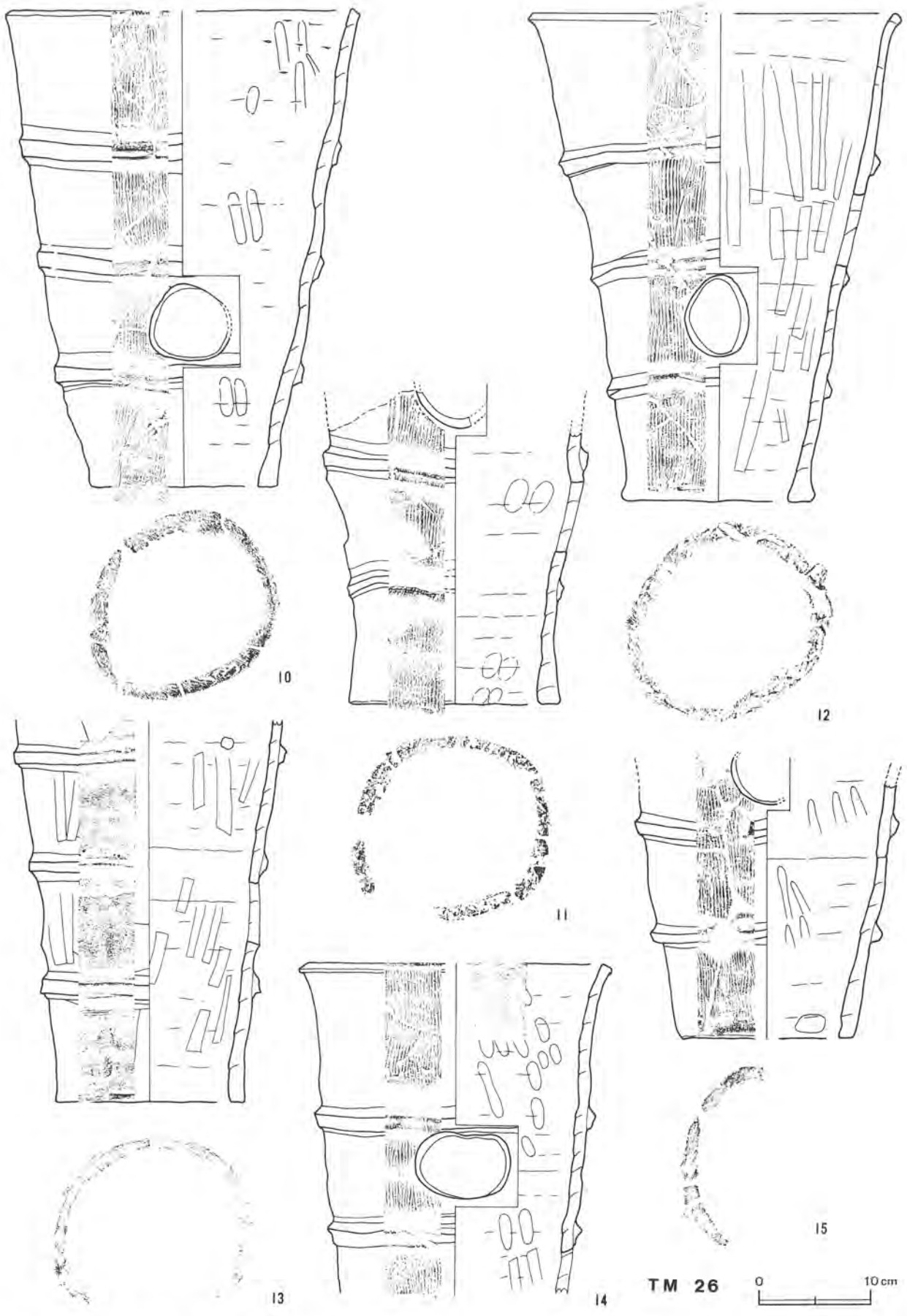


第343図　第22号墳出土遺物(3)

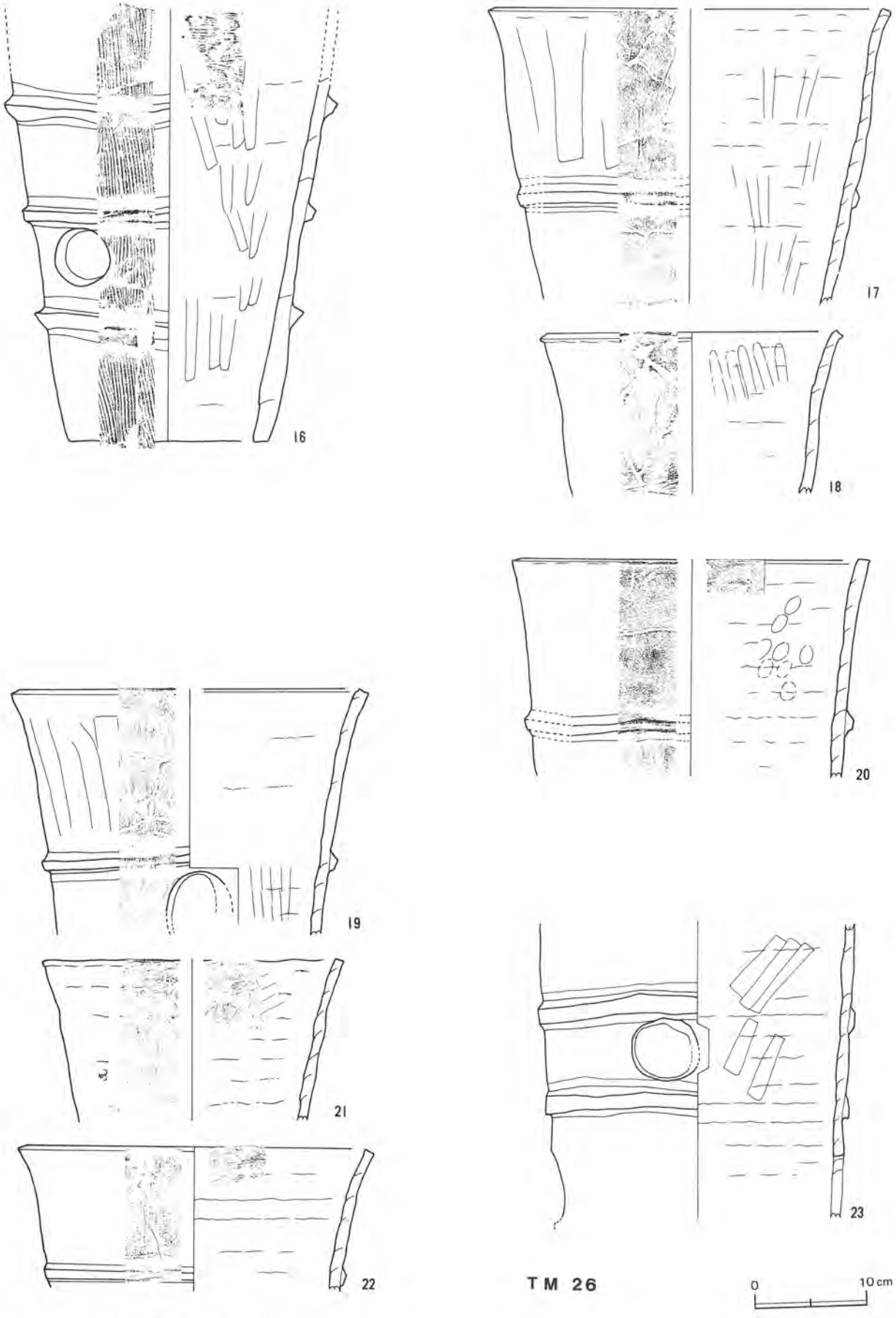




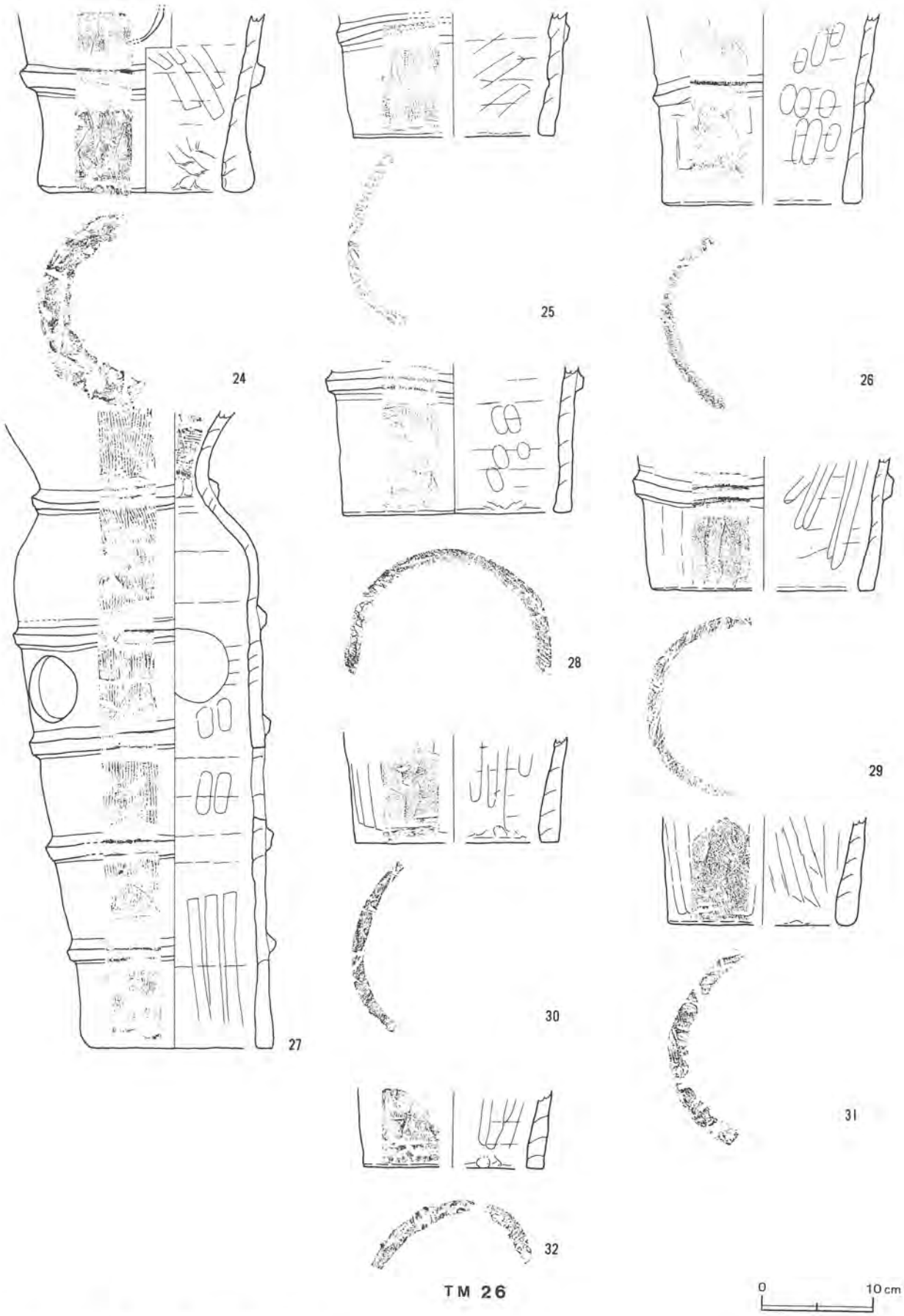
第344図　第22・26号墳出土遺物(1)



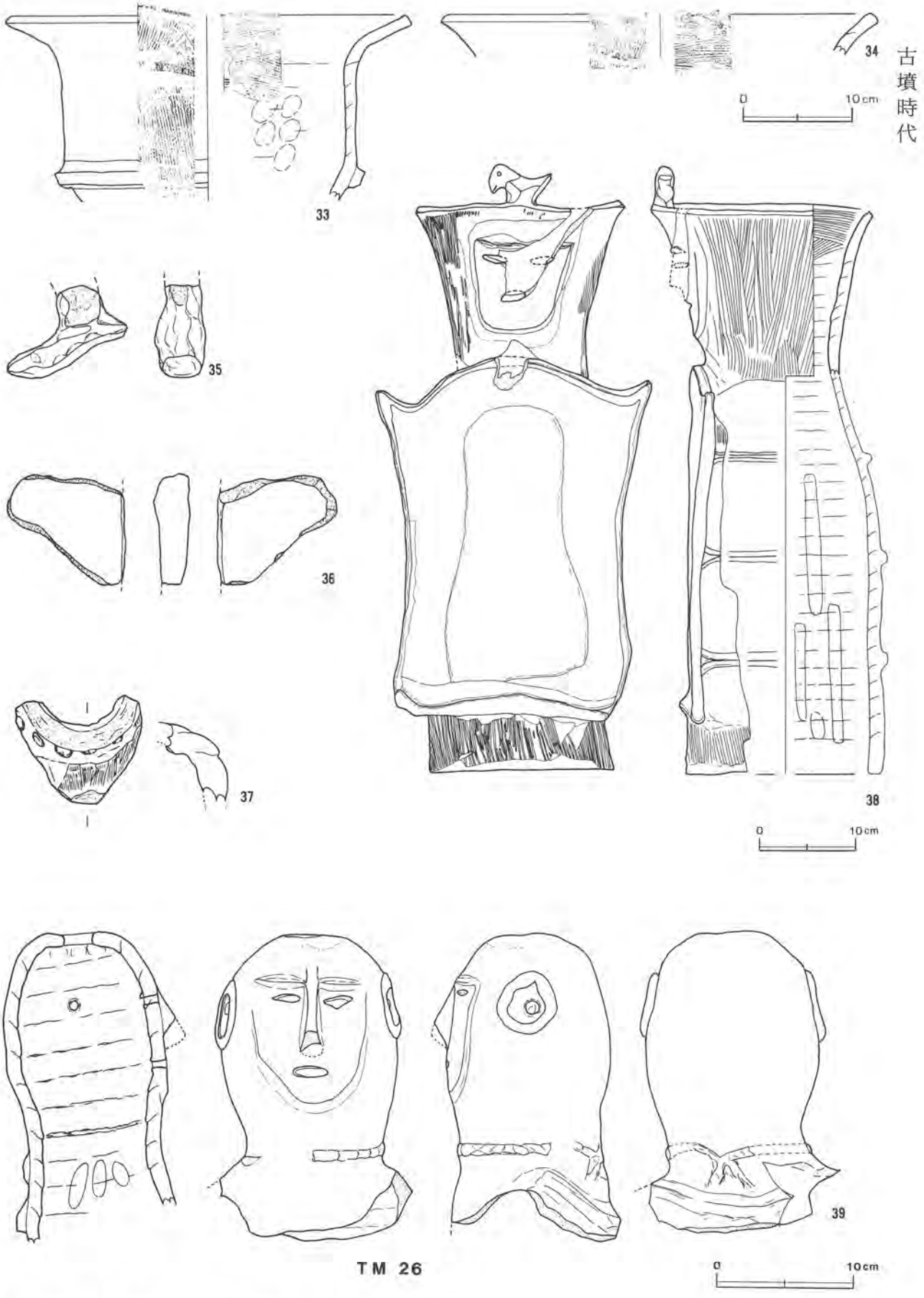
第345図　第26号墳出土遺物(2)



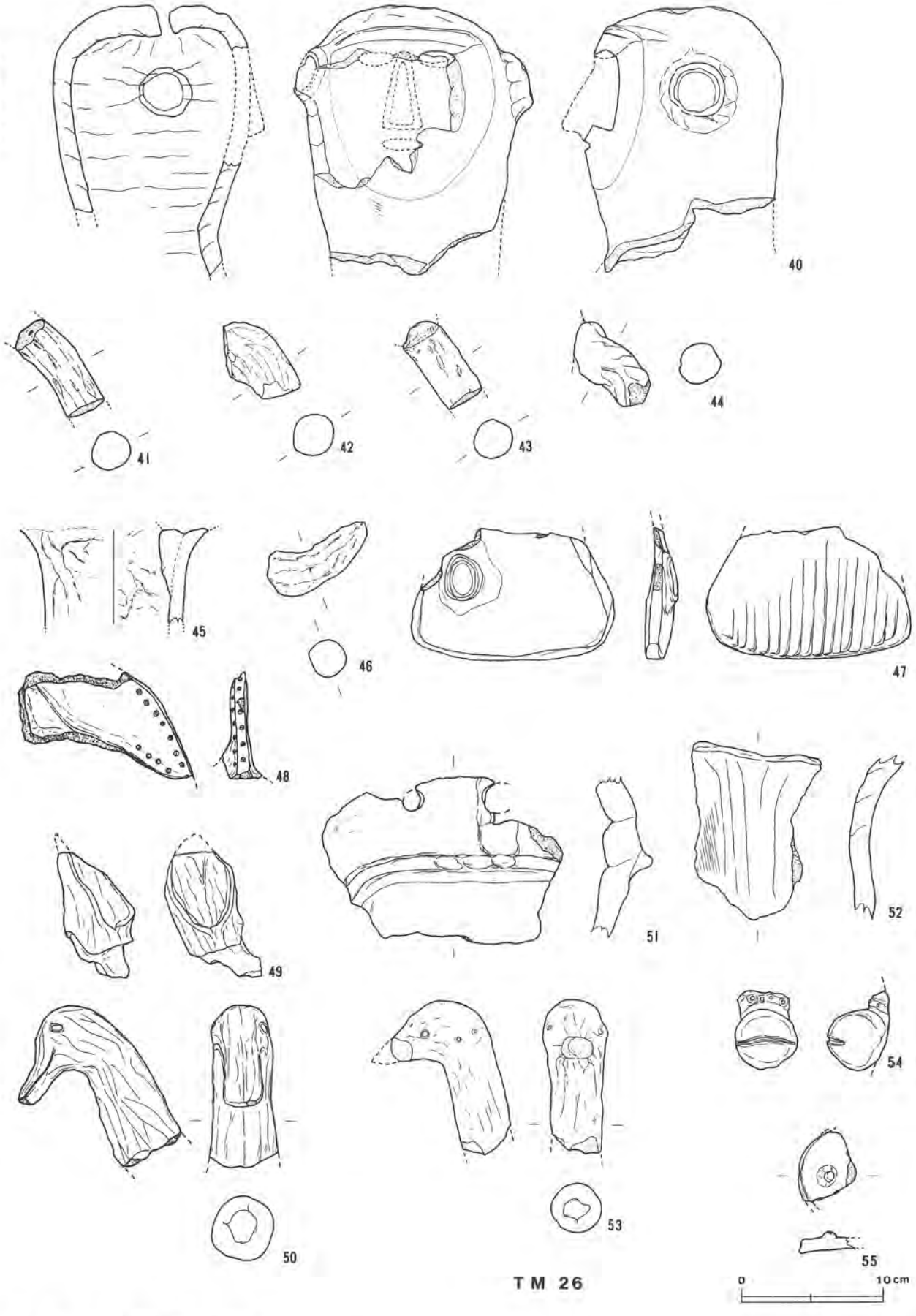
第346図　第26号墳出土遺物(3)



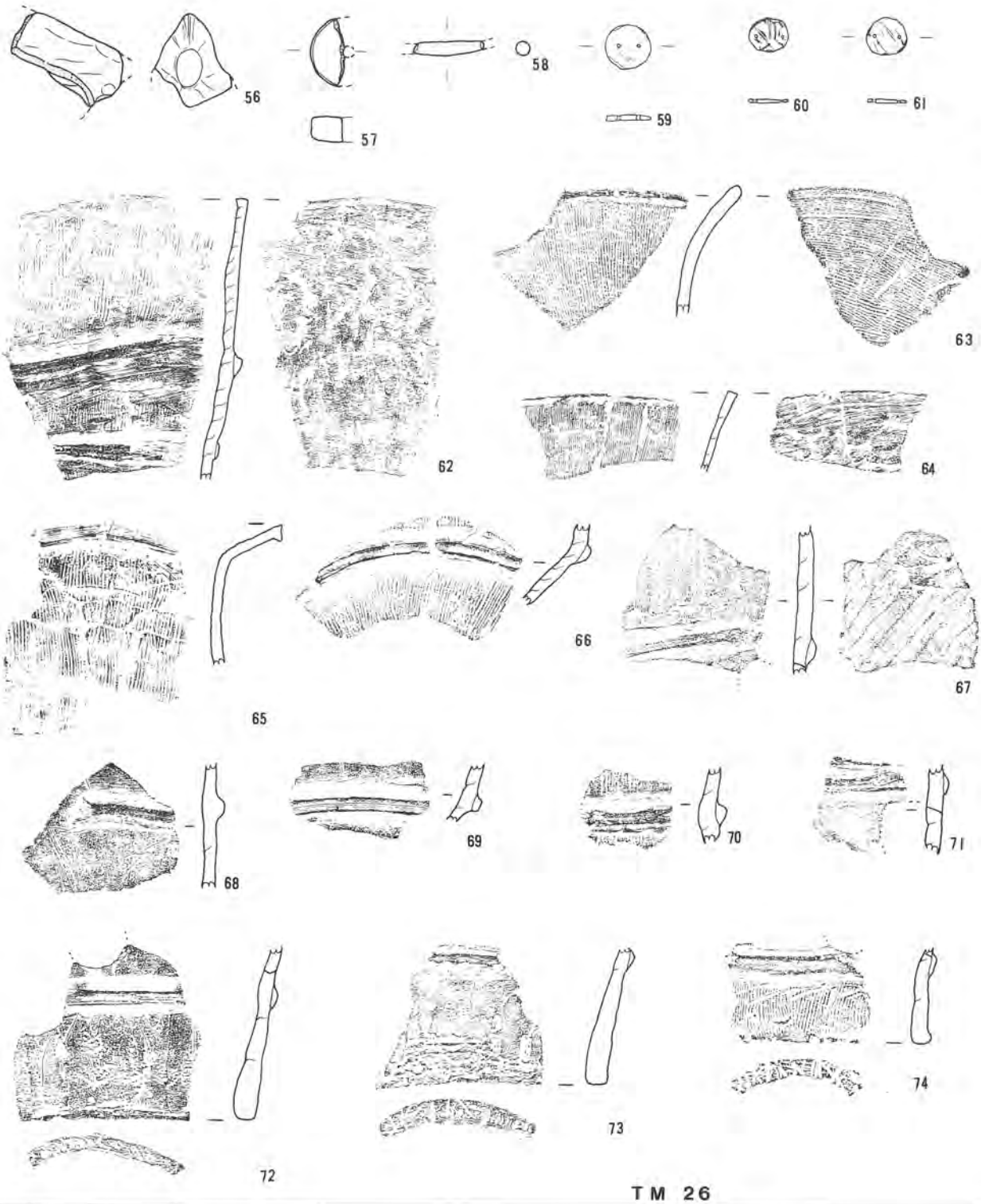
第347図　第26号墳出土遺物(4)



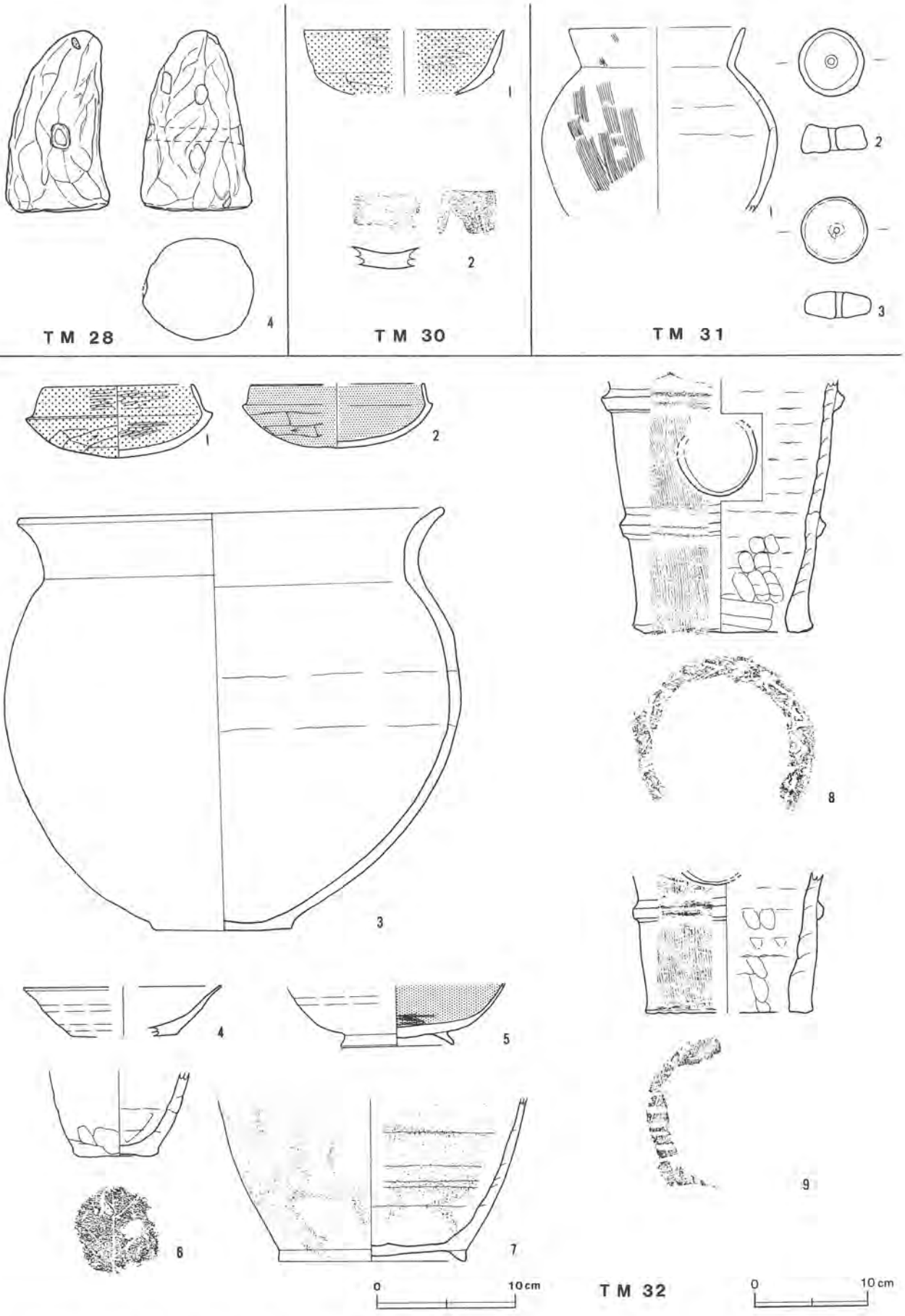
第348図　第26号墳出土遺物(5)



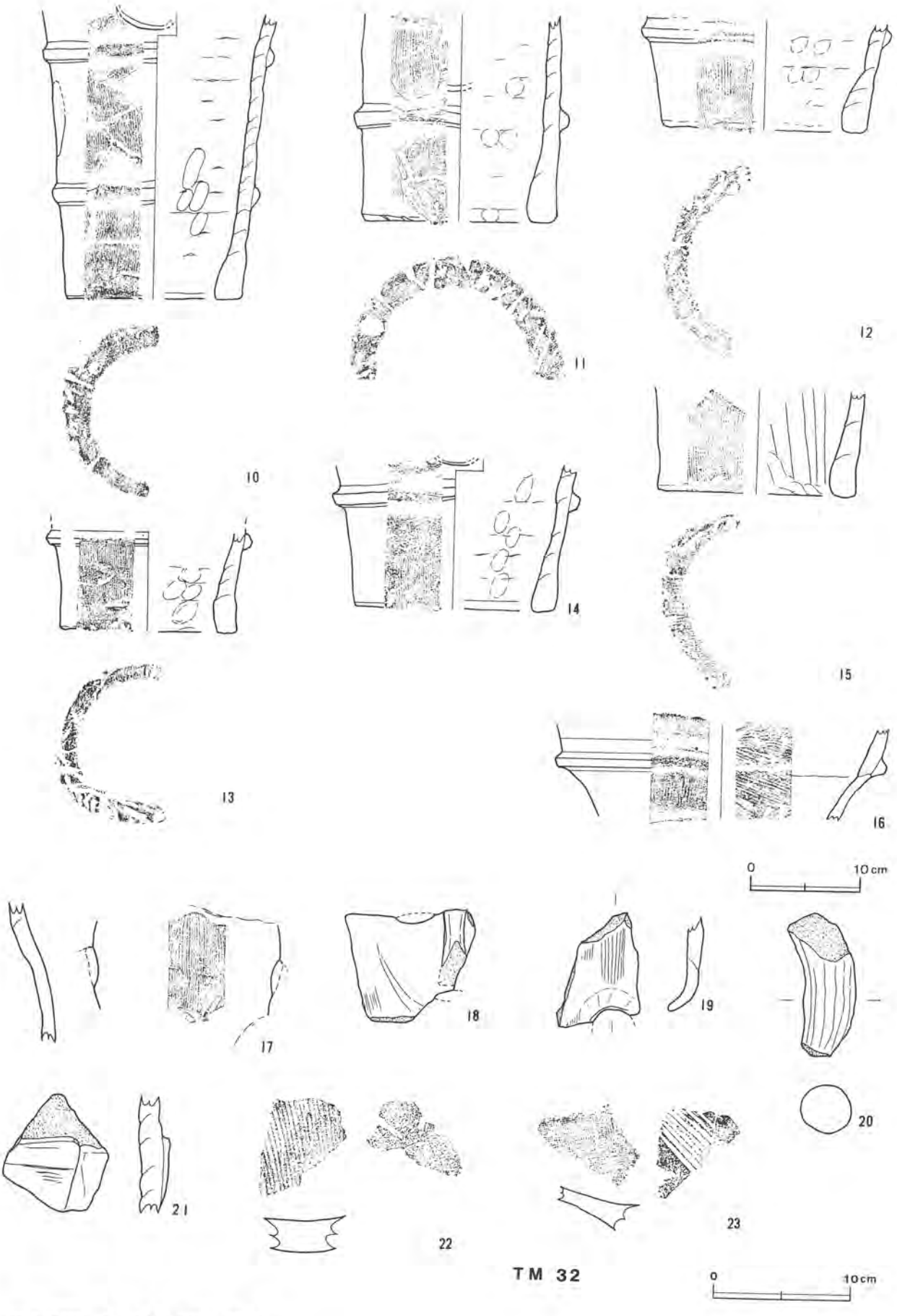
第349図　第26号墳出土遺物(6)



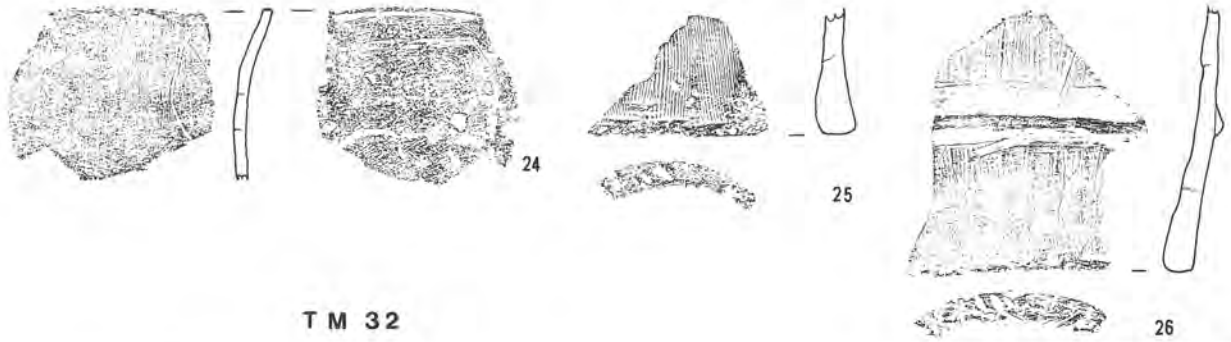
第350図　第26・27・28号墳出土遺物

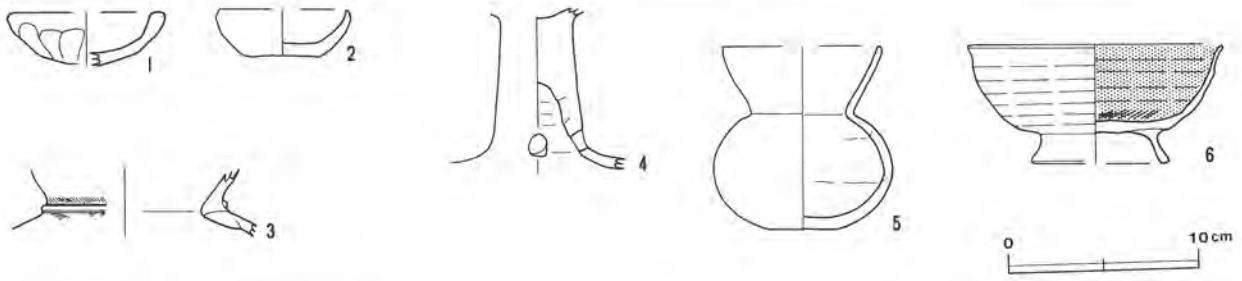


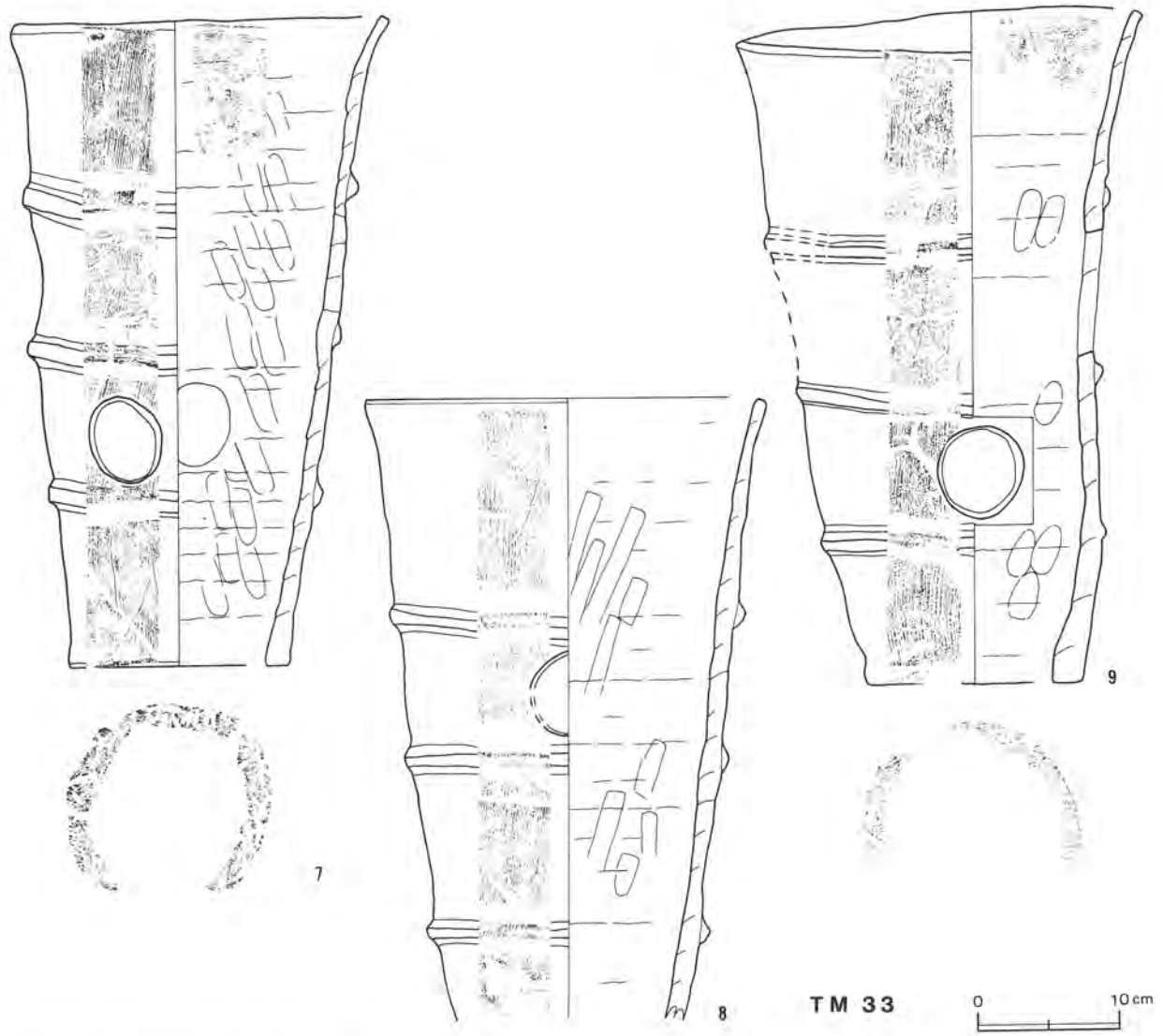
第351図　第28・30・31・32号墳出土遺物



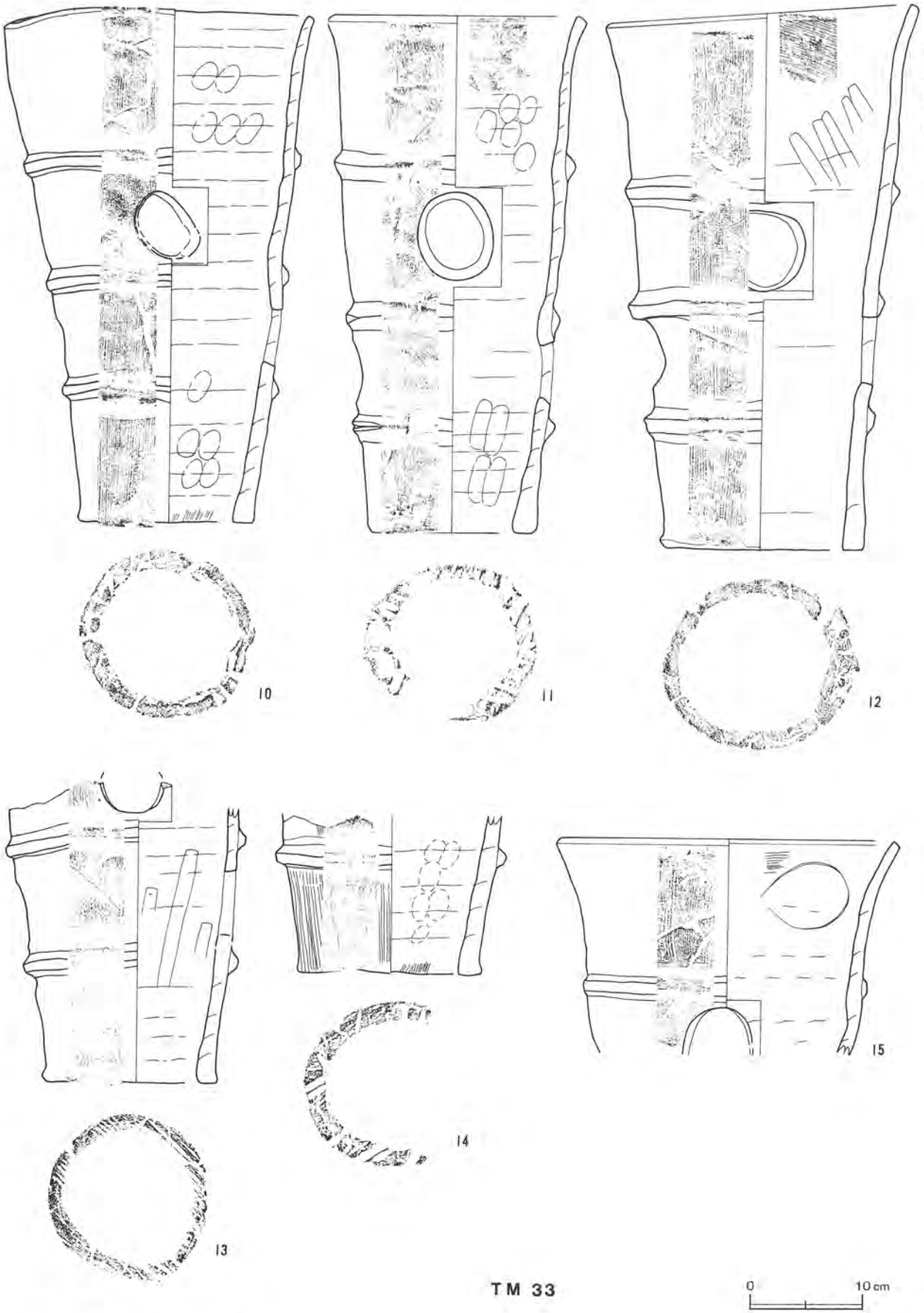
第352図　第32号墳出土遺物



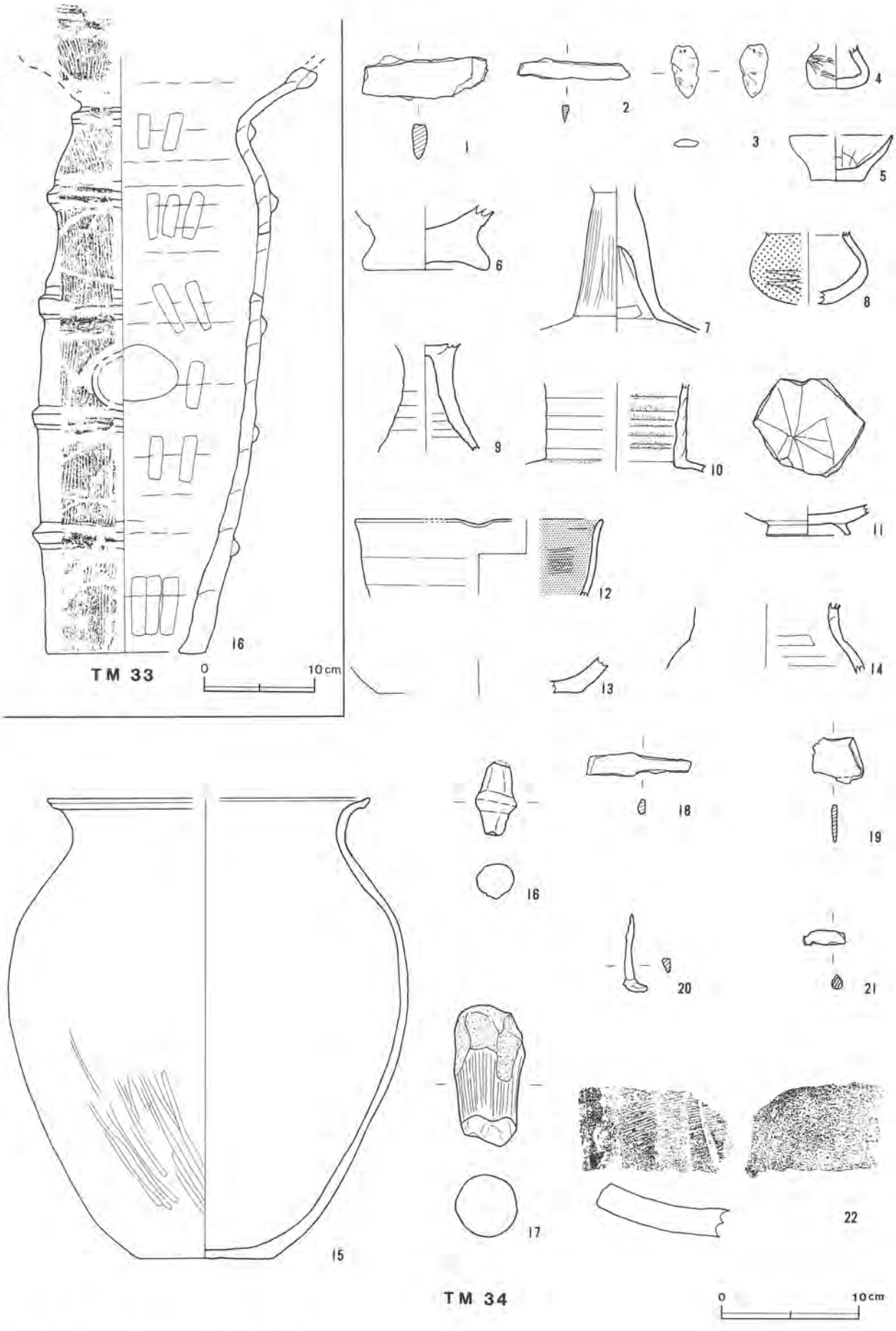




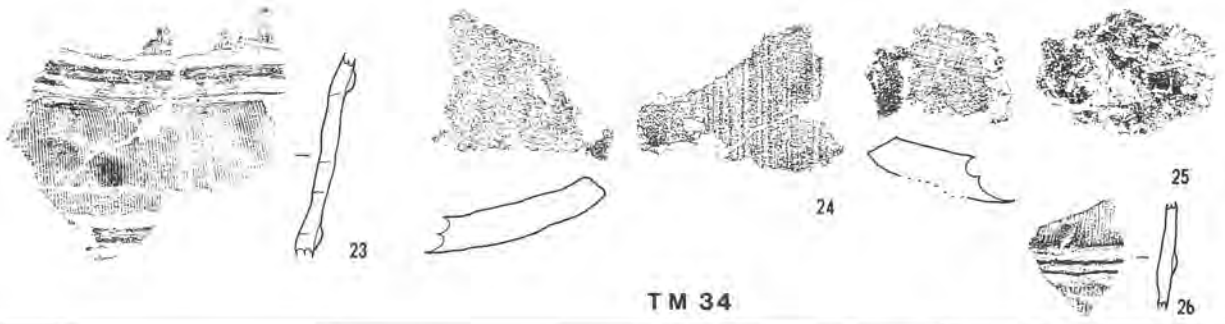
第353図　第32・33号墳出土遺物



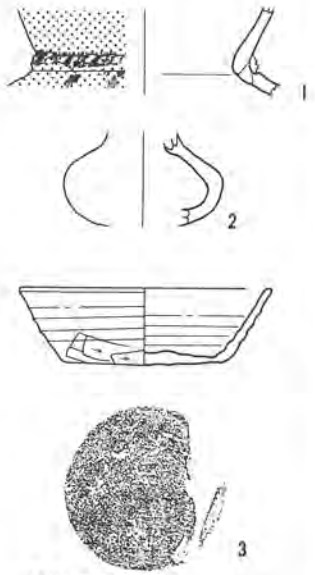
第354図　第33号墳出土遺物



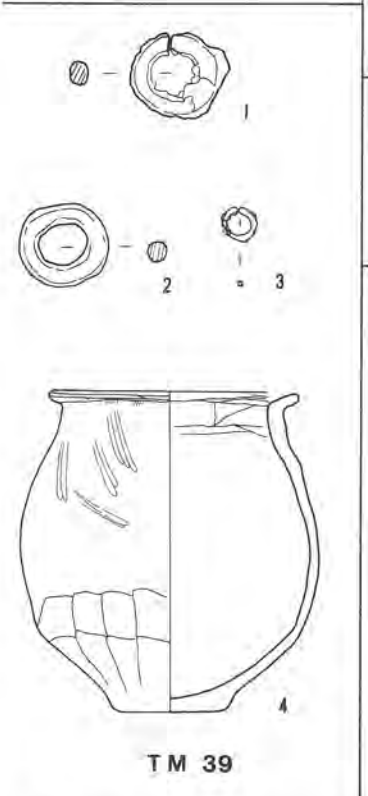
第355図　第33・34号墳出土遺物



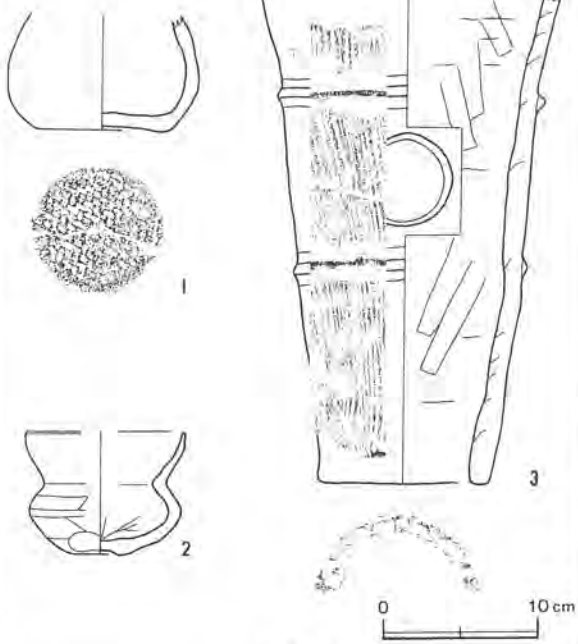
TM 34



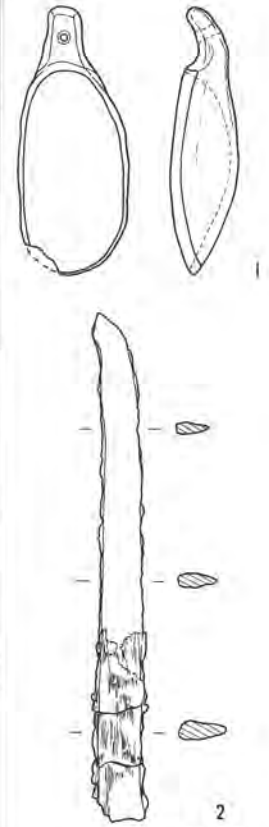
TM 35



TM 39

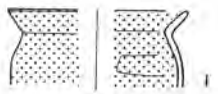


TM 36



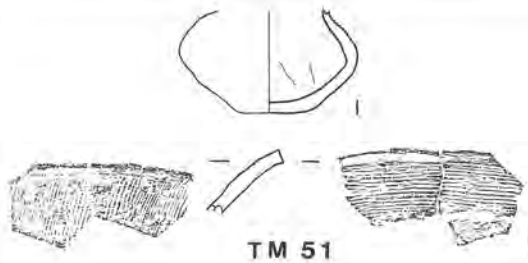
TM 38

TM 41

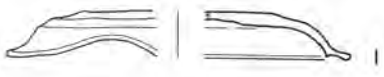


TM 50

TM 45

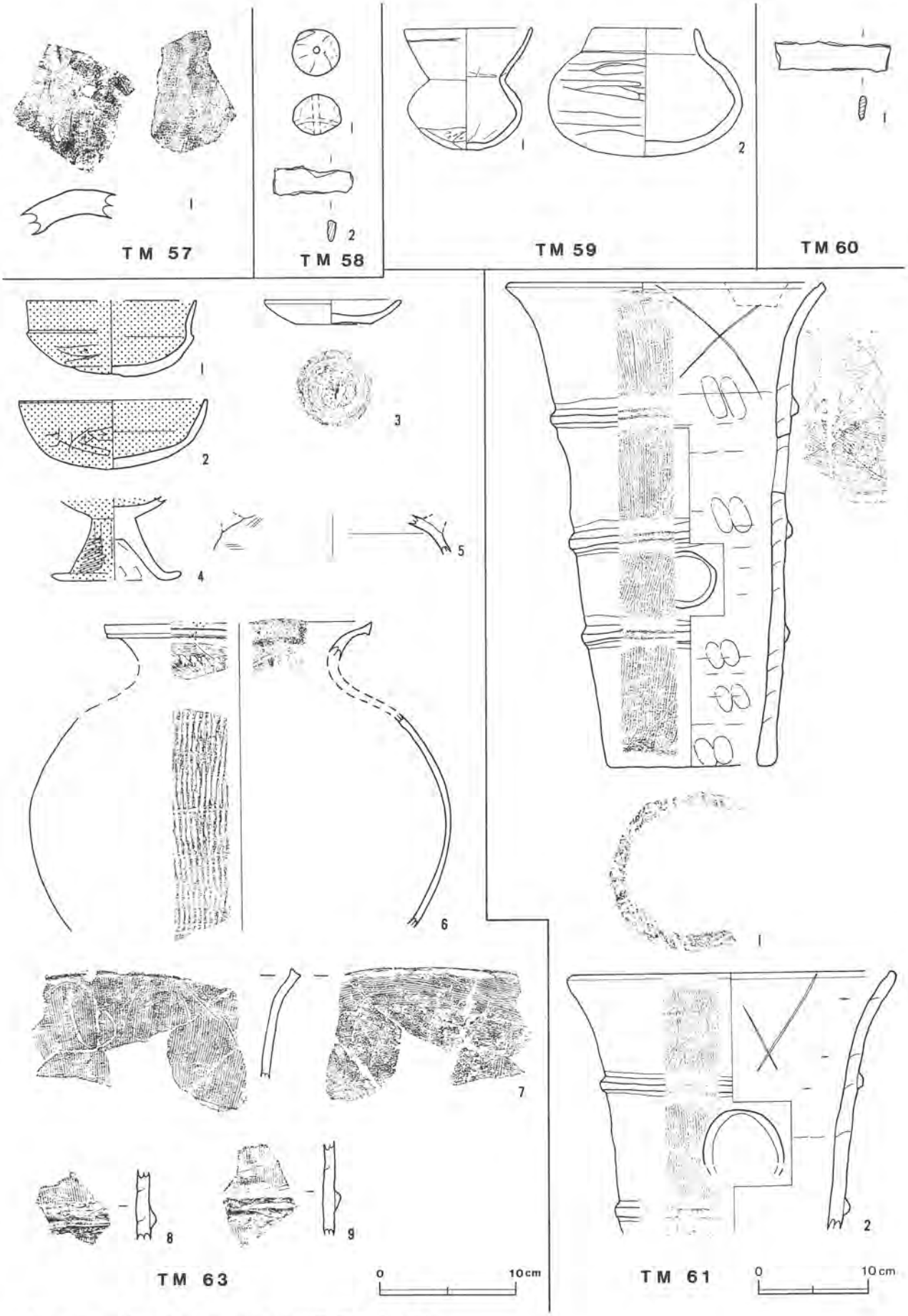


TM 51

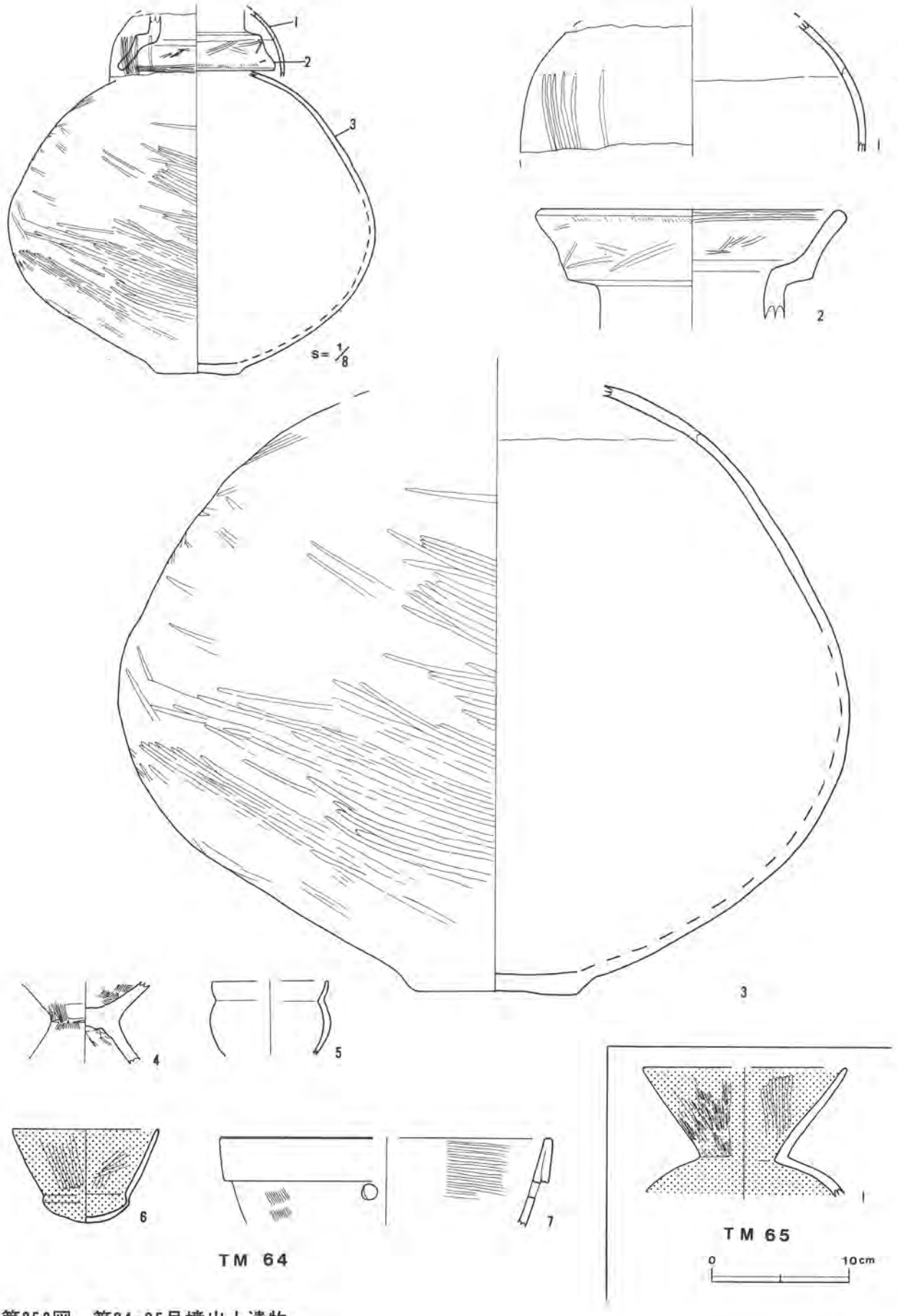


TM 56

第356図　第34・35・36・38・39・41・45・50・51・56号墳出土遺物

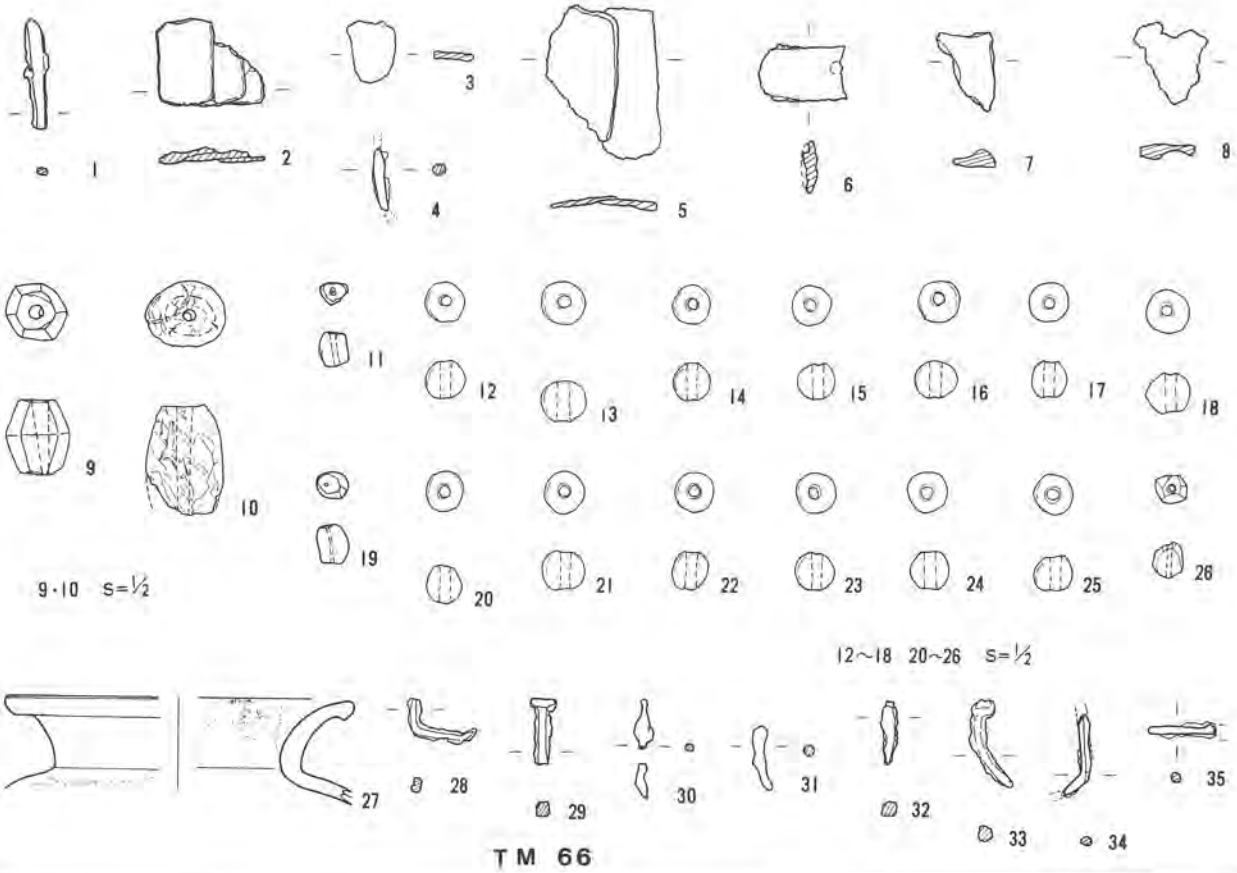


第357図　第57・58・59・60・61・63号墳出土遺物

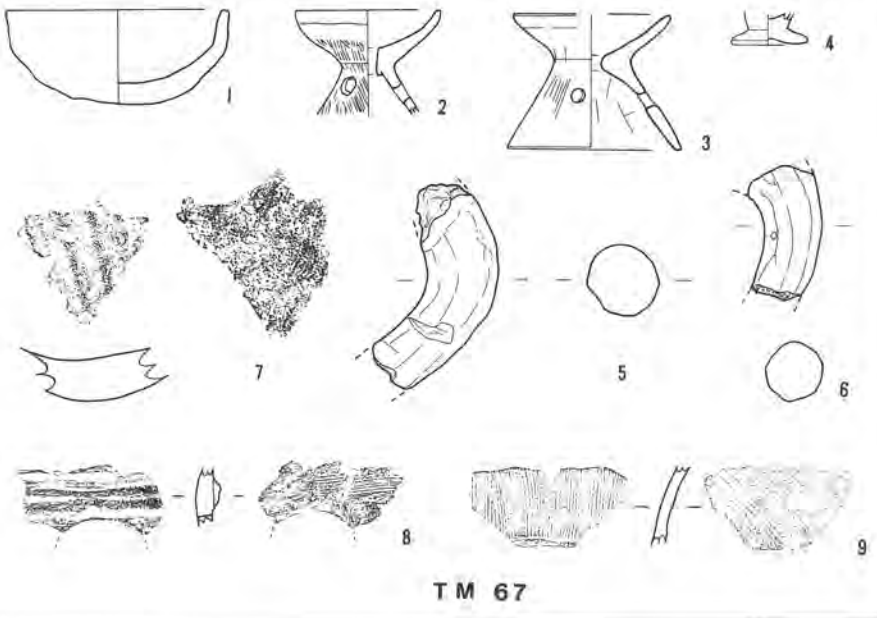


第358図　第64・65号墳出土遺物

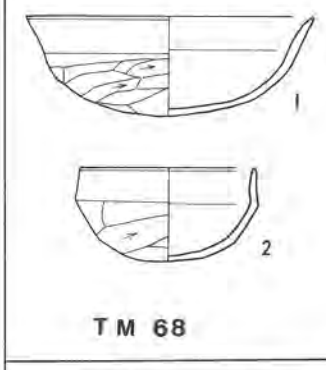
古墳時代



TM 66

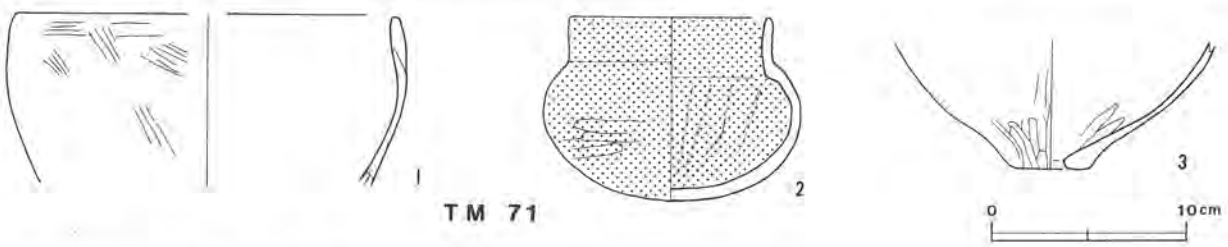


TM 67



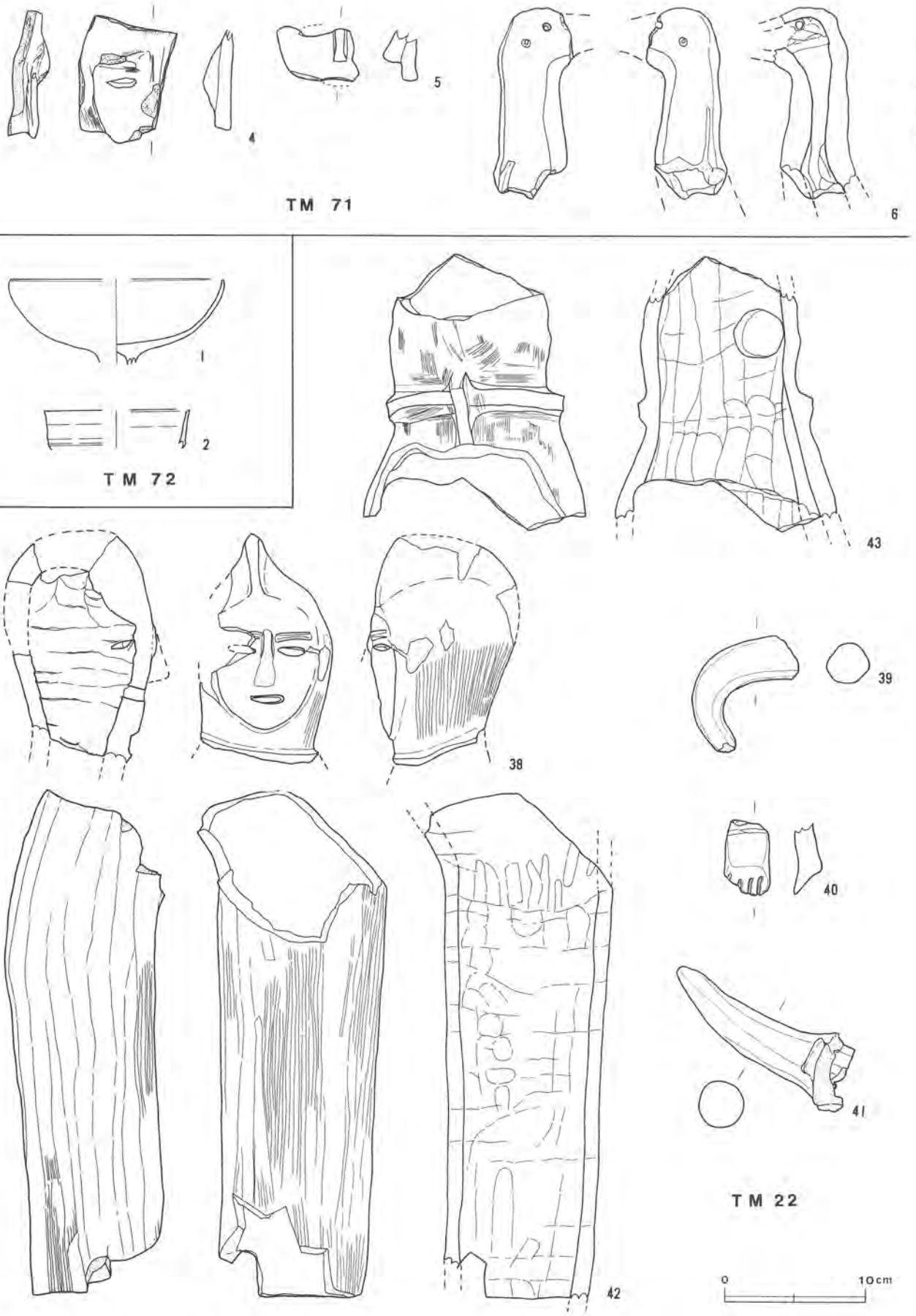
TM 68

TM 69



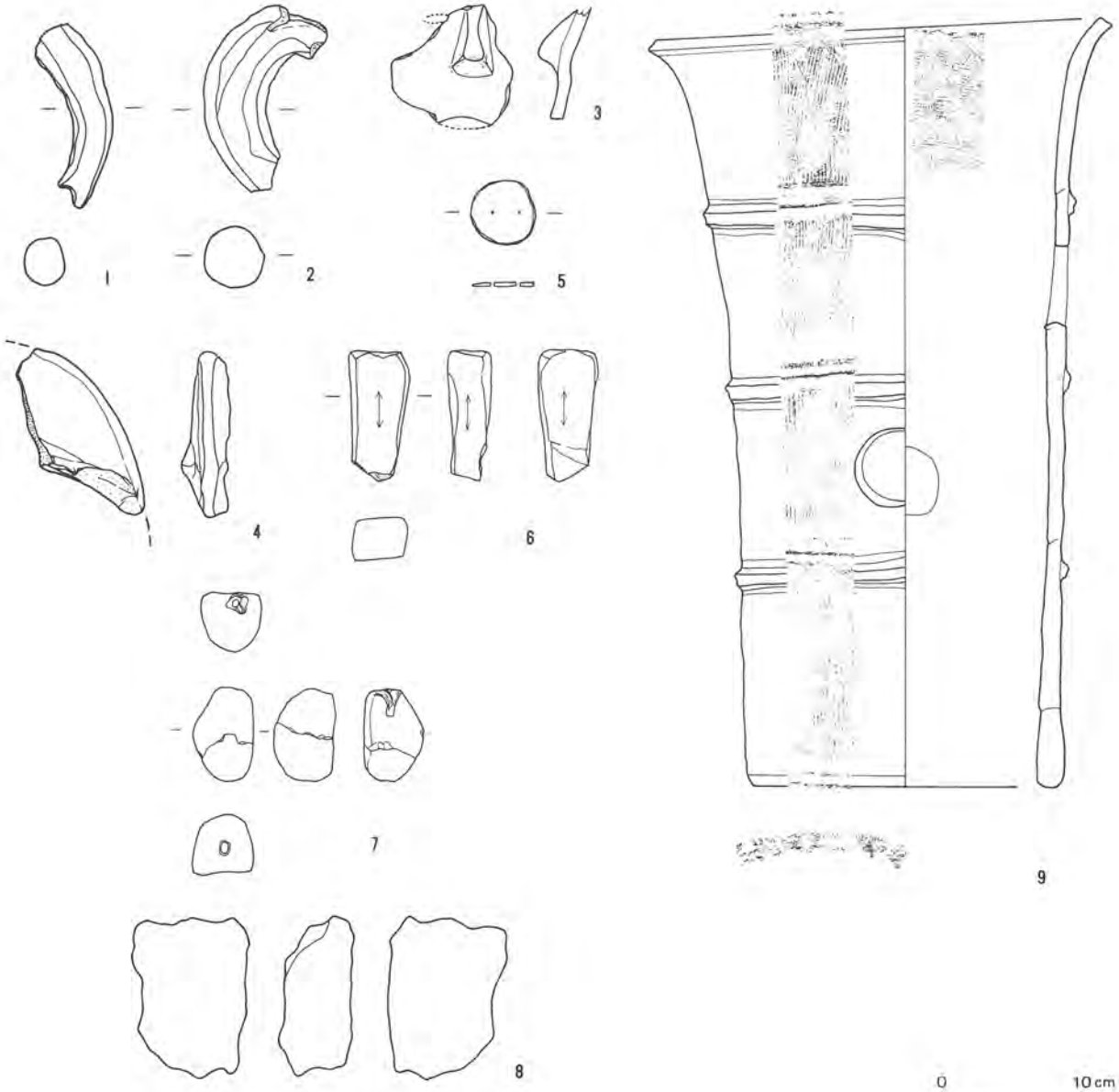
TM 71

第359図　第66・67・68・69・71号墳出土遺物



第360図　第22・71・72号墳出土遺物

古墳時代



第361図　遺構外出土遺物

第2号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 57	坏 土師器	A 14.8 B 4.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3001 95% 周溝
58	坏 土師器	A [13.5] B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3003 70% 南東部墳丘
59	坏 土師器	A 13.0 B 4.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・礫 にぶい褐色 普通	P3002 80% 南東部周溝
60	埦 土師器	A 10.6 B 5.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。外面整形雑。	石英・長石 明赤褐色 普通	P3004 80% 北西部周溝
61	鉢 土師器	A 11.6 B 8.3 C 8.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3212 95% 南東部周溝
62	手捏土器 土師器	A 3.8 B 2.9 C 4.3	平底。体部は内彎して，口縁部に至る。	内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P3032 100% 墳丘
63	高坏 土師器	B (3.1)	坏部片。坏部は下端に粘土紐が垂下するように巡り，外傾して立ち上がる。	坏部内・外面横ナデ。内面赤彩。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P3013 20% 北東部墳丘
64	手捏土器 土師器	A 6.8 B 3.7 C 4.9	平底。体部は外傾して，直立近くに立ち上がる。	口縁部及び体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3031 90% 墳丘
65	高台付坏 土師器	B (2.5) D 10.0 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P3009 40% 周溝
66	高坏 土師器	B (9.1) D [16.2]	脚部はラッパ状に大きく開き，裾部で水平近くに開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3015 30% 南東部周溝
67	高坏 土師器	B (7.3)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラナデ，内面ナデ	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P3017 30% 南東部周溝
68	坩 土師器	A 6.8 B 7.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。頸部に外から内に焼成後の穿孔。	口縁部外面ヘラ削り後横ナデ，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 赤褐色 普通	P3213 100% 墳丘
69	甕 土師器	B (3.7) C [7.4]	単孔式。体部は外傾して立ち上がる。	外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P3030 10% 石室内
70	甕 土師器	A [17.1] B 17.2 C 9.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口唇部は上方にわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P3369 70% 北東部周溝
71	台付甕 土師器	B (4.9) D 8.0 E 4.5	台部はラッパ状に開く。	台部外面ハケ目整形後ナデ，南東部横位のハケ目整形後ナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P3029 20% 墳丘
72	高坏 土師器	B (9.8) D 9.8	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部及び裾部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P3016 30% 北東部墳丘
73	高坏 土師器	B (9.0)	脚部は円筒状である。脚部中位に外から内に穿孔。	脚部外面縦位のヘラナデ，内面指ナデ。	砂粒・石英・長石 明赤褐色 普通	P3019 25% 墳丘
74	台付甕 土師器	B (6.5) D 8.2	台部はラッパ状に開く。	台部外面縦位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3028 20% 南東部周溝
第325図 75	有孔皿 土師質土器	A [9.2] B 1.7 C [6.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。底部に内から外に穿孔（5孔か）。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P3027 30% 石室内
76	坏 須恵器	A [13.9] B 4.1 C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P3033 60% 南東部周溝
77	坏 須恵器	A 13.4 B 3.7 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 良好	P3034 70% 南西部周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
78	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C 6.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P3035 60% 南東部周溝
79	坏 須恵器	A 12.5 B 4.5 C 6.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 普通	P3036 80% 南東部周溝
80	坏 須恵器	A [14.0] B 4.0 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P3037 50% 北西部周溝
81	皿 土師質土器	A [8.9] B 1.6 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P3368 80% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第325図 82	円筒埴輪	口径 25.4 器高 41.5 底径 14.4	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ及び指ナデ。口縁部内面ヨコハケ，「／」のヘラ記号。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 7～9 内面 8	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3001
83	円筒埴輪	口径 [26.0] 器高 40.1 底径 15.8	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ。横広の楕円形透孔。凸帯は断面M字形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 8 内面 8	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 良好	DP3002
84	円筒埴輪	器高 (24.0) 底径 14.3	外面タテハケ，内面指ナデ。透孔は円形と推定。凸帯は断面三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	8	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 良好	DP3005
85	円筒埴輪	器高 (12.5) 底径 [14.2]	外面タテハケ，内面指ナデ，下端タテハケ後ヘラナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	10	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3008
86	朝顔形円筒埴輪	口径 [42.5] 器高 (17.6)	外面タテハケ，内面指ナデ。口唇部上端と下端ヨコハケ。凸帯は断面やや丸みをもった三角形。	外面 11 内面 11	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3003
87	円筒埴輪	器高 (9.0) 底径 [16.2]	外面ナデ，内面指ナデ。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3009
88	円筒埴輪	器高 (13.0) 底径 [16.0]	外面タテハケ後ヘラナデ，内面指ナデ。凸帯は断面丸みをもった台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	不 明	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3010
89	朝顔形円筒埴輪	器高 (24.5)	外面タテハケ，内面指ナデ。透孔は円形と推定。凸帯は断面台形。	8	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	DP3004
第326図 90	円筒埴輪	口径 [30.7] 器高 (15.1)	外面タテハケ，内面ヨコハケ。口縁端部はていねいにナデて凹む。凸帯は断面M字形。	外面 13 内面 13	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	DP3006
91	円筒埴輪	器高 (16.0) 底径 [17.7]	外面タテハケ，内面指ナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	8	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3007
92	円筒埴輪	器高 (10.0) 底径 [17.3]	外面タテハケ，内面ナデ。基底部は左で，茎状の圧痕。	9	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3011
93	円筒埴輪	器高 (16.0) 底径 [11.7]	外面タテハケ，内面指ナデ。基底部は左で，茎状の圧痕。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3013
94	円筒埴輪	器高 (10.5) 底径 [17.7]	外面タテハケ，内面指ナデ。	8	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3012
95	朝顔形円筒埴輪	器高 (20.1)	外面タテハケ，内面指及びヘラナデ。肩部外面タテハケ後ヨコハケ。円形透孔と推定。凸帯は断面三角形。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3396
96	形象埴輪 器財埴輪	長さ (24.6)	扇形をした翳形埴輪。表裏全面にハケ目が施されている。扇の縁の部分は表裏共ていねいにナデて，ハケ目を消している。扇表面は沈線により区画し，その区画内を白色・黒色・赤色に区分けしている。扇裏面は棒状にした粘土を貼り付けている。	9	砂粒・石英 橙色 普通	DP3014
97	形象埴輪 動物埴輪	長さ (8.8)	馬形埴輪の馬具の鞍の一部。全面ナデて，つくりはていねい。	—	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3016
98	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.9)	馬形埴輪の馬具の鞍の一部。全面にハケ目が施され，縁の部分はナデてハケ目を消している。馬の鬣の可能性あり。	10	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3017

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
99	形象埴輪 動物埴輪	長さ (6.2)	馬形埴輪の馬具の鞍の一部。全面にハケ目が施され，縁の部分はナデて，ハケ目を消している。馬の鬣の可能性あり。DP3017とは別個体。	8	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3018
100	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.1) 幅　(9.5)	馬形埴輪の頭部の面繋と考えられる。外面は縦位のハケ目，内面は横位のハケ目が施され，幅4cm程の板状の粘土が貼り付けられている。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3020
101	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.6) 幅　(7.7)	馬形埴輪の馬具の飾り鋲。幅3.5cmの貼り付けられた粘土板の上に，径2.5cmの円錐形の鋲が貼り付けられている。ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP3022
102	形象埴輪 器財埴輪	長さ (10.5)	翳形埴輪。表全面にハケ目が施された後に，中央部の円形の沈線から放射状に延びる沈線で区画している。裏面に棒状にした粘土を貼り付けている。DP3014とは別個体。	8	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	DP3023
103	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.1) 幅　(7.0)	人物埴輪の足と考えられる。外面ハケ目整形後沈線で方形に区画。外面赤彩。	14	砂粒・石英 橙色　普通	DP3023
第327図 104	形象埴輪 人物埴輪	長さ (12.3)	人物埴輪の後頭部と考えられる。中央部に4.5cm四方の粘土板が貼り付けられている。上端に髷が乗る可能性あり。		砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3026
105	形象埴輪	長さ (7.9) 幅　2.6	刀の鞘尻の可能性がある。表面ていねいにナデている。	—	砂粒・石英 橙色　良好	DP3032
106	形象埴輪 人物埴輪	長さ (23.6) 幅　(11.7)	巫女の肩の破片かと考えられる。外面ハケ目，内面ていねいに指ナデが施されている。外面に白色粘土が塗り込まれている。	11	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3027
107	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.1)	人物埴輪の頭部片と考えられる。外面ハケ目整形，内面指ナデ。左前の重なりが見られる。	8	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3028
108	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.5)	髭を携えた全身立像の美豆良と考えられる。粘土棒をねじりながら成形し，先端を方形の板状にし，端部下端は肩に接し，上端ははね上がるような痕跡が見られる。二段目のねじり部に径0.4cmで，深さ1.0cmの穴がある。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP3029
109	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.4)	人物埴輪の美豆良。棒状に作った粘土に団子をかぶせるようにした後にていねいにナデている。二段目のねじり部に径0.5cm程で，深さ2.5cmの穴がある。赤彩。 DP3029とは別個体。	—	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 良好	DP3030
110	形象埴輪 人物埴輪	長さ (12.7)	人物埴輪の右小手の部分。棒状粘土に巻き付けるように粘土を包み込んでいる。先端部分には2条に粘土紐を貼り付けている。表面ていねいなナデ。周辺部分赤彩，その内側の部分には白色粘土が塗り込まれている。	—	砂粒・石英 橙色 良好	DP3031
111	形象埴輪 人物埴輪	長さ (29.4) 幅　(20.9)	全身立像の人物埴輪の顔部片と考えられる。鍔付きで上端に前方へ延びる庇の付く帽子を被り，帽子全面にハケ目が見られる。目は木葉形で，眉はヘラ等でナデて作り出し，高い三角錐状の鼻に繋がっている。口は木葉形で，目・口共に内側から開けられている。美豆良は欠損しているが，その痕跡が見られる。顎に髭と考えられる双三角形状のものが見られる。帽子の側面の一部と目尻に赤彩。DP3029と同一個体の可能性がある。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3394

第3号墳出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第329図 1	坏 土師器	A　11.9 B　3.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色　普通	P3069　80％
2	坏 土師器	A [12.8] B　4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色　普通	P3070　60％
3	高　坏 須恵器	A [9.5] B (7.9) E (4.0)	脚部は円筒状で，透かしは3か所か。坏部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。体部に2条の沈線を有し，沈線間に棒状工具による擬縄文が施されている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。脚部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P3081 40％ NO.61・64 中村編年II－6

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	高坏 須恵器	B (2.3) D 9.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	内・外面横ナデ。	緻密灰色 普通	P3082 10％
5	坏 須恵器	A [13.4] B 3.6 C 9.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P3067 65％
6	坏 須恵器	A [13.8] B 4.4 C 7.0	やや突出した平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	長石 緑灰色 普通	P3080 50％
7	蓋 須恵器	A [16.6] B 3.0 F 3.4 G 0.6	天井部から緩やかに内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりが付く。つまみは偏平で，中央部がわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P3083 85％
8	蓋 須恵器	A [14.7] B 3.1 F 4.2 G 0.5	天井部から緩やかに内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりが付く。つまみは偏平で，中央部がわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P3085 50％
9	長頸瓶 須恵器	B (4.3) D [8.4] E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ，外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P3088 10％
10	甕 須恵器	A [46.0] B (18.0)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面4本の横位の沈線で区画し，その中を6本1条の櫛描波状文が4段に巡らす。	砂粒・長石 灰色 普通	P3089 10％
11	長頸瓶 灰釉陶器	B (6.3)	体部片。	体部内・外面横ナデ。	緻密 灰黄褐色 普通	P3090 5％ 南西部周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第330図 12	円筒埴輪	器高 (12.5) 底径 [10.8]	外面タテハケ，内面ナデ。基底部は右。摩滅が著しい。	[6]	砂粒・石英 橙色 普通	DP3037
13	形象埴輪 器財埴輪	長さ (17.3) 幅 (19.9)	盾と考えられる。表面に粘土状のものを貼り付けた痕跡が見られる。裏面に「×」状のヘラ記号が見られる。摩滅が著しい。	−	礫・石英・雲母 橙色 普通	DP3071
14	形象埴輪 人物埴輪	長さ (17.7) 幅 (11.0)	人物埴輪の頭部片。円筒状の頭部に粘土板を貼り付け顔を作り出している。目・口は工具により内側へ穿孔。鼻は三角錐状の粘土を貼り付け，鼻孔の表現はない。頭部に鍔状のものを貼り付けている。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 橙色 不良	DP3038
15	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.1) 幅 3.5	人物埴輪の左足片。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 にぶい橙色 不良	DP3040
16	形象埴輪 人物埴輪	長さ (9.6) 幅 2.7	人物埴輪の美豆良片。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	DP3041
17	形象埴輪 人物埴輪	長さ (5.6) 幅 2.9	人物埴輪の跳ね上がった美豆良片。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	DP3042
18	形象埴輪 人物埴輪	長さ (5.4) 幅 (5.5)	人物埴輪の顔面部片。鼻はやや高い三角錐状の粘土を貼り付け，鼻孔の表現はない。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3043
19	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.6)	人物埴輪の腕と考えられる。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3046
20	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.7)	人物埴輪の腕。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 橙色 不良	DP3047
21	形象埴輪 人物埴輪	長さ (18.0) 幅 5.6	人物埴輪の右腕と考えられる。表面ナデ，指の部分指ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3052
22	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.6)	肩から腕の部分と考えられる。腕の付け根は肩に差し込む様にして作られている。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英 橙色 普通	DP3053
23	形象埴輪 動物埴輪	長さ (14.1) 幅 3.5	馬形埴輪の尻尾。表面ナデ。摩滅が著しい。	−	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3045
24	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.0)	人物埴輪の肩の部分。	−	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3068

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
25	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.5)	人物埴輪の肩から腕の部分と考えられる。腕の付け根は肩に差し込む様にして作られている。表面ナデ。摩滅。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3055
26	形象埴輪 動物埴輪	長さ (8.7)	馬形埴輪の尻尾と考えられる。表面ナデ。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英 橙色　不良	DP3048
27	形象埴輪 人物埴輪	長さ (8.5)	人物埴輪の腕。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3060
28	形象埴輪 動物埴輪	長さ (16.7) 幅　4.2	馬形埴輪の尻尾。表面ナデ。摩滅が著しい。DP3048と類似。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3051
29	形象埴輪 動物埴輪	長さ (19.8)	馬形埴輪の障泥。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英 橙色　普通	DP3057
第331図 30	形象埴輪 動物埴輪	長さ (15.0)	馬形埴輪の鬣。両面に手綱と思える幅1.5cm程の粘土紐が貼り付けられている。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3058
31	形象埴輪 動物埴輪	長さ (8.8)	馬形埴輪の一部分と考えられる。幅1.5cm程の貼り付けられた粘土紐の上に円形浮文が貼り付けられている。円形の透かし孔が見られる。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3059
32	形象埴輪 動物埴輪	長さ (9.5)	馬形埴輪の一部分と考えられる。幅2.5cmの粘土紐が貼り付けられている。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3061
33	形象埴輪 動物埴輪	長さ (13.8)	馬形埴輪の一部分と考えられる。外面ナデ。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3062
34	形象埴輪 動物埴輪	長さ (6.5)	馬形埴輪の一部分と考えられる。何かが差し込まれるような構造である。粘土紐の上に円形浮文が貼り付けられている。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3063
35	形象埴輪 動物埴輪	長さ (13.1)	馬形埴輪の胸の部分と考えられる。透かし孔を有する。摩滅が著しい。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3064
36	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.5)	馬形埴輪の一部分と考えられる。棒状の粘土紐が貼り付けられている。一部赤彩。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3065
37	形象埴輪 動物埴輪	長さ (18.2)	馬形埴輪の左側頭部片。貼り付けられた粘土の引手管から引手が，逆方向には手綱が延びている。頭部片上端には粘土紐が貼り付けられ，その上に鋲と考えられる円形浮文が貼り付けられている。DP3066とは別個体。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3067
38	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.2)	馬形埴輪の頭部片。貼り付けられた粘土の引手管から引手が延びている。	－	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3066
39	形象埴輪 動物埴輪	長さ (6.1) 幅　7.2	馬形埴輪の鬣の先端に付けられた立ち飾り。	－	礫・石英・雲母 明赤褐色　普通	DP3072
40	形象埴輪 動物埴輪	長さ (13.1)	馬形埴輪の頭部片と考えられる。貼り付けられた粘土板の上に鋲と考えられる円形浮文が貼り付けられている。	－	礫・石英・雲母 橙色　普通	DP3069
41	形象埴輪 動物埴輪	長さ (23.2)	馬形埴輪の鬣。表面ナデ。摩滅が著しい。	－	礫・石英・雲母 橙色　普通	DP3070

第4号墳出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第331図 1	ミニチュア土器 土師器	A　6.0 B　4.5 C　1.6	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端でわずかに内彎する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 良好	P3094 80% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
第331図 2	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.5) 幅　2.8	人物埴輪の腕。表面ナデ。	－	砂粒・石英・金雲母 にぶい橙色　普通	DP3326 周溝覆土
3	形象埴輪 動物埴輪	長さ (7.3) 幅　1.7	動物埴輪の尻尾。表面磨き。	－	石英・金雲母 にぶい橙色　普通	DP3327 周溝覆土

第6号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第331図 1	壺 須恵器	A 11.5 B (10.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ状工具による凹線。内・外面に自然釉付着。	長石灰色 普通	P3105 40％ 墓道
第332図 18	坏 土師器	A [12.3] B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3095 70％ 南東部周溝
19	坩 土師器	A [9.2] B 5.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がり，上端で内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3100 50％ 周溝
20	皿 土師質土器	A 10.0 B 1.7 C 5.6	上げ底気味の平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P3370 100％ 南東部周溝
21	皿 土師質土器	A 7.3 B 1.9 C 4.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後板状のもので押圧。内・外面に煤付着。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P3096 石室内 灯明皿
22	蓋 土師器	A [18.3] B (4.1)	天井部から内彎しながら口縁部に至る。体部下位に把手が付く。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P3107 10％ 南西部周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第332図 23	円筒埴輪	器高 (14.0) 底径 [13.6]	外面タテハケ，内面ヘラナデ，内面下端指ナデ。	25	砂粒・雲母 明赤褐色 良好	DP3073
24	形象埴輪 人物埴輪	長さ (18.3) 幅 3.0	人物埴輪の腕。表面ナデ。赤彩。	—	砂粒・雲母 明赤褐色 良好	DP3074
25	形象埴輪 人物埴輪	長さ (5.8) 幅 2.6	人物埴輪の美豆良。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 明赤褐色 良好	DP3075
26	形象埴輪 動物埴輪	長さ (7.4) 幅 (6.2)	馬形埴輪と考えられる。表面ヘラナデ。はめ込み式の部分が見られる。	—	砂粒・雲母 にぶい橙色 良好	DP3076

第8号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 1	鉢 土師器	A 9.0 B 6.4 C 3.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P3111 80％ 北西部周溝
2	埦 土師器	A [11.4] B 5.3 C 4.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3109 70％ 周溝
3	埦 土師器	B (5.7) C 4.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P3110 60％ 北西部周溝
4	甕 土師器	B (6.8)	体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P3115 20％ 北西部周溝
5	甕 土師器	A [21.9] B (16.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3113 30％ 南東部周溝
6	台付甕 土師器	D (8.0) E (5.5)	台部はラッパ状に開く。	台部外面ハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 やや不良	P3116 10％ 南東部周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第332図 7	円筒埴輪	器高 (23.7) 底径 [14.9]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。基底部は茎状の圧痕。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3078 南東部周溝覆土

第9号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	高坏 土師器	B (6.0)	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部3孔。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ハケ目整形。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P3118 30% 北西部周溝
2	器台 土師器	A 6.1 B (4.2) E (2.2)	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。器受部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	器受部内・外面横ナデ。	礫・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P3119 70% 周溝
3	坩 土師器	B (10.9)	体部は球形状である。	体部外面縦位のヘラ磨き。外面及び頸部内面赤彩。	長石・雲母 にぶい橙色 良好	P3120 20% 周溝
4	坩 土師器	A [10.0] B 5.8 C 2.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾して大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ハケ目整形。内面赤彩。	雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P3121 40% 北東部周溝
5	坩 土師器	B (4.5)	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾して大きく開く。	外面ヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 やや不良	P3122 75% 北西部周溝
6	台付甕 土師器	D [9.0]	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面縦位のハケ目整形，内面横位のハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P312 85% 周溝
7	甕 土師器	B (20.9) C 6.0	平底。体部は球形状である。	体部外面ハケ目整形後ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P3127 60% 周溝
8	甕 土師器	A [14.7] B (10.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面ハケ目整形。頸部内面ハケ目整形後ヘラ磨き。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P3126 30% 北西部周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第333図 9	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.8) 幅 3.5	人物埴輪の腕と考えられる。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	DP3080

第11号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	器台 土師器	A [7.6] B (1.5)	器受部片。器受部は外傾して立ち上がり，上端で直立する。	内・外面赤彩。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3134 5% 南東部周溝

第12号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	坏 土師器	A [13.9] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P3137 80% 南東部周溝

第14号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 1	坏 土師器	A 15.1 B 6.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3151 50% 周溝
2	坏 土師器	A 14.7 B 5.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3152 95% 周溝
3	坏 土師器	A [12.3] B 6.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P3153 85% 北東部周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏 土師器	A 13.6 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P3154 70% 周溝
5	坏 土師器	A 8.0 B 4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	石英・長石・雲母 赤褐色 普通	P3156 80% 南東部周溝
6	手捏土器 土師器	A 5.0 B 3.3 C 4.1	平底。体部は直立して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面指ナデ。	石英 赤褐色 不良	P3163 80% 南東部周溝
7	高坏 土師器	A [16.6] B (5.7)	坏部は下位に周縁が突き出て，外反して大きく開く。	坏部外面縦位のハケ目整形，内面横位のヘラ磨き。	雲母 灰褐色 普通	P3157 20% 南西部周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第333図 8	円筒埴輪	器高 (30.2) 底径 [20.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	11	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3084
9	円筒埴輪	器高 (25.0) 底径 [18.7]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔。凸帯は断面三角形。基底部は茎状の圧痕。	10	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3085
10	円筒埴輪	器高 (22.6) 底径 [15.5]	1段外面多方向のハケ，2段外面タテハケ，後凸帯貼り付け，内面横位のヘラナデ。外面スス付着。円形透孔と推定。凸帯は断面台形。基底部は左で，茎状の圧痕。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3086
第334図 11	円筒埴輪	器高 (12.7) 底径 [25.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	11	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3087
12	円筒埴輪	器高 (11.3) 底径 [18.0]	外面多方向のハケ目整形後ヘラナデ，内面ヘラナデ。凸帯貼り付け，断面は高いM字形。基底部は茎状の圧痕。	9	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	DP3089
13	円筒埴輪	器高 (11.9) 底径 [20.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。凸帯は断面台形。基底部は右で，板状の圧痕。	11	砂粒・石英・雲母・礫 橙色 普通	DP3088
14	形象埴輪 人物埴輪	長さ (15.0) 幅 [14.0]	女子人物の側頭部片と考えられる。外面タテハケ後ナデ，内面ナデ。耳は穿孔部に粘土を貼り付けている。	11	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3091
15	形象埴輪 人物埴輪	長さ (9.4) 幅 3.5	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3092
16	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.6) 幅 4.0	人物埴輪の腕と考えられる。表面ナデ。中が中空で，尻尾の可能性も考えられる。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3093
17	形象埴輪 人物埴輪	長さ (19.2) 幅 3.2	人物埴輪の右腕。表面ハケ目整形後ナデ。		砂粒・雲母 橙色 普通	DP3094
18	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.0) 幅 2.4	人物埴輪の右腕と考えられる。表面ナデ。中やや中空気味（棒状物を突き差したものか）。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3095
19	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.7) 幅 2.7	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3096
20	形象埴輪 人物埴輪	長さ (4.8) 幅 (7.6)	武人埴輪の一部分と考えられる。格子状に区画するような線刻が見られる。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3098
21	形象埴輪	長さ (3.7) 幅 (3.8)	形象埴輪であるが何であるか不明。方形のコーナー部分が穿孔されている。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3102
22	形象埴輪 人物埴輪	長さ (3.3) 幅 (4.6)	武人埴輪の一部分と考えられる。格子状に区画する線刻が見られる。DP3098とは別個体。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3100
23	形象埴輪 動物埴輪	器高 (6.4) 底径 [12.0]	馬形埴輪の脚部片と考えられる。外面タテハケ，内面ナデ。基底部ヘラナデ。	10	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3090
24	形象埴輪	長さ (6.3) 幅 (7.5)	形象埴輪であるが何であるか不明。幅3cm程の板状の粘土を貼り付けている。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3097
25	形象埴輪	長さ (11.5) 幅 (5.9)	形象埴輪であるが何であるか普通。表面ナデ。盾の可能性も考えられる。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3103
26	形象埴輪	長さ (3.4) 幅 (6.3)	形象埴輪であるが何であるか不明。径 1cm 程で深さ 0.5 cm程の凹みが見られる。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3099
27	形象埴輪	長さ (4.5) 幅 (3.9)	形象埴輪であるが何であるか不明。方形部分に6条の沈線が施されている。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3101

第16号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第335図 1	坏 土師器	A 15.0 B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反して開く。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3166 80％

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第335図 2	形象埴輪 動物埴輪	長さ (3.6) 幅 (5.5)	馬形埴輪鈴。粘土塊を丸めて形作り，刀等を用いて切り込みを両側から入れている。鈴基部に指頭圧痕が残る。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3107
3	円筒埴輪	器高 (8.5) 底径 13.0	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。凸帯は断面三角形であるがかなり低い。基底部は左と考えられ，茎状の圧痕。	16	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3106
4	円筒埴輪	器高 (13.4) 底径 14.6	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。透孔はかなり大きい楕円形。凸帯は断面台形であるがかなり低い。基底部は左で，指ナデによる圧痕。	18	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3105

第18号墳出土遺物観察表

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第335図 1	形象埴輪 人物埴輪	長さ (13.5)	全身立像の男子像の挂甲片。表面ハケ目，端部はていねいな横ナデ。裏から粘土紐による補強が見られる。	8	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3112
2	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.6)	人物埴輪の脚部片。表面ハケ目，屈曲する部分はていねいに横ナデ。	11	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3113
3	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.5) 幅 (6.3)	人物埴輪の顔の部分。目は木葉形と考えられる。鼻は三角錐状の粘土を貼り付けている。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3127
4	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.8) 幅 (8.5)	人物埴輪の顔の部分。目は木葉形である。額と頭との境に凹みが見られる。内面摩滅。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3128
5	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.1)	人物埴輪の肩の部分。表面ナデ。棒状にした粘土に板状にしたものをかぶせるような作りである。赤彩。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 良好	DP3129
6	形象埴輪 人物埴輪	長さ (17.9) 幅 (10.8)	人物埴輪の脚部片。外面タテハケ。	8	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3115
7	形象埴輪 動物埴輪	長さ (4.3) 幅 (11.2)	馬形埴輪の腹部片。腹部から足にかけてハケでなでている。腹部に円形の透かし孔がある。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3120

第19号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図 9	坏 土師器	A 13.7 B 4.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内・外面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P3172 90％
10	甕 土師器	A 19.0 B (12.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3175 30％

第20号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図 1	坏 土師器	A 14.6 B 5.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3178 70％ 南西部周溝
2	坏 須恵器	A 13.2 B 3.9 C 8.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P3187 100％ 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高坏 土師器	A [15.5] B 14.8 D 10.9 E 10.1	脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。坏部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。	坏部外面ヘラ削り，内外面ナデ。脚部外面縦位のヘラ溝，内面指ナデ。裾部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P3185 70%
4	坏 土師器	A 13.5 B 4.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	雲母 にぶい黄橙色 普通	P3179 70%
5	埦 土師器	A 11.9 B 6.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤橙色 普通	P3184 100%

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第337図 6	円筒埴輪	口径 30.8 器高 (36.5)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面低い台形。	外面 11 内面 11	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3136
7	円筒埴輪	口径 [32.7] 器高 42.9 底径 (12.5)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	11	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3137
8	円筒埴輪	口径 [33.5] 器高 43.0 底径 [19.3]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面M字形・三角形。基底部は茎状の圧痕。	外面 16 内面 16	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3138
9	円筒埴輪	器高 (20.5) 底径 [14.6]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。円形透孔。凸帯は断面低い台形。基底部は茎状の圧痕。	11	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3141
10	円筒埴輪	口径 [30.4] 器高 (20.3)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面台形。	外面 11 内面 11	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	DP3139
第338図 11	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.3) 幅 (7.6)	人物埴輪の肩の部分。表面一部ハケ目。	−	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3142
12	形象埴輪 人物埴輪	長さ (3.0) 幅 (7.9)	人物埴輪の肩の部分。表面ナデ。DP3142と同一個体の可能性あり。	−	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3143
13	形象埴輪	長さ (8.4) 幅 1.6	形象埴輪であるが何であるか不明。円形浮文が貼り付けられ，反対側には指による押圧で何かを作り出している。	−	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3144

第21号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 13	甕 須恵器	A 20.6 B [38.0] C [16.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，上位で内彎する。口縁部は直立し，上位で大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き目。	長石 灰色 普通	P3202 50% 羨道及び周溝
14	甕 須恵器	B (3.6)	体部片。	体部外面に櫛歯による押圧文を施す	緻密 灰色 良好	P3201 10% 石室覆土
第340図 63	坏 土師器	A [14.3] B 4.3	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	雲母 にぶい黄橙色 普通	P3193 45% 周溝
64	坏 須恵器	A 8.8 B 3.9 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・緻密 灰色 良好	P3198 70% 周溝
65	坏 土師器	A 14.2 B 3.8 C 5.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3192 100% 周溝
66	坩 土師器	A 9.9 B 9.7 C 4.4	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P3196 90% 周溝
67	甕 須恵器	A [10.0] B (4.1)	口縁部片。口縁部下位に稜をもち，外傾して立ち上がる。口縁端部に沈線が巡る。	口縁部下端に4条1単位の櫛描波状文が2段に施す。	緻密 灰色 良好	P3200 10% 周溝

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
68	手捏土器 土師器	A [6.2] B 1.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面半裁状の竹管文。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3197 40% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値(cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第340図 69	円筒埴輪	器高 (17.0) 底径 16.9	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔と推定。凸帯は断面三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	14	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	DP3145
70	形象埴輪 人物埴輪	長さ (4.7)	武人埴輪の胴部片。円形のボタン状の粘土が貼り付けられている。表面一部ハケ目。	—	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	DP3149
71	形象埴輪 人物埴輪	長さ (2.8)	武人埴輪の胴部片。円形のボタン状の粘土が貼り付けられている。胎土が違うのでDP3149とは別個体と判断。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3150
72	形象埴輪 動物埴輪	長さ (8.3) 幅 5.1	鳥形埴輪の尻尾と考えられる。尻尾を表現するために4条の沈線が施されている。中空。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3147
76	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.2) 幅 3.7	馬形埴輪の尻尾。上位面はハケ目，下位面はていねいな指ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3148

第22号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図 1	鉢 土師器	A 10.8 B 12.0 C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面下端及び内面指ナデ。体部外面明瞭に輪積み痕残る。底部木葉痕。外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 橙色 やや不良	P3224 70% 周溝
2	長頸壺 須恵器	B (11.2) C 8.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，上位でつよく内傾する。	体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	雲母・細砂粒・緻密 灰白色 普通	P3223 70% 周溝
3	甕 須恵器	A [24.7] B 32.9 C 18.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，上位で内彎する。口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外形平行叩き目，内面指及びヘラナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P3221 60% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値(cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第341図 4	円筒埴輪	口径 25.1 器高 (39.3)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。	外面 14 内面 14	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	DP3157
5	円筒埴輪	口径 [26.4] 器高 (34.3)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコハケ，「×」のヘラ記号。いびつな円形透孔。凸帯は断面台形。	外面 13 内面 13	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3160
6	円筒埴輪	口径 [31.2] 器高 (39.3)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコハケ，「×」のヘラ記号。円形透孔。凸帯は断面台形。	外面 13 内面 13	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	DP3159
第342図 7	円筒埴輪	口径 23.1 器高 47.8 底径 15.7	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面台形・三角形。基底部は茎状の圧痕。	外面 14 内面 14	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3158
8	円筒埴輪	口径 31.3 器高 52.0 底径 17.0	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 14 内面 14	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	DP3161
9	円筒埴輪	器高 (26.0) 底径 15.6	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった三角形。基底部は茎状の圧痕。	12	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3162
10	円筒埴輪	口径 [33.1] 器高 (18.5)	外面ヘラナデ後凸帯貼り付け，内面ナデ。口縁部内面ヨコハケ。凸帯は断面台形。	外面 16 内面 16	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3163
11	円筒埴輪	器高 (31.0) 底径 [15.8]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔。凸帯は断面高い台形。基底部は茎状の圧痕。	12	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3165

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
12	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.4) 幅 (10.1)	馬形埴輪の鞍の一部分と考えられる。粘土紐を縦にと交差するようにと貼り付けている。粘土紐で区画された中を刀子状のもので刺して施文している。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3193
13	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.2) 幅 (20.5)	人物埴輪の装飾品一部分（挂甲か）と考えられる。表面は雑な整形で，粘土紐が貼り付けられている。端部はていねいにナデている。	—	砂粒・金雲母 橙色 普通	DP3191
第343図 14	形象埴輪 器財埴輪	長さ (24.5) 幅 (19.4)	円筒の全面に方形の粘土を貼り付け，盾の中央部は円筒面を生かしている。円筒面はタテハケ。盾面はヘラナデで無文。作りは雑。	11	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3201
15	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.4)	馬形埴輪の鞍の一部分と考えられる。貼り付けられた粘土紐上に刀子状のもので刺して施文している。	—	砂粒・金雲母 橙色　普通	DP3199
16	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.2) 幅 (6.0)	人物埴輪の女子の髷と考えられる。表面ナデ。盾の可能性もある。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3198
17	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.4) 幅 (12.2)	馬形埴輪の左側の手綱の部分。表面ナデ。粘土紐が貼り付けられている。粘土紐から凹みが垂下している。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3194
18	形象埴輪 動物埴輪	長さ (13.5)	馬形埴輪の左側の頭部片。粘土紐を貼り付けた引手管が見られる。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3195
19	形象埴輪 動物埴輪	長さ (6.4) 幅 (3.5)	動物（馬か）埴輪の耳片。表面ナデ。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色　普通	DP3200

第26号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第344図 1	坏 土師器	A [12.7] B (4.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	石英・長石 褐色 普通	P3230　30％ 周溝
2	埦 土師器	A 11.8 B 7.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ちがり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色　普通	P3372　100％ 周溝
3	器台 土師器	B (5.6) D 11.2	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部３孔。中央の貫通孔は上から下にあけられている。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P3231　50％ 周溝
4	高台付坏 土師器	A 17.1 B 6.1	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	P3227　90％ 周溝
5	埦 土師器	A 13.5 B 5.6 C 7.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端指ナデ。底部木葉痕。輪積痕残る。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P3228　100％ 周溝
6	埦 土師器	A 13.4 B 5.5 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。底部にヘラ状の圧痕あり。	石英・長石・雲母 明褐色 普通	P3229　100％ 周溝
7	坏身 須恵器	A [11.4] B 4.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，受部に至る。受部はやや上方に伸びる。立ち上がりは内傾して立ち上がる。	立ち上がり部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・黒色粒 灰色 普通	P3232　40％ 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第344図 8	円筒埴輪	器高 (37.7) 底径 18.7	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	8	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3222
9	円筒埴輪	口径 [35.0] 器高 (44.9)	内・外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。口縁端部は凹む。円形透孔。凸帯は断面台形。	—	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	DP3221

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
第345図 10	円筒埴輪	口径 [30.4] 器高 43.1 底径 16.2	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。円形透孔。凸帯は断面M字形。基底部は右で，茎状の圧痕。	7～11	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3219
11	円筒埴輪	器高 (28.4) 底径 18.8	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔。凸帯は断面M字形。基底部は左で，茎状の圧痕。	9	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3223
12	円筒埴輪	口径 [32.4] 器高 44.0 底径 16.5	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。楕円形透孔。凸帯は断面やや高い台形・三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	8	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3220
13	円筒埴輪	器高 (34.4) 底径 16.9	内・外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3224
14	円筒埴輪	口径 [26.6] 器高 (29.8)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。横長の楕円形透孔。凸帯は断面台形・三角形。	8	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3227
15	円筒埴輪	器高 (25.5) 底径 [15.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔と推定。凸帯は断面やや高い台形。基底部は茎状の圧痕。	8	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色　普通	DP3226
第346図 16	円筒埴輪	器高 (40.0) 底径 [18.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。内面上位ヨコハケ。円形透孔・凸帯は断面やや高い台形・三角形。基底部は茎状の圧痕。	外面 8 内面 8	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3225
17	円筒埴輪	口径 [34.8] 器高 (26.7)	内・外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。凸帯は断面やや低い台形。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3228
18	円筒埴輪	口径 25.7 器高 (14.6)	外面ナデでハケ目痕は見られない。内面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3232
19	円筒埴輪	口径 [30.5] 器高 (22.1)	内・外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。縦長の楕円形透孔と推定。凸帯は断面やや高い台形。	—	砂粒・石英・長石・雲母 橙色　普通	DP3229
20	円筒埴輪	口径 [30.1] 器高 (19.5)	外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。内面指ナデ。凸帯は断面台形。	—	砂粒・石英・長石・雲母 橙色　普通	DP3231
21	円筒埴輪	口径 [26.0] 器高 (14.5)	内・外面ナデでハケ目痕は見られない。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3230
22	円筒埴輪	口径 30.2 器高 (12.8)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ナデ。口縁部内面ヨコハケ。凸帯は断面やや低い台形。	外面 8 内面 8	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	DP3234
23	円筒埴輪	器高 (26.5)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔。凸帯は断面歪んだ台形。	14	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	DP3235
第347図 24	円筒埴輪	器高 (16.0) 底径 18.0	外面ナデでハケ目痕は見られない。内面ヘラナデ，下端指ナデ。凸帯は断面やや高い台形。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色　普通	DP3236
25	円筒埴輪	器高 (11.0) 底径 [18.0]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。凸帯は断面低い台形。基底部は板状の圧痕。	8	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3239
26	円筒埴輪	器高 (17.0) 底径 [17.1]	外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。内面指ナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3237
27	朝顔形円筒埴輪	器高 (57.5) 底径 16.2	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面下位ヘラナデ，上位指ナデ。花状部下位内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面台形・三角形。基底部は左で，茎状の圧痕。	9	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3218
28	円筒埴輪	器高 (13.0) 底径 20.1	外面タテハケの凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	8	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3238
29	円筒埴輪	器高 (12.0) 底径 [19.5]	外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。内面ヘラナデ。凸帯は断面台形。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3240
30	円筒埴輪	器高 (9.5) 底径 [18.1]	外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。内面ナデ。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3241
31	円筒埴輪	器高 (9.7) 底径 [16.4]	内・外面縦位のヘラナデでハケ目痕は見られない。基底部は板状の圧痕。	—	砂粒・石英・長石・雲母 橙色　普通	DP3242
32	円筒埴輪	器高 (7.0) 底径 [16.0]	外面横位のヘラナデでハケ目痕は見られない。内面ヘラナデ。基底部は茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 褐色　普通	DP3243
第348図 33	朝顔形円筒埴輪	口径 [36.0] 器高 (17.0)	外面タテハケ後凸帯貼り付け。花状口縁部内面ヨコハケ，指ナデ。内面	外面 9 内面 9	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	DP3233

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
34	朝顔形円筒埴輪	口径 [38.4] 器高 (3.9)	外面タテハケ，内面ヨコハケ。	外面　9 内面　9	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3262
35	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.8)	人物埴輪の美豆良。表面ナデ。人物埴輪の足の可能性もある。	—	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3263
36	形象埴輪 器財埴輪	長さ (8.1)	盾形埴輪。表面にハケ目が施された後に沈線によって区画，裏面多方向のハケ目整形。	表面　8 裏面　8	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色　普通	DP3267
37	形象埴輪 人物埴輪	長さ (5.8) 幅　(9.3)	人物埴輪の頸部片。円形浮文が貼り付けられ，頸飾りを表現していると思われる。頸飾りのより下の部分にはハケ目が施されている。	16	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3245
38	形象埴輪 器財埴輪	長さ　62.2 幅　28.3	頭部に横向きの鳥が付く盾持埴輪。円筒の全面に下位は方形で，上位は左右のコーナーは突出し，中央部は円弧形の粘土板を貼り付けている。頭部は円筒形で，タテハケが見られ，顔の部分はていねいにナデてハケ目を消し目・口は木葉形である。	外面　8 内面　8	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3217
39	形象埴輪 人物埴輪	長さ (22.6) 幅　(14.1)	人物埴輪の頭部片。円筒状の頭部をていねいにナデて，顔を作り出している。粘土紐を貼り付けて眉から鼻を作り出している。両耳は粘土紐を円形にして貼り付け，中央部を穿孔している。口は木葉形で外から内に穿孔している。頸部には粘土紐を貼り付け，後ろの部分は交差するように貼り付け，錠面を指頭でナデている。頭頂上部には髷があったと思われ，剝離した痕跡が見られる。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3244
第349図 40	形象埴輪 人物埴輪	長さ (19.5)	人物埴輪の頭部片。円筒状の頭部に粘土板を貼り付け，顔を作り出しているが，剝離している。目・口は木葉形をし，外側から内側に工具で穿孔している。耳は内側から外側へ穿ち，付け根の所をていねいに指でナデている。	—	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3397
41	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.5) 幅　2.9	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3247
42	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.6) 幅　3.2	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3248
43	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.6) 幅　3.0	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3249
44	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.1) 幅　3.2	人物埴輪の美豆良。棒状の粘土のねじったようにして作り出している。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3251
45	形象埴輪 動物埴輪	長さ (6.8)	馬形埴輪の脚部片。外面ナデ，内面指ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3246
46	形象埴輪 動物埴輪	長さ (7.9)	馬形埴輪の尻尾。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3250
47	形象埴輪 動物埴輪	長さ (9.5) 幅　14.5	馬形埴輪の鞍の障泥。表面に円形にした粘土紐を貼り付け輪鐙を意識していると思われる。裏面板状のもので叩きしめている。	—	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3252
48	形象埴輪 動物埴輪	長さ (7.7) 幅　(12.4)	馬形埴輪の鞍。全面の縁と側面に竹管文が施されている。全面中央部に粘土紐を三角形状に貼り付け，左右に区画するように思われる。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3253
49	形象埴輪 動物埴輪	長さ (9.0)	馬形埴輪の耳。表面ナデ。耳付け根部分も中空。	—	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3254
50	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.6)	水鳥形埴輪の頭部。表面ナデ。嘴の両側を刀等を用いて切り込みを入れている。目は棒状の工具を押し込んで貫通させている。中空。作りはていねいである。	—	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3258
51	形象埴輪	長さ (11.4)	馬具の一種と考えられる。粘土紐を横方向に貼り付け，その上を指でナデている。円形透孔が見られる。	—	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3259
52	形象埴輪 動物埴輪	長さ (12.0)	四足動物の脚部片。表面ハケ目整形後ヘラナデで，わずかにハケ目痕が残る。	8	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3260
53	形象埴輪 動物埴輪	長さ (11.1)	水鳥形埴輪の頭部片。嘴の先端を欠く。目は棒状工具により貫通させている。表面ヘラナデ。中空。	—	砂粒・石英・雲母 橙色　普通	DP3386
54	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.7)	馬形埴輪鈴。粘土塊を丸めて形作り，刀等を用いて切り込みを両側から入れている。鈴基部に刺突が施されている。	—	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3257

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値(cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
55	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.1)	馬具の一種と考えられる。円形の粘土の突起が貼り付けられている。	—	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3266
第350図 56	形象埴輪 動物埴輪	長さ (7.7)	水鳥形埴輪の尻尾と考えられる。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色　普通	DP3255

第27号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図 1	埦 土師器	A 12.5 B 8.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	雲母・スコリア 橙色　普通	P3244　100％ 周溝
2	高坏 土師器	A [10.6] B (7.5) E (3.5)	脚部はラッパ状に開く。坏体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	坏部外面縦位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面上位指ナデ，下位横位のヘラ磨き。	石英・長石・雲母 明褐色 普通	P3245　20％ 周溝

第28号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図 1	器台 土師器	B (7.2) D 14.2	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のハケ目整形。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 明褐色　普通	P3247　70％ 周溝

第30号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	坏 土師器	A [14.3] B (4.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面放射状のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 橙色 普通	P3254　20％ 周溝

第31号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	甕 土師器	A [12.8] B (13.6)	体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，内面横ナデ。体部外面ハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P3268　30％ 周溝

第32号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	坏 土師器	A [10.8] B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3269　90％ 周溝
2	坏 土師器	A [12.4] B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P3271　30％ 周溝
3	甕 土師器	A 30.6 B 30.6 C 10.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3275　80％ 周溝
4	坏 土師器	A [14.3] B 3.7 C [7.7]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3270　60％ 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	高台付坏 土師器	B (4.5) D 8.2 E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3274 60％ 周溝
6	手捏土器 土師器	B (6.0) C 6.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面指ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P3279 40％ 周溝
7	壺 須恵器	B (11.8) D 13.5 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ，外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石 灰白色(釉)オリーブ灰色 普通	P3280 20％ 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第351図 8	円筒埴輪	器高 (23.0) 底頸 14.5	外面タテハケ後凸帯び貼り付け，内面指ナデ，下端横位のヘラナデ。大きい円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	10	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3283
9	円筒埴輪	器高 (12.8) 底径 [14.1]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面台形。基底部は右で，板状の圧痕。	9	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3286
第352図 10	円筒埴輪	器高 (26.1) 底径 [15.4]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。円形透孔と推定。凸帯は断面丸みをもった台形。	10	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	DP3284
11	円筒埴輪	器高 (19.0) 底径 [16.8]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面台形。	11	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3285
12	円筒埴輪	器高 (10.0) 底径 [17.8]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面台形。基底部は板状の圧痕。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3288
13	円筒埴輪	器高 (9.1) 底径 [15.4]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面高い三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	9	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3287
14	円筒埴輪	器高 (13.4) 底径 [17.8]	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。凸帯は断面やや高い台形。基底部は右。	10	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3289
15	円筒埴輪	器高 (9.5) 底径 [17.7]	外面タテハケ，内面ヘラナデ，下端指ナデ。基底部は板状の圧痕。	10	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3290
16	朝顔形円筒埴輪	器高 (8.5)	外面タテハケ後凸帯貼り付け。花状部内面ヨコハケ。凸帯は断面やや高い台形。	外面 11 内面 11	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	DP3291
17	形象埴輪 人物埴輪	長さ (12.8)	人物埴輪の後頭部片。全面にタテハケ。耳と考えられる粘土紐がわずかに貼り付けられ，穿孔が確認される。	10	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3292
18	形象埴輪 人物埴輪	長さ (8.3)	人物埴輪の顔部片。ナデて顔を作り出している。目・口は木葉形で，ヘラ等で内側から開けられている。鼻は粘土を貼り付けて，作り出している。DP3292と同一個体か。		砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3293
19	形象埴輪 人物埴輪	長さ (6.9)	人物埴輪の側頭部片。タテハケが施されている。耳と考えられる粘土紐が貼り付けられ，穿孔が見られる。耳付け根は指ナデ。DP3292と同一個体か。	10	砂粒・石英・金雲母 橙色 普通	DP3297
20	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.4) 幅 3.8	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・金雲母・スコリア 橙色 普通	DP3298
21	形象埴輪	長さ (8.6)	形象埴輪であるが何であるか不明。粘土板が貼り付けられている。	—	砂粒・金雲母・スコリア 橙色 普通	DP3295

第33号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 1	ミニチュア土器 土師器	A [8.3] B 2.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面指ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3293 50％ 周溝
2	ミニチュア土器 土師器	A [6.7] B 2.5 C 3.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で内傾する。	内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P3294 30％ 周溝
3	壺 土師器	B (3.6)	頸部片。頸部のくびれ部に粘土紐が巡らされている。	頸部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3289 10％ 周溝
4	高坏 土師器	B (8.5)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。脚部下端に4孔。	脚部外面ヘラナデ，内面指ナデ。	砂粒・長石・スコリア 明赤褐色 普通	P3283 40％ 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坩 土師器	A [8.3] B 9.7 C 3.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3288 70% 周溝
6	高台付坏 土師器	A 13.4 B 6.3 D [7.3] E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P3281 95% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第353図 7	円筒埴輪	口径 25.8 器高 45.7 底径 15.4	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ，下端タテハケ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 14 内面 14	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3299
8	円筒埴輪	口径 [26.2] 器高 (42.1)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。	外面 14 内面 14	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3306
9	円筒埴輪	口径 27.2 器高 47.7 底径 14.9	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 14 内面 14	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3300
第354図 10	円筒埴輪	口径 26.4 器高 45.6 底径 15.1	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。歪んだ楕円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	12	砂粒・石英・長石 橙色 普通	DP3302
11	円筒埴輪	口径 21.2 器高 46.4 底径 14.3	外面ナデでハケ目痕は見られない。内面指ナデ，口縁部内面ヨコナデ。円形透孔。凸帯は断面三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3303
12	円筒埴輪	口径 25.8 器高 47.1 底径 16.6	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。口縁部内面ヨコハケ。円形透孔。凸帯は断面三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 11 内面 11	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3304
13	円筒埴輪	器高 (25.6) 底径 14.3	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。楕円形透孔と推定。凸帯は断面台形。基底部は右で，板状の圧痕。	19	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	DP3307
14	円筒埴輪	器高 (13.7) 底径 15.1	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ，下端タテハケ。凸帯は断面台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 16 内面 16	砂粒・石英・長石 にぶい赤褐色 普通	DP3309
15	円筒埴輪	口径 [28.2] 器高 (18.4)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ，「○」のヘラ記号。縦長の楕円形透孔。凸帯は断面丸みをもった低い台形。	外面 12 内面 12	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	DP3308
第355図 16	朝顔形円筒埴輪	器高 (53.8) 底径 19.6	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。横長の楕円形透孔。凸帯は断面台形。基底部は左で，茎状の圧痕。	7	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3301

第34号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 4	ミニチュア土器 土師器	B (3.2) C 3.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P3310 80% 周溝
5	鉢 土師器	B (3.3) C 3.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3311 40% 周溝
6	台付鉢 須恵器	B (4.8) D 9.4	台部片。台部は「ハ」の字状に開く。	外面ナデ。つくり雑。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P3318 10% 羨道覆土
7	高坏 土師器	B (10.7) E (10.3)	脚部片。脚部は円筒状で，裾部で大きく開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面指ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P3307 40% 周溝
8	坩 土師器	B (5.4)	体部は算盤玉状である。	体部外面ヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3309 20% 周溝
9	高坏 須恵器	B (7.9)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P3314 30% 周溝
10	広口瓶 須恵器	B (6.5)	口縁部片。口縁部は直立する。	口縁部内。外面横ナデ。内・外面に釉付着。	緻密 灰白色 (釉) 灰オリーブ色 良好	P3316 10% 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	高台付坏 土師器	B (2.2) D 6.2 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面にヘラによる記号らしき圧痕あり。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3303 20% 周溝
12	片口鉢 土師器	A [17.9] B (5.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口縁部にひとつ注口が付く。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3305 20% 周溝
13	摺鉢 土師質土器	B (2.5) C [14.8]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	内面にやや幅の広い摺目が付けられている。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3306 10% 周溝
15	甕 土師器	A [23.6] B 33.8 C 10.0	平底。体部はやや長胴気味で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	P3312 70% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第355図 14	朝顔形円筒埴輪	器高 (6.4)	外面タテハケ後ヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	12	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3310
16	形象埴輪 動物埴輪	長さ (5.3) 幅 2.9	鹿形埴輪の角と考えられる。つくりは雑。	—	砂粒・石英 にぶい橙色 不良	DP3315
17	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.5) 幅 4.6	人物埴輪の腕。表面ハケ目。	8	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3311

第35号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	壺 土師器	B (4.6)	頸部片。頸部に粘土紐が巡らされ，紐上にキザミ目が施されている。	頸部外面ハケ目整形。外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P3321 10% 周溝
2	手捏土器 土師器	B (4.9)	体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形，内面指ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3322 10% 周溝
3	坏 須恵器	A 13.3 B 4.1 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 黄灰色 普通	P3323 80% 周溝

第36号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	埦 土師器	B (6.1) C 6.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部網代痕。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3326 40% 周溝
2	坩 土師器	A [8.2] B 6.5 C 2.7	上げ底気味の平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P3327 30% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第356図 3	円筒埴輪	器高 (31.5) 底径 10.5	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。円形透孔。凸帯は断面やや低い三角形。基底部は右で，茎状の圧痕。	5	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3318

第39号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 4	甕 土師器	A 13.3 B 22.0 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反し，水平近くに開く。	口縁部外面ハケ目整形後指ナデ，内面ヘラ磨き。頸部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ磨き，下位ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P3331 100% 周溝

第50号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	小形甕 土師器	A [9.4] B (4.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤色 普通	P3333 20% 石棺覆土

第51号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	坩 土師器	B (5.5) C 3.4	平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3334 60% 周溝

第56号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	蓋 須恵器	A [17.8] B (2.5)	平坦な天井部から緩やかに内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりが付く。	天井部一方向の手持ちヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P3339 40% 周溝

第59号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	坩 土師器	A 9.3 B 9.0 C 2.0	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がり，上端で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P3341 80% 周溝
2	短頸壺 土師器	A 7.5 B 9.5	丸底。底・体部は偏平な球形状で，口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P3342 100% 周溝

第61号墳出土遺物観察表

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	円筒埴輪	口径 27.5 器高 42.8 底径 14.3	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ，「×」のヘラ記号。円形透孔。凸帯は断面丸みをもった台形。基底部は右で，茎状の圧痕。	外面 9 内面 9	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3335
2	円筒埴輪	口径 28.0 器高 (23.0)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面指ナデ。口縁部内面ヨコハケ，「×」のヘラ記号。円形透孔。凸帯は断面台形。	外面 10 内面 10	砂粒・石英・雲母 橙色 不良	DP3336

第63号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	坏 土師器	A [12.3] B 5.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 良好	P3345 80% 周溝
2	埦 土師器	A 13.7 B 5.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P5107 100% 周溝
3	皿 土師質土器	A 9.8 B 1.9 C 5.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部開店ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P5103 100% 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	高坏 土師器	B (6.1) D [9.5] E 4.5	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部で水平よりやや上方に開く。	脚部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P5109 30% 周溝
5	提瓶 須恵器	B 3.0	体部片。リングは剝離。	内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P3346 5% 周溝
6	甕 須恵器	A [19.5] B (22.7)	体部は球形状で，口縁部は外反する。口縁端部は上下につまみ出す。	口縁部外面5本歯による櫛描波状文が施され，端部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き目，内面同心円の当て具痕あり。	砂粒 灰色 普通	P5108 20% 周溝

第64号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第358図 1	甕 土師器	B (9.5)	体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。	砂粒・石英・長石 暗赤褐色 普通	P1184 20% 埋葬施設（合口壺棺）
2	壺 土師器	A 22.2 B (9.3)	口縁部片。口縁部は2段に外傾して立ち上がる。	口縁部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・石英・長石 にぶい橙色 普通	P1185 20% 埋葬施設（合口壺棺）
3	大形壺 土師器	B (44.6) C 11.7	平底。体部は球形状である。	体部外面縦位のヘラ磨き。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1186 80% 埋葬施設（合口壺棺）
4	台付甕 土師器	B (6.0)	台部は「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ハケ目整形。台部内面指ナデ。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P3350 10% 周溝
5	小形甕 土師器	A [8.4] B (5.5)	体部は球形状で，口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3347 20% 周溝
6	坩 土師器	A 10.6 B 6.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾して長く立ち上がる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	P3348 100% 周溝
7	鉢 土師器	A [24.0] B (6.4)	口縁部片。折り返し口縁。口縁部下端に内から外への孔を有する。	口縁部外面横ナデ，内面横位のハケ目整形。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3349 10% 周溝

第65号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第358図 1	坩 土師器	A [14.7] B (9.4)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面縦位のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P3351 40% 周溝

第66号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 27	甕 須恵器	A [17.6] B (5.6)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部は下方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目状の叩き，内面同心円の当て具痕あり。自然釉付着。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P3352 10% 周溝

第67号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	埦 土師器	A 11.5 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3354 95% 周溝
2	器台 土師器	A 7.5 B (5.6)	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。器受部は内彎しながら立ち上がる。器受部は中央に上から下に単孔。	器受口縁部内・外面横ナデ。器受部下位から脚部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P3357 50% 周溝

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	器台 土師器	A [8.2] B 7.1 D 10.1 E 4.6	脚部はラッパ状に開く。脚部3孔。器受部は外傾して立ち上がる。	器受口縁部内・外面横ナデ。脚部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P5102 85% 周溝
4	蓋 土師器	A 4.1 B (1.7)	天井部から内彎しながら口縁部に至る。中央部のくぼむつまみが付く。	内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3358 90% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第359図 5	形象埴輪 人物埴輪	長さ (11.0) 幅 3.8	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3339
6	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.1) 幅 3.0	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3340

第68号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	坏 土師器	A 15.0 B 5.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P3359 100% 周溝
2	坏 土師器	A 9.2 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P3360 100% 周溝

第69号墳出土遺物観察表

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	形象埴輪 人物埴輪	長さ (8.3) 幅 3.1	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3342

第71号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第359図 1	鉢 土師器	A [20.0] B (9.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ハケ目整形。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P3364 30% 周溝
2	短頸壺 土師器	A 10.5 B 9.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面放射状のヘラ磨き（暗文）。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P3365 100% 周溝
3	甑 土師器	B (6.8) C 3.9	単孔式。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面縦位のヘラ磨き。外面煤付着。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P3366 10% 周溝

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第360図4	形象埴輪 人物埴輪	長さ (9.3) 幅 (7.0)	人物埴輪の顔。粘土を貼り付け，顔を作り出している。目・口は木葉形で，外から内に刀等で穿孔している。眉鼻は粘土を貼り付け，作り出している。つくりはていねい。	—	砂粒・雲母 橙色 良好	DP3343
5	形象埴輪 人物埴輪	長さ (3.9) 幅 (6.1)	人物埴輪の顔。粘土を貼り付け，顔を作り出している。目・口は木葉形で，外から内に刀等で穿孔している。鼻は丸みをもった粘土を貼り付けているが，高い。	—	砂粒・雲母 橙色 普通	DP3344
6	形象埴輪 動物埴輪	長さ (14.0)	水鳥形埴輪の頭部片。嘴の先端を欠く。目は棒状工具により貫通させている。目の下の両側に，耳かと考えられる竹管文が見られる。表面ナデ。中空。つくりはていねい。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP3345

第72号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図1	高坏 土師器	A [15.1] B (6.2)	坏部片。坏部は内彎しながら立ち上がる。	坏口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 浅黄橙色　普通	P1497　30％ 石棺覆土
2	坏 須恵器	A [10.3] B (2.8)	口縁部片。口縁部は体部との境に稜をもち，直立する。口縁端部はややくぼむ。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 オリーブ灰色 普通	P1499　5％ 石棺覆土

古墳出土鉄製品一覧表

図版番号	名称	全長(長さ)	幅	厚さ	刀(鏃)身部 長さ	刀(鏃)身部 幅	現存率 長さ	現存率 幅	重量(g)	出土地点	備考
第323図1	馬鈴	5.0	3.9	3.0					44.7	TM2石室	M3160　銅製　虎頭鈴　鈴子は石抜き穴あり
2	馬鈴	4.8	3.6	3.2					41.5	TM2石室	M3176　銅製　鈕の厚さが0.2cm 鈴子は石
3	鞍金具	(5.5)	(5.6)	3.0					(31.2)	TM2石室	M3173　鉄地金銅張り
4	辻金具	2.7	2.7	1.8					(16.2)	TM2石室	M3172　鉄地金銅張り
5	辻金具	(2.7)	2.9	(1.3)					(6.5)	TM2石室	M3178
6	辻金具	(2.8)	2.9	(2.3)					(15.2)	TM2石室	M3179
7	鞍金具	(3.0)	(3.2)	0.6					(4.3)	TM2石室	M3174
8	不明	(3.8)	0.7	0.4					(1.8)	TM2石室	M3141　鞍金具の可能性あり
9	不明	(11.0)	0.7	0.3					(5.6)	TM2石室	M3143　鞍金具の可能性あり
10	鞍金具	(9.2)	(5.7)	0.7					(56.8)	TM2石室	M3161　鉄地金銅製鋲留
11	飾金具	2.3	3.9	0.4					6.6	TM2石室	M3167　鉄地金銅張り
12	耳環	2.3	2.5	0.6					13.3	TM2石室	M3169　金銅製
13	耳環	2.9	3.2	0.7					(23.7)	TM2石室	M3162　銅地銀張り
14	鋏具	7.6	5.8	1.1					61.8	TM2石室	M3180　鉄製
15	鞘	(5.3)	(9.3)	0.4					(17.4)	TM2石室	M3142　金銅製　金銅製飾刀の鞘の可能性あり
16	直刀	(9.2)	3.3	1.0	(9.2)	3.3	—	—	(77.3)	TM2石室	M3121
17	直刀	(3.3)	3.7	1.2					(26.4)	TM2石室	M3122
18	直刀	(5.9)	1.9	0.2					(2.8)	TM2石室	M3004
19	刀子	(11.1)	1.8	0.5	(8.0)	1.8	(3.1)	0.9	(16.8)	TM2石室	M3126
20	刀子	(5.9)	0.9	0.3					(3.6)	TM2石室	M3127
21	刀子	(11.0)	1.7	0.4					(16.7)	TM2石室	M3131
22	刀子	(9.2)	1.6	0.4	(9.2)	1.6	—	—	(16.3)	TM2石室	M3152
23	不明	(4.4)	1.2	0.5					(10.4)	TM2石室	M3001　表面に木質付着
24	不明	(3.6)	0.9	0.7					(3.4)	TM2石室	M3002
25	不明	(1.7)	1.7	0.5					(1.5)	TM2石室	M3003
26	不明	(6.2)	1.5	1.2					(15.9)	TM2石室	M3086

図版番号	名称	全長(長さ)	幅	厚さ	刀(鏃)身部		現存率		重量(g)	出土地点	備考
					長さ	幅	長さ	幅			
27	鉄鏃	(16.7)	0.7	0.5					(11.6)	TM2石室	M3123
28	鉄鏃	(12.0)	0.6	0.4					(9.0)	TM2石室	M3124
29	鉄鏃	(14.9)	0.6	0.4					(10.9)	TM2石室	M3125
30	鉄鏃	(17.4)	2.6	0.4	4.0	2.6	(13.4)	0.9	(19.7)	TM2石室	M3128
31	鉄鏃	(15.3)	0.9	0.5	2.2	0.9	(13.1)	0.8	(11.9)	TM2石室	M3129
32	鉄鏃	(6.4)	1.0	0.3	3.2	1.0	(3.2)	0.6	(4.0)	TM2石室	M3134
33	鉄鏃	(8.8)	2.0	0.6	2.9	2.0	(5.9)	0.5	(9.3)	TM2石室	M3145
34	鉄鏃	(11.5)	0.9	0.5	2.0	0.9	(9.5)	0.5	(6.5)	TM2石室	M3146
35	鉄鏃	(11.0)	1.2	0.4	2.9	1.2	(8.1)	0.6	(6.9)	TM2石室	M3147
36	鉄鏃	(6.4)	1.0	0.3					(4.3)	TM2石室	M3135
37	鉄鏃									TM2石室	M3133
38	鉄鏃	(8.2)	0.7	0.4	—	—	(8.2)	0.7	(6.4)	TM2石室	M3130
39	鉄鏃	(4.1)	0.8	0.5	—	—	(4.1)	0.8	(4.0)	TM2石室	M3144
40	鉄鏃	(14.2)	1.2	0.4	2.3	1.2	(11.9)	0.6	(8.2)	TM2石室	M3148
41	鉄鏃	(3.3)	1.0	0.4	(3.3)	1.0	—	—	(3.2)	TM2石室	M3149
42	鉄鏃	(3.8)	1.0	0.5					(2.9)	TM2石室	M3150 木質一部付着
第324図43	不明	(5.9)	0.8	0.3					(2.0)	TM2石室	M3151 馬具の可能性あり
44	不明	(5.4)	2.3	0.3					(7.7)	TM2石室	M3136
45	不明	(4.3)	6.5	1.0					(20.0)	TM2石室	M3154
46	不明	(11.1)	0.9	0.5	—	—	(11.1)	0.9	(9.5)	TM2石室	M3155
47	不明	(7.5)	0.7	0.5					(3.6)	TM2石室	M3157
48	不明	(7.3)	(2.0)	0.7					(13.4)	TM2石室	M3156
49	不明	5.8	(3.5)	0.9					(14.8)	TM2石室	M3158
50	不明	(3.2)	0.6	0.5					(2.7)	TM2石室	M3088 豆粒物付着
51	不明	(4.8)	2.7	0.4					(9.4)	TM2石室	M3132
52	不明	(2.6)	1.0	0.7					(3.2)	TM2石室	M3153
53	不明	(11.0)	(7.3)	0.4					(11.4)	TM2石室	M3159
54	不明	(4.1)	1.2	0.7					(6.7)	TM2石室	M3087 鉄鏃の可能性あり
第331図42	釧	5.2	7.1	0.5					31.2	TM3墳丘	M3007 鉄製
第331図2	柄頭	3.1	3.0	2.2					(16.8)	TM6周溝	M3021 円頭小刀柄頭 内側に釘1遺存
3	鍔	(4.6)	(2.8)	0.5					(10.3)	TM6石室	M3023 六窓又は八窓鐔
4	不明	(5.7)	1.7	0.6					(13.1)	TM6石室	M3024 鍔の可能性あり
5	素環鏡板付轡	喰部長18.6cm, 引手部長15.7cm							212.7	TM6石室	M3177 鉄製 鏡板には立聞が作り出し 喰は二連
6	直刀	(20.4)	2.9	1.0	(20.4)	2.9	—	—	(178.0)	TM6石室	M3098
第332図7	刀子	(5.9)	2.8	0.7	(5.9)	2.8	—	—	(31.0)	TM6石室	M3008 刀身部片
8	刀子	(5.6)	1.7	0.4	(5.6)	1.7	—	—	(9.4)	TM6石室	M3009 刀身部片
9	刀子	(3.5)	1.2	0.4					(3.7)	TM6石室	M3010
10	鉄鏃	(12.8)	0.6	0.5	—	—	(12.8)	0.6	(12.4)	TM6石室	M3012 茎部木質一部残存
11	鉄鏃	(10.4)	0.8	0.6	—	—	(10.4)	0.8	(11.4)	TM6石室	M3013 茎部木質一部残存
12	鉄鏃	(8.2)	0.9	0.6	—	—	(8.2)	0.9	(6.9)	TM6石室	M3015 茎部木質一部残存
13	鉄鏃	(5.2)	1.4	0.5	2.7	1.4	(2.5)	0.7	(5.6)	TM6石室	M3050
14	不明	(3.8)	2.0	0.7					(3.8)	TM6石室	M3025
15	鉄鏃	(6.7)	1.0	0.5	—	—	(6.7)	1.0	(5.1)	TM6石室	M3014 茎部木質一部残存
16	鉄鏃	(3.9)	1.1	0.5	(0.6)	1.1	(3.3)	0.6	(3.0)	TM6石室	M3051
—	鉄鏃	(5.2)	0.8	0.6	—	—	(5.2)	0.8	(2.8)	TM6石室	M3016
—	鉄鏃	(4.1)	0.8	0.6	—	—	(4.1)	0.8	(1.1)	TM6石室	M3017 茎部木質一部残存
—	鉄鏃	(2.5)	0.6	0.5	—	—	(2.5)	0.6	(3.8)	TM6石室	M3018
—	不明	(1.8)	0.6	0.6					(1.3)	TM6石室	M3019
第332図27	不明	(7.3)	1.2	1.1					(29.1)	TM6周溝	M3020
28	不明	(4.7)	(4.4)	0.8					(20.2)	TM6周溝	M3022 中央部に径1cmの穿孔あり
第333図1	不明	(7.1)	0.7	0.6					(9.6)	TM10石棺	M3029
第335図8	鉄鏃	(6.0)	0.9	0.6					(4.8)	TM18石室	M3030 木質付着
9	鉄鏃	(7.4)	0.7	0.5					(7.2)	TM18石室	M3031
10	刀子	(8.9)	1.9	0.5	(5.0)	1.9	(3.9)	1.2	(11.8)	TM18石室	M3099

図版番号	名称	全長(長さ)	幅	厚さ	刀(鏃)身部 長さ	刀(鏃)身部 幅	現存率 長さ	現存率 幅	重量(g)	出土地点	備考
第336図1	耳環	2.1	2.3	0.8					11.3	TM19石室	M3166 金銅製
2	耳環	4.0	4.5	1.2					(26.4)	TM19石室	M3046 鉄製
第336図3	刀子	(6.4)	1.6	0.7	(4.8)	1.6	—	—	(13.3)	TM19石室	M3032
4	鉄鏃	(5.8)	1.1	0.6	(1.7)	1.1	(4.1)	0.6	(4.6)	TM19石室	M3033
5	鉄鏃	(9.1)	0.9	0.4	2.2	0.9	(6.9)	0.7	(6.8)	TM19石室	M3034
6	鉄鏃	(4.4)	0.8	0.6					(6.7)	TM19石室	M3035
7	不明	(3.8)	0.9	0.6					(4.7)	TM19石室	M3036
14	直刀(大刀)	93.3	4.0	1.0	82.0	4.0	11.3	2.1	1096.2	TM19石室	M3110 目釘1
15	直刀(小刀)	32.1	2.4	0.9	23.8	2.2	8.3	2.0	150.5	TM19石室	M3115 目釘1 茎部に木質一部付着
第338図15	鉄鎌	(8.4)	3.0	0.6					(21.4)	TM20周溝	M3037
第338図2	直刀(小刀)	48.4	1.8	1.1	41.1	1.8	7.3	3.0	364.8	TM21石室	M3105 鍔付着
3	直刀(小刀)	(34.8)	2.5	0.7	(31.1)	2.5	(3.7)	1.4	(155.4)	TM21石室	M3116 茎部に木質一部付着 刀子?
4	鉄鏃	(3.7)	0.6	0.5					(3.3)	TM21石室	M3041
5	不明	(4.6)	1.3	0.6					(6.3)	TM21石室	M3038 鞍金具の可能性あり
6	不明	(3.4)	1.9	0.4					(6.0)	TM21石室	M3039 小札の可能性あり
7	鉄鏃	(3.6)	0.5	3.0	0.5				(4.5)	TM21石室	M3040
8	鍔	9.7	7.9	0.7					66.5	TM21石室	M3112 八窓鍔
9	不明	(3.4)	(2.2)	0.5					(4.1)	TM21石室	M3042
10	不明	(2.3)	1.1	0.5					(1.6)	TM21石室	M3043
11	鉄鏃	(3.7)	0.7	0.5	—	—	(3.7)	0.7	(7.5)	TM21石室	M3044
12	直刀(小刀)	30.9	2.8	0.9	24.8	2.8	6.1	1.8	122.7	TM21石室	M3113 刀子?
第339図15	鞘尻金具	12.1	2.9	1.9					(54.2)	TM21石室	M3109 金銅製 孔径0.3cmの目釘穴あり
16	直刀(大刀)	76.7	2.7	0.8	67.9	2.7	9.1	1.8	716.5	TM21石室	M3107A 鐺・鞘口金具・鞘中金具・責金具付着 目釘1 刀身部木質付着 M3107・M3108・M3019はセット
16	鍔	6.7	5.2	0.4					66.3	TM21石室	M3107B 金銅製 無窓鍔
16	責金具	3.4	2.2	0.5					6.0	TM21石室	M3107C 金銅製
17	直刀(大刀)	98.0	4.2	0.9	80.0	4.2	18.0	3.3	1232.0	TM21石室	M3106 目釘3
18	直刀(大刀)	(78.0)	4.0	0.9	65.5	4.0	(12.5)	2.5	(849.1)	TM21石室	M3111
第339図19	直刀	(25.4)	2.8	0.6	(25.4)	2.8	—	—	(72.5)	TM21石室	M3114 刀子?
20	直刀	(17.5)	3.0	0.6	(5.7)	3.0	(9.4)	3.1	(104.0)	TM21石室	M3117 目釘1 金銅製鍔付着 木質一部付着
21	直刀	(21.7)	4.5	0.7	(18.3)	4.5	—	—	(153.2)	TM21石室	M3118 鍔付着
22	素環鏡板付轡	喰部長[16.6]cm							(133.0)	TM21石室	M3120 鉄製 喰は二連 鋲具が付着
23	鍔	8.9	7.4	0.6					70.5	TM21石室	M3119 八窓鍔
24	柄頭	7.1	5.2	3.2					(24.1)	TM21石室	M3108A 金銅製
25	楕目金具	(1.2)	1.0	1.0					(1.6)	TM21石室	M3108B 金銅製
26	不明	(7.8)	0.7	0.5					(4.7)	TM21石室	M3138 馬具の一種の可能性あり
27	鉄鏃	(7.2)	1.2	0.3	(2.7)	1.2	(4.5)	0.7	(5.0)	TM21石室	M3139
28	鉄鏃	(7.9)	1.2	0.9	(3.2)	1.2	(4.7)	1.1	(7.6)	TM21石室	M3140
29	馬具	(4.1)	3.2	1.1					(16.2)	TM21石室	M3137
30	鞍金具									TM21石室	M3141
第340図31	鋲具	6.8	4.9	0.9					(27.2)	TM21石室	M3163
32	轡の引手輪	3.0	3.1	1.0					12.2	TM21石室	M3164 鉄製 耳環の可能性あり
33	耳環	3.0	3.2	0.9					(5.0)	TM21石室	M3165 金銅製 中空耳環
34	釧	7.7	6.8	0.3					12.9	TM21石室	M3168 銅製
35	鋲具	6.8	5.3	0.9					43.8	TM21石室	M3170
36	責金具	3.6	2.3	0.5					(1.7)	TM21石室	M3171 金銅製
37	馬鈴	5.4	4.3	3.8					88.7	TM21石室	M3175 銅製 三環鈴の可能性あり 鈴子は鉄外面は中位で上下に区画し,上は櫛歯文,下は楕円形文
38	不明	(5.4)	2.3	0.3					(7.7)	TM21石室	M3136 径0.3cmの孔あり
39	刀子	(11.0)	1.7	0.4	(11.0)	1.7	—	—	(16.7)	TM21石室	M3131
40	不明	(4.8)	(2.7)	0.4					(9.4)	TM21石室	M3132
41	鉄鏃	(7.6)	0.8	0.5	—	—	(7.6)	0.8	(6.0)	TM21石室	M3133
第343図20	不明	(3.6)	2.3	0.5					(6.4)	TM22周溝	M3047
第355図1	刀子	(9.3)	2.6	1.1	(9.3)	2.6	—	—	(39.5)	TM34石室	M3053
2	刀子	(8.1)	1.2	0.5					(12.4)	TM34石室	M3054
18	刀子	(7.1)	1.7	0.5	(3.1)	1.7	(4.0)		(14.1)	TM34周溝	M3052

図版番号	名　称	全長(長さ)	幅	厚さ	刀(鏃)身部		現存率		重量(g)	出土地点	備　考
					長さ	幅	長さ	幅			
19	不　明	(3.8)	2.8	0.5					(12.2)	TM34周溝	M3055　鉄鎌の可能性あり
20	不　明	(5.8)	1.2	0.6					(8.4)	TM34周溝	M3056　木質付着
21	不　明	(3.1)	1.1	0.8					(3.6)	TM34周溝	M3057
第356図2	直　刀	(27.0)	2.5	1.0	(27.0)	2.5	－	－		TM38周溝	M1012　刀身部に木質付着
第356図1	耳　環	4.5	4.6	1.1					48.4	TM39石棺	M3058　鉄製
2	耳　環	4.4	4.6	1.0					44.2	TM39石棺	M3059　鉄製
3	耳　環	1.8	1.8	0.3					(0.8)	TM39石棺	M3060　金銅製
第356図1	耳　環	2.9	3.2	0.7					27.9	TM41石棺	M3061　銅地銀張り
第356図1	耳　環	2.9	3.1	0.7					22.9	TM45石棺	M3062　金銅製
2	耳　環	2.7	3.1	0.7					19.3	TM45石棺	M3063　金銅製
第357図2	刀　子	(5.9)	1.8	0.7					(13.7)	TM58石棺	M3064
第357図1	不　明	(8.5)	1.8	0.5					(16.3)	TM60石棺	M3065
第359図1	不　明	(5.9)	1.2	0.4					(5.0)	TM66石棺	M3066　鉄鏃の可能性あり
2	不　明	(4.7)	(5.5)	0.7					(21.2)	TM66石棺	M3069　小札3枚付着の可能性あり
3	不　明	(3.3)	(2.4)	0.5					(5.2)	TM66石棺	M3072　小札の可能性あり
4	不　明	(3.3)	0.7	0.6					(2.5)	TM66石棺	M3082
5	不　明	(8.2)	(6.1)	0.5					(36.4)	TM66石棺	M3076　小札2枚付着の可能性あり　径1mm程の孔あり
6	不　明	(4.6)	3.1	0.8					(12.5)	TM66石棺	M3079　小札の可能性あり
7	不　明	(4.3)	(3.1)	0.9					(10.9)	TM66石棺	M3080
8	不　明	(4.4)	(3.8)	0.8					(9.4)	TM66石棺	M3081
28	不　明	(3.7)	(2.5)	0.5					(4.7)	TM66周溝	M3067
29	不　明	(3.5)	(1.4)	0.8					(3.6)	TM66周溝	M3070
30	不　明	(4.5)	0.5	0.3					(2.2)	TM66周溝	M3071
31	不　明	(3.4)	0.6	0.6					(2.1)	TM66周溝	M3073
32	不　明	(3.4)	0.7	0.7					(2.1)	TM66周溝	M3074
33	不　明	4.7	0.7	0.8					5.4	TM66周溝	M3075
34	不　明	(4.4)	0.6	0.6					(4.2)	TM66周溝	M3078
35	不　明	(3.5)	1.0	0.5					(3.1)	TM66周溝	M3077　鉄鏃の可能性あり

3　土坑

当遺跡の古墳時代の土坑は，A地区から5基，C地区から3基確認されている。遺物の出土状況に特徴があるA地区の第615号土坑とC地区の第3号土坑のみ文章化し，その他のものは一覧表にすることにした。

A地区

第615号土坑（第362図）

位置　調査A区の最南部のF2h$_8$区を中心に確認されている

規模と平面形　長軸2.91m，短軸1.21mの隅丸長方形である。

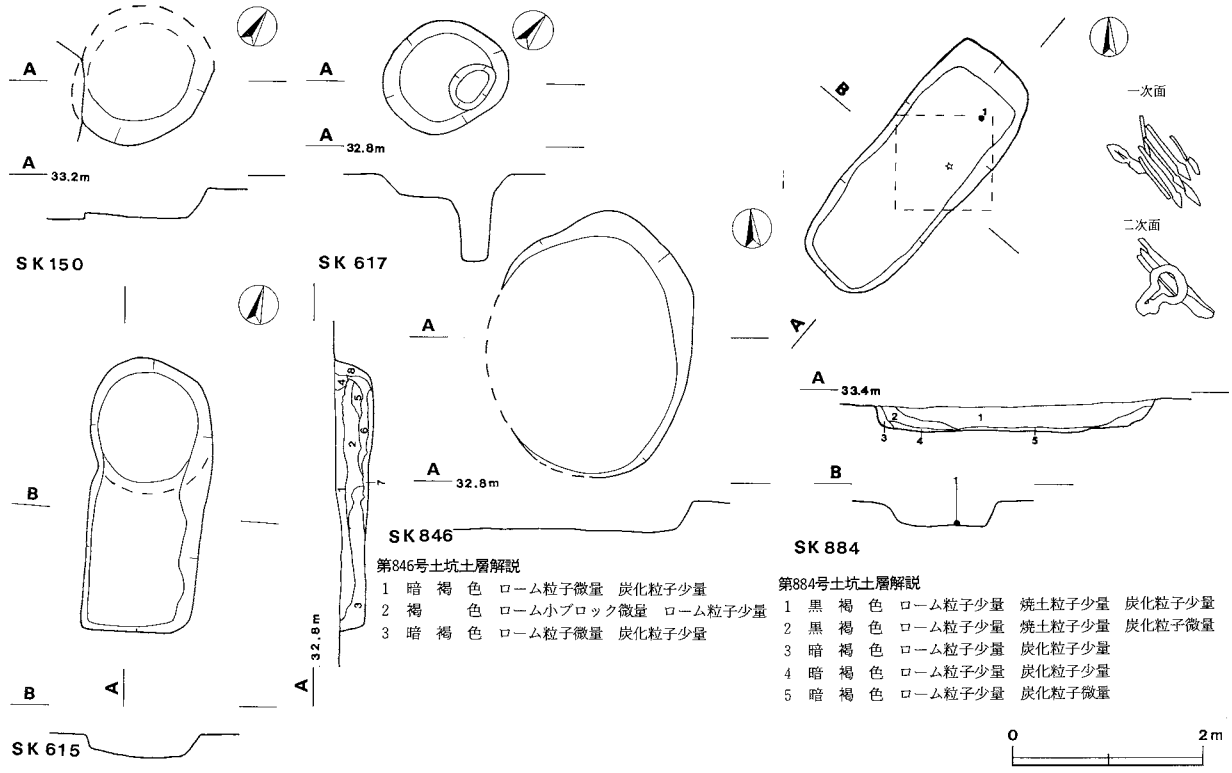
長径方向　N－3°－W。

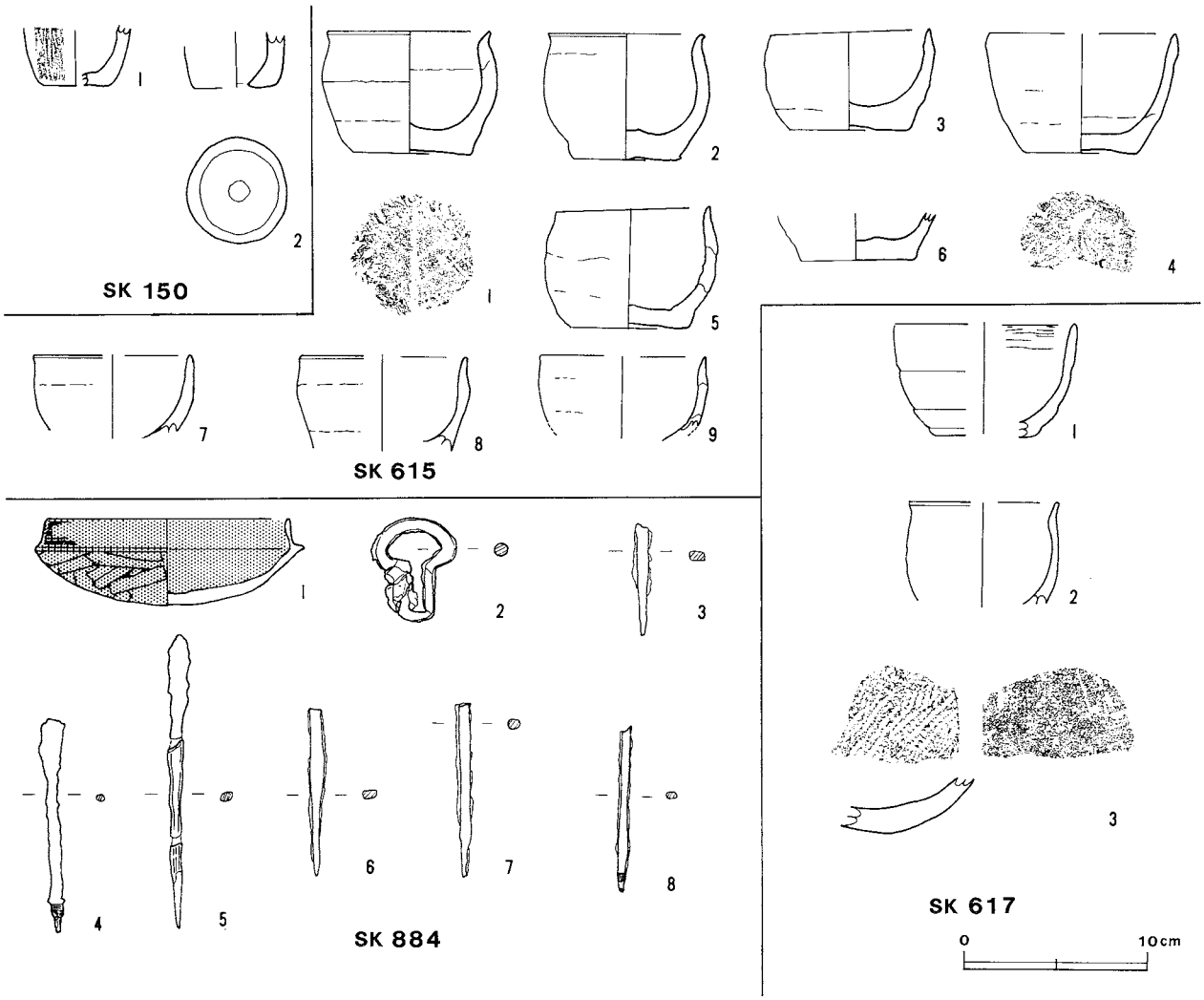
壁面　緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面　平坦。北部に径110cm程の円形の落ち込みが見られ，その中にピット（P_1）が見られる。P_1は径30cm程の円形で，深さ12cmである。

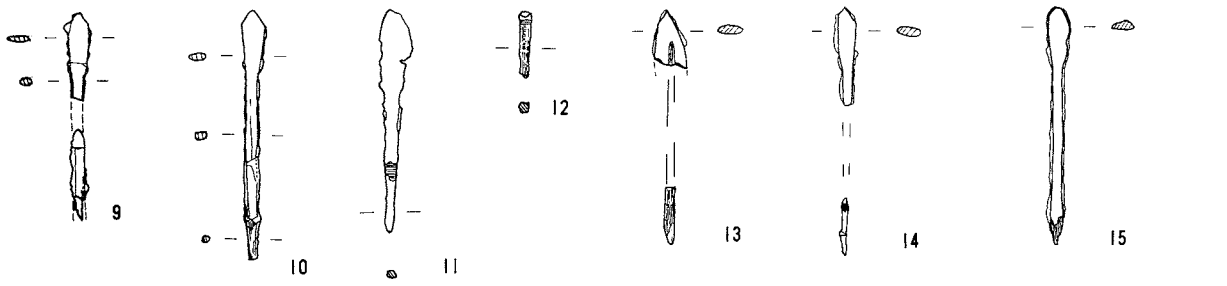
覆土　8層からなる。1・2層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土，4・5層はローム粒子を中量，焼土粒子を微量含んだ褐色土，6・7層はローム粒子を少量，焼土粒子を微量含んだ黒褐色土，8層はローム粒子を多量含んだ明褐色土である。1・2層から遺物は出土している。覆土の状況からは人為的な堆積状況を示しているとは感じられない。

遺物　中央部覆土上層と東壁際中央部覆土上層からほぼ同じような形をした手捏土器が合計9個体出土している。中央部から6個体まとまって出土している。第362図1・2は横位，3は斜位の状態で出土している。東壁





第362図　第150・615・617・846・884号土坑，出土遺物



第363図　第884号土坑出土遺物

際からは3個体まとまって出土している。

所見　遺物の出土状況から判断すると壁際から自然に土が堆積し，ある程度埋まった後に手捏土器を投棄した様相が見られ，祭祀を行ったと考えることができる。本跡に伴う遺物は手捏土器のみであり明確でないが，古墳時代中期頃と考えられる。

表10　古墳時代A地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
150	B4f4	N－2°－W	円形	[1.50]×[1.35]	56	緩斜	平坦	自然	土師器（甕・手捏土器），縄文式土器片		第362図
615	F2h8	N－3°－W	隅丸長方形	2.91 × 1.21	44	緩斜	平坦	自然	土師器（手捏土器）		第362図
617	F2i8	N－33°－E	不整円形	1.33 × 1.145	25	緩斜	平坦	自然	土師器（手捏土器）		第362図
846	E5d3	N－4°－E	楕円形	[2.93]×[2.15]	33	緩斜	平坦	自然	土師器（坏・ミニチュア土器）		第362図
884	B3i8	N－38°－E	隅丸長方形	2.91 × 1.10	23	緩斜	平坦	自然	土師器（坏），縄文式土器片		第362図

A地区古墳時代土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第362図 1	小型甕 土師器	B (3.4) C [3.6]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	SK150 P1192 20％
2	手捏土器 土師器	B (3.3) C [5.5]	平底。体部は外傾して立ち上がる。底部穿孔。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	SK150 P1193 50％
第362図 1	手捏土器 土師器	A 8.8 B 6.9 C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕。内・外面煤付着。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1910 100％
2	手捏土器 土師器	A 8.6 B 6.9 C 5.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 付着	SK615 P1911 100％
3	手捏土器 土師器	A 8.7 B 5.6 C 6.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1913 90％
4	手捏土器 土師器	A [10.2] B 6.7 C [6.2]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕後ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1914 50％
5	手捏土器 土師器	A 8.4 B 6.8 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・スコリア 橙色 普通	SK615 P1912 80％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	手捏土器 土師器	B (2.4) C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	SK615 P1918 30%
7	手捏土器 土師器	A [8.6] B (4.3)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1915 40% 覆土
8	手捏土器 土師器	A [8.8] B (5.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1916 20%
9	手捏土器 土師器	A [9.0] B (4.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・スコリア 橙色 普通	SK615 P1917 10% 覆土
第362図1	手捏土器 土師器	A [9.8] B 6.3 C [5.5]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・スコリア 橙色 普通	SK617 P1919 30% 覆土
2	手捏土器 土師器	A [8.0] B (5.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	SK617 P1920 30% 覆土
第362図1	坏 土師器	A 13.3 B 5.0	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 良好	SK884 P2422 100%

C地区

第3号土坑（第364図）

位置　調査C区の南部のG8e$_0$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長径2.40m，短径2.25mの不整円形である。

長径方向　N－26°－E。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　平坦。北東隅にピット（P$_1$）がある。P$_1$は径28cmの円形で，深さ6cmである。

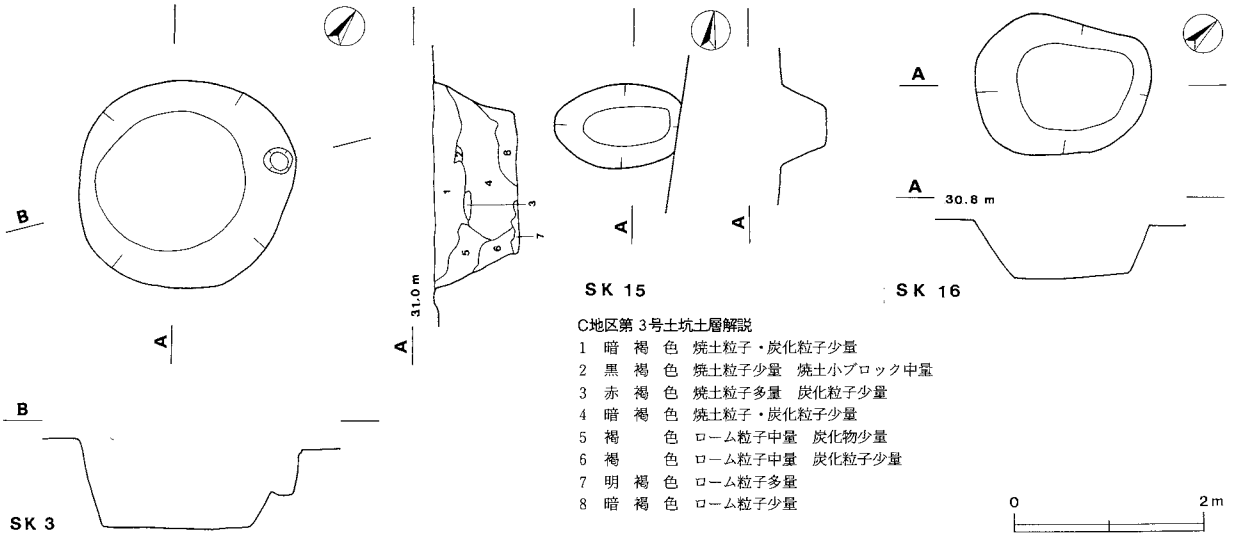
覆土　8層からなる。3層は炭化粒子を少量，焼土粒子を多量含んだ赤褐色土である。この土層面が中央部から西側にかけて長さ140cm，幅80cm程のきわめて硬い焼土面として残っている。

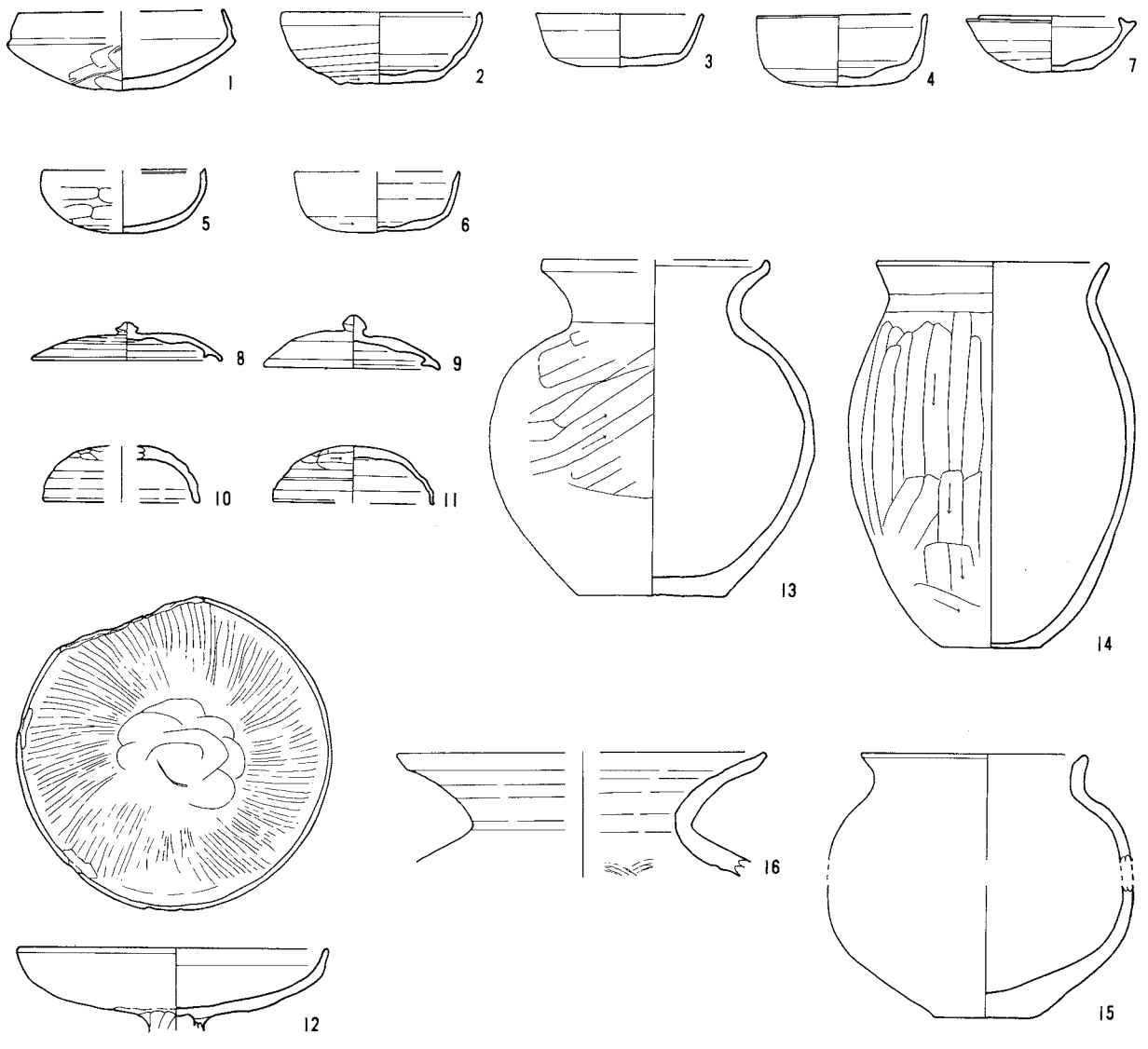
遺物　覆土中～上層にかけて多く出土し，特に須恵器が多量に出土している。北壁際覆土上層から第364図7の須恵器坏身が斜位の状態で，東側覆土上層から搬入品と考えられる12の高坏が横位の状態で出土している。南側覆土中層から15の甕が出土している。底面から14の甕がつぶれた状態で，その上から2の須恵器坏が逆位の状態で，その北隣からは人骨が出土している。

所見　本跡は土師器甕と須恵器坏が一緒に出土し，その隣から人骨が出土していることから墓壙と思われる。時期は7世紀後半（終末）と考えられる。

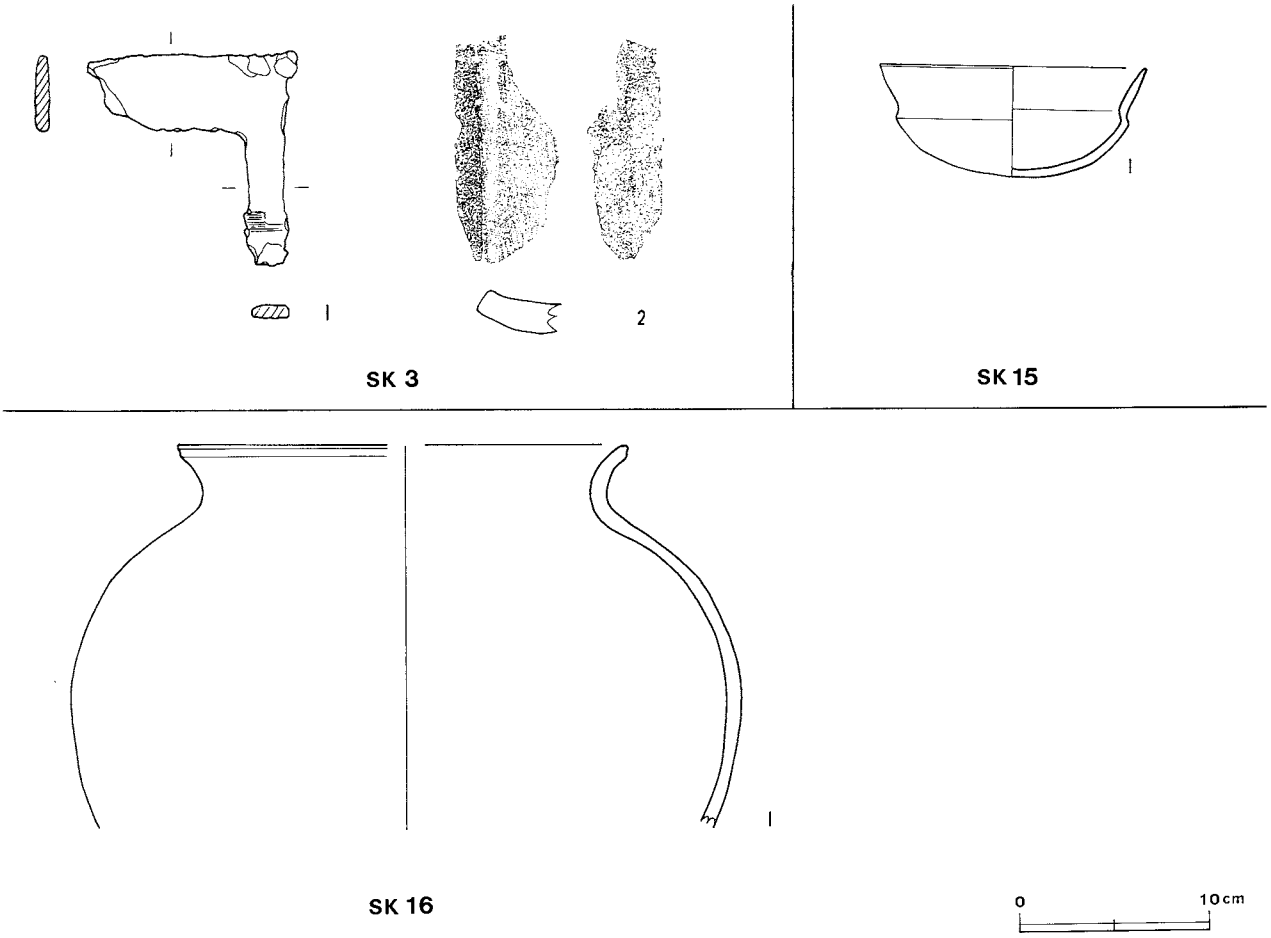
表11　古墳時代C地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
3	G8e$_0$	N－26°－E	不整円形	2.40 × 2.25	84	緩斜	平坦	自然	土師器（坏・高坏・甕),須恵器（坏身・坏蓋・甕),縄文式土器片	ピット（P1）あり	第364図
15	G9h$_3$	N－76°－E	長方形	1.00 × 0.78	47	急斜	平坦	人為	土師器片,縄文式土器片		第364図
16	G9e$_2$	N－56°－E	不整楕円形	1.82 × 1.43	58	緩斜	平坦	不明	土師器片		第364図





第364図　第3・15・16号土坑，第3号土坑出土遺物



第365図　第３・15・16号土坑出土遺物

C地区古墳時代土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第364図 1	坏 土師器	A [11.5] B 4.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	SK3 P4088 50％ 西側覆土
2	坏 須恵器	A 11.0 B 4.1 C 4.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	長石・黒色粒 灰色 良好	SK3 P4095 100％
3	坏 須恵器	A 9.5 B 3.0 C 4.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・黒色粒 灰白色 普通	SK3 P4096 100％
4	坏 須恵器	A 9.5 B 4.2 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	SK3 P4097 70％ 北西部覆土
5	坏 土師器	A [9.2] B 4.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口唇部に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	雲母・スコリア 赤褐色 良好	SK3 P4089 30％ 北西部覆土
6	坏 須恵器	A [9.2] B 3.5 C [5.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部西側至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 青灰色 普通	SK3 P4099 40％ 北西部覆土
7	坏身 須恵器	A 9.5 B 3.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部にうけをもつ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒 青灰色 普通	SK3 P4101 60％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	蓋 須恵器	A 10.7 B 2.2 F 1.4 G 0.7	天井部から丸みをもって口縁部に至る。端部にかえりが付く。つまみは宝珠形である。	口縁部内・外面横ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。	石英・長石 青灰色 普通	SK3 P4103 100%
9	蓋 須恵器	A 9.9 B 3.0 F 1.4 G 1.1	天井部から丸みをもって口縁部西側至る。端部にかえりが付く。つまみは宝珠形である。	口縁部内・外面横ナデ。天井部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 緑灰色 良好	SK3 P4104 70% 南部覆土
10	坏蓋 須恵器	A [8.8] B 3.2	天井部から丸みをもって口縁部に至る。天井部と口縁部との境に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。天井部外面手持ちヘラ削り。	砂粒 灰白色 普通	SK3 P4100 40% 南東部覆土
11	坏蓋 須恵器	A 9.0 B 3.3	天井部から丸みをもって口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。天井部手持ちヘラ削り。	砂粒 灰白色 良好	SK3 P4098 60% 南西部覆土
12	高坏 土師器	A 17.5 B (4.6) E (0.7)	坏部片。坏体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面暗文が施されている。坏部下端ヘラナデ。	砂粒・雲母 橙色 良好	SK3 P4090 40%
13	甕 土師器	A [12.6] B 18.9 C 8.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口唇部はわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。底部は一方向の手持ちヘラ削り後ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	SK3 P4091 90%
14	甕 土師器	A 13.0 B 21.7 C 5.5	平底。体部は長胴形で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。外面煤付着。	砂粒 明黄褐色 普通	SK3 P4092 70%
15	甕 土師器	A 12.4 B [16.0] C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	SK3 P4093 70%
16	甕 須恵器	A [10.6] B (7.0)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面同心円の叩き目。	砂粒・長石 灰色 普通	SK3 P4106 10%

4 埋設遺構

当遺跡の古墳時代の埋設遺構は，A地区から1基確認されている。

A地区

第6号埋設遺構（第366図）

位置 調査A区の北部のA3g$_0$区を中心に確認されている。

規模と形状 不明であるが，土器を埋める最小限程の掘り方と見られる。

長径方向 不明。

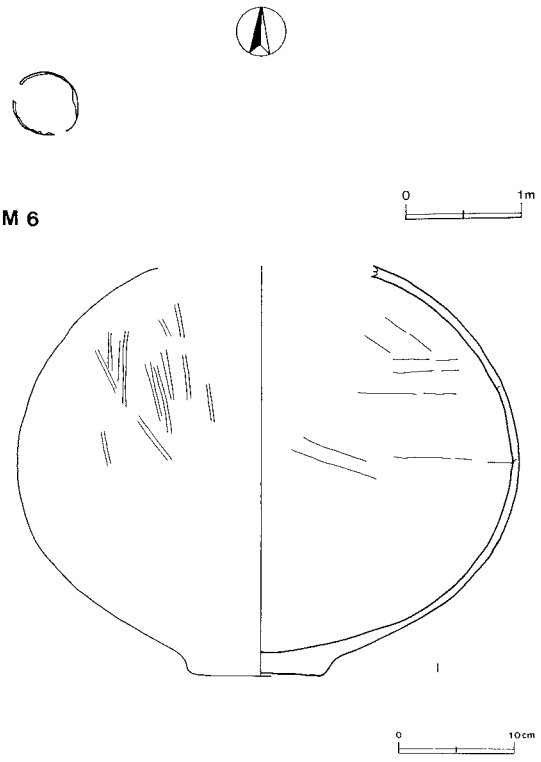
壁 不明。

底面 不明。

覆土 不明。

遺物 土坑内に第366図1の壺が正位の状態に据えられている。壺内は，暗褐色土が充填されている。骨片は確認できなかった。

所見 本跡は，古墳時代前期の遺構と考えられる。



第366図 第6号埋設遺構，出土遺物

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	坏 土師器	A 14.0 B 5.8	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	SK15 P4107 90% 北部覆土
第365図 1	甕 土師器	A [23.4] B (20.2)	体部は球形状で，口縁部は外反する。口唇部をわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。外面煤付着。	砂粒・長石・雲母 橙色	SK16 P4109 25%

古墳時代埋設遺構遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第366図 1	壺 土師器	B (24.0) C 7.2	平底。体部は球形状である。	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。	石英・長石 明赤褐色 普通	M6 P5133 45%

5 井戸

当遺跡から確認された古墳時代の井戸は，D地区からの2基である。

D地区

第1号井戸(第367図SE1 SK1を変更)

位置 調査D区の南部のJ12j_4区を中心に確認されている

規模と形状 掘り方は，上面は長径5.33m，短径4.95mのほぼ円形で，深さは2.26mである。底面は0.54m程のやや平らな皿状である。形状は底面まで擂鉢状である。北西壁面に焼土がこびり付くように確認されている。

長径方向 N－28°－W。

覆土 22層からなる。各層とも中央部に向かって下降して傾斜する土層である。最下層の22層は灰白色粘土を少量，砂を極めて多量含んだ褐色土である。東側覆土の7・10・12・14・19層からは砂と粘土が確認されている。4～22層は人為的に埋め戻したものと考えられる。その後に自然に1～3層が堆積したものと考えられる。

遺物 遺物は覆土中から土師器353片，須恵器10片，縄文式土器22片等である。東側覆土中層から第368図1の土師器坏，2の須恵器甕が出土している。遺物は覆土中・下層から出土しているので，本跡の廃絶後に投棄あるいは流入したものと考えられる。

所見 出土遺物から時期を判断すると古墳時代後期と考えられる。

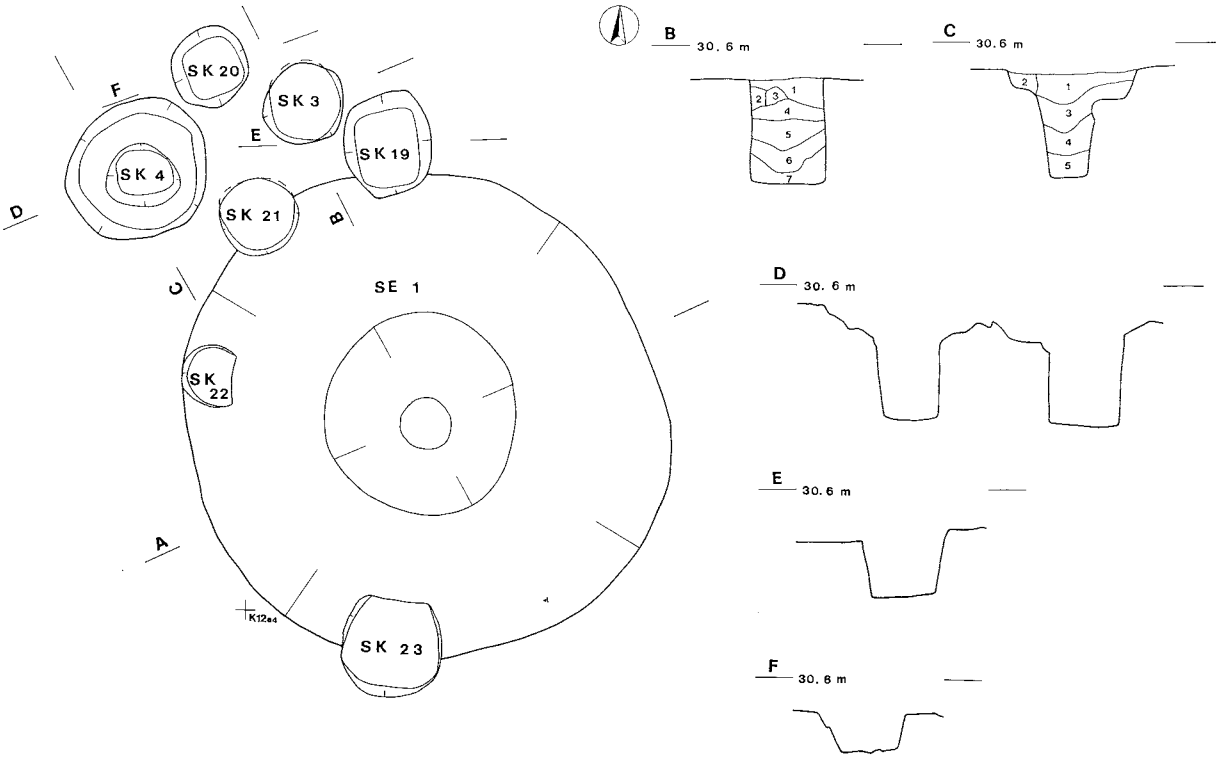
第2号井戸(第368図SE2 SK5を変更)

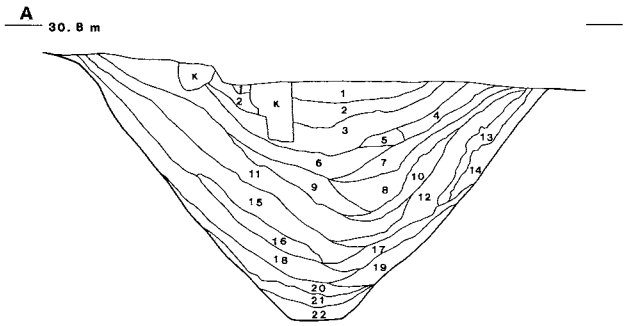
位置 調査D区の南部のJ12h_3区を中心に確認されている

規模と形状 掘り方は，上面は長径4.10m，短径3.80mのほぼ円形で，深さは2.2mである。底面は0.6m程のやや平らな皿状である。形状は底面まで擂鉢状である。

長径方向 N－27°－W。

覆土 16層からなる。各層とも中央部に向かって下降して傾斜する土層である。3層は暗褐色土で，極めてしまりのつよい土層である。13・14層は共にローム大ブロックを多量に含んだ暗褐色土で，東側から埋め戻したような様相である。12層は褐色土で，12・14層はガサガサしてしまりが極めてよわい土層である。15層は暗褐色土，16層は黒褐色土，15・16層は共に粘性の極めてつよい土層である。覆土中・下層は人為的に埋め戻した様相を示している。





SE 1・SK3A・SK4・SK19・SK20・SK21・SK22・SK23

D地区第 3号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 締まり弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 炭化粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子中量
5 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
6 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化物・炭化粒子少量

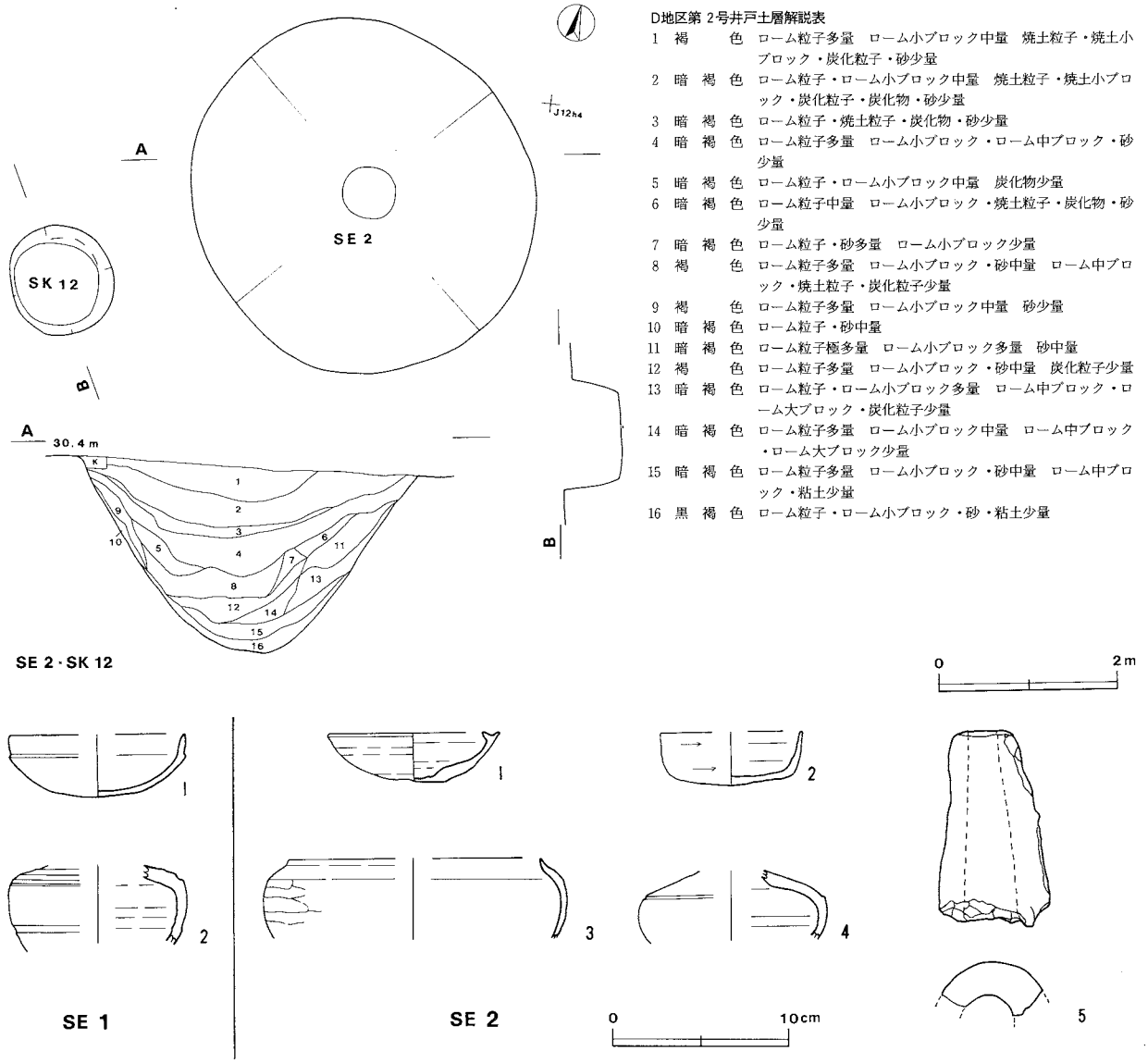
D地区第 4号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化物少量 炭化粒子中量
5 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

D地区第 1号井戸土層解説表 (SK 1)

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・砂中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・砂多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土少量
8 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物少量
9 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物中量 焼土粒子・炭化粒子・砂少量
10 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量 粘土少量
11 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物少量
12 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・砂多量 焼土粒子・炭化粒子・炭化物・粘土少量
13 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・砂中量 焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
14 褐 色 砂多量 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子・炭化物・粘土少量
15 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
16 暗 褐 色 砂中量 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
17 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・砂少量
18 暗 褐 色 砂多量 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
19 褐 色 砂極多量 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土少量
20 暗 褐 色 砂中量 ローム粒子・炭化粒子少量
21 暗 褐 色 砂多量 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
22 褐 色 砂極多量 粘土少量

第367図 第1号井戸，第3・4・19・20・21・22・23号土坑



D地区第2号井戸土層解説表

1 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物・砂少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・ローム中ブロック・砂少量
5 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 炭化物少量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・砂多量 ローム小ブロック少量
8 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・砂中量 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 砂少量
10 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量
11 暗 褐 色 ローム粒子極多量 ローム小ブロック多量 砂中量
12 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・砂中量 炭化粒子少量
13 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量 ローム中ブロック・ローム大ブロック・炭化粒子少量
14 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック・ローム大ブロック少量
15 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・砂中量 ローム中ブロック・粘土少量
16 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・砂・粘土少量

第368図　第2号井戸，第12号土坑，第1・2号井戸出土遺物

遺物　遺物は覆土中から土師器片281，須恵器片10，縄文式土器片4等である。第368図1の完形の須恵器坏身は東側覆土下層から出土している。西側覆土中からは2の須恵器坏，4の甕，3の土師器坏，5の支脚が出土している。遺物は覆土中・下層から出土しているので，本跡の廃絶後に投棄あるいは流入したものと考えられる。

所見　出土遺物から時期を判断すると古墳時代後期と考えられる。

古墳時代井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第368図 1	坏 土師器	A［9.8］ B 3.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	SE1 P4209 70% 北部覆土
2	甕 須恵器	B（4.5）	体部は直立近くに立ち上がり，上端でつよく内傾する。体部上端と下位に沈線が巡る。	体部沈線の間を縄文が転がしてある。	砂粒灰色 良好	SE1 P4210 5% 覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第368図1	坏身 須恵器	A 9.6 B 2.9	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部にうけをもつ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端から底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・黒色粒灰色 良好	SE2 P4212 100% 北部覆土
2	坏 須恵器	A [8.2] B 3.1 C 6.5	平底。体部は直立近く立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	SE2 P4213 50% 南部覆土
3	埦 土師器	A [14.2] B (4.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	SE2 P4215 5% 覆土
4	甕 須恵器	B (4.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，上端でつよく内傾する。体部上端に沈線が巡る。	体部内・外面横ナデ。	砂粒・黒色粒 青灰色 良好	SE2 P4216 5% 南部覆土

6 まとめ

当遺跡から確認された古墳時代の遺構は，竪穴住居跡104軒，土坑9基，古墳65基，方形周溝墓2基，埋設遺構1基，井戸2基である。

本項では，古墳65基とD地区の第4B号住居跡から出土した置カマドについて若干のまとめを行う。

(1)古墳について

○古墳の形態と分布

古墳を形態によって分類すると，次のようになる。

前方後円墳形・・・・・TM 3，4，22，58，67（ただしTM22とTM58は帆立貝式）

円墳形・・・・・・・・TM 2，6，8，10，11，12，13，14，16，17，18，19，20，21，23，24，25，26，27，28，30，31，32，33，34，35，36，37，38，39，45，49，51，52，56，57，59，63，65，66，68，69，70，71

周溝の伴わない・・・・TM 7，15，29，41，42，43，44，46，47，48，50，53，60，61，62，72

タイプ

主体部によって分類すると，次のようになる。

横穴式石室・・・・・・TM 2，6，18，19，21，34

箱式石棺・・・・・・・TM 4，7，10，15，23，29，37，39，41，42，43，44，45，46，47，48，50，52，53，58，59，60，62，66，72

円筒埴輪棺・・・・・・TM61

主体部が確認できなかった古墳・・・・TM 3，8，11，12，13，14，16，17，20，22，24，25，26，27，28，30，31，32，33，35，36，38，49，51，56，57，63，65，67，68，69，70，71

これらの古墳は，付図に示すように，いずれもA・B地区で確認されたもので，C・D地区にはみられない。A地区は標高約33～34m程の台地であり，B地区はその台地から緩やかに傾斜する標高30～31m程の台地の縁辺部である。この台地の東には谷津を挟んで筑波郡衙であると考えられている平沢官衙遺跡が確認されている。

各古墳の分布を見てみると，周溝がわずかに接しているものと重複するものがあり，重複しているものは，第6号墳と第71号墳，第34号墳と第68号墳，第2号墳と第33号墳，第4号墳と第70号墳，第17号墳と第18号墳，第21号墳と第22号墳がある。第6号墳と第71号墳では，第71号墳の周溝が第6号墳の周溝を切っている。第34号墳と第68号墳では，第68号墳の周溝を壊して，第34号墳の主体部である横穴式石室を構築している。第2号墳と第33号墳では，第33号墳の周溝上に第2号墳の墳丘が構築されている。第17号墳と第18号墳では，第18号

墳の周溝が第17号墳を切っている。第21号墳と第22号墳では，第21号墳の周溝が第22号墳の周溝を切っている。古墳の配置図に示すように，各々の古墳の配置は，ほぼN－45°－Eの軸線上に連続して構築しており，築造過程において，この軸線が意識的に設定されていた事が考えられる。しかも，この軸線の延長線上には筑波地域の首長墓とされる7世紀前半に築造された佐都ケ岩屋古墳が位置しており，中台古墳群の延長上に，意識して築造された可能性がある。

○古墳の形状と規模

墳形で分類すると，前方後円墳と円墳に分けられる。前方後円墳は5基で，円墳は44基である。墳丘規模は，周溝の内側で計測したものである。埋葬施設をみると，横穴式石室・箱式石棺・埴輪円筒棺がある。前方後円墳は，箱式石棺を2基もつもの（TM4），くびれ部に箱式石棺をもつもの（TM58）だけで，残りは主体部が不明である。円墳は，横穴式石室をもつもの（TM2・18・19・21・34），箱式石棺をもつもの（TM10・23・37・39・45・52・59・66），周溝の伴わない箱式石棺のみの古墳は16基である。第29号墳箱式石棺は，構造がしっかりしていて，他の箱式石棺のみの古墳とはタイプが異なると考えられる。また，第41・42・43・46・47・48号墳のグループと第61・62号墳のグループがまとまって確認されている。第61号墳は円筒埴輪棺であるが，小型の箱式石棺と同様に周溝を伴わないタイプの古墳と考えられる。県内の埴輪円筒棺の出土例は，取手市の市之台3号墳や千代田町の松延3・4号墳や水海道市の七塚古墳群の中の1基等がある。埋葬施設の確認できなかった古墳は33基あるが，これは埋葬施設が墳丘部付近に構築していた可能性がある。

○出土遺物

埴輪以外の出土遺物には，周溝内からは土師器や須恵器が見られる。埋葬施設からの出土遺物としては，横穴式石室から飾太刀，金銅製の鞍金具，耳環，瑪瑙製勾玉，水晶製切子玉，琥珀製棗玉，ガラス玉，直刀，刀子，鉄鏃が出土している。箱式石棺からは第39号墳と第45号墳から金環，第41号墳から銀環が出土している。第66号墳は箱式石棺ととらえたが，横口式石槨の可能性も考えられ，鉄製品，石製小玉や琥珀玉が出土している。横穴式石室を有する古墳について見ると，第2号墳からは，鞍金具（鉄地金銅張鋲留），鞘，辻金具，鑣金具，直刀，刀子，馬帯飾金具，鉸具，馬鈴2個（内1個は虎頭鈴），金銅製耳環，第6号墳からは，柄頭，二連轡，刀子，鉄鏃，瑪瑙製勾玉，須恵器壺，第18号墳からは，水晶製切子玉，ガラス玉，棗玉，鉄鏃，第19号墳からは直刀，小刀，瑪瑙製勾玉，鉄鏃，耳環（金銅製，鉄製），第21号墳からは，柄頭，鉸具，轡引手輪，無茎平根式鉄鏃，柳葉鉄鏃，刀子，銅釧，琥珀玉，切子玉，碧玉製管玉，ガラス玉，丸玉，馬鈴（鈕が特異で，三環鈴の可能性がある），耳環（中空）が出土している。鉄鏃は三角鏃が少なく，柳葉形が多い。須恵器は，第3号墳周溝内から甕，第6号墳横穴式石室から壺，第21号墳周溝内から大甕，甕，第22号墳周溝内から甕，坏，甕，第26号墳周溝内から坏，第63号墳周溝内から提瓶が出土している。第59号墳周溝内からは土師器短頸壺が出土している。横穴式石室は盗掘を受けているが副葬品が他の古墳等と差が見られ，身分差を表していると考えられる。

○埴輪

埴輪の出土している古墳は，第2・3・6・14・16・18・20・21・22・26・32・33・36号墳である。これらの古墳で円筒埴輪以外の形象埴輪の出土しているのは，第2・3・6・14・18・22・26号墳である。本古墳群から出土している円筒埴輪は，凸帯3条の下総型がほとんどである。第2号墳出土の翳形埴輪は，3色（赤・白・黒）に色分けしてあると思われ，時期は6世紀代のものである。盾持埴輪は第22・26号墳から出土し，第26号墳出土のものは頭部に横向きの鳥が付くもので，第22号墳出土のものは，つくりが悪く，盾の部分は無文のものである。第18号墳出土の女子の人物埴輪の髷は時期的に比較的新しいと考えられる。埴輪から時期を考え

ると第26号墳→第33号墳→第36号墳の変遷が考えられる。

○古墳の年代観

本跡の群集墳は，6世紀後半から7世紀前半の限られた時期のものである。

第2号墳は，横穴式石室の構造の立派さと出土遺物から6世紀代の首長層の墓と考えられる。この首長に続くと考えられるのが，調査エリア外に位置する中台1号墳，さらにエリアの北東側の山腹に位置する佐都ケ岩屋古墳（平沢1号墳）に続くものと考えられる(1)。横穴式石室を持つ古墳について考えてみると，出土遺物・古墳の構造・埴輪の有無等から，第2号墳→第6号墳→第21号墳→第18号墳→第19号墳との変遷が考えられる。横穴式石室の主軸方向から第2号墳・第6号墳・第34号墳と第18号墳・第19号墳・第21号墳の二つのグループに分けられ，第34号墳は比較的古い古墳の可能性が考えられる。第19号墳からの埴輪の出土は見られず，横穴式石室の出土遺物から7世紀前半代の時期が考えられる。このことから，筑波地域では，埴輪は7世紀前半で消滅するのではないかと考えられる。

（註・参考文献）

1．班内研修時において，白石太一郎氏のご教示による。

2．白石太一郎「常陸の後期・終末期古墳と風土記建評記事」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集　1991年11月

3．黒沢彰哉「常総地域における群集墳の一考察」『婆良岐考古』第15号　1993年6月

4．阿久津久・片平雅俊「常陸の後期古墳の様相」『国立歴史民俗博物館研究報告』第44集　1992年3月

5．筑波大学『筑波古代地域史の研究』1981年

6．諸星政得他『市之代古墳群第3号墳調査報告』茨城県取手市教育委員会　1978年3月

7．黒沢彰哉他『松延3・4号墳発掘調査報告』千代田村教育委員会　1983年

8．茨城県『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』1974年2月

9．日本馬具大鑑編集委員会『日本馬具大鑑1』古代上日本中央競馬会　1989年12月

(2)置カマド

県内で古墳時代の置カマドが出土したのは，当遺跡がはじめてである。その後真壁町の八幡前遺跡(1)からも出土している。

この置カマドが出土したのはD地区の第4B号住居跡である。住居跡は古墳時代後期（6世紀前半）の住居跡で，置カマドは西側壁際の覆土中層（4層）から出土している。住居跡の平面形は，長軸5.68m，短軸5.49mの方形で，壁は壁高43～63mで垂直に立ち上がっている。覆土は9層からなり，すべて暗褐色土であり，ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含み，人為的に埋め戻した様相が見られる。この覆土中層からは極めて多量の土師器が出土しており，一括投棄した状況が伺える。また，置カマドの出土した西壁際から床面にかけては焼土や炭化材が確認されており，火を使用した可能性が考えられるが，床面中央部東側から東壁にかけてはほとんど焼土および炭化材は確認できなかった。多量の土師器の出土した範囲もこの焼土や炭化材が出土した範囲とほぼ同じである。置カマドの形態は，断面台形状であるが，当遺跡の平安期のものと異なり，天井部がアーチ状に内彎して狭まり，正面には大きな焚き口を持ち，焚き口の周縁には粘土紐を貼り付けて庇としている。体部の両側面には9×12cm程の方形の透かし孔が，底面に接して設けられている。置カマドの時期は，共搬した土師器から，住居跡とほぼ同時期の6世紀前半と考えられる。置カマドには住居跡

から出土する実用的なものと，古墳に副葬された小型の模造品的なものとが見られるが，古墳時代のものは西日本に偏っている。置カマドの性格は，日常生活での炊飯具として使用されたものという考え方と，祭祀的な行為に伴う儀式具という考え方がある。当遺跡の置カマドは，後者の性格のものと考えられる。

（参考文献）

1．茨城県教育財団「（仮称）真壁町南椎尾地区住宅団地事業地内埋蔵文化財調査報告書　小山遺跡・八幡前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第99集　1995年３月

2．埋蔵文化財研究会　第32回埋蔵文化財研究集会『古墳時代の竈を考える』1992年９月

3．神谷佳明「東国出土の竈形土器についての検討」『群馬の考古学』1988年11月

第22号墳出土遺物観察表

刷毛目(本／2cm)

図版番号	器　種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備　考
第360図 38	形象埴輪 人物埴輪	長さ (16.5) 幅 (10.5)	人物埴輪の頭部片。円筒状の頭部をていねいにナデて，顔を作り出している。粘土紐を貼り付けて顔と鼻を作り出している。目と口は木葉形で外から内に穿孔している。頭部中央部には両側から粘土を持ち上げたような突起が見られる。顔側面にはハケ目が見られる。	10	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3168
39	形象埴輪 人物埴輪	長さ (9.0) 幅 (3.0)	人物埴輪の腕。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3171
40	形象埴輪 人物埴輪	長さ (5.4) 幅 3.4	人物埴輪の手の部分。外面沈線により指を作り出している。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3178
41	形象埴輪 動物埴輪	長さ (14.9) 幅 3.3	馬形埴輪の尻尾。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3179
42	形象埴輪 動物埴輪	長さ (36.7) 幅 11.8	馬形埴輪の脚部片。外面タテハケ。内面指ナデ・ヘラナデ。	9	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3188
43	形象埴輪	長さ (20.0) 幅 (16.0)	形象埴輪であるが何であるか不明。円筒状のものに粘土紐が貼り付けられ，ハケ目による整形が見られる。外から内に穿孔されている。内面ナデ。	10	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP3167

第7節　奈良・平安時代

1　竪穴住居跡

当遺跡の奈良・平安時代の竪穴住居跡は，A・B・C・D地区それぞれから確認されている。A地区で確認された竪穴住居跡は123軒である。B地区で確認された竪穴住居跡は2軒で，2軒とも奈良時代のものである。C地区で確認された竪穴住居跡は3軒で，2軒は奈良時代，1軒は平安時代のものである。D地区で確認された竪穴住居跡は3軒で，3軒とも平安時代のものである。文章化するものは，住居跡の形状および規模の明確なもの，遺物の出土状況が良好なもの，あるいは出土遺物に特徴のあるものに限り，その他のものは一覧表にすることにした。

A地区

第2号住居跡（第369図）

位置　調査A区の北部のA3h$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は第6号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸4.04m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－90°－E。

壁　壁高17～27cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈の前方部から中央部にかけてよく踏み固められ，極めて硬い。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に26cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共既に無い。規模は長さ113cm，幅126cmである。火床は床面を12cm程掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。火床中央部東寄りに支脚使用と考えられる石が直立している。

覆土　5層からなる。1・2層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子・焼土小ブロックを少量，焼土粒子・砂を中量含んだ暗褐色土，4層はローム粒子を多量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，5層はローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。1・2層で覆土の大部分を占めている。

遺物　遺物は中央部を除いた床面，特に北西部と南東部から多量に出土している。北西部から第397図3の高台付坏，1の坏，12の装飾器台，13の壺，15の甕はつぶれた状態で出土している。竈前方部から4の高台付坏が出土している。南東部から9・10の土師質土器皿，3の高台付坏が出土している。北西壁際と南東部から20～30cm程の花崗岩が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀後葉)の住居跡と考えられる。

第3号住居跡（第369図）

位置　調査A区の北部のA3h$_6$区を中心に確認されている。

重複関係　無し。

規模と平面形　長軸3.51m，短軸2.65mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E。

壁　壁高5～14cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけて，よく踏み固められ，土間のように硬化している。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に48cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無い。規模は長さ122cm，幅60cmである。火床は床面を4cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は急角度で立ち上がっている。覆土は4層からなる。1層は焼土粒子・焼土小ブロックを中量，炭化粒子を少量含んだ褐色土，2層は焼土粒子を多量，焼土小ブロックを中量，砂質粘土を少量含んだにぶい赤褐色土，焼土粒子を多量，焼土小ブロックを少量，炭化粒子を中量含んだ暗赤褐色土，4層はローム粒子を多量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土である。

覆土　4層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量，2層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量，3層はローム粒子を多量，4層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含んだ土層で，4層すべて黒褐色土である。1層が覆土の大部分を占めている。

遺物　中央部から南側を中心に多く出土している。竈内から第398図2の高台付坏が出土している。中央部から5・6の土師質土器皿，4の高台付坏，8の甕が出土している。南部から3の高台付坏が逆位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀後葉)の住居跡と考えられる。

第4号住居跡（第369図）

位置　調査A区の北部のB3a_3区を中心に確認されている。

重複関係　北側は第6号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸［4.71］m，短軸［4.43］mの方形と考えられる。

主軸方向　N－66°－E。

壁　南壁のみ確認されている。壁高11cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められ，極めて硬い。

ピット　5か所。P_1・P_2は長径32cm，短径28～30cmの円形で，深さ60～96cmで，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3は長軸60cm，短軸20cmの隅丸長方形で，深さ4cmで，位置から出入り口施設に伴うピットの可能性もある。P_4は長径18cm，短径13cmの楕円形で，深さ6cmである。南壁際に位置しているが，性格は不明である。P_5は長径26cm，短径24cmの円形で，深さ52cmである。P_2の東側に位置し，補助柱穴の可能性も考えられる。

竈　東壁中央部やや北寄りに付設されており，壁外に38cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無い。規模は長さ53cm，幅42cmである。火床は床面を4cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ暗褐色土，2層は焼土粒子を多量，砂を中量含んだ暗赤褐色土，3層は焼土粒子・焼土小ブロックを中量，炭化物を少量を含んだ暗赤褐色土，4層はローム粒子・焼土粒子を少量，砂を中量含んだ暗赤褐色土，5層は焼土粒子・炭化物を少量，灰を極めて多量含んだ暗褐色土である。

覆土　かなり撹乱を受けているが，2層からなる。1層はローム粒子・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を多量含んだ暗褐色土である。両層共粘性もしまりもつよい。

遺物　竈周辺と壁際を中心に出土しているが，破片が多い。竈内から第398図1・2・4の坏と8の須恵器甑が，竈前方部から3の坏が出土している。南西コーナーから5の灯明皿に使用したと考えられる土師質土器皿が正

位の状態で出土している。

所見　完形の遺物が少ないのは，住居廃絶時に使用可能な土器類は持ち去ったものと考えられる。時期は平安時代中期(10世紀中葉)と考えられる。

第5号住居跡（第370図）

位置　調査A区の最北部のA3e$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は第6号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸（3.64）m，短軸（3.20）mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－90°－E。

壁　北壁は調査エリア外に延びているため，西壁は撹乱のため不明である。その他の壁は壁高30cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。明瞭な床面は認められずはっきりしない。

ピット　確認されていない。

竈　東壁に付設されており，壁外に90cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は右側だけが残り，砂質粘土と石で構築されている。左側袖部に使用したと考えられる石も見られる。規模は長さ122cm，幅70cmである。火床は床面を2cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。火床中央部には支脚に使用したと考えられる石が立ててある。

覆土　2層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子を中量，砂を少量含んだ黒褐色土である。1層が覆土の大部分を占めている。

遺物　床面全体から出土している。南東部床面から第398図1の坏，覆土下層から第399図9の置カマドがつぶれた状態で出土している。中央部床面から3の高台付坏と10の羽釜の鍔，覆土中層から6の土師質土器皿が出土している。南壁際覆土上層から焼けた骨片が確認されている。焼けた骨片の出土した範囲には焼土が混入しており，その層の厚さは3～5cmである。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀後葉)の住居跡と考えられる。

第7号住居跡（第370図）

位置　調査A区の最北部のA3f$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　北側は調査エリア外に延びている。北西部は第14号住居跡に，南西部は第123・124号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸（3.60）m，短軸4.40mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－7°－W。

壁　壁高40cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部は踏み固められているが，あまり硬くない。

ピット　確認されていない。

竈　調査エリアの北端に焼土が確認されている。竈の可能性もあるが，不明である。

覆土　1層からなる。ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土で，粘性も締まりもつよい。

遺物　床面全体から遺物が出土している。南東部から第399図1の坏が出土し，北西部から出土した2の須恵器坏には体部外面に「大井」の墨書が記されている。

所見　本跡は平安時代前期(9世紀後葉)と考えられる。

第23号住居跡（第371図）

位置　調査A区の北部のB3e$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　北西コーナーを第24号住居跡の竈に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E。

壁　壁高5～20cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心に広い範囲が踏み固められ，硬化している。

ピット　2か所。P$_1$・P$_2$は長径27～37cm，短径24～30cmの円形で，深さ5～6cmである。規模としては浅いピットであるが，配列から主柱穴と思われる。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に65cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無い。規模は長さ70cm，幅60cmである。火床は床面を3cm程掘り込み，熱を受けて，つよく赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。竈内から袖部構築材と考えられる石が出土している。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。径90cmの円形で，深さ38cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　覆土は薄いが，2層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子を少量含んだ褐色土である。

遺物　遺物量は全体に少ない。竈内から第399図3の高台付坏，5の甕が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)と考えられる。

第28号住居跡（第372図）

位置　調査A区の北部のB4b$_1$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸4.10m，短軸4.05mの方形である。

主軸方向　N－12°－W。

壁　壁高10～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　北壁を除く壁の壁下をほぼ全周している。上幅20～25cmで，深さ16～18cmで，U字型をしている。西壁溝内に深さ40cm程のピット状の落ち込みが見られる。

床　平坦。

ピット　2か所。P$_1$は長径63cm，短径47cmの楕円形で，深さ38cmである。規模と配置から出入り口に伴うピットと考えられる。P$_2$は径20cmの円形で，深さ10cmで，北東コーナーに位置している。性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外への掘り込みはわずかである。天井部は既に無く，袖部は右側のみ残っている。規模は長さ50cm，幅90cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けているが，あまり赤変硬化していない。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　3層からなる。1・2層は炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量含んだ

暗褐色土である。

遺物　竈前方部と北西コーナーを中心に出土している。北西コーナーから第400図７の甕がつぶれた状態で，北東コーナーから９の甕が正位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代前期（９世紀後葉）の住居跡と考えられる。

第47号住居跡（第373図）

位置　調査Ａ区の中央部のＣ3b$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　南東部は第508号土坑に，南西部は第509号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.10m，短軸4.82mの方形である。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ。

壁　壁高10～12cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　２か所。Ｐ$_1$は径201cmの円形で，深さ７cmである。Ｐ$_2$は長径52cm，短径29cmの楕円形で，深さ５cmである。配列に企画性が見られず，性格は共に不明である。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に36cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に既に無い。規模は長さ95cm，幅58cmである。火床は床面を15cm程掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　５層からなり，人為的に埋め戻した様相が見られる。

１層はローム粒子を中量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

２層はローム粒子を微量含んだ暗褐色土

３層はローム粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土

４層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

５層はローム粒子・焼土粒子を中量含んだ暗褐色土

遺物　竈前方部と北西部から出土しているが，全体的に遺物は少ない。北西部から第401図５の須恵器甕が，竈前方部からは６の布目瓦が出土している。

所見　本跡は平安時代前期（９世紀中～後葉）の住居跡と考えられる。完形の遺物が少ないのは，住居廃棄時にもち去られた可能性が考えられる。

第51号住居跡（第373図）

位置　調査Ａ区の中央部のＤ4c$_6$区を中心に確認されている。

重複関係　第51号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸［2.73］m，短軸（1.49）mの長方形と考えられる。

主軸方向　Ｎ－93°－Ｅ。

壁　壁高24cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，石組みで構築している。壁外に40cm程掘り込んでいる。天井部は14×46×10cmの板石が残っていた。袖部は左右共石を立てている。規模は長さ[55]cm，幅[50]cmと考えられる。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。火床中央部東寄りには支脚に使用したと考えられる石が立ててある。

覆土　8層からなる。1・2層は黒褐色土で，本跡の基本土層である。3層はローム粒子を多量含んだ暗褐色土で，床面に当たる。4・5・7・8層は焼土粒子・砂等を含んだ黒褐色土や暗褐色土で，竈に関わる土層である。6層はローム粒子・ローム小ブロックを含んだ暗褐色土で，貼床の掘り方の土層であろう。

遺物　竈内及び竈前方部から出土している。竈内から第401図1・2・3の高台付坏が逆位の状態で重なって，4の土師質土器皿，7の甕はそれぞれ逆位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中葉)の住居跡と考えられる。竈内から3個体の高台付坏と甕が逆位の状態に置かれた様に出土していることは，日常的使用での出土の仕方とは違い，竈を利用しての祭祀的行為が行なわれたものと考えられる。

第55号住居跡（第374図）

位置　調査A区の中央部のD3e$_3$区を中心に確認されている。

重複関係　第16・70号墳の周溝上に床面を貼って構築している。西側は第180号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［5.10］m，短軸［4.35］mの長方形である。

主軸方向　N－89°－E。

壁　東壁のみ確認。壁高10cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　やや凹凸。

ピット　確認されていない。

竈　東壁北寄りに付設されており，壁外に60cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部が残存し，砂質粘土で構築している。規模は長さ73cm，幅75cmである。火床は床面より8cm程高くなっているが，熱を受けて，つよく赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。火床中央部北東寄りに支脚使用と考えられる石が立った状態で確認されている。覆土は3層からなる。1層は焼土小ブロックを中量，焼土中ブロックを少量含んだ黒褐色土，2層は焼土小ブロックを少量含んだ暗褐色土，3層は焼土中ブロックを中量，焼土大ブロックを多量含んだ暗褐色土である。

覆土　2層からなる。4層はローム量を中量，ローム小ブロック・炭化物・焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土，5層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土である。

遺物　竈前方部と南西部床面を中心に出土している。南西部床面から第401図1・2の坏が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前～中葉)と考えられる。

第57号住居跡（第374図）

位置　調査A区の中央部のD3b$_7$区を中心に確認されている。

規模と平面形　床面のみの確認である。長軸（2.38）m，短軸（2.37）mで，方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E。

壁　不明。

壁溝　確認されていない。

床　平坦で，竈前方部を中心に硬化面がある。

ピット　1か所。P_1は長径44cm，短径32cmの楕円形で，深さ6cmで，規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　東壁中央部に付設されており，石組みで構築している。壁外に40cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は石を立てているが，その組み方が第51号住居跡の組み方とは異なり，左右に1枚ずつ板石を立て，それ以外の石は，火床を囲むように置かれている。規模は長さ60cm，幅55cmである。火床は床面を7cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道の状況は明確でないが，緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量，砂を含んだ褐色土で，天井のくずれたものと考えられる。3層はローム粒子を少量，ローム小ブロックを中量含んだ暗赤褐色土である。

覆土　覆土の遺存状況は不良で，堆積状況は不明であるが，1層確認されている。1層はローム粒子を中量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土である。

遺物　竈内・竈右袖前方部及び床面中央部から出土している。竈内からは第402図1の坏が，竈右袖前方部から3の高台付坏は正位の状態のままつぶれて出土している。中央部床面から4の高台付坏が出土している。

所見　本跡は竈の石組み状況が他の遺構と比べ特殊である。時期は平安時代中期(10世紀中葉)と考えられる。

第60号住居跡（第375図）

位置　調査A区の中央部のD3f_9区を中心に確認されている。

重複関係　第17号墳の墳丘下に位置し，第168号住居跡を掘り込んでいる。新旧関係は第168号住居跡→第17号墳→第60号住居跡の順である。

規模と平面形　長軸［2.75］m，短軸［2.43］mで，方形と推定される。

主軸方向　N－91°－E。

壁　不明。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，石組みで構築している。壁外に68cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は石と砂質粘土で構築している。規模は長さ107cm，幅70cmである。火床は床面を10cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。

1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子を多量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

壁下に2層が堆積し，その後に1層が堆積している。1層が覆土の大部分を占めている。

遺物　竈内と南東部から出土している。南東部から第402図3・4の高台付坏と5の土師質土器皿が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)と考えられる。

第70号住居跡（第375図）

位置　調査A区の中央部のD4a$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　北側は生活道路に切られている。第51号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸［3.43］m，短軸（2.88）mで，隅丸長方形と推定される。

主軸方向　N－74°－E。

壁　不明。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　2か所。P$_1$は長径68cm，短径45cmの楕円形で，深さ23cmである。床面中央部に位置しているが，性格は不明である。P$_2$は長径47cm，短径25cmの楕円形で，深さ52cmである。配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　東壁南寄りに付設されており，石組みで構築している。壁外に60cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土と石で構築している。規模は長さ70cm，幅55cmである。火床は床面と同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。火床東寄りから支脚使用と考えられる石が立った状態で確認されている。

覆土　6層からなる。すべて暗褐色土である。1層はローム粒子をを中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を少量，2層はローム粒子を微量，3層はローム粒子・砂を中量，焼土粒子・炭化物を少量，4層はローム粒子をを中量，焼土粒子・炭化物を少量，5・6層はローム粒子を中量含んでいる。

遺物　竈内・竈前方部及び南東部床面から出土している。竈内から第402図2の坏が出土している。竈前方部から1の坏と第403図6の甕が出土している。南東部壁際から4の土師質土器皿が，南東部から5の土師質土器皿が正位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第98号住居跡（第375図）

位置　調査A区の南部のE3a$_0$区を中心に確認されている。

重複関係　第2・18号墳周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸3.53m，短軸3.02mの長方形である。

主軸方向　N－95°－E。

壁　壁高9cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部にローム質の硬質面が確認されている。

ピット　1か所。P$_1$は長径32cm，短径22cmの楕円形で，深さ10cmである。竈の前方部に位置し，性格は不明である。

竈　東壁中央部(竈A)と北壁西寄り(竈B)に付設されている。竈Aは壁外に20cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無い。規模は長さ107cm，幅56cmである。火床は床面を5cm程掘り込んでいるが，熱を受けて焼けた部分があまり見られず，竈でない可能性もあるが，覆土から砂質粘土が極めて多量に確認されていることから竈と判断した。煙道は緩やかに立ち上がっている。竈Bは壁外への掘り込みは見られず，天井部・袖部共に無い。火床は床面を5cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　4層からなる。

1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子・砂を中量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子を中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・炭化物を少量含んだ黒褐色土

遺物　全体的に出土量は少ない。中央部から第403図1の高台付坏が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前葉)の住居跡と考えられる。竈の遺存状況から竈Aから竈Bに作り替えが行われたものと考えられる。

第106号住居跡（第377図）

位置　調査A区の南部のE3e$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　第20号墳周溝上に貼って床面を構築している。

規模と平面形　長軸5.50m，短軸3.70mの長方形である。

主軸方向　N－104°－E。

壁　壁高20～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　1か所。P$_1$は長径62cm，短径45cmの楕円形で，深さ5cmで，中央部に位置するが，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に54cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土と石で構築している。規模は長さ110cm，幅90cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土，2層は焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，3層は炭化粒子を少量含んだ黒褐色土である。

覆土　10層からなる。1層はローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・炭化材・炭化粒子を多量，焼土粒子を中量含んだ黒褐色土である。この1・2層が本跡の基本土層である。

遺物　北東部・中央部・南西部にかけて出土している。南西部覆土中・上層から第404図12の甑が横位でつぶれた状態で出土しているのをはじめ，土器片や，やや大きめの礫が多量に混在して出土している。このエリアからは炭化材も多量に出土している。中央部から第403図7の土師質土器皿，11の甕，14の置きカマドが出土している。北東部から6の高台付坏が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。南西部の多量に遺物が出土した範囲は東側床面とほぼ同じレベルにあり，焼失した後に土器や礫を投棄した状態を示していると考えられる。

第111号住居跡（第378図）

位置　調査A区の南部のE3h$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　南西部は第173・174号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［4.40］m，短軸［3.60］mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－127°－E。

壁　削平されているため，不明である。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　1か所。P_1は長径35cm，短径22cmの楕円形で，深さ6cmで，性格は不明である。

竈　南東コーナーに付設されており，壁外に60cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築している。規模は長さ106cm，幅100cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。同様に袖部も熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ極暗赤褐色土，2層は焼土粒子を中量，焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ極暗赤褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を多量含んだにぶい赤褐色土，4層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土である。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子・焼土小ブロックを少量，焼土粒子・砂質粘土を中量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土

4層はローム粒子を多量，ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

5層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土

5層は貼床下の土層である。

遺物　竈前方部から北東部にかけて多量に出土している。竈前方部から第404図2の坏，5の高台付坏，2・8・9・10，第405図13・16の土師質土器皿が出土している。北東部床面から出土した20の湖西産の須恵器壺と21の置カマドはつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第115号住居跡（第378図）

位置　調査A区の南部のE3h$_6$区を中心に確認されている。

重複関係　北東コーナーは第213号土坑に掘り込まれている。床面は第12号墳の周溝上に貼って構築している。

規模と平面形　長軸5.84m，短軸5.22mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－90°－E。

壁　壁高16～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　4か所。P_1～P_4は長径30～41cm，短径21～36cmの楕円形で，深さ11～15cmである。配列に企画性がなく性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に10cm程掘り込んでいる。天井部は既になく，袖部は砂質粘土と石で構築している。規模は長さ85cm，幅120cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子・ローム小ブロックを少量，砂を中量含んだ暗褐色土，2層は焼土粒子・焼土小ブロックを少量，砂を中量含んだ黒褐色土，3層は焼土粒子を中量，焼土小ブロックを少量含んだ暗赤褐色土である。

覆土　8層からなる。ローム粒子を少量から多量含んだしまりのつよい黒褐色土ある。8層はローム粒子を多量，焼土粒子・砂を中量，焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土で，竈の土層である。

遺物　竈内及び竈前方部，床面全体から出土している。中央部から第405図1の坏，4の高台付坏，6の土師質土器皿はそれぞれ逆位の状態で出土している。北西部から7の土師質土器皿は逆位の状態で出土している。南西部からは5の土師質土器皿，2の高台付坏が出土している。8の置カマドは竈内出土したものと竈前方部出土したものとで接合されている。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡である。

第118号住居跡（第379図）

位置　調査A区の南部のF4a$_2$区を中心に確認されている。

重複関係　北側は第117号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.34ｍ，短軸2.78ｍの長方形である。

主軸方向　N－98°－E。

壁　壁高20cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　壁下を全周している。上幅16～26cm，深さ6㎝で，皿状をしている。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　1か所。P$_1$は長軸84cm，短軸41cmの隅丸長方形で，深さ41cmである。性格は不明である。

竈　東壁南寄りに付設されており，壁外に52cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無い。規模は100cm，幅63cmである。火床は床面を5㎝程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層は砂質粘土を極めて多量含んだにぶい褐色土，2層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・砂を少量含んだ暗赤褐色土，3層はローム粒子を多量含んだ暗褐色土である。

覆土　3層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量，砂質粘土を中量含んだ黒褐色土である。

遺物　出土量は少ない。床面全体から出土しているが，破片がほとんどである。中央部から第406図1の高台付坏が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀代)の住居跡である。完形の遺物がほとんどないのは，住居跡廃棄時に片付けられたものと考えられる。

第128号住居跡（第379図）

位置　調査A区の南部のF4f$_7$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸（4.30）ｍ，短軸（2.00）ｍの不定形をした硬質床面のみ確認。

主軸方向　N－75°－E。

壁　不明。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　確認されていない。

竈　東壁に付設されており，壁外に40cm程掘り込んでいると考えられる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土

で構築されている。規模は長さ120cm，幅105cmである。火床は床面を3cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　7層からなる。1・3・4・6・7層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土，2・5層はローム粒子を少～中量含んだ暗褐色土である。

遺物　竈前方部及び中央部から出土している。竈前方部から第406図6の須恵器壺が出土している。中央部床面から2・3・4の高台付坏が3個重なった状態で，7の甕はつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前～中葉)の住居跡と考えられる。

第162号住居跡（第380図）

位置　調査A区の南部西側のF1f$_6$区を中心に確認されている。

重複関係　西側床面は第31号墳の周溝上に貼って構築している。

規模と平面形　長軸［3.38］m，短軸［2.75］mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－107°－E。

壁　壁高13～16cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。砂質で，中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に25cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築され，内側は熱を受けて赤変硬化している。規模は長さ45cm，幅57cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　2層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化小ブロックを少量含んだ暗褐色土である。

遺物　竈前方部及び北東コーナーから出土している。竈前方部から第407図1・2の高台付坏，第408図5の甑が出土している。北東コーナーから3・4の土師質土器皿が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第164号住居跡（第381図）

位置　調査A区の南部西側のF1f$_8$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　N－93°－E。

壁　削平されていて，不明である。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部を中心に広い範囲がよく踏み固められている。

ピット　1か所。P$_1$は長径67cm，短径57cmの楕円形で，深さ30cmである。床面中央部に位置し，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に60cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無いが，竈右側から袖部の残存とも考えられる20cm四方程の石が確認されている。規模は長さ95cm，幅66cmである。火床は床面を5cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道はゆるやかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からな

る。1層はローム粒子・焼土粒子を中量，焼土小ブロック・炭化物を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・焼土小ブロックを少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土，3層はローム粒子・焼土粒子を多量含んだにぶい赤褐色土である。

貯蔵穴　南東部に確認されている。長径87cm，短径74cmの不整楕円形で，深さ27cmで，壁は垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロックを少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土である。

覆土　覆土は薄いが2層確認している。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土

2層は焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土

遺物　遺物量は全体的に少ない。第408図1の高台付坏は竈内から出土している。

所見　遺物量が少なく明確でないが，本跡は平安時代中期(10世紀前～中葉)と考えられる。

第169号住居跡（第381図）

位置　調査A区の南部のF2j$_9$区を中心に確認されている。西側は調査エリア外に延びている。

重複関係　第20・30号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸［4.53］m，短軸（3.48）mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－101°－E。

壁　東壁のみ確認。壁高20cm程で，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　確認されていない。

竈　東壁南寄りに付設されており，壁外に120cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築され，土器片で補強されている。規模は長さ146cm，幅148cmである。火床は床面を4cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　7層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

4層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

5層はローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

6層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

7層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・焼土中ブロックを少量含んだ暗赤褐色土

遺物　竈内及び南側壁際から出土している。竈内から第408図1の高台付坏，3の土師質土器皿が出土している。南側壁際から2・5・6の土師質土器皿が出土している。

所見　床面から炭化材や焼土が出土していること，覆土から焼土粒子や炭化粒子が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は平安時代中期(10世紀中～後葉)と考えられる。

第183号住居跡（第383図）

位置　調査Ａ区の中央部のＤ3f$_5$区を中心に確認されている。

重複関係　第69号墳の周溝上に床面を貼って構築している。

規模と平面形　長軸3.00ｍ，短軸2.85ｍの方形である。

主軸方向　Ｎ－81°－Ｅ。

壁　壁高７～10cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　北東と南西壁下に確認されている。上幅16～34cm，深さ３～５cmで，皿状をしている。

床　平坦。竈前方部から床面中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　２か所。P$_1$は長軸55cm，短軸48cmの不整方形で，深さ７cmで，中央部に位置している。P$_2$は長径54cm，短径29cmの楕円形で，深さ４cmで，南西壁際に位置している。共に性格は不明である。

竈　東壁南寄りに付設されており，壁外に54cm程掘り込んでいる。天井部は既に無いが，袖部は砂質粘土と石で構築している。規模は長さ79cm，幅95cmである。火床は床面を５cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は３層からなる。１層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物。砂を少量含んだ黒褐色土，２層はローム粒子を中量，炭化物を少量含んだ暗褐色土，３層はローム粒子・炭化物を少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土である。

覆土　３層からなる。

１層はローム粒子を中量含んだ褐色土　　２層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土

３層はローム粒子を多量含んだ褐色土

１層が覆土の大部分を占めている。

遺物　竈内，北東部・南東部・南西部から出土している。竈内から第409図９・12の甕が２個体並んで逆位の状態で出土している。南東部から11の甕がつぶれた状態で出土している。南東部から10の甕と１の坏が正位の状態で出土している。北東部から２・４・５の高台付坏がそれぞれ正位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前葉)の住居跡と考えられる。

第204号住居跡（第384図）

位置　調査Ａ区の中央部のＣ3h$_6$区を中心に確認されている。

重複関係　南西部は第203号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸5.10ｍ，短軸3.90ｍの長方形である。

主軸方向　Ｎ－78°－Ｅ。

壁　壁高12～25cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　凹凸。中央部はよく踏み固められている。

ピット　確認されていない。

竈　東壁南寄りに付設されており，壁外に84cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に既に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ182cm，幅64cmである。火床は床面を３cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴　南東コーナーに確認されている。長軸102cm，短軸85cmの隅丸長方形で，深さ30cmで，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は２層からなる。１層は焼土粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土，２層はロ

－ム粒子・ローム中ブロック・炭化物を少量含んだ暗褐色土である。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子・ローム小ブロックを多量，焼土中ブロック・炭化粒子を少量含んだ褐色土

2層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量，焼土粒子・炭化物を少量含んだ褐色土

3層はローム粒子・ローム小ブロック・炭化物が少量，焼土小ブロックを中量含んだ暗褐色土

4層はローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

5層はローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物を少量含んだ黒褐色土

遺物　竈前方部と壁際から多量に出土している。北壁際から第409図3・4の坏，5・第410図8の高台付坏が出土している。北東部から9の高台付坏が出土している。貯蔵穴から10の高台付皿と11の甕が出土している。中央部から2の坏が正位の状態で出土している。南壁際から6の高台付坏が逆位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前葉)の住居跡と考えられる。

第205号住居跡（第384図）

位置　調査A区の中央部のC3i_8区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第206号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸（4.64）m，短軸（4.14）mの方形と考えられる。

主軸方向　N－87°－E。

壁　削平されていて，北壁のみ確認。壁高21cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　2か所。P_1・P_2は長径24～28cm，短径17～18cmの楕円形で，深さ9～11cmで，床面中央部に位置し，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に54cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に既に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ87cm，幅90cmである。火床は床面を5cm程掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層は焼土粒子を中量，炭化粒子を少量含んだ暗赤褐色土，2層は焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，3層は焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ極暗赤褐色土である。

覆土　1層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。

遺物　中央部から北側にかけて出土している。北東部から第410図1の高台付坏が出土している。中央部から3の高台付坏が横位の状態で出土している。東側中央部から4の甕と5の甑が出土している。

所見　炭化材が床面に貼り付く様に出土していること，覆土中から焼土粒子・炭化粒子が確認されることから焼失家屋と考えられる。時期は平安時代中期(10世紀前～中葉)と考えられる。

第210号住居跡（第385図）

位置　調査A区の中央部のC3h_4区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第211号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.33mの方形である。

主軸方向　N－93°－E。

壁　壁高10～24cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　確認されていない。

竈　東壁南寄りに付設されており，壁外に30cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に既に無い。規模は長さ78cm，幅50cmである。火床は床面を5cm掘り込み，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　4層からなる。

4層はローム粒子を少量含んだ褐色土

5層はロームを中量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

6層はローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土

7層は焼土粒子を微量含んだ褐色土

4・5層で覆土の大部分を占めている。

遺物　竈前方部を中心に出土している。中央部から第410図1の坏が正位の状態で出土している。南東壁際から5の高台付坏が出土している。竈前方部から2の坏は正位，3・4の高台付坏は逆位の状態で重なって出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前～中葉)の住居跡と考えられる。

第242号住居跡（第388図）

位置　調査A区の南部のF3i$_2$区を中心に確認されている。

重複関係　北側は第148号住居跡をわずかに掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸2.70m，短軸2.37mの長方形である。

主軸方向　N－96°－E。

壁　壁高3～9cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　確認されていない。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に43cm掘り込んでいる。天井部・袖部共に無いが，砂質粘土と意志で構築していると考えられる。規模は長さ80cm，幅50cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなる。1層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ黒褐色土，4層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土を少量含んだ黒褐色土，5層はローム粒子中量含んだ暗褐色土である。

貯蔵穴　南西コーナーに確認されている。径80cmの円形で，深さ50cmで，壁は垂直に立ち上がっている。覆土は5層からなる。1層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，4層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ極暗褐色土，5層はローム粒子・ローム小

ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ褐色土である。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

4層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ極暗褐色土

5層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

1・2層で覆土の大部分を占めている。

遺物　中央部床面と貯蔵穴内を中心に出土している。中央部床面から第412図1の坏と4の土師質土器皿がそれぞれ逆位の状態で出土している。貯蔵穴内から2の坏と打製石斧2個が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第251号住居跡（第389図）

位置　調査A区の南部のF2b_0区を中心に確認されている。

重複関係　南西部は第151号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.08m，短軸3.66mの方形である。

主軸方向　N－10°－W。

壁　壁高3～46cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝　東・南・西壁下に確認されている。上幅18～28cm，深さ4～18cmで，U字型や皿状をしている。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

ピット　5か所。P_1・P_2は長径40～44cm，短径34～36cmの楕円形で，深さ6～12cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3・P_4は長径27～40cm，短径19～35cmの楕円形で，深さ7～17cmである。性格は不明である。P_5は径30cmの円形で，深さ21cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁中央部(竈A)と東壁中央部(竈B)の2か所。竈Aは壁外に30cm程掘り込み，砂質粘土で構築している。遺存状態は良く，天井部に3孔が開けられている。規模は長さ95cm，幅117cmである。火床は床面を7cm掘り込んで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。竈Bは壁外に52cm掘り込み，砂質粘土で構築している。規模は長さ87cm，幅70cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。火床中央部に支脚転用と考えられる須恵器高坏脚部が正位の状態に置かれている。その上に土師器甕片と須恵器坏片が乗せられている。竈遺存状況から竈Bから竈Aに作り替えが行われたものと考えられるが，同時に併用していた可能性も考えられる。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂を少量含んだ褐色土

5層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

1・2層で覆土の大部分を占めている。

遺物　竈内及び竈周辺から出土している。北竈右側から第412図8の須恵器高坏脚部片が出土している。中央部

から4の須恵器高台付坏，南西部から2の須恵器高台付坏が出土している。東竈内から支脚転用の9の須恵器高坏脚部，その上に1の須恵器坏が重なって出土している。

所見　本跡は平安時代前期(8世紀末葉～9世紀初頭)の住居跡と考えられる。

第264号住居跡（第390図）

位置　調査A区の南部のF5f$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　無し。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.25mの長方形である。

主軸方向　N－93°－E。

壁　壁高6～8cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心に良く踏み固められている。西側から粘土が確認されている。

ピット　3か所。P$_1$は径45cmの円形で，深さ20cmで，P$_3$は長径104cm，短径86cmの楕円形で，深さ16cmである。共に性格は不明である。P$_2$は長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さ16cmである。底面に粘土が貼られている。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に60cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ85cm，幅60cmである。火床は床面を7cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。覆土は3層からなる。1層はローム粒子・焼土小ブロック・粘土を少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土，3層はローム粒子・炭化粒子を少量，焼土粒子・焼土小ブロックを中量含んだ暗赤褐色土である。

覆土　2層からなる。

1層はローム粒子を中量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子を多量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

遺物　竈内及び北側から出土している。竈内から第413図2の高台付坏，3・4の高台付埦，6の置カマドが出土している。北壁際中央部から7の三足鍋足部片が出土している。中央部から1の坏が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀前葉)の住居跡と考えられる。

第267号住居跡（第391図）

位置　調査A区の南部のF4g$_0$区を中心に確認されている。

重複関係　北東部は第811号土坑を掘り込み，北西部は第270号住居跡竈に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸（3.68）m，短軸（2.55）mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－83°－E。

壁　削平されていて，東壁のみ確認。壁高15cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。

ピット　2か所。P$_1$は長径60cm，短径55cmの楕円形で，深さ35cmである。P$_2$は長径78cm，短径72cmの円形で，深さ30cmである。壁は2段に立ち上がっている。共に性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に54cm掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部がわずかに残り，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ70cm，幅50cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を

受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。覆土は5層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土，3層はローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗赤褐色土，4層はローム粒子を少量含んだ褐色土，5層は炭化粒子を少量含んだ黒褐色土である。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土

5層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土

遺物　竈内及び南東部から出土している。竈内から第414図1・3の土師質土器皿，5の須恵器甕が出土している。南東部から2の土師器皿，4の甕が出土している。南壁際中央部から20～40cm程の雲母片岩の石が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中葉)の住居跡と考えられる。

第273号住居跡（第392図）

位置　調査A区の南部のF5d$_2$区を中心に確認されている。

重複関係　無し。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.10mの長方形である。

主軸方向　N－98°－E。

壁　壁高10～17cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　やや凹凸。

ピット　4か所。P$_1$～P$_4$は径36～43cmの円形で，深さ18～53cmである。配列から企画性が無く，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に70cm掘り込んでいる。天井部は既に無く，左袖部が残り，砂質粘土で構築している。規模は長さ140cm，幅90cmである。火床は床面を4cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道はゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子・粘土を少量含んだ黒褐色土

遺物　竈内，竈前方部，北東部から出土しているが，遺物量は少ない。第415図1の土師質土器皿が正位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)と考えられる。

第278A号住居跡（第393図）

位置　調査A区の南部のF5a$_1$区を中心に確認されている。

重複関係　第278B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸3.07mの方形である。

主軸方向　N－8°－E。

壁　壁高12～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　5か所。P$_1$～P$_4$は長径20～35cm，短径20～30cmの円形・楕円形で，深さ15～27cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は長径24cm，短径18cmの楕円形で，深さ13cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に25cm掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築し，甕を逆位にして補強材として使用している。火床は床面を5cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜して立ち上がっている。覆土は4層からなる。1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土，2層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土を少量含んだ暗褐色土，3層はローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量，焼土粒子を中量含んだ暗褐色土，4層は焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土である。

覆土　2層からなる。3層は第278B号住居跡の土層である。

1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ褐色土

遺物　竈内及び南西部から出土している。竈内からは多量に出土している。竈左袖部から第416図8の甕，右袖部から10の甕がそれぞれ逆位の状態で，火床から第415図3の高台付皿が正位の状態で，煙道部から7の甕，2の須恵器坏，4の高台付坏の3個体が逆位の状態で重なって出土している。南東部から1の須恵器坏が正位の状態で，南西部から5の高台付坏が正位の状態で，9の甕はつぶれた状態で出土している。北西部から6の高台付埦が正位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代前期（9世紀後葉）の住居跡と考えられる。

第281号住居跡（第394図）

位置　調査A区の南部のE5h$_3$区を中心に確認されている。

重複関係　第59号墳の周溝上に貼って床面を構築し，第286号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸4.12m，短軸3.50mの長方形である。

主軸方向　N－99°－E。

壁　壁高11～24cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　ほぼ平坦であるが，あまり硬くなく，明瞭でない。

ピット　5か所。P$_1$～P$_5$は長径26～62cm，短径22～46cmの楕円形で，深さ16～34cmである。性格は不明であるが，P$_1$は主柱穴，P$_5$は出入り口施設に伴うピットの可能性も考えられる。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に52cm掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築し，平瓦による補強が見られる。規模は長さ118cm，幅83cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて，赤変硬化している。煙道はゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土　14層からなる。

1層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

3層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・砂を少量含んだ黒褐色土

4層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子を少量，砂を多量含んだ暗褐色土

5層はローム粒子を少量，焼土粒子・炭化粒子を中量，砂を多量含んだ黒褐色土

6層はローム粒子・焼土粒子・炭化物を中量，焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土

7層はローム粒子を多量，ローム小ブロック・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

8層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

9層はローム粒子を中量を含んだ黒褐色土

10層はローム粒子を中量，焼土粒子を少量含んだ暗褐色土

11層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

12層はローム粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土

13層はローム粒子を少量含んだ明赤褐色土

14層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土

1・2層が本跡の基本土層と考えられる。3・4・5・12・13・14層は竈にかかわる土層と考えられる。

遺物　竈周辺と中央部から出土している。竈右袖内から第417図7の丸瓦，前方部から第416図3の高台付坏が出土している。南東部から2の坏が逆位の状態で出土している。中央部から4の土師質土器皿が斜位の状態で出土している。北壁際覆土上層から5の瀬戸産の陶器卸皿が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第287号住居跡（第394図）

位置　調査A区の南部のE5f$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　無し。

規模と平面形　長軸4.14m，短軸（3.20）mの長方形である。

主軸方向　N－89°－E。

壁　壁高6～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　7か所。P$_1$～P$_4$は長径21～26cm，短径19～25cmの円形で，深さ15～45cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$～P$_7$は長径21～27cm，短径18～25cmの円形で，深さ16～28cmである。それぞれ主柱穴を結んだ直線上に位置し，補助柱穴の可能性が考えられる。

竈　東壁中央部南寄りに付設されており，壁外に88cm掘り込んでいる。天井部・袖部共に無いが，砂質粘土で構築していると考えられ，雲母片岩での補強が見られる。規模は長さ112cm，幅55cmである。火床は床面を10cm程掘り込み，熱を受けて，赤辺硬化している。煙道はゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土

遺物　竈内から出土しているが，遺物量は少ない。竈内から第418図1の高台付坏，2の土師質土器皿が出土している。北東コーナーから3の鉄鏃が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第288号住居跡（第395図）

位置　調査A区の南部のE4d$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第289号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸［3.96］m，短軸3.59mの方形である。

主軸方向　N－2°－W。

壁　西壁は削平されていて不明。壁高18～30cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　南壁中央部・東壁北寄り・北壁西寄りの壁下に確認されている。上幅12～20cm，深さ4cmで，皿状をしている。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　2か所。P$_1$・P$_2$は長径24～40cm，短径20～30cmの楕円形で，深さ4～10cmである。北西壁際に位置し，性格は不明である。

竈　北壁中央部(竈A)と東壁中央部(竈B)の2か所。竈Aは壁外に50cm程掘り込み，天井部・袖部共に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ83cm，幅55cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。火床中央部には支脚に使用したと考えられる石が置かれている。竈Bは壁外に44cm掘り込み，天井部・袖部共に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ104cm，幅69cmである。火床は床面を5cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。竈Aは竈Bを壊した後に作り替えたものと考えられる。

覆土　13層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを少量含んだ褐色土

5層はローム粒子を中量含んだ暗褐色土

6層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・砂を少量含んだ暗褐色土

7層はローム粒子を中量，焼土粒子を少量含んだ褐色土

8層は焼土粒子を中量，焼土小ブロックを少量，砂を多量含んだ褐色土

9層は砂を多量含んだ褐色土

10層は焼土層

11層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子を少量含んだ褐色土

12層はローム粒子を多量含んだ褐色土

13層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

1・2・3層が本跡の基本土層である。

遺物　中央部と南壁際から出土している。中央部から第418図1の高台付埦が逆位の状態で出土している。南壁際から2・3の土師質土器皿，6の刀子が出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第299号住居跡（第395図）

位置　調査A区の南部の東端のE6f_7区を中心に確認されている。

重複関係　北側は第298号住居跡を掘り込んでいる。南東部は第300B号住居跡に掘り込まれているが，床面までは達していない。

規模と平面形　長軸3.49m，短軸3.42mの方形である。

主軸方向　N－6°－W。

壁　南壁は削平されていて不明である。壁高28～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。西壁は外反するように立ち上がっている。

壁溝　東壁と西壁下に確認されている。上幅14～30cm，深さ4～8cmで，皿状をしている。

床　平坦。中央部を中心によく踏み固められている。

ピット　1か所。P_1は長径28cm，短径24cmの楕円形で，深さ10cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に66cm掘り込んでいる。天井部は既に無いが，遺存状態は良く，袖部は砂質粘土で構築し，両袖を平瓦（第417図10）と丸瓦（第419図11）で補強している。規模は長さ128cm，幅130cmである。火床は床面を2cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　5層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ黒褐色土

4層はローム粒子・ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土

5層はローム粒子を中量含んだ褐色土

遺物　竈内，竈前方部，中央部から多量に出土している。竈内から第420図13の平瓦が出土している。竈前方部から第418図4の須恵器蓋が出土している。竈内と竈前方部からとで接合された7の須恵器高坏が出土している。中央部から9の鉄製紡錘車，12・15の平瓦の上に6の須恵器盤が逆位の状態で出土している。西壁寄り中央部から3の高台付坏が正位の状態で出土している。南西コーナーから5の須恵器盤の上に2の須恵器坏が重なって出土している。

所見　本跡は奈良時代後期(8世紀後葉)の住居跡と考えられる。

第300A号住居跡（第396図）

位置　調査A区の南部の東端のE6g_8区を中心に確認されている。

重複関係　西側は第300B号住居跡に掘り込まれているが，床面までは達していない。

規模と平面形　床面のみの確認で不明であるが，長軸（2.95）m，短軸（2.15）mの長方形と考えられる。

主軸方向　N－90°－E。

壁　削平されていて不明である。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。砂質でザラザラしている。

ピット　1か所。P_1は径18cmの円形で，深さ30cmで，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されており，壁外に80cm程掘り込んでいる。天井部がわずかに残り，袖部の遺存状態は良く，砂質粘土で構築している。規模は長さ102cm，幅90cmである。火床は床面とほぼ同じレベルで，熱を受けて赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。火床中央部には支脚に使用したと考えられる石が直立している。

覆土　2層からなる。

1層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土　　2層はローム粒子を少量含んだ暗褐色土

遺物　竈内及び竈前方部から出土している。竈内から第421図7の平瓦が出土している。北東部から第420図4の土師質土器皿が出土している。南東部から2の高台付埦，3の高台付鉢が重なって逆位の状態で出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の住居跡と考えられる。

第302号住居跡（第396図）

位置　調査A区の南部の東端のE6i$_8$区を中心に確認されている。

重複関係　西側は第301号住居跡に掘り込まれているが，床面までは達していない。

規模と平面形　長軸4.54ｍ，短軸4.40ｍの方形である。

主軸方向　N－5°－W。

壁　壁高33～53cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝　壁下を全周している。上幅12～22cm，深さ6～12cmで，U字型や皿状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心に，よく踏み固められている。

ピット　5か所。P_1～P_4は長径16～24cm，短径12～22cmの円形・楕円形で，深さ33～47cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は長径32cm，短径28cmの楕円形で，深さ14cmである。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に40cm程掘り込んでいる。天井部は既に無く，袖部は遺存状態が良く，砂質粘土で構築している。規模は長さ120cm，幅108cmである。火床は床面を3cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　4層からなる。

1層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

2層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

遺物　竈内及び南側から出土しているが，遺物量は少ない。南東コーナーから第421図4の甕，1の須恵器坏が正位の状態で出土している。南西部床面直上で3の須恵器蓋が出土している。北東壁際から2の須恵器蓋が逆位の状態で出土している。

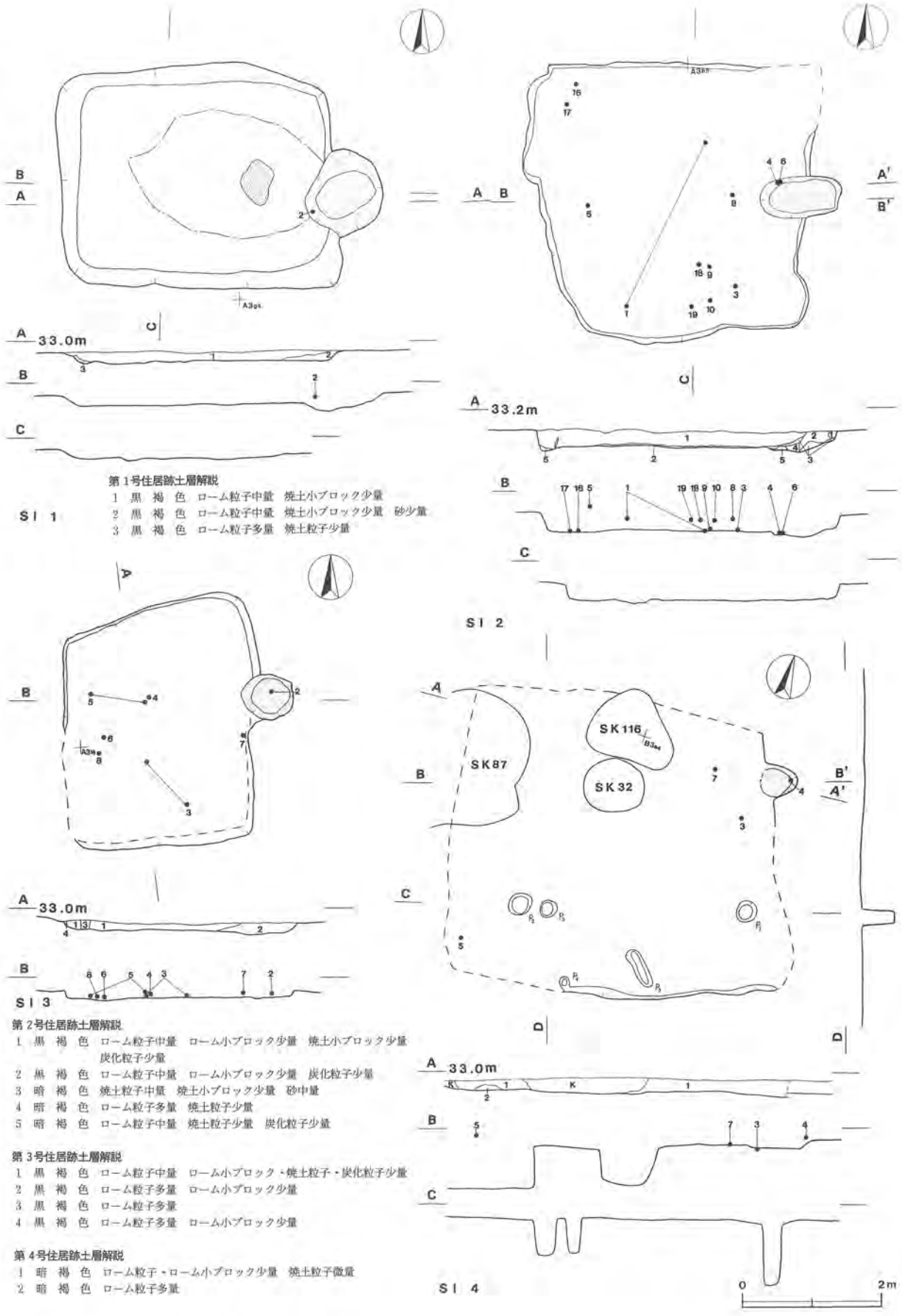
所見　本跡は奈良時代後期(8世紀後葉)の住居跡と考えられる。

表12　奈良・平安時代A地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	A3f2	N－90°－E	長方形	3.95 × 3.26	0～16	平坦						東	自然	土師器(高台付坏・甕),縄文式土器片,鉄鏃,鉄鎌	第369図
2	A3h4	N－90°－E	方形	4.04 × 3.90	17～27	平坦						東	自然	土師器(坏・高台付坏・埦・甕・高坏・台付甕),須恵器(坏・盤・高台付坏・甕),縄文式土土器片,石皿	第369図
3	A3h6	N－90°－E	長方形	2.65 × 3.51	5～14	平坦						東	自然	土師器(坏・高台付坏・鉢・皿・甕), 縄文式土器片	第369図
4	B3a3	N－66°－E	長方形	[4.71]×[4.43]	10～11	平坦		2		5	ピット	東	自然	土師器（坏・高台付坏・皿・甕・甑・器台), 縄文式土器片, 土玉	第369図
5	A3e1	N－90°－E	[長方形]	(3.64)×(3.20)	0～30	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏・皿・羽釜・器台), 須恵器（盤), 置カマド,縄文式土器片	第370図
6	B3b3	N－90°－E	長方形	3.65 ×(2.17)	0	平坦				1		東	自然	土師器（坏・高台付坏), 縄文式土器片, 砥石	第370図
7	A3f5	N－7°－W	長方形	(3.60)× 4.40	40	平坦							自然	土師器（坏・高台付坏・皿・甕・高坏・器台), 須恵器（甕・甑)	第370図
8	B2a9	N－20°－E	[方形]	[3.30]×(1.34)	7～44	平坦		1		2		北	人為	土師器（坏), 須恵器（坏), 縄文式土器片	第371図
10	A3f2	N－91°－W	[方形]	3.18 ×(1.45)	0～14	平坦							不明	土師器片	第371図
21	B2f0	N－93°－E	不明	[3.65]×(0.57)	－	平坦				1		東	不明	土師器（高台付坏)	第371図
22	B2e0	N－85°－E	[方形]	[3.00]×(1.05)	－	平坦				1		東	不明	土師器片	第371図
23	B3e1	N－90°－E	長方形	4.00 × 2.90	0～20	平坦		2	南西コーナー	2		東	自然	土師器（坏・高台付坏・皿・瓶), 縄文式土器（器台形) 砥石, 打製石斧	第371図
24	B3e1	N－32°－W	－	－	－	－						東	－	土師質土器（皿)	第371図
25	B3d1	N－0°	方形	[2.15]×[1.83]	0～5	平坦						東	不明	土師器（高台付坏)	第372図
26	B2e0	N－86°－E	不明	[3.63]× －	－	－						東	－	土師器（坏・甕), 須恵器（坏)	第372図
28	B4b1	N－12°－W	方形	4.10 × 4.05	10～25	平坦				2	ピット	北	自然	土師器（坏・甕・甑), 須恵器（皿・高台付坏・蓋), 縄文式土器片, 土製円板	第372図
32	C3f8	N－72°－E	[長方形]	[2.40]× 2.13	23～32	平坦						東	不明	土師器（高台付坏)	第372図
34	B4f6	N－0°	長方形	3.28 × 2.55	6～28	平坦				1			自然	土師器片	第372図
40	B3c0	N－82°－E	不明	(3.10)× 1.96	0～5	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏), 凹石	第372図
46	C2i0	N－14°－W	[方形]	(5.35)×(1.90)	7～10	平坦							人為	土師器片, 磨製石斧	第373図
47	C3b1	N－5°－W	方形	5.10 × 4.82	10～12	平坦				2		北	人為	土師器（坏・高台付坏・甕), 須恵器（甕), 縄文式土器片, 瓦, 土製有孔円板	第373図
51	D4c6	N－93°－E	[長方形]	[2.73]×(1.49)	24	－						東	不明	土師器（高台付坏・甕), 土師質土器（皿)	第373図
52	D3d5	N－97°－E	不明									東		土師器（高台付坏)	第373図
53	D5f4	N－92°－E	長方形	3.45 × 2.86	5～15	平坦			北西コーナー	1		東	自然	土師器（坏・高台付坏), 縄文式土器片, 瓦, 埴輪, 磨石	第374図
55	D3e3	N－89°－E	[長方形]	[5.10]×[4.35]	0～10	凹凸						東	自然	土師器（坏・高台付坏・甑), 縄文式土器片	第374図
56	D3d6	N－90°－E	[長方形]	[3.35]×[2.94]	8～10	平坦						東	自然	土師器（坏・甕), 土師質土器（皿), 縄文式土器片, 石皿, 磨石	第374図
57	D3b7	N－90°－E	不明	(2.38)×(2.37)	－	平坦				1	ピット	東	不明	土師器（坏・高台付坏)	第374図
60	D3f9	N－91°－E	方形	[2.75]×[2.43]	－	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏), 須恵器（甕)	第375図
70	D4a5	N－74°－E	[隅丸長方形]	[3.43]×(2.88)	－	平坦				2	ピット	東	自然	土師器（坏・高台付坏・瓶), 土師質土器（皿)	第375図
71	C4j8	N－1°－E	不明	[2.00]×[1.75]	5	平坦						東	自然	土師器片	第375図
92	E6c1	N－90°－E	不明	[2.18]×[2.10]	－	平坦						東	自然	土師器片	第375図
98	E3a0	N－50°－E	長方形	3.53 × 3.02	9	平坦				1		北・東	自然	土師器（高台付坏), 縄文式土器片, 瓦	第375図
99	E3b8	N－52°－E	不定形	(5.41)×(4.68)	－	やや凹凸				2			不明	土師器（高台付坏), 土師質土器（皿), 縄文式土器（深鉢・注口), 磨石, 凹石	第376図
101	E3d5	N－74°－W	長方形	[3.19]×[2.46]	－	平坦						北	自然	土師器（坏・高台付坏), 縄文式土器片, 刀子	第376図
103	D3e7	N－94°－E	長方形	5.00 ×[3.27]	10～23	－						東	自然	土師器（坏・高台付坏・甕), 須恵器（長頸瓶), 縄文式土器片, 埴輪	第376図
104	E3d1	N－87°－E	長方形	[4.93]×(3.13)	0～17	平坦		1		1		東	不明	土師器（高台付坏), 縄文式土器片, 鉄製紡錘車	第376図
105	E2b0	N－91°－E	長方形	4.00 × 3.24	11～16	平坦	全周		南寄り			東	人為	土師器（坏・高台付坏), 縄文式土器片	焼失家屋 第376図
106	E3e1	N－104°－E	長方形	5.50 × 3.70	20～25	平坦				1		東	自然	土師器（坏・高台付坏・瓶・甑), 須恵器（坏・蓋), 土師質土器（皿), 縄文式土器片, 埴輪, 土製有孔円板, 敲石, 石剣, 磨石	第377図
110	E3f5	N－91°－E	方形	[3.88]×[3.67]	－	平坦							自然	土師器（坏・高台付坏・瓶), 土師質土器（皿)	第377図
111	E3h5	N－127°－E	[長方形]	[4.40]×[3.60]	－	平坦				2		東	人為	土師器（坏・高台付坏), 土師質土器（皿・耳皿), 置カマド, 縄文式土器, 砥石, 打製石斧	第378図
113	E2f9		不明									東	不明	土師質土器（皿), 土師器片	
114	E2g9		不明	(2.50)×(2.10)								東	不明	土師質土器（皿), 土師器片	
115	E3h6	N－90°－E	長方形	5.84 × 5.22	16～48	平坦				4		東	自然	土師器（坏・高台付坏・瓶・羽釜), 土師質土器（皿), 縄文式土器片, 石剣, 打穴石錘	第378図

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					竈	掘土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
116	D3d1	N－87°－E	[長方形]	[3.03]×[2.62]	28～40	平坦						東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），須恵器（壺），縄文式土器，打製石斧	第379図
118	F4a2	N－98°－W	長方形	3.34 × 2.78	－	平坦	全周			2		東	自然	土師器（高台付坏），縄文式土器片	第379図
124	F4d9	N－80°－E	不明	(3.23)×(2.15)	－	平坦						東	自然	土師質土器（皿），置カマド，縄文式土器片	第379図
128	F4f7	N－75°－E	不明	(4.30)×(2.00)	－	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏・甕），土師質土器（皿），須恵器（甕），縄文式土器，土製紡錘車	第379図
132	F4d3	N－25°－W	[長方形]	[4.05]×[3.65]	－	平坦						南	不明	土師器（高台付坏），縄文式土器片，瓦	第379図
135	F4d1	N－5°－E	長方形	(3.98)×(3.15)	－	平坦		1	南西寄り	1		東	不明	土師器（坏・高台付坏），縄文式土器片，土製円板，打製石斧	第380図
151	F2c0	N－9°－E	方形	[3.41]× 3.18	32～40	平坦	南西	1	南コーナー	2	ピット	北	自然	土師器（坏・甕），須恵器片，灰釉陶器（長頸瓶），縄文式土器片，土製紡錘車，瓦，石鏃	第380図
155	F2b1	N－92°－E	長方形	3.72 × 2.91	16	平坦				1		東	自然	土師器（高台付坏・壺），縄文式土器片，土製紡錘車	第380図
162	F1f6	N－107°－E	長方形	[3.38]×[2.75]	13～16	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏・甑），縄文式土器片	第380図
163A	F1g6	N－66°－E	長方形	3.05 × 2.58	－	平坦						北東	不明	土師器（高台付坏・羽釜・鉢・坩・甕），縄文式土器片	第381図
164	F1f8	N－93°－E	長方形	3.80 × 3.40	－	平坦			南東	1		東	不明	土師器（高台付坏），凹石	第381図
169	F2j9	N－101°－E	長方形	[4.53]×(3.48)	20	平坦						北	自然	土師器（坏・高台付坏・甑），縄文式土器片，土製紡錘車，石棒	第381図
170	F3a2	N－96°－E	方形	(2.51)×(2.51)	－	平坦				1		東	自然	土師器（高台付坏）	第381図
171	F3a2	N－7°－E	長方形	(3.38)×(2.68)	－	平坦				1		東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片	第382図
172	E3h2	N－105°－E	方形	2.48 × 2.12	－	平坦						東	不明	土師器（高台付坏・甕），置カマド	第382図
173	E3h4	N－97°－E	[長方形]	[4.35]×[3.15]	－	平坦						東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），灰釉陶器（長頸瓶），縄文式土器片	第378図
174	E3h4	N－97°－E	長方形	3.70 × 3.55	25～50	平坦	北					東	自然	土師器（坏・高台付坏），灰釉陶器（瓶），縄文式土器片	第378図
175	E3i4	N－102°－E	不明	4.40 ×(3.70)	5～25	平坦		2		2		東	不明	土師器（高台付坏），縄文式土器片，凹石	第382図
177	D3c6	不明	不定形	(3.85)×(1.95)	－	平坦							不明	土師質土器（皿）	第382図
179	D3d3	N－2°－W	長方形	[5.75]× 4.30	22	平坦				1		北	不明	土師質土器（皿）	第382図
180	D3e2	N－93°－E	不明	(4.28)×(3.15)	10	平坦						東	不明	土師器片	第383図
182	D3d4	N－69°－E	不明	(2.85)×(2.57)	－	平坦				2			不明	土師器片	
183	D3f5	N－81°－E	長方形	3.00 × 2.85	7～10	平坦	東・南			2		東	自然	土師器（坏・高台付坏・甕），灰釉陶器（甕），磨石	第383図
184	D3f5	N－93°－E	不明	(1.95)×(1.70)	－	平坦						東	不明	土師質土器（皿）	第383図
203	C3i6	N－80°－E	[方形]	5.60 × 5.60	2～11	平坦							人為	土師器（甕），灰釉陶器片，縄文式土器片	第383図
204	C3h6	N－78°－E	長方形	5.10 × 3.90	12～25	凹凸			南東	1		東	自然	土師器（坏・高台付坏・高台付皿・甕・ミニチュア片土器），土師質土器（浅鉢），縄文式土器片，有舌尖頭器	第384図
205	C3i8	N－87°－E	[方形]	(4.64)×(4.14)	0～23	平坦				2		東	自然	土師器（坏・高台付坏・甕・甑），縄文式土器片	第384図
206	C3i8	N－96°－E	[方形]	5.40 ×(2.19)	0～16	平坦						東	自然	土師器（高台付坏・甕），縄文式土器片	第384図
208	C3g7	N－84°－E	方形	4.15 × 4.04	11～17	平坦						東	自然	土師器（高台付坏），須恵器（壺），縄文式土器片	第385図
209	C4j2	N－91°－E	長方形	4.06 ×(2.58)	28～43	平坦			南東			東	自然	土師器（坏・高台付坏）	第384図
210	C4h4	N－93°－E	方形	3.65 × 3.33	10～24	平坦						東	自然	土師器（坏・高台付坏），須恵器片，縄文式土器片	第385図
211	C4h5	N－89°－E	長方形	4.62 × 3.06	10～18	凹凸				1		東	人為	土師質土器（皿），土師器片	第385図
212	C4i3	N－79°－W	長方形	4.17 ×(3.42)	34～39	平坦							自然	土師器片，縄文式土器片	第385図
214	C4g7	N－71°－E	長方形	4.02 ×[3.17]	－	平坦				1		東	不明	土師質土器（皿），土師器片	第386図
215	C4g8	N－72°－E	長方形	[5.02]×[3.98]	－	平坦						東	人為	土師器（高台付坏），縄文式土器（ミニチュア土器）	第386図
217	C3d9	N－98°－E	[方形]	3.65 ×(1.20)	0～25	平坦				1		東	自然	土師器片，縄文式土器片	第386図
218	C3b9	N－4°－W	[方形]	[4.65]×(2.05)	0～15	平坦							自然	土師器（坏・高台付坏），縄文式土器片	第387図
219	C4c3	N－4°－W	長方形	[4.71]×[3.23]	4～20	平坦				1		東	人為	須恵器（甕），須恵器（広口瓶），縄文式土器片	第386図
221	C4c2	N－75°－E	不定形	[1.71]×[1.47]	0～9	凹凸							自然	土師器片，須恵器片	
222	C4b3	N－76°－E	長方形	[3.61]× 2.68	－	平坦						東	不明	土師器片	第387図
223	C4d8	N－77°－E	方形	3.71 ×(3.41)	2～5	平坦				2		東	不明	土師器片，縄文式土器片	第387図
229	C4h5	N－63°－E	不整方形	2.59 × 2.29	10～33	平坦						東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片	第387図
232	F2a1	N－8°－W	長方形	3.85 ×(3.36)	0～6	平坦						北	自然	土師器（高台付坏），須恵器（坏）	第388図
238	F2g6	－	－	－	－	－						北	不明	土師器片	
239	F2f9	N－5°－W	[方形]	[2.86]× 2.57	0～10	平坦				1		北	自然	土師器（坏），縄文式土器片	第388図
240	F2d8	N－3°－W	方形	3.43 ×(1.87)	5～19	平坦				1		北	自然	土師器（甕），須恵器（壺），縄文式土器片，土製品（管状土錘）	第388図
242	F3i2	N－96°－W	長方形	2.70 × 2.37	3～9	平坦			南西コーナー			東	自然	土師器（坏・高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片，打製石斧	第388図
246	F3e1	N－12°－W	長方形	[3.65]× 2.93	－	平坦						北	自然	土師器（高台付坏），縄文式土器片	第388図
250	F3c1	N－8°－E	長方形	3.03 ×(2.50)	6～20	平坦						北	自然	土師器（高台付坏）	第389図

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸）	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
251	F2b0	N－10°－W	方形	4.08 × 3.66	3～46	平坦	北西南東	2		5	ピット	北・東	自然	須恵器（坏・高台付坏・鉢・高坏・蓋・長頸瓶），土師器片，縄文式土器片	第389図
253	F2b8	N－97°－E	不明	不明	－	平坦						東	不明	土師質土器（皿）	第389図
256	F4h4	N－102°－E	長方形	3.50 × 2.83	5～10	平坦			南東・北西	4		東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片	第390図
263	F4d3	N－135°－E	不明	(4.36)×(2.20)	－	凹凸			南西			南東	不明	土師器片	第390図
264	F5f1	N－93°－E	長方形	3.90 ×3.25	6～8	平坦				3		東	自然	土師器（坏・高台付坏・高台付埦・甕・鍋），置カマド，縄文式土器片	第390図
265	F5f2	N－84°－W	長方形	4.10 ×[3.25]	4～17	平坦						北・西	自然	土師器（坏・甕），縄文式土器片，石製紡錘車	第390図
267	F4g0	N－83°－E	[長方形]	(3.68)×(2.55)	0～15	平坦				2		東	自然	土師器（甕），土師質土器（皿），須恵器（甑），縄文式土器片	第391図
269	F4h9	N－85°－E	[方形]	[3.27]× 3.25	－	平坦	西～南			1	ピット	東	自然	土師器（坏・高台付坏），縄文式土器片	第391図
270	F4g9	N－95°－E	長方形	2.84 × 2.55	－	平坦						東	自然	土師器（坏），土師器片	第391図
271	F4f9	N－0°	長方形	3.72 ×[3.50]	38～40	平坦	全周			1		北	自然	須恵器（坏・高台付坏・鉢），土師器片，縄文式土器片	第392図
272	F5e3	N－92°－E	[長方形]	3.30 ×(2.60)	20～30	やや凹凸				1			自然	土師器（高台付坏），鉄鏃	第391図
273	F5d2	N－98°－E	方形	3.35 × 3.10	10～17	やや凹凸				4		東	自然	土師質土器（皿），土師器片	第392図
274	F5d1	N－99°－E	長方形	3.69 × 3.05	0～13	平坦						東	自然	土師器（高台付坏），灰釉陶器（壺），縄文式土器片	第392図
277	F5b2	N－5°－W	長方形	3.80 × 3.12	4～7	平坦				2	ピット	北	自然	須恵器（高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片	第393図
278A	F5a1	N－8°－E	方形	3.35 × 3.07	12～28	平坦		4		5	ピット	北	自然	土師器（高台付坏・高台付埦・甕・甕・甑），須恵器（坏），縄文式土器，瓦	第393図
279A	F5a3	N－8°－E	方形	3.80 × 3.68	3～4	平坦						北	自然	土師器（高台付坏・高坏），縄文式土器片，石皿，打製石斧	第393図
281	E5h3	N－99°－E	長方形	4.12 × 3.50	11～24	平坦				5		東	自然	土師器（坏・ミニチュア土器），土師質土器（皿），陶器（卸皿），砥石，瓦	第393図
282	E5j1	－	－	－	－	－						北	－	土師器（高台付坏）	
283	E5g2	N－11°－E	方形	2.98 × 2.97	19～37	平坦				2	ピット	北	自然	土師器片，縄文式土器片，瓦	第394図
287	E5f4	N－89°－E	長方形	4.14 ×(3.20)	6～22	平坦		4		7		東	自然	土師器（高台付坏），土師質土器（皿），縄文式土器片	第394図
288	E4d4	N－2°－W	方形	[3.96]× 3.59	0～18	平坦	部分的			2		北・東	人為	土師器（坏・高台付坏），灰釉陶器（壺），凹石，磨石	第395図
299	E6f7	N－6°－W	方形	3.49 × 3.42	0～28	平坦	西・東			1	ピット	北	自然	土師器（高台付坏・高坏・甕），須恵器（坏・盤・蓋），縄文式土器片，鉄製紡錘車，瓦	第395図
300A	E6g8	N－90°－E	長方形	(2.95)×(2.15)	-	平坦				1		東	自然	土師器（坏・埦・高台付埦・甕・羽釜），土師質土器（皿），縄文式土器片，瓦	第396図
300B	E6g8	N－90°－W	[長方形]	(3.22)×(1.82)	0～9	平坦						西	自然	土師器片，瓦，凹石	第396図
301	E6g8	N－90°－E	不明	(2.68)×(2.46)	102	平坦				1		東	自然	土師器（坏・甕），土師質土器（皿），縄文式土器片	第395図
302	E6i8	N－5°－W	方形	4.54 × 4.40	33～53	平坦	全周	4		5	ピット	北	自然	土師器（甕），須恵器（坏・蓋），縄文式土器片，瓦	第396図
303	E6g0	N－9°－W	不明	[5.26]×(3.44)	25～50	平坦	北～西	2		2		北	自然	土師器（甕），須恵器（坏・盤），縄文式土器片，土製支脚，瓦，石鏃	第397図
304	E6f0	N－30°－W	長方形	3.90 × 2.62	5～18	平坦		2		2			自然	土師器（坏），縄文式土器片	第396図



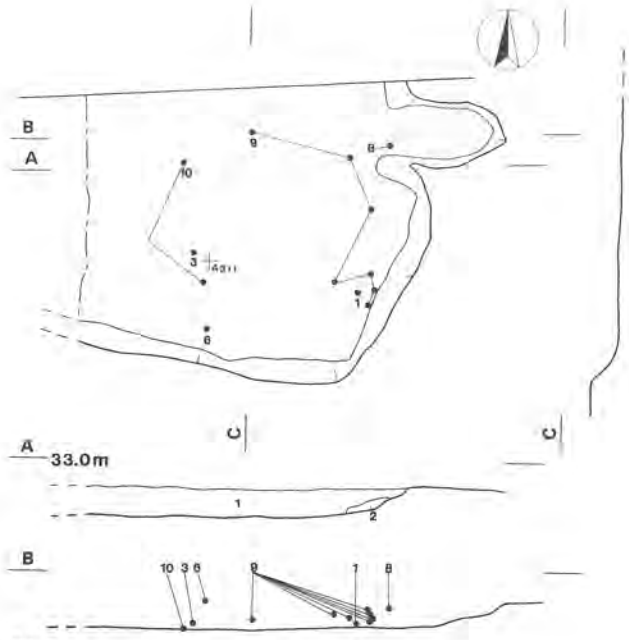
第1号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 砂少量
3 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量

第2号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 砂中量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量

第3号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子多量
4 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量

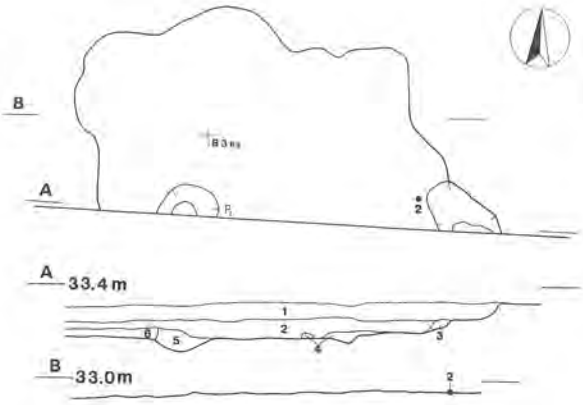
第4号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量

第369図　第1・2・3・4号住居跡



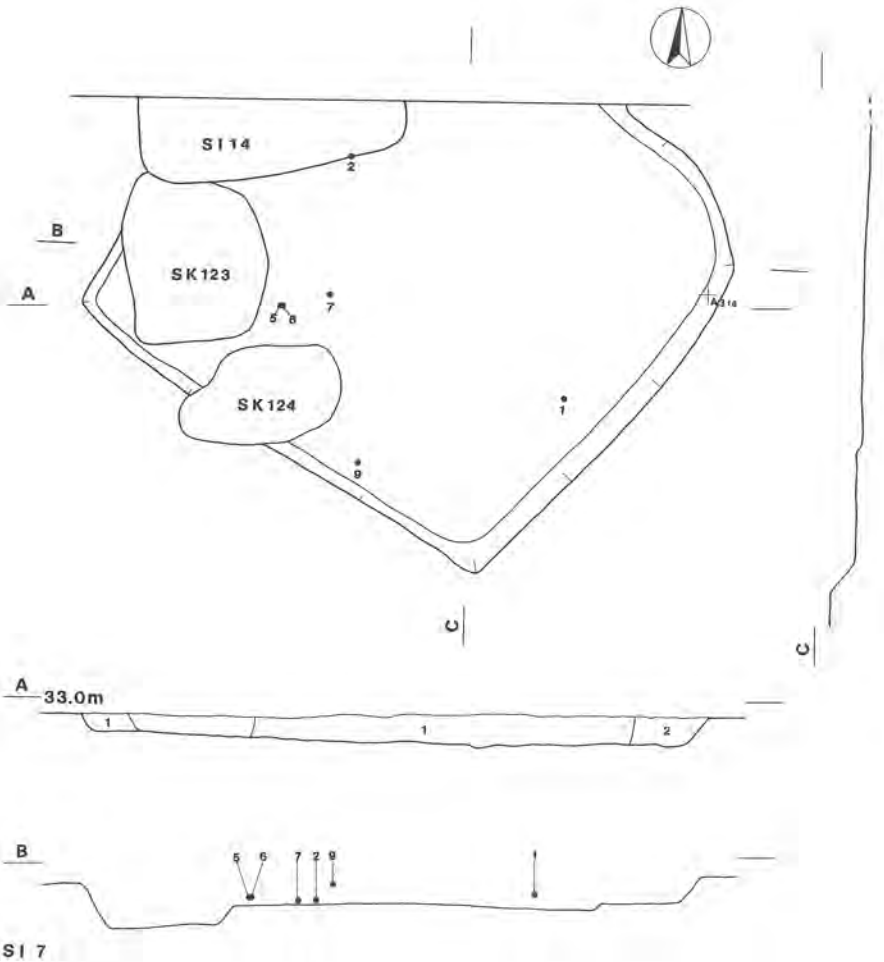
SI 5

第5号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土・炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 砂少量



SI 6

第6号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 (耕作土)
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物微量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土小ブロック微量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量
5 黒 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量

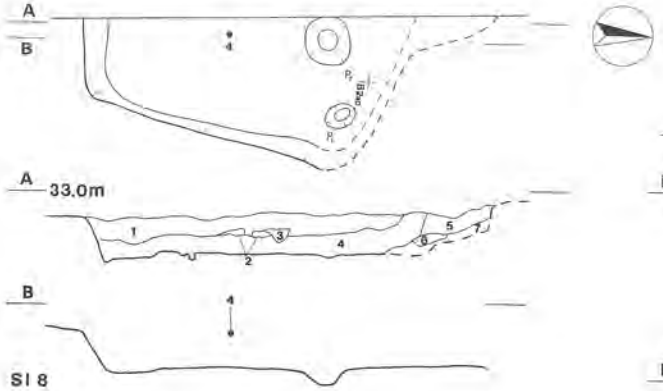


SI 7

第7－B号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量

0 2m

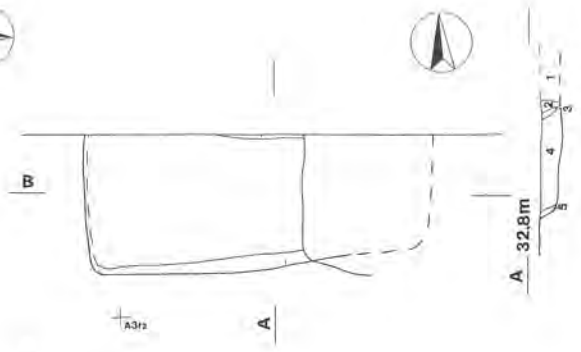
第370図 第5・6・7号住居跡



SI 8

第 8号住居跡土層解説

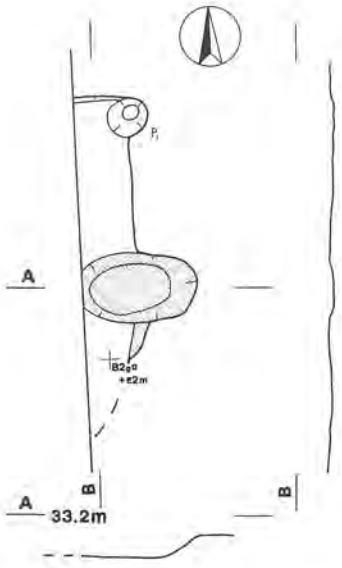
1 褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　粘性弱い
2 褐　　色　ローム粒子中量
3 褐　　色　ローム粒子少量　焼土粒子中量
4 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量　粘性弱い
5 暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　粘性弱い
6 暗赤褐色　焼土粒子・焼土小中ブロック中量　炭化粒子少量　砂微量
7 褐　　色　ローム粒子少量



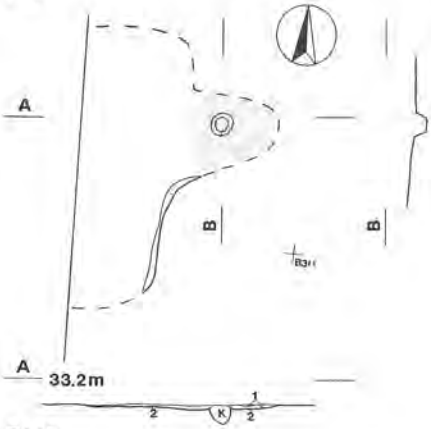
SI 10

第10号住居跡土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子微量
3 暗 褐 色　ローム粒子微量
4 黒 褐 色　ローム粒子微量
5 暗 褐 色　ローム粒子中量



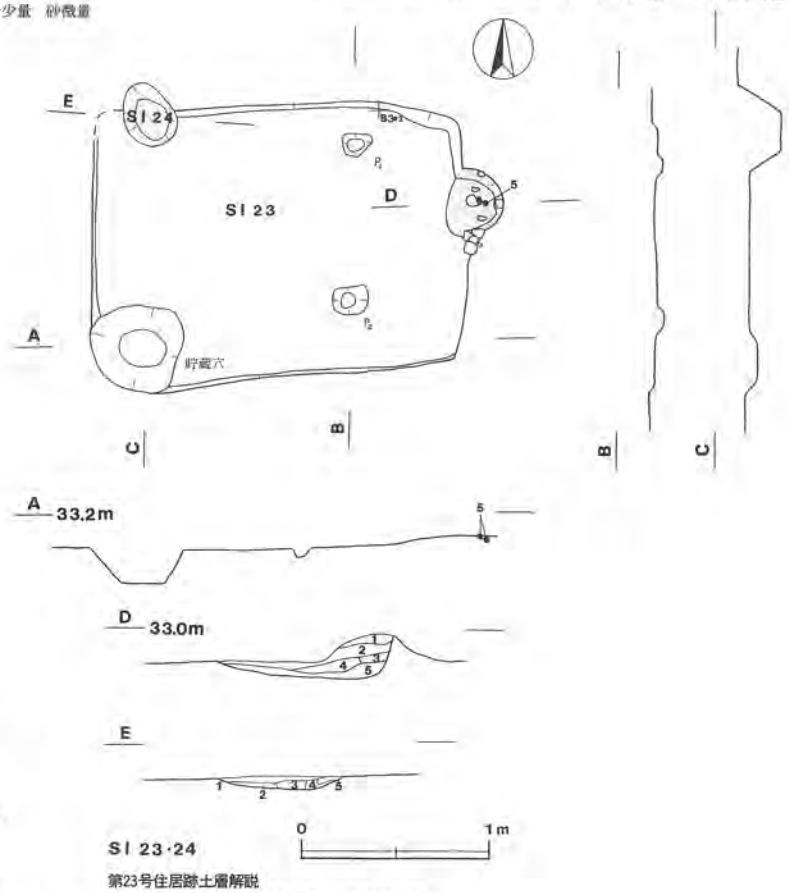
SI 21



SI 22

第22号住居跡土層解説

1 暗赤褐色　ローム粒子微量　焼土粒子多量　粘性弱い
2 褐　　色　ローム粒子中量　粘性弱い



SI 23・24

第23号住居跡土層解説

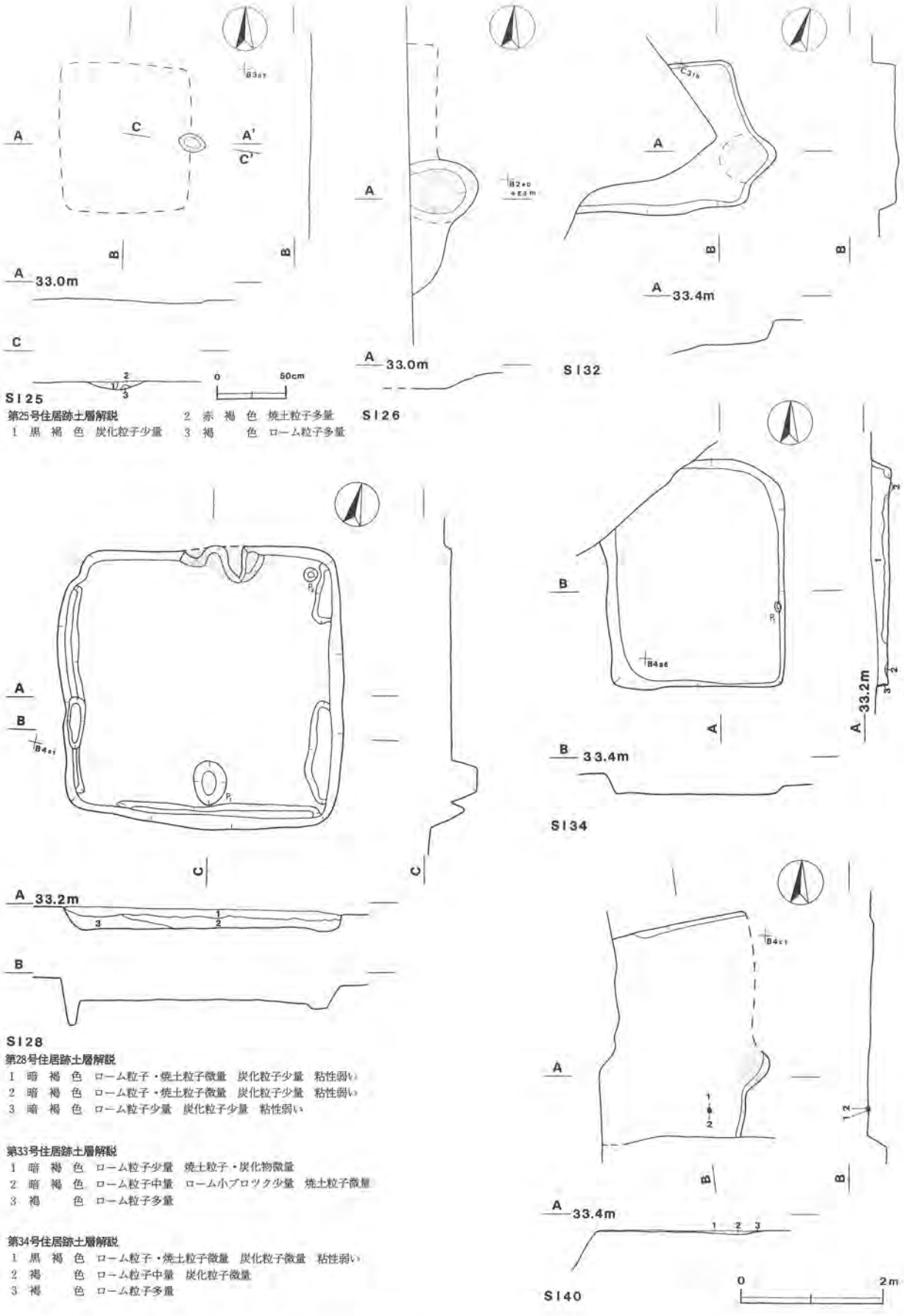
1 暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量
2 暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量
3 褐　　色　焼土粒子少量
4 暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量
5 暗赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量

第24号住居跡土層解説

1 黒 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子少量
2 褐　　色　ローム粒子中量　焼土粒子少量
3 暗赤褐色　焼土粒子多量
4 褐　　色　ローム粒子中量
5 暗 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量

0　2m

第371図　第 8・10・21・22・23・24号住居跡



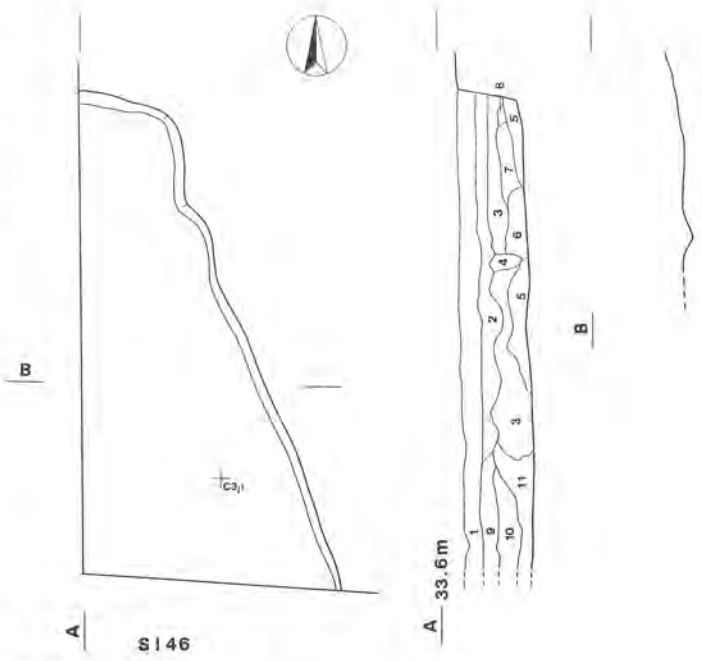
第25号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 炭化粒子少量
2 赤 褐 色 焼土粒子多量
3 褐 色 ローム粒子多量

第28号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 粘性弱い

第33号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量

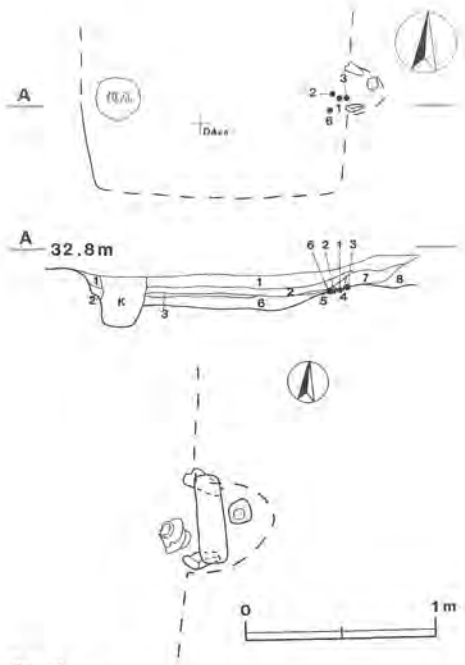
第34号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 炭化粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量

第372図 第25・26・28・32・34・40号住居跡



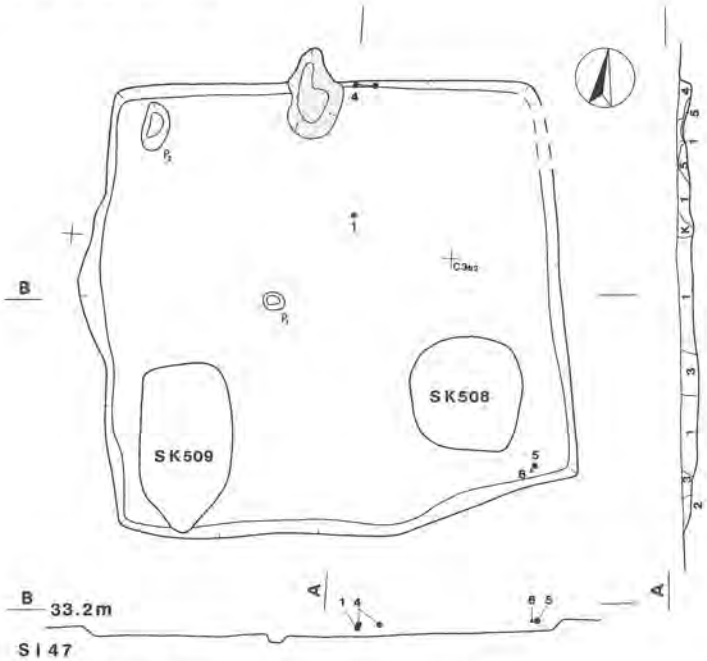
第46号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
3 黒 褐 色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 炭化物微量 粘性弱い
4 黒 褐 色 炭化粒子少量 粘性弱い
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量 炭化物微量 粘性弱い
6 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 粘性弱い
7 黒 褐 色 焼土粒子微量 炭化物・炭化粒子微量 粘性弱い
8 赤 褐 色 焼土粒子少量 焼土小・中ブロック少量 炭化粒子微量 粘性弱い
9 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
10 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
11 暗 褐 色 炭化粒子微量



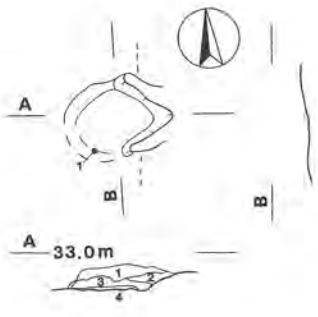
第51号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子微量 砂少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量 砂少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化物中量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 砂少量
8 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量



第47号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 焼土粒子微量 粘性・締まり弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 締まり弱い
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量

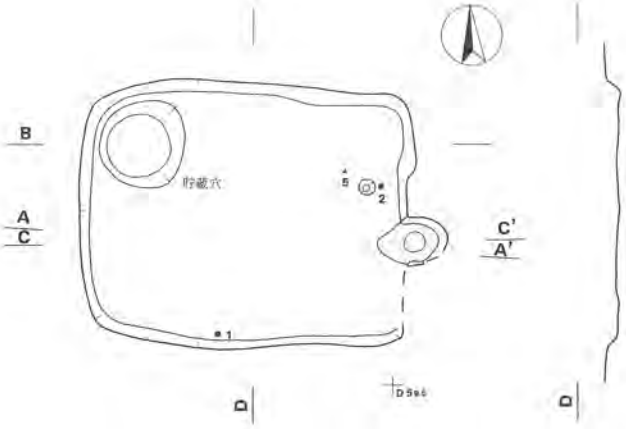


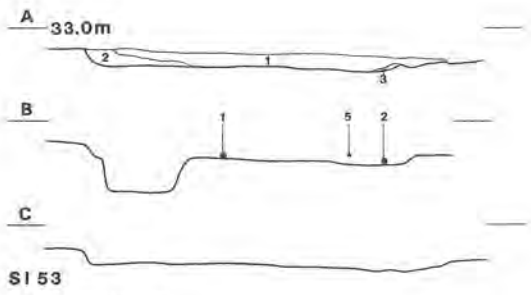
第52号住居跡竈土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 砂中量 粘性弱い
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 粘性弱い
3 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子多量 焼土小ブロック少量 粘性締まり弱い
4 暗赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 粘性締まり弱い

0 2m

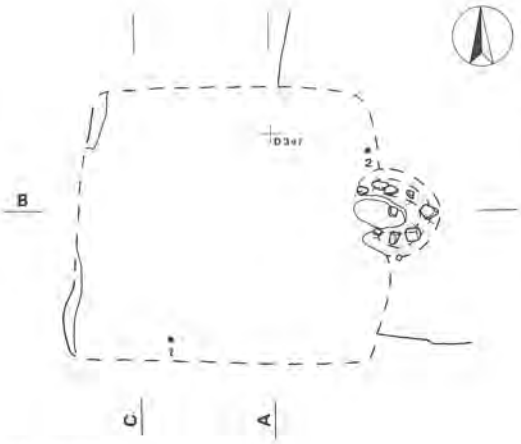
第373図　第46・47・51・52号住居跡

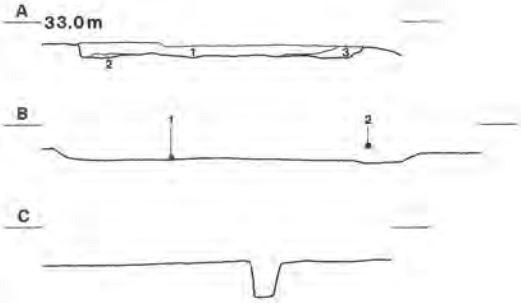




SI 53

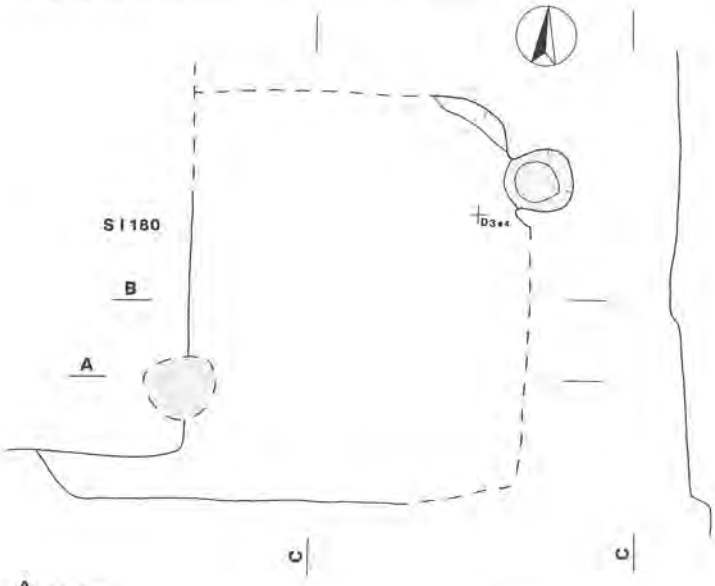
第53号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量

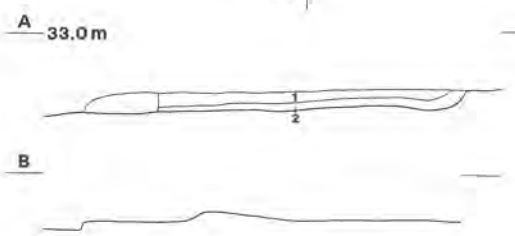




SI 56

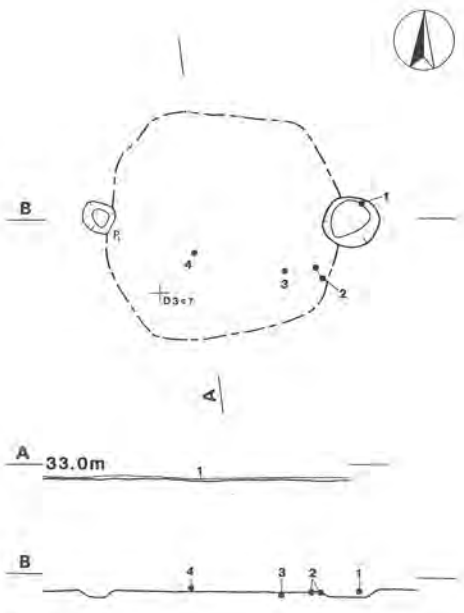
第56号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性締まり弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子多量 締まり弱い





SI 55

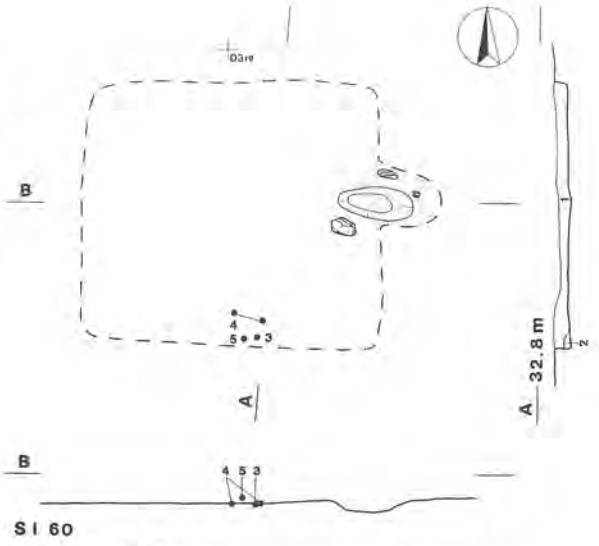
第55号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土小ブロック少量 炭化物少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量



SI 57

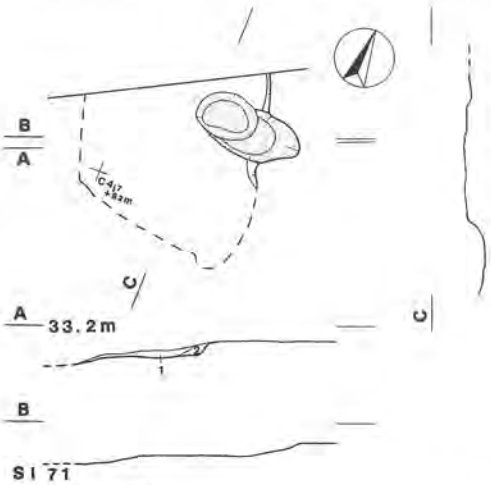
第57号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量

第374図　第53・55・56・57号住居跡



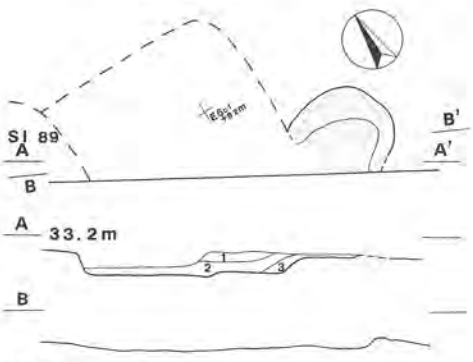
SI 60

第60号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量



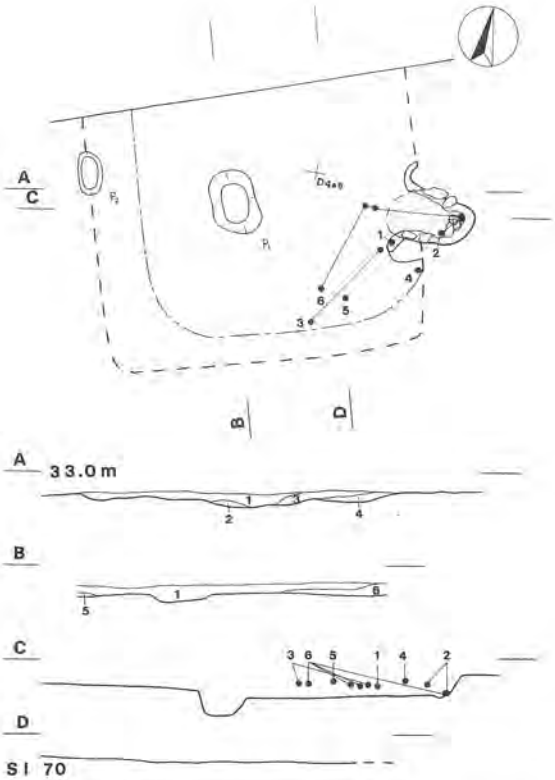
SI 71

第71号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物少量 粘性弱い



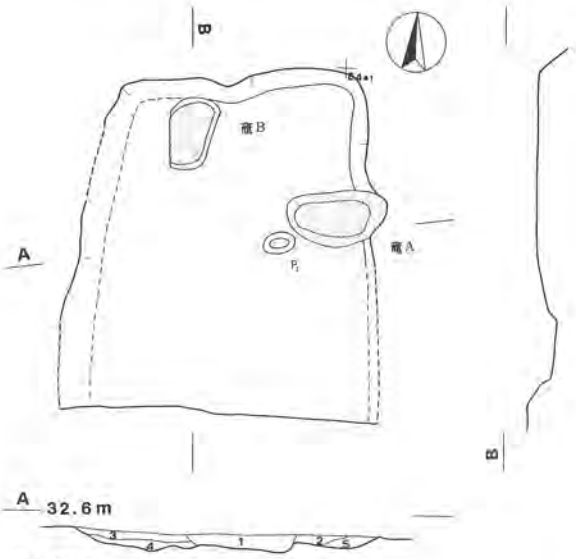
SI 92

第92号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロツク少量 焼土粒子・炭化粒子微量 砂中量



SI 70

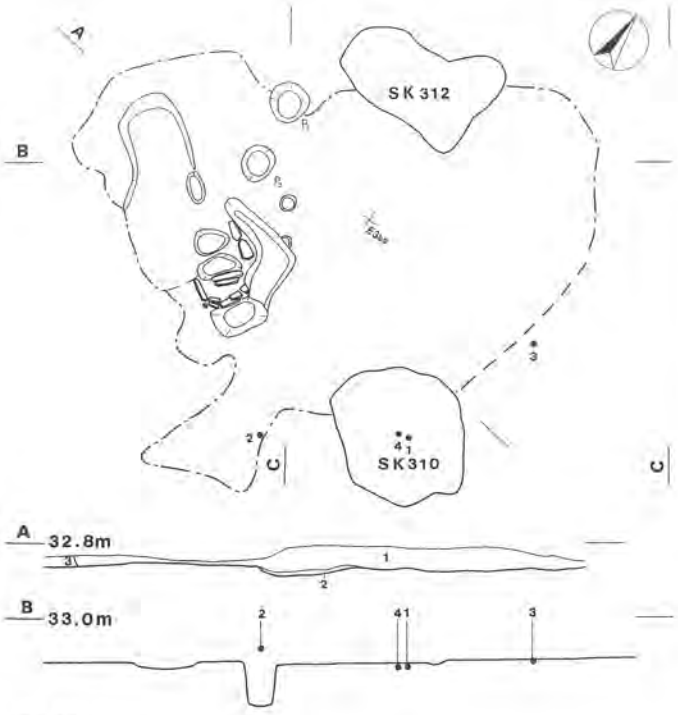
第70号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量
2 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 極めて硬く締まる
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物少量 砂中量 粘性弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量



SI 98

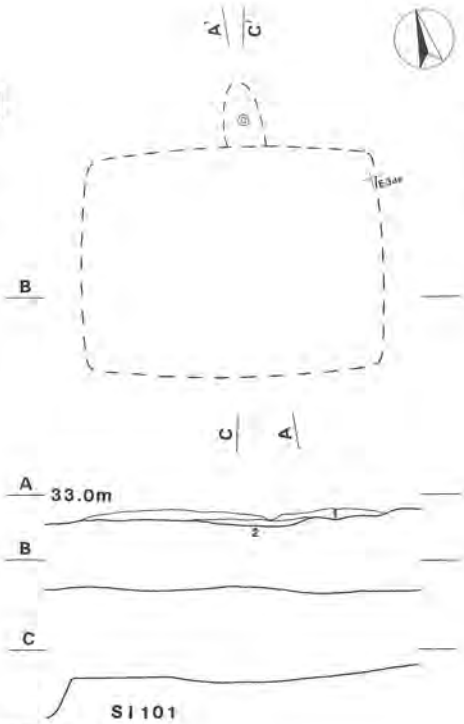
第98号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 炭化物少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土中量微量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子微量

第375図　第60・70・71・92・98号住居跡



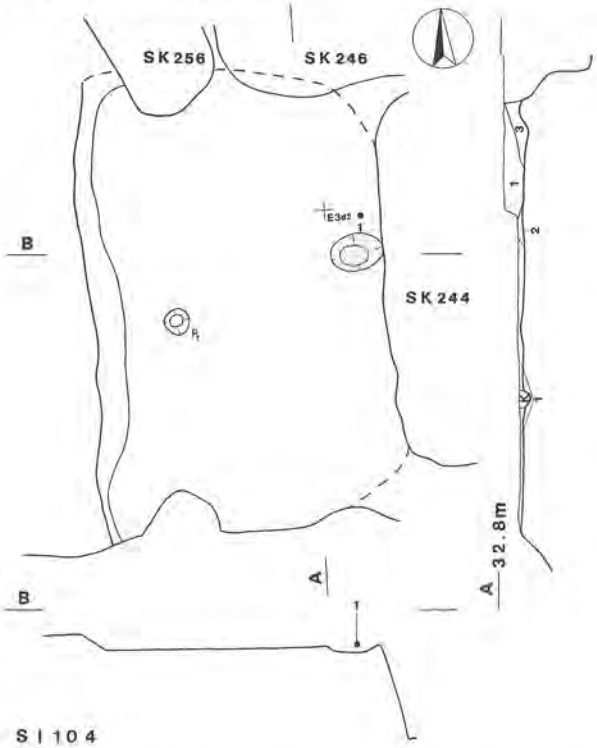
SI99

第99号住居跡土層解説
1 暗赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子多量 焼土小ブロック中量 炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子中量
3 褐 色 ローム粒子極めて多量



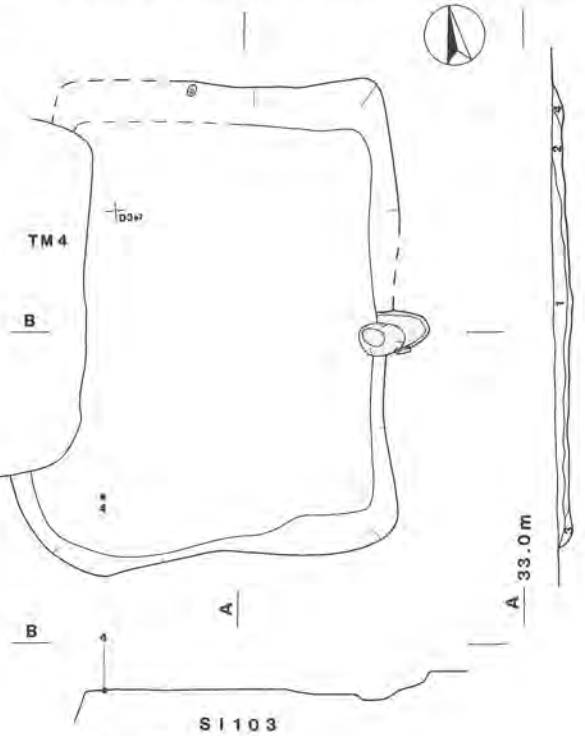
SI101

第101号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 極めて硬く締まる



SI104

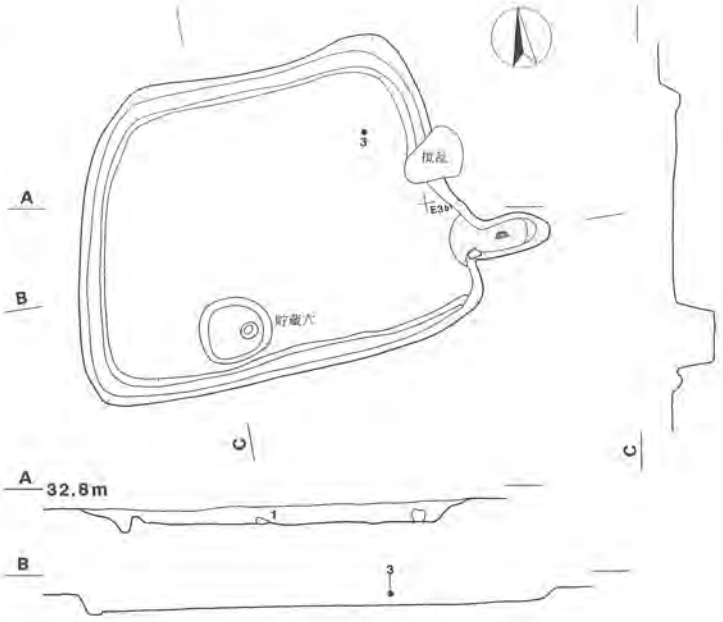
第104号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化物微量粘性弱い
2 褐 色 焼土粒子中量 砂多量 粘性弱い
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い



SI103

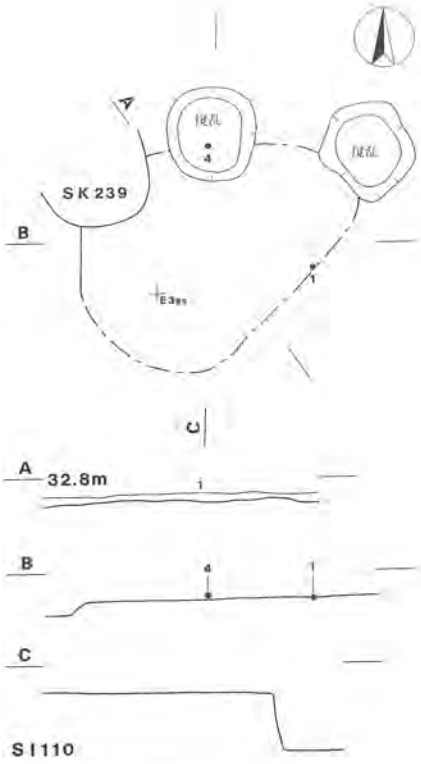
第103号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量

第376図 第99・101・103・104号住居跡



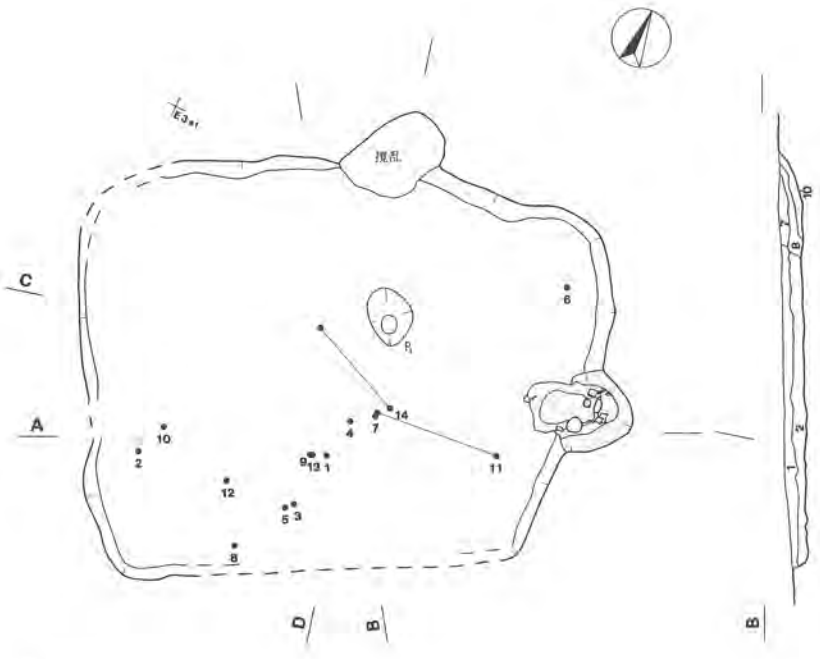
SI105

第105号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック中量
炭化物・炭化粒子中量 粘性弱い

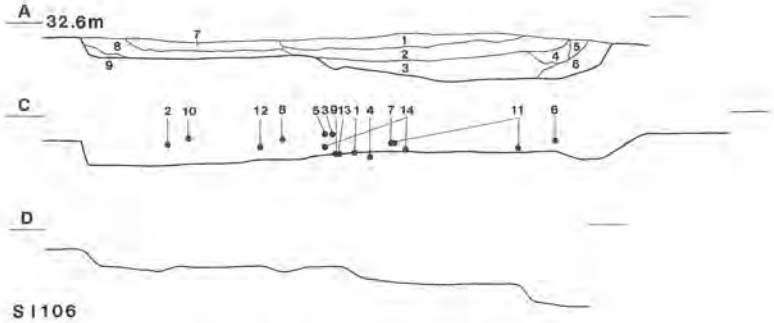


SI110

第110号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量
粘性弱い

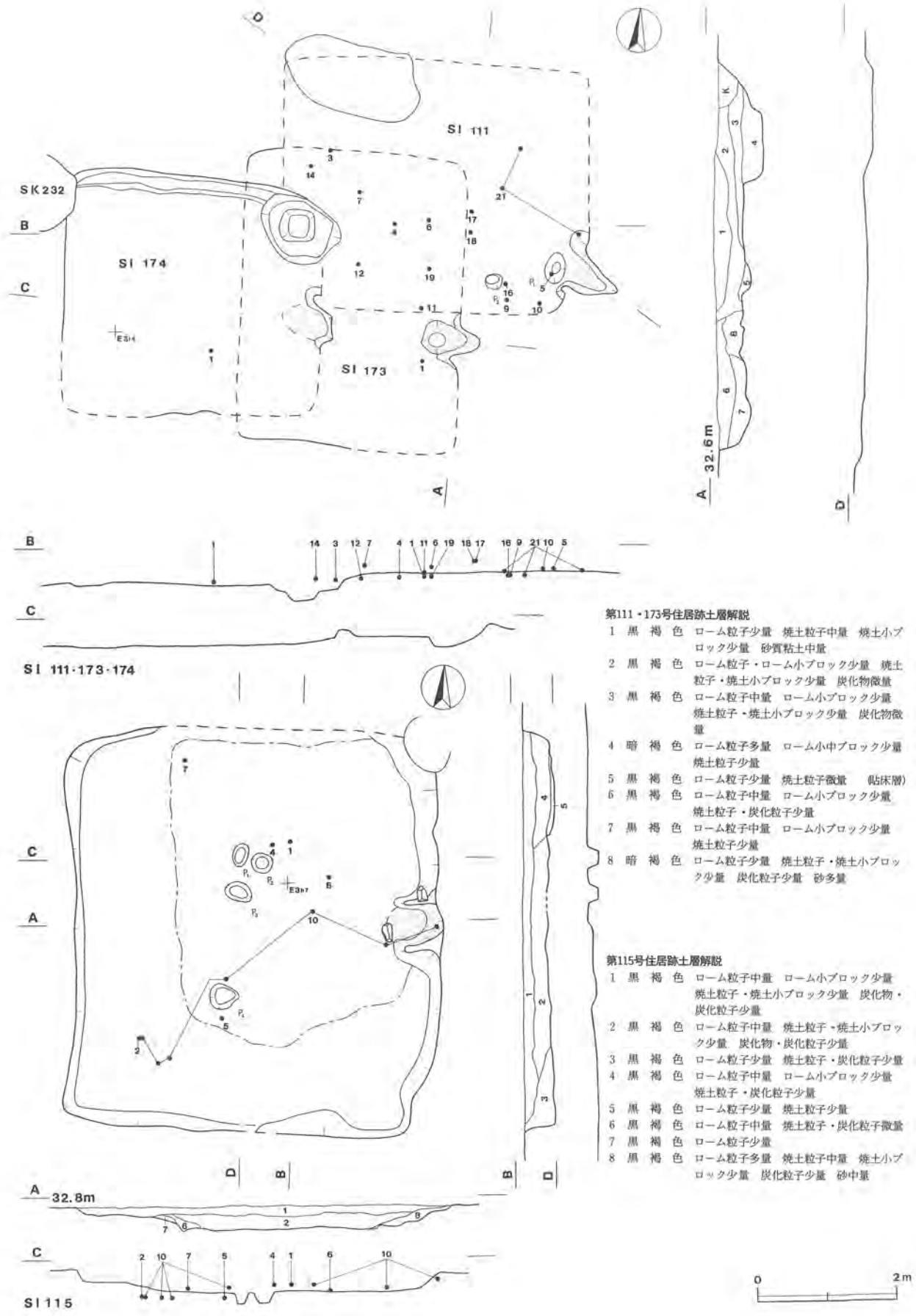


第106号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子中量 炭化材・炭化粒子多量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子多量
5 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い
7 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 粘性弱い
8 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量
10 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量



SI106

第377図　第105・106・110号住居跡



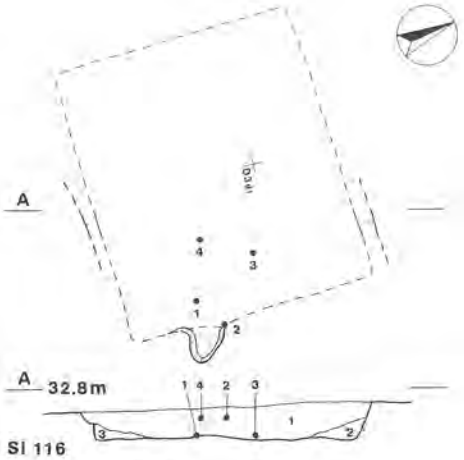
第111・173号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 砂質粘土中量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物微量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物微量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小中ブロック少量 焼土粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 (貼床層)
6 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 砂多量

第115号住居跡土層解説

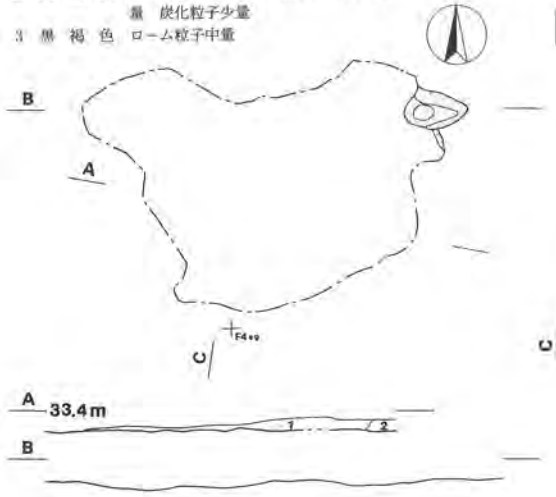
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
6 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量
8 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 砂中量

第378図　第111・115・173・174号住居跡



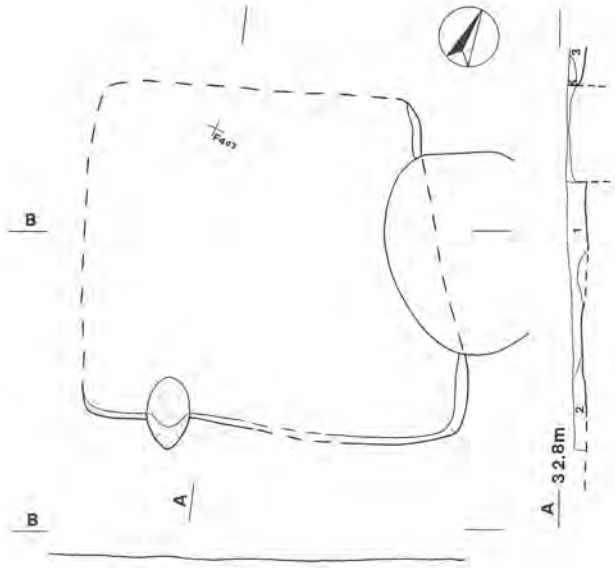
SI 116

第116号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量

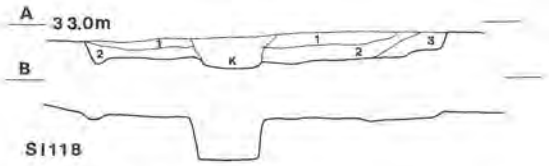


SI 124

第124号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 極めて硬く締まる
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量

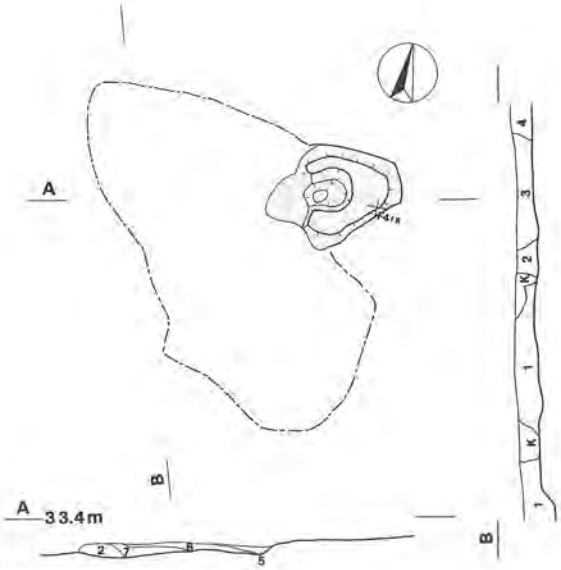


SI 132



SI 118

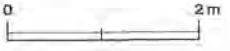
第118号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物微量 砂質粘土中量



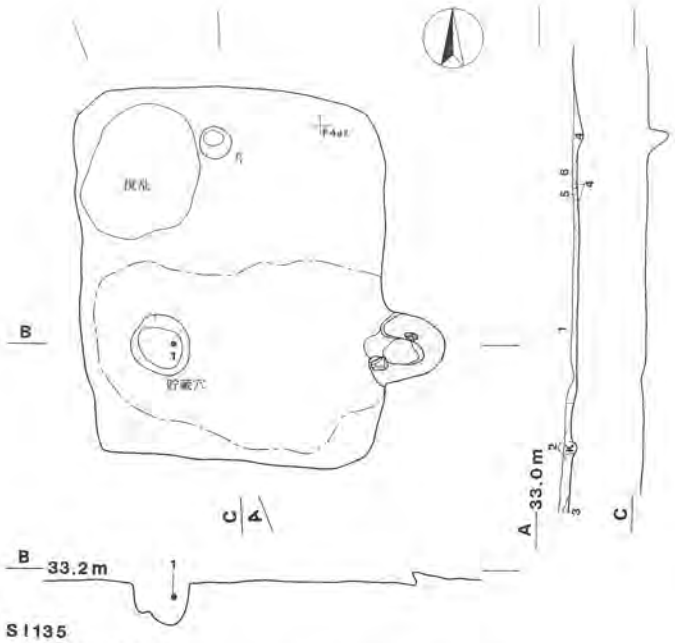
SI 128

第128号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 砂中量 粘性弱い
6 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量

第132号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量 砂少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量



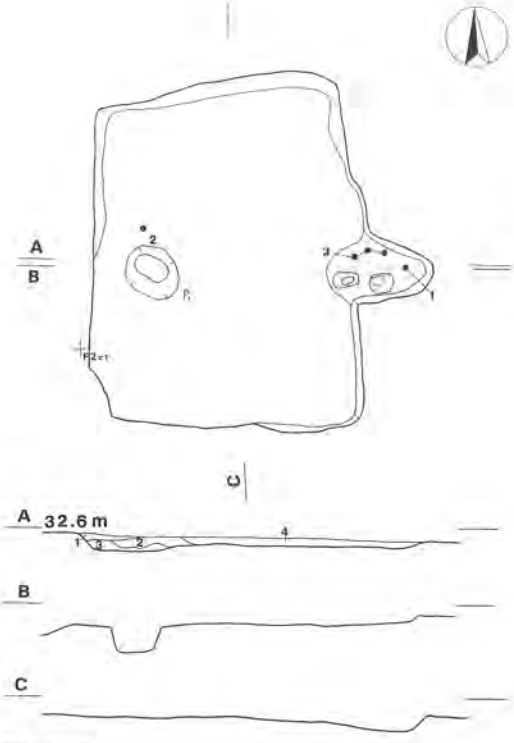
第379図　第116・118・124・128・132号住居跡



SI135

第135号住居跡土層解説

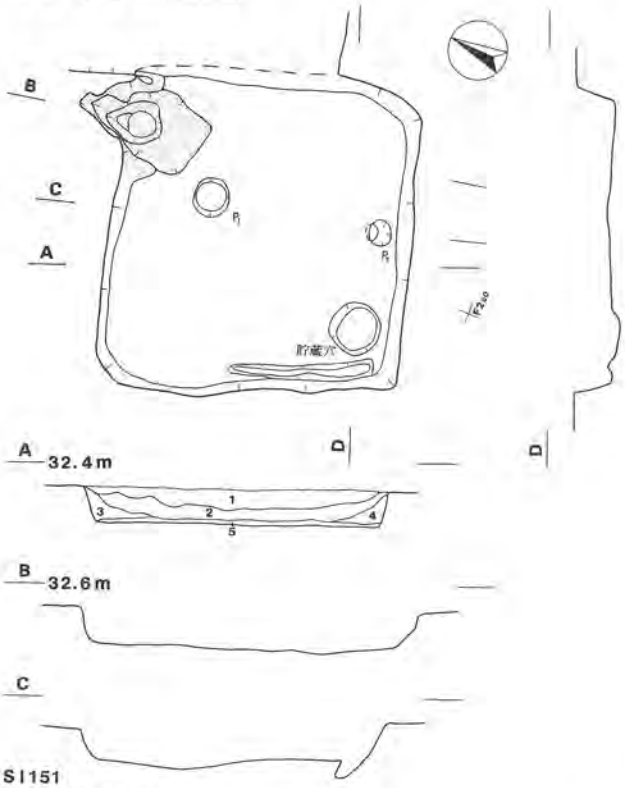
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子微量 粘性弱い
3 褐 色 ローム粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 褐 色 ローム粒子多量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量



SI155

第155号住居跡土層解説

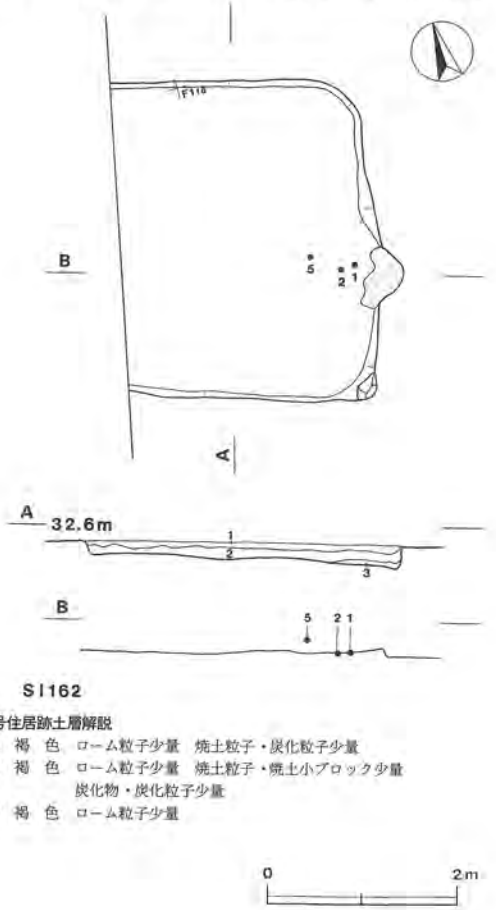
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・多量少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量



SI151

第151号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量

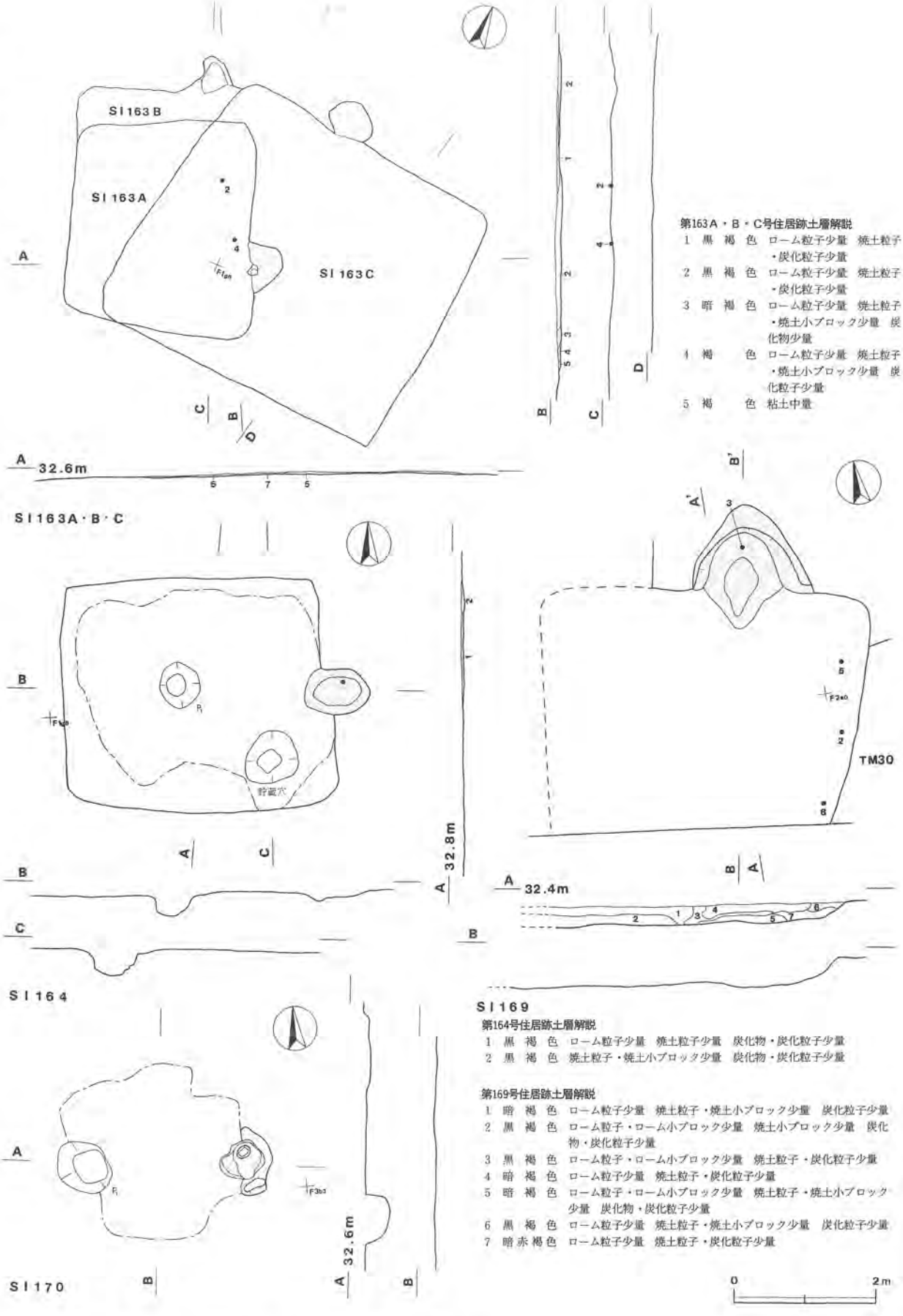


SI162

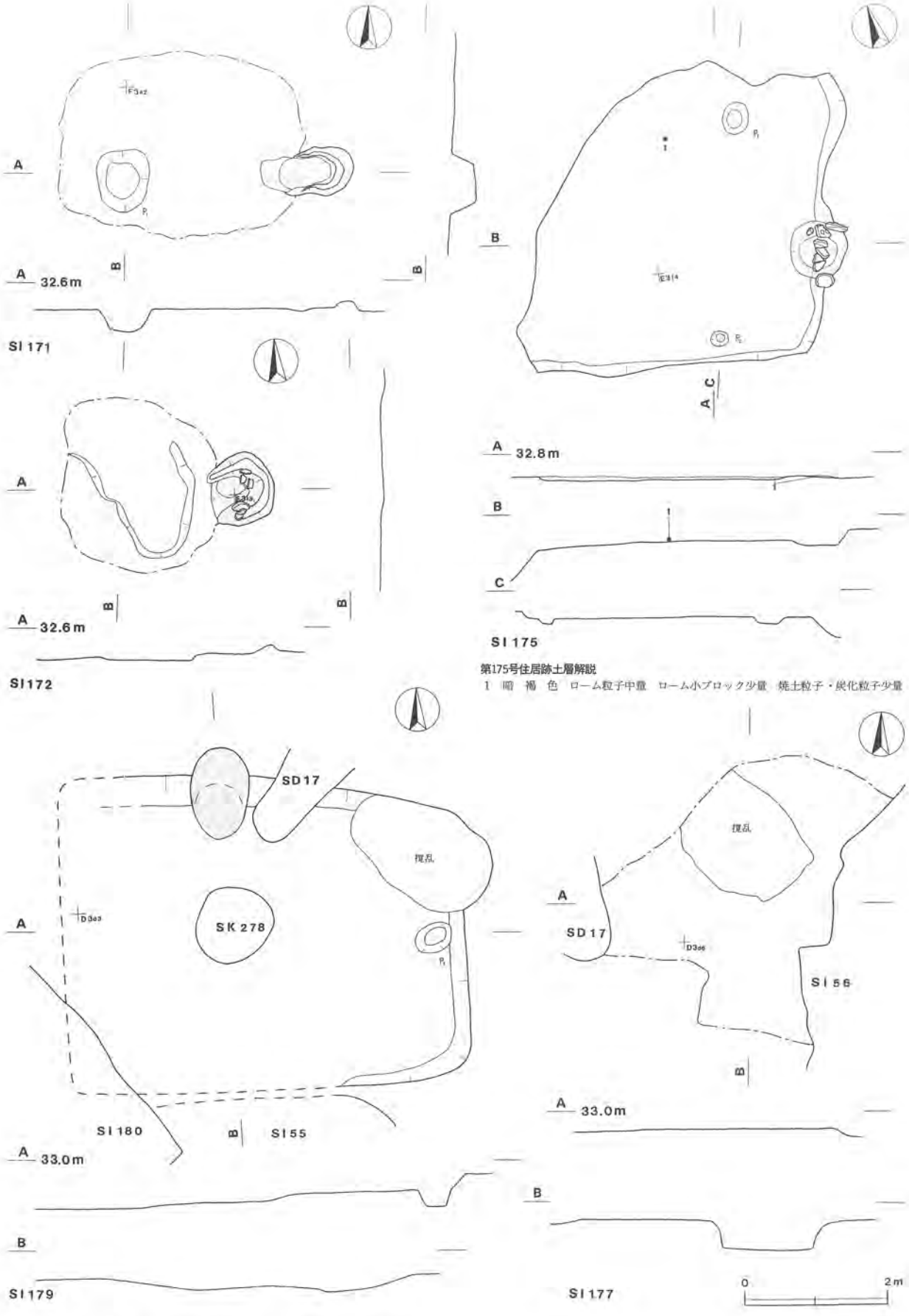
第162号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量
炭化物・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量

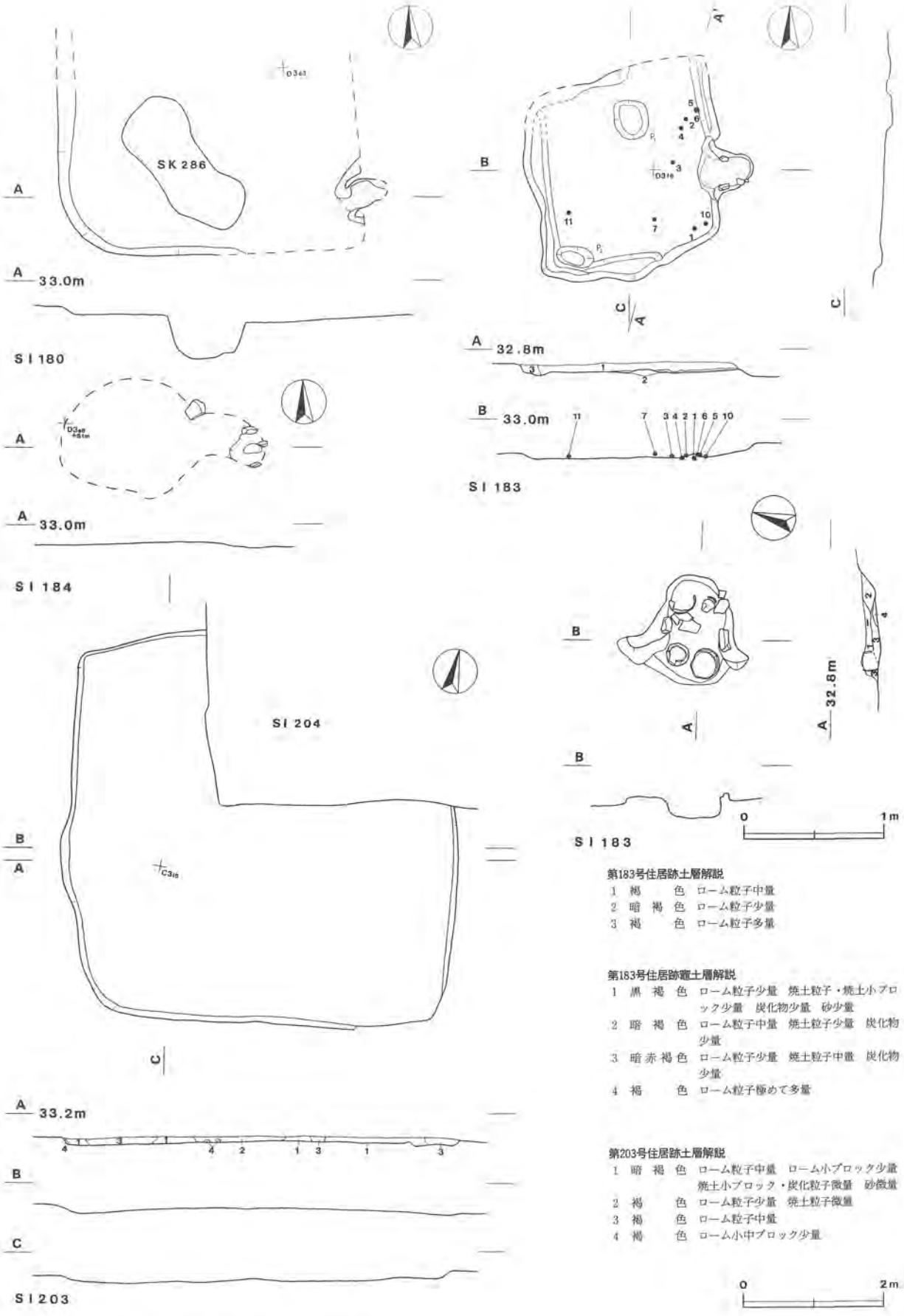
第380図　第135・151・155・162号住居跡



第381図　第163A・B・C・164・169・170号住居跡



第382図　第171・172・175・177・179号住居跡



第183号住居跡土層解説

1 褐　　色　ローム粒子中量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量
3 褐　　色　ローム粒子多量

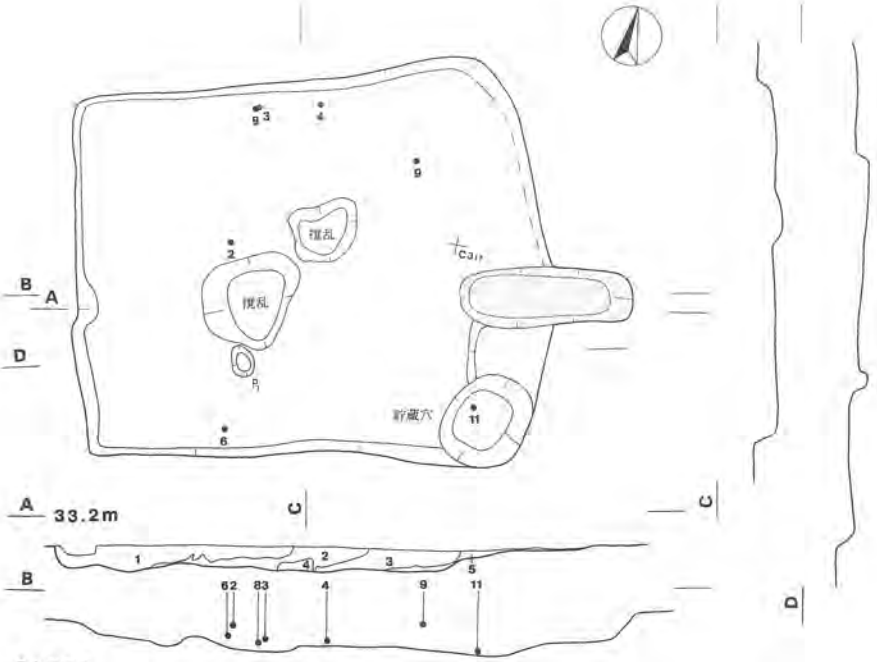
第183号住居跡竈土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子・焼土小ブロック少量　炭化物少量　砂少量
2 暗 褐 色　ローム粒子中量　焼土粒子少量　炭化物少量
3 暗赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化物少量
4 褐　　色　ローム粒子極めて多量

第203号住居跡土層解説

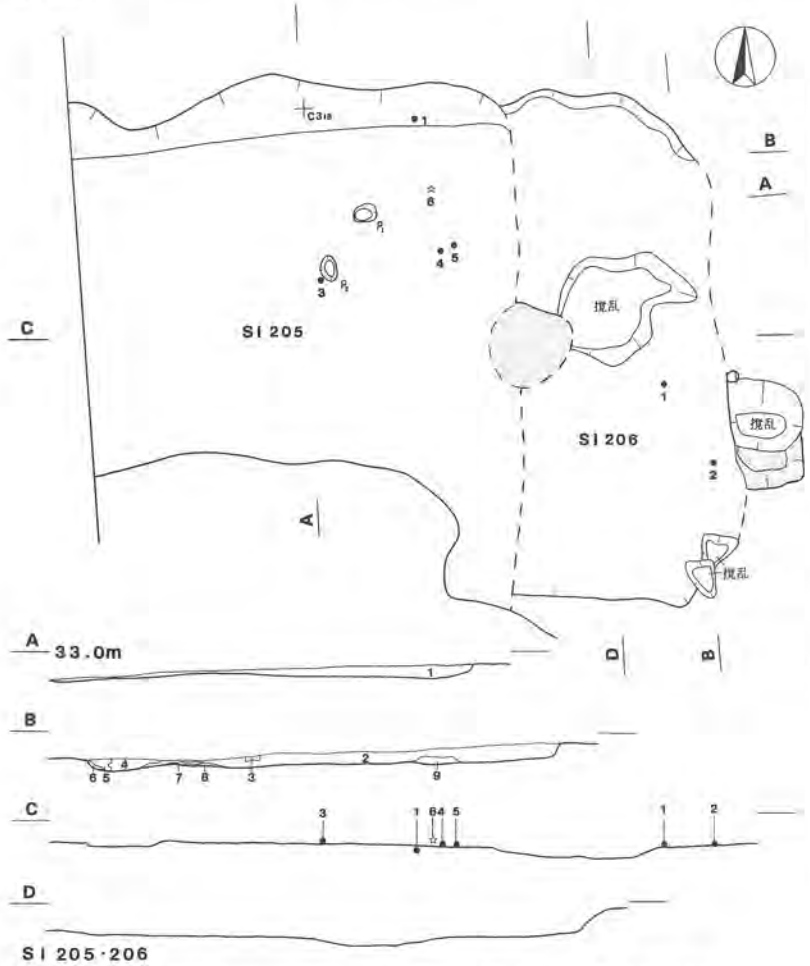
1 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量　焼土小ブロック・炭化粒子微量　砂微量
2 褐　　色　ローム粒子少量　焼土粒子微量
3 褐　　色　ローム粒子中量
4 褐　　色　ローム小中ブロック少量

第383図　第180・183・184・203号住居跡



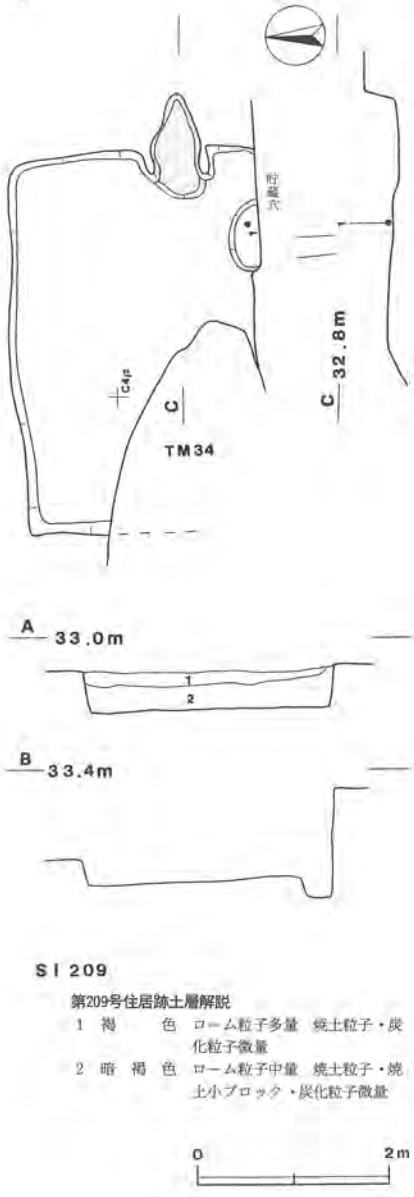
第204号住居跡土層解説

1	褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック多量 焼土ブロック・炭化粒子少量
2	褐	色	ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化物少量
3	暗褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子中量 炭化物少量
4	暗褐	色	ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
5	黒褐	色	ローム小中ブロック少量 焼土粒子・炭化物少量



第205・206号住居跡土層解説

1	暗褐	色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	暗褐	色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3	褐	色	焼土粒子微量 粘土粒子中量
4	暗褐	色	焼土小ブロック少量 炭化物微量
5	褐	色	ローム粒子中量 炭化粒子微量
6	暗褐	色	炭化物少量 炭化粒子微量
7	暗褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量 粘土粒子中量
8	黒褐	色	炭化粒子微量
9	暗褐	色	ローム粒子中量 炭化粒子少量

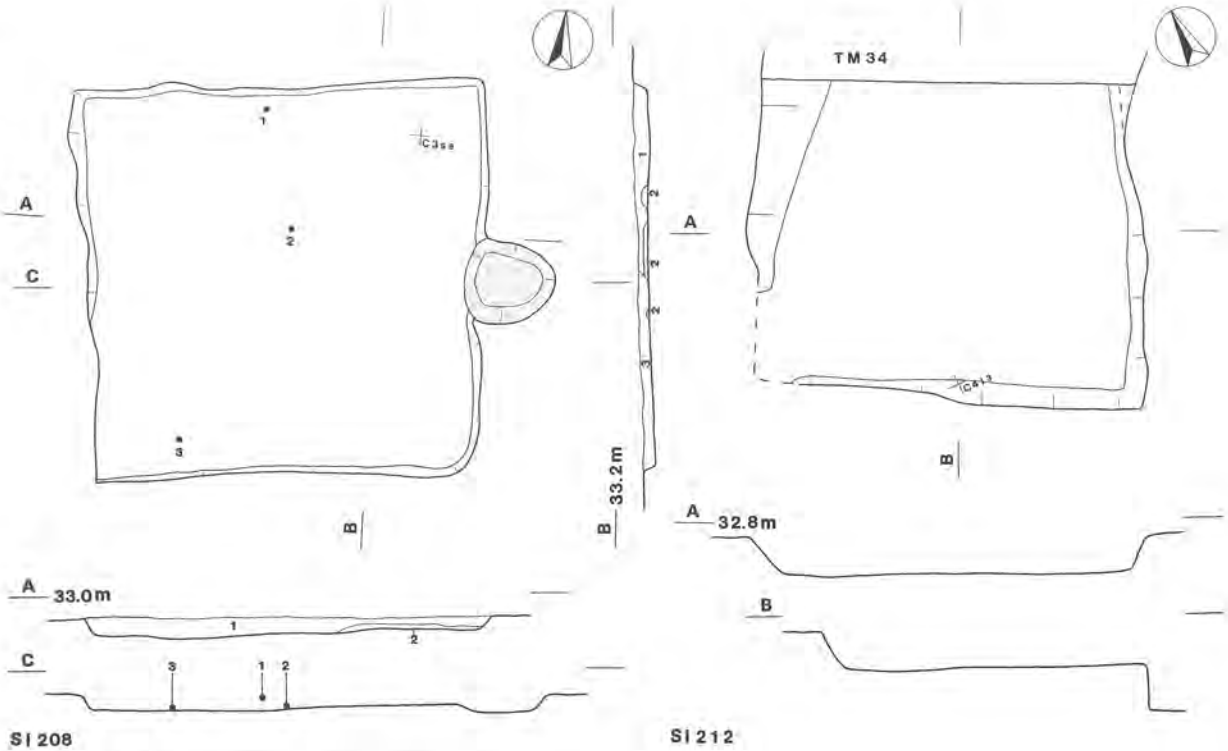


第209号住居跡土層解説

1	褐	色	ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐	色	ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

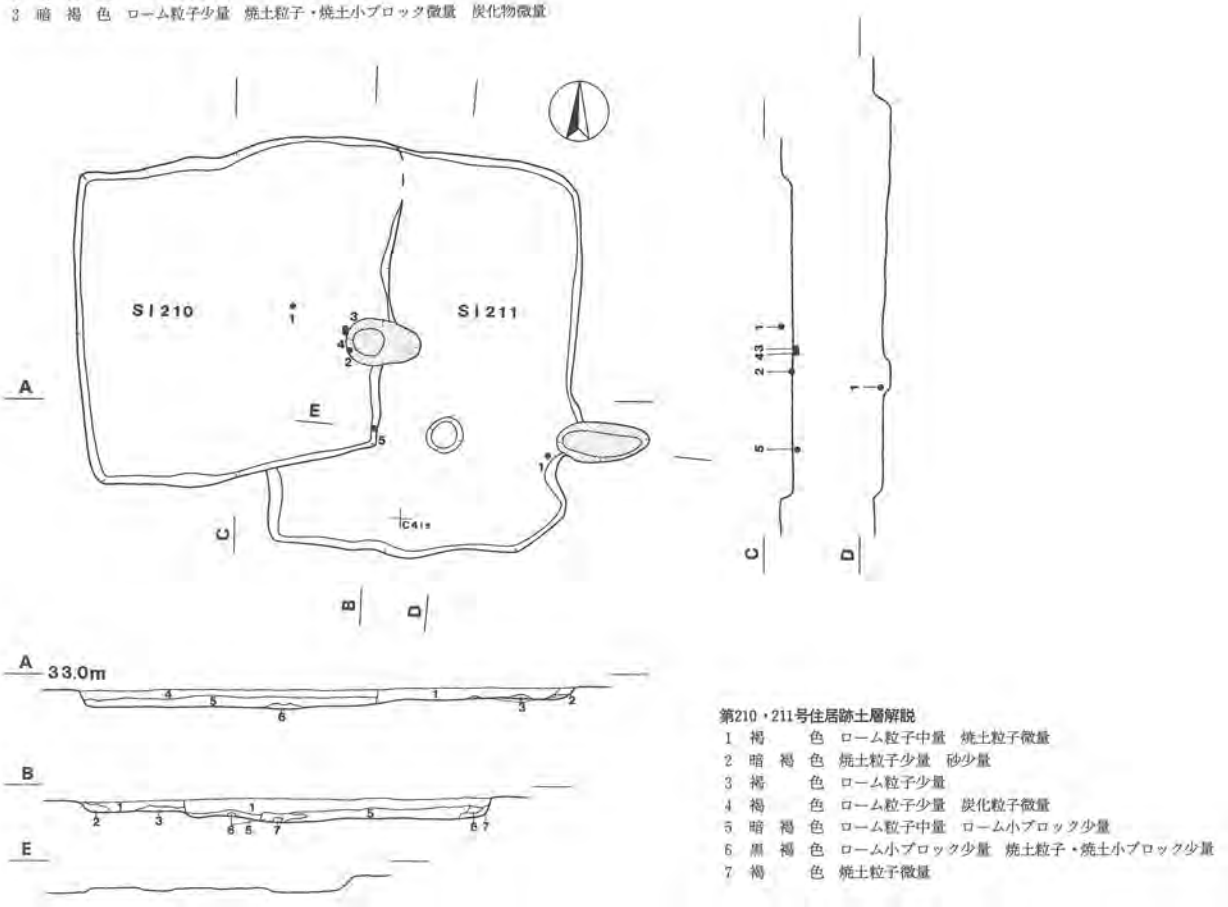
0 2m

第384図　第204・205・206・209号住居跡



第208号住居跡土層解説

1 褐　　色　ローム粒子少量　焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量　粘土ブロック微量
3 暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子・焼土小ブロック微量　炭化物微量

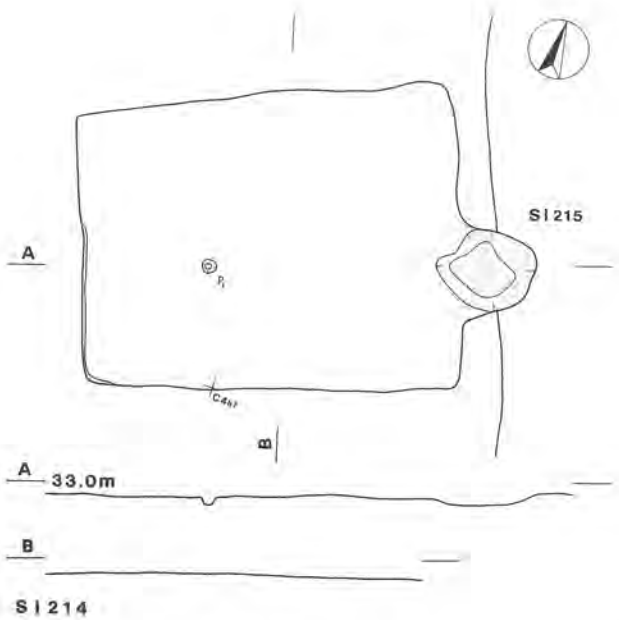


第210・211号住居跡土層解説

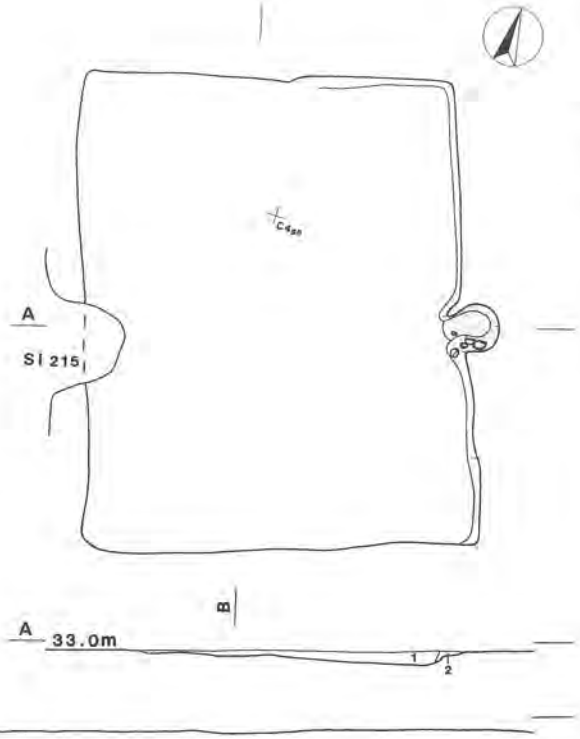
1 褐　　色　ローム粒子中量　焼土粒子微量
2 暗 褐 色　焼土粒子少量　砂少量
3 褐　　色　ローム粒子少量
4 褐　　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量
5 暗 褐 色　ローム粒子中量　ローム小ブロック少量
6 黒 褐 色　ローム小ブロック少量　焼土粒子・焼土小ブロック少量
7 褐　　色　焼土粒子微量

0　2m

第385図　第208・210・211・212号住居跡



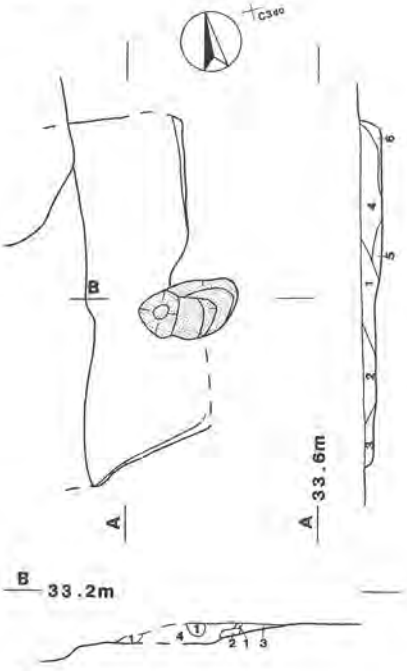
SI214



SI 215

第215号住居跡土層解説

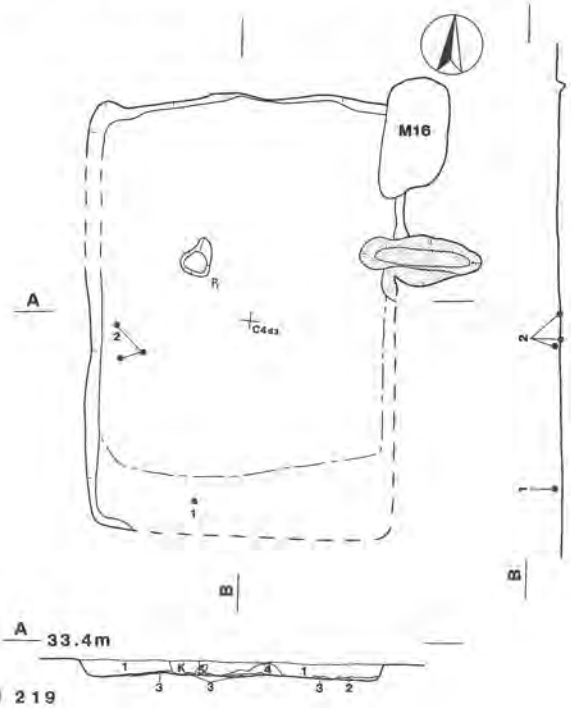
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック微量 炭化粒子中量



SI 217

第217号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量 山砂中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム小ブロック微量
5 暗 褐 色 ローム小ブロック中量
6 暗 褐 色 ローム小ブロック微量



SI 219

第217号住居跡カマド土層解説

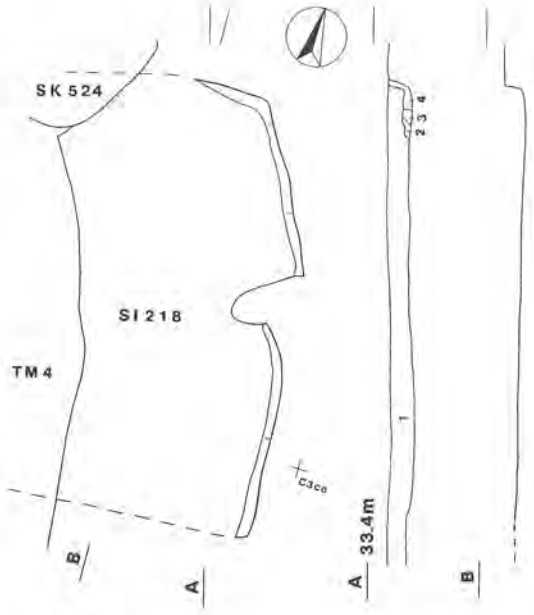
1 にぶい褐色 焼土粒子少量
2 にぶい褐色 焼土小ブロック多量
3 褐 色 焼土小ブロック多量
4 褐 色 粘土粒子少量

第219号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 粘性弱い
3 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 粘性弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物・炭化粒子中量 粘性弱い
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量 炭化粒子微量 粘性弱い

0 2m

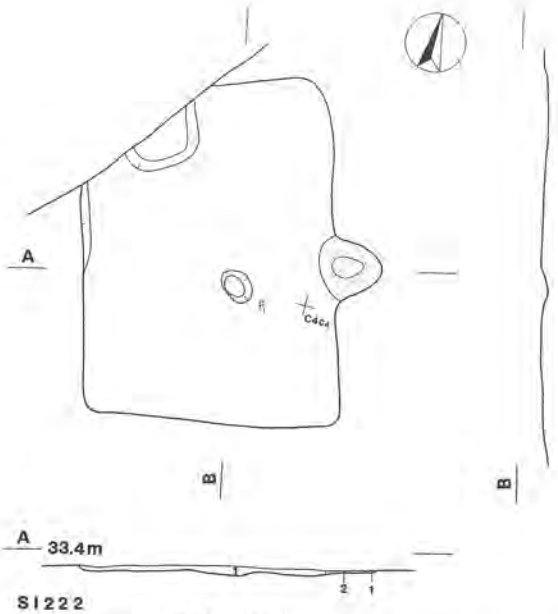
第386図 第214・215・217・219号住居跡



SI218

第218号住居跡土層解説

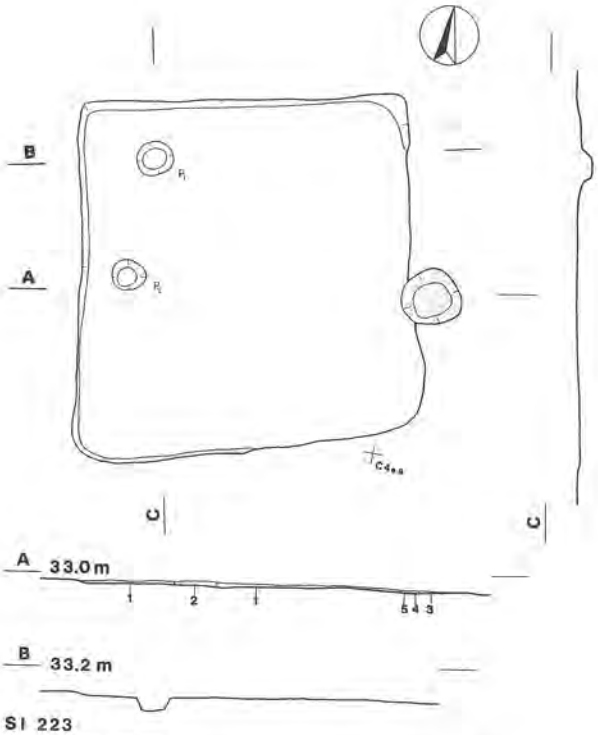
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化物中量
2 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量



SI222

第222号住居跡土層解説

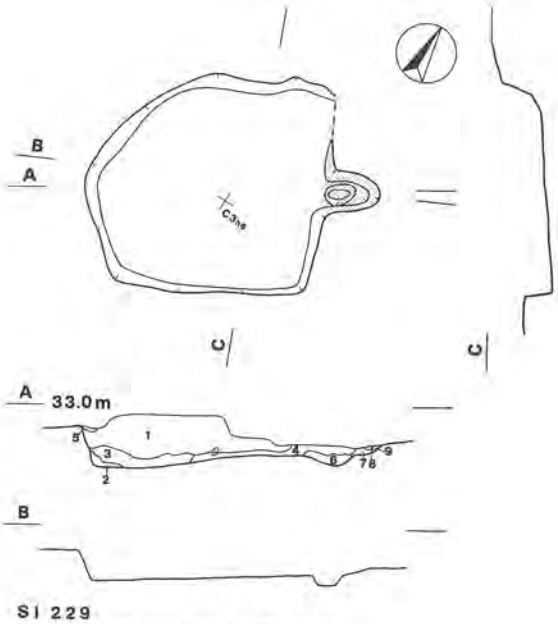
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 赤 褐 色 焼土層



SI 223

第223号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック多量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
5 暗 褐 色 炭化粒子微量 粘性締まり弱い



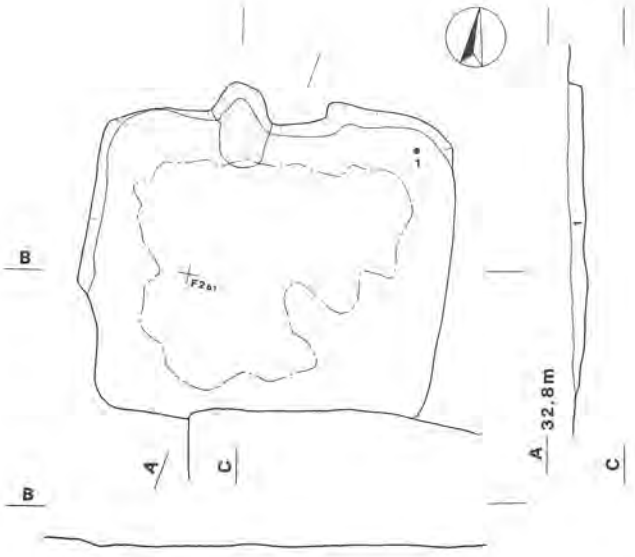
SI 229

第229号住居跡土層解説土層解説

1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性弱い
2 褐 色 ローム粒子多量
3 暗 褐 色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
4 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色 焼土粒子多量 炭化粒子少量 粘性締まり弱い
9 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量

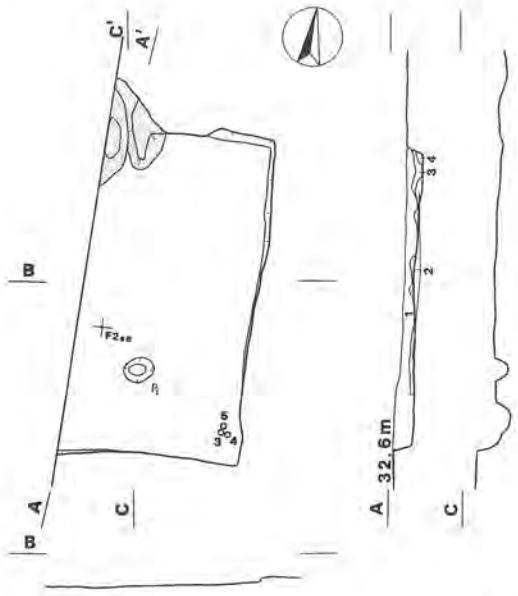
0 2m

第387図 第218・222・223・229号住居跡

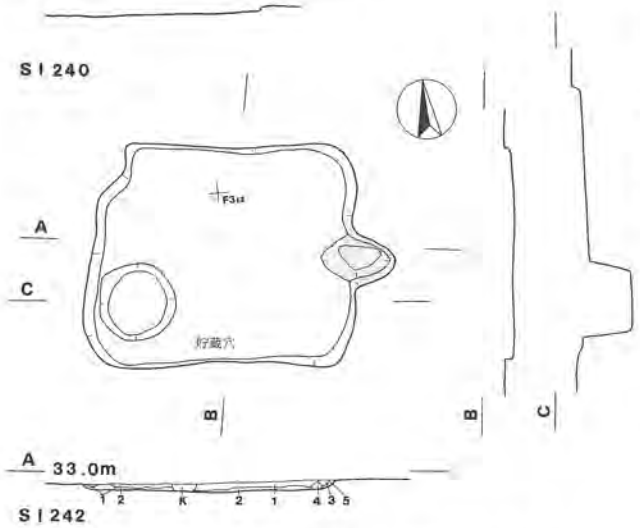


S I 232

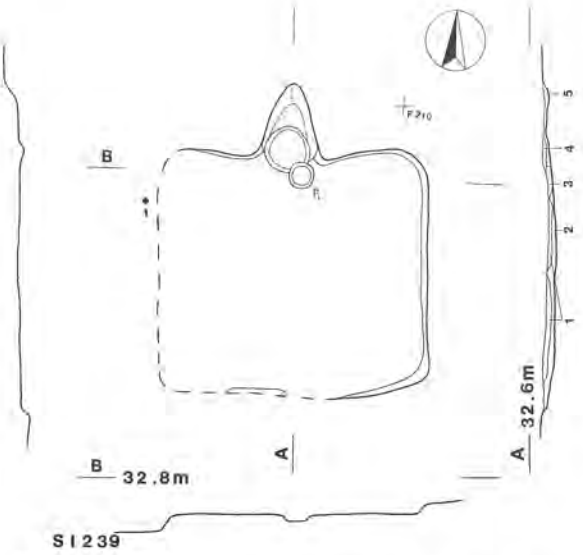
第232号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量



S I 240

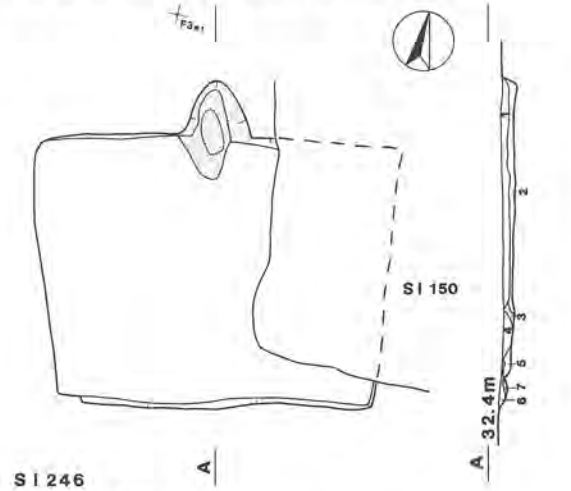


S I 242



S I 239

第239号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子・粘土少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量



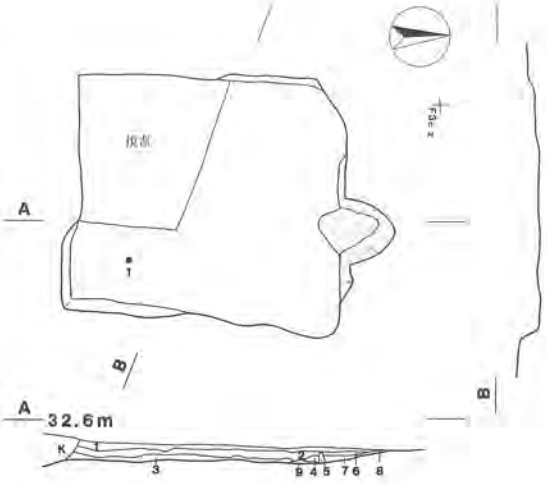
S I 246

第240号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量 砂少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量

第242号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量

第246号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 暗赤褐色 焼土粒子少量 粘性弱い
5 暗赤褐色 焼土粒子中量 焼土小ブロック微量 粘性弱い
6 暗赤褐色 焼土粒子少量 焼土小中ブロック少量 粘性弱い
7 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量

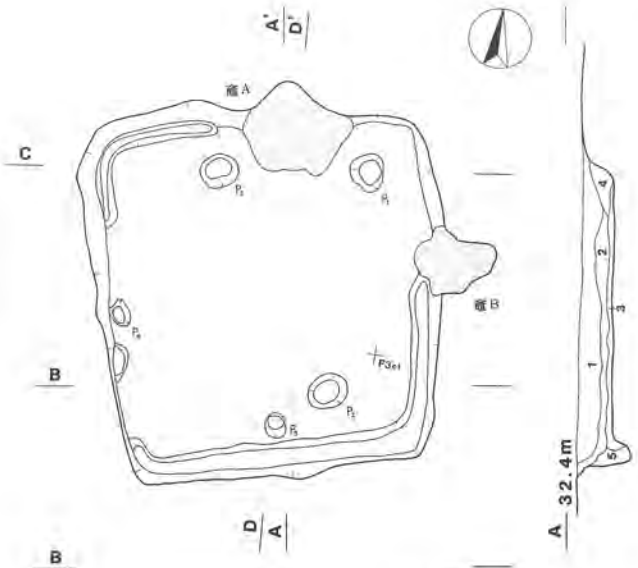
第388図 第232・239・240・242・246号住居跡



SI250

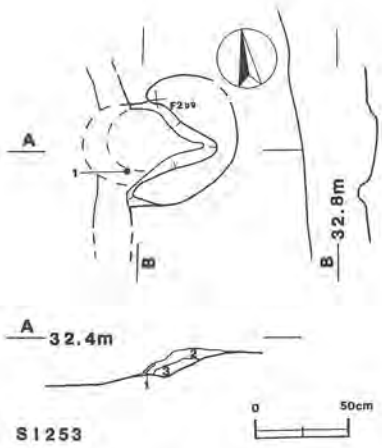
第250号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 粘土少量
7 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量 粘土少量
8 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子微量
9 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化材微量



第251号住居跡土層解説

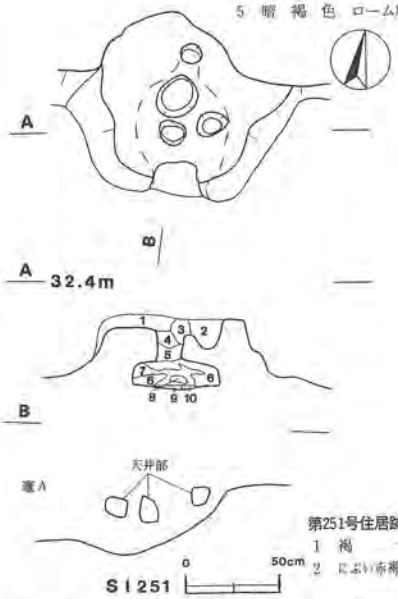
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
4 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 粘土少量
5 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量



SI253

第253号住居跡竈土層解説

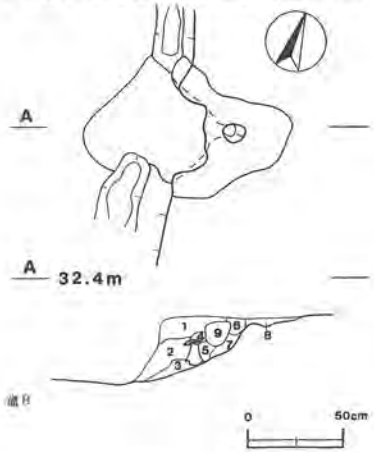
1 赤 褐 色 焼土粒子極めて多量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック中量 炭化物・炭化粒子少量 砂微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量



SI251

第251号住居跡竈A土層解説

1 褐 色 砂多量 粘性弱い
2 褐 色 焼土粒子少量 焼土小ブロック中量 砂中量 粘性弱い
3 褐 色 焼土粒子少量 砂多量 粘性弱い 極めて硬く締まる
4 暗 褐 色 焼土粒子微量 砂多量 粘性弱い
5 暗 褐 色 焼土粒子・焼土小ブロック中量 炭化粒子少量 砂少量
6 暗 褐 色 焼土粒子・焼土小ブロック少量 灰中量 締まり弱い
7 灰 褐 色 焼土粒子少量 灰極めて多量 締まり弱い
8 赤 褐 色 焼土粒子多量 灰多量 締まり弱い
9 暗赤褐色 焼土粒子極めて多量 粘性締まり弱い
10 暗 褐 色 焼土粒子少量 灰中量

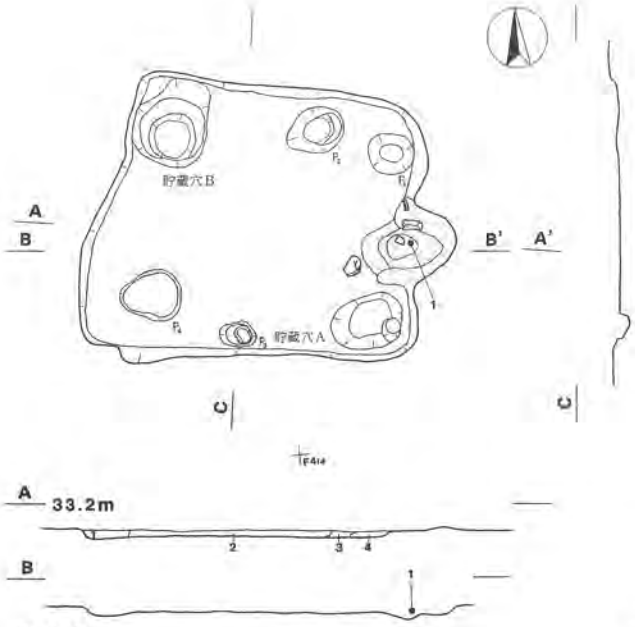


第251号住居跡竈B土層解説

1 褐 色 焼土粒子少量 砂多量 粘性弱い 極めて硬く締まる
2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 砂中量 粘性弱い
3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量 灰多量
4 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量 砂多量 粘性弱い
5 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 砂少量
6 暗赤褐色 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 砂中量 粘性弱い
7 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 灰少量
8 暗赤褐色 焼土粒子中量 砂多量 粘性弱い 極めて硬く締まる
9 褐 色 天井部

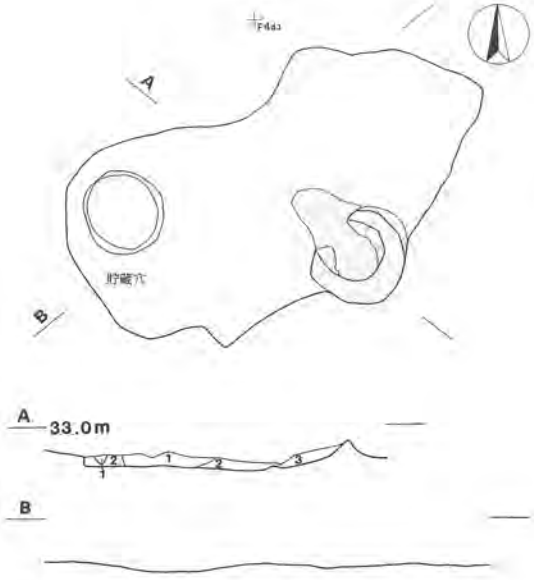
0 2m

第389図 第250・251・253号住居跡



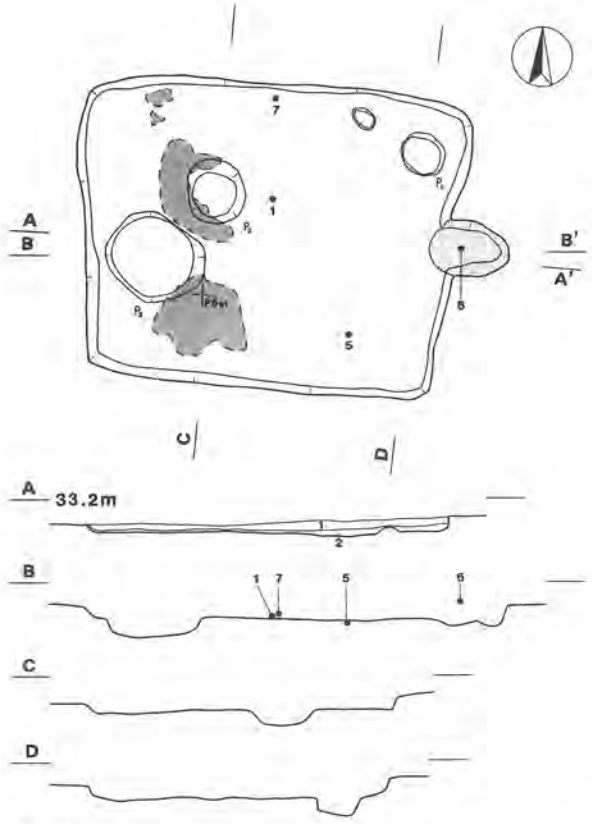
S I 256

第256号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 砂中量



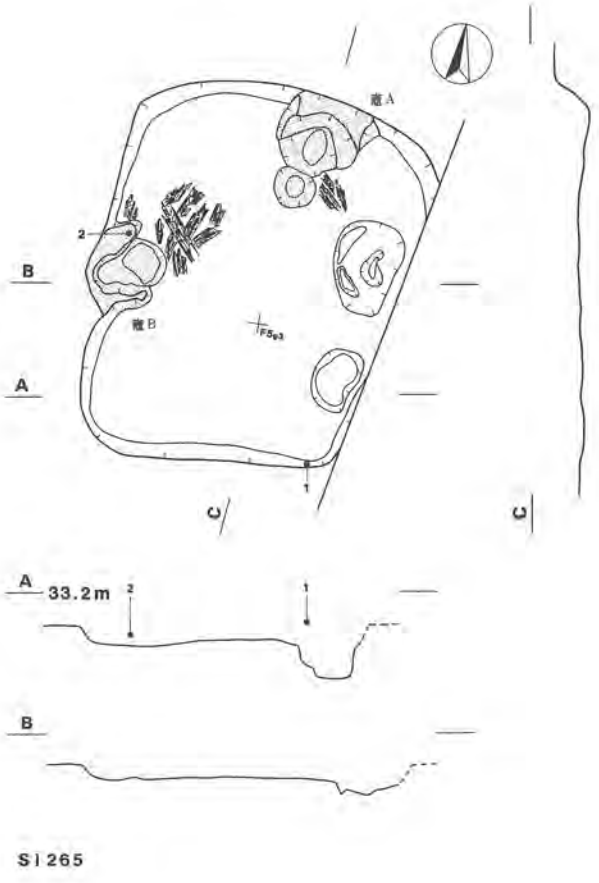
S I 263

第263号住居跡土層解説
1 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘土多量
2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 赤 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量



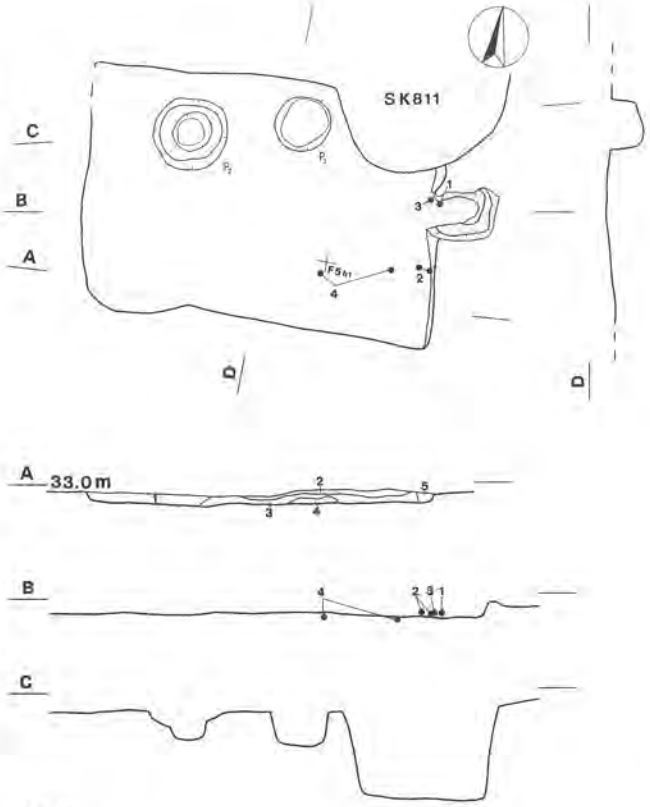
S I 264

第264号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量



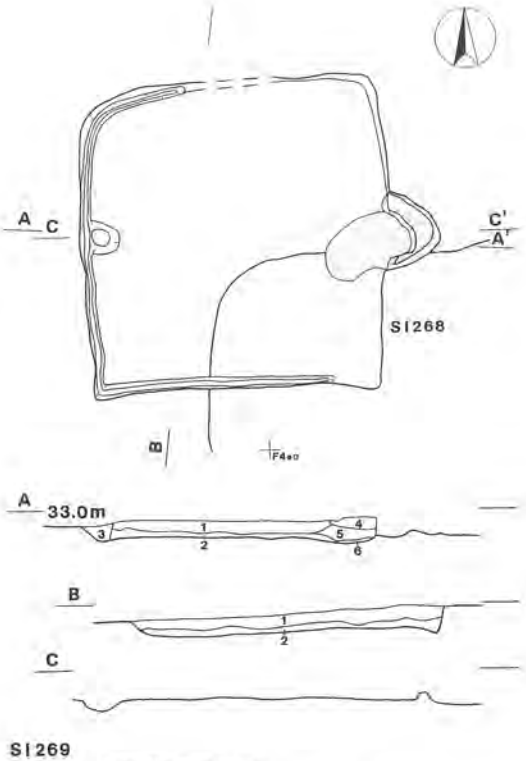
S I 265

第390図　第256・263・264・265号住居跡



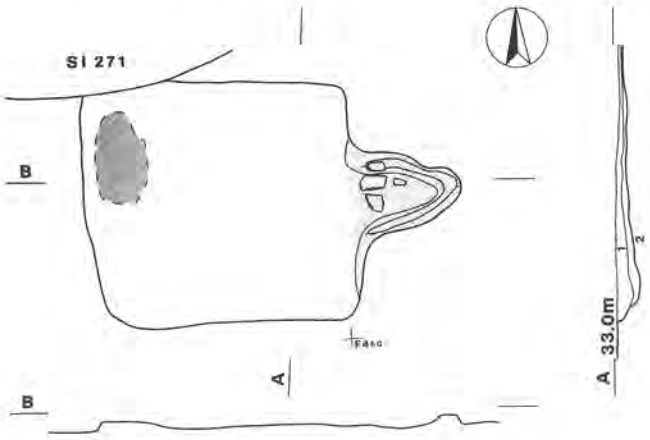
SI267

第267号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量



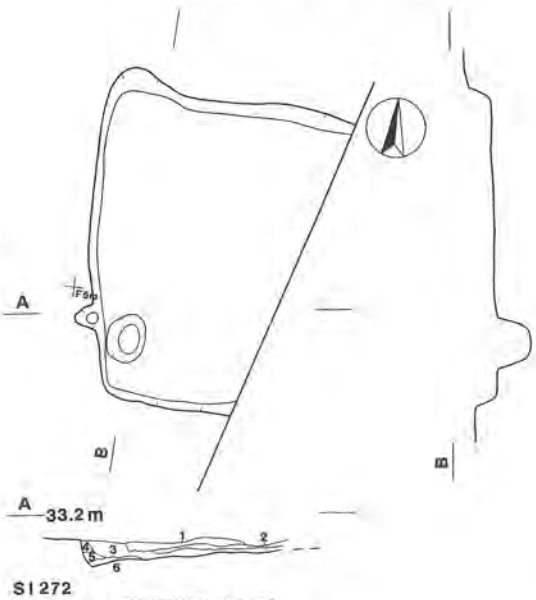
SI269

第269号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 粘性弱い
3 黒 褐 色 焼土粒子微量 粘性弱い
4 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子微量
6 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子微量



SI270

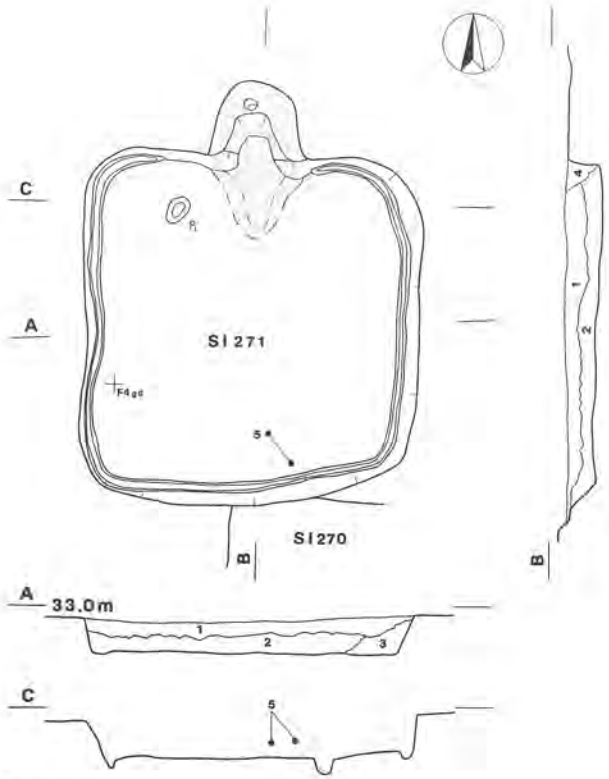
第270号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量



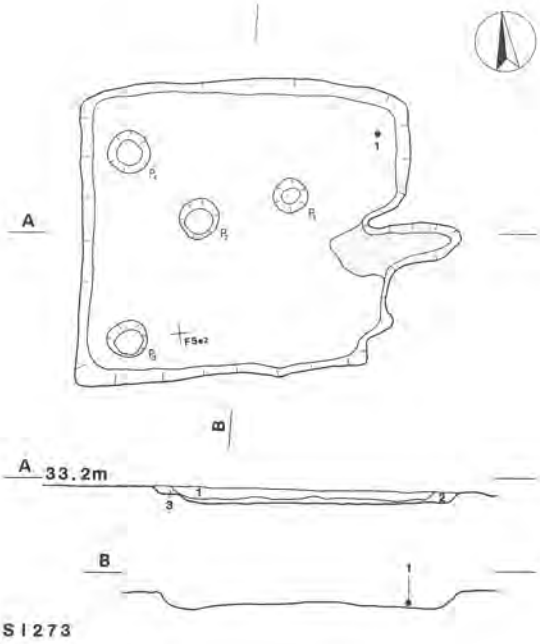
SI272

第272号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量

第391図　第267・269・270・272号住居跡



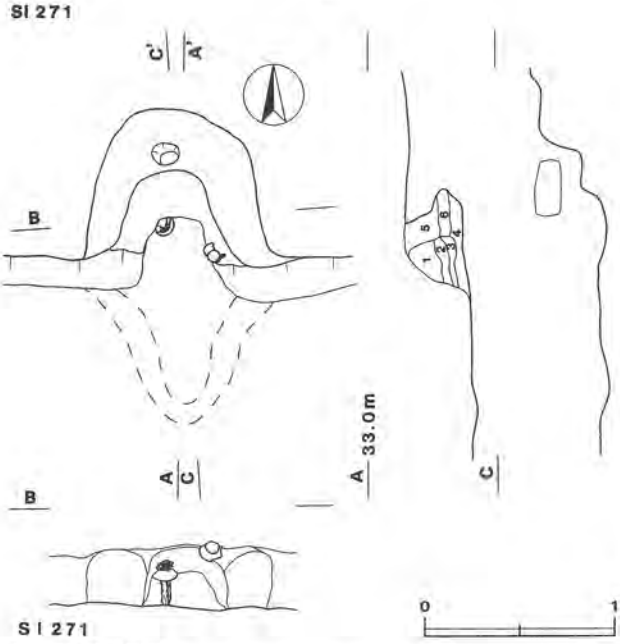
SI271



SI273

第273号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 粘土少量



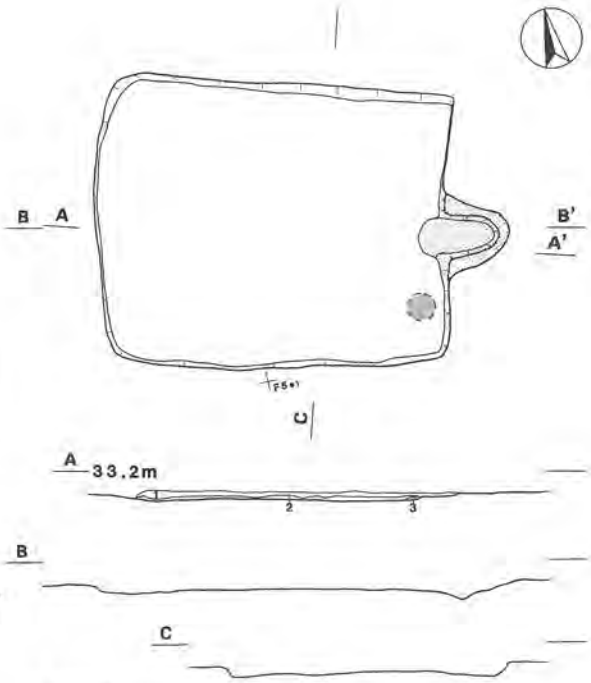
SI271

第271号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量

第271号住居跡カマド土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
5 灰黄褐色 ローム粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量



SI274

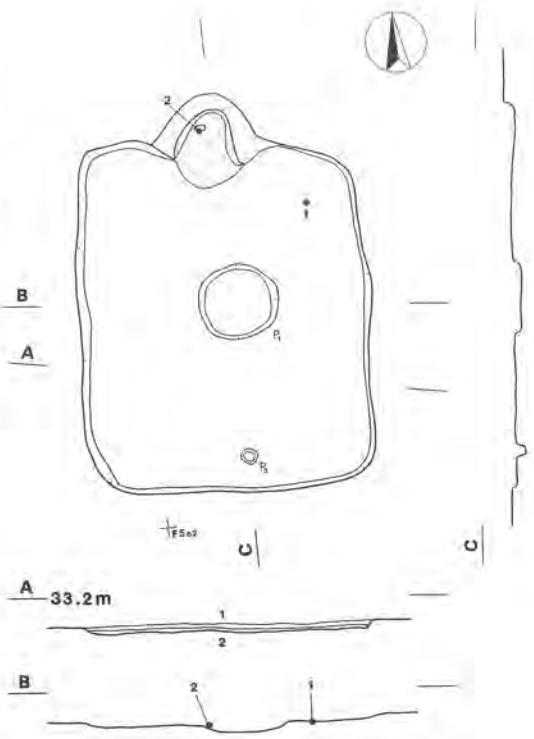
第274号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子・粘土少量

0 1m

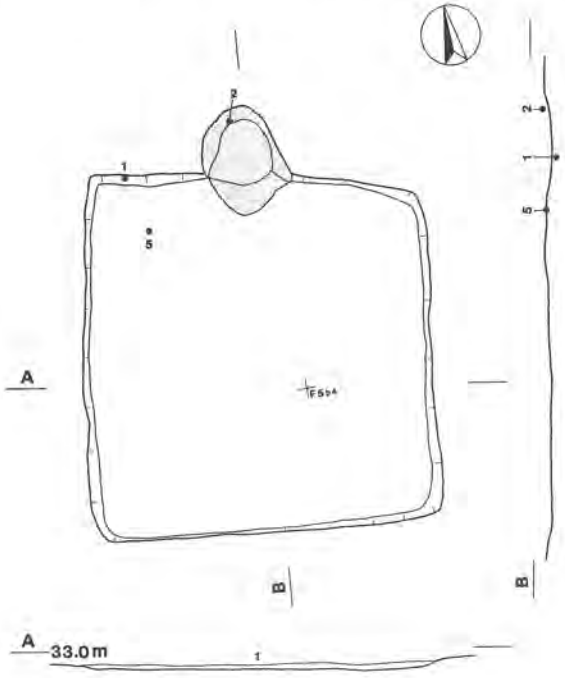
0 2m

第392図 第271・273・274号住居跡



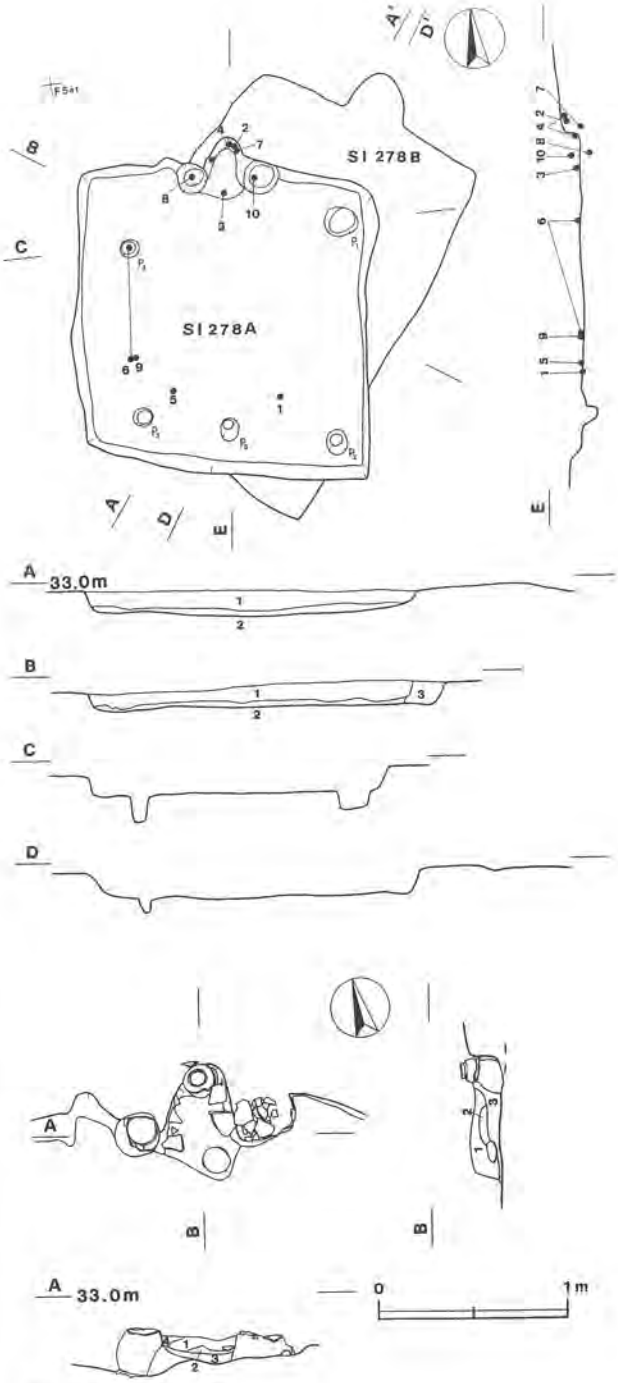
SI 277

第277号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量



SI 279A

第279A号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量



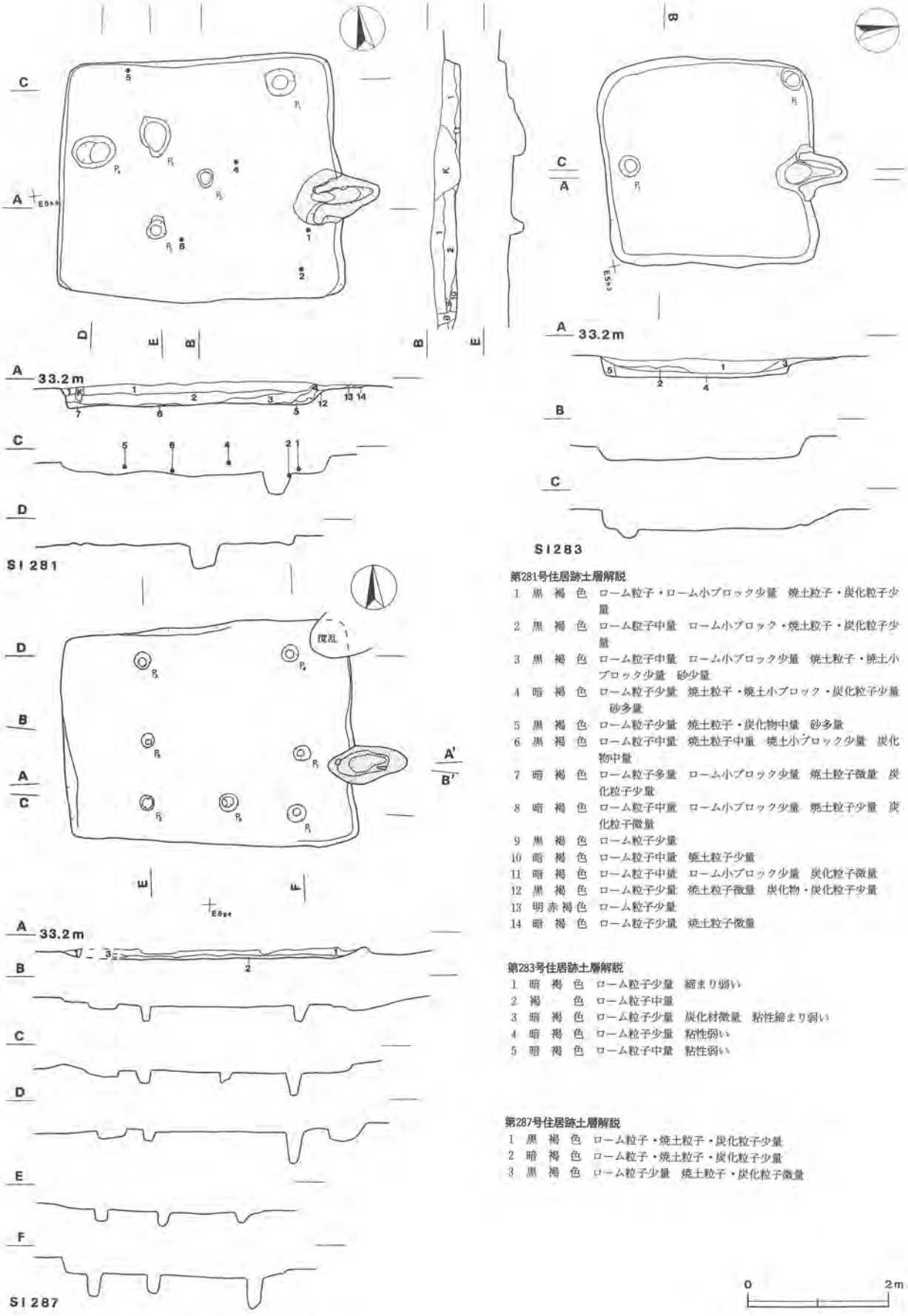
SI 278A

第278A号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量

第278A号住居跡竈土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子少量 粘土少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量

0 2m

第393図 第277・278A・279A号住居跡



第281号住居跡土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 砂少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 砂多量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物中量 砂多量
6 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化物中量
7 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
9 黒 褐 色 ローム粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
11 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 炭化粒子微量
12 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物・炭化粒子少量
13 明赤褐色 ローム粒子少量
14 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量

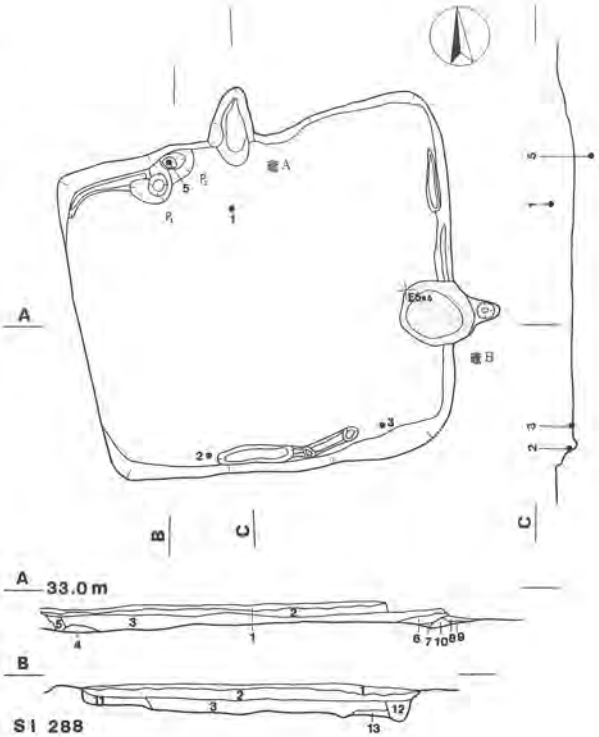
第283号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 締まり弱い
2 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化材微量 粘性締まり弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 粘性弱い

第287号住居跡土層解説

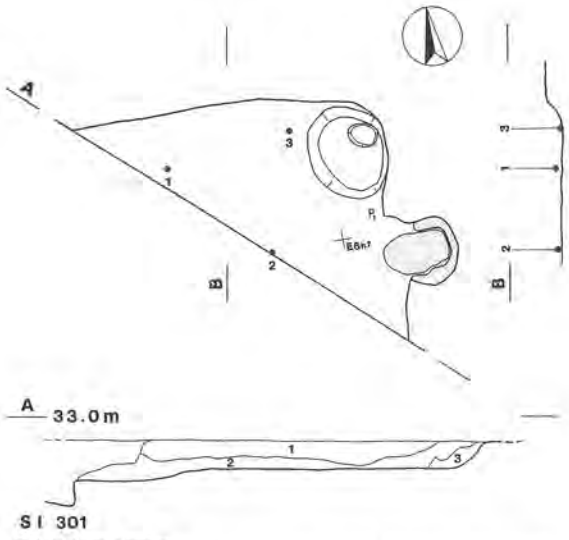
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量

第394図　第281・283・287号住居跡



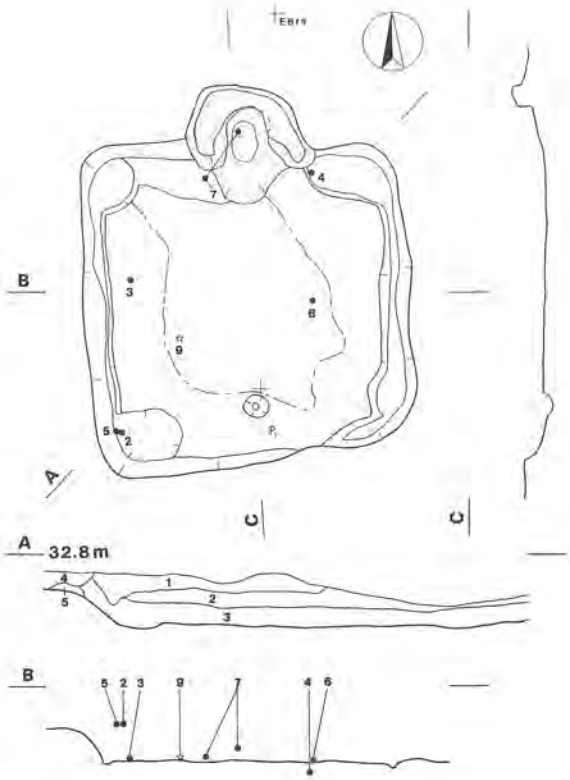
第288号住居跡土層解説

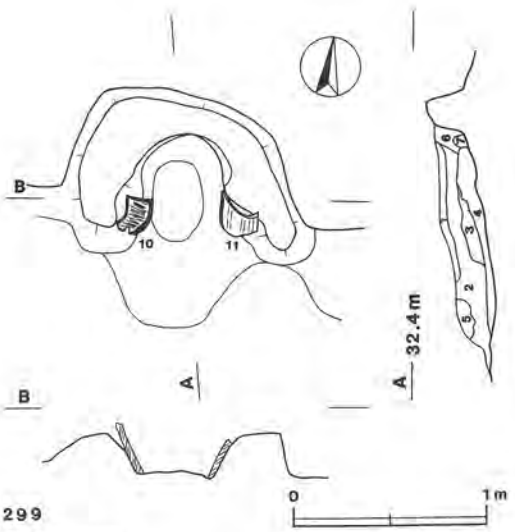
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化粒子微量 砂少量
7 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 粘性弱い
8 褐 色 焼土粒子中量 焼土小ブロック少量 砂多量 粘性弱い
9 褐 色 砂多量 粘性弱い
10 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
11 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
12 褐 色 ローム粒子多量
13 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量



第301号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量





第299号住居跡土層解説

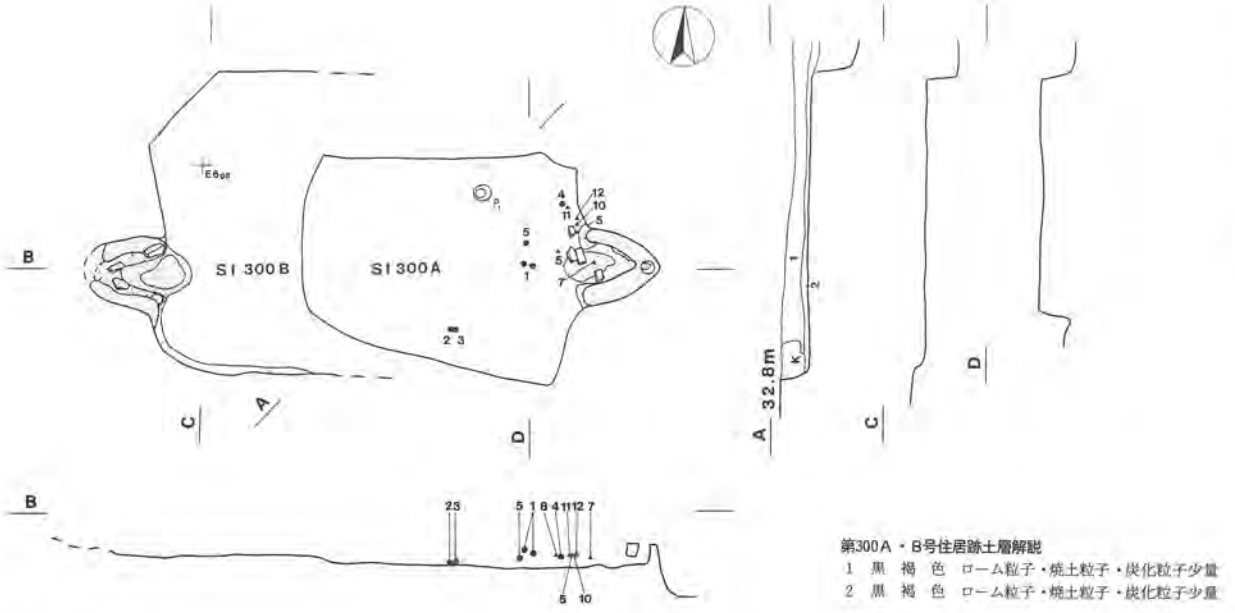
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量 炭化物・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量

第299号住居跡竈土層解説

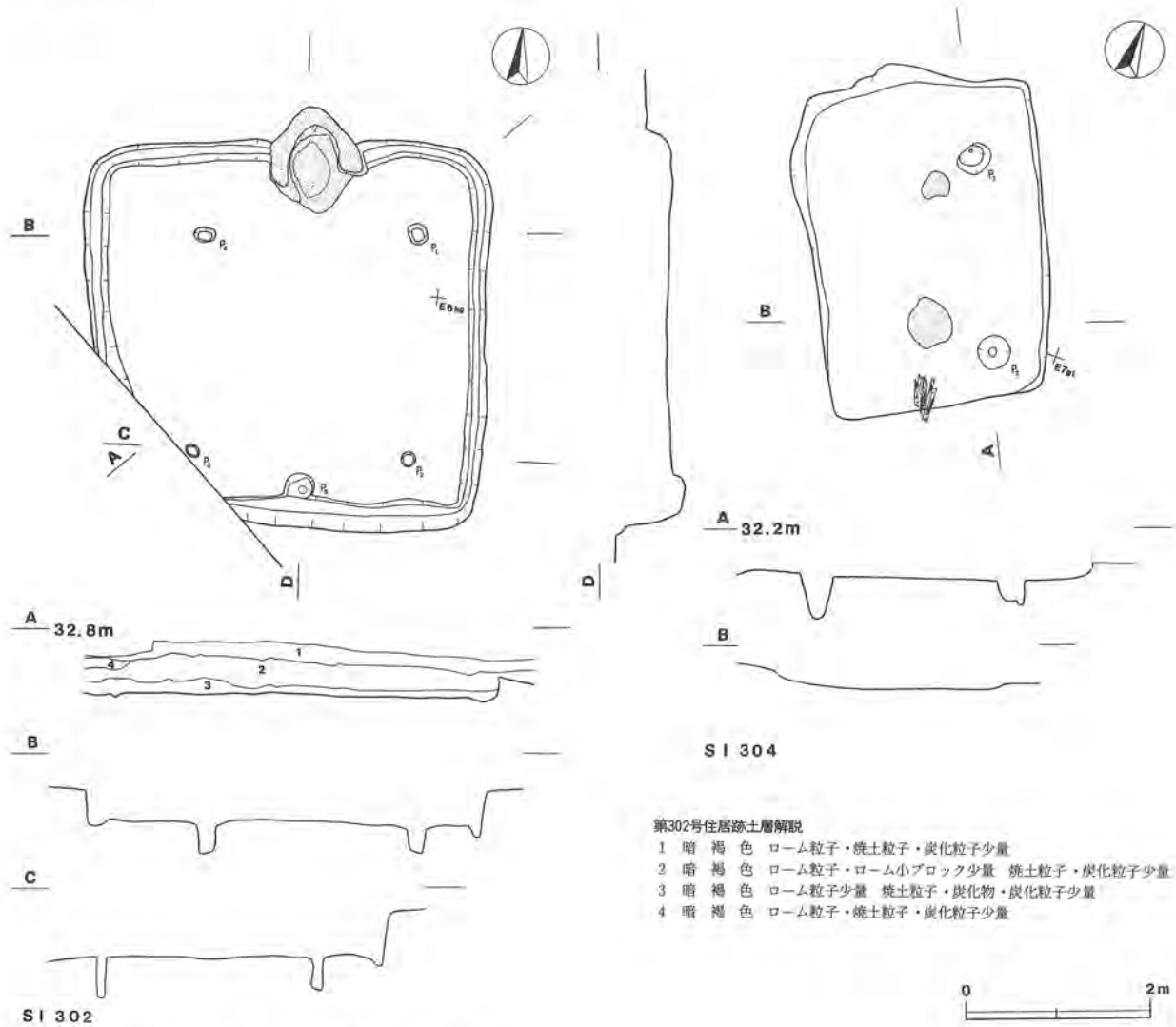
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
4 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
7 褐 色 ローム粒子中量

0 2m

第395図　第288・299・301号住居跡

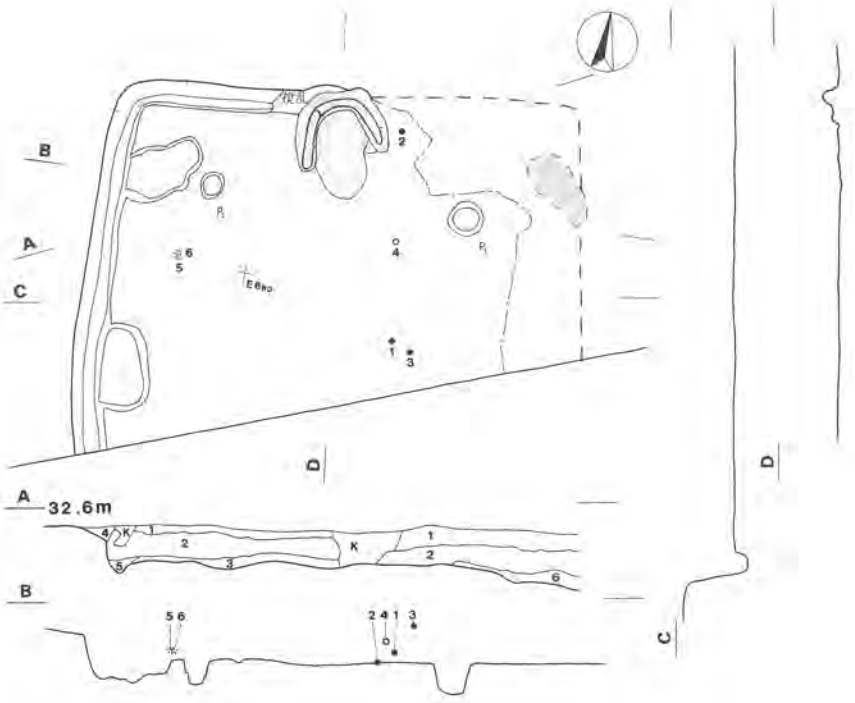


SI 300A・B



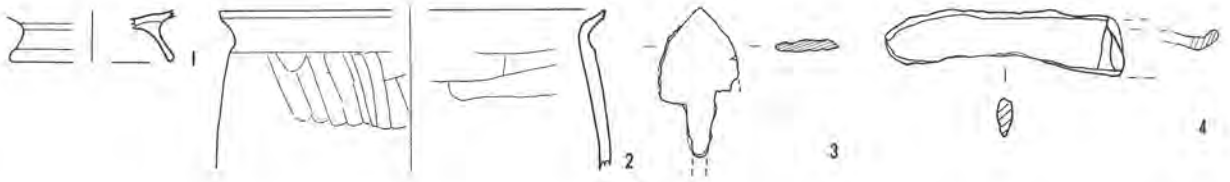
SI 302

第396図　第300A・B・302・304号住居跡

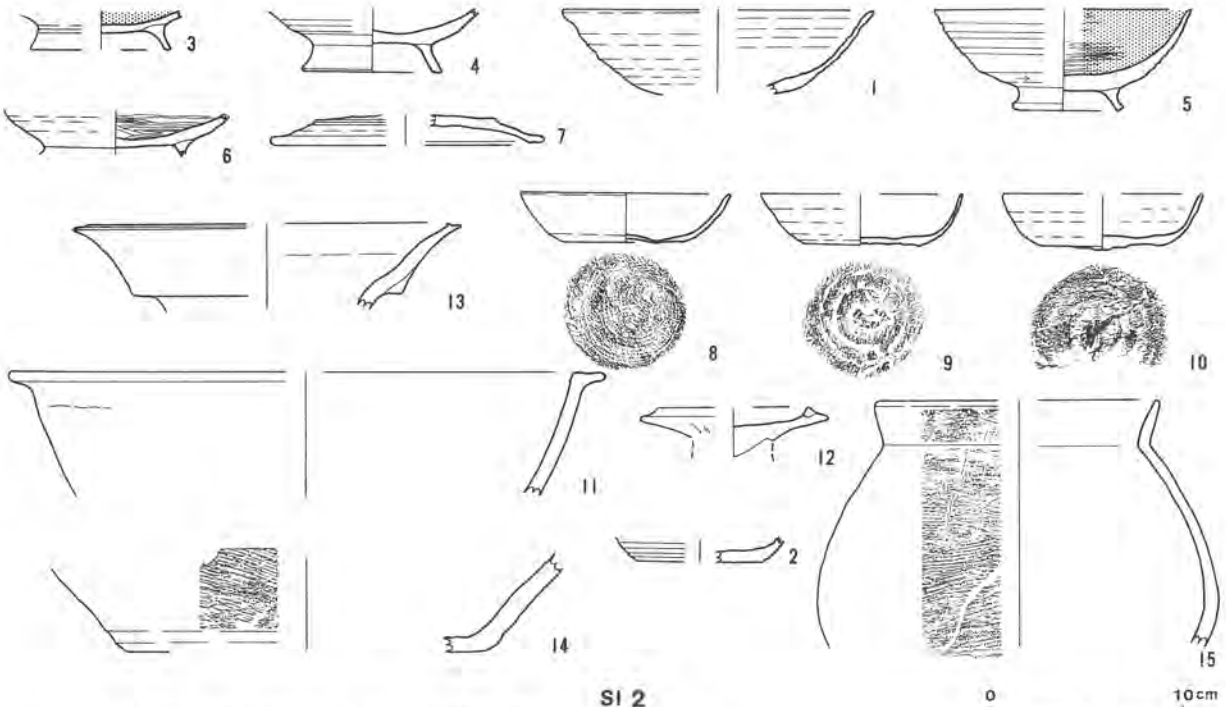


第303号住居跡土層解説

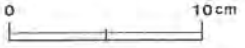
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量



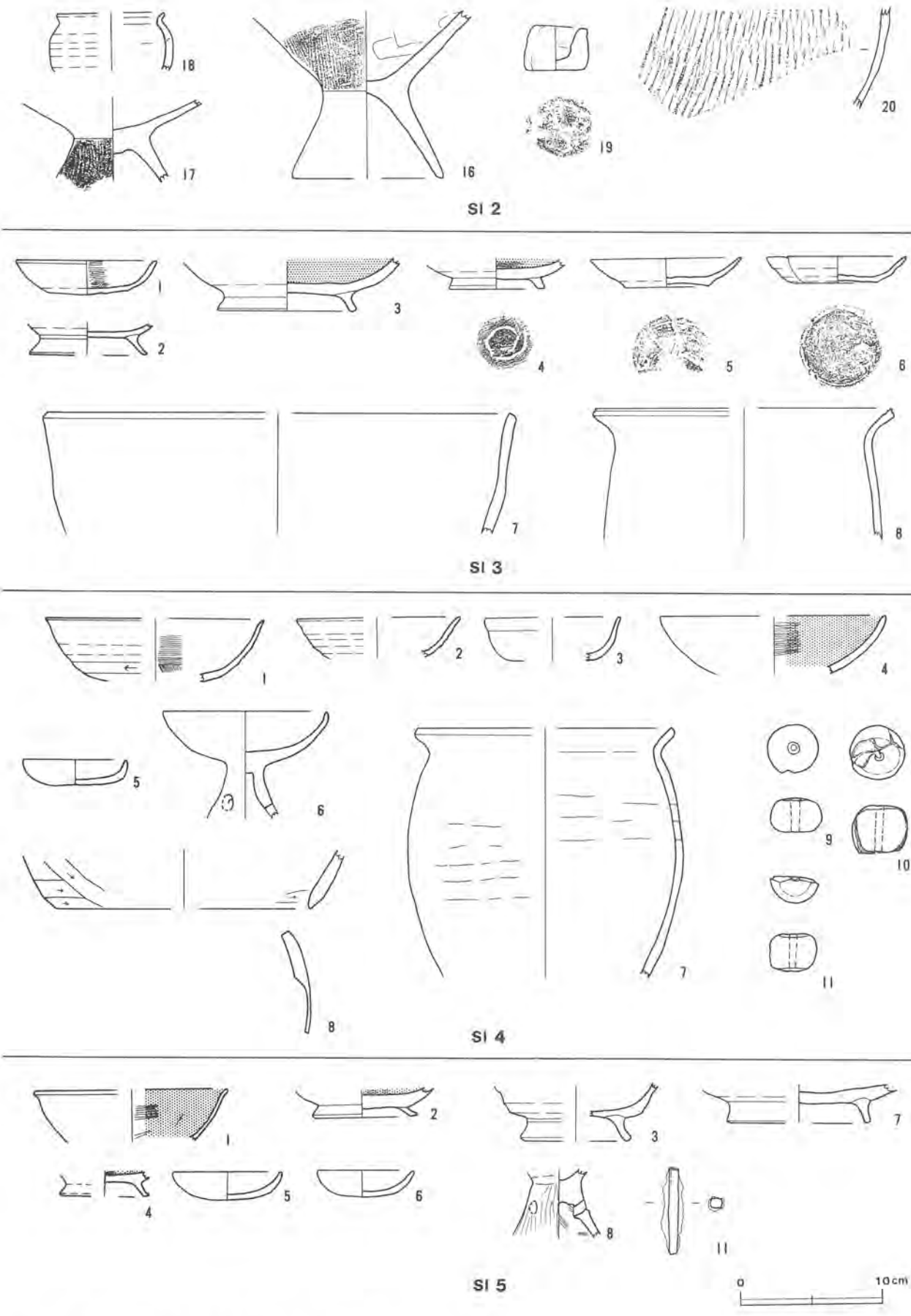
SI 1



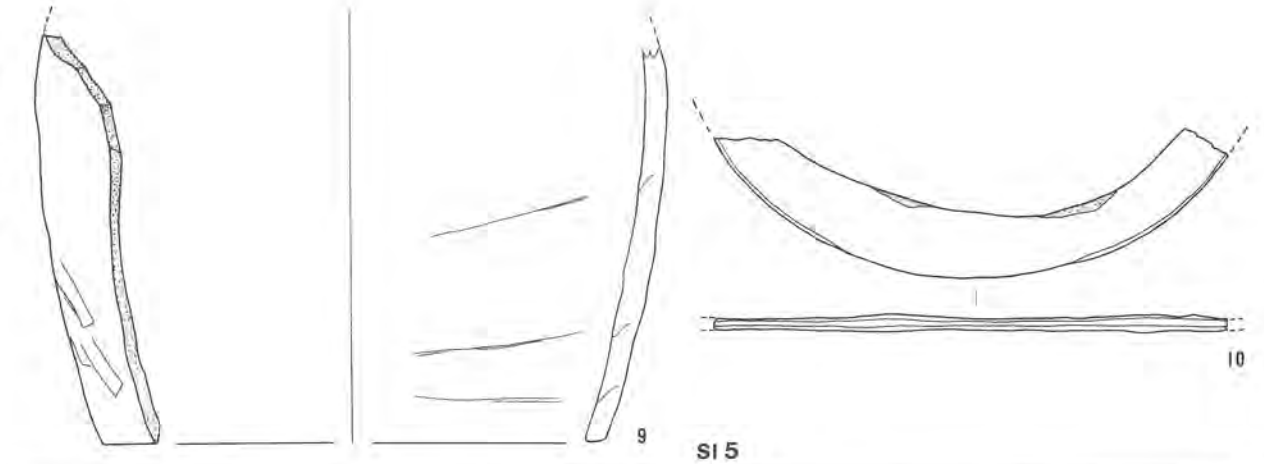
SI 2

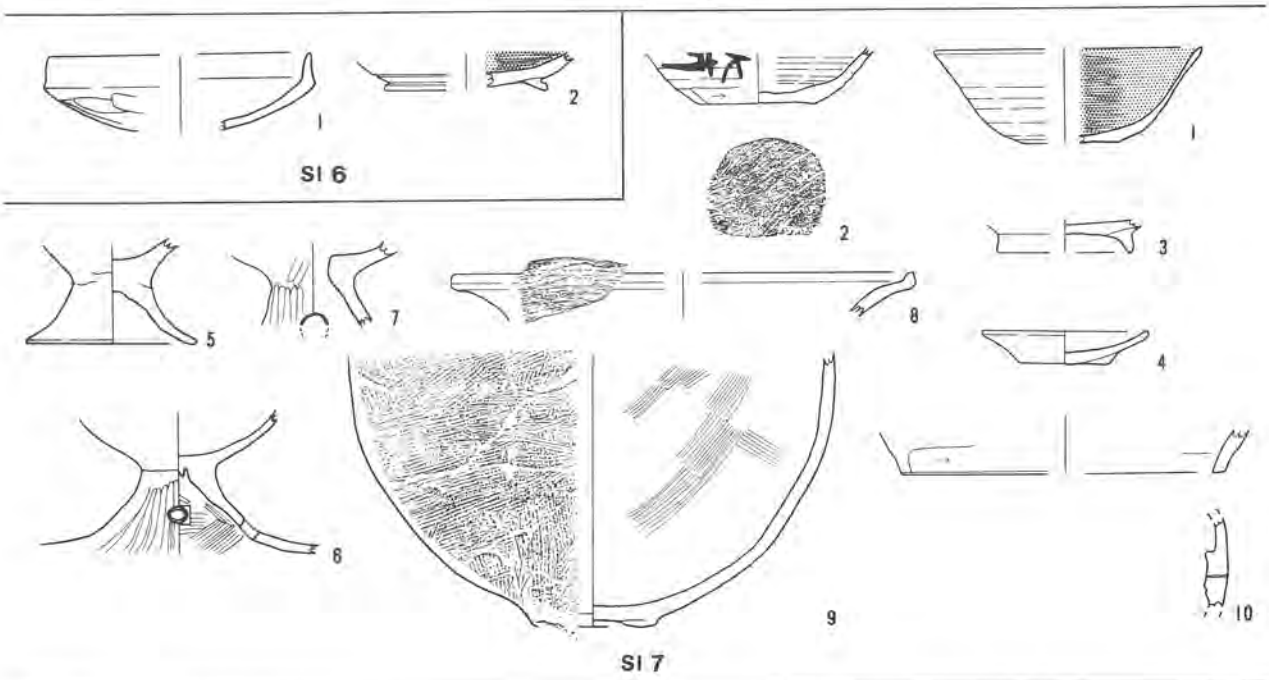


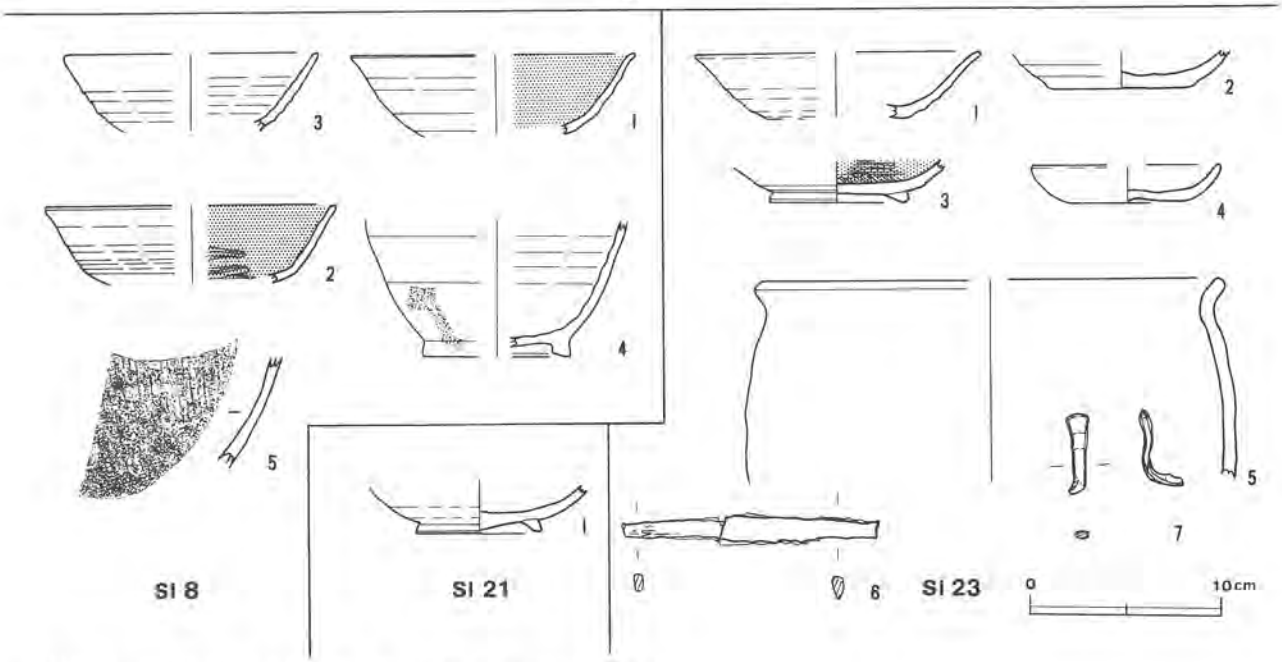
第397図　第303号住居跡，第1・2号住居跡出土遺物



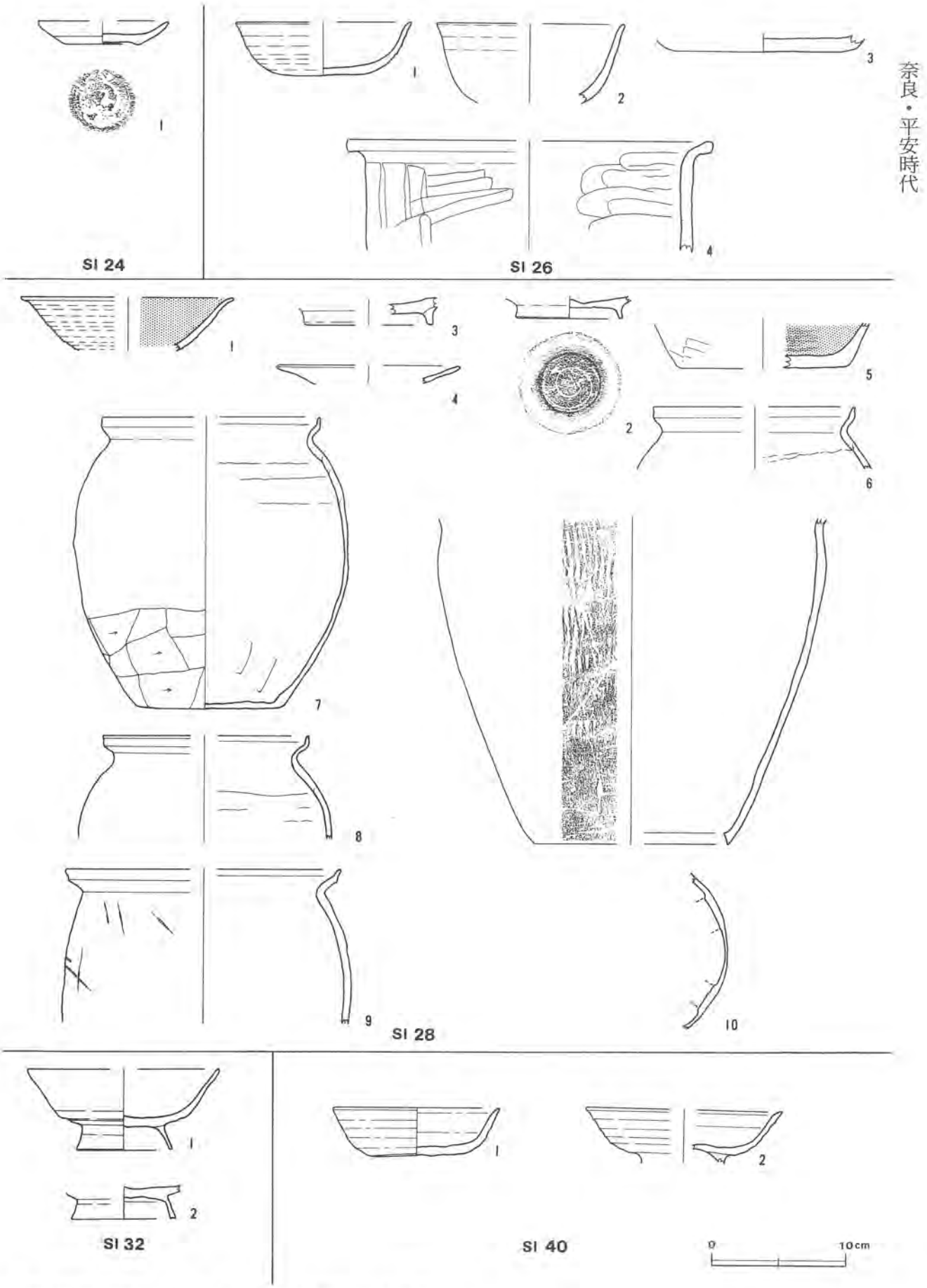
第398図　第２・３・４・５号住居跡出土遺物



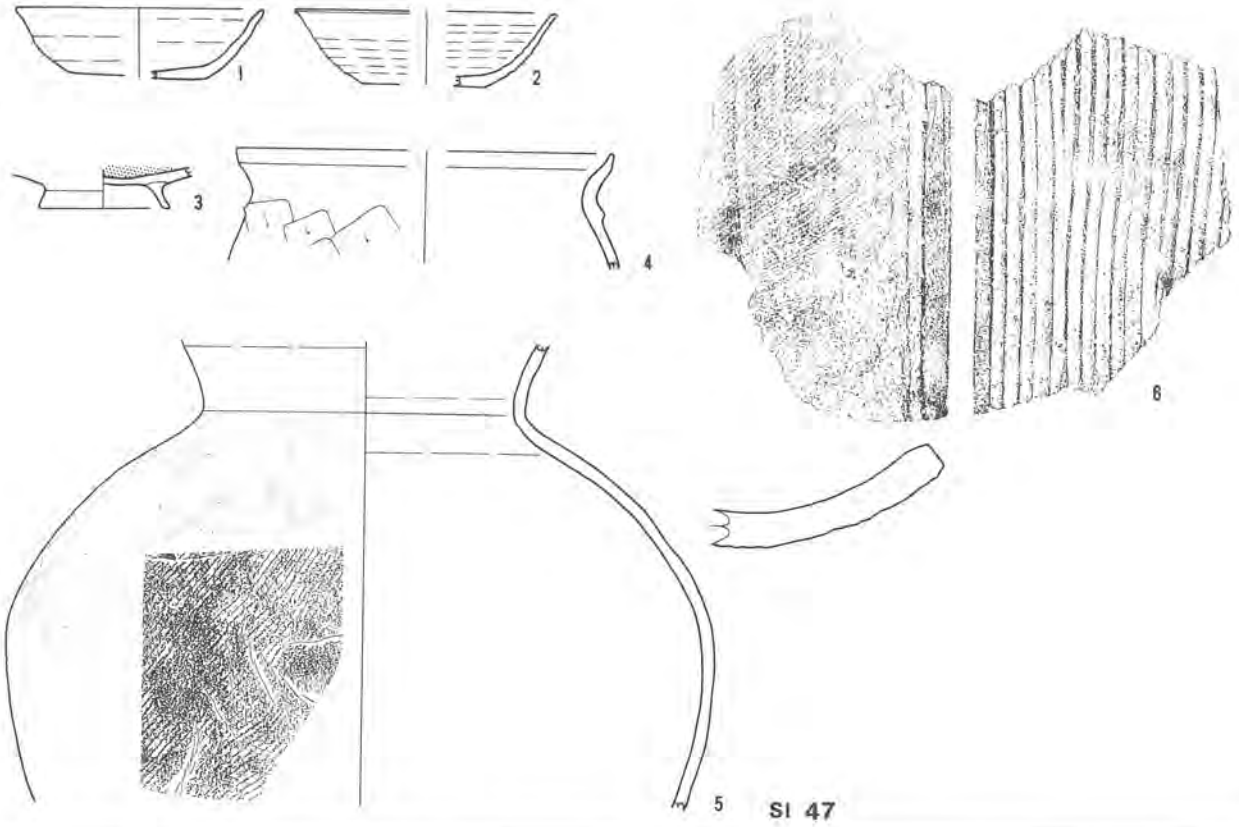


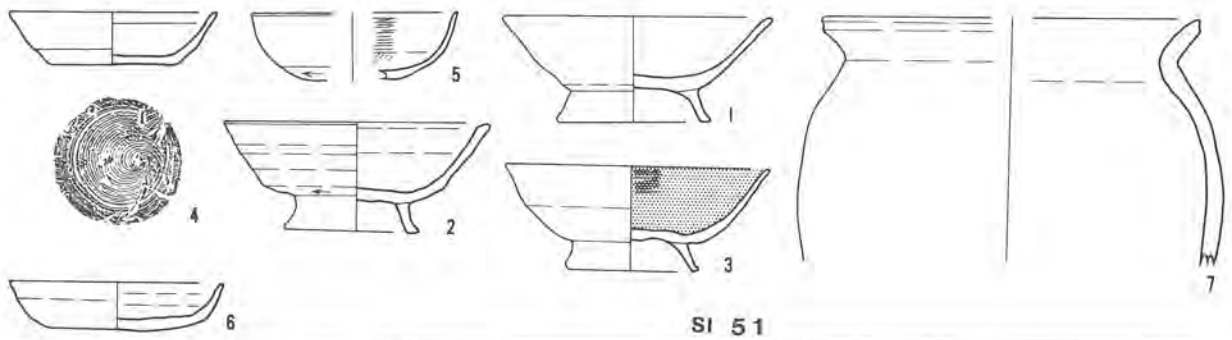


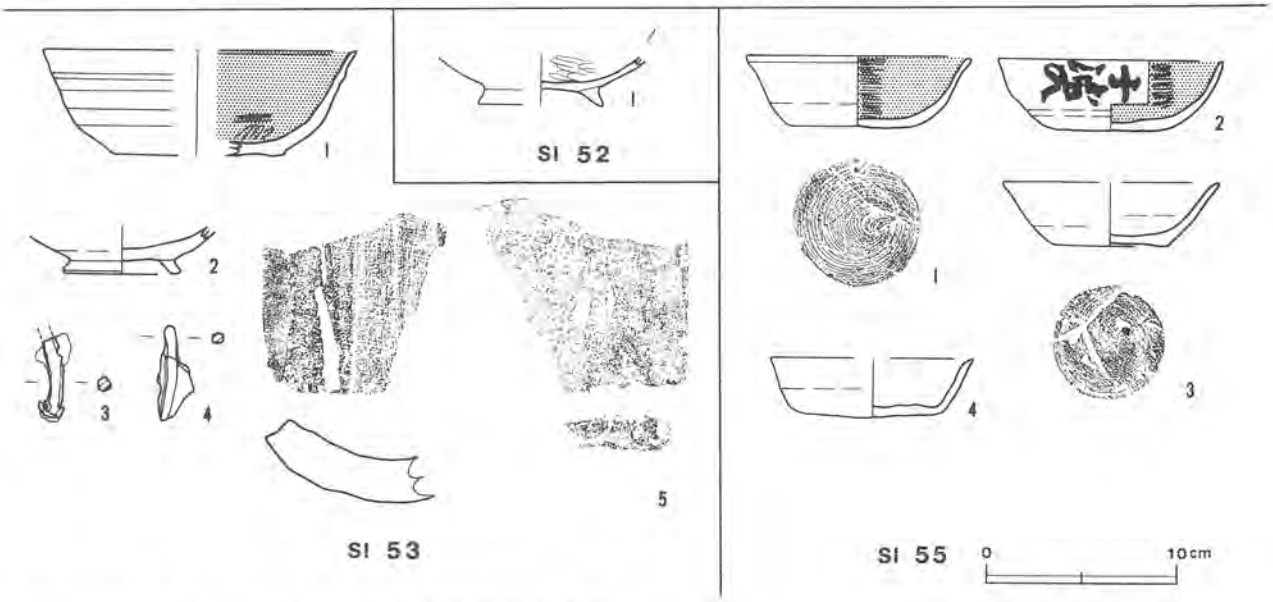
第399図　第5・6・7・8・21・23号住居跡出土遺物



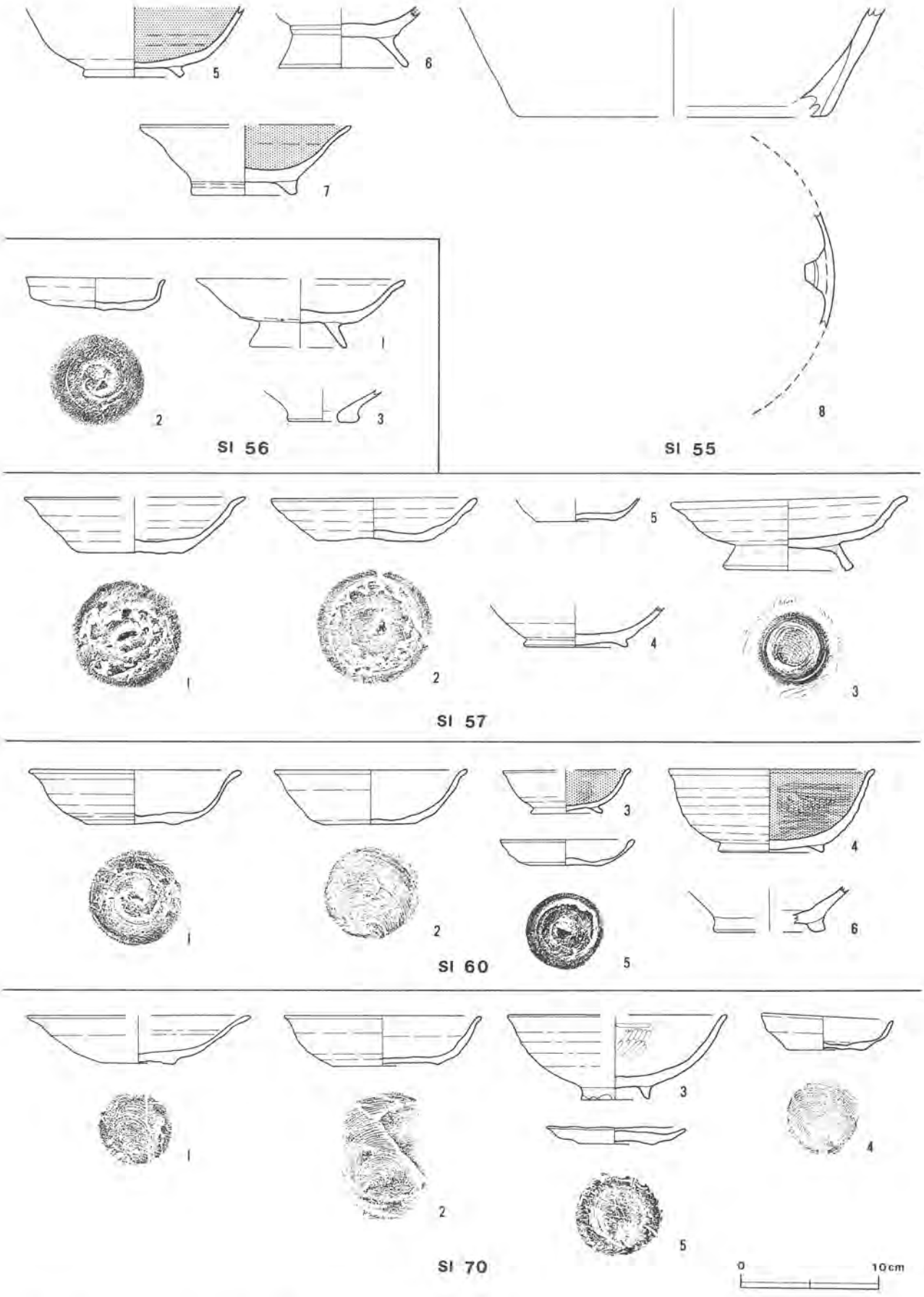
第400図　第24・26・28・32・40号住居跡出土遺物



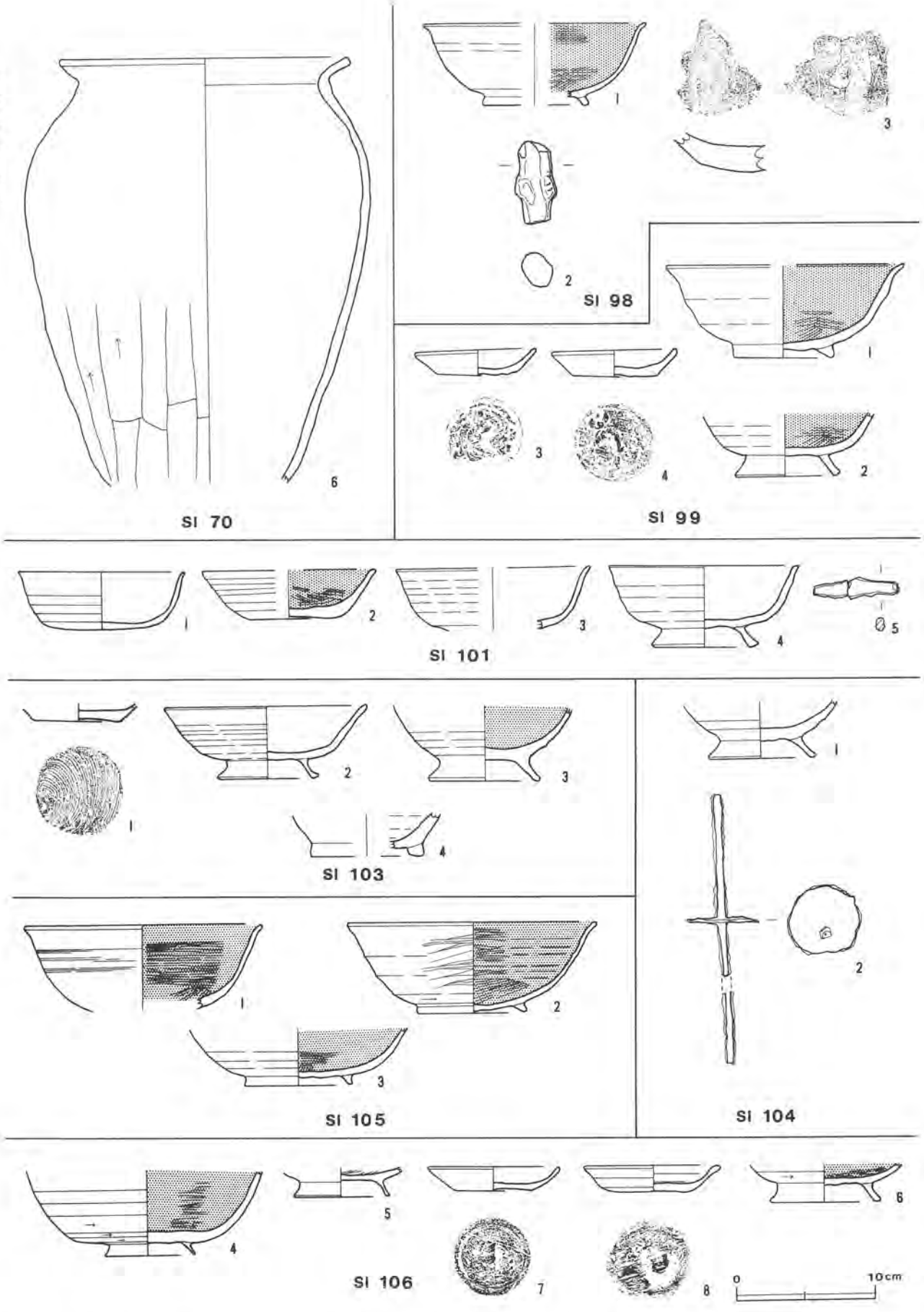




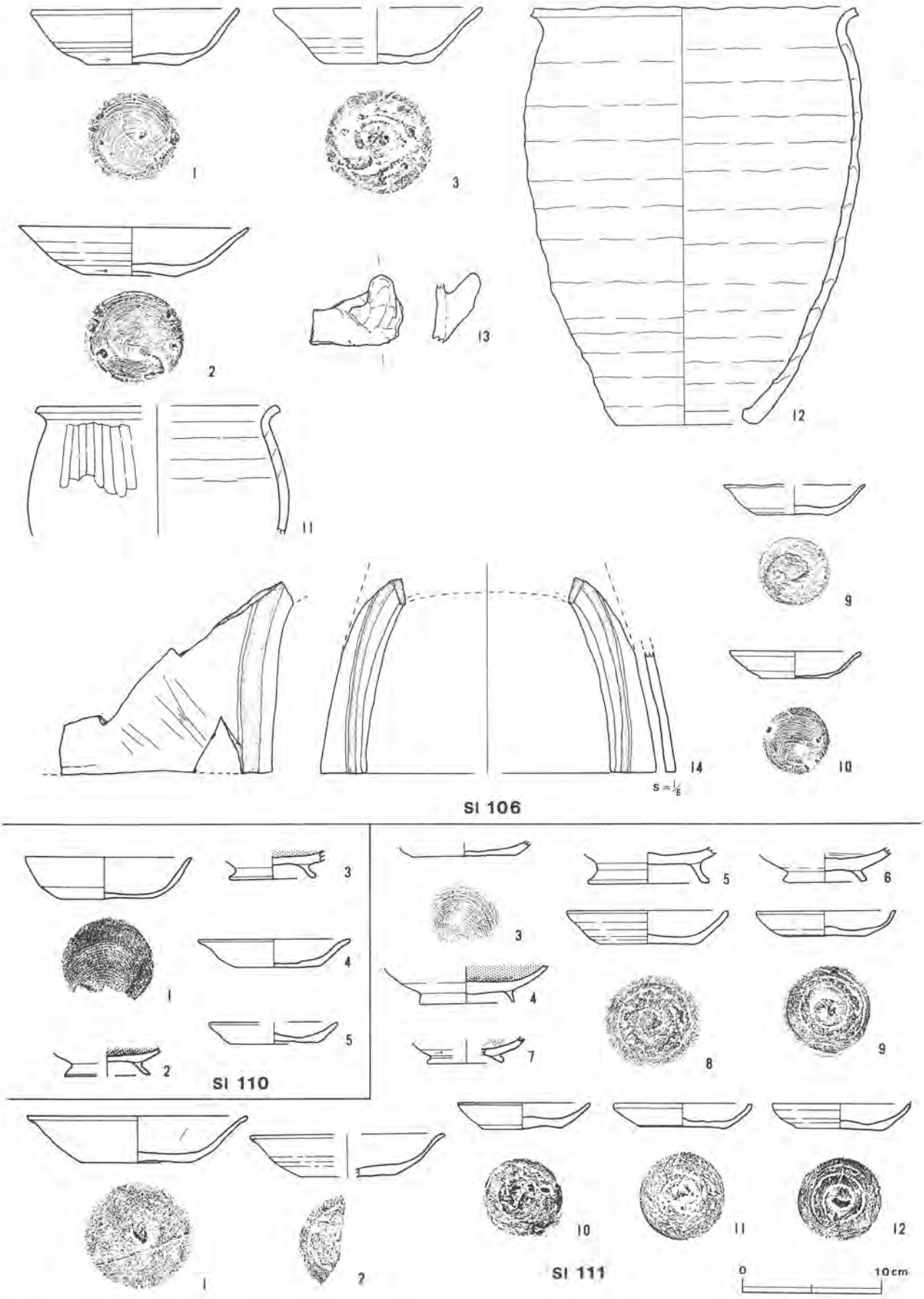
第401図　第47・51・52・53・55号住居跡出土遺物



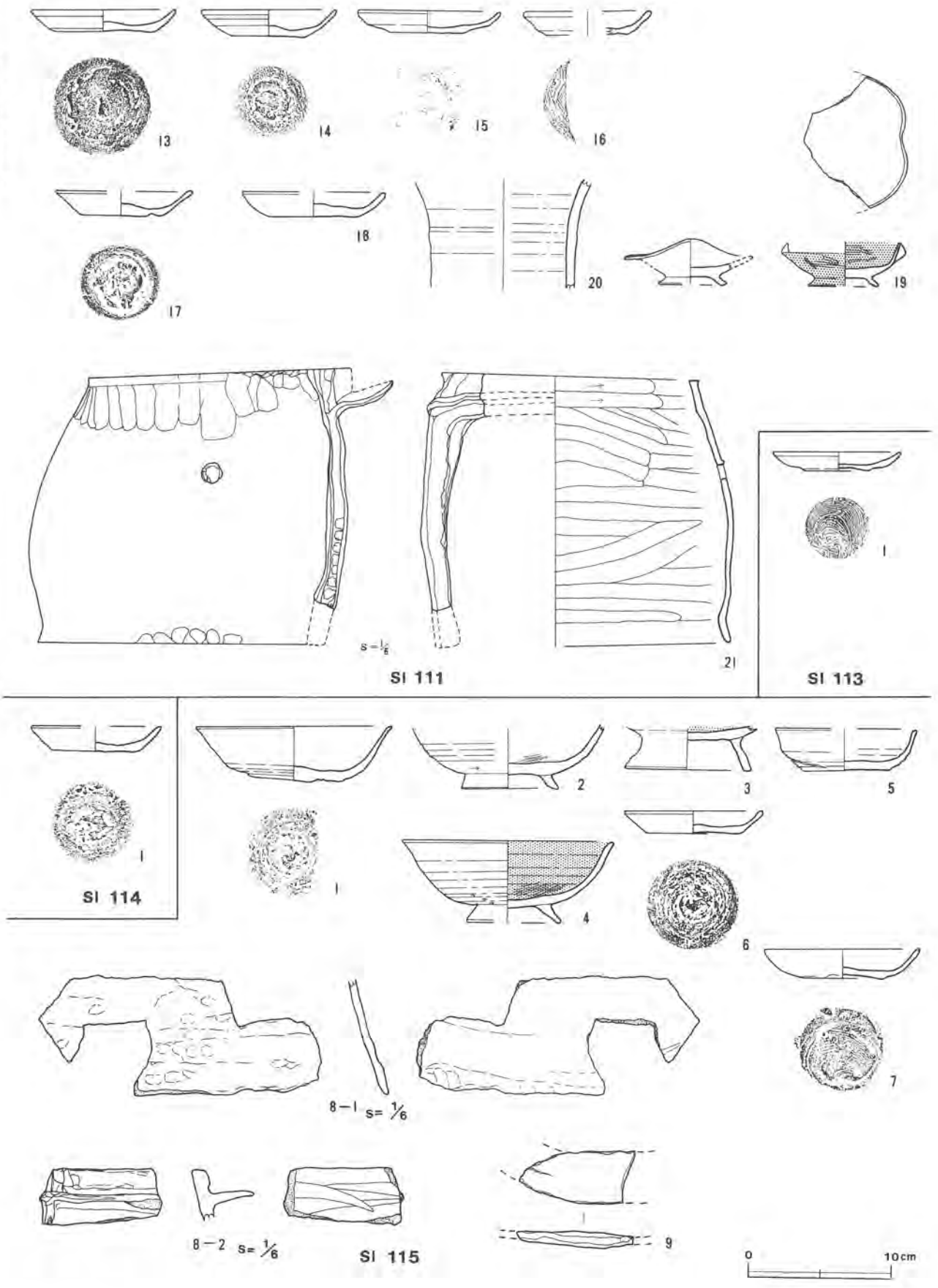
第402図　第55・56・57・60・70号住居跡出土遺物



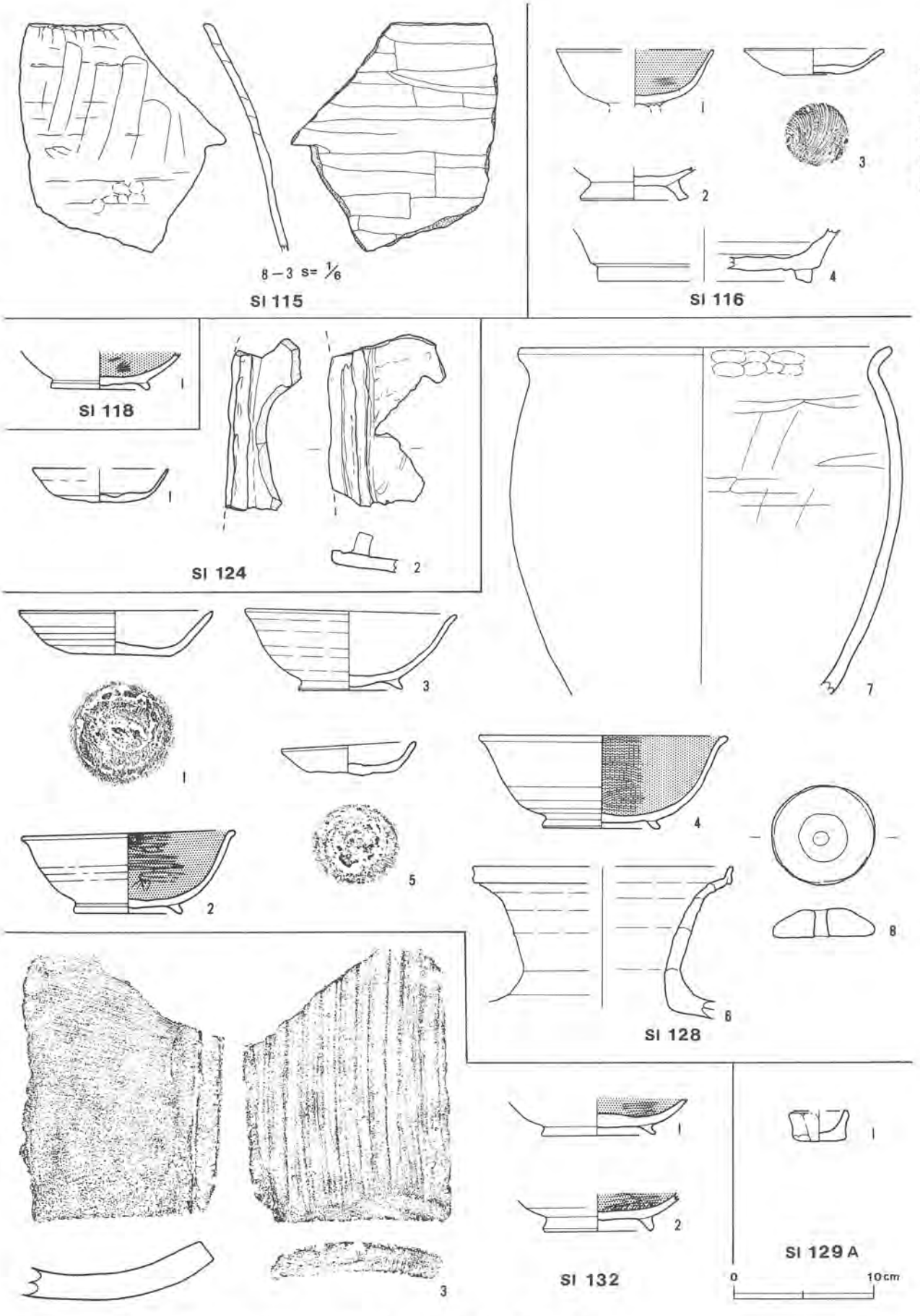
第403図　第70・98・99・101・103・104・105・106号住居跡出土遺物



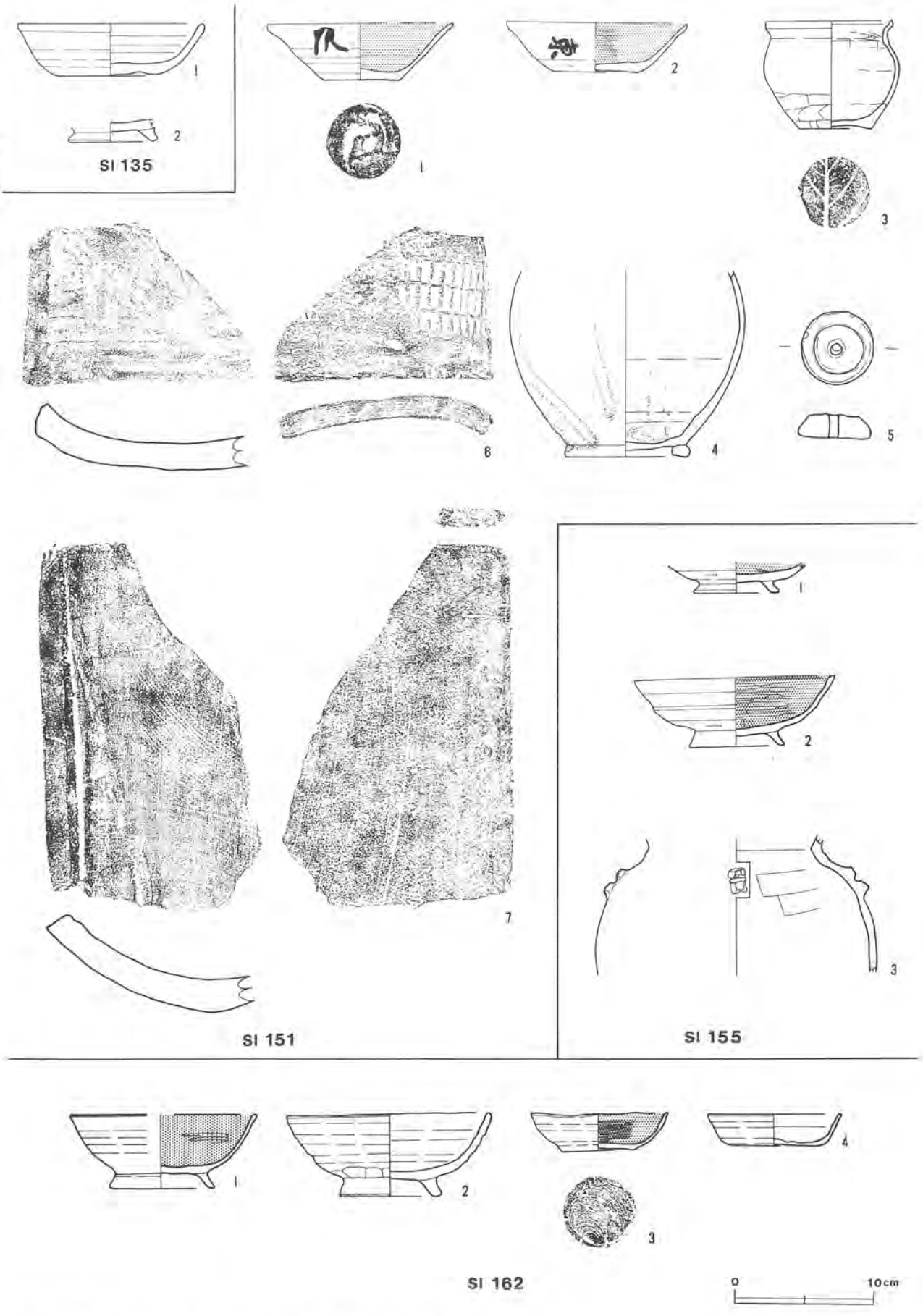
第404図　第106・110・111号住居跡出土遺物



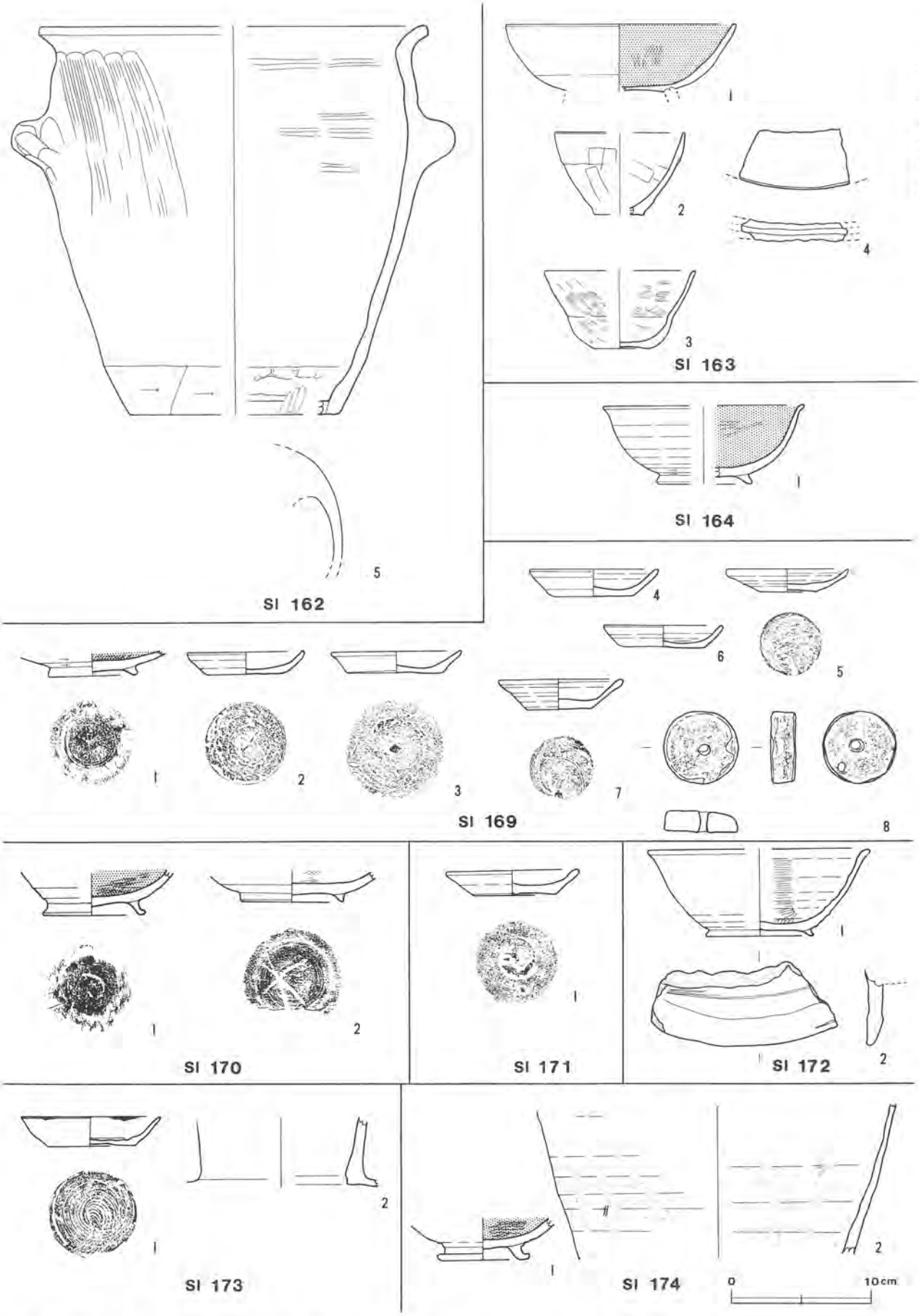
第405図　第111・113・114・115号住居跡出土遺物



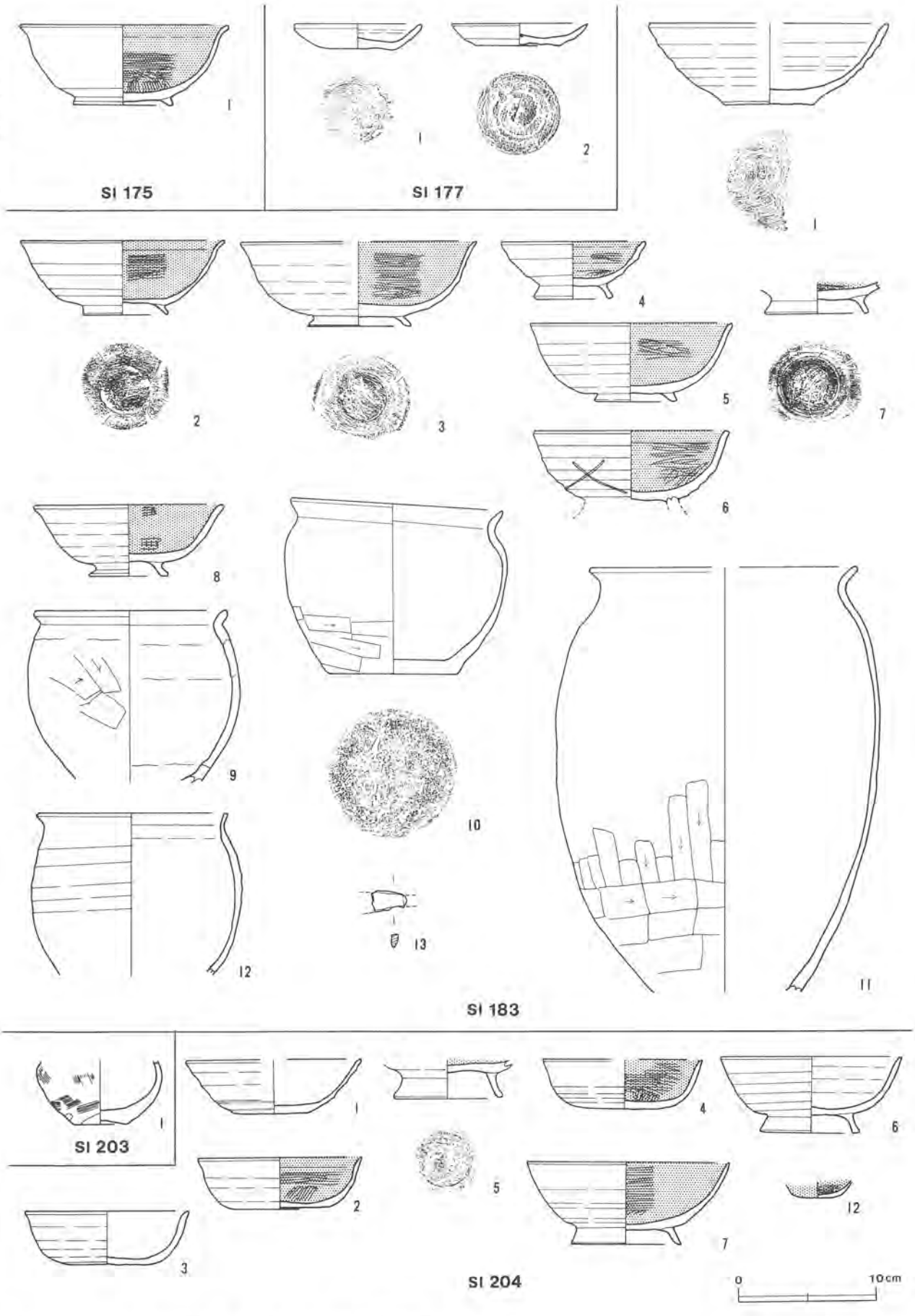
第406図　第115・116・118・124・128・129A・132号住居跡出土遺物



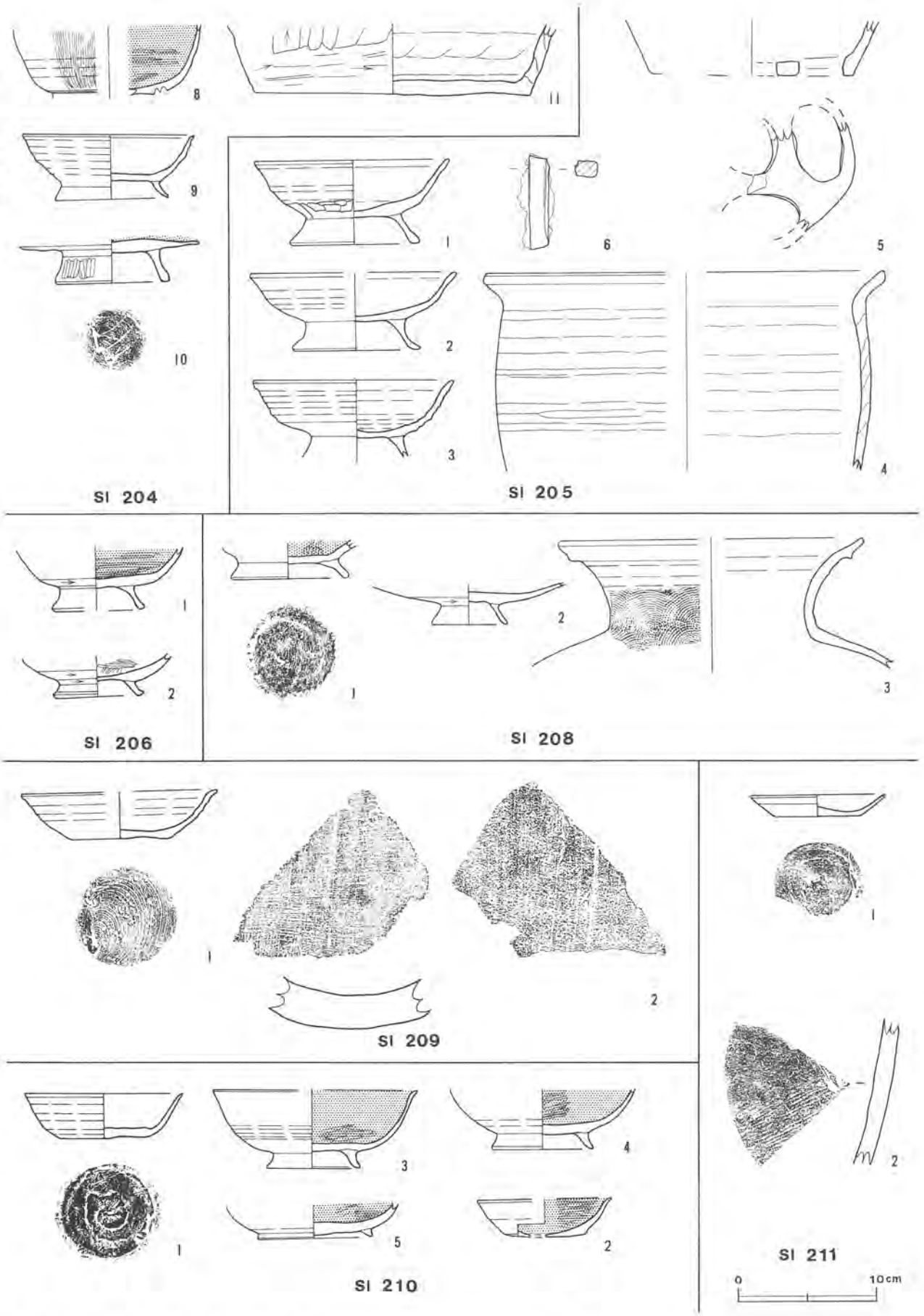
第407図　第135・151・155・162号住居跡出土遺物



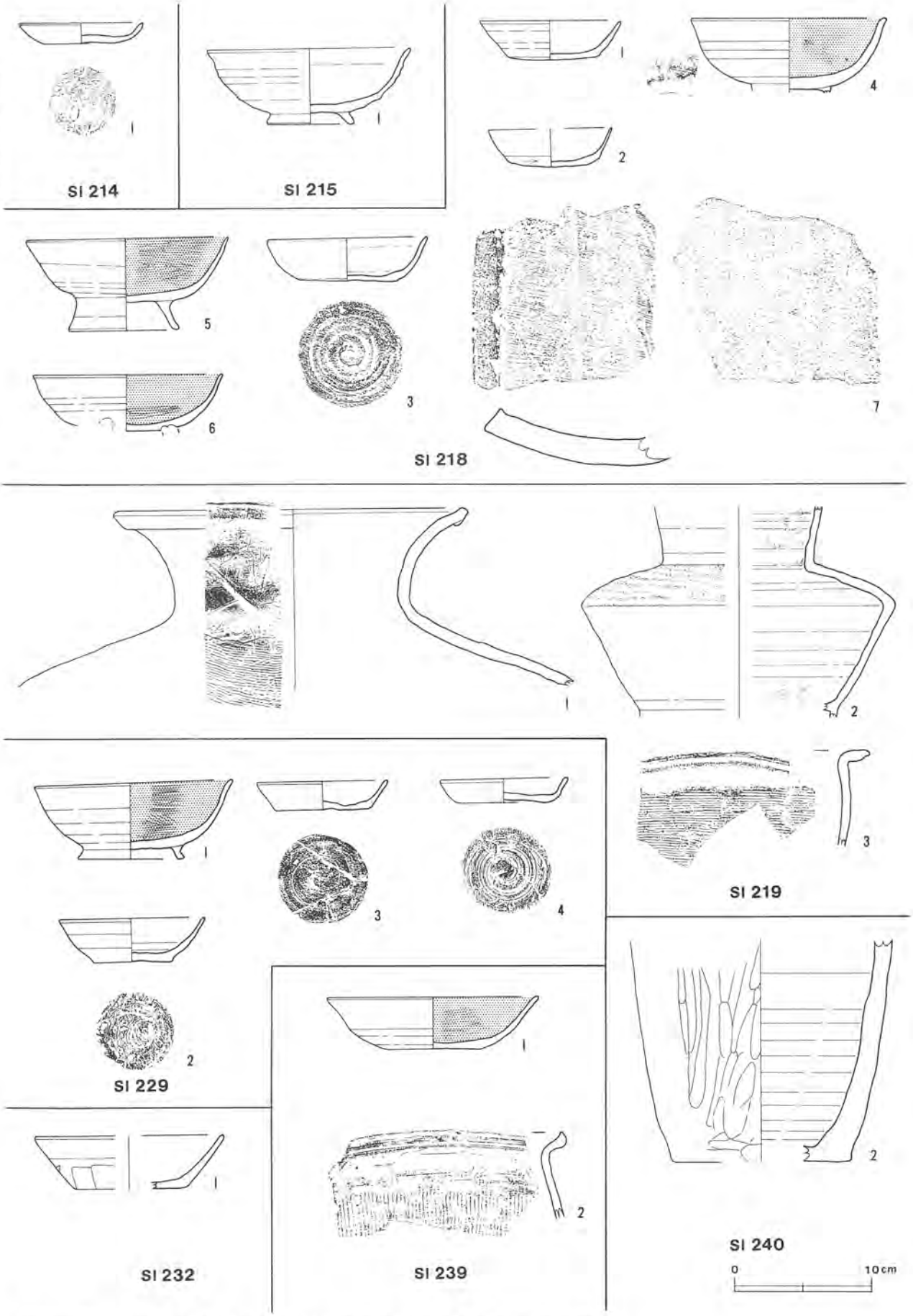
第408図　第162・163・164・169・170・171・172・173・174号住居跡出土遺物



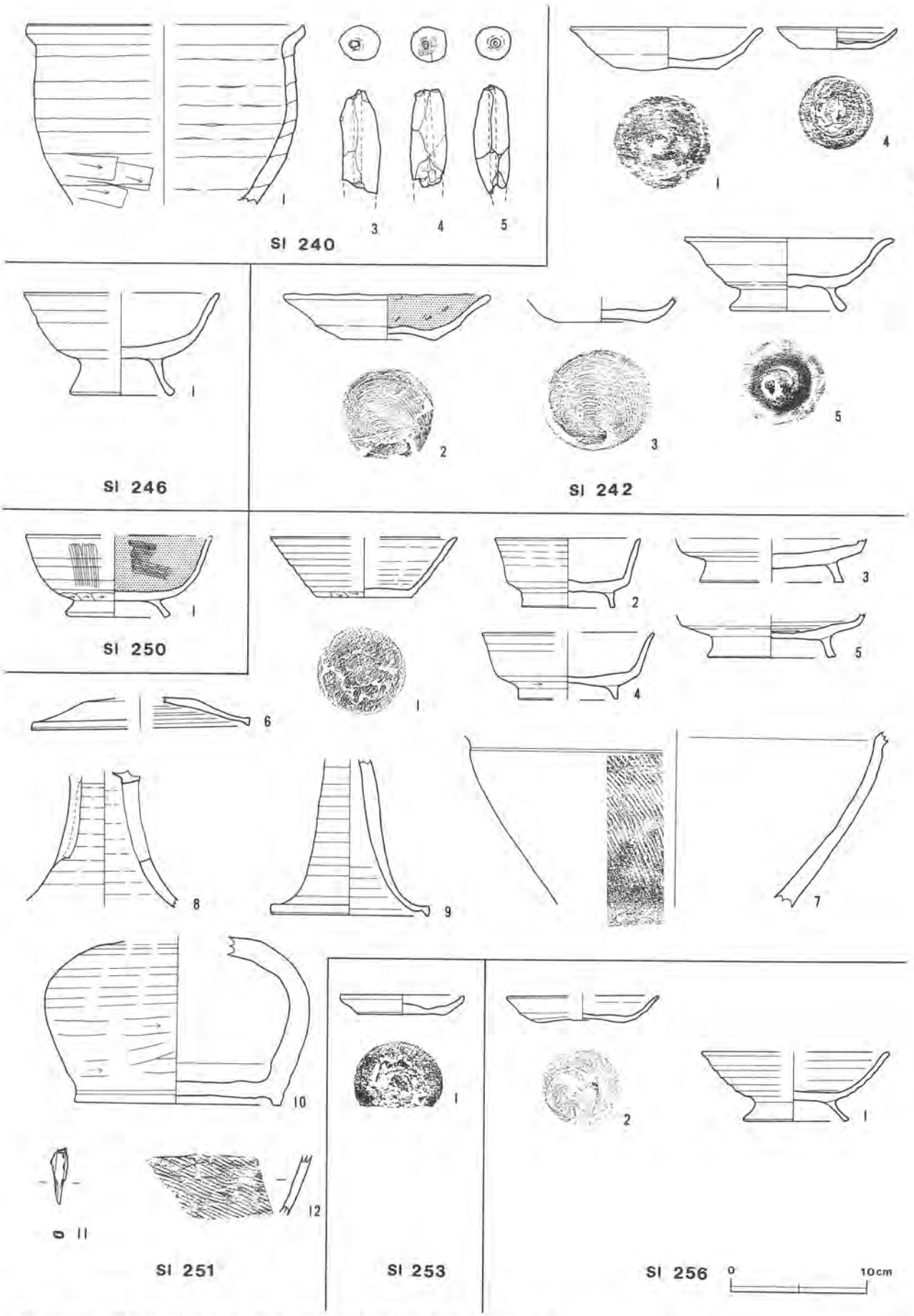
第409図　第175・177・183・203・204号住居跡出土遺物



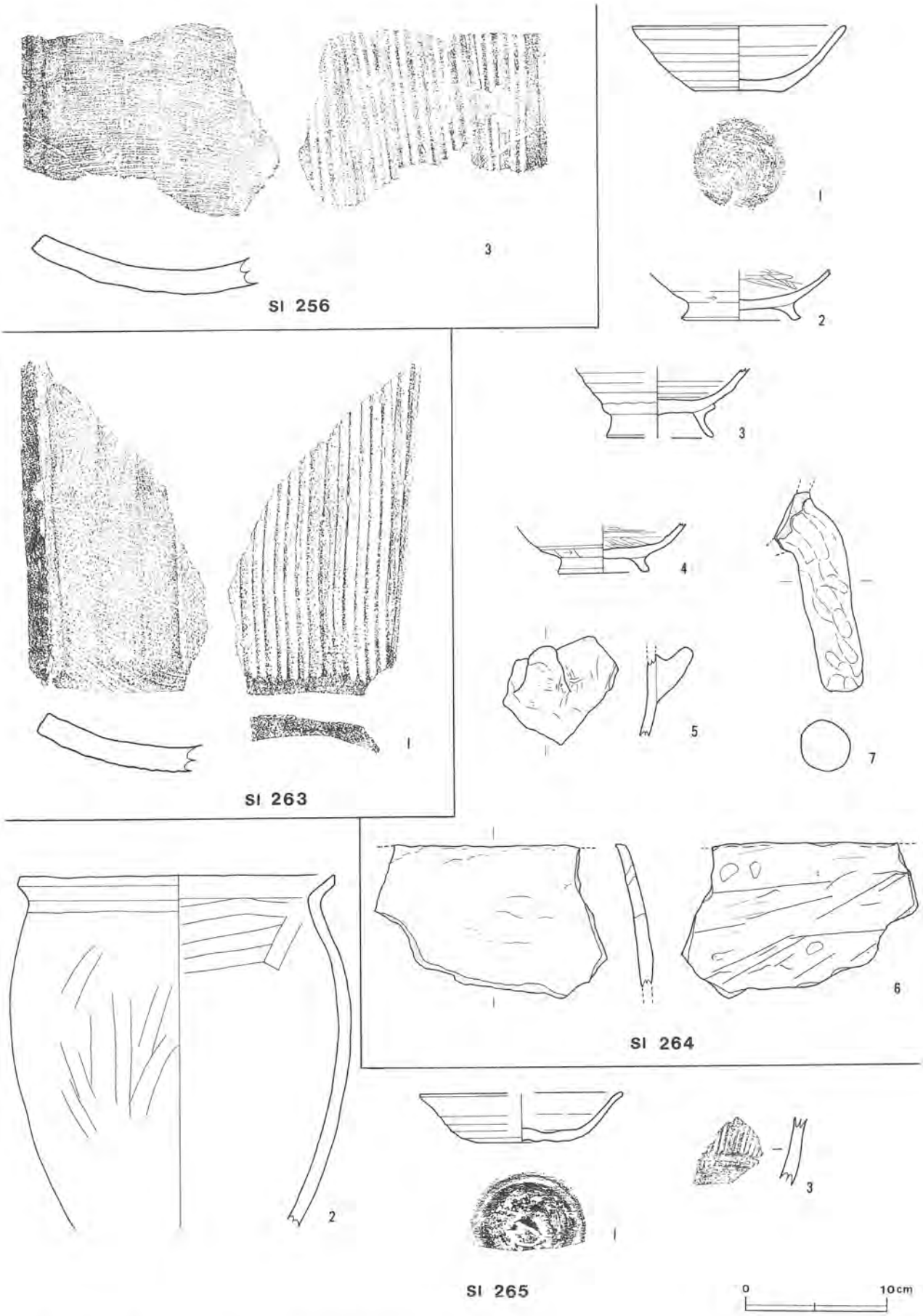
第410図　第204・205・206・208・209・210・211号住居跡出土遺物



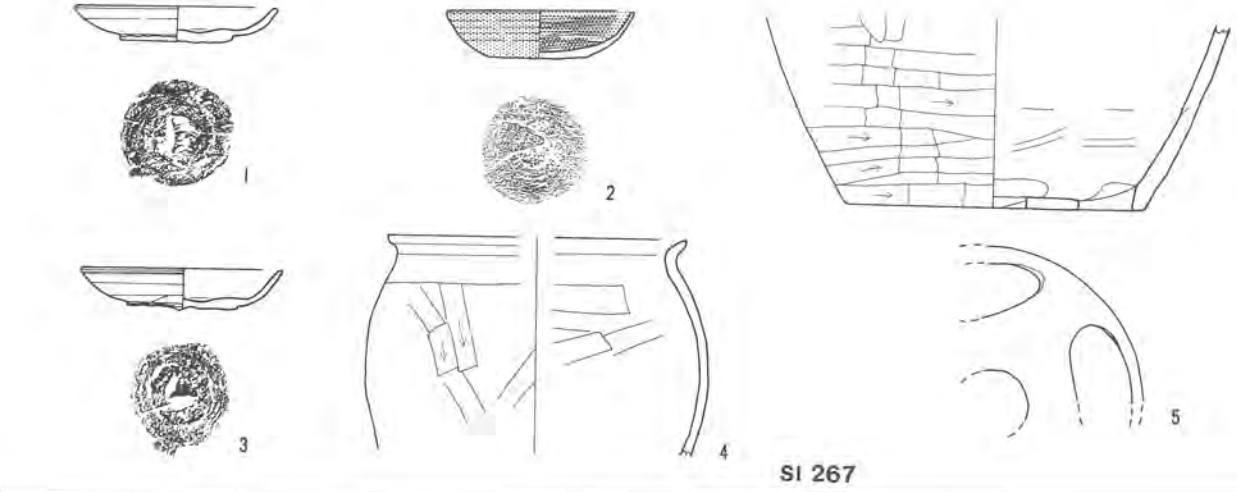
第411図　第214・215・218・219・229・232・239・240号住居跡出土遺物

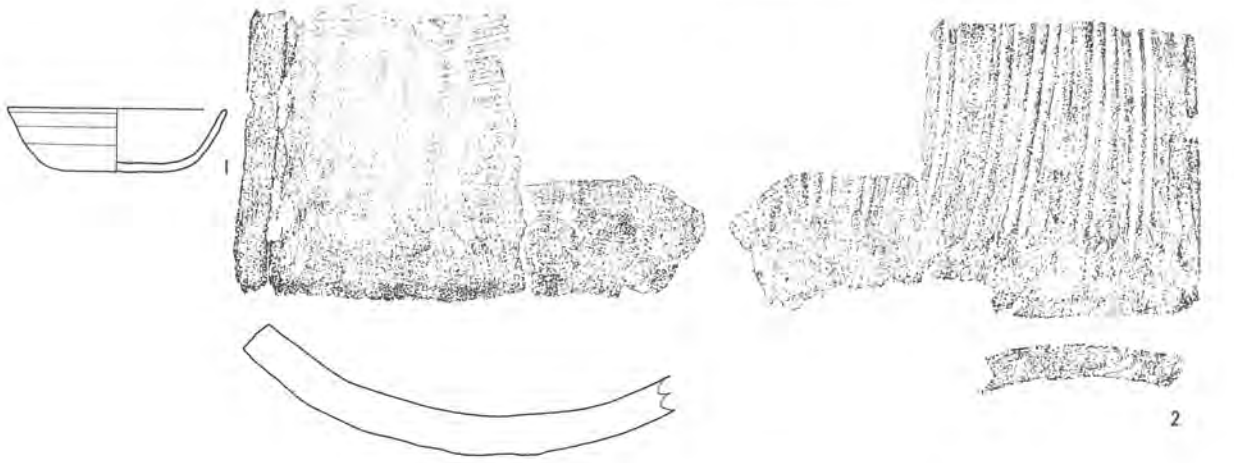


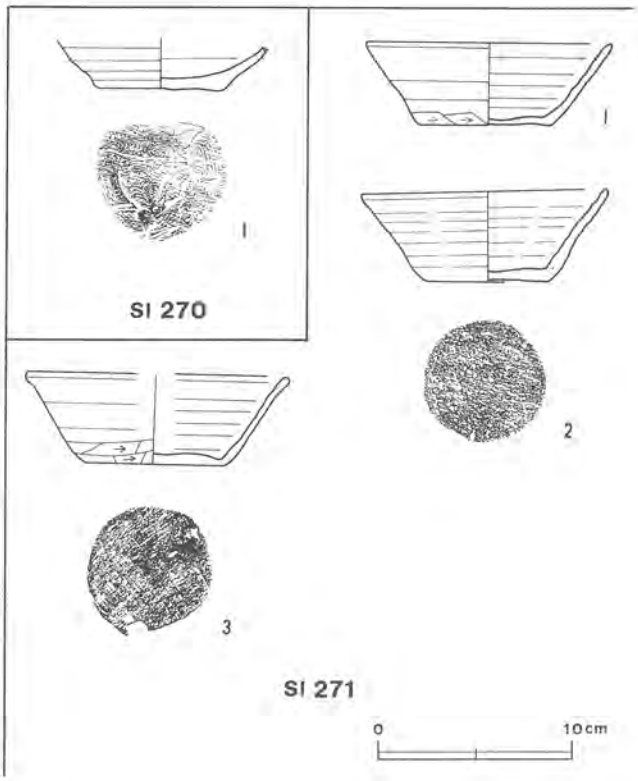
第412図　第240・242・246・250・251・253・256号住居跡出土遺物



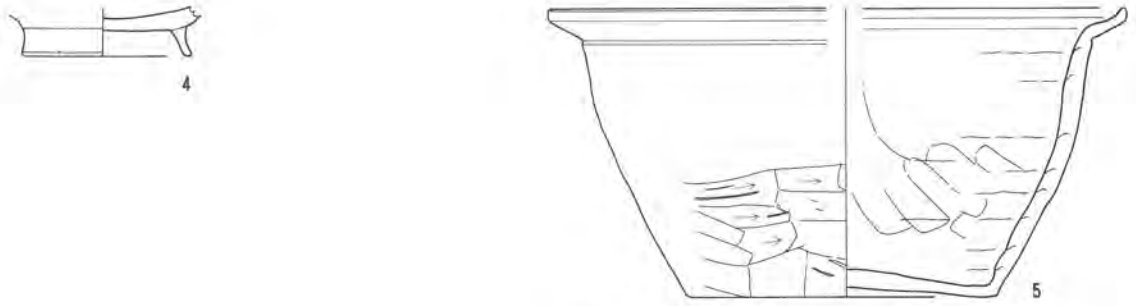
第413図　第256・263・264・265号住居跡出土遺物



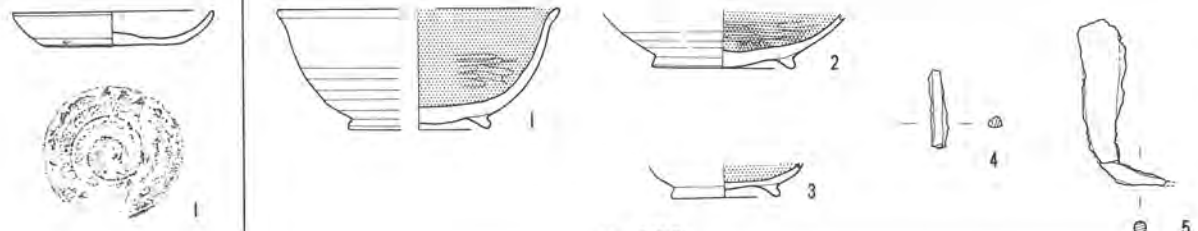




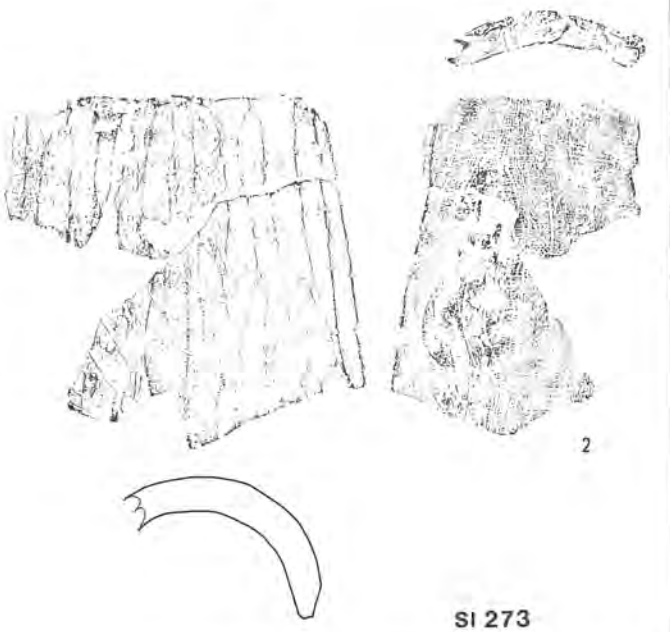
第414図　第267・269・270・271号住居跡出土遺物



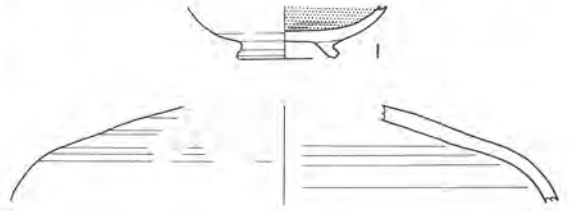
SI 271



SI 272

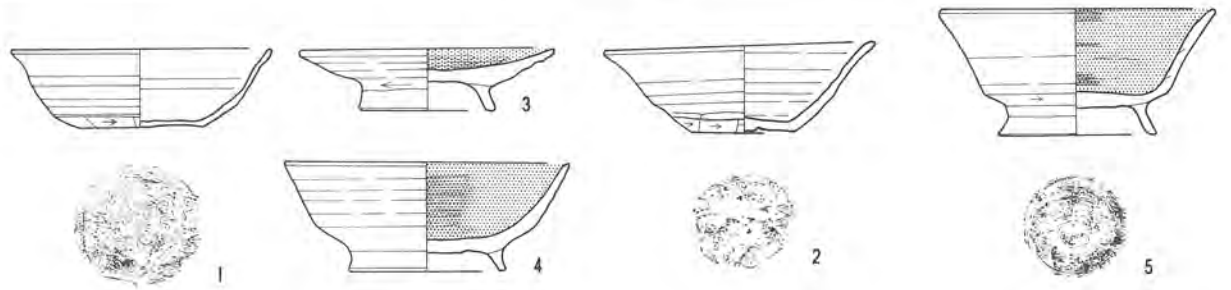


SI 273



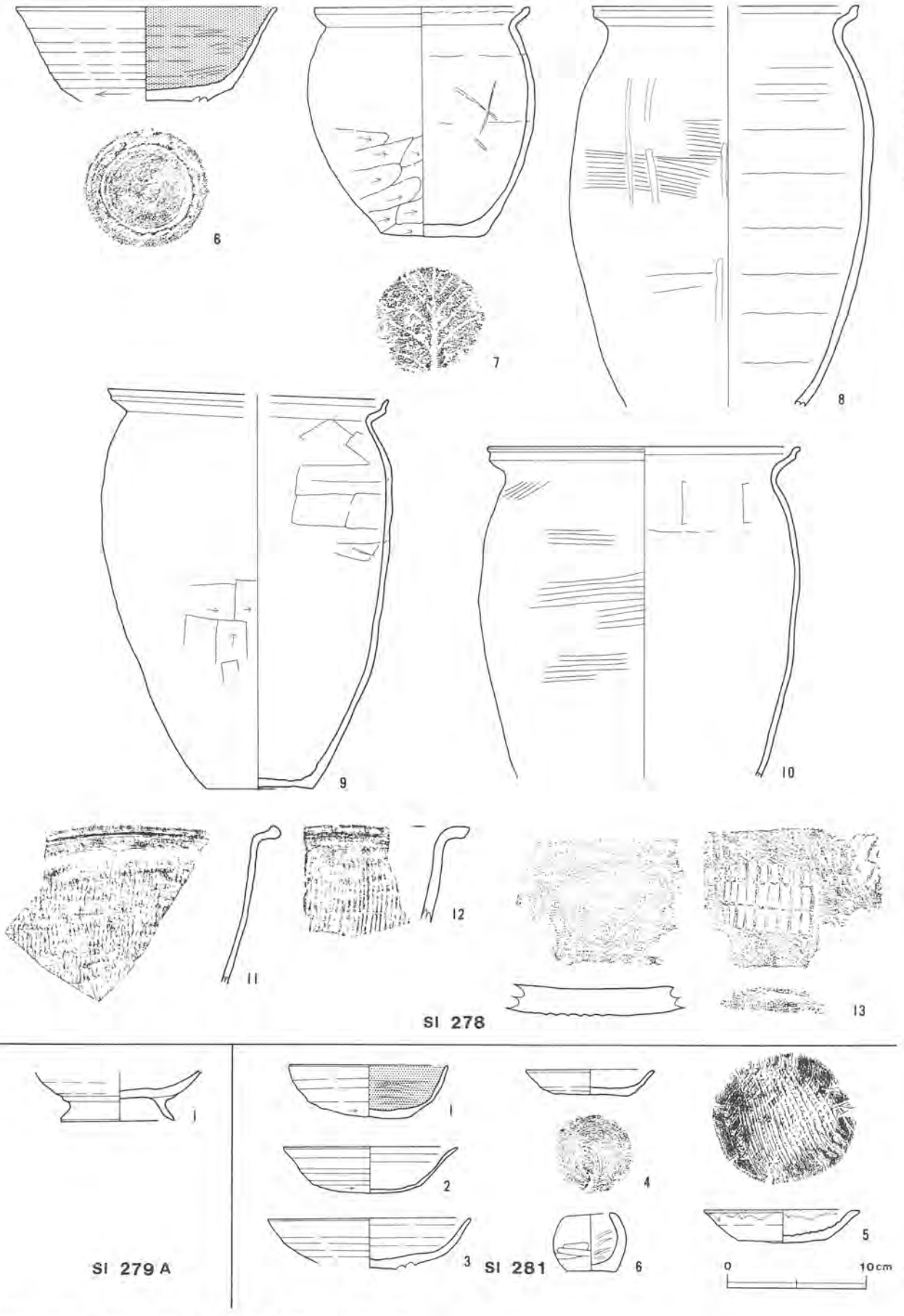
SI 274

SI 277

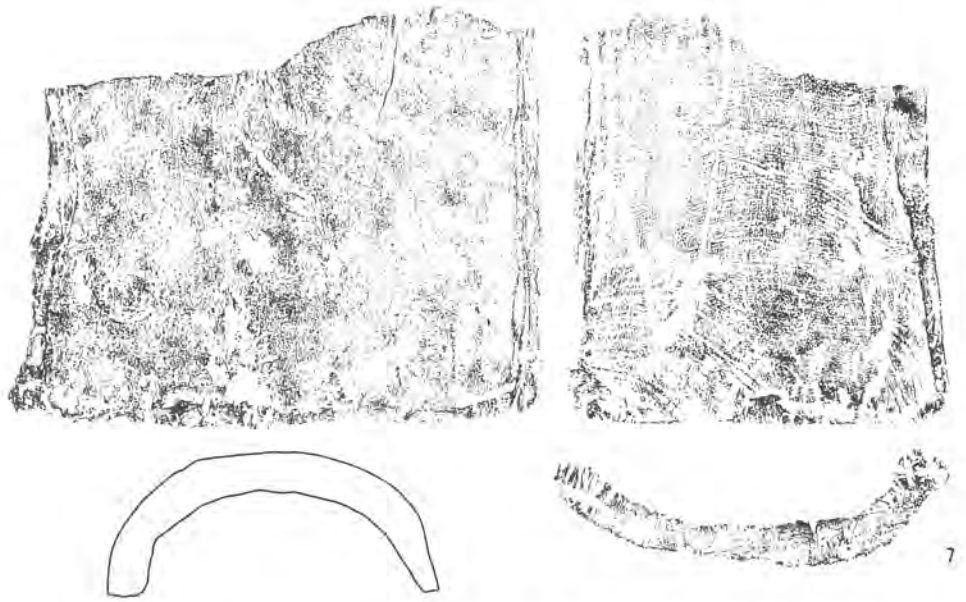


SI 278

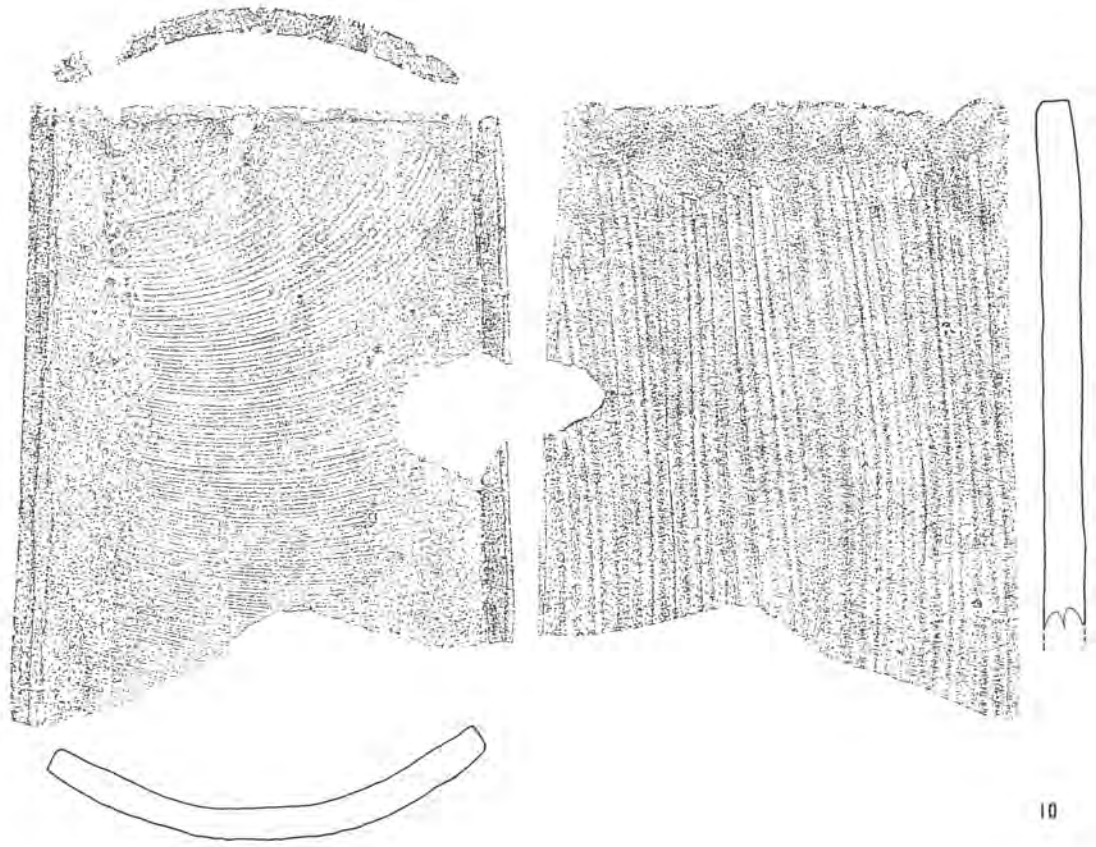
第415図　第271・273・274・277・278号住居跡出土遺物



第416図　第278・279A・281号住居跡出土遺物

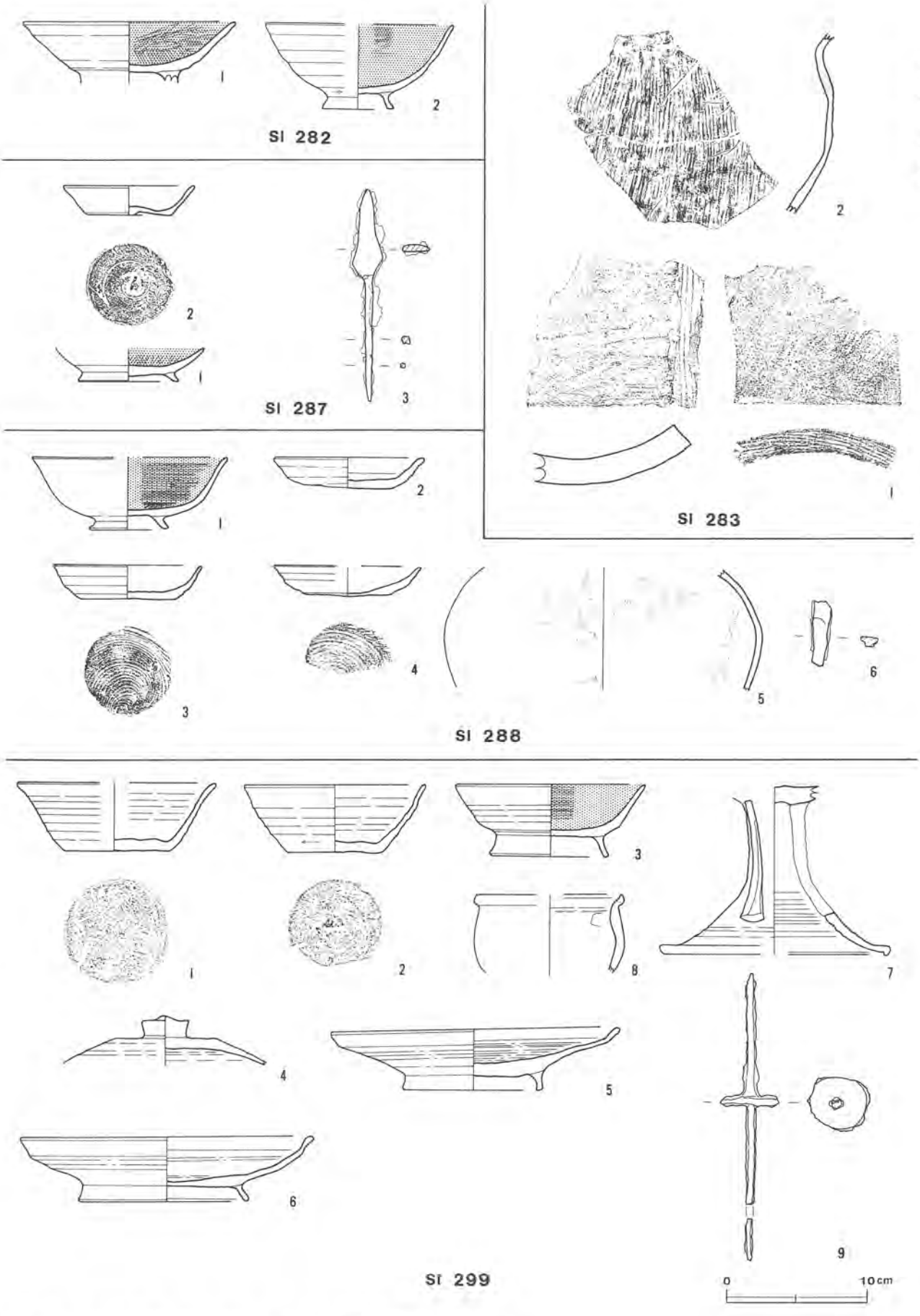


SI 281

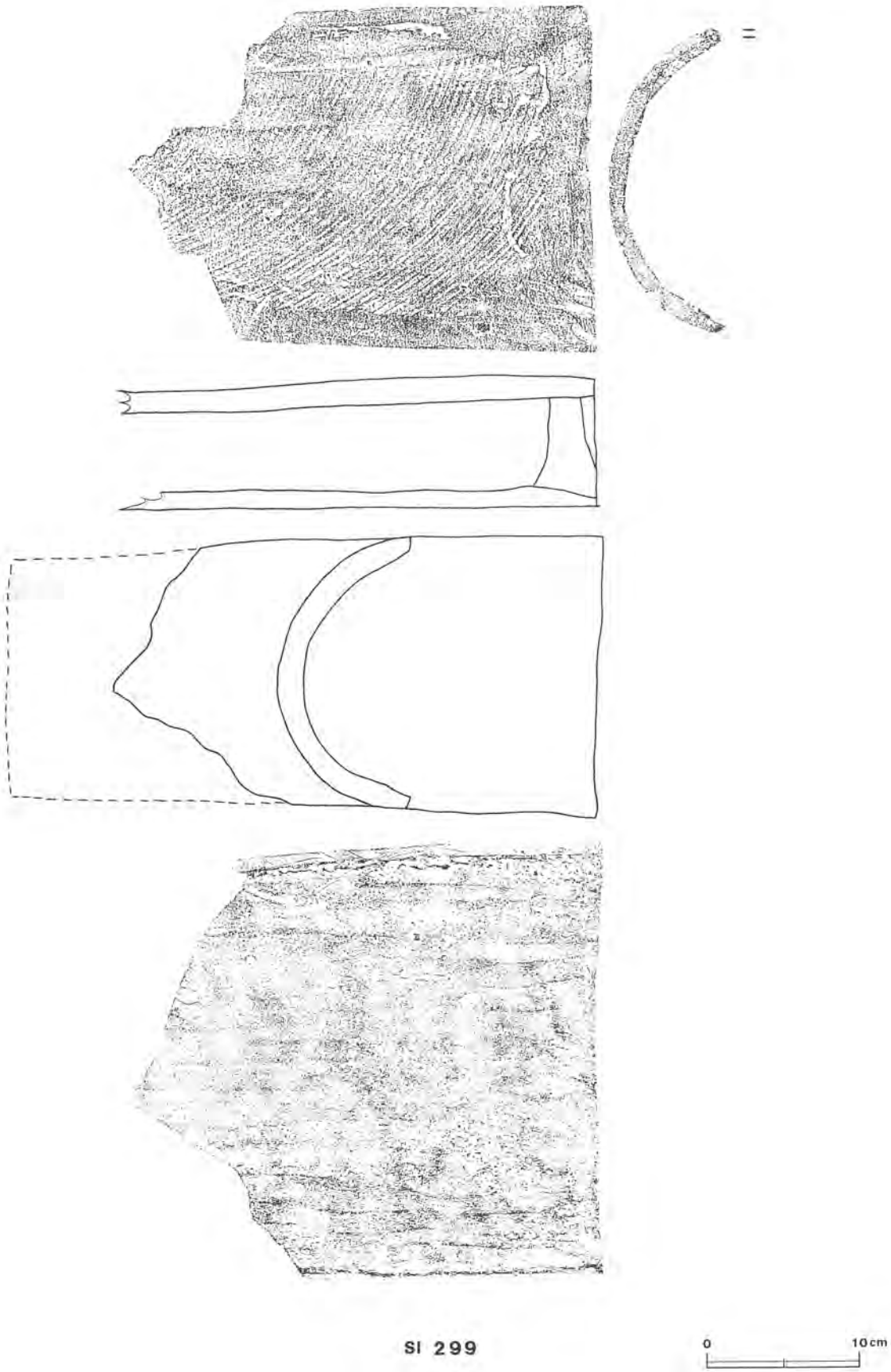


SI 299

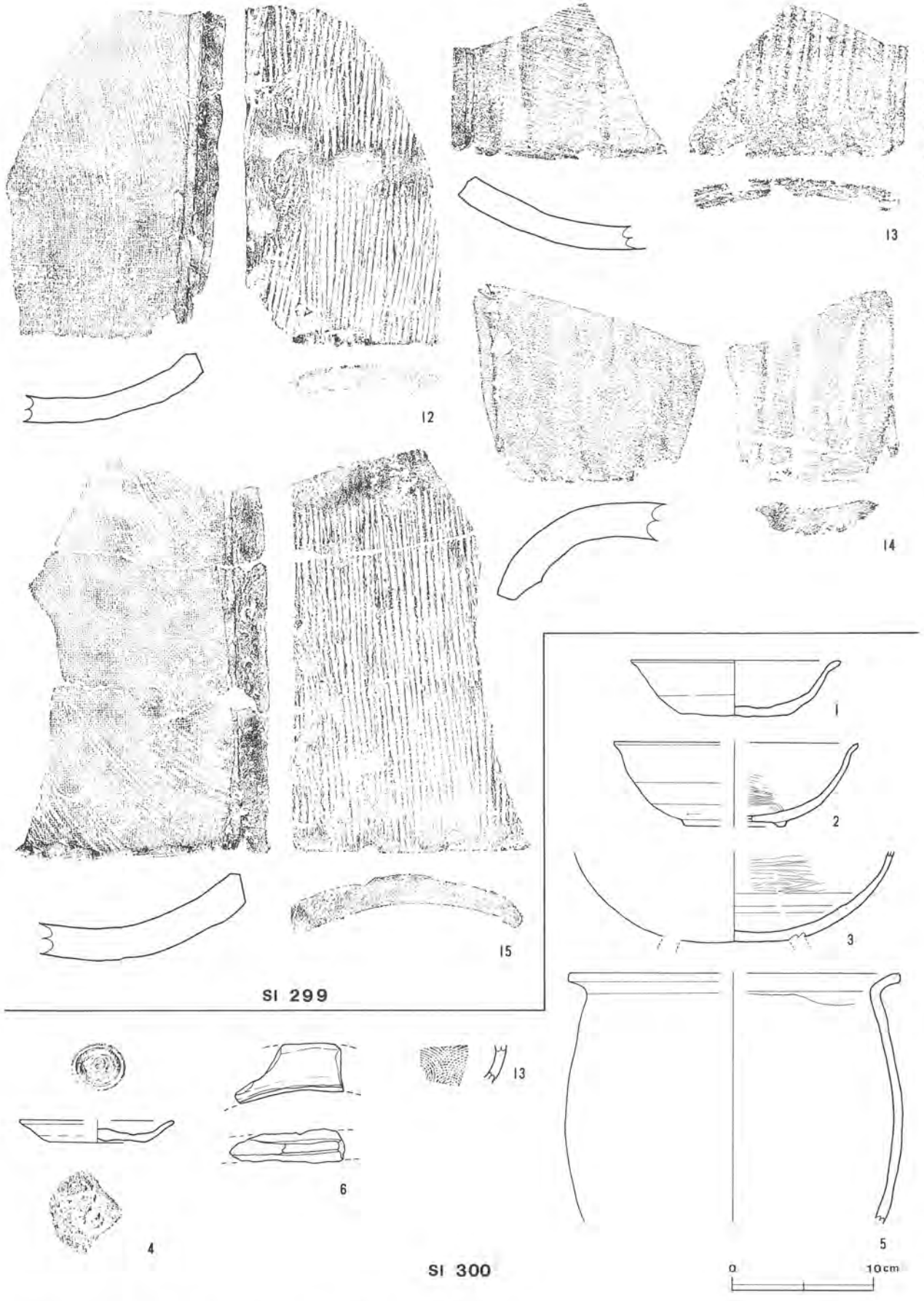
第417図　第281・299号住居跡出土遺物



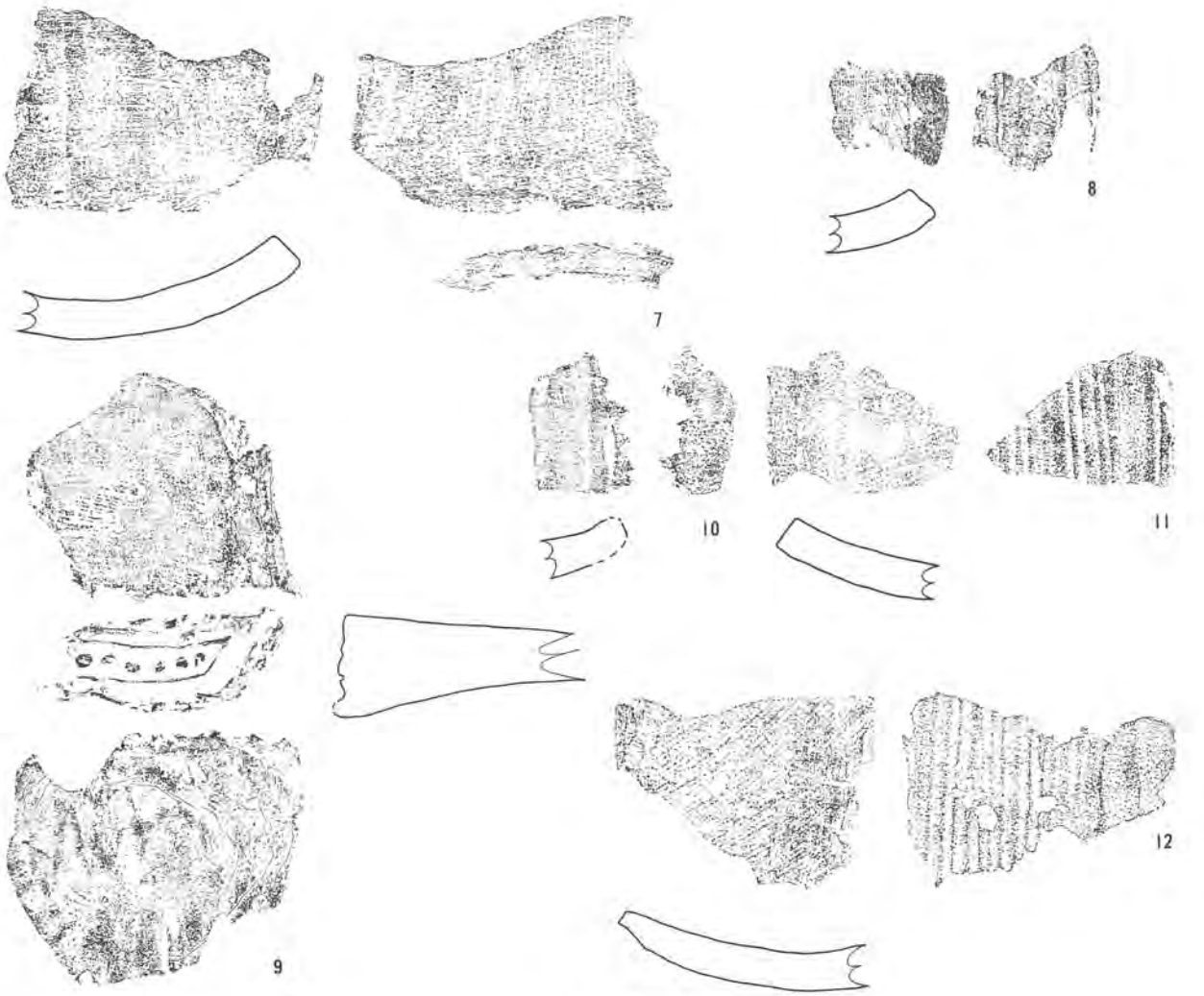
第418図　第282・283・287・288・299号住居跡出土遺物

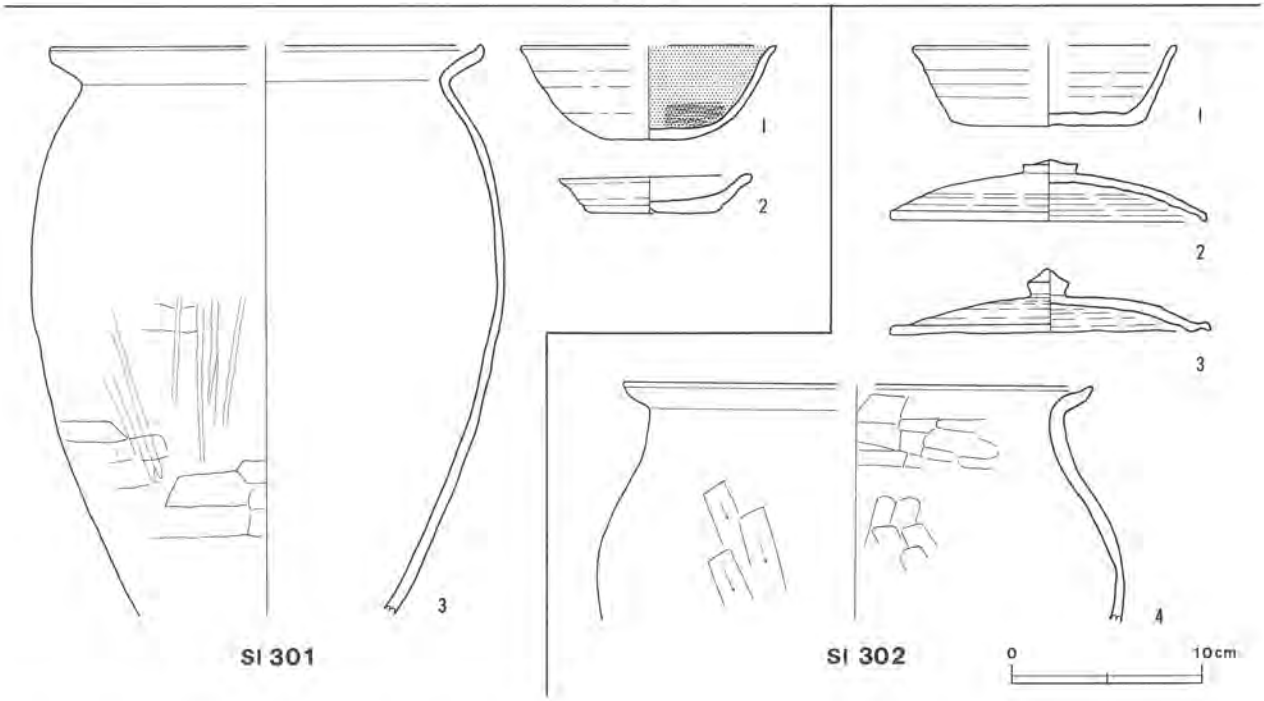


第419図　第299号住居跡出土遺物

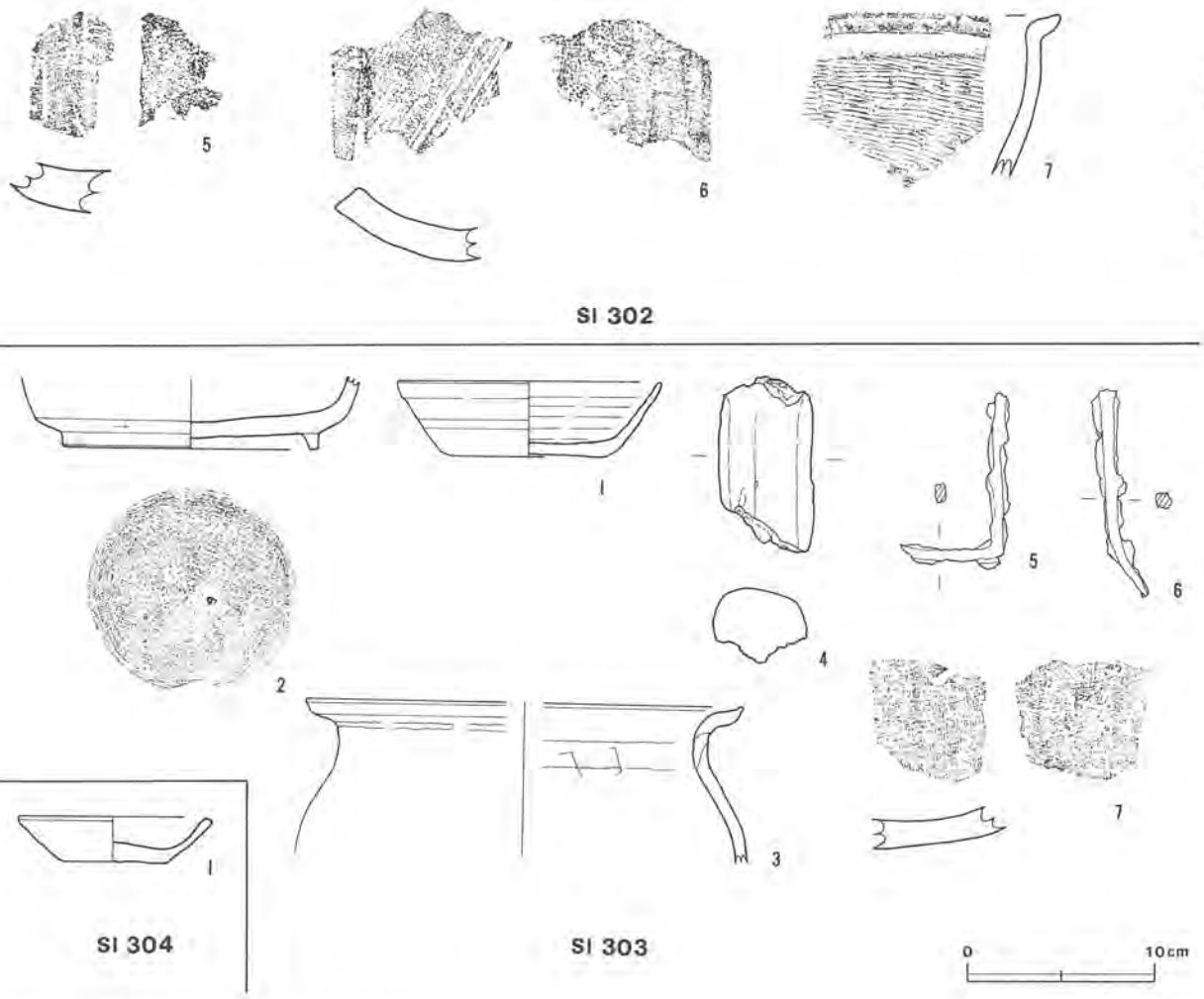


第420図　第299・300号住居跡出土遺物





第421図　第300・301・302号住居跡出土遺物



第422図　第302・303・304号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第397図 1	高台付坏 土師器	B (2.8) D 8.3 E 1.9	高台部は「ハ」の字状に開く。	高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・雲母 橙色 普通	P1 10% 北東部覆土
2	甕 土師器	A [20.3] B (8.5)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し，口唇部は外上方につまみ出す。	体部ヘラナデ。口縁部及び頸部横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 暗赤褐色 普通	P3 15%

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第397図 1	坏 土師器	A [16.2] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P14 30%
2	坏 須恵器	B (1.2) C [6.7]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り。	砂粒　灰色 普通	P7　10% 北東部覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高台付坏 土師器	B (2.1) D [7.4] E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P12 15％
4	高台付坏 土師器	B (3.3) D 7.4 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P11 30％
5	高台付坏 土師器	A [13.3] B 5.3 D 5.2 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き後黒色処理。体部は外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P9 40％
6	高台付坏 土師器	B (2.3)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P10 30％
7	蓋 須恵器	A [14.0] B (1.6)	天井部から口縁部にかけての破片。平らな天井部から緩やかに口縁部に至る。口唇部内面に弱いかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P8 30％ 北西部覆土
8	皿 土師質土器	A 11.0 B 2.6 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P4 70％
9	皿 土師質土器	A [10.5] B 2.8 C 6.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り無調整。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P5 60％
10	皿 土師質土器	A [10.4] B 3.0 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り無調整。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P6 40％
11	鉢 須恵器	A [31.3] B (6.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はつよく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P20 5％ 北西部覆土
12	装飾器台 土師器	B (2.5)	器受部の装飾用段片。	器受部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色普通	P15 10％
13	壺 土師器	A [20.4] B (4.6)	口縁部片。口縁部は有段口縁で大きく外反して立ち上がる。口唇部は平坦で溝状に凹む。	口縁部内・外面横ナデ。頸部縦位のナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P16 10％
14	甕 須恵器	B (5.3) C [19.0]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面平行タタキ目，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P21 10％ 北西部覆土
15	甕 土師器	A [14.4] B (13.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P17 60％
第398図 16	台付甕 土師器	B (12.1) D [10.8] E 6.3	台部から体部下半にかけての破片。台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり，球形状になると思われる。	台部外面弱い縦ハケ目整形，内面ナデ。体部外面縦・斜位のハケ目整形，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色(内面)・黒褐色(外面) 普通	P22 30％
17	台付甕 土師器	B (6.1)	台部から体部下半にかけての破片。台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	台部から体部外面縦位のハケ目整形，内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P23 20％
18	小形甕 土師器	A [7.6] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P19 30％ 二次焼成を受ける
19	手捏土器 土師器	A 3.5 B 3.3	平底。体部は直立気味に立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面粘土のつなぎ目の痕跡が見られる。底部「＋」の字状のヘラの痕跡が見られる。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P24 95％

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 1	坏 土師器	A 10.1 B 2.5 C 5.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母 明褐灰色 普通	P5180 100％
2	高台付坏 土師器	B (2.1) D [8.5] E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。底部内面焼土塊付着。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P27 20％ カマド
3	高台付埦 土師器	B (3.9) D 10.0 E [1.9]	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部摩滅が著しいが，内面黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒多し・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P26 40％
4	高台付坏 土師器	B (2.2) D 6.8 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部は内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P28 20％
5	皿 土師質土器	A [10.6] B 2.1 C [6.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 淡赤橙色 普通	P25 50％ 二次焼成を受ける
6	皿 土師質土器	A 9.9 B 1.9 C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。体部に粘土のつなぎ目痕が残る。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P31 90％ 粗製
7	鉢 土師器	A [33.4] B (8.7)	口縁部片。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面縦位のナデ。	砂粒・長石・雲母多い にぶい橙色 普通	P30 10％ カマド 二次焼成を受ける
8	甕 土師器	A [21.3] B (9.4)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。口唇部を上方によわくつまみ出す。	口縁部から頸部横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P33 10％

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 1	坏 土師器	A [15.6] B (4.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P34 20％ カマド内
2	坏 土師器	A [11.4] B (2.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P36 10％ カマド内
3	坏 土師器	A [9.8] B (3.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P37 10％
4	坏 土師器	A [16.0] B (4.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P35 10％
5	皿 土師質土器	A [7.2] B 1.8	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P39 100％ 灯明皿
6	高坏 土師器	A 12.0 B (7.8) E (3.8)	脚部下端以下欠損。坏部は内彎しながら立ち上がり口縁部に至る。脚部3孔。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P40 70％
7	甕 土師器	A [18.0] B (18.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のナデ，内面横位・縦位のナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P41 30％ 二次焼成を受ける
8	甑 須恵器	B (4.2) C [18.4]	底部片。多孔式。	体部下端ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 良好	P42 5％ カマド内 二次焼成を受ける

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 1	坏 土師器	A [13.6] B (3.7)	口縁部から体部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P43 10％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 2	高台付坏 土師器	B (2.0) D 7.5 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P44 30% 南東部覆土
3	高台付坏 土師器	B (4.0) D [8.0] E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P45 20% 二次焼成を受ける
4	高台付坏 土師器	B (1.8) D [6.4] E (1.0)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P47 20% 南東部覆土
5	皿 土師質土器	A 7.8 B 2.0	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P49 85% 南西部覆土
6	皿 土師質土器	A 6.7 B 1.9	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P48 80%
7	盤 須恵器	B (2.7) D [9.8] E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P50 10% 南東部覆土
8	器台 土師器	B (5.0)	脚部片。脚部3孔。	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目痕残る。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P51 15%
第399図 9	置きカマド	C [26.2]	底部から体部にかけての破片。	体部外面ヘラナデ，内面ナデ。外面摩滅，内面煤付着。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P52 10%
10	羽釜 土師器		鍔の一部分。	ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P53 5%

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A [13.7] B (4.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P54 35% 北西部覆土
2	高台付坏 土師器	B (2.0) D [8.5] E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端ヘラによる凹みが巡り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P56 10%

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A [13.9] B 5.0 C [5.0]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P57 35%
2	坏 須恵器	B (3.0) C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端手持ちヘラ削り，底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P58 50% 墨書「大井」
3	高台付坏 須恵器	B (1.7) D [7.0] E 1.0	平底。高台は直立する。	高台貼り付削り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 暗青灰色 不良	P59 10% 北西部覆土
4	皿 土師質土器	A 8.8 B 1.8 C 4.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ。底部に台状物貼り付け後回転糸切り。	砂粒・長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P60 55% 北西部覆土
5	高坏 土師器	B (5.6) D 9.0 E 3.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎しながら立ち上がる。	坏部との接合部に粘土輪積み痕残る。脚裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P61 50%
6	高坏 土師器	B (7.1)	脚部はラッパ状に開き，裾部で大きく外傾する。脚部4孔。坏部は内彎しながら立ち上がる。	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P62 30%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 7	器台 土師器	B (4.5)	脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き，内面ハケ目状の圧痕が残る。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P63 25％
8	甕 須恵器	A [24.0] B (2.3)	口縁部片。	口縁部外面格子目タタキ後横ナデ，内面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 良好	P65 5％ 南西部覆土
9	甕 土師器	B (14.3) C 6.3	平底。底部外周部に台状に貼り付け。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形，内面ハケ目整形後ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P64 20％
10	甑 須恵器	C [16.8]	底部片。多孔式。	体部外面下端横位のヘラ削り，内面ヘラナデ。孔の間に１条の沈線有り。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P66 5％ 南東部覆土

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A [14.7] B (4.7)	口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P68 10％ 覆土
2	坏 土師器	A [15.4] B (4.1)	口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P69 10％ 覆土
3	坏 須恵器	A [13.3] B (4.1)	口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母多し 褐灰色 普通	P67 10％ 覆土
4	長頸瓶 須恵器	B (7.1) D [7.6]	平底で高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。体部外面ヘラ削り後横ナデ。内面横ナデ。外面に自然釉がかかる。	緻密 灰白色 良好	P70 20％

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	高台付坏 土師器	B (2.4) D [6.4] E 0.5	丸底気味の平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P84 20％ 北東部覆土

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A [14.8] B (3.4)	体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P85 20％ 覆土
2	坏 土師器	B (1.9) C 7.7	底部片。平底。	底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P86 15％ 南西部覆土
3	高台付坏 土師器	B (2.3) D 7.2 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P87 20％ カマド
4	皿 土師質土器	A [9.9] B 1.9 C 6.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P88 50％ 覆土
5	甕 土師器	A [23.9] B (10.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面指によるナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。体部外面器面調整雑。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P90 20％ カマド

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	皿 土師質土器	A [9.8] B 1.7 C 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P91 50％

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	坏 土師器	A [12.7] B 4.0 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後雑なナデ。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P93 60％ カマド内覆土
2	埦 土師器	A [13.8] B 6.0	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P94 30％ 南東部覆土
3	甕 土師器	C 13.8	底部片。平底。	外面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P98 15％ カマド内覆土
4	甕 土師器	A [27.2] B (8.3)	体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ後縦位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P97 5％ カマド内覆土

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	坏 土師器	A [15.7] B (4.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	体部外面横ナデ，水引き痕明瞭。内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P100 35％
2	高台付坏 須恵器	B (1.6) D 7.5 E 1.0	高台部片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P102 20％
3	高台付坏 須恵器	B (2.0) D [9.6] E 0.9	高台部片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 灰色 普通	P103 10％ 南西部覆土
4	皿 須恵器	A [13.6] B (1.4)	体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P101 40％
5	鉢 土師器	B (3.3) C [12.1]	底部片。体部は外傾して立ち上る。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P109 10％
6	甕 土師器	A [12.6] B (4.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。口唇部は上方に弱くつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕残る。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P108 10％
7	甕 土師器	A [15.3] B 22.0 C 10.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。口唇部は上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P105 70％
8	甕 土師器	A [15.2] B (7.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。口唇部は上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，内面に輪積み痕残る。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P107 15％
9	甕 土師器	A [20.5] B (11.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ痕あり，内面ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P106 40％
10	甑 須恵器	B (24.4) C [14.3]	多孔式。体部は外傾して立ち上がり頸部で弱く内彎する。	体部下端外面平行叩き，外面下端ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P110 35％ 還元弱い

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	高台付坏 土師器	A [14.3] B 6.1 D 7.2 E 1.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P117 60％ 覆土
2	高台付坏 土師器	B (2.5) D 7.8 E 1.7	高台部片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。高台接地面凹む。	底部回転ヘラ切り，内面ヘラナデ。高台貼り付け後ナデ。高台外面に明瞭な横ナデ痕残る。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P118 15％ カマド覆土

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	坏 土師器	A 12.3 B 3.9 C 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P148 70％
2	高台付坏 土師器	A [14.6] B (4.2)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P149 30％

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 土師器	A 12.9 B 3.8 C [7.2]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P190 60％ 二次焼成を受ける
2	坏 土師器	A [13.5] B 4.0 C [6.4]	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P191 30％ 南東部覆土
3	高台付坏 土師器	B (2.2) D [7.0] E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P192 20％ 南東部覆土
4	甕 土師器	A [19.2] B (6.0)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し，口唇部は上方向に弱くつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。頸部にナデ付けによる盛り上がりが見られる。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P193 10％
5	甕 須恵器	B (24.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する	体部外面平行叩き目，内面ナデ。外面上位に自然釉。	砂粒・長石 灰色 普通	P194 20％

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B 5.5 D 8.0 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P222 100％
2	高台付坏 土師器	A 13.8 B 5.9 D 7.0 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。二次焼成受け赤化。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P221 100％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 3	高台付坏 土師器	A 13.9 B 5.5 D 6.4 E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部は及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P223 95％
4	皿 土師質土器	A 11.0 B 2.8 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P224 100％
5	皿 土師質土器	A 10.8 B 3.6 C 4.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，体部下端外面回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P226 20％
6	皿 土師質土器	A 11.2 B 2.6 C 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P225 100％
7	甕 土師器	A [19.6] B (13.0)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外傾する。口唇部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P227 15％

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	高台付坏 土師器	B (2.6) D [6.4] E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P228 15％

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 土師器	A [16.5] B 5.6 C [9.0]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P229 30％
2	高台付坏 土師器	B (2.5) D 6.0 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部下端外面ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P230 20％

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 土師器	A 11.6 B 3.8 C 6.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P233 80％
2	坏 土師器	A 11.7 B 3.6 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部ヘラ削り後ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P234 70％ 体部外面墨書「□」
3	坏 土師器	A [11.6] B 3.3 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P235 40％
4	坏 土師器	A [10.6] B 3.2 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り無調整。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P236 40％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 5	高台付坏 土師器	B (5.2) D 6.9 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部内面黒色処理。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P238 40%
6	高台付坏 土師器	B (2.2) D 9.6 E 2.2	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部下端に稜をもつ。	底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P241 20%
7	高台付坏 土師器	A [15.2] B 5.2 D 7.4 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。内面黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P237 50%
8	甑 須恵器	B (8.0) D [22.2]	多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 灰黄褐色 普通	P243 10%

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	高台付坏 土師器	A [15.0] B 5.0 D [6.9] E 1.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端外面回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P244 60%
2	皿 土師器	A 10.2 B 2.3 C 6.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P245 70%
3	甕 土師器	B (2.5) C 4.9 孔径 2.2	平底。底部穿孔。		砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P247 10% 北西部覆土

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	坏 土師器	A [16.1] B 4.2 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P249 40%
2	坏 土師器	A 14.9 B 3.2 C 8.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P248 60%
3	高台付坏 土師器	A 17.1 B 5.6 D 9.5 E 2.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P250 90%
4	高台付坏 土師器	B (3.0) D 7.3 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P251 30%
5	皿 土師質土器	B (1.6) C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P252 60% 確認面

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	坏 土師器	A 15.1 B 4.0 C 7.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	雲母・スコリア多 橙色 普通	P261 100%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 2	坏 土師器	A [14.0] B 4.0 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P263 60％
3	高台付坏 土師器	A [9.2] B 3.2 D [5.2] E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	雲母・スコリア 橙色 普通	P266 40％
4	高台付坏 土師器	A 14.9 B 6.1 D 7.5 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く低い高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き・ヘラ先状の磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P265 90％
5	皿 土師質土器	A 9.6 B 1.9 C 4.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P262 100％
6	長頸瓶 須恵器	B (3.0) D [7.6]	平底で高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・スコリア 灰色 普通	P268 5％ 南東部覆土

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	坏 土師器	A [16.2] B 3.6 C 5.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P292 50％
2	坏 土師器	A 14.3 B 3.6 C 5.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P293 50％
3	高台付坏 土師器	A [15.7] B 6.2 D 4.9 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面及び体部外面横ナデ 体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P294 40％
4	皿 土師質土器	A 9.5 B 2.6 C 5.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P298 80％
5	皿 土師質土器	A 10.0 B 1.2 C 5.3	平底。口縁部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P297 100％
第403図 6	甕 土師器	A 10.8 B (31.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は強く外反する。最大径を体部上位にもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ，下位ヘラ削り。	砂粒・礫・長石・雲母 褐色	P299 80％

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	高台付坏 土師器	A [16.0] B 6.0 D [7.4] E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P424 30％ 北西部覆土

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	高台付坏 土師器	A [17.2] B 6.8 D 7.2 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒 にぶい橙色 普通	P425 40％ 西側覆土
2	高台付坏 土師器	B (4.6) D 7.2 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P426 40％
3	皿 土師質土器	A 8.8 B 2.2 C 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P430 50％
4	皿 土師質土器	A 9.1 B 2.1 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P429 100％

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	坏 土師器	A 11.9 B 4.2 C 5.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P441 100％ カマド内
2	坏 土師器	A [12.5] B 3.6 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P442 50％ カマド内
3	坏 土師器	A [14.0] B (4.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P443 20％
4	高台付坏 土師器	A 13.6 B 6.0 D 7.8 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P445 95％ カマド内

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	坏 土師器	B (1.3) C 6.3	底部片。平底。	底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P447 10％ 確認面
2	高台付坏 土師器	A 14.7 B 5.3 D 7.4 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P448 70％ 覆土
3	高台付坏 土師器	B (5.2) D 7.8 E 1.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ，内面黒色処理高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P449 40％ 覆土
4	長頸瓶 須恵器	B (3.0) D [8.2] E 1.0	平底で高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒 黄灰色 普通	P450 5％

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	高台付坏 土師器	B (4.2) D 7.9 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 良好	P452 20%

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	埦 土師器	A 17.8 B (6.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P455 70% カマド
2	高台付埦 土師器	A 18.2 B 6.6 D 8.0 E 0.8	丸底気味の平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 良好	P456 80% 貯蔵穴覆土
3	高台付埦 土師器	B (4.1) D 8.0 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・細雲母・スコリア 橙色 普通	P457 20%

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	坏 土師器	A 14.7 B 4.1 C 6.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P458 95%
2	坏 土師器	A [16.4] B 3.6 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P459 60%
3	坏 土師器	A [14.9] B 4.1 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P460 40%
第403図 4	高台付埦 土師器	B (6.2) D 6.6 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下位回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P464 80%
5	高台付坏 土師器	B (2.1) D 7.1 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P466 15%
6	高台付坏 土師器	B (2.8) D 7.8 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・細雲母 にぶい橙色 普通	P465 15%
7	皿 土師質土器	A 9.5 B 1.8 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P470 80%
8	皿 土師質土器	A 10.0 B 2.0 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P467 100%
第404図 9	皿 土師質土器	A 10.2 B 2.2 C 5.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。口縁部に歪み有り。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P468 80%
10	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.0 C 5.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P469 90%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 11	甕 土師器	A [17.0] B (9.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラナデ，内面横位のナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P471 10%
12	甑 土師器	A 23.2 B 30.2 C 10.3 孔径 8.7	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部で外反する。粗製。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面横位のナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P474 95%
13	甑 土師器		角状の把手。	外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P473 5%
14	置カマド	B (21.0) C [36.0]	円筒形のカマドの側片。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラナデ，内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P476 10%

第110号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	坏 土師器	A 11.9 B 3.1 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P487 60%
2	高台付坏 土師器	B (2.0) D [6.2] E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 浅黄橙色 普通	P489 20% 覆土
3	高台付坏 土師器	B (1.9) D 6.4 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P488 20% 覆土
4	皿 土師質土器	A 11.0 B 2.1 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P490 100%
5	皿 土師質土器	A [9.2] B 1.6 C [6.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P491 50% 南東部覆土

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	坏 土師器	A 15.8 B 3.4 C 8.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P493 60%
2	坏 土師器	A [14.1] B 3.1 C [7.1]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P511 40%
3	坏 土師器	B (1.0) C 7.5	平底。	底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P516 15%
4	高台付坏 土師器	B (2.7) D 7.0 E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P496 20%
5	高台付坏 土師器	B (2.6) D 8.6 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P498 20%
6	高台付坏 土師器	B (2.1) D 6.0 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ	細砂粒・雲母 橙色 普通	P500 10%
7	高台付坏 土師器	B (1.9) D 5.4 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P497 10%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 8	皿 土師質土器	A 11.6 B 2.4 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P504 100％
9	皿 土師質土器	A 9.9 B 1.8 C 5.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P506 100％
10	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.0 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P505 100％
11	皿 土師質土器	A 10.0 B 1.8 C 6.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P507 100％
12	皿 土師質土器	A 9.8 B 1.9 C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P508 100％
第405図 13	皿 土師質土器	A 10.3 B 1.7 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P509 100％
14	皿 土師質土器	A 9.6 B 2.0 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P510 95％
15	皿 土師質土器	A 10.0 B 1.6 C 5.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P512 55％ 西側覆土
16	皿 土師質土器	A [8.9] B 1.7 C [6.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P515 30％
17	皿 土師質土器	A [9.6] B 1.8 C 5.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P513 50％
18	皿 土師質土器	A [10.2] B 2.8 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P514 40％
19	耳皿 土師質土器	長径 (9.4) 短径 [7.9] B 3.2 D 5.1 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部で折り曲げられている。	口縁部及び体部ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。高台内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 黒色 普通	P517 60％
20	壺 須恵器	B (7.9)	口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P519 5％ 湖西産
21	置カマド	A 31.4 B 28.6 C 38.2	円筒形。体部は底部から内彎しながら，中位をふくらませて立ち上がり，口縁部に至る。炊き口部に庇貼り付け。底部から18.4cmの所に円形の窓が穿たれる。	体部外面ナデ，内面ヘラナデ。体部外面下端及び炊き口部庇指頭圧痕。口縁端部及び炊き口端部ヘラ切り。内面に使用痕あり。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P521 80％

第113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	皿 土師質土器	A 8.6 B 1.6 C 4.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P524 100％

第114号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	皿 土師質土器	A [9.2] B 1.8 C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P526 60％

第115号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.1 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P527 40％
2	高台付坏 土師器	B (4.6) D 6.9 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる	体部外面横ナデ，下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 良好	P530 50％
3	高台付坏 土師器	B (3.0) D 9.0 E 2.3	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。	底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P531 20％ 北西部覆土
4	高台付坏 土師器	A 15.0 B 6.0 D [6.7] E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P529 90％
5	皿 土師質土器	A [10.0] B 3.0 C 5.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P528 60％
6	皿 土師質土器	A 9.9 B 1.7 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P533 100％
7	皿 土師質土器	A 11.0 B 2.1 C 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P532 100％
8-1	置カマド		円筒形をしたカマドの側辺。体部は内傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母 にぶい褐色　普通	P537A P537Bと同一個体
8-2	置カマド		炊き口部の庇の部分。	内・外面ヘラナデ。	長石・雲母 にぶい褐色　普通	P537B
9	羽釜 土師器		鍔の一部分。	ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色　普通	P5355％ 北西部覆土

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	高台付坏 土師器	A [11.4] B (4.2)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P538 40％
2	高台付坏 土師器	B (2.5) D 7.9 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P539 20％
3	皿 土師質土器	A [10.1] B 1.8 C 4.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P540 40％
4	壺 須恵器	B (3.8) D [15.6] E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部回転ヘラ削り，内面指によるナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒 灰色 良好	P542 5％

第118号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	高台付坏 土師器	B (2.7) D 7.0 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P553 10%

第124号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	皿 土師質土器	A [9.8] B 2.5 C 6.0	平底。体部は内傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P558 70%
2	置きカマド		炊き口部片。	外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P559 5% 北東部覆土

第128号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.4 C 7.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P560 95%
2	高台付坏 土師器	A 15.5 B 6.1 D 7.7 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P563 95%
3	高台付坏 土師器	A 15.3 B 6.0 D 7.4 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P562 100%
4	高台付埦 土師器	A 17.7 B 6.8 D 8.4 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・スコリア 橙色 普通	P561 100%
5	皿 土師質土器	A 9.6 B 2.5 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P564 100%
6	壺 須恵器	A [18.9] B (11.2)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，口縁端部で上下につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 良好	P566 10%
7	甕 土師器	A 26.7 B (25.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部外面横ナデ，内面指ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P565 30%

第129A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	ミニチュア土器 土師器	A [4.1] B 2.2 C 3.4	平底。体部はほぼ直立し，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面指ナデ，内面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P568 70% 覆土

第132号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	高台付坏 土師器	B (2.6) D 8.0 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P576 10%
2	高台付坏 土師器	B (2.8) D 7.9 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P575 20%

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	坏 土師器	A 13.4 B 3.8 C 7.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P585 100%
2	高台付坏 土師器	B (1.6) D 6.4 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P586 10%

第151号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.1 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。内面黒色処理。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P640 100% 体部外面墨書
2	坏 土師器	A 13.1 B 3.6 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部手持ちヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P641 70% 体部外面墨書「東」
3	甕 土師器	A 9.2 B 7.9 C 5.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口唇部は上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部木葉痕。二次焼成を受ける。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P643 80% カマド内
4	長頸瓶 灰釉陶器	B (13.6) D 9.0 E 0.9	平底で高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ後ヘラ削り，内面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・緻密 灰色 (釉 灰オリーブ色 良好	P645 20% 猿投窯 IG－78

第155号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	高台付坏 土師器	B (2.2) D 6.0 E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P657 30%
2	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.0 D 5.8 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。体部中位に僅をもつ。	体部外面横ナデ，下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部ヘラ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P655 50%
3	壺 土師器	B (9.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。体部上位に退化した突起が付く。	体部外面摩滅，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P659 15%

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	高台付坏 土師器	A [13.5] B 5.4 D 7.6 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P665 60％
2	高台付坏 土師器	A 14.5 B 6.2 D 7.4 E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，下端ヘラ削り，内面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P664 90％
3	皿 土師質土器	A 10.0 B 2.7 C 5.3	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P662 90％
4	皿 土師質土器	A 9.6 B 2.3 C 6.1	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。体部内面に僚をもつ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P663 80％
第408図 5	甑 土師器	A [28.0] B 28.5 C 15.0	多孔式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。体部上位に角状の把手を有する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。把手の部分ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P668 25％ 覆土

第163号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	A 16.6 B (4.9)	平底。高台欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。外面摩滅。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P669 40％ 覆土
2	鉢 土師器	A [9.4] B 6.0 C	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。折り返し口縁。	体部外面ナデ。作りは雑。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P670 40％ 覆土
3	坩 土師器	A [10.0] B 6.6 C 3.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目整形。体部内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P671 40％ 覆土
4	羽釜 土師器		鍔の一部分。	ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P673 覆土

第164号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	A [14.4] B 5.7 D [6.6] E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	体部外面横ナデ，下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P675 50％ カマド内

第169号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	B (1.7) D 6.4 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面黒色処理後ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P692 15％ カマド内 底部ヘラ記号「×」
2	皿 土師質土器	A 8.6 B 1.7 C 5.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P694 100％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	皿 土師質土器	A 9.4 B 1.7 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	砂粒・スコリア 橙色 普通	P695 90％
4	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.0 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P696 60％ 覆土
5	皿 土師質土器	A 8.9 B 1.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P697 90％
6	皿 土師質土器	A 8.7 B 1.6 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P693 100％
7	皿 土師質土器	A 9.1 B 2.2 C 4.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P698 60％ 覆土

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	B (3.3) D 7.2 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面黒色処理後ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P700 20％
2	高台付坏 土師器	B (2.3) D 7.5 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石・スコリア 橙色 やや不良	P701 20％ カマド内 底部ヘラ記号「×」

第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	皿 土師質土器	A 9.5 B 1.8 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P704 100％

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	A [15.9] B 6.3 D 7.6 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P705 40％
2	置カマド 土師器		庇の一部分。	ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P707 覆土

第173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	皿 (灯明皿) 土師質土器	A 10.1 B 2.2 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P709 95％ 口唇部油煙付着
2	長頸瓶 灰釉陶器	B (5.1)	頸部片。口縁部は直立する。	内・外面横ナデ。外面釉付着。	砂粒・長石 褐灰色 (釉)灰オリーブ色 良好	P710 15％ カマド内SI-111・115出土遺物と接合 猿投窯O－53

第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付坏 土師器	B (3.1) D 6.8 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面黒色処理後ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P713 30%
2	壺 灰釉陶器	B (11.0)	体部片。	内・外面横ナデ。	砂粒 灰色 (釉) 灰オリーブ色 良好	P714 5% 猿投窯 O－53

第175号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	高台付坏 土師器	A 15.4 B 5.9 D 7.3 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面黒色処理後ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P715 80%

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	Ⅲ 土師質土器	A 9.1 B 1.9 C 4.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P722 100%
2	Ⅲ 土師質土器	A 9.8 B 1.6 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P723 95%

第183号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	坏 土師器	A [17.2] B 6.0 C 6.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P725 65%
2	高台付坏 土師器	A 15.0 B 10.4 D 6.3 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明褐色 普通	P726 95%
3	高台付坏 土師器	A [17.0] B 6.2 D 7.5 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P728 80% 底部ヘラ記号「ニ」
4	高台付坏 土師器	A 10.4 B 4.2 D 5.6 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き，内・外面黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 黒色 普通	P732 95%
5	高台付坏 土師器	A 14.5 B 5.7 D 5.8 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P727 95%
6	高台付坏 土師器	A 14.0 B (5.0)	平底。高台欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P729 90% 体部外面ヘラ記号「X」
7	高台付坏 土師器	B (2.2) D 7.5 E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P731 20% 底部ヘラ記号「×」

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 8	高台付坏 土師器	A [13.6] B 5.2 D [5.6] E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P730 50％
9	甕 土師器	A 13.8 B (12.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色普通	P735 70％ カマド内
10	甕 土師器	A 15.3 B 12.9 C 9.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P734 90％
11	甕 土師器	A [19.2] B (31.0)	体部は長胴形で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位及び横位のヘラ削り。	砂粒 暗褐色 普通	P733 80％
12	甕 土師器	A 14.0 B (11.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P736 60％ カマド内

第203号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	埦 土師器	B (4.6) C 4.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ハケ目整形。	砂粒・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P742 60％ 流れ込み

第204号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	坏 土師器	A [12.7] B 3.9 C 5.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 明褐灰色 普通	P746 40％
2	坏 土師器	A 11.8 B 3.8 C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P745 95％
3	坏 土師器	A 11.9 B 4.0 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 浅黄橙色 やや不良	P744 95％
4	坏 土師器	A [11.4] B 3.6 C 4.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P747 40％
5	高台付坏 土師器	B (2.8) D 8.0 E 1.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P753 20％
6	高台付坏 土師器	A 13.1 B 5.6 D 7.3 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P750 90％
7	高台付坏 土師器	A 14.6 B 6.0 D 7.8 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P749 90％
第410図 8	高台付坏 土師器	B (5.1)	高台欠損。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 黒色普通	P752 25％
9	高台付坏 土師器	A 12.5 B 4.9 D 8.2 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部静止糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P751 100％
10	高台付皿 土師器	A [13.1] B 3.1 D 8.4 E 2.4	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は水平方向に開く。	体部内・外面ヘラ磨き後黒色処理。底部一方向のヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P754 70％ 北東コーナー

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 11	甕 土師器	B (5.0) C 19.8	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内外面ヘラナデ。底部内面指ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P755 10%
第409図 12	ミニチュア土器 土師器	B (1.1) C 3.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ヘラ磨き後黒色処理。	細砂粒・細雲母 黒色 良好	P757 40% 北東部覆土

第205号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	高台付坏 土師器	A 13.7 B 6.1 D 9.0 E 2.0	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P760 100%
2	高台付坏 土師器	A [14.7] B 5.7 D 9.1 E 2.2	平底で「ハの字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P762 70% 北側覆土
3	高台付坏 土師器	A 14.3 B (5.6) E (1.5)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P761 95%
4	甕 土師器	A [25.4] B (14.4)	体部は長胴形で，口縁部で外反する。口唇部は上方に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横位のヘラ	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P764 20%
5	甑 土師器	B (4.0) C [14.6]	5孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P765 55%

第206号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	高台付坏 土師器	B (4.5) D [6.2] E 1.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・細雲母 明褐色 普通	P766 30%
2	高台付坏 土師器	B (3.0) D 6.6 E (1.5)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P767 40%

第208号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	高台付坏 土師器	B (2.8) D 8.5 E 1.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転糸切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P776 30%
2	高台付皿 土師器	B (3.0) D 5.5 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P777 40%
3	壺 須恵器	A [21.6] B (9.5)	口縁部は外反し，外面端部直下に突線を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面同心円の叩き目。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P778 5%

第209号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	坏 土師器	A [14.3] B 3.5 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P779 20% 貯蔵穴内

第210号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	坏 土師器	A 11.4 B 3.3 C 6.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色 普通	P781 85％
2	坏 土師器	A [9.7] B 2.8 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。底部穿孔。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P782 70％
3	高台付坏 土師器	A [14.7] B 5.7 D 6.7 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P783 65％
4	高台付坏 土師器	B (4.4) D 7.4 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P786 40％ 体部内面刻書「大生」か
5	高台付坏 土師器	B (2.4) D 8.3 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P785 40％

第211号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	Ⅲ 土師質土器	A [9.7] B 1.6 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P787 50％

第214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	Ⅲ 土師質土器	A 9.2 B 1.5 C 5.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P789 50％ カマド内

第215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	高台付坏 土師器	A [14.7] B 5.5 D 6.4 E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P790 50％

第218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 土師器	A 9.9 B 2.9 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P797 100％ 覆土
2	坏 土師器	A [8.9] B 2.9 C 5.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P799 80％ 覆土
3	坏 土師器	A 10.6 B 3.3 C 7.1	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P798 100％ 覆土

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 4	高台付坏 土師器	A 14.0 B (5.5) E (0.5)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端指ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P801 80％ 北東部覆土
5	高台付坏 土師器	A 14.5 B 6.8 D 8.0 E 2.2	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P800 70％ 覆土
6	高台付坏 土師器	A 13.7 B (4.2)	高台部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端指ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P802 80％ 北東部覆土

第219号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	甕 須恵器	A 25.9 B (13.1)	口縁部片。口縁部は外反し，外面端部直下に突線を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き目。	砂粒・雲母 灰色普通	P804 10％
2	広口瓶 須恵器	B (15.5)	体部は外傾して立ち上がり，上位で屈曲し張りのある肩部となる。口縁部はほぼ直立する。	口縁部及び体部横ナデ，体部下端回転ヘラ削り。	砂粒 灰白色 (釉)灰ｵﾘｰﾌﾞ色 良好	P805 20％ 湖西産

第229号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	高台付坏 土師器	A 14.4 B 5.8 D 7.5 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P829 80％
2	Ⅲ 土師質土器	A [10.6] B 3.2 C 5.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P828 60％ 南東部覆土
3	Ⅲ 土師質土器	A 9.5 B 2.1 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P827 80％
4	Ⅲ 土師質土器	A 9.2 B 1.7 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P826 90％

第232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 須恵器	A [13.8] B 3.9 C [7.6]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ，体部外面下位ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P835 30％

第239号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 土師器	A 15.4 B 3.9 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P846 95％

第240号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	甕 土師器	A [20.0] B (13.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口唇部は上方に弱くつまみ出す。	口縁部内・外面及び体部外面横ナデ，内面ナデ。体部外面下端ヘラ削り。輪積み痕明瞭に残る。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P847 20％ カマド内
第411図 2	壺 須恵器	B (16.2) C [13.0]	体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・長石　灰色 普通	P848　10％

第242号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.1 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P851 60％
2	坏 土師器	A 15.1 B 3.3 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ，内面黒色処理。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P850 90％
3	坏 土師器	B (1.9) C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・スコリア にぶい橙色　普通	P852　50％
4	皿 土師質土器	A 8.8 B 1.6 C 5.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P855 100％
5	高台付坏 土師器	A 15.4 B 5.4 D 8.6 E 1.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P853 70％ 南西部覆土

第246号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	高台付坏 土師器	A [14.2] B 7.5 D 7.7 E 2.7	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P861 40％ 北東部覆土

第250号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	高台付坏 土師器	A [13.6] B 6.0 D 7.1 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石 黒色 普通	P867 60％

第251号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	坏 須恵器	A [13.7] B 4.5 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ，体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P868 50％ カマド内

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 2	高台付坏 須恵器	A 10.6 B 5.1 D 6.6 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	礫・長石・雲母 灰白色 良好	P869 100％
3	高台付坏 須恵器	B (3.2) D [10.5] E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P872 30％ 覆土
4	高台付坏 須恵器	A [12.4] B (4.9) D [7.1] E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P870 50％ 覆土
5	高台付坏 須恵器	B (3.3) D 9.4 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P871 50％ 覆土
6	蓋 須恵器	A [16.0] B (2.2)	天井部は平坦面をなし，外傾しながら下降し，端部は垂下する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P875 10％ 北西部覆土
7	鉢 須恵器	B (13.1)	体部は外傾して立ち上がる。	体部外面平行叩き目，内面ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P873 20％ 覆土
8	高坏 須恵器	B (9.9)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部に透かし孔を有する。	脚部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P874 10％ 覆土
9	高坏 須恵器	D (11.5) E (11.5)	脚部片。脚部はラッパ状に広がり，端部は下方に折り返す。	脚部内・外面横ナデ。内・外面焼土多量に付着。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P877 45％ 覆土 支脚転用
10	長頸壺 須恵器	B (12.4) D 14.9 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ，外面下端回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P876 60％

第253号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	皿 土師質土器	A 9.1 B 1.4 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P878 60％

第256号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	高台付坏 土師器	A [13.5] B 5.1 D 7.7 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P879 40％
2	皿 土師器	A [11.0] B 2.0 C 6.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	長石・雲母 橙色 普通	P881 30％ 北東部覆土

第264号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 1	坏 土師器	A [15.4] B 4.8 C 6.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P882 50％
2	高台付坏 土師器	B (3.8) D 8.7 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。高台接点面がわずかにくぼむ。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P884 60％ カマド内

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 3	高台付椀 土師器	B (5.1) D [7.6] E 2.5	平底で「ハ」の字状に開く足高の高台が付く。高台の貼り付け方は雑。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・スコリア 浅黄橙色 不良	P888 45%
4	高台付椀 土師器	B (3.5) D 6.5 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 ぶい橙色 普通	P889 30%
5	甑 土師器		把手の部分。	ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P892
6	置カマド	B (10.3)	体部から口縁部にかけての破片。	体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P891 5% 覆土
7	鍋 土師質土器	E (14.4)	脚部片。3足と思われる中実で棒状の鍋の脚部。	外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色	P893

第265号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 1	坏 土師器	A [14.6] B 3.5 C 6.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	雲母・スコリア にぶい赤褐色 良好	P894 30% カマド内
2	甕 土師器	A 22.7 B (25.5)	体部は長胴形で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P895 50% カマド内

第267号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	皿 土師質土器	A 10.4 B 2.0 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 明褐色 良好	P897 95% カマド内
2	皿 土師器	A 9.6 B 2.6 C 5.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。底部回転ヘラ削り後ナデ。	雲母 黒色 良好	P898 90%
3	皿 土師質土器	A 10.4 B 2.2 C 5.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良好	P899 90% カマド内
4	甕 土師器	A [15.4] B (11.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P900 15%
5	甑 須恵器	B (9.9) C [14.6]	多孔式（5孔式か）。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端横位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P901 5% カマド内

第269号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	坏 土師器	A 11.4 B 3.4 C 5.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P906 95%

第270号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	坏 土師器	B (2.8) C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・石英 にぶい黄橙色 普通	P908 20% 覆土

第271号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	坏 須恵器	A 12.7 B 4.4 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P913 55％
2	坏 須恵器	A 12.7 B 4.9 C 6.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P911 70％ カマド内
3	坏 須恵器	A [13.8] B 4.7 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ，体部外面下端ヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P912 50％ 覆土
第415図 4	高台付坏 須恵器	B (2.6) D 8.2 E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P914 20％
5	鉢 須恵器	A [30.2] B 15.3 C 16.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反し，端部で上方に立ち上がる。口縁部下端に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き目後の斜位の平行叩き目，下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P916 65％ カマド内

第272号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	高台付坏 土師器	A [14.6] B 6.3 D [7.2] E 0.8	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	礫・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P917 25％ 覆土
2	高台付坏 土師器	B (2.9) D 7.2 E 0.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P918 30％
3	高台付坏 土師器	B (1.7) D 5.4 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P919 10％

第273号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	皿 土師質土器	A 10.4 B 1.8 C 7.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く内彎する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P921 75％ 覆土

第274号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	高台付坏 土師器	B (2.7) D 5.0 E 0.7	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P922 10％ 覆土
2	壺 灰釉陶器	B (5.2)	体部片。	体部内・外面横ナデ。	緻密 灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P924 5％ 覆土 東濃窯 光ケ丘1～大原2

第277号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	高台付坏 須恵器	A 12.2 B 5.6 D 6.6 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 やや不良	P929 90％ カマド内
2	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.4 C 4.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。外面二次焼成受ける。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 良好	P932 100％ カマド内

第278A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 4.1 C 6.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P934 95％
2	坏 須恵器	A 14.2 B 4.8 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P933 100％
3	高台付皿 土師器	A 13.4 B 3.3 D 7.0 E 1.4	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良好	P938 100％
4	高台付坏 土師器	A 14.9 B 5.6 D 8.1 E 1.1	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P935 95％
5	高台付坏 土師器	A 14.2 B 6.6 D 8.2 E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	石英・雲母 橙色 良好	P936 95％
第416図 6	高台付坏 土師器	A 18.7 B (7.0)	高台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台部をナデて坏に転用。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P937 85％
7	甕 土師器	A 15.5 B 16.8 C 7.3	平底。体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P939 75％
8	甕 土師器	A [19.3] B (29.3)	体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデテ後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 浅黄橙色 普通	P940 70％
9	甕 土師器	A [20.2] B 28.3 C 7.5	平底。体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P942 75％ 覆土
10	甕 土師器	A 22.2 B (24.0)	体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ，内面ナデ。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P941 50％

第279A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第416図 1	高台付坏 土師器	B (3.7) D 8.1 E 1.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 明褐灰色 普通	P945 30％

第281号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第416図 1	坏 土師器	A 11.5 B 3.9	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P961 95％
2	坏 土師器	A 12.7 B 3.4	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P960 95％
3	高台付坏 土師器	A 14.9 B (3.9)	高台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P962 30％ カマド内
4	皿 土師質土器	A 9.3 B 2.0 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P964 95％
5	卸皿 陶器	A 11.2 B 2.4 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。口縁部に釉付着。底部回転糸切り。	緻密 灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P963 100％ 瀬戸産
6	ミニチュア土器 土師器	A 3.2 B 4.4 C 3.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，上端でさらに内彎する。	口縁部及び体部外面ヘラナデ，内面ヘラによる圧痕あり。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P965 95％

第282号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 1	高台付坏 土師器	A 15.3 B (4.6)	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P966 90％
2	高台付坏 土師器	A [13.7] B 6.3 D [5.3] E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P967 45％

第287号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 1	高台付坏 土師器	B (2.5) D 7.1 E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P978 10％
2	皿 土師質土器	A 9.4 B 2.2 C 5.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P979 95％

第288号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 1	高台付埦 土師器	A [13.9] B 5.3 D 5.6 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P984 50％ 覆土
2	皿 土師質土器	A 10.8 B 2.3 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母 橙色 良好	P980 100％
3	皿 土師質土器	A 10.6 B 2.5 C 6.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底底回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 良好	P981 70％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 4	皿 土師質土器	A [10.7] B 2.3 C 6.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P982 40％ 覆土
5	壺 灰釉陶器	B (8.8)	体部片。	体部内・外面横ナデ。内・外面に釉付着。	緻密 灰白色　(釉)オリーブ灰色	P987　5％ 東濃窯

第299号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第418図 1	坏 須恵器	A [14.4] B 5.0 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P5002 40％ カマド内
2	坏 須恵器	A 13.1 B 5.0 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P5003 40％
3	高台付坏 土師器	A 13.8 B 5.4 D 8.7 E 1.5	平底で「ハ」の次状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ	砂粒・雲母 橙色 普通	P5004 75％
4	蓋 須恵器	B (3.7) F [3.4] G 1.7	天井部は平坦で，体部は大きく外傾して開く。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部及び体部上端回転ヘラ削り。体部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P5007 20％
5	盤 須恵器	A [21.0] B 4.7 D 10.0 E 1.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾して立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	長石・雲母 褐灰色 普通	P5005 90％
6	盤 須恵器	A 20.8 B 4.9 D 12.1 E 1.3	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は大きく外傾して立ち上がり，口縁部で内傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・礫 褐灰色 普通	P5006 90％
7	高坏 須恵器	B (12.5) D [16.7] E 11.3	脚部はラッパ状に大きく開き，端部で垂下する。三角形の透かし孔を3個有する。	脚部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 淡黄色 普通	P5008 40％
8	甕 土師器	A [10.5] B (5.7)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面摩滅。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色	P5009 15％

第300A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 1	坏 土師器	A 14.9 B 4.2 C 8.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P5010 65％
2	高台付埦 土師器	A [17.6] B 6.1 D [7.2] E 0.6	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P5012 30％
3	高台付鉢 土師器	B (6.6)	高台部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P5013 50％
4	皿 土師質土器	A [11.1] B 1.6 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P5014 35％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 5	甕 土師器	A [13.2] B (18.0)	体部は長胴形で，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外面摩滅。	砂粒・長石 にぶい褐色 不良	P5016 20% 覆土
6	羽釜 土師器		鍔の一部分。	ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P5017 5% 覆土

第301号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	坏 土師器	A [13.2] B 5.0 C 4.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 良好	P5019 25%
2	皿 土師質土器	A 10.0 B 2.1 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P5020 90%
3	甕 土師器	A [22.8] B (30.0)	体部は長胴形で，口縁部で外反する。口唇部はわずかにつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P5021 30% 覆土

第302号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	坏 須恵器	A [13.9] B 4.3 C 10.2	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P5022 60%
2	蓋 須恵器	A 16.7 B 3.3 G 2.9 F 0.8	天井部から丸みをもってゆるやかに口縁部に至り，端部を垂下させる。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 黄灰色 普通	P5024 90%
3	蓋 須恵器	A 16.7 B 3.4 F 2.2 G 1.3	天井部から丸みをもってゆるやかに口縁部に至る。内面にかえりが付く。つまみは宝珠形である。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P5023 90%
4	甕 土師器	A [24.6] B (12.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口縁端部は外上方つまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部外面ヘラ削り，内面指ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P5026 10%

第303号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	坏 須恵器	A 14.0 B 4.0 C 8.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P5027 60%
2	盤 須恵器	B (4.0) D 13.6 E 0.9	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端及び底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰白色 良好	P5030 40%
3	甕 土師器	A [23.2] B (8.3)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 浅黄橙色 普通	P5031 10%

第304号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	皿 土師質土器	A 10.3 B 2.5 C 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 良好	P5032 100％

B地区

第2号住居跡（第423図）

位置　調査B区の西部のC6j$_7$区を中心に確認されている。

重複関係　北西部は第2号溝を掘り込み，北東部は第1号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.45m，短軸（4.26）mの方形である。

主軸方向　N－4°－E。

壁　壁高9～32cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　南壁は調査エリア外に延びているため不明であるが，壁下をほぼ全周している。上幅18～24cm，深さ5～10cmで，皿状をしている。

床　平坦。主柱穴に囲まれた部分を中心によく踏み固められている。

ピット　5か所。P$_1$～P$_4$は長径19～85cm，短径12～55cmの楕円形で，深さ34～46cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は長径43cm，短径31cmの楕円形で，深さ38cmである。P$_1$の南隣に位置し，性格は不明である。ピットを確認するため広い範囲を掘り込んだため，P$_1$・P$_3$・P$_5$は2段掘り込みのような形になっている。

竈　北壁中央部やや西寄りに付設されており，壁外への掘り込みはほとんど見られない。天井部は既に無く，袖部は砂質粘土で構築している。規模は長さ82cm，幅100cmである。火床は床面を4cm掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は急傾斜で立ち上がっている。

覆土　3層からなる。

1層は砂を少量含んだ黒褐色土

2層は砂を中量，焼土小ブロックを少量含んだ暗褐色土

3層は砂を多量，焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ黒褐色土

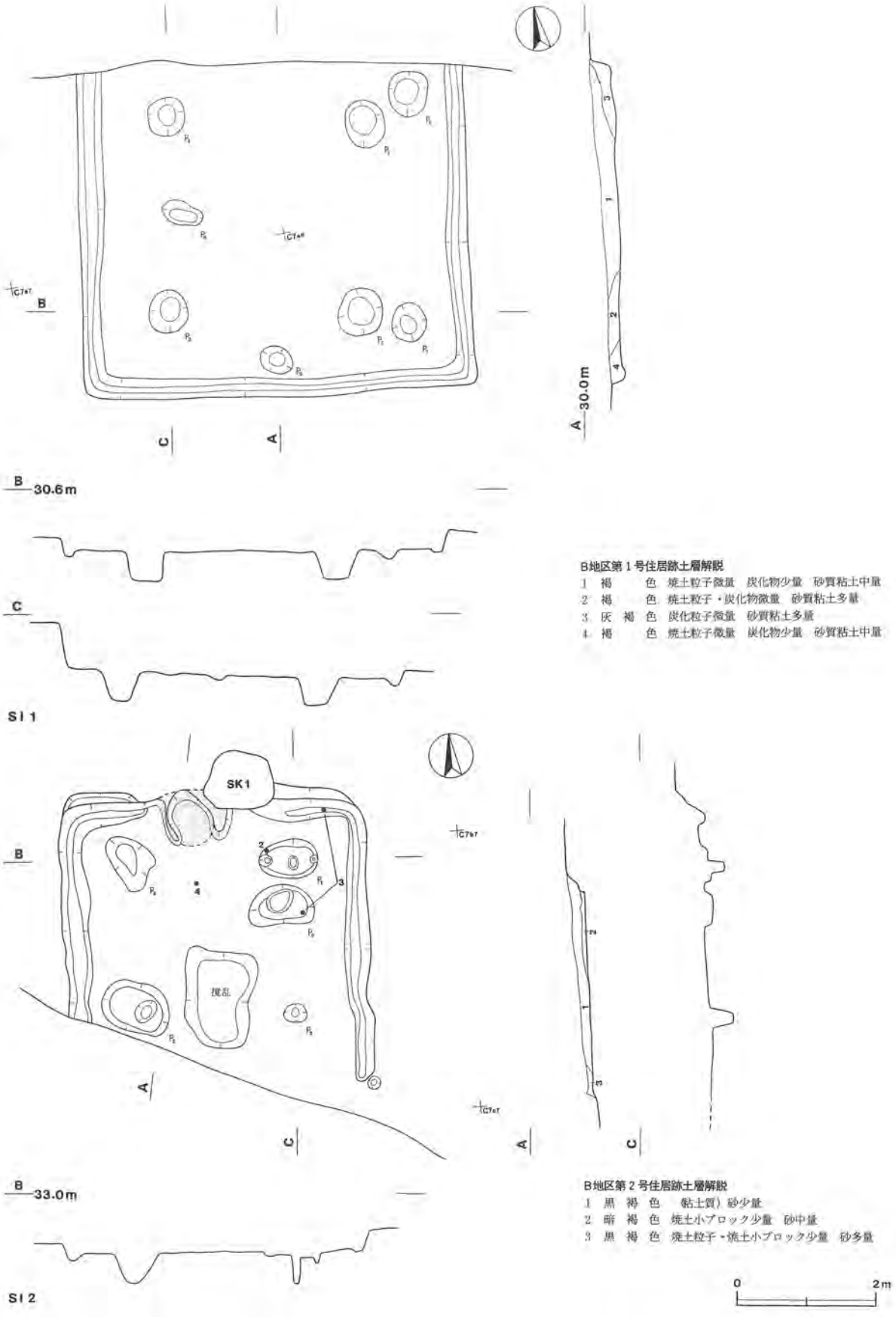
含有物の砂は粘土質の物で，この調査B区全体に見られる。

遺物　竈前方部を中心に出土している。竈前方部から第424図1の坏，4の須恵器蓋が出土している。北東部から2の須恵器坏，3の須恵器高台付坏が出土している。

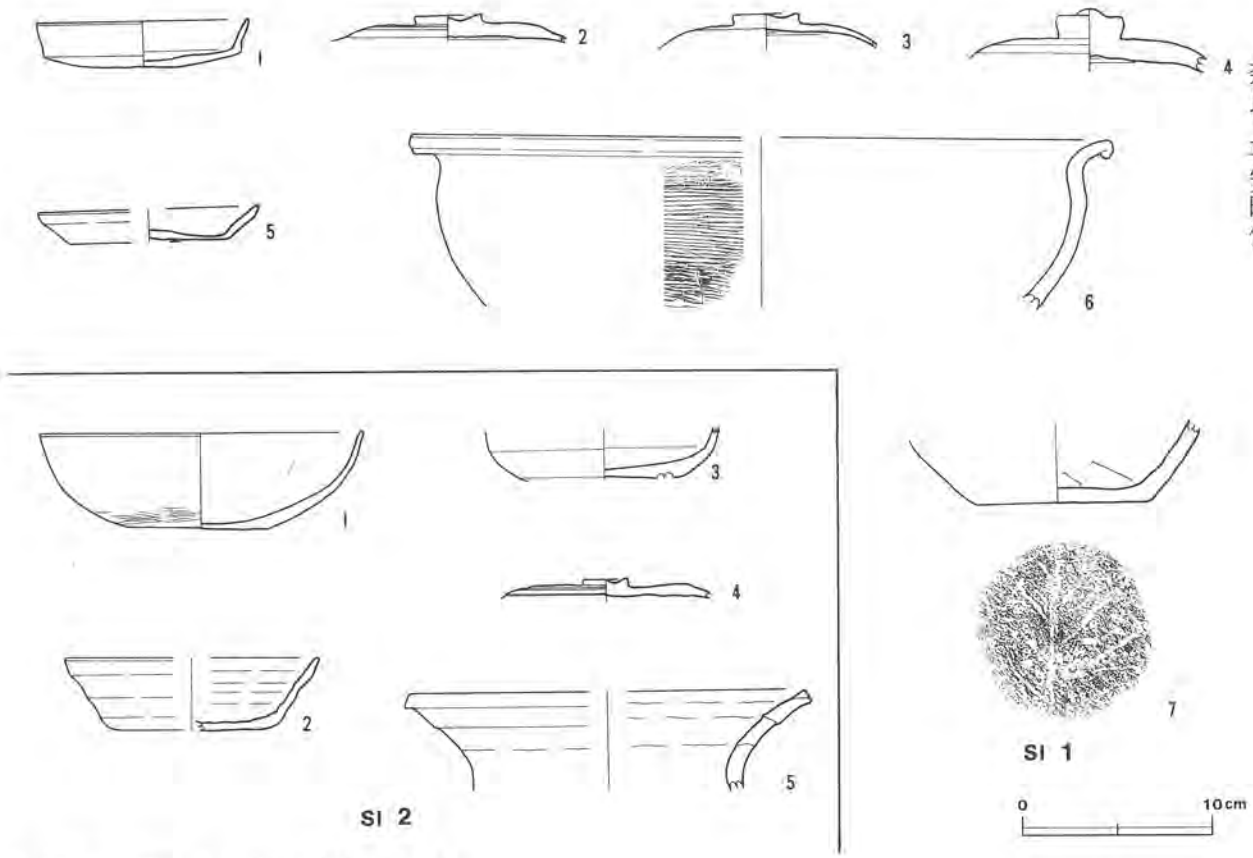
所見　本跡は奈良時代後期（8世紀中～後葉）の住居跡と考えられる。

表13　奈良・平安時代B地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	C6j7	N－9°－E	長方形	5.62×(4.84)	9～35	やや凹凸	ほぼ全周	4		8	ピット		自然	土師器（甕），土師質土器（皿），須恵器（蓋・甕）	奈良(8世紀) 第423図
2	C7B6	N－4°－E	方形	(4.32)×(4.26)	9～32	平坦	ほぼ全周	4		5		北	自然	土師器（坏），須恵器（高台付坏・蓋・壺）	奈良(8世紀) 第423図



第423図　第1・2号住居跡



第424図　第１・２号住居跡出土遺物

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1	坏 土師器	A 11.0 B 2.5	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色　普通	P4001 90%
2	蓋 須恵器	B (1.5) F 3.5 G 0.5	天井部は平坦である。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。	礫・長石・雲母・スコリア 灰黄色 不良	P4004 40%
3	蓋 須恵器	B (2.0) F 3.5 G 0.7	天井部から丸みをもって垂下する。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P4005 30%
4	蓋 須恵器	B (3.3) F [3.4] G 1.6	天井部から丸みをもって垂下する。つまみは偏平であるが腰高で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P4006 30%
5	皿 土師器	A [11.6] B 2.8 C [8.2]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 橙色 普通	P4002 40%
6	鉢 須恵器	A [37.0] B (9.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反し，端部は下方に屈曲させる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き目。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P4007 10%
7	甕 土師器	B (4.2) C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	礫・石英・雲母・スコリア 橙色　普通	P4003 20%

第２号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1	坏 土師器	A 17.0 B 5.2 C 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P4008 100%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 2	坏 須恵器	A [10.3] B 3.9 C [8.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰白色 普通	P4010 35%
3	高台付坏 須恵器	B (2.7)	高台部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P4009 45%
4	蓋 須恵器	B (1.1) F 2.4 G 0.6	天井部は平坦である。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。	長石・金雲母 灰黄色 普通	P4011 20%
5	甕 須恵器	A [20.9] B (5.3)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 良好	P4012 10% 覆土

C地区

第3号住居跡（第425図）

位置　調査C区の北部の$F8i_7$区を中心に確認されている。

重複関係　東側は第4号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.10mの長方形である。

主軸方向　N－3°－W。

壁　壁高8～12cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　平坦。竈前方部から中央部にかけて，よく踏み固められ堅緻である。

ピット　確認されなかった。

竈　北壁中央部に付設されており，壁外に15cm程掘り込んでいる。天井部・袖部共に無いが，砂質粘土で構築していると考えられる。規模は長さ95cm，幅50cmである。火床は床面をわずかに掘り込み，熱を受けて，赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなる。1層は焼土粒子・焼土小ブロックを少量含んだ暗褐色土，2層は焼土粒子を多量含んだ暗赤褐色土である。

貯蔵穴　東壁中央部際に確認されている。長・短軸80cmの方形で，深さ10cmである。浅いので貯蔵穴でない可能性も考えられる。

覆土　覆土は薄いが，4層からなり，明確では無いが，人為的に埋め戻された様相を示している。

1層はローム粒子・炭化粒子・炭化物を少量含んだ暗褐色土

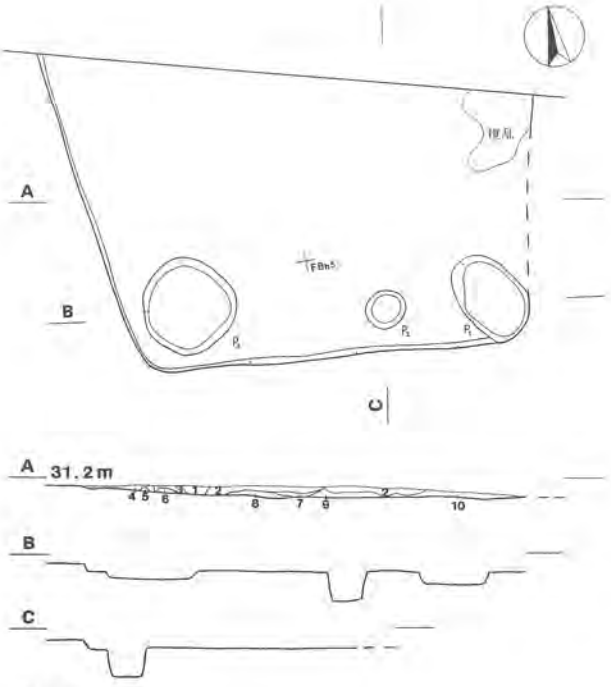
2層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ褐色土

3層はローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

4層はローム粒子・ローム小ブロックを多量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ褐色土

遺物　中央部と貯蔵穴周辺から多量に出土している。中央部からは遺物を投棄したかのように集中して出土している。貯蔵穴覆土最上層から第426図11の甕が出土している。南西部から6の須恵器蓋が正位の状態で出土している。中央部から第427図25の軒丸瓦は伏せた状態で，3の須恵器坏，5・7の須恵器蓋はそれぞれ逆位の状態で，4の須恵器坏は正位の状態で出土している。その他に15・第427図16・17・18・19・20・21の須恵器有孔浅鉢がまとまって出土している。

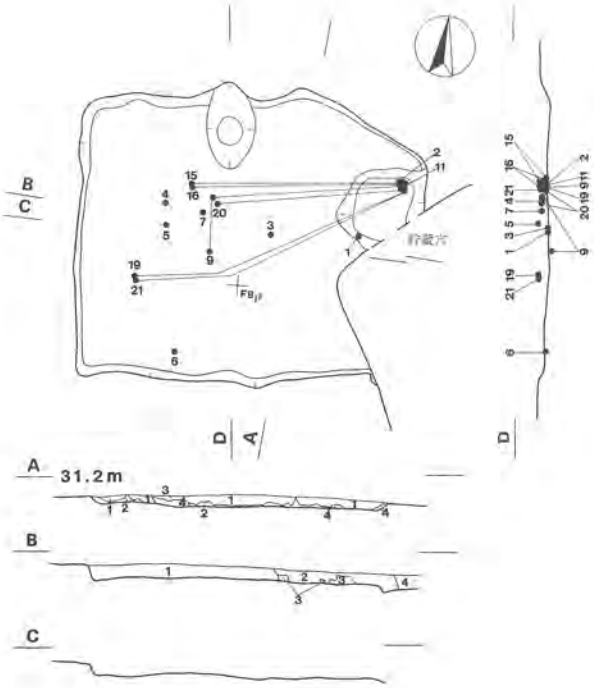
所見　本跡は奈良時代前期（8世紀前葉）の住居跡と考えられる。須恵器の有孔浅鉢が7個体まとまって出土しているのが特徴的である。この有孔浅鉢は焼成はあまり良くなく，在地産のものと考えられるが，本跡のみの出土で，外の遺構からは全く出土していない。



SI 1

C地区第1号住居跡土層解説

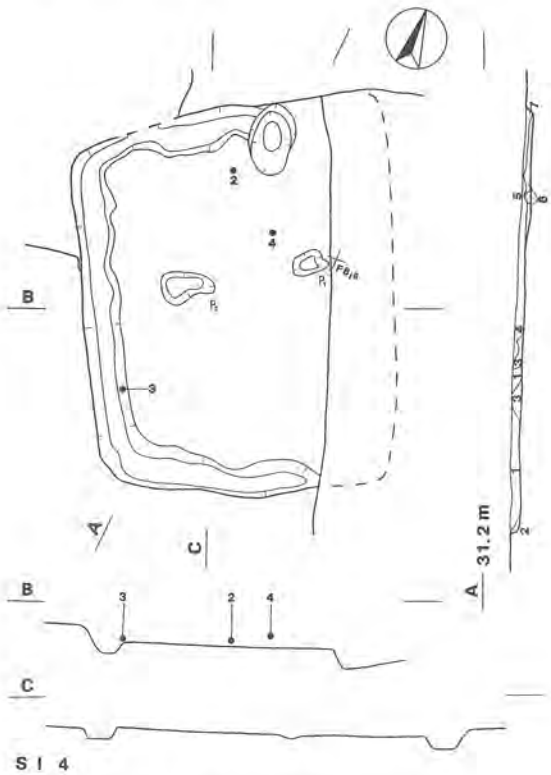
1 暗 褐 色 焼土粒子微量 焼土小ブロック少量 炭化粒子微量 粘性弱い
2 褐 色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 粘性弱い
3 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
4 暗 褐 色 炭化粒子微量 粘性弱い
5 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量 粘性弱い
8 黒 褐 色 炭化粒子微量 粘性弱い
9 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量 粘性弱い
10 褐 色 ローム粒子少量



SI 3

C地区第3号住居跡土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 焼土小ブロック微量 炭化物少量 炭化粒子中量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 焼土小ブロック微量 炭化物微量



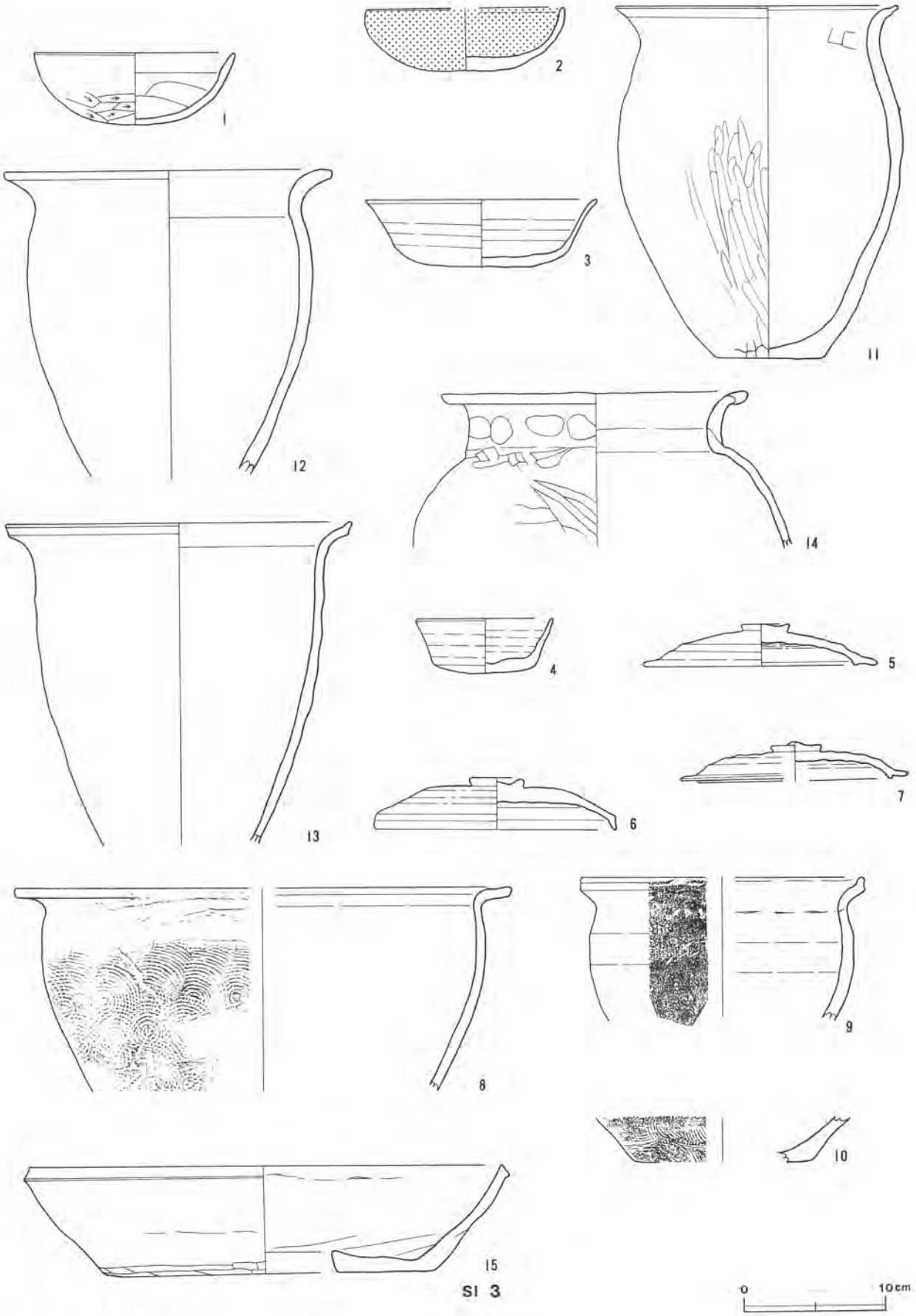
SI 4

C地区第4号住居跡土層解説

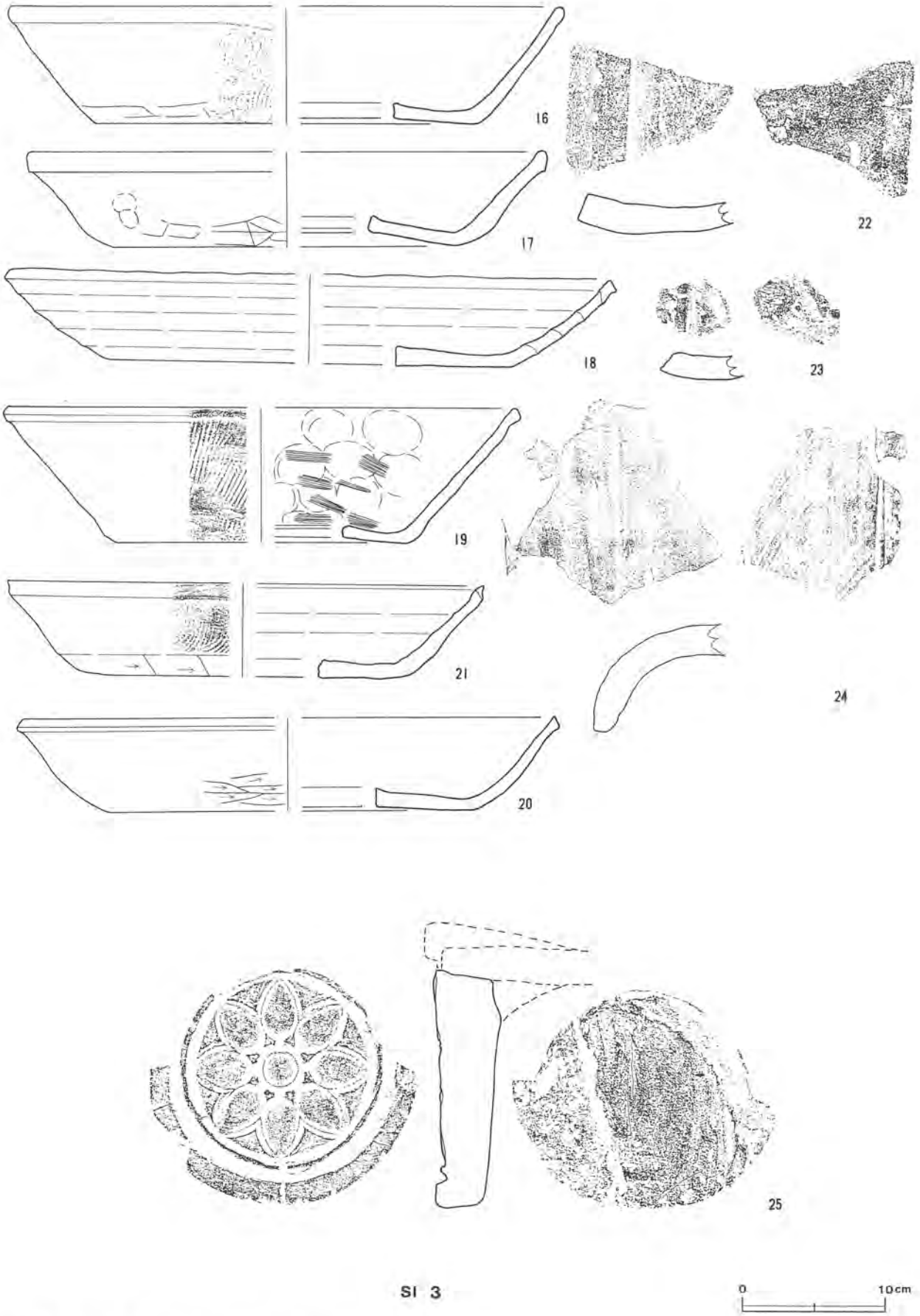
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子極めて多量
6 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量

0 2m

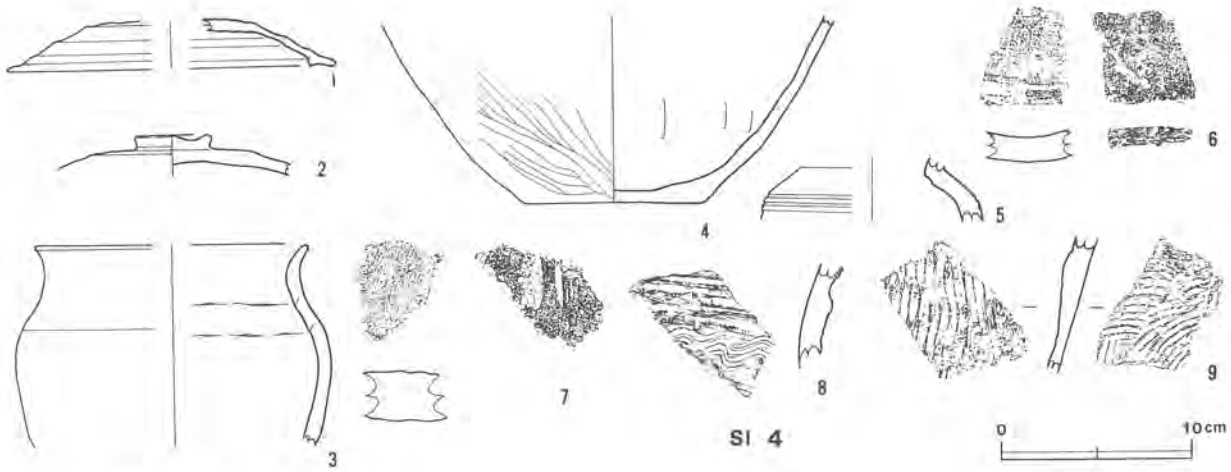
第425図 第1・3・4号住居跡



第426図　第３号住居跡出土遺物(1)



第427図　第３号住居跡出土遺物(2)



第428図　第４号住居跡出土遺物

表14　奈良・平安時代Ｃ地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模（m）(長軸×短軸)	壁高（cm）	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	F8g8	N－84°－W	隅丸長方形	[4.94]×(3.03)	9	平坦				3			自然	土師器(高台付坏)，須恵器片，縄文式土器片	平安(9世紀) 第425図
3	F8i7	N－3°－W	長方形	3.60 × 3.10	8～12	やや凹凸			北東コーナー			北	人為	土師器(坏・甕)，須恵器（坏・蓋・甕・有孔長鉢）	奈良(8世紀) 第425図
4	F8i7	N－22°－W	長方形	4.13 ×(3.30)	0～16	平坦	ほぼ全周			2		北	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(蓋・壺)，縄文式土器片	奈良(8世紀) 第425図

第３号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第426図 1	坏 土師器	A 14.3 B 5.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	石英・長石・雲母 橙色　普通	P4026　100％
2	坏 土師器	A [13.9] B 4.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色　普通	P4027　50％
3	坏 須恵器	A 16.3 B 4.9 C 8.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P4034 90％
4	坏 須恵器	A 9.8 B 4.0 C 6.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P4035 95％
5	蓋 須恵器	A 16.4 B 3.1 F 3.4 G 0.6	天井部から緩やかに内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりがつく。つまみは偏平で，中央部はわずかに突出する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P4036 90％
6	蓋 須恵器	A [17.1] B 3.7 F 3.8 G 0.7	天井部は平坦で，緩やかに内彎しながら口縁部に至り，端部をやや長く垂下させる。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 黄灰色 普通	P4037 70％
7	蓋 須恵器	A [16.2] B 2.8 F 3.6 G 0.7	天井部から内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P4038 30％
8	鉢 須恵器	A [35.4] B (14.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は水平近くに広がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面同心円の叩き目。	砂粒・雲母・スコリア 灰色　良好	P4039　20％
9	鉢 須恵器	A [20.0] B (10.2)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。端部は上方にわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目状の叩き。	砂粒・雲母 灰色 普通	P4040 10％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	鉢 須恵器	B (3.2) C [12.5]	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面同心円の叩き目後ヘラ削り。	砂粒・雲母 褐灰色　普通	P4041 10%
11	甕 土師器	A 19.9 B 25.3 C 7.3	平底。体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，外面下端ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4029 60%
12	甕 土師器	A [23.0] B (21.8)	体部は長胴形で，口縁部は外反して大きく開く。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色　普通	P4030　40%
13	甕 土師器	A [24.4] B (23.0)	体部は長胴形で，口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 橙色　普通	P4031　20%
14	甕 土師器	A 21.6 B (10.9)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はほぼ垂直に立ち上がり，端部で大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部で指ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P4032 20%
15	有孔浅鉢 須恵器	A 33.6 B 7.9 C 23.1 孔径 10.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端及び底部ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通(ややあまい)	P4042 80%
第427図 16	有孔浅鉢 須恵器	A [39.0] B (8.4) C [27.2] 孔径 [15.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面同心円の叩き目後平行叩き。体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 灰色 普通(ややあまい)	P4043 40%
17	有孔浅鉢 須恵器	A [37.0] B 6.8 C [24.7] 孔径 [12.1]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ，外面下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通(ややあまい)	P4044 40%
18	有孔浅鉢 須恵器	A [42.5] B 6.4 C [28.6] 孔径 [12.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通(ややあまい)	P4045 30% 中央部覆土
19	有孔浅鉢 須恵器	A [35.8] B 9.8 C [20.6] 孔径 [11.6]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き目後ヘラナデ，内面指ナデ後ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通(ややあまい)	P4046 20%
20	有孔浅鉢 須恵器	A [38.6] B 6.7 C [26.0] 孔径 [12.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	石英・長石・雲母 黄灰色 普通(ややあまい)	P4047 20%
21	有孔浅鉢 須恵器	A [33.8] B 6.7 C [23.8] 孔径 [11.0]	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面同心円の叩き目，内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 灰オリーブ色 普通(ややあまい)	P4048 10%

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	蓋 須恵器	A [17.3] B (2.6)	天井部から緩やかに内彎しながら口縁部に至る。内面にかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 黄灰色　普通	P4053　20% 東側覆土
2	蓋 須恵器	B (2.3) F 4.1 G 0.8	天井部は平坦である。つまみは偏平で，中央部は突出する。	天井部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	P4052 20% 東側覆土
3	甕 土師器	A [14.3] B (10.6)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 橙色普通	P4050　25%
4	甕 土師器	B (9.9) C 9.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。外面煤付着。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P4051 30%
5	甑 須恵器	B (3.4)	体部上端片。	体部内・外面横ナデ。体部外面中央部に沈線が巡る。	砂粒　灰色 普通	P4054　5% 南側覆土

D地区

第10号住居跡（第429図）

位置　調査D区の北部のJ11e$_0$区を中心に確認されている。北東・東・南東部は調査エリア外に延びている。

重複関係　中央部は第1号溝に，東部は第11号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［3.50］m，短軸（1.90）mの長方形と推定される。

主軸方向　N－33°－W。

壁　北西と南西壁のみ確認。壁高20cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　確認されていない。

床　凹凸していて，硬化していない。

ピット　2か所。P$_1$は長径34cm，短径25cmの楕円形で，深さ10cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_2$は径32cmの円形で，深さ11cmである。南西壁際に位置し，性格は不明である。

竈　確認されていない。調査エリア外の北東壁に付設されている可能性も考えられる。

覆土　2層からなり，ローム小ブロックを含んで人為的に埋め戻した様相を示している。

7層はローム粒子を中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土

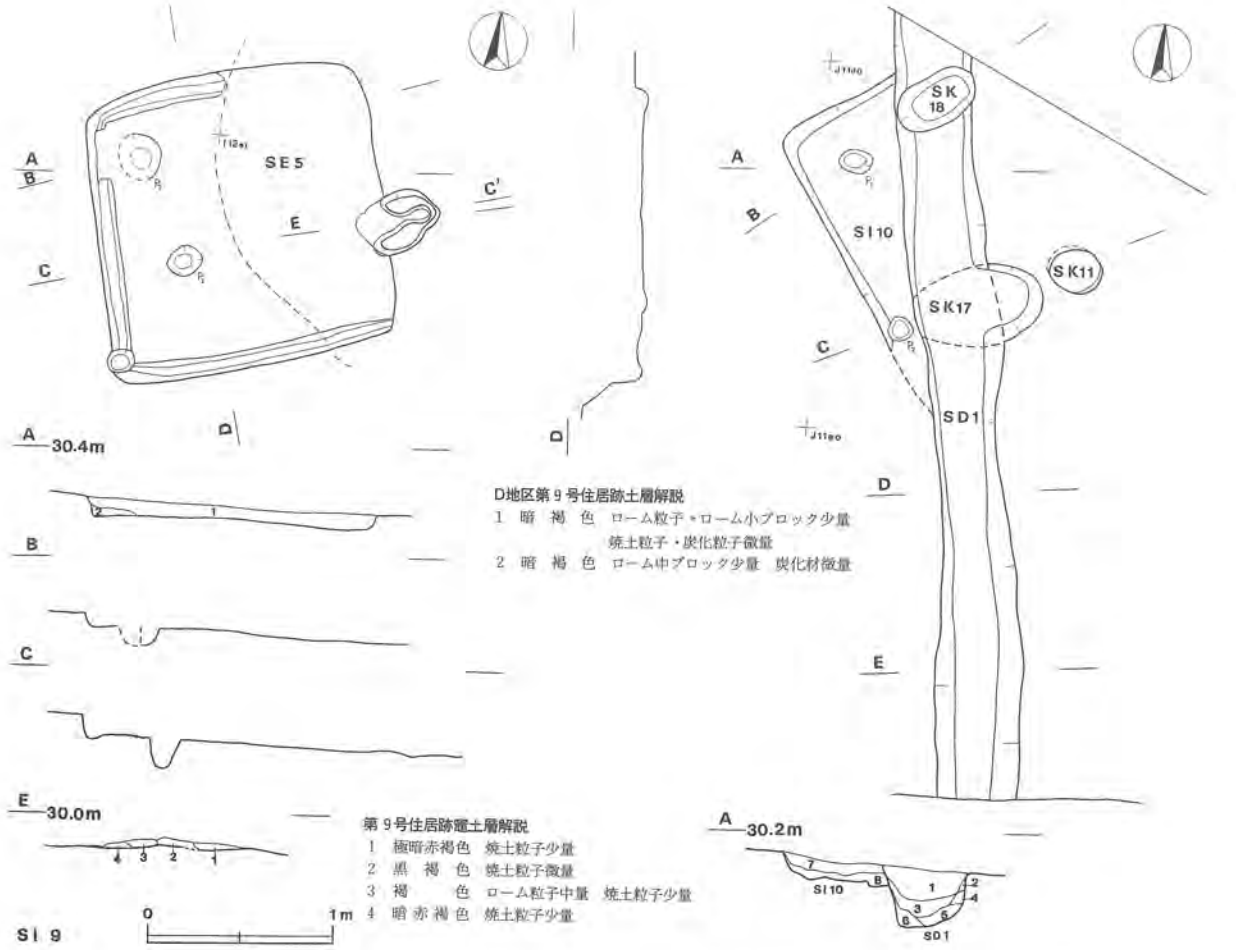
8層はローム粒子を多量，ローム小ブロックを中量含んだ褐色土

遺物　遺物量は少ないが，西コーナーから出土している。西側覆土中から第430図2の高台付坏と4の須恵器坏が出土している。

所見　本跡は平安時代前期（9世紀中～後葉）の住居跡と考えられる。

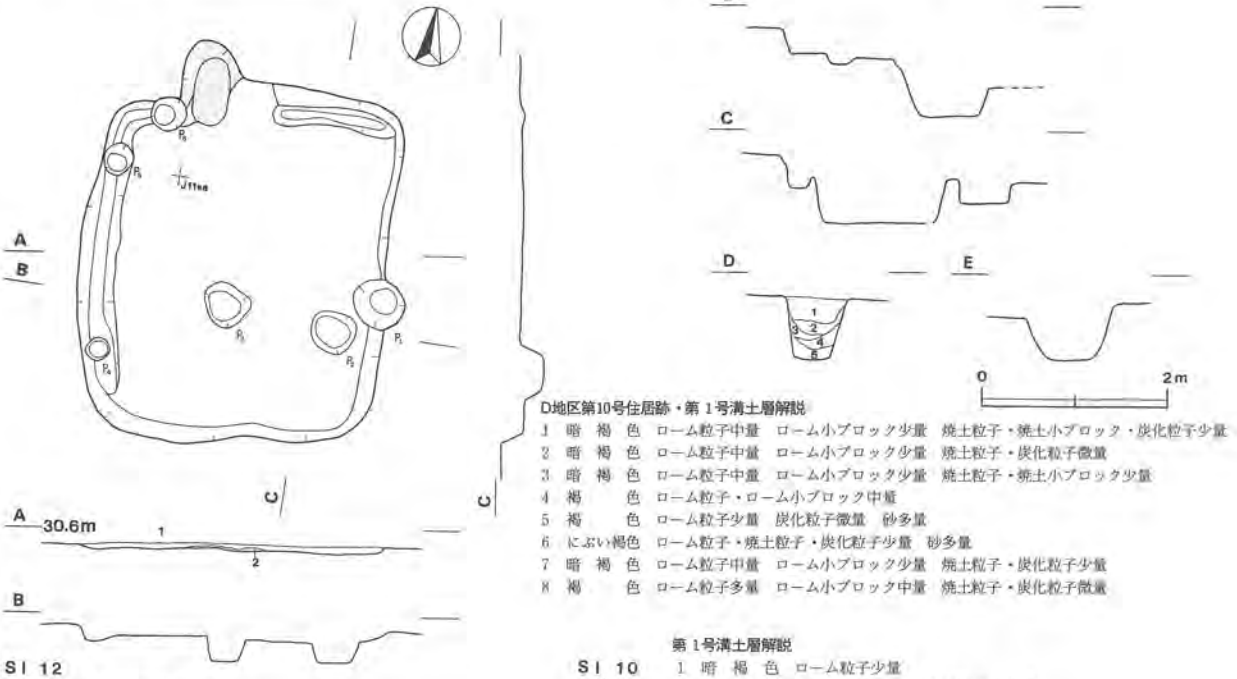
表15　奈良・平安時代D地区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	壁高（cm）	床面	内部施設					竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
9	J12e1	N－76°－E	方形	3.22 × 3.14	0～28	平坦	ほぼ全周			2		東	自然	土師器片，須恵器片	平安(9世紀)，SD1と重複 第429図
10	J11e0	N－33°－W	［長方形］	[3.50]×(1.94)	27	凹凸				2			人為	土師器（坏・高台付坏），須恵器（坏），灰釉陶器（壺）	平安(9世紀)，SD1と重複 第429図
12	J11e8	N－3°－W	長方形	3.83 × 3.31	5～7	平坦	北・西	4		6		北	自然	土師器（坏）	平安(9世紀) 第429図



D地区第9号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム中ブロック少量 炭化材微量

第9号住居跡覆土層解説
1 極暗赤褐色 焼土粒子少量
2 黒 褐 色 焼土粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
4 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量

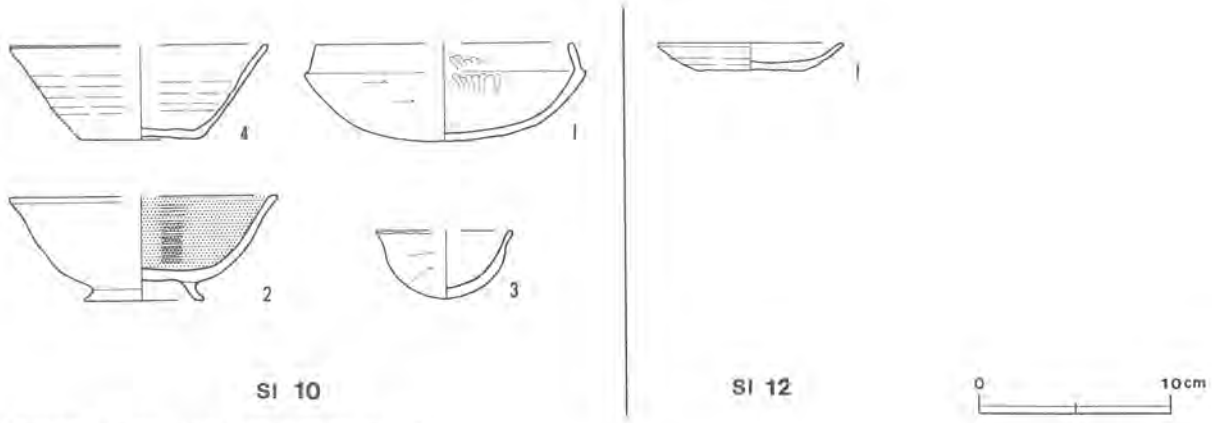


D地区第10号住居跡・第1号溝土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・焼土小ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
5 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量 砂多量
6 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 砂多量
7 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子微量

D地区第12号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量 焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量 焼土粒子・炭化材微量

第1号溝土層解説
SI 10
SK 11
SK 17
SK 18
SD 1
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
5 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量

第429図　第9・10・12号住居跡，第11・17・18号土坑，第1号溝



第430図　第10・12A号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 1	坏 土師器	A [13.3] B 5.1	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・石英 暗褐色 普通	P4201 40%
2	高台付坏 土師器	A [13.8] B 5.5 D 6.3 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P4203 40%
3	ミニチュア土器 土師器	A [6.9] B 3.7	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P4202 30% 覆土
4	坏 須恵器	A [13.0] B 5.0 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端ヘラ削り。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P4200 40% 南東部覆土

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 1	皿 土師質土器	A [9.8] B 1.5 C 5.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P4208 60%

2　土坑

当遺跡の奈良・平安時代の土坑は，A地区から14基，C地区から1基，D地区から1基確認されている。A地区から確認された第250号土坑のみ文章化し，その他の土坑は一覧表で表す事にする。

A地区

第250号土坑(第431図)

位置　調査A区の南部のE3h$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　重複する第111・173・174号住居跡を掘り込んで構築している。

規模と平面形　長径1.10m，短径0.88mの不整楕円形である。

長径方向　N－68°－W。

壁面　緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面　皿状。

覆土　2層からなる。

1層はローム粒子中量，ローム小ブロック少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量含んだ暗褐色土

遺物　中央部から第432図1土師質土器皿が正位の状態で，北部から2～9の鉄鋌状鉄製品がまとまって出土している。

所見　本跡は平安時代中期(10世紀中～後葉)の土坑と考えられる。

表16　奈良・平安時代A地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
243	E3g5	N−48°−E	不定形	2.17 × 1.83	55	緩斜	平坦	自然	土師器（高台付坏・坏・高坏），縄文式土器片		第431図
248B	E3e5	N−73°−W	隅丸方形	1.63 × 1.50	87	急斜	平坦	人為	土師器(坏・高台付坏・甕)，縄文式土器片，弥生式土器片		第431図
250	E3h4	N−68°−W	不整楕円形	1.10 × 0.88	33	緩斜	皿状	不明	土師質土器（皿），鉄鋌状鉄製品	SI111と重複	第431図
252	E3f5	N−50°−W	不整円形	1.18 × 1.08	62	緩斜	平坦	不明	土師器（高台付坏），縄文式土器（深鉢・注口土器）	本跡←SK248A	第431図
278	D3d3	N−15°−E	不定形	1.05 × 0.94	65	急斜	平坦	不明	土師器（坏・高台付坏）	TM4周溝と重複	第431図
305	D3e5	N−0°	円形	0.70 × 0.70	47	急斜	平坦	人為	土師器（坏）	SK288と重複	第431図
345	E5c0	不明	不明	(1.50)×(0.50)	25	緩斜	平坦	自然	土師器（坏），須恵器（坏）	SI92と重複	第431図
447	B3f4	N−7°−W	楕円形	0.66 × 0.51	96	急斜	平坦	人為	土師器（坏・高台付坏），縄文式土器片	SI18と重複	第431図
491	C3i4	N−79°−E	不整楕円形	1.20 × 0.97	32	緩斜	平坦	自然	土師器（坏）		第431図
506	C3g4	N−1°−E	長方形	4.50 × 1.25	24	緩斜	平坦	不明	土師器（高台付坏・甕・ミニチュア土器），縄文式土器片，陶器（壺）	SK499と重複	第431図
556	C4d8	N−1°−E	長方形	2.15 × 0.70	66	急斜	凹凸	人為	土師器（坏），土師質土器（皿），縄文式土器片		第431図
736	F4h4	N−80°−W	楕円形	0.99 × 0.79	52	緩斜	凹凸	自然	土師質土器（皿），縄文式土器片	本跡→SK694	第431図
851	E5g5	N−25°−E	不定形	2.35 ×[1.56]	76	急斜	平坦	自然	土師質土器（皿），縄文式土器片		第431図
864	E5a4	N−88°−W	隅丸長方形	1.47 × 1.04	35	急斜	平坦	人為	土師器（高台付坏），灰釉陶器（壺）		第431図

表17　奈良・平安時代C地区土坑一覧表

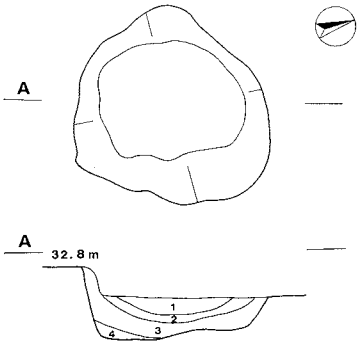
土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
1	G9d1	N−2°−W	隅丸長方形	2.05 × 1.29	50	緩斜	平坦	人為	土師器（坏），須恵器片，瓦，縄文式土器片	SK16と重複	第433図

表18　奈良・平安時代D地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
11	J1d0	N−80°−W	円形	0.66 × 0.61	24	垂直	平坦	不明	土師質土器（皿）	SK17・18と重複	第429図

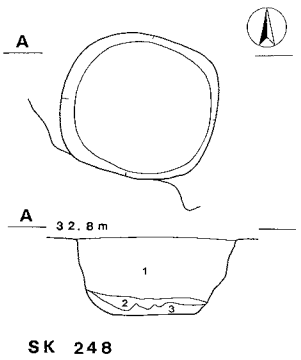
奈良・平安時代A地区土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第432図 1	坏 土師器	A 10.3 B 2.8 C 5.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・雲母 橙色 普通	SK248B P1310　90％
第432図 1	皿 土師質土器	A 8.9 B 1.8 C 5.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒・石英・長石・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	SK250 P2432　95％
第432図 1	高台付埦 土師器	A [17.1] B (5.5)	高台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	SK252 P1317　70％
2	高台付坏 土師器	A [10.6] B 4.0 D 5.7 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は下位に稜をもち，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	石英・長石・雲母 橙色 普通	SK252 P1319　30％



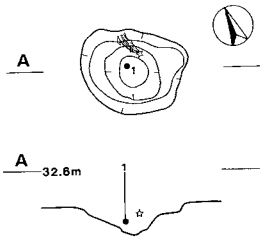
SK 243

第243号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量

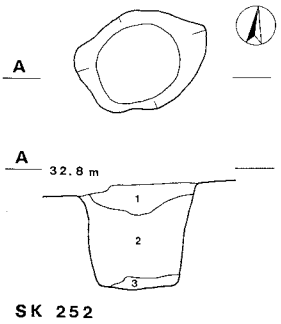


SK 248

第248B号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子多量
3 暗 褐 色 ローム中ブロック多量 炭化粒子少量

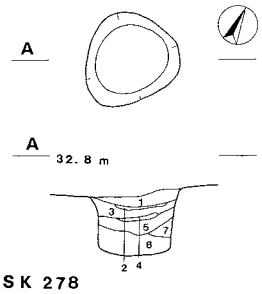


SK 250



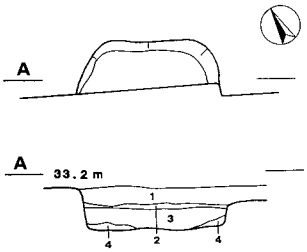
SK 252

第252号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物少量
3 暗 褐 色 ローム粒子極めて多量



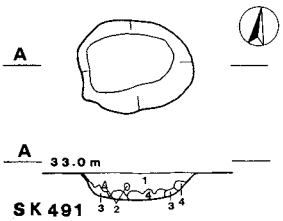
SK 278

第278号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック微量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量
6 褐 色 ローム粒子多量
7 褐 色 ローム粒子中量



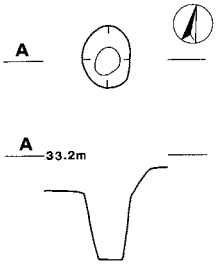
SK 345

第345号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量

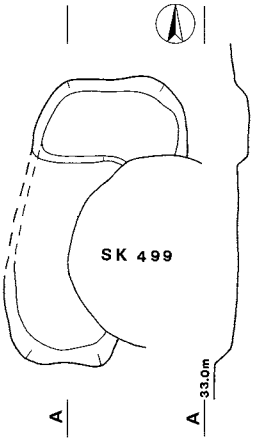


SK 491

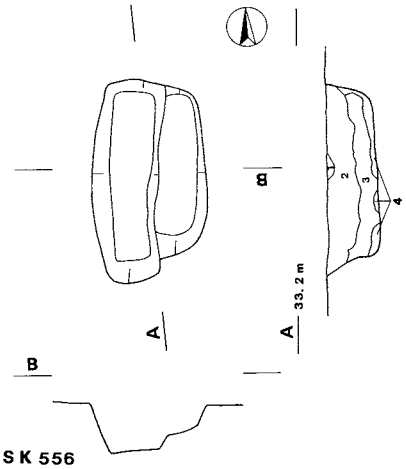
第491号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物多量
2 褐 色 ローム粒子多量 炭化物少量
3 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化物少量



SK 447

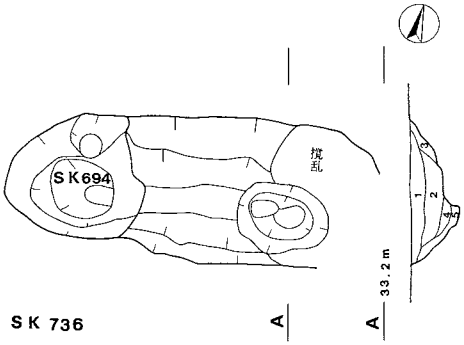


SK 506

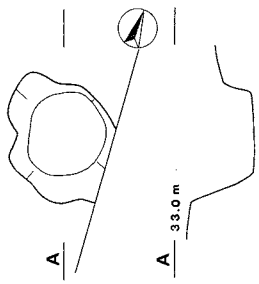


SK 556

第556号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化物中量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量

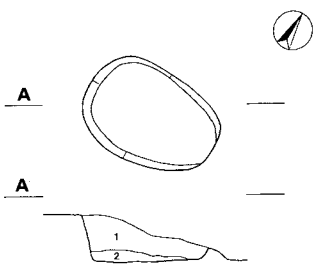


SK 736



SK 851

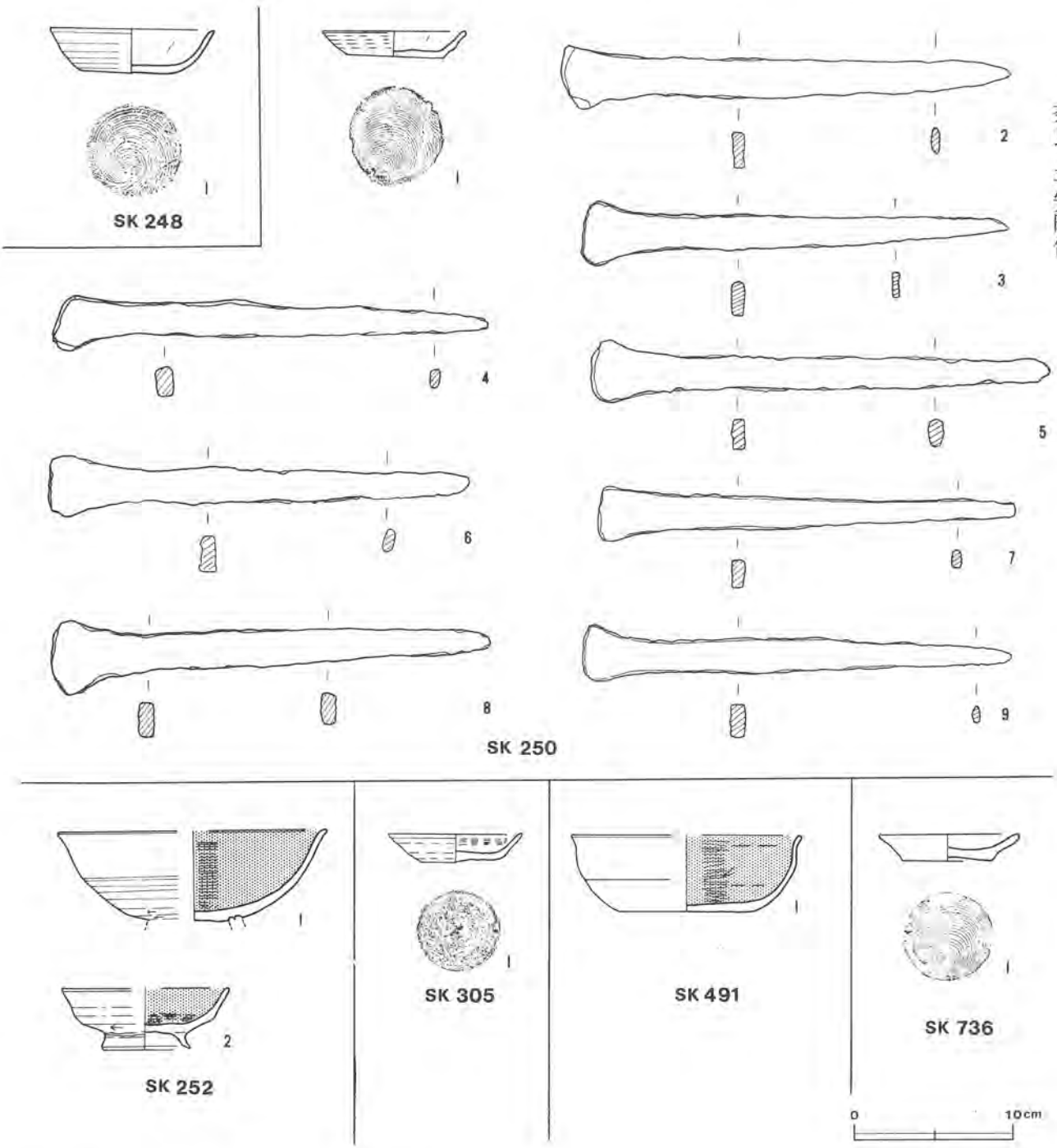
第736号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量



SK 864

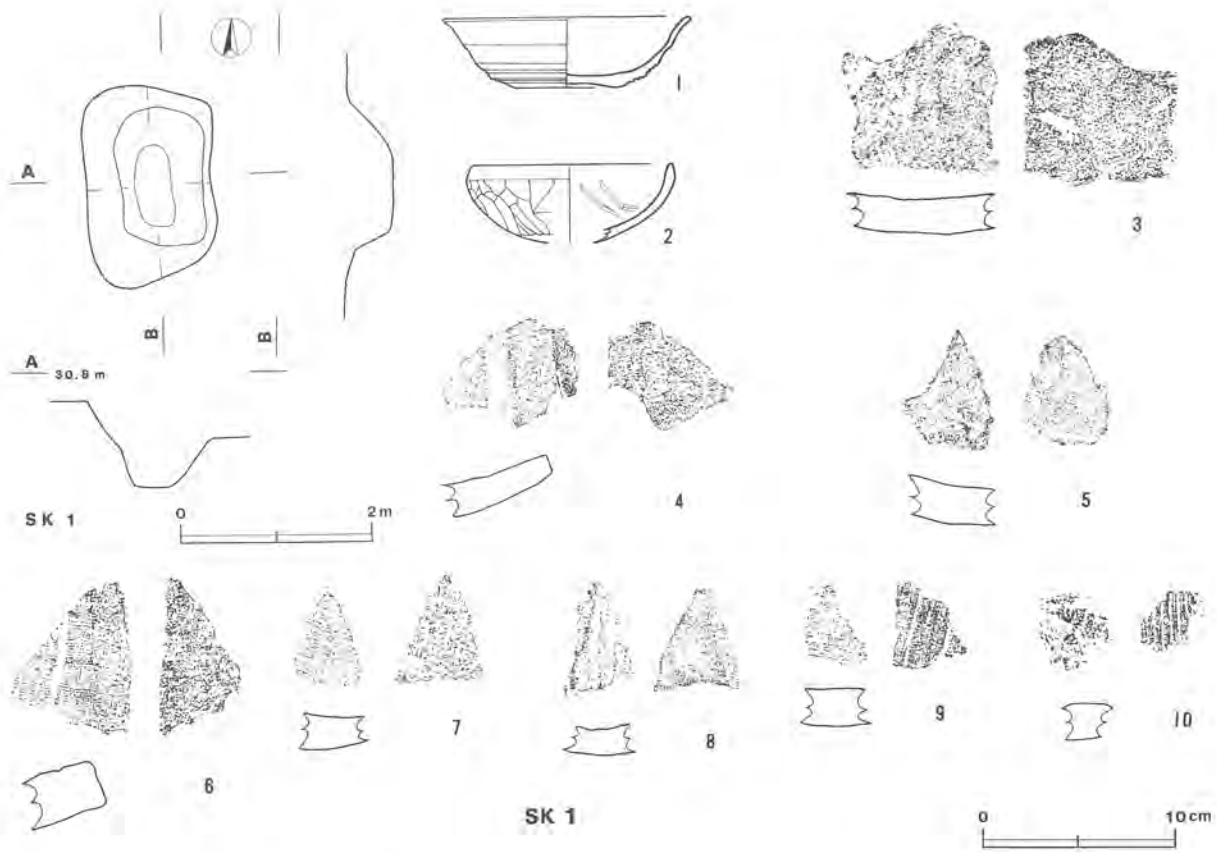
第864号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量

第431図　第243・248・250・252・278・345・447・491・506・556・736・851・864号土坑



第432図　第248・250・252・305・491・736号土坑出土遺物

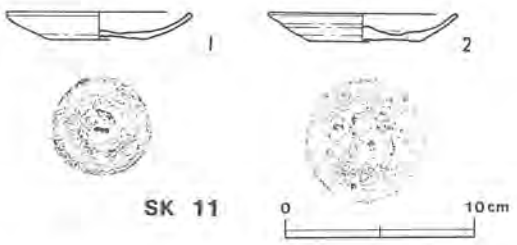
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第432図 1	Ⅲ 土師質土器	A 8.6 B 1.9 C 5.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒 淡橙色 普通	SK305 P1421　95%
第432図 1	坏 土師器	A [14.4] B 4.9 C 8.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。底部多方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	SK491 P1625　70%
第432図 1	Ⅲ 土師質土器	A 8.5 B 1.7 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り無調整。	砂粒 浅黄橙色 普通	SK736 P2164　70% 覆土



第433図　第１号土坑，出土遺物

奈良・平安時代C地区土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.8 C 5.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面黒色処理。体部下端及び底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	SK1 P4086 60％ 北部覆土
2	坏 土師器	A 10.4 B (4.1)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・スコリア 橙色 普通	SK1 P4087 80％ 南部覆土



第434図　第11号土坑出土遺物

奈良・平安時代D地区土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第434図 1	Ⅲ 土師質土器	A 10.0 B 1.4 C 6.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	SK11 P4218 100％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	皿 土師質土器	A 9.7 B 1.5 C 5.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	SK11 P4219 85%

3　掘立柱建物跡

当遺跡の奈良・平安時代の掘立柱建物跡は，B地区から1棟確認されている。

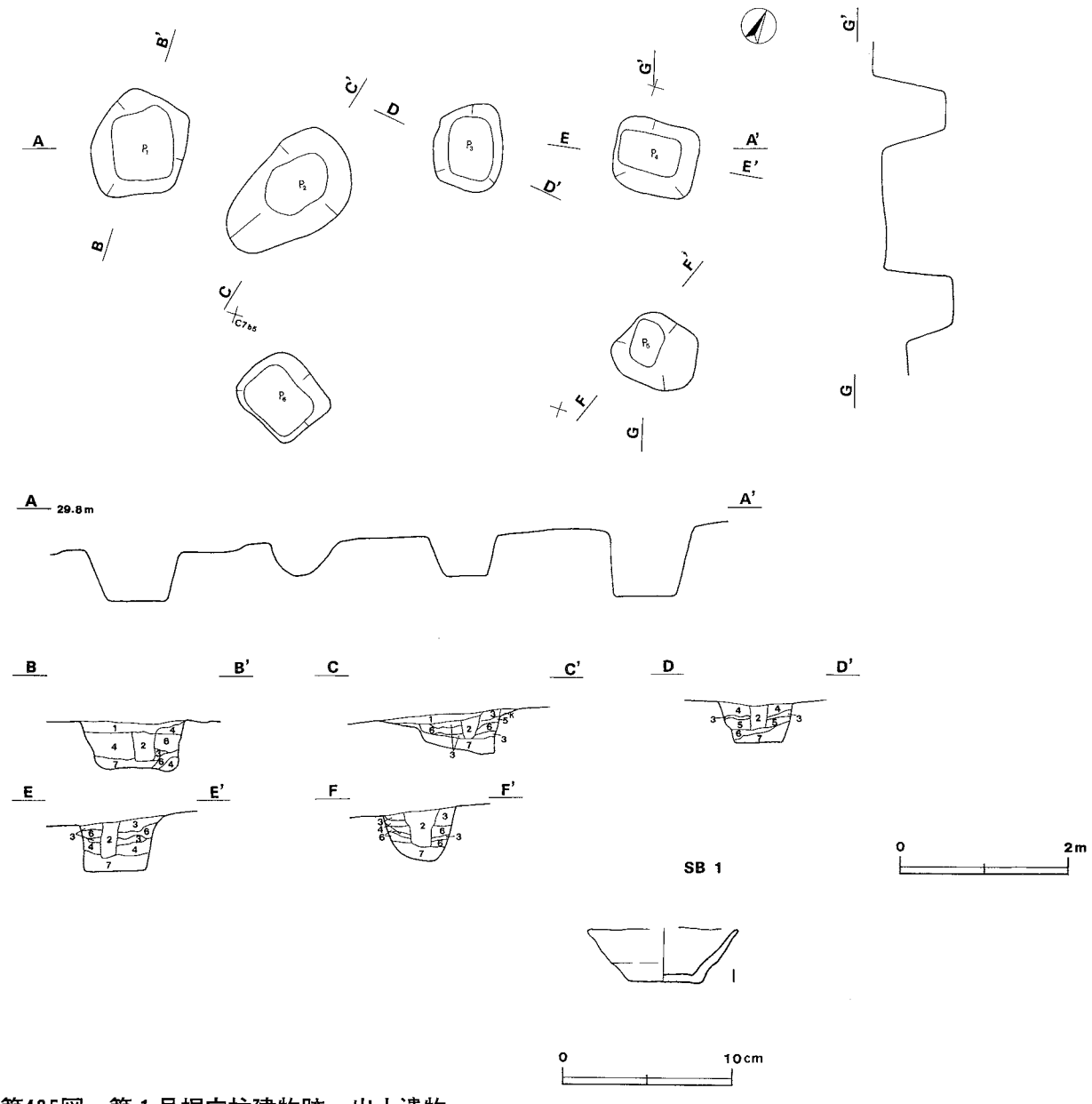
B地区

第1号掘立柱建物跡(第435図SK 1・2・3・4・5・10を変更)

位置　調査B区の西部のC7a$_5$区を中心に確認されている。南部と西部は調査エリア外に延びている。

重複関係　P$_5$は第2号住居跡を掘り込んでいる。

桁行方向　N－77°－E。



第435図　第1号掘立柱建物跡，出土遺物

規模　調査エリア内で考えると東西３間（6.04m），南北１間（2.34m）の東西棟の建物であり，柱間寸法は桁行1.90～2.16ｍ，梁行2.34ｍである。柱穴掘り方はP_1・P_2は長径124～172cm，短径104～110cmの楕円形で，深さ52～54cmである。P_3～P_6は長軸98～102cm，短軸82～85cmの長方形で，深さ58～64cmである。

柱穴覆土　柱穴覆土の土層断面中央に柱の痕跡が見られるのはP_1～P_5である。柱痕部分は黒褐色土で周囲の部分とは異なる。周囲は堅くつき固めて，砂を多量に含む層と少量含む層とが互層になっている。最下層は砂を多量に含んだ黒褐色土で，特に堅くしまっている。

遺物　P_5内から第435図１の土師質土器皿が出土している。

所見　奈良時代とした第２号住居跡より新しいことや柱穴の掘り方がしっかりしたものであることが特徴的である。出土遺物から平安時代中期(10世紀中～後葉)と考えられる。

第１号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図1	皿 土師質土器	A［8.9］ B　3.3 C　4.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P4023 80％ P_5覆土

4　埋設遺構

当遺跡の奈良・平安時代の埋設遺構は，Ａ地区から９基確認されている。合口甕棺が３基で，その内１基は３個体の甕を合わせたものである。火葬墓が３基，単なる埋設遺構が３基で，この中の１基は常滑産の三筋壺を使用したものである。文章化するものは，埋設遺構の形状及び規模の明確なもの，遺物の出土状況が良好なものに限り，その他のものは一覧表にすることにした。

Ａ地区

第９号埋設遺構（第436図）

位置　調査Ａ区の中央部のD3j_1区を中心に確認されている。

規模と形状　長径［0.90］ｍ，短径［0.50］ｍの楕円形で，深さ［65］cmである。

長径方向　Ｎ－３°－Ｗ。

壁　壁高65cm程で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面　皿状。

覆土　ローム粒子を少～中量含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物　土坑内に第437図１・２の甕を南北方向に口縁を合わせ，横位に据えられている。甕棺内は空洞で，黒褐色土が少量入っているが，骨片は確認できなかった。

所見　本跡は合口甕棺で，時期は平安時代前期（８世紀後葉～９世紀前葉）と考えられる。

第11号埋設遺構（第436図）

位置　調査Ａ区の中央部のD4j_3区を中心に確認されている。

重複関係　TM22周溝覆土を掘り込んでいる。

規模と形状　径［0.50］ｍの円形と考えられ，深さ60cmである。

長径方向　N－6°－E。

壁　壁高60cm程で，急傾斜で立ち上がっている。

底面　凹凸。

覆土　ローム粒子・焼土粒子を中量含んだ黒褐色土が堆積している。

遺物　土坑内から第437図3の須恵器甕が正位の状態で出土している。甕内はローム粒子・炭化物を少量含んだ黒褐色土が堆積し，焼けた骨片が多量に出土している。

所見　本跡は甕内から焼けた骨片が多量に出土していることから，火葬墓と考えられる。時期は平安時代前期と考えられる。

第15号埋設遺構（第436図）

位置　調査A区の南部のE4g$_4$区を中心に確認されている。

重複関係　第327号土坑を掘り込んで構築している。

規模と形状　径［0.70］mの円形と考えられ，深さ45cmである。

長径方向　N－64°－W。

壁　壁高45cm程で，急傾斜で立ち上がっている。

底面　平坦。

覆土　ローム粒子を中量，焼土粒子・炭化粒子を少量含んだ暗褐色土が堆積している。

遺物　土坑内から第438図5の須恵器甕が逆位の状態で出土している。甕内は黒褐色土が堆積しているが，骨片は確認できなかった。

所見　本跡は平安時代前期（9世紀前葉）の埋設遺構と考えられる。

第16号埋設遺構（第436図）

位置　調査A区の中央部のC4c$_3$区を中心に確認されている。

規模と形状　長軸1.18m，短軸0.67mの隅丸長方形で，深さ20cmである。

長径方向　N－8°－E。

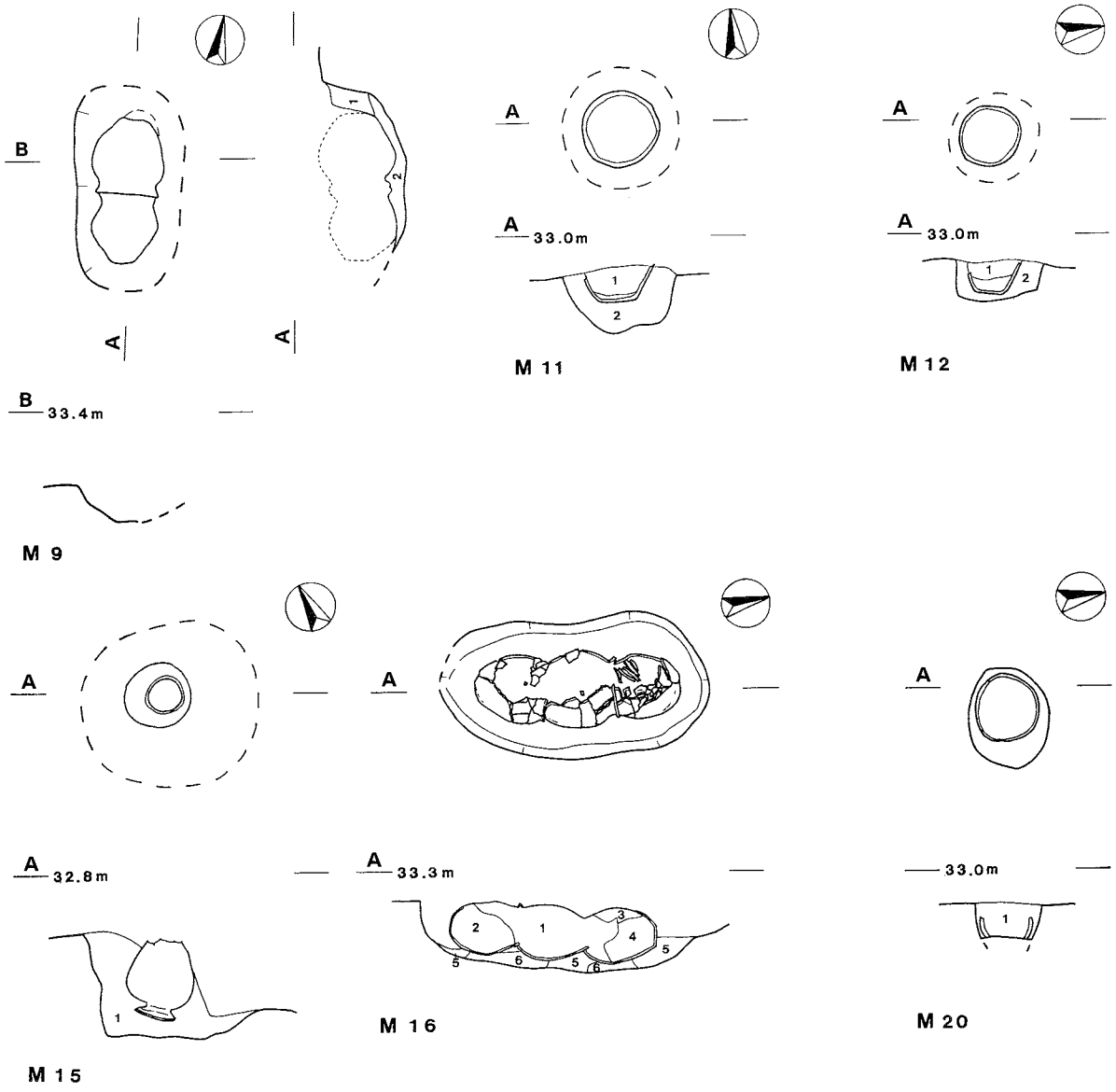
壁　壁高20cm程で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面　皿状。

覆土　ローム粒子を少量含んだ褐色土が堆積している。

遺物　土坑内から第438図6・7・8の甕3個体が横位の状態に組合わされて出土している。6の甕と7の甕の口縁を合わせ，7の甕の底部に8の甕の口縁を合わせている。7の甕の底部は意図的に打ち欠いている。甕棺内はローム粒子を極少量含んだ暗褐色土が充塡しているが，骨片は確認できなかった。

所見　本跡は合口甕棺で，時期は平安時代前期（9世紀前葉）と考えられる。



第9号埋設遺構土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量

第11号埋設遺構土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化物少量 骨片多量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量

第12号埋設遺構土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化物多量 骨片多量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量

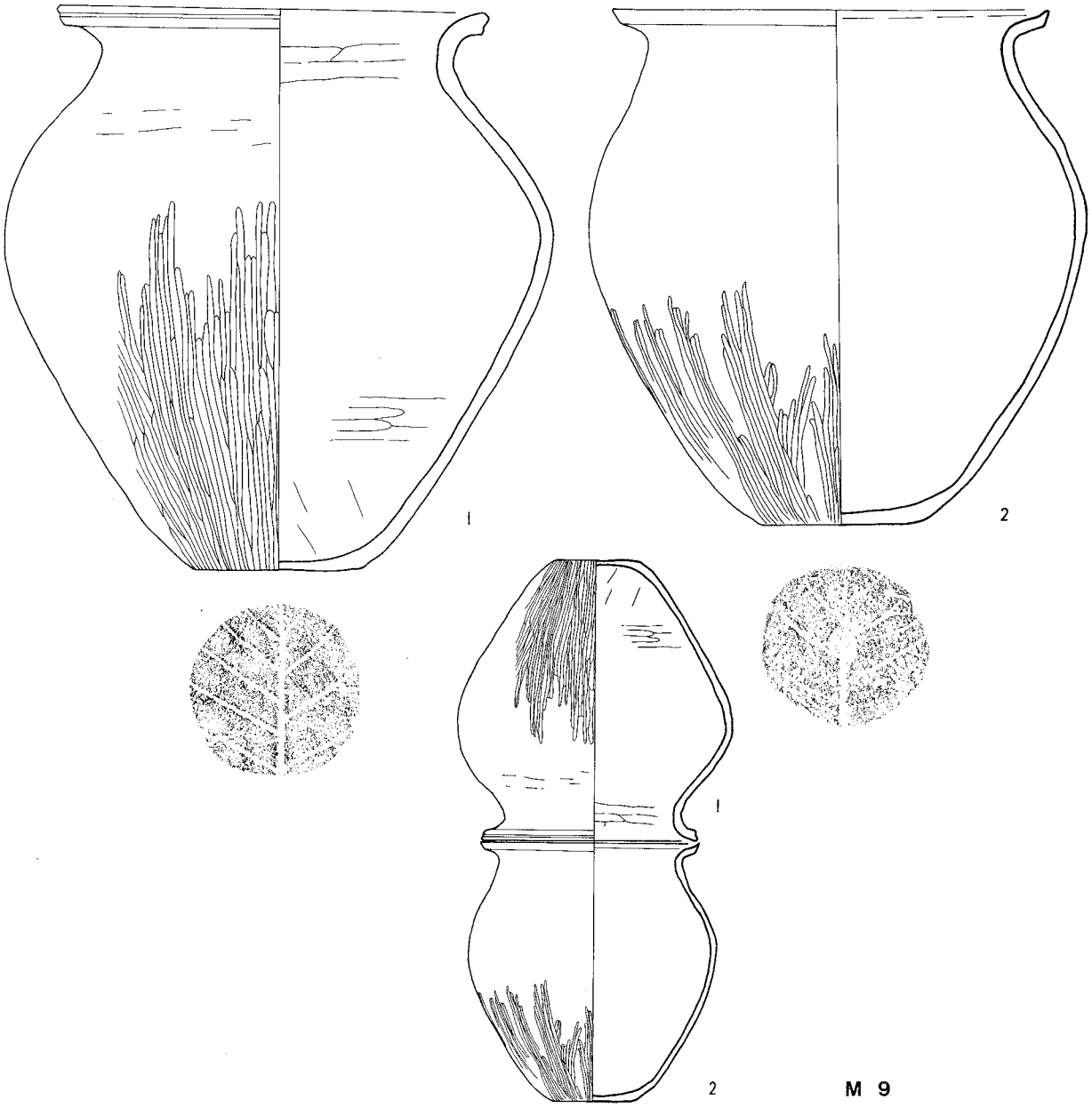
第15号埋設遺構土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子・炭化粒子少量

第16号埋設遺構土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 骨粉微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子少量
6 褐 色 ローム粒子微量

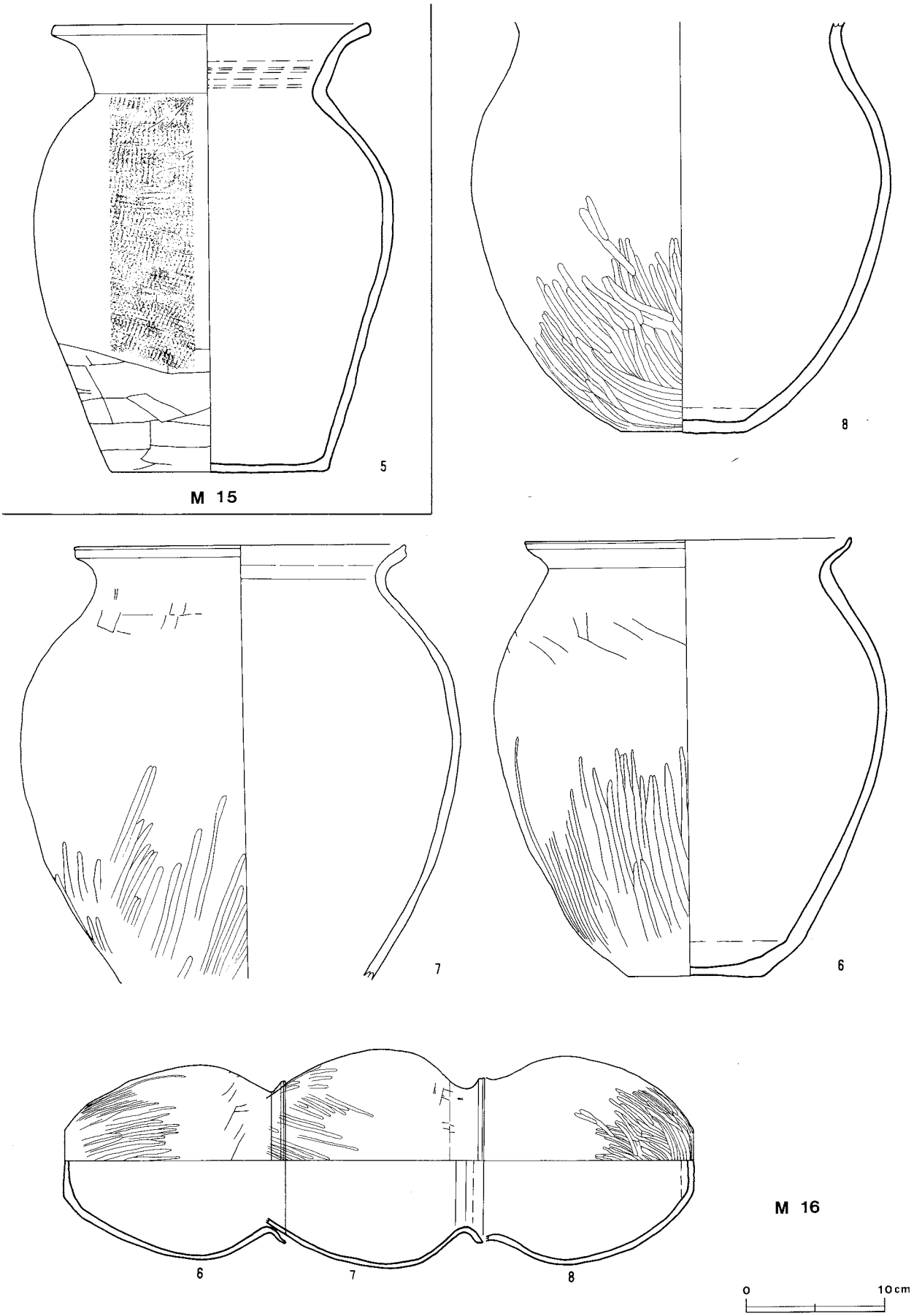
第20号埋設遺構土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量

0 1m

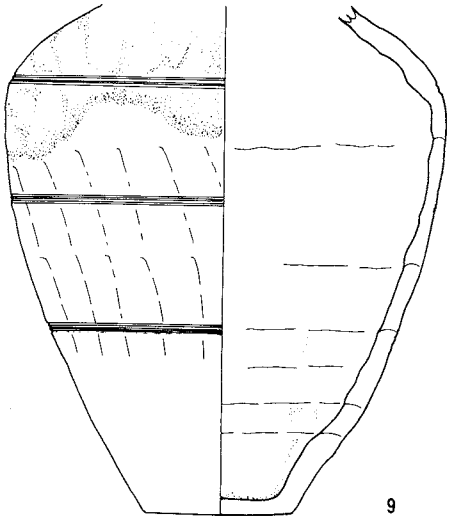
第436図 第9・11・12・15・16・20号埋設遺構



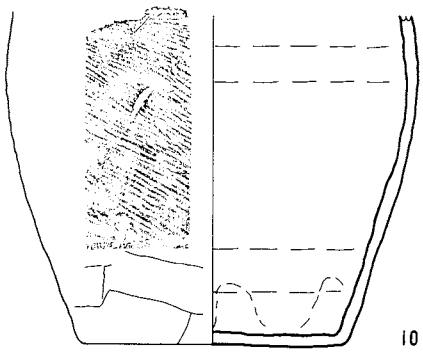
第437図　第 9・11・12号埋設遺構出土遺物

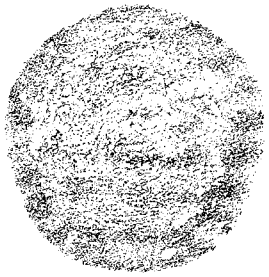


第438図　第15・16号埋設遺構出土遺物

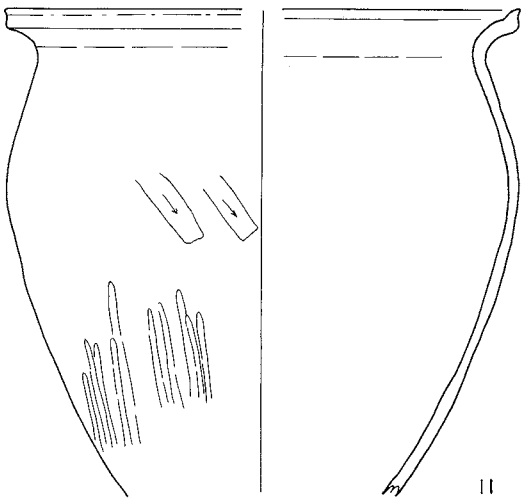


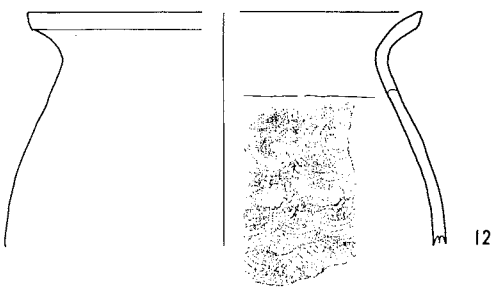
M 17



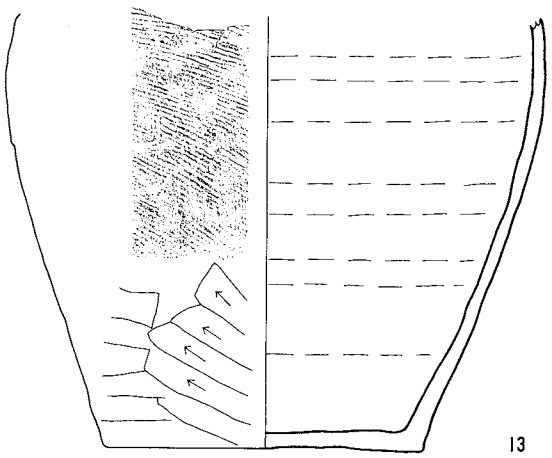


M 18

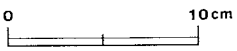




M 19



M 20



第439図　第17・18・19・20号埋設遺構出土遺物

表19　平安時代埋設遺構一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
9	D3j1	N－3°－W	楕円形	[0.90]×[0.48]	[65]	緩斜	皿状	人為	1342・1343の甕（横位）	合口甕棺，甕内空洞，骨片無し	第436図
11	D4j3	N－6°－E	[円形]	径[0.5]	30	急斜	凹凸	人為	5134の須恵器甕（正位）	火葬墓，焼けた骨片多量，TM22周溝内	第436図
12	F4a2	N－37°－W	[円形]	径[0.4]	18	急斜	皿状	人為	5135の須恵器甕（正位）	火葬墓，焼けた骨片多量，TM22周溝内	第436図
15	E4g4	N－64°－W	[円形]	径[0.7]	45	急斜	凹凸	人為	5137の須恵器甕（逆位）	骨片無し，本跡←SK327	第436図
16	C4c3	N－8°－E	隅丸長方形	1.18 × 0.67	20	緩斜	皿状	人為	5138・5139・5140の甕（3個体を横位）	合口甕棺，骨片無し	第436図
17	F3g4	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	5141の常滑産三筋壺（正位）		
18	F3g4	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	5142の須恵器甕（正位）	火葬墓，焼けた骨片多量，TM38周溝内	
19	F3g8	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	5143・5144の甕（横位）	合口甕棺	
20	F3h8	N－76°－E	楕円形	0.42 × 0.36	15	急斜	[皿状]	人為	5145の須恵器甕（正位）	骨片無し	第436図

平安時代埋設遺構遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	甕 土師器	A 25.0 B 33.3 C 10.0	平底。体部は内彎しながら立ち上が理，最大径は体部上位にもつ。口縁部は外反し，口唇部は外上方にわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石 赤褐色 普通	M9 P5200 95％
2	甕 土師器	A 25.7 B 30.5 C 10.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，最大径は体部中位にもつ。口縁部は外反し，口唇部は外上方にわずかにつまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。外面煤付着。底部木葉痕。	長石・雲母 橙色 普通	M9 P5201 95％
第437図 3	甕 須恵器	B (18.8) C 16.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面平行叩き目，下端ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	M11 P5134 40％
第437図 4	甕 須恵器	B (13.0) C 16.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面格子状の叩き目後ヘラ磨き，下端ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	M12 P5135 30％
第438図 5	甕 須恵器	A 22.9 B 32.6 C 15.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は外反し，上位でさらに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子状の叩き目後横位のヘラ磨き，下端ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 褐灰色 普通	M15 P5137 95％
第438図 6	甕 土師器	A 23.5 B 31.8 C 9.7	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は外傾する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。底部木葉痕後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 黄橙色 普通	M16 P5138 75％
7	甕 土師器	A 24.0 B (31.7)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	M16 P5139 80％
8	甕 土師器	B (29.7) C 9.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き，内面ナデ。外面煤付着。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	M16 P5140 60％
第439図 9	三筋壺 陶器	B (27.0) C 7.9	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，上端で急角度で内彎する。	体部内・外面横ナデ。体部に3本の沈線が3段に巡る。体部上位の釉がかかる。	黒色粒・緻密 褐色 (釉)オリーブ 良好	M17 灰色 P5141 75％ 常滑産
第439図 10	甕 須恵器	B (17.5) C 13.0	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面平行叩き目，下端ヘラ削り，内面ナデ。底部に網目痕有り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	M18 P5142 40％
第439図 11	甕 土師器	A [27.0] B (25.8)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口唇部は上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，下位縦位のヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	M19 P5143 20％
12	甕 土師器	A [20.6] B (12.5)	体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。口唇部はわずかに外上方につまみ出す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面同心円の叩き目。	砂粒・長石 赤褐色 普通	M19 P5144 5％
第439図 13	甕 須恵器	B (22.9) C 16.5	平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面平行叩き目，下端ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 灰白色 普通	M20 P5145 40％

5　井戸

当遺跡から確認された奈良・平安時代の井戸は，D地区からの3基である。文章化するものは，井戸の形状及び規模の明確なもの，遺物の出土状況が良好なものに限り，その他のものは一覧表にすることにした。

D地区

第5号井戸(第441図ＳＥ５　ＳＫ15を変更)

位置　調査D区の中央部のJ12d_1区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の上に第9号住居跡の床面が構築されている。

規模と形状　掘り方は，上面は長径3.87m，短径3.72mのほぼ円形で，深さは2.20mである。底面は2.20m程のやや平らな皿状であり，形状は底面まで擂鉢状である。底面中央部に長径1.20m，短径1.04mの楕円形で，深さ23cm程の掘り込みが見られる。

長径方向　Ｎ－0°。

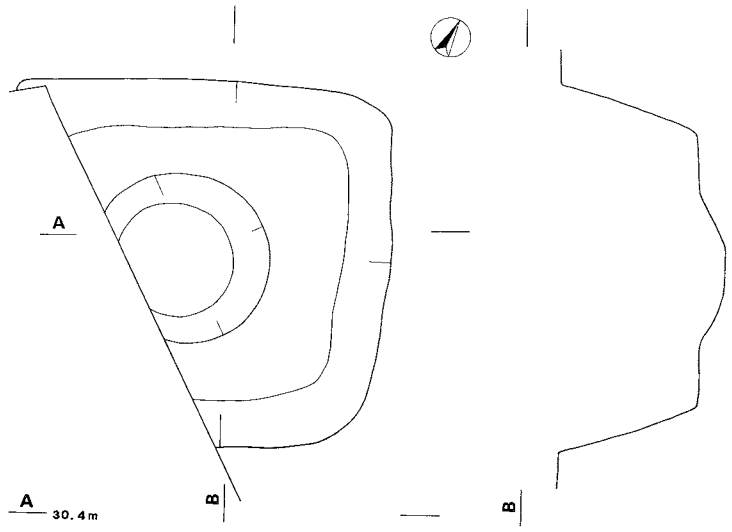
覆土　15層からなる。各層とも中央部に向かって下降して傾斜する土層である。1～11・14・15層は暗褐色土で，12・13層は褐色土である。6～8層の砂は粒子が大きくブロック状に堆積し，6・8層の粘土は粒状あるいは小さいブロック状になってまばらに含まれている。

遺物　遺物は覆土中から土師器282片，須恵器5片，雑石7個等である。南東側覆土下層から第442図1の須恵器坏と4の石製紡錘車が出土している。

所見　出土遺物から時期を判断すると奈良時代前期(8世紀前葉)と考えられる。

表20　奈良時代井戸一覧表

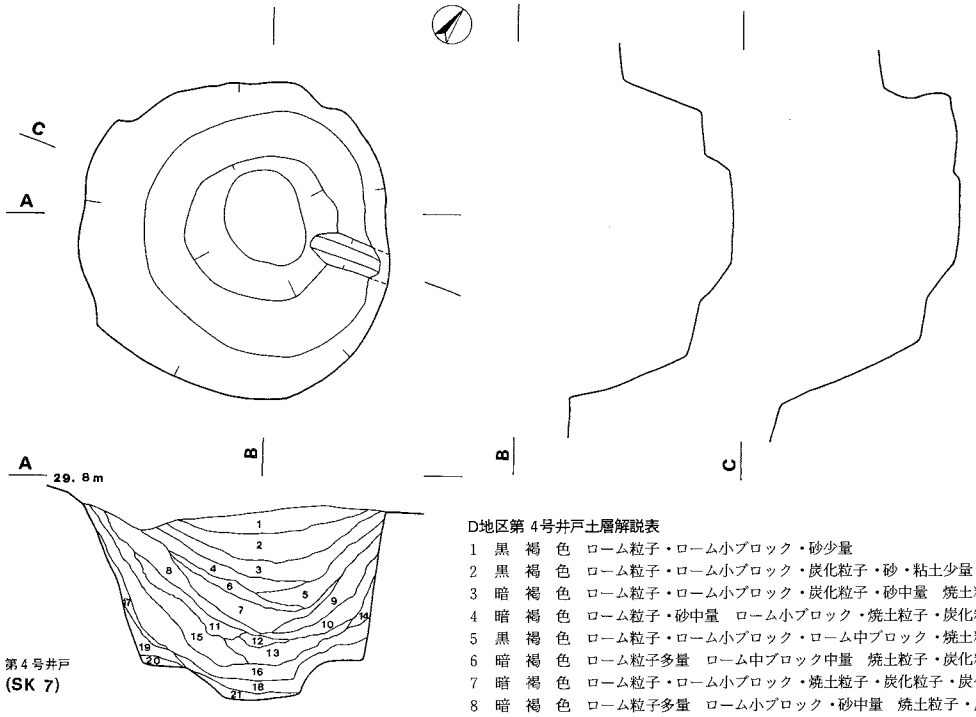
井戸番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
3	J11f0	N−11°−W	[方　形]	3.90 ×(2.85)	220	緩斜	皿状	自然	土師器片，須恵器片，鉄屑	奈良時代，2段掘り込み，本跡←ＳＤ１	第440図
4	J12f2	N−0°	円　形	3.53 × 3.39	192	急斜	平坦	自然	土師器(手捏土器)，須恵器片，鉄滓，土製品(支脚)	奈良時代，2段掘り込み	第440図
5	J12d1	N−0°	円　形	3.87 × 3.72	220	急斜	皿状	人為自然	須恵器(坏)，土師器(高坏)，石製品(紡錘車・磨石)，土製品(土玉)	奈良時代，2段掘り込み，本跡←ＳＩ９	第441図



第3号井戸
(SK 6)

D地区第3号井戸土層解説表

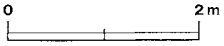
1 褐　色 ローム粒子中量 砂少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 ローム粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・粘土微量
5 暗 褐 色 ローム粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土微量
8 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
9 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
10 黒 褐 色 ローム粒子微量
11 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量
12 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
13 暗 褐 色 粘土少量 ローム粒子微量
14 暗 褐 色 焼土粒子微量



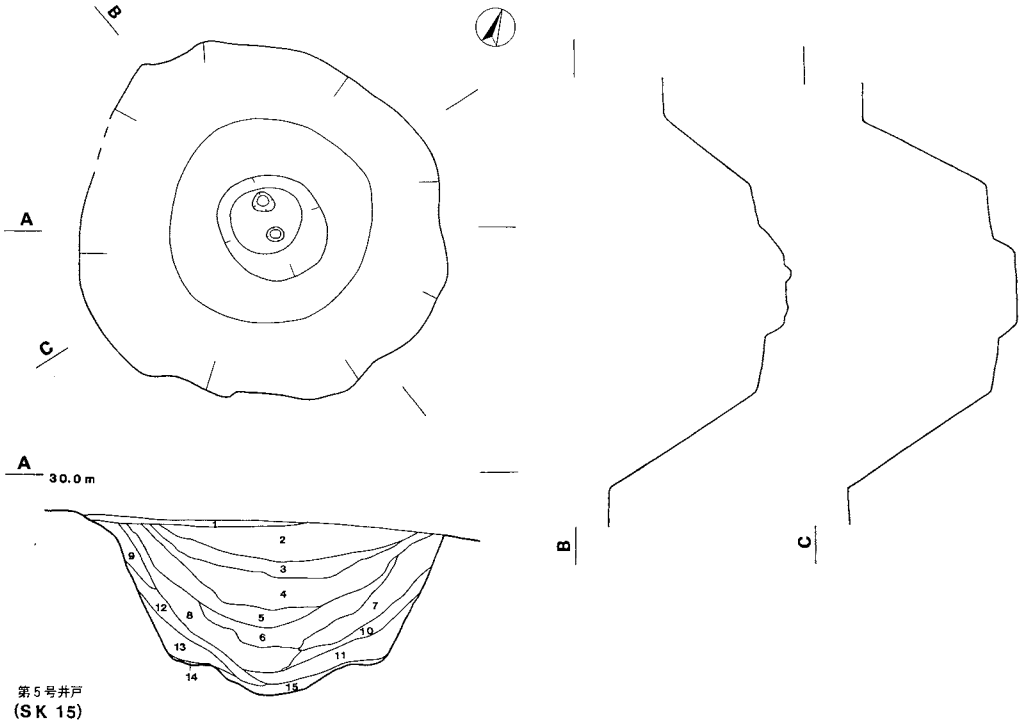
第4号井戸
(SK 7)

D地区第4号井戸土層解説表

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・砂少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・砂・粘土少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・砂中量 焼土粒子・炭化物少量
4 暗 褐 色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
5 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム中ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子・砂少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・砂少量
8 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・砂中量 焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗 褐 色 砂多量 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
11 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック・焼土粒子中量 炭化粒子・砂少量
13 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 炭化粒子・炭化物・礫少量
14 暗 褐 色 粘土中量 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
15 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
16 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・砂少量
17 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
18 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
19 暗 褐 色 ローム粒子多量 ローム小ブロック中量 炭化粒子少量
20 黒 褐 色 ローム粒子・砂・粘土少量
21 暗 褐 色 ローム粒子少量



第440図　第3・4号井戸



第5号井戸
(SK 15)

D地区第5号井戸土層解説表

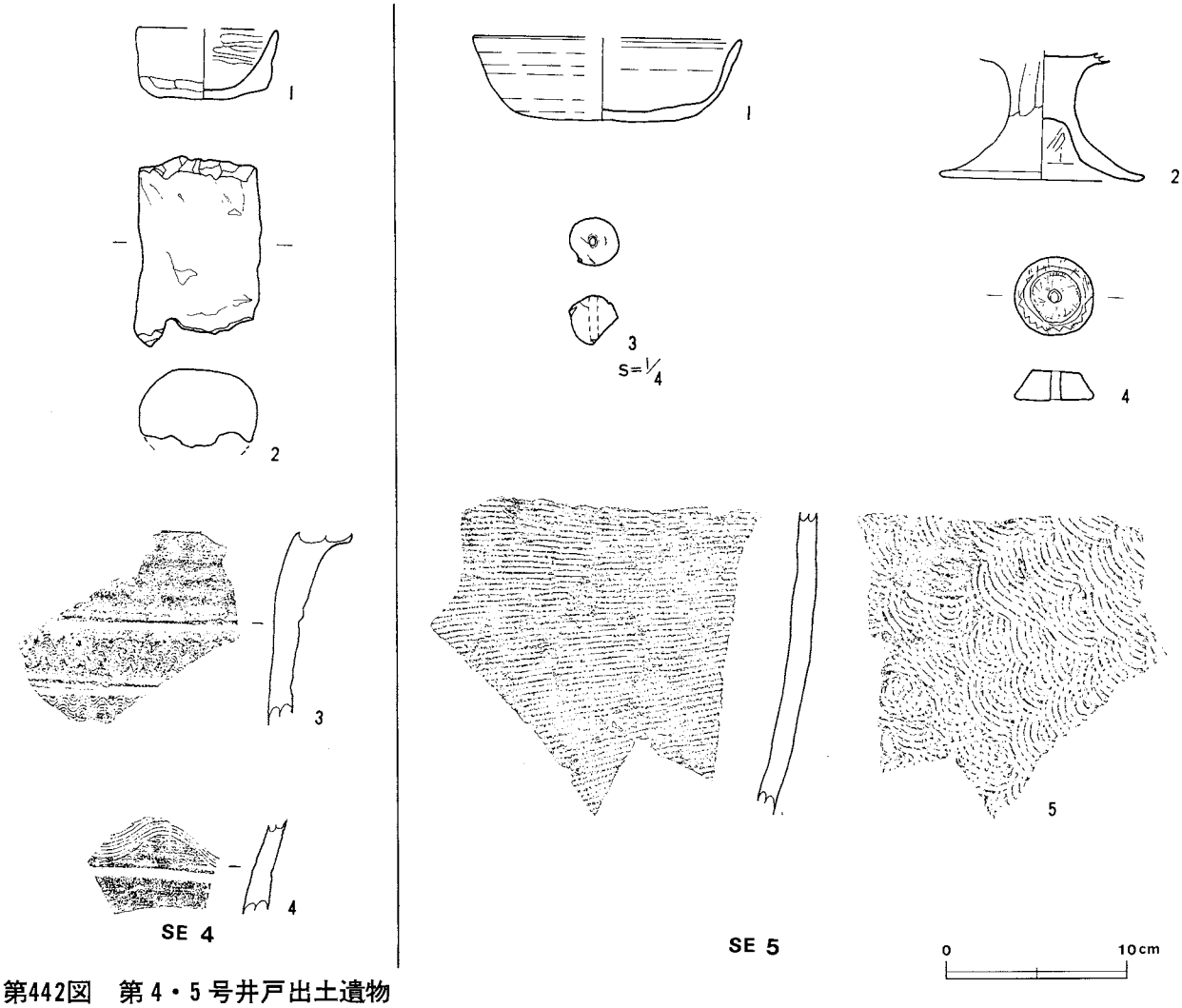
1 暗褐色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・砂少量
3 暗褐色 ローム粒子中量 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量 ローム中ブロック・炭化粒子・炭化物少量
6 暗褐色 ローム粒子・砂中量 ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・粘土少量
7 暗褐色 粘土中量 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・砂少量
8 暗褐色 砂多量 ローム粒子・ローム小ブロック中量 焼土粒子・炭化粒子・粘土少量
9 暗褐色 砂多量 ローム粒子中量 ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物少量
10 暗褐色 砂中量 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
12 褐色 砂極多量 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
13 褐色 砂極多量 ローム粒子・ローム小ブロック少量
14 暗褐色 砂少量
15 暗褐色 ローム粒子・砂少量

0 2m

第441図 第5号井戸

奈良時代井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	手捏土器 土師器	A [7.6] B 4.0 C 6.5	平底。体部は直立近くに外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	SE4 (SK7変更) P4217 80% 覆土
第442図 1	坏 須恵器	A [14.7] B 4.6 C 7.4	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	SE5 (SK15変更) P4220 60% 北部覆土
2	高坏 土師器	B (7.2) D 11.4	脚部片。脚部は円柱状で，裾部で大きく開く。	脚部外面ヘラナデ，内面ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	SE5 (SK15変更) P4221 40% 北部覆土



第442図　第4・5号井戸出土遺物

6　溝

当遺跡から確認された奈良・平安時代の溝は，C地区からの2条である。文章化するものは，溝の形状や遺物の出土状況に特徴のあるものに限り，その他のものは一覧表にすることにした。

C地区

第1号溝(第443図)

位置　調査C区の中央部のF8，G8・9区を南北に通っている。

重複関係　南端は第2号溝，北東部は第1号道路状遺構をそれぞれ掘り込んでいる。

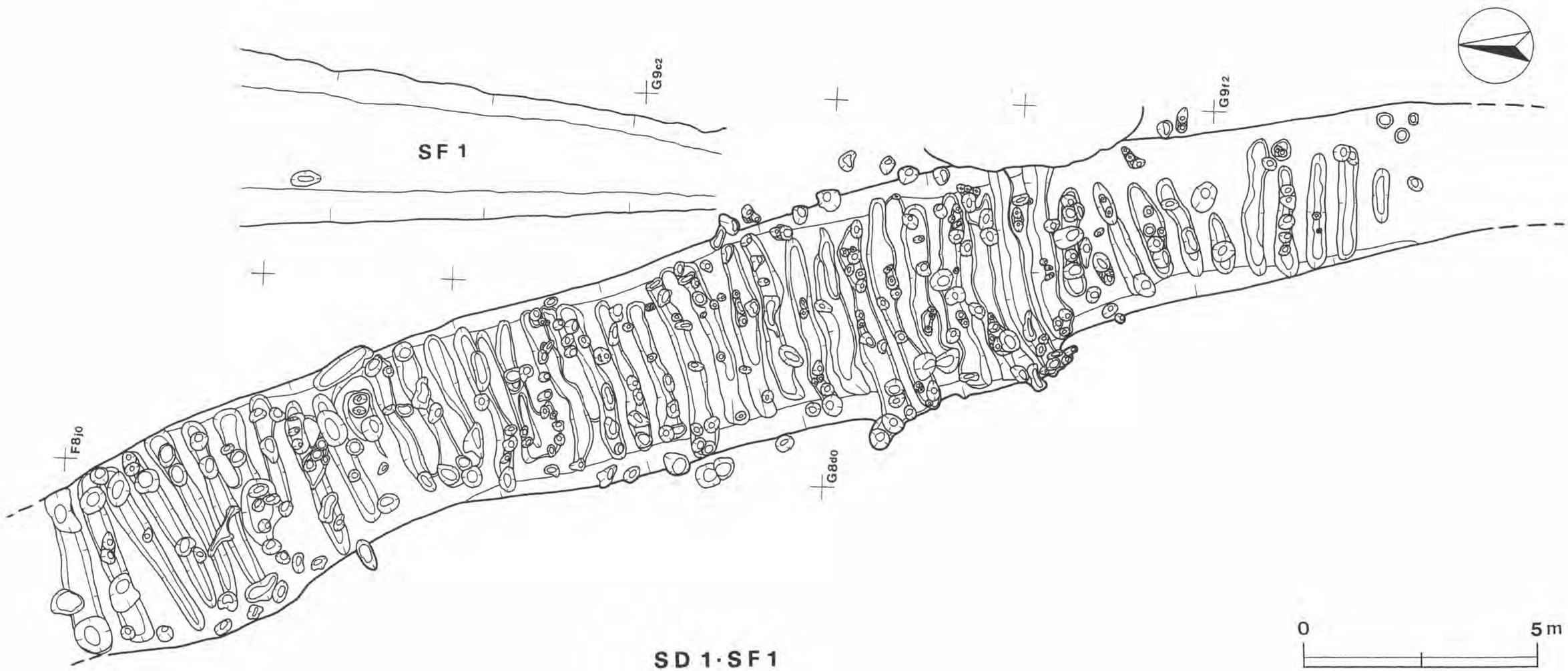
規模　上幅3.0m，下幅2.0m，深さ0.3mで，確認された長さは32.0mである。断面形は皿状をしている。

方向　N－16°－W。

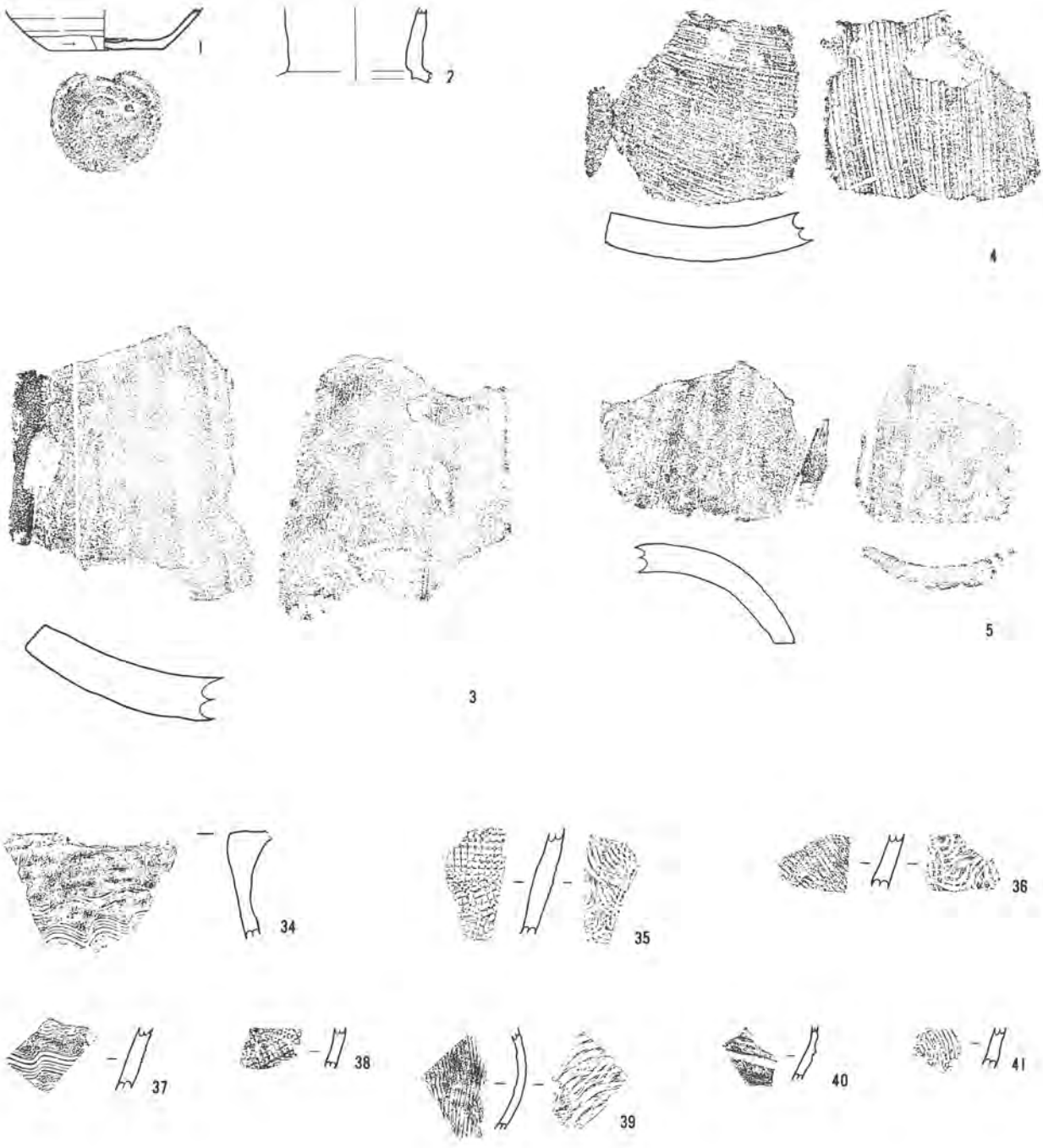
覆土　1層からなる。1層はローム粒子を少量含んだ黒褐色土である。

遺物　瓦が多量に出土している。南部から第444図1の須恵器坏，北部から2の須恵器長頸瓶が出土している。また，鉄滓は10片程出土している。

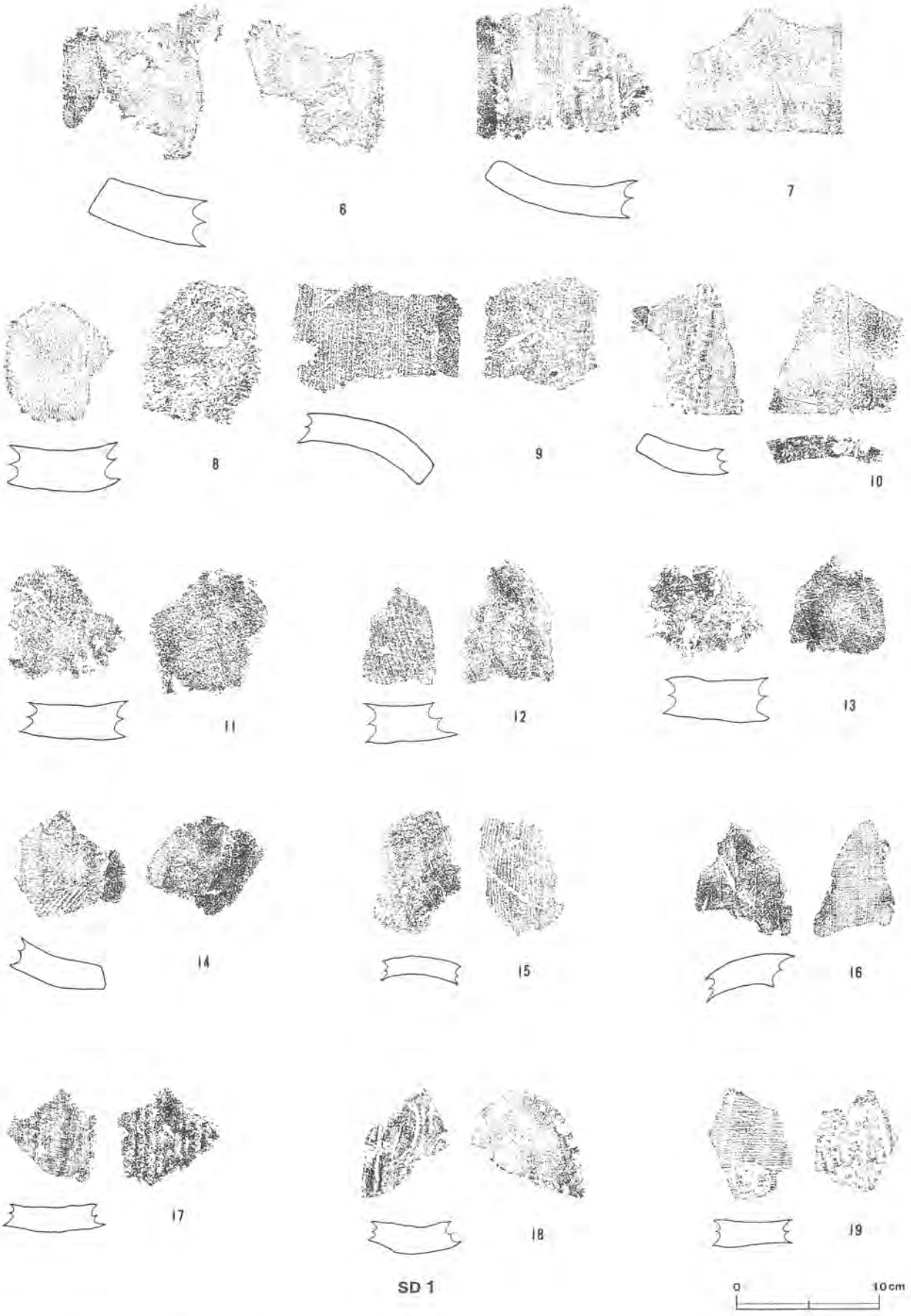
所見　溝内に幅40～60cm，深さ10～20cmの畝がほぼ東西方向に走っている。ところどころに柱穴状のピットが見られ，布掘りである。このピットの間隔は不規則であるが公的施設の建物跡の可能性が考えられ，また，多量に布目瓦が出土していることから，本跡はその公的施設に伴う溝の可能性がある。時期は平安時代前期(9世



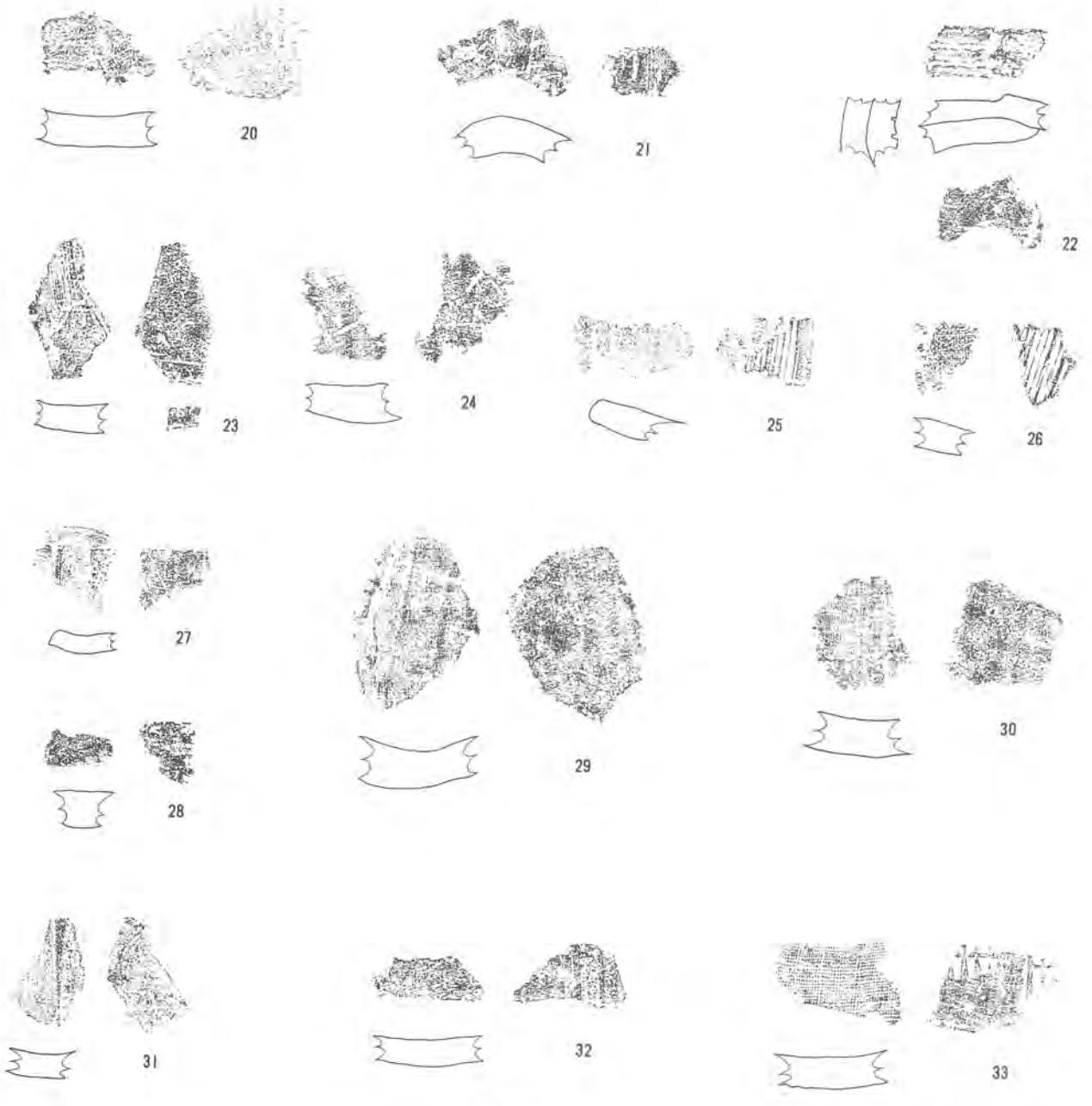
第443図　第１号溝・第１号道路状遺構



第444図　第１号溝出土遺物(1)



第445図　第１号溝出土遺物(2)



第446図　第1・2号溝出土遺物

紀代)の溝と考えられる。

表21　奈良・平安時代C地区溝一覧表

溝番号	位置	長軸方向(長軸方向)	断面	規模(m) 長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
1	F8,G8・9	N−16°−W	皿状	(32.0)	3.0	2.0	0.3	緩斜	軟状	自然	土師器片、須恵器(坏・長頸瓶)、瓦、鉄滓	本跡→SD2、SF1	第443図
2	G8・9	N−40°−W	皿状	(26.0)	−	−	0.3	緩斜	皿状	自然	土師器片、須恵器片、瓦	本跡→SD1	第443図

平安時代溝出土遺物観察表（C地区）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第444図 1	坏 須恵器	B（2.5） C　7.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒・長石 灰色 普通	SD1 P4111　50% 覆土
2	長頸瓶 須恵器	B（4.6）	頸部片。頸部は直立して立ち上がる。	内・外面横ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	SD1 P4112　5% 覆土

第447図　第1号溝出土遺物

7　道路状遺構

当遺跡から確認された奈良・平安時代の道路状遺構は，C地区からの1条である。

第1号道路状遺構(第443図SF1)

位置　調査C区の中央部のF8，G8・9区を南北に通っている。

重複関係　南西部を第1号溝に掘り込まれている。

規模　上幅3.7m，下幅2.6m，深さ0.5mで，確認された長さは10mである。断面形は皿状をしている。部分的に小砂利が敷き詰められている。

方向　N−4°−W。

覆土　5層からなる。

1層は炭化粒子少量含んだ黒褐色土

2層はローム粒子少量含んだ暗褐色土

3層は砂少量含んだ暗褐色土

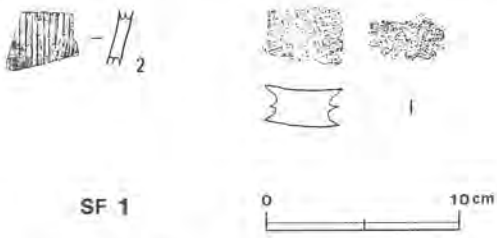
4層はローム粒子・ローム小ブロック少量含んだ暗褐色土

5層はローム粒子多量含んだ明褐色土

1～3層が本跡の基本土層である。

遺物　土師器片，須恵器片，平瓦が出土している。

所見　本跡は平安時代前期の道路状遺構と考えられる。



第448図　第1号道路状遺構出土遺物

A地区出土瓦一覧表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第266図20	平瓦	(4.8)	(3.4)	2.7	(95.6)	SI80	T3 凹面布当痕
第267図7	平瓦	(13.4)	(8.2)	2.9	(392.6)	SI82	T4 凹面布当痕後ヘラ削り
第328図112	軒丸瓦	面径[15.8]cm		(4.5)	(481.7)	TM2	T3001 中台廃寺出土瓦と同笵
113	平瓦	(8.8)		2.1	(174.1)	TM2	T3012 凹面布当痕
114	平瓦	(10.1)	(5.0)	2.0	(160.9)	TM2	T3013 凸面細縄叩き
115	平瓦	(8.7)	(7.3)	2.1	(197.8)	TM2	T3015 凹面布当痕
116	丸瓦	(6.1)	(7.4)	2.1	(137.2)	TM2	T3016 凹面布当痕
117	平瓦	(7.2)	(5.8)	1.8	(131.4)	TM2	T3020 凹面布当痕，凸面平行叩き
118	平瓦	(5.4)	(4.3)	1.6	(75.7)	TM2	T3017 凹面布当痕
119	平瓦	(5.5)	(6.5)	2.5	(131.4)	TM2	T3018 凹面布当痕，凸面平行叩き後ナデ
120	平瓦	(3.7)	(5.3)	1.6	(58.0)	TM2	T3019 凹面布当痕
121	軒平瓦	(2.2)	(5.5)	2.2	(39.5)	TM2	T3021
122	平瓦	(7.8)	(11.1)	1.7	(224.8)	TM2	T3022 凹面布当痕後ヘラ削り
123	丸瓦	(5.2)	(4.6)	2.7	(99.5)	TM2	T3023
124	平瓦	(6.4)	(3.1)	1.5	(58.2)	TM2	T3025 凹面布当痕
125	丸瓦	(9.4)	(7.2)	2.0	(121.5)	TM2	T3024 凹面布当痕
126	軒平瓦	(4.5)	6.5	1.8	(83.5)	TM2	T3026
127	丸瓦	(9.1)	(8.6)	1.9	(161.3)	TM2	T3027 凹面布当痕
128	平瓦	(6.0)	(7.2)	2.3	(156.7)	TM2	T3028 凹面布当痕
129	平瓦	(10.7)	(5.2)	2.5	(266.7)	TM2	T3029 凹面布当痕
130	平瓦	(11.0)	(6.2)	2.2	(213.3)	TM2	T3030 凹面布当痕
第329図131	平瓦	(7.1)	(2.8)	2.2	(101.2)	TM2	T3031 凹面布当痕
132	平瓦	(6.9)	(7.9)	2.4	(207.9)	TM2	T3032 凹面布当痕
133	平瓦	(9.9)	(9.4)	2.0	(297.1)	TM2	T3035 凹面布当痕後糸切り，凸面平行叩き後ヘラナデ
134	丸瓦	(9.9)	(7.0)	1.9	(131.4)	TM2	T3033 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
135	平瓦	(5.3)	(6.4)	1.6	(112.5)	TM2	T3036 凹面布当痕，凸面平行叩き
138	平瓦	(7.5)	(5.3)	1.5	(97.6)	TM2	T3034 凹面布当痕，凸面縄叩き
第333図2	平瓦	(5.4)	(4.5)	1.5	(71.7)	TM12	T3037 凹面ヘラ削り
30	平瓦	(26.0)	(13.5)	1.7	(1176.2)	TM14	T3002 凹面布当痕，凸面ヘラ削り後ナデ
第334図28	平瓦	(4.4)	(3.1)	1.6	(28.2)	TM14	T3038 凹面布当痕
29	平瓦	(7.0)	(7.6)	1.5	(111.4)	TM14	T3039 凹面布当痕，凸面平行叩き
第341図82	軒平瓦	(6.0)	(8.0)	(6.0)	(231.3)	TM21	T3011
第343図21	平瓦	(10.5)	(11.9)	2.6	(548.9)	TM22	T3040 凹面布当痕後ヘラ削り
22	平瓦	(9.0)	(6.8)	2.0	(162.0)	TM22	T3042 凹面布当痕後平行叩き，凸面平行叩き後ヘラナデ
23	平瓦	(6.5)	(4.1)	1.3	(62.7)	TM22	T3041 凹面布当痕，凸面平行叩き
24	平瓦	(6.4)	(3.8)	1.7	(87.4)	TM22	T3043 凹面布当痕
第351図2	平瓦	(2.7)	(4.1)	1.1	(30.4)	TM30	T3003 凹面布当痕
第352図22	平瓦	(6.5)	(4.8)	2.3	(122.7)	TM32	T3004 凹面布当痕後平行叩き
23	平瓦	(5.9)	(4.8)	1.6	(66.9)	TM32	T3005 凹面布当痕，凸面平行叩き
第355図22	平瓦	(6.2)	(8.7)	1.9	(203.2)	TM34	T3006 凹面布当痕
24	平瓦	(8.0)	(7.9)	2.0	(172.4)	TM34	T3007 凸面平行叩き
25	平瓦	(6.5)	(4.5)	1.8	(128.0)	TM34	T3008 凹面布当痕
第357図1	丸瓦	(9.5)	(6.3)	1.8	(168.4)	TM57	T3009 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
第359図7	平瓦	(6.5)	(5.4)	2.2	(149.7)	TM67	T3010 凹面布当痕
第362図3	平瓦	(5.8)	(6.0)	1.5	(56.7)	SK617	T1004 凹面縄叩き
第401図6	平瓦	(21.5)	(11.5)	1.8	(75.35)	SI47	T1 凹面布当痕，凸面平行叩き
第401図5	平瓦	(9.5)	(7.0)	2.3	(262.3)	SI53	T2 凹面布当痕
第403図3	平瓦	(6.4)	(6.1)	1.9	(95.9)	SI98	T5 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
第406図3	平瓦	(20.1)	(13.3)	1.9	(930.8)	SI1132	T6 凹面布当痕，凸面平行叩き
第407図6	平瓦	(11.1)	(14.7)	1.9	(461.6)	SI1151	T7 凹面ヘラナデ後布当痕，凸面長方形の格子叩き
7	平瓦	(28.5)	(13.5)	2.2	(1351.9)	SI1151	T35 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
第410図2	平瓦	(12.9)	(9.9)	2.4	(506.1)	SI2097	T8 凹面布当痕，凸面平行叩き
第411図7	平瓦	(12.1)	(10.9)	1.9	(582.5)	SI2188	T9 凹面布当痕
第413図3	平瓦	(10.1)	(15.8)	1.7	(677.7)	SI2566	T10 凹面布当痕後ヘラナデ，凸面平行叩き
第413図1	平瓦	(24.2)	(11.4)	1.8	(785.1)	SI2633	T11 凹面布当痕，凸面平行叩き
第414図2	平瓦	(15.0)	(21.6)	2.3	(1131.3)	SI2697	T12 凹面布当痕，凸面平行叩き
3	平瓦	(22.3)	(12.8)	2.3	(1165.5)	SI2697	T13 凹面布当痕，凸面平行叩き

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第415図2	丸瓦	(18.8)	(8.9)	2.0	(776.8)	SI273	T14 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
第416図13	平瓦	(9.1)	(11.4)	2.0	(388.4)	SI278	T15 凹面布当痕，凸面長方形の格子叩き
第417図7	丸瓦	(22.2)	14.4	2.2	(1626.8)	SI281	T16 凹面布当痕
第417図10	平瓦	(33.5)	22.0	2.0	(2412.0)	SI299	T36 カマド袖部補強材 凹面布当痕後糸切り,凸面平行叩き
第418図1	平瓦	(10.8)	(10.6)	1.9	(416.8)	SI283	T17 凹面布当痕後ヘラナデ，端部平行叩き
第419図11	丸瓦	(31.0)	17.0	1.6	(1998.3)	SI299	T37 カマド袖部補強材 凹面布当痕後糸切り，凸面ヘラ削り
第420図12	平瓦	(25.0)	(12.8)	1.7	(862.3)	SI299	T19 凹面布当痕，凸面平行叩き
13	平瓦	(10.4)	(11.8)	1.9	(432.4)	SI299	T21 凹面布当痕，凸面平行叩き後ヘラナデ
14	丸瓦	(12.9)	(10.9)	2.3	(650.4)	SI299	T20 凹面布当痕，凸面ヘラナデ
15	平瓦	(29.4)	15.0	2.5	(1464.2)	SI299	T18 凹面布当痕，凸面平行叩き
第421図7	平瓦	(11.2)	(14.4)	2.2	(577.8)	SI300A	T22 凹面布当痕，凸面平行叩き後ヘラ削り
第422図5	平瓦	(6.8)	(3.6)	2.2	(120.6)	SI302	T27 凹面布当痕
第421図8	平瓦	(5.3)	(4.5)	2.1	(126.5)	SI300B	T26 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
9	軒平瓦	(13.0)	(12.0)	5.5	(1046.3)	SI300B	T38 凹面布当痕，T39と同笵
10	平瓦	(7.8)	(4.7)	1.9	(113.3)	SI300B	T25 凹面布当痕
11	平瓦	(7.9)	(8.3)	2.0	(208.0)	SI300B	T24 凹面布当痕後ナデ，凸面平行叩き
12	平瓦	(9.3)	(13.5)	2.1	(416.3)	SI300B	T23 凹面布当痕後ナデ，凸面平行叩き
第422図6	平瓦	(7.6)	(6.7)	1.7	(142.9)	SI302	T28 凹面布当痕後ヘラナデ，凸面ヘラ削り
第422図7	平瓦	(6.3)	(6.2)	1.4	(105.7)	SI303	T29 凹面布当痕
第470図30	丸瓦	(30.0)	(17.0)	1.5	(1452.1)	SK309	T1003 凹面指ナデ，凸面ヘラ削り
第471図31	平瓦	(13.5)	(17.8)	2.2	(829.4)	SK622	T1005 凹面布当痕後糸切り，凸面平行叩き
第471図32	平瓦	(4.1)	(4.0)	1.9		SD7	T101
33	平瓦	(4.8)	(3.3)	1.7		SD7	T102
34	軒丸瓦	面径[11.4]cm		(1.9)		SD21	T103
第471図36	丸瓦	(20.2)	(11.2)	1.9	(605.0)	SK312	T1006 凹面布当痕，凸面ヘラナデ
第471図37	平瓦	(3.2)	(3.7)	0.9	(14.1)	SK285	T1002
第472図27	平瓦	(5.3)	(5.4)	1.82.5	(107.4)	表採	T32 凹面指ナデ，凸面長方形の格子叩き
28	平瓦	(7.1)	(9.8)	2.5	(304.5)	表採	T31 凹面布当痕後ヘラ削り，凸面ヘラナデ
29	軒平瓦	(6.0)	(5.7)	2.7	(98.8)	表採	T33 瓦当面は無文，凸面格子叩き
第473図30	平瓦	(10.3)	(9.4)	2.6	(351.6)	表採	T34 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
31	平瓦	(6.8)	(9.9)	2.0	(230.7)	表採	T30 凹面布当痕後ナデ，凸面大きい格子叩き後小さい格子叩き
32	平瓦	19.5	(11.0)	1.5	(637.8)	表採・C3区	T40 凹面布当痕
33	軒平瓦	(23.0)	(22.0)	(6.2)	(2186.5)	表採・E6a1	T39 凹面布当痕 T38と同笵

C地区出土瓦一覧表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第277図8	平瓦	(4.2)	(3.6)	2.2	(70.1)	SI 6	T4006 凹面ヘラナデ，凸面長方形の格子叩き
第277図8	平瓦	(7.3)	(6.9)	2.3	(172.4)	SI 7	T4008 凹面布当痕，凸面ヘラナデ
9	平瓦	(8.7)	(7.8)	3.5	(427.5)	SI 7	T4007 凹面ヘラナデ
第278図6	平瓦	(5.7)	(3.9)	2.0	(65.7)	SI 8	T4009 凹面布当痕，凸面縄叩き
7	平瓦	(3.2)	(3.4)	1.8	(31.9)	SI 8	T4010 凹面布当痕
第365図2	平瓦	(11.9)	(3.7)	1.5	(105.4)	SK 3	T4019 凹面布当痕
第427図22	平瓦	(9.5)	(9.7)	2.1	(237.8)	SI 3	T4002 凹面布当痕
23	平瓦	(4.2)	(4.2)	1.8	(63.2)	SI 3	T4001 凹面布当痕
24	丸瓦	(16.9)	(10.2)	2.1	(475.5)	SI 3	T4003 凹面布当痕後ヘラナデ
25	軒丸瓦	面径19.0cm		4.0	(1346.5)	SI 3	T4060 中台廃寺出土瓦と同笵
第428図6	平瓦	(5.3)	(4.4)	1.2	(52.7)	SI 4	T4004 凹面布当痕
7	平瓦	(5.4)	(3.9)	2.5	(116.4)	SI 4	T4005 凹面布当痕
第433図3	平瓦	(7.7)	(7.3)	1.8	(194.4)	SK 1	T4011 凹・凸面ヘラナデ
4	平瓦	(5.3)	(5.6)	1.6	(70.9)	SK 1	T4012 凹面布痕
5	平瓦	(6.1)	(4.2)	2.0	(87.2)	SK 1	T4013 凹面ヘラナデ
6	平瓦	(8.2)	(3.8)	2.6	(89.5)	SK 1	T4014 凹面布当痕
7	平瓦	(5.3)	(3.3)	1.8	(47.0)	SK 1	T4015 凹面布当痕
8	平瓦	(5.9)	(2.9)	1.4	(36.8)	SK 1	T4016 凹面布当痕
9	平瓦	(4.4)	(3.2)	1.9	(45.9)	SK 1	T4017 凹面布当痕，凸面ヘラナデ
10	平瓦	(4.3)	(1.9)	1.8	(28.8)	SK 1	T4018 凹面布当痕

図版番号	器種	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	出土地点	備考
第444図3	平瓦	(17.4)	(12.4)	2.6	(872.6)	S D 1	T4020 凹面布当痕
4	平瓦	(11.6)	(11.5)	2.1	(486.3)	S D 1	T4021 凹面布当痕後糸切り，凸面平行叩き
5	丸瓦	(10.0)	(9.9)	1.6	(295.8)	S D 1	T4022 凹面布当痕
第445図6	平瓦	(11.3)	(7.2)	3.2	(440.6)	S D 1	T4023 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
7	平瓦	(9.2)	(10.1)	2.2	(318.7)	S D 1	T4024 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
8	平瓦	(8.8)	(7.9)	2.9	(329.8)	S D 1	T4025 凹面布当痕
9	丸瓦	(7.2)	(7.9)	2.3	(277.2)	S D 1	T4026 凹面布当痕，凸面細縄叩き
10	平瓦	(9.6)	(5.7)	1.9	(190.2)	S D 1	T4027 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
11	平瓦	(8.5)	(7.0)	2.4	(229.5)	S D 1	T4028 凹面布当痕
12	平瓦	(7.0)	(4.9)	2.6	(185.0)	S D 1	T4029 凹面布当痕
13	平瓦	(7.2)	(7.4)	2.9	(222.2)	S D 1	T4030 凹面布当痕
14	平瓦	(7.3)	(6.3)	2.0	(152.2)	S D 1	T4031 凹面布当痕痕
15	丸瓦	(8.8)	(5.6)	1.3	(113.2)	S D 1	T4032 凹面布当痕後ヘラナデ
16	丸丸	(8.3)	(5.0)	2.0	(132.2)	S D 1	T4033 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
17	平瓦	(6.8)	(6.2)	1.8	(91.8)	S D 1	T4034 凹面布当痕，凸面平行叩き
18	平瓦	(7.8)	(5.7)	1.9	(91.9)	S D 1	T4035 凹面布当痕
19	平瓦	(7.9)	(5.4)	1.9	(103.3)	S D 1	T4036 凹面布当痕，凸面平行叩き
第446図20	平瓦	(4.0)	(6.8)	1.8	(103.4)	S D 1	T4037 凹面布当痕，凸面長方形の格子叩き
23	平瓦	(8.6)	(4.4)	1.6	(87.8)	S D 1	T4038 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
21	丸瓦	(5.0)	(4.4)	2.1	(76.9)	S D 1	T4039 凹面布当痕後ナデ
22	軒丸瓦	(5.6)	(3.3)	2.6	(119.3)	S D 1	T4040 瓦当部分は剝離
24	丸瓦	(6.2)	(5.0)	2.3	(101.0)	S D 1	T4041 凹面布当痕
25	平瓦	(3.9)	(3.2)	1.8	(59.5)	S D 1	T4042 凹面布当痕，凸面平行叩き
26	平瓦	(4.5)	(3.1)	1.8	(48.0)	S D 1	T4043 凹面布当痕，凸面平行叩き
27	平瓦	(3.9)	(3.4)	1.2	(26.0)	S D 1	T4044 凹面布当痕
28	平瓦	(2.3)	(2.4)	2.3	(38.8)	S D 1	T4045 凹面布当痕
29	平瓦	(10.4)	(7.3)	2.3	(295.9)	S D 1	T4055 凹面布当痕
30	平瓦	(7.1)	(5.2)	2.2	(160.7)	S D 1	T4056 凹面布当痕
31	平瓦	(7.0)	(3.5)	1.5	(59.8)	S D 1	T4057 凹面布当痕
32	平瓦	(2.8)	(6.4)	1.6	(56.3)	S D 1	T4058 凸面ヘラ削り
33	平瓦	(5.0)	(6.7)	1.9	(106.9)	S D 1	T4059 凸面布当痕，凸面長方形の格子叩き
第446図1	丸瓦	(10.2)	(5.4)	1.9	(181.2)	S D 2	T4046 凹面布当痕
2	平瓦	(4.7)	(4.3)	2.1	(91.7)	S D 2	T4047 凹面布当痕，凸面平行叩き
3	平瓦	(6.2)	(3.9)	2.1	(80.8)	S D 2	T4048 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
4	平瓦	(4.6)	(5.6)	1.6	(49.8)	S D 2	T4049 凹面布当痕後削り
第448図1	平瓦	(2.9)	(3.9)	1.8	(35.5)	S F 1	T4054 凹面ヘラ削り
第475図1	平瓦	(5.2)	(7.4)	2.2	(138.6)	S X 1	T4050 凹面布当痕後ヘラ削り，凸面ヘラ削り
2	平瓦	(6.7)	(5.9)	2.0	(114.4)	S X 1	T4051 凹面布当痕
3	平瓦	(4.3)	(6.4)	1.5	(65.5)	S X 3	T4052 凹面布当痕，凸面ヘラ削り
4	平瓦	(5.4)	(5.7)	1.8	(85.5)	S X 3	T4053 凸面平行叩き

第1号溝出土遺物観察表（D地区）

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447図1	盤 土師器	A [19.6] B 4.3 D [12.6] E 1.5	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，上位でやや内側に外傾する。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P4222 10％ 覆土
2	ミニチュア土器 土師器	A [1.9] B 3.5 C 2.5	平底。体部は直立して立ち上がり，口縁部でやや内彎する。体部中央に外から内に穿孔。	外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P4223 85％ 覆土

8　まとめ

当遺跡から確認された奈良・平安時代の遺構は，竪穴住居跡128軒，土坑16基，掘建柱建物跡１棟，埋設遺構９基，井戸３基，溝２条，道路状遺構１条である。住居跡はＡ地区から120軒，Ｂ地区から２軒(２軒とも奈良時代)，Ｃ地区から３軒(奈良時代２軒，平安時代１軒)，Ｄ地区から３軒(３軒とも平安時代)確認されている。Ａ地区から確認された住居跡はほとんどが平安時代で，第302・303号住居跡だけが奈良時代である。本遺跡の住居跡で，特徴的なことは東壁に竈が設置される軒数が非常に高いことである。重複関係が著しく竈の確認できなかった住居跡もあるが，東壁に竈が設置された住居跡は80軒，北壁に竈が設置された住居跡は19軒である。時期は北壁に竈が設置される場合はほとんどが９世紀段階であるのに，東壁に竈が設置される場合はほとんどが10世紀段階である。

本項では，Ｃ地区で確認された第１号溝について若干のまとめを行う。

○溝について

Ｃ地区から確認された第１号溝は，平安時代前期の９世紀代の溝と考えられる。この溝は，内側に幅40～60cm，深さ10～20cmの畝がほぼ東西方向に走り，所々に柱穴状のピットが見られ，布掘りである。出土遺物の中に多量の瓦片(本報告書に掲載した瓦片のほかに32片)，鉄滓10個が出土している。これのことから何らかの公的建物跡の可能性を考えた。当遺跡の東方には谷津を挟んで，筑波郡衙と考えられている平沢官衙遺跡がある。この遺跡の西側の大溝と軸線がほぼ一致し，この郡衙に関連する遺構の可能性も考えられる。しかし，この第１号溝が確認できたＣ地区の第３号住居跡からは中台廃寺出土瓦と同笵の素縁単弁八葉花文軒丸瓦が出土している。当遺跡で瓦が出土したのはＡ地区の南部とＣ地区のみであり，Ｂ・Ｄ地区からは出土していない。中台廃寺の調査はされていないが，当遺跡の南東部に位置していると考えられている。この南東部は，古くから瓦片の散布が多いこと，基壇状の高まりや礎石や石造露盤等が残存していたこと等から，ここを寺院跡と考えられている。この第１号溝の西側から南西部にかけて調査が行われなければ，明確なことは言えないが，現時点ではＣ地区の第１号溝は中台廃寺にかかわる溝と考えたい。

(参考文献)

１．浅井哲也　「カマドが東へ移るとき」　『茨城県考古学協会誌』第５号　茨城県考古学協会　1993年６月
２．筑波町史編纂専門委員会　『筑波町史』上巻　1988年９月
３．茨城県立歴史館　「茨城県における古代瓦の研究」　『学術調査報告書４』　1994年３月

第８節　中・近世

当遺跡で確認された中世の遺構は方形竪穴遺構21基，土坑（墓壙）120基，井戸４基である。方形竪穴遺構はＡ区の中央から南部にかけて，土坑はＡ区の全域から，井戸はＡ区の中央に分布しており，Ｂ・Ｃ・Ｄ区からは確認できなかった。遺物は，内耳土器片や古銭が数点出土している。

１　方形竪穴遺構

方形竪穴遺構は当遺跡Ａ区の中央から南部にかけて点在し，Ｂ・Ｃ・Ｄ区では確認できなかった。平面形は長方形や隅丸長方形をしており，床に２～３本のピットをもつものや，南側に出入り口のあるものもある。遺物は，遺構に伴うものがほとんどなく，多量の縄文式土器片や土師・須恵器片に混ざって土師質の皿や内耳土器片や古銭が数点出土しただけである。

ここでは比較的遺存状態の良い方形竪穴遺構について解説を加え，その他は一覧表にまとめて掲載した。

第３号方形竪穴遺構（第449図　ＳＫ257Ａ）

位置　E3d$_5$区。

規模と平面形　3.58×2.56cmの隅丸長方形。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ。

壁　壁高約108cmで，外傾して立ち上がる。

底面　平坦で中央部がやや堅く踏み固められている。

ピット　１か所あり，径は52cm，深さ11cmである。

覆土　９層からなる。上層はローム小ブロックや炭化物・焼土粒子を含む黒褐色土で，中層にはローム粒子を多量に含む褐色土が堆積している。下層は，ロームブロックや炭化物が流れ込むように堆積している。

遺物　覆土中から土師器片が17点出土したが，本跡に伴う遺物はなく，すべて流れ込みである。

第４号方形竪穴遺構（第449図　ＳＫ282）

位置　D3h$_5$区。

規模と平面形　2.42×（1.57）ｍの長方形。

主軸方向　Ｎ－11°－Ｅ。

壁　壁高約36cmで，外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

ピット　２か所（P_1，P_2）あり，P_1は径64cm，深さ50cm，P_2は径35cm，深さ30cmでいずれも主柱穴と考えられる。

覆土　２層からなる。底面に，ローム粒子や炭化物，焼土粒子を含む暗褐色土が薄く堆積している。上層にはロームブロックを含む暗褐色土が厚く堆積している。

遺物　覆土中より縄文式土器片28点，土師器片２点が出土したが，本跡に伴う遺物はなく，すべて流れ込みである。

第13号方形竪穴遺構（第450図　SK830）

位置　E5f$_3$区。

規模と平面形　2.90×2.77cmの不整方形。

主軸方向　N－5°－E。

出入り口　南壁中央から南に向かって壁外に突出し，底面から確認面に至る緩斜面を持った出入り口を有している。規模は，幅1m，緩斜面の長さ1m35cmである。

壁　壁高約53cmで，外傾して立ち上がる。

底面　平坦で，出入り口付近が硬く締まっている。中央から南西コーナーにかけて炭化物や灰が薄く堆積している。

ピット　2か所あり，P$_1$は径44cm，深さ54cm，P2は径44cm，深さ26cmである。

覆土　7層からなる。上層はローム粒子，炭化物，焼土粒子を含む暗褐色土が厚く堆積し，下層は，ローム小ブロックやローム粒子を含む暗褐色土や褐色土が堆積している。

遺物　覆土中より内耳土器片が1点出土した他に，流れ込みの縄文式土器片が72点出土した。

第17号方形竪穴遺構（第451図　SK859）

位置　E5g$_3$区。

重複関係　本跡の北東部が第16号方形竪穴遺構（SK858）を掘り込んでいる。

規模と平面形　2.23cm×1.61cmの隅丸長方形。

主軸方向　N－5°－E。

出入り口　南壁中央から東に寄った位置に南に向かって壁外に突出して，底面から確認面に至る緩斜面を持った出入り口を有している。規模は幅50cm，緩斜面の長さ54cmである。

壁　壁高は約60cmで，外傾して立ち上がる。

底面　平坦で，出入り口付近が硬く締まっている。中央から南西部にかけて炭化物が散在している。

ピット　3か所（P$_1$・P$_2$・P$_3$）確認し，P$_1$は径29cm，深さ46cm，P$_2$は径48cm，深さ49cm，P$_3$は径18cm，深さ54cmである。

覆土　7層からなる。底面にはローム粒子を多く含む褐色土が堆積している。中層から上層にかけては，ロームブロックを多く含む暗褐色土が厚く堆積している。出入り口付近には，焼土粒子やローム粒子を少量含む暗褐色土が流れ込むように堆積している。

遺物　覆土中より縄文式土器片66点，土師器片1点，須恵器片2点，土師質土器片1点が出土している。

第19号方形竪穴遺構（第451図　SK869）

位置　B3j$_1$区。

重複関係　本跡の北東部が第18号方形竪穴遺構（SK868）を掘り込んでいる。

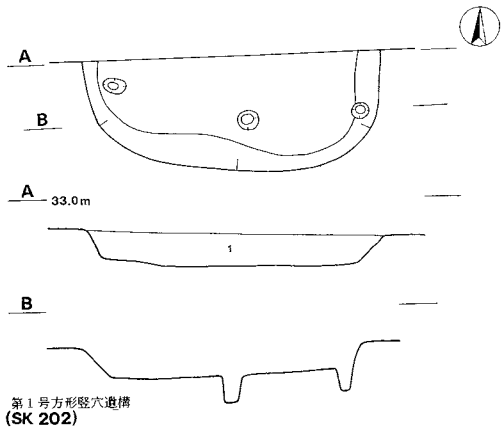
規模と平面形　2.63cm×2.08cmの長方形と考えられる。

主軸方向　N－8°－E。

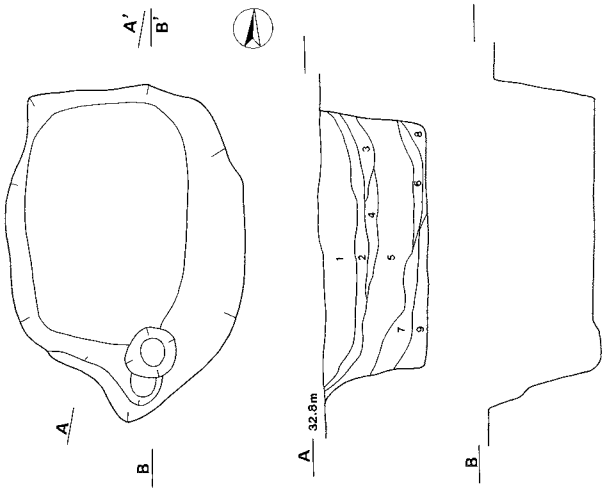
壁　壁高約50cmで，外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

ピット　2か所（P$_1$，P$_2$）確認し，P$_1$は径67cm，深さ78cm，P2は径46cm，深さ49cmである。



第1号方形竪穴遺構
(SK 202)

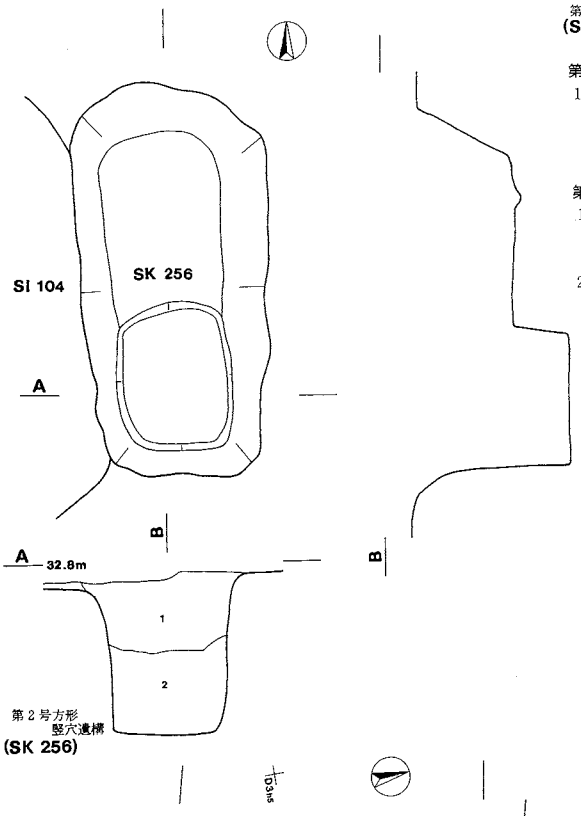


第3号方形竪穴遺構
(SK 257A)

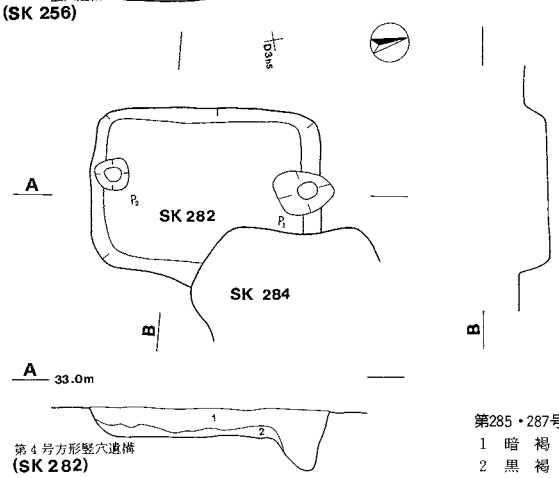
第202号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子多量
焼土粒子焼土
炭化粒子少量

第256号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック中量
焼土粒子少量 炭化粒
子少量
2 褐 色 ローム粒子極めて多量

第257号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
5 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子微量
炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
9 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化物
少量

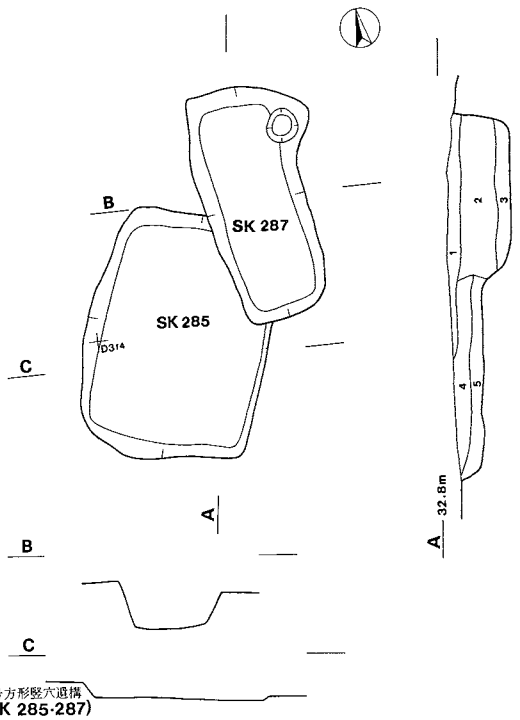


第2号方形
竪穴遺構
(SK 256)



第4号方形竪穴遺構
(SK 282)

第282号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物少量

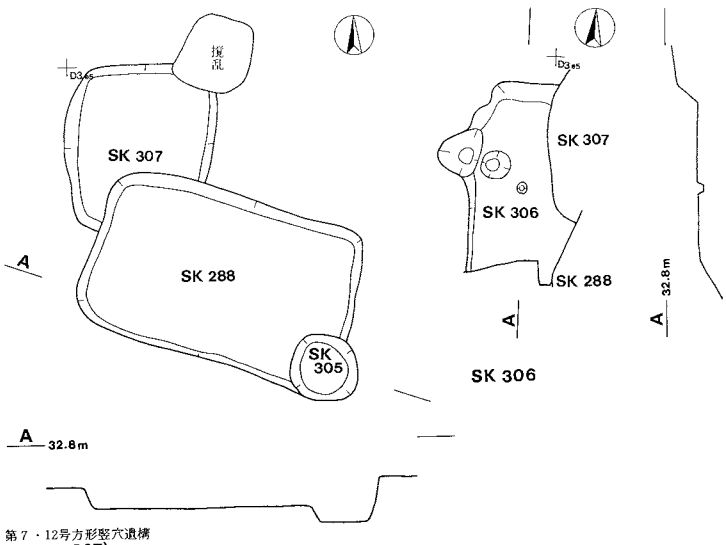


第5・6号方形竪穴遺構
(SK 285·287)

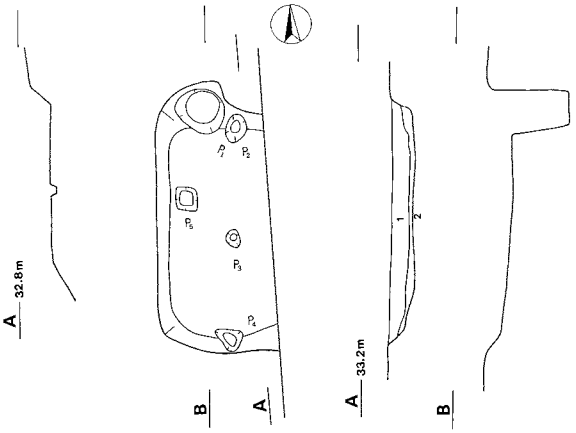
第285・287号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量

0 2m

第449図 第1・2・3・4・5・6号方形竪穴遺構

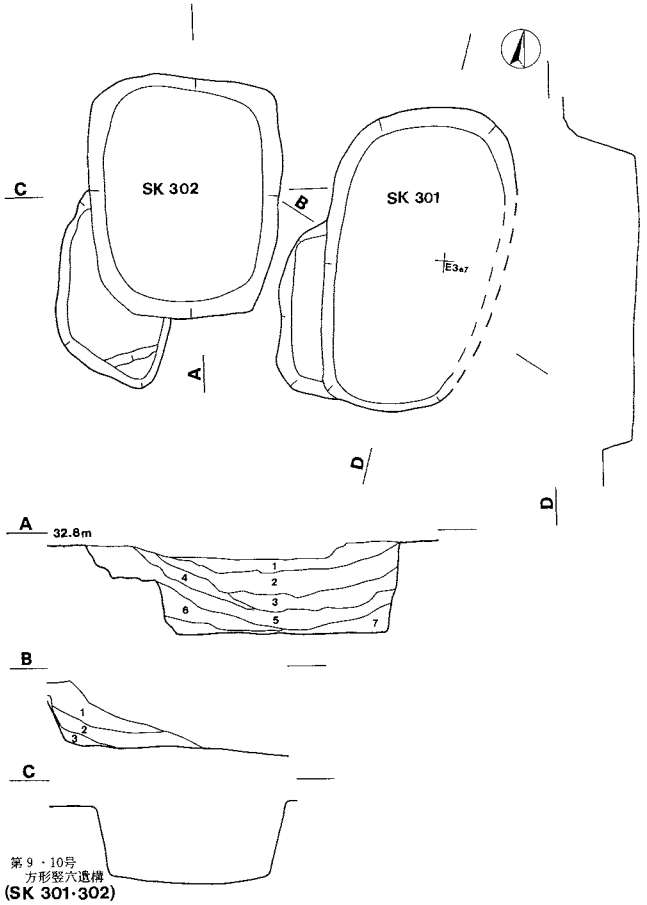


第7・12号方形竪穴遺構
(SK 288·307)



第8号方形竪穴遺構
(SK 297)

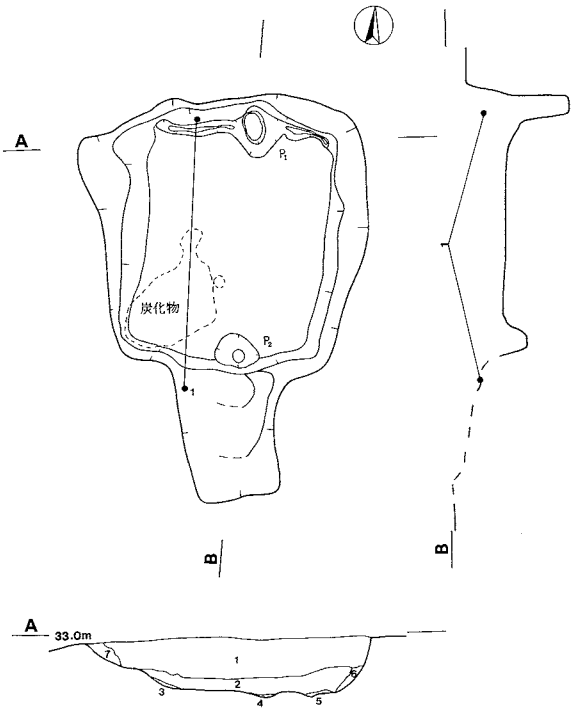
第297号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量



第9・10号
方形竪穴遺構
(SK 301·302)

第301号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック中量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

第302号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化物少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子多量 炭化物少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土小ブロック少量 炭化物少量

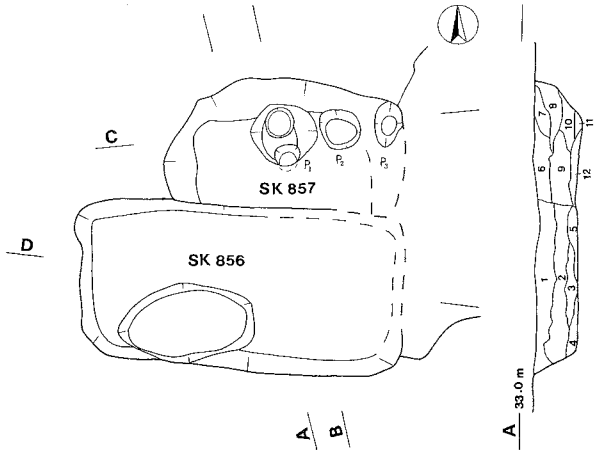


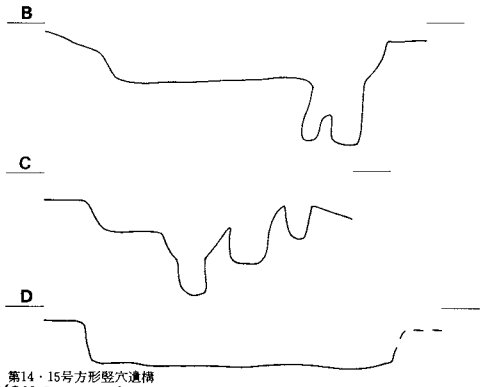
第13号方形竪穴遺構
(SK 830)

第830号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
6 褐 色 ローム粒子多量
7 褐 色 ローム粒子極めて多量

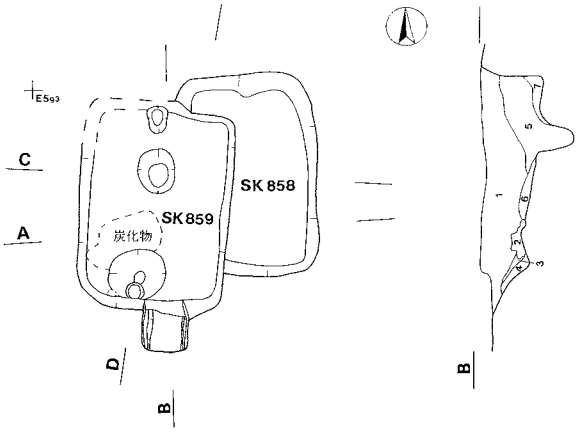
0 2m

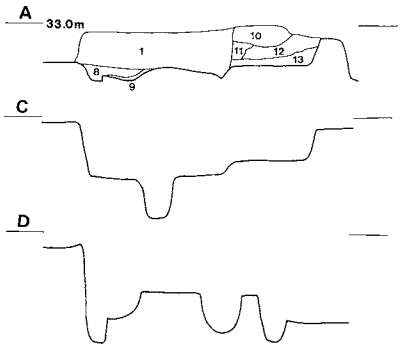
第450図 第7・8・9・10・12・13号方形竪穴遺構





第14・15号方形竪穴遺構
(SK 856・857)

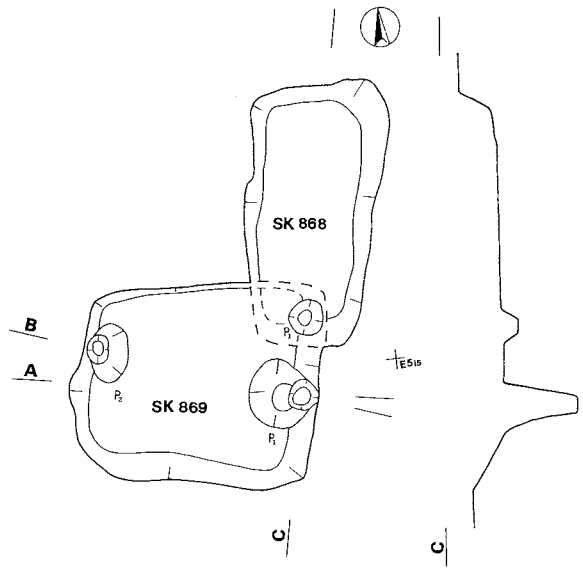


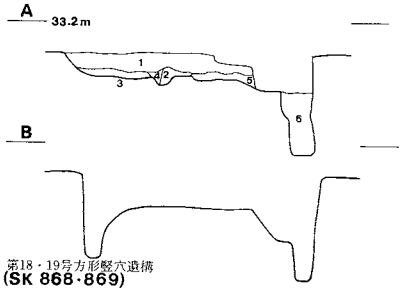


第16・17号方形竪穴遺構
(SK 858・859)

第856・857号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
9 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
10 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
11 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
12 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量





第18・19号方形竪穴遺構
(SK 868・869)

第858・859号土坑土層解説

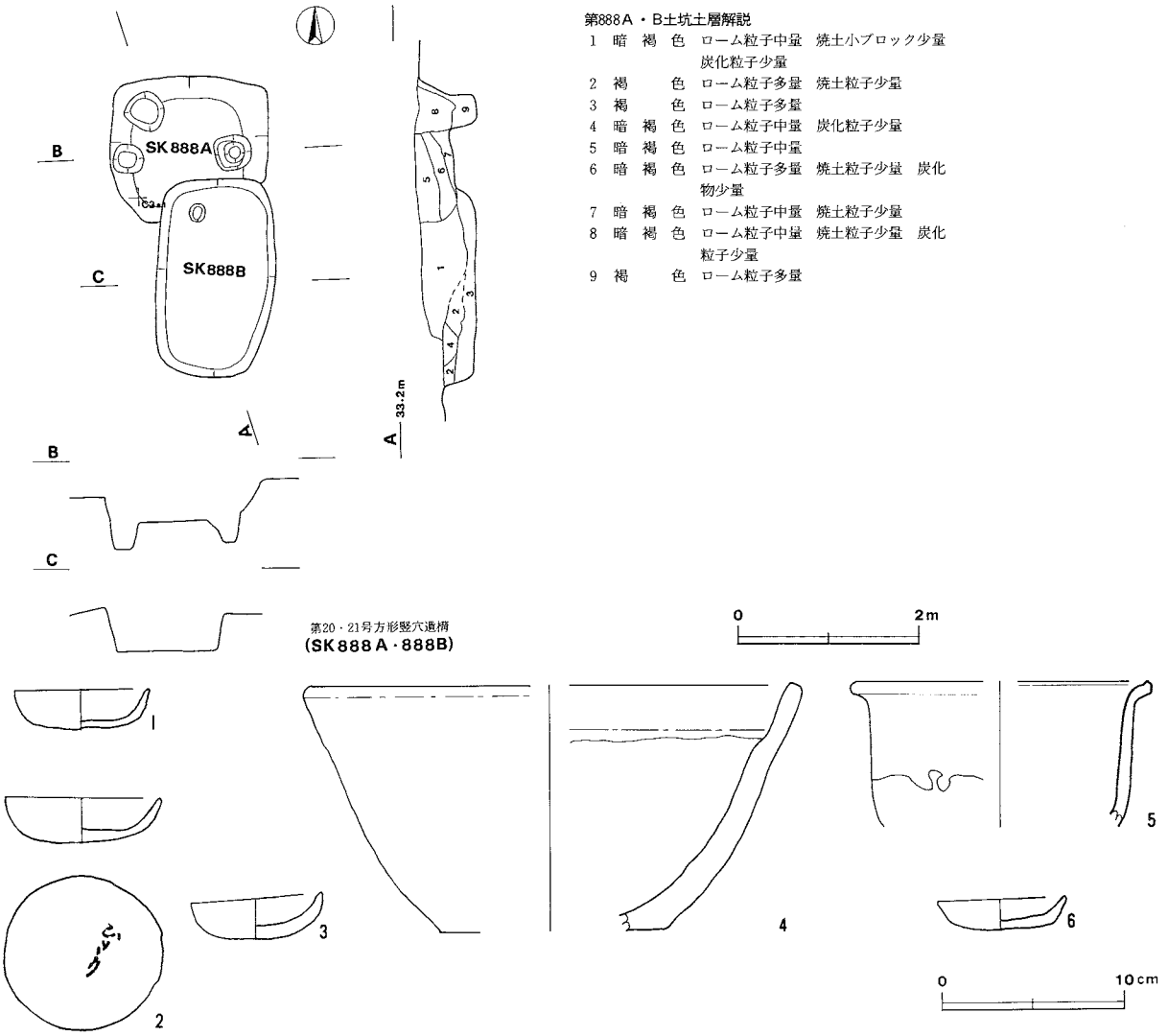
1 暗褐色 ローム小ブロック多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック多量 炭化粒子少量
6 褐色 ローム粒子多量
7 褐色 ローム粒子多量
8 暗褐色 ローム小ブロック中量 炭化粒子少量
9 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
10 暗褐色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
11 暗褐色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
12 褐色 ローム粒子極めて多量
13 褐色 ローム粒子多量

第869号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量 炭化物少量
2 暗褐色 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム小ブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
6 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

0 2m

第451図　第14・15・16・17・18・19号方形竪穴遺構



第888A・B土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
2 褐色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
3 褐色 ローム粒子多量
4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子中量
6 暗褐色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化物少量
7 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
8 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
9 褐色 ローム粒子多量

第452図　第20・21号方形竪穴遺構，第20・21号方形竪穴遺構・土坑・井戸・遺構外出土遺物

覆土　6層からなる。上層はロームブロックや炭化物，炭化粒子・小ブロック少量，焼土粒子を含む暗褐色土が堆積している。

遺物　覆土中より縄文式土器片132点，土師器片14点が出土したが，いずれも流れ込みである。

表22　方形竪穴遺構一覧表

遺構番号	位置	長軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
1	D5e3	N−83°−E	[長方形]	3.06 ×(1.22)	83	外傾	平坦	人為	縄文式土器12点　土師器1点	(SK202)	449
2	E3d2	N−1°−E	長方形	4.16 × 1.83	170	外傾	平坦	人為	縄文式土器244点　土師器21点	(SK256)　二段掘り込み	449
3	E3d5	N−5°−W	隅丸長方形	3.58 × 2.56	108	外傾	平坦	自然	土師器17点	(SK257A)	449
4	D3h5	N−11°−E	[長方形]	2.42 ×(1.57)	36	外傾	平坦	人為	縄文式土器28点　土師器2点	(SK282)	449
5	D3e4	N−18°−E	長方形	2.60 × 1.93	20	外傾	平坦	人為	縄文式土器129点　第452図2(土師質皿覆土P2434) 第464図1(紹定通寶 M1029)	(SK285)　本跡＜SK287	449
6	D3e4	N−7°−W	長方形	2.50 × 1.05	45	外傾	平坦	人為	縄文式土器19点　土師器10点	(SK287)　本跡＞SK285	449
7	D3e5	N−73°−W	長方形	2.82 × 1.77	37	外傾	平坦	人為	縄文式土器62点　土師器18点　須恵器1点	(SK288)　本跡＞SK306，307	450
8	D4c9	N−0°	[長方形]	2.90 ×(1.19)	29	外傾	平坦	人為	縄文式土器5点　土師器1点	(SK297)	450
9	E3d6	N−9°−E	隅丸長方形	3.33 ×[1.89]	77	外傾	平坦	自然	縄文式土器31点　土師器3点	(SK301)	450
10	E3d6	N−6°−W	隅丸長方形	2.37 × 2.01	75	外傾	平坦	自然	縄文式土器226点　土師器20点　須恵器3点	(SK302)	450

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
11	D3e4	N－2°－E	隅丸長方形	(1.90)×(1.15)	22	外傾	平坦	不明		(SK306) 本跡＜SK288, 306	
12	D3e5	N－8°－E	長方形	1.75 × 1.56	13	外傾	平坦	不明		(SK307) SK307＜本跡＜SK288	450
13	E5f3	N－5°－E	不整方形	2.90 × 2.77	53	外傾	平坦	人為	縄文式土器72点 第 図2 (内耳土鍋 覆土 P2348)	(SK830)	450
14	E5g4	N－85°－W	長方形	3.41 × 1.76	52	外傾	平坦	人為	縄文式土器112点 土師器4点 須恵器1点	(SK856) 本跡＞SK857	451
15	E5g4	N－74°－W	長方形	2.49 ×(1.38)	42	外傾	平坦	人為	縄文式土器328点 土師器10点	(SK857) 本跡＜SK856	451
16	E5g3	N－0°	隅丸長方形	2.14 ×(0.87)	36	外傾	平坦	人為		(SK858) 本跡＜SK859	451
17	E5g3	N－5°－E	隅丸長方形	2.23 × 1.61	60	外傾	平坦	人為	縄文式土器66点 土師器1点 須恵器2点	(SK859) 本跡＞SK858	451
18	E5h4	N－12°－E	[長方形]	[2.79]× 1.35	42	外傾	平坦	人為	第 図3 (土師質皿 覆土 P2406)	(SK868) 本跡＜SK869	451
19	E5h4	N－8°－E	[長方形]	2.63 × 2.08	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器132点 土師器14点	(SK869) 本跡＞SK868	451
20	B3j1	N－89°－W	[方形]	1.70 × 1.60	45	外傾	平坦	人為	縄文式土器51点 土師器7点 須恵器1点	(SK888A) 本跡＞SK888B	452
21	C3a1	N－7°－E	隅丸長方形	2.70 × 1.28	32	外傾	平坦	人為		(SK888B) 本跡＜SK888A	452

方形竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第452図 1	皿 土師質土器	A 7.1 B 1.7 C 3.3	底部は丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。体部中位に稜をもつ。	非ロクロ成形。内面と外面の口縁部は横ナデ。底部無調整。	砂粒 褐色 普通	第18号方形竪穴遺構(SK868) P2406 100％ 口縁端部煤付着
2	皿 土師質土器	A 8.6 B 2.5	底部は丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。	非ロクロ成形。内面と口縁部外面は横ナデ。底部はヘラ圧痕。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	第5号方形竪穴遺構 (SK285) P2434 99％ 底面に墨書
4	内耳土鍋 土師質土器	A [27.1] B (13.4)	底部から口縁部にかけての破片。体部から口縁部にかけて外傾しながら立ち上がる。口縁部内面に稜をもつ。	底部ヘラナデ。体部と口縁部の内・外面横ナデ。体部外面に指頭圧痕。	砂粒・石英・長石・雲母 黒褐色 普通	第13号方形竪穴遺構(SK830) P2348 20％ 内・外面煤付着

2 土坑

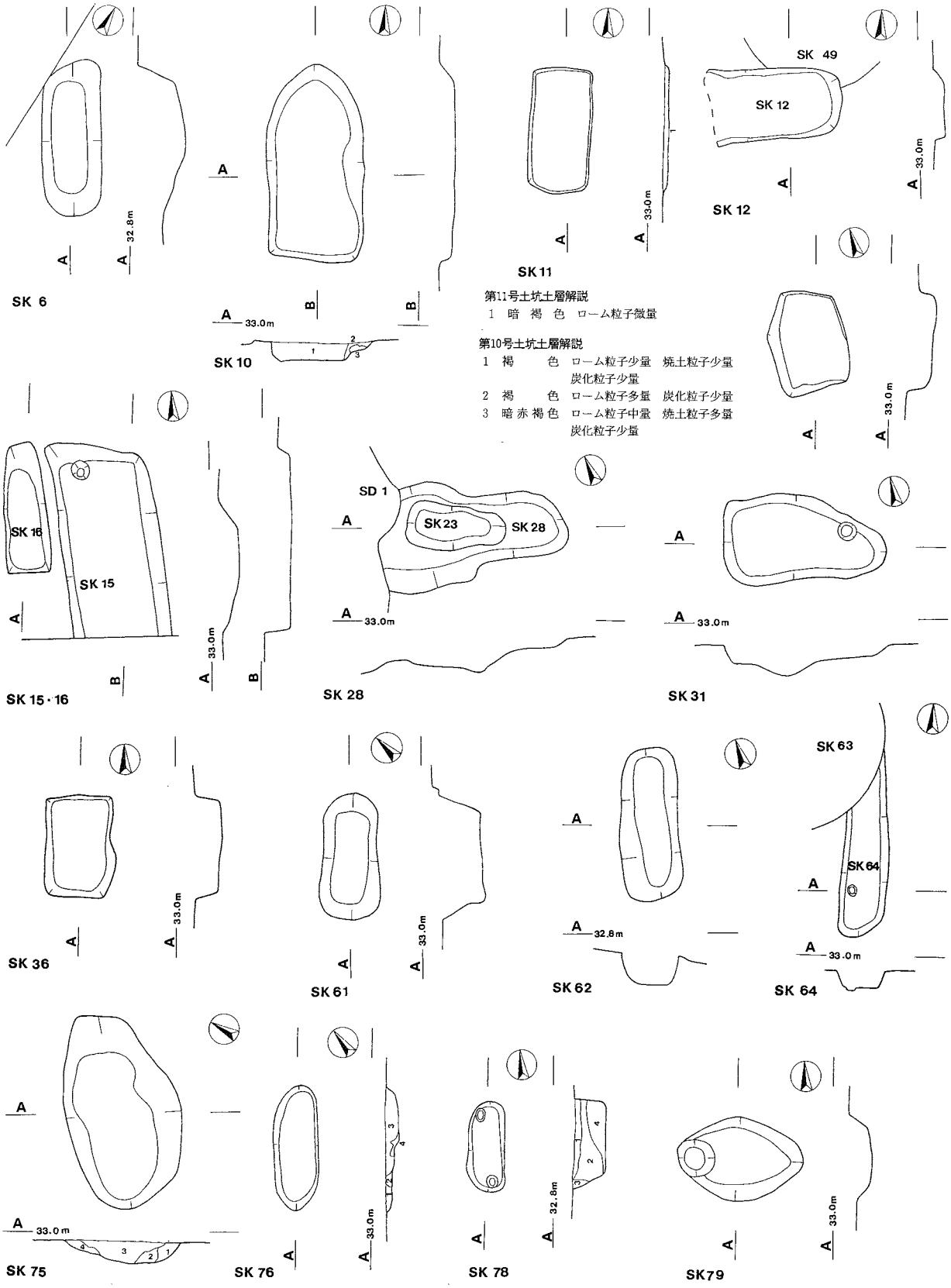
当遺跡の中世土坑はA区より120基ほど確認した。覆土中より人骨片や骨粉が確認できたものはＳＫ６・61・123・128・129・290・292・316・338の９基で，ＳＫ６からは幼児骨，ＳＫ36からは人骨片，ＳＫ123からは骨粉，ＳＫ128の東壁付近の覆土下層から骨粉，ＳＫ129の北壁付近の覆土下層から骨片，ＳＫ290・290からも骨片，ＳＫ292の北側覆土中より骨片，ＳＫ316の下層より骨片，ＳＫ338からは人骨の頭部片を検出した。その他にＳＫ272からは馬と思われる骨片を確認している。120基から出土した遺物からは時期を決定するものはなかったが，平面形がいずれも長方形または隅丸長方形をしており，重複関係から奈良・平安時代の遺構よりも新しいと判断できるものが多いことから中世の墓壙と考えられる。以下，一覧表で掲載した。

表23 中世土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
6	B2i0	N－37°－W	隅丸長方形	2.11 × 0.81	62	外傾	平坦	人為	縄文式土器31点 幼児骨	SI8と重複	453
10	A2i9	N－5°－W	長方形	2.70 × 1.32	23	外傾	平坦	人為	縄文式土器55点 土師器3点 石器1点	本跡＞SK3・5・10	453
11	A3h3	N－0°	長方形	1.75 × 0.58	13	外傾	皿状	不明			453
12	A3h2	N－85°－E	隅丸長方形	(1.77)× 0.97	15	外傾	平坦	人為		本跡＞SK49	453
15	A3b5	N－11°－W	長方形	[2.70]× 1.35	35	外傾	平坦	人為	縄文式土器118点 弥生式土器3点 土師器7点 石器3点		453
16	B3a5	N－11°－W	長方形	1.80 × 0.58	25	外傾	皿状	人為	縄文式土器13点 土師器9点		
17	A3h2	N－18°－E	長方形	1.44 × 1.06	32	外傾	平坦	人為	縄文式土器30点 第 図2 (天聖元寶 M1002)		453
28	A2h0	N－68°－W	隅丸長方形	2.07 × 1.25	19	外傾	平坦	人為	縄文式土器14点 土師器5点 石器2点	本跡＞SK23	453
31	A3i7	N－12°－E	隅丸長方形	2.20 × 1.20	40	外傾	皿状	人為	縄文式土器10点弥生式土器5点土師器5点須恵器1点 埴輪2点		453

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
36	A3f1	N－4°－W	長方形	1.40 × 0.90	34	外傾	平坦	人為	縄文式土器4点 土師器1点		453
61	B3a5	N－50°－E	隅丸長方形	1.72 × 0.73	54	外傾	平坦	人為	縄文式土器48点 土師器8点 人骨		453
62	A3i5	N－18°－E	隅丸長方形	2.10 × 0.80	71	外傾	平坦	人為	縄文式土器6点		453
64	A3i6	N－0°	隅丸長方形	(1.88)× 0.63	24	外傾	平坦	人為	縄文式土器57点 土師器9点 石器1点	本跡＞SK63・66・69	453
75	A3j1	N－58°－E	隅丸長方形	2.70 × 1.50	29	外傾	平坦	不明	縄文式土器54点 石器2点		453
76	A3j1	N－39°－E	隅丸長方形	1.71 × 0.62	13	外傾	平坦	人為	縄文式土器6点		453
78	A3h9	N－0°	隅丸長方形	1.22 × 0.51	51	外傾	平坦	人為	縄文式土器11点 土師器2点 石器2点		453
79	B2a0	N－84°－W	不整楕円形	1.70 × 1.14	26	外傾	皿状	人為	縄文式土器6点 土師器2点 石器5点	TM6と重複	453
98	A4h1	N－11°－W	隅丸長方形	1.10 ×(0.92)	76	外傾	平坦	人為	縄文式土器98点 土師器8点 須恵器1点 石器8点	本跡＜SK102	454
102	A4g2	N－2°－E	隅丸長方形	3.10 × 1.27	123	外傾	平坦	自然	縄文式土器7点 須恵器1点 埴輪3点	SK104と重複	454
104	A4f2	N－0°	隅丸長方形	2.40 × 1.28	63	外傾	平坦	自然	縄文式土器21点 土師器10点 石器2点	SK102と重複	454
107	A4h1	N－86°－E	隅丸長方形	3.54 × 0.96	82	外傾	平坦	自然	縄文式土器74点 石器4点	本跡＞SK98	454
123	A3e4	N－1°－W	隅丸長方形	1.73 × 1.53	52	外傾	平坦	人為	縄文式土器26点 土師器8点 石器3点 骨粉	SI4・7と重複	454
128	A3g5	N－68°－E	長方形	2.36 × 0.78	17	外傾	平坦	人為	縄文式土器3点 骨粉	SI9SK130・133 TM7と重複	454
129	A3g4	N－6°－W	長方形	2.68 × 0.72	20	外傾	平坦	人為	骨片	SI9SK130・133 TM7と重複	454
131	A4h1	N－5°－E	隅丸長方形	(1.12)×(0.80)	44	外傾	平坦	人為	縄文式土器4点 石器1点	SI16と重複	454
138	B3e3	N－20°－W	長方形	2.49 × 1.34	45	外傾	平坦	人為	縄文式土器98点 土師器7点 石器4点	本跡＞SK139・144・160・161	454
143	B3f2	N－0°	隅丸長方形	2.88 × 1.34	65	外傾	平坦	人為	縄文式土器99点 土師器1点 石器1点 埴輪1点	本跡＞SK137	455
154	B3e5	N－16°－E	隅丸長方形	2.43 × 0.69	32	外傾	平坦	人為		本跡＞SK156	455
156	B3e6	N－87°－W	隅丸長方形	1.33 × 0.98	21	外傾	平坦	人為	縄文式土器5点	本跡＜SK154	455
158	B2e0	N－90°－E	不整楕円形	(2.41)× 1.60	63	外傾	平坦	人為	縄文式土器42点 土師器3点 石器2点	本跡＞SK185	
160	B3d3	N－80°－E	隅丸長方形	2.20 ×[0.87]	72	外傾	平坦	人為	縄文式土器21点 石器1点	SK138・139・160と重複	455
161	B3d3	N－80°－E	隅丸長方形	[1.84]× 0.68	10	外傾	平坦	人為	縄文式土器6点 土師器1点	SK138・139・160と重複	455
166	B3f7	N－17°－W	隅丸長方形	1.95 ×[0.63]	37	外傾	平坦	人為	縄文式土器15点 土師器5点 石器1点		455
167	B3e8	N－86°－E	不整長方形	2.84 × 1.04	24	外傾	平坦	人為	縄文式土器70点 土師器17点 石器2点		455
169	B3f9	N－0°	隅丸長方形	1.69 × 0.75	14	外傾	平坦	人為	縄文式土器14点		455
170	B3f9	N－12°－W	隅丸長方形	1.68 × 0.88	20	外傾	平坦	人為	縄文式土器103点 土師器31点 石器5点	SK178TM9と重複	455
171	B3f0	N－66°－E	隅丸長方形	1.56 × 1.23	14	外傾	平坦	人為	縄文式土器57点 土師器38点		455
175	B3d4	N－37°－W	隅丸長方形	2.30 × 1.09	52	外傾	平坦	人為	縄文式土器25点 土師器1点 須恵器1点		455
182	B3a0	N－11°－W	隅丸長方形	1.30 × 1.15	75	外傾	平坦	人為	縄文式土器19点 土師器2点		
184	B3d7	N－14°－W	隅丸長方形	1.03 × 0.86	11	外傾	平坦	人為	縄文式土器2点		455
231	F3a7	N－50°－E	長方形	2.20 × 0.70	65	外傾	平坦	人為	縄文式土器29点 石器1点		455
236	E3f4	N－7°－W	隅丸長方形	1.48 × 1.37	58	外傾	平坦	人為	縄文式土器17点 土師器11点 石器3点	SK237・239・245・251・252・253・254と重複	456
238	E3f3	N－0°	隅丸長方形	2.09 × 0.67	68	外傾	凹凸	人為		SK107 TM20と重複	456
240	E3e3	N－4°－W	隅丸長方形	2.71 × 0.81	48	外傾	平坦	人為	縄文式土器9点		456
245	E3e4	N－62°－W	不整長方形	1.51 × 1.11	22	外傾	平坦	人為	縄文式土器43点 土師器4点 石器4点	SK236・237・239・251・252・253・254と重複	456
262	D3h1	N－13°－W	隅丸長方形	2.37 × 1.82	29	外傾	皿状	人為	縄文式土器119点 土師器7点		456
272	E4d1	N－53°－W	長方形	1.74 × 0.47	26	外傾	平坦	人為	縄文式土器5点 埴輪4点 馬骨片	SD36と重複	456
275	E3c5	N－39°－E	長方形	2.30 × 0.82	42	外傾	平坦	人為	縄文式土器33点	本跡＞SI102	456
289	D3j8	N－84°－W	長方形	2.08 × 0.72	48	外傾	平坦	人為	縄文式土器32点		456
290	D3h8	N－58°－W	長方形	1.90 × 0.73	40	外傾	平坦	人為	縄文式土器1点 土師器1点 骨片		456
292	D3b8	N－4°－W	長方形	1.78 × 0.65	38	外傾	平坦	人為	土師器2点 須恵器1点 埴輪2点 石器1点 骨片	本跡＞SI59	456
300	D3c9	N－21°－W	長方形	2.18 × 0.91	37	外傾	平坦	人為	縄文式土器8点	本跡＞SI59	456
309	E3a8	N－49°－W	隅丸長方形	1.06 × 0.78	43	外傾	平坦	人為	縄文式土器10点		457
310	E3b9	N－43°－W	隅丸長方形	1.50 × 1.38	64	外傾	凹凸	人為	縄文式土器9点 土師器5点	本跡＞SI99	457
312	E3a8	N－83°－W	隅丸長方形	1.53 × 0.80	9	外傾	平坦	自然	瓦4点		457
316	D4c7	N－10°－W	長方形	1.70 ×[0.67]	43	外傾	平坦	人為	縄文式土器45点 土師器192点 須恵器4点 埴輪36点	骨片	457
338	E4h4	N－0°	長方形	1.85 × 1.10	37	外傾	平坦	人為	人骨（頭部）	SK327・339・355と重複	457
344	E3a0	N－12°－W	隅丸長方形	1.58 × 1.00	60	外傾	皿状	人為	縄文式土器7点	本跡＞SI98	457
353	D6i2	N－17°－E	隅丸長方形	2.23 × 0.86	82	外傾	平坦	人為	縄文式土器26点 弥生式土器1点 埴輪4点 石器1点	本跡＞SK354	457
355	E4h4	N－41°－W	隅丸長方形	2.45 × 1.00	75	外傾	平坦	不明		SK327・338・339と重複	457
405	B4g7	N－90°－W	隅丸長方形	2.20 × 1.42	20	外傾	凹凸	人為	縄文式土器17点	本跡＞SI38	457
406	B4g8	N－18°－E	隅丸長方形	1.75 × 0.88	33	外傾	平坦	人為	縄文式土器65点 土師器6点	本跡＞SI38	457
428	B4h1	N－81°－E	隅丸長方形	(1.76)× 0.56	12	外傾	平坦	人為	縄文式土器6点		457
429	B4g1	N－14°－W	隅丸長方形	3.58 × 0.82	28	外傾	平坦	人為	縄文式土器15点	本跡＞SK427	457
451	C2f0	N－6°－W	隅丸長方形	0.98 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	縄文式土器36点 石器1点		457
464	C3f1	N－6°－W	隅丸長方形	2.01 × 0.94	21	外傾	平坦	人為	縄文式土器55点 土師器6点 石器4点	二段掘り込み	458
479	D4d1	N－84°－E	隅丸長方形	3.12 × 0.87	16	外傾	平坦	人為	縄文式土器33点 土師器1点 石器1点		458

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
484	C3b2	N－90°－E	隅丸長方形	1.91 × 1.14	27	外傾	平坦	人為	縄文式土器117点　土師器24点　石器17点	本跡＞SI49	458
485	C3e2	N－3°－W	長方形	2.30 × 0.70	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器34点　石器1点	本跡＞SI50	458
486	C3h1	N－25°－E	隅丸長方形	2.43 × 1.07	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器69点　須恵器7点　瓦1点　石器1点	SK487と重複	
490	C3i4	N－4°－E	隅丸長方形	1.57 × 1.25	25	外傾	平坦	人為	縄文式土器25点　土師器9点　石器8点	SK491・492・494と重複	458
500	C3g1	N－81°－W	隅丸長方形	[2.00]× 1.55	27	外傾	起伏	不明	縄文式土器3点　土師器2点	本跡＞SK462・475	458
509	C3b2	N－0°	隅丸長方形	1.81 × 0.97	36	外傾	平坦	人為	縄文式土器42点　土師器1点　石器5点	本跡＞SI47	458
514	B4j5	N－6°－W	長方形	1.92 × 0.60	16	外傾	平坦	人為	縄文式土器18点　土師器2点	本跡＞SI44	458
517	B4h6	N－34°－E	隅丸長方形	[2.25]× 0.92	38	外傾	凹凸	人為	縄文式土器117点　土師器2点　石器3点	底面に溝状掘り込み	458
526	C3a3	N－15°－W	隅丸長方形	1.82 × 0.68	41	外傾	平坦	人為	縄文式土器36点　石器1点　埴輪1点		458
533	C3d3	N－12°－W	不整長方形	[1.56]× 0.88	34	外傾	凹凸	人為	縄文式土器59点　石器4点	本跡＞SK532	458
534	C3c8	N－23°－E	長方形	2.35 × 0.77	32	外傾	平坦	人為	縄文式土器98点 土師器6点 石器7点 土製品・埴輪13点		458
540	C4e3	N－13°－E	長方形	2.37 × 1.78	80	外傾	凹凸	人為	縄文式土器131点　土師器1点　石器1点		459
551	C4d7	N－20°－W	隅丸長方形	2.88 × 0.98	74	外傾	平坦	人為	縄文式土器66点　石器5点		459
552	C4d6	N－25°－W	隅丸長方形	3.47 × 1.00	17	外傾	起伏	人為	縄文式土器20点		459
553	C4e6	N－10°－W	隅丸長方形	2.50 × 1.64	38	外傾	起伏	人為	縄文式土器111点　石器4点	底面に溝状掘り込み	459
555B	C4b7	N－69°－E	隅丸長方形	1.51 × 1.18	22	外傾	平坦	人為			459
623A	F3g1	N－87°－W	隅丸長方形	3.35 × 2.00	60	外傾	平坦	人為	縄文式土器702点　土師器17点　須恵器10点		459
623B	F3g1	N－80°－W	隅丸長方形	2.65 × 0.90	38	外傾	平坦	人為			459
627	F2c2	N－21°－W	隅丸長方形	2.44 × 0.78	40	外傾	平坦	人為	縄文式土器46点　須恵器1点　石器1点		459
681	F3c8	N－39°－W	隅丸長方形	2.38 × 0.64	48	外傾	平坦	人為	縄文式土器335点　石器4点	本跡＞SI143	460
690	F3d6	N－80°－E	長方形	(2.18)× 1.65	56	外傾	平坦	人為	縄文式土器349点　石器4点		460
722	F4h2	N－19°－E	不整長方形	2.30 × 0.82	70	外傾	平坦	人為	縄文式土器122点　石器1点		460
725	F4h5	N－4°－E	隅丸長方形	2.67 ×[1.02]	45	外傾	平坦	人為			460
749	F3i9	N－7°－W	長方形	2.20 × 0.64		外傾	凹凸	人為	縄文式土器116点　石器3点		460
752	F4e8	N－90°－E	不整長方形	2.60 × 1.60	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器116点　土師器1点　石器1点	本跡＞SK751	460
768B	F4i8	N－26°－E	長方形	1.18 × 0.69		外傾	平坦	人為			
769	F4h3	N－3°－W	隅丸長方形	2.06 × 0.91	53	外傾	平坦	人為	縄文式土器77点　石器1点		460
786B	F4a3	N－10°－W	隅丸長方形	2.36 × 0.84	90	外傾	平坦	人為			
808	E5c2	N－13°－E	隅丸長方形	2.13 × 0.67	27	外傾	平坦	人為		本跡＞SK807	460
827	E5h1	N－58°－E	隅丸長方形	[1.37]× 0.95	56	外傾	平坦	人為	縄文式土器1点	本跡＞SK826	460
834A	E5c4	N－81°－W	不整長方形	3.77 × 1.42	37	外傾	平坦	人為	縄文式土器80点 土師器15点 須恵器1点 埴輪3点(陶器 覆土 P2351)	SK833と重複	
862	E5b5	N－33°－E	隅丸長方形	1.72 × 0.79	42	外傾	平坦	人為		SK863と重複	460
867	E5b3	N－16°－W	隅丸長方形	1.13 × 0.40	33	外傾	起伏	人為	須恵器1点	二段掘り込み SD47	460
871	B3j3	N－10°－E	隅丸長方形	[1.59]× 1.16	15	外傾	平坦	人為	縄文式土器27点　土師器1点　埴輪1点	本跡＞SI293	460
872	C3a3	N－12°－W	隅丸長方形	1.87 × 0.80	25	外傾	平坦	人為	縄文式土器61点　埴輪3点　石器3点		460
873	B3h4	N－27°－W	隅丸長方形	2.40 × 0.90	38	外傾	凹凸	人為	縄文式土器73点　石器2点	本跡＞SI294　TM63・64	461
876	B3h6	N－8°－W	隅丸長方形	2.13 × 0.72	57	外傾	平坦	人為	縄文式土器49点　石器1点	本跡＞TM64	461
885	B3j8	N－0°	長方形	2.18 × 1.32	42	外傾	平坦	人為	縄文式土器52点　石器2点	本跡＞SI295	461
889	B2j0	N－8°－E	隅丸長方形	2.42 × 1.31	39	外傾	平坦	人為	縄文式土器43点　土師器8点　須恵器2点　石器3点	本跡＞TM63	461
890	C3a9	N－15°－E	不整長方形	2.02 × 0.83	53	外傾	平坦	人為	縄文式土器30点		461
891	B3j0	N－10°－W	不正長方形	2.30 × 0.80	67	外傾	凹凸	人為	縄文式土器18点	本跡＞TM13	461
892	B3h7	N－25°－W	隅丸長方形	2.20 × 0.71	29	外傾	平坦	人為	縄文式土器40点	SK893	461
893	B3i7	N－8°－W	隅丸長方形	1.86 × 0.60	29	外傾	平坦	人為	縄文式土器7点	SK892	
894A	B3i7	N－7°－W	長方形	3.68 × 2.50	130	外傾	起伏	人為		二段掘り込み　本跡＜SK894B	
894B	B3i7	N－6°－W	長方形	2.14 ×(0.58)	68	外傾	平坦	人為		本跡＞SK894A，SK894C	
896	B3h0	N－68°－W	隅丸長方形	2.12 × 0.71	53	外傾	平坦	人為		SK895と重複	461
900	B3f8	N－2°－E	隅丸長方形	2.32 × 0.68	28	外傾	平坦	人為	縄文式土器296点　土師器153点　石器5点		461
902	B3h9	N－9°－W	隅丸長方形	1.64 × 1.29	47	垂直	平坦	人為	縄文式土器72点		462
904	B3g7	N－30°－W	隅丸長方形	2.69 × 1.20	43	外傾	平坦	人為	縄文式土器12点　石器1点		462
906A	B3h0	N－29°－W	隅丸長方形	2.39 × 0.70	40	外傾	平坦	人為	縄文式土器430点　土師器12点　石器5点		462



第11号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量

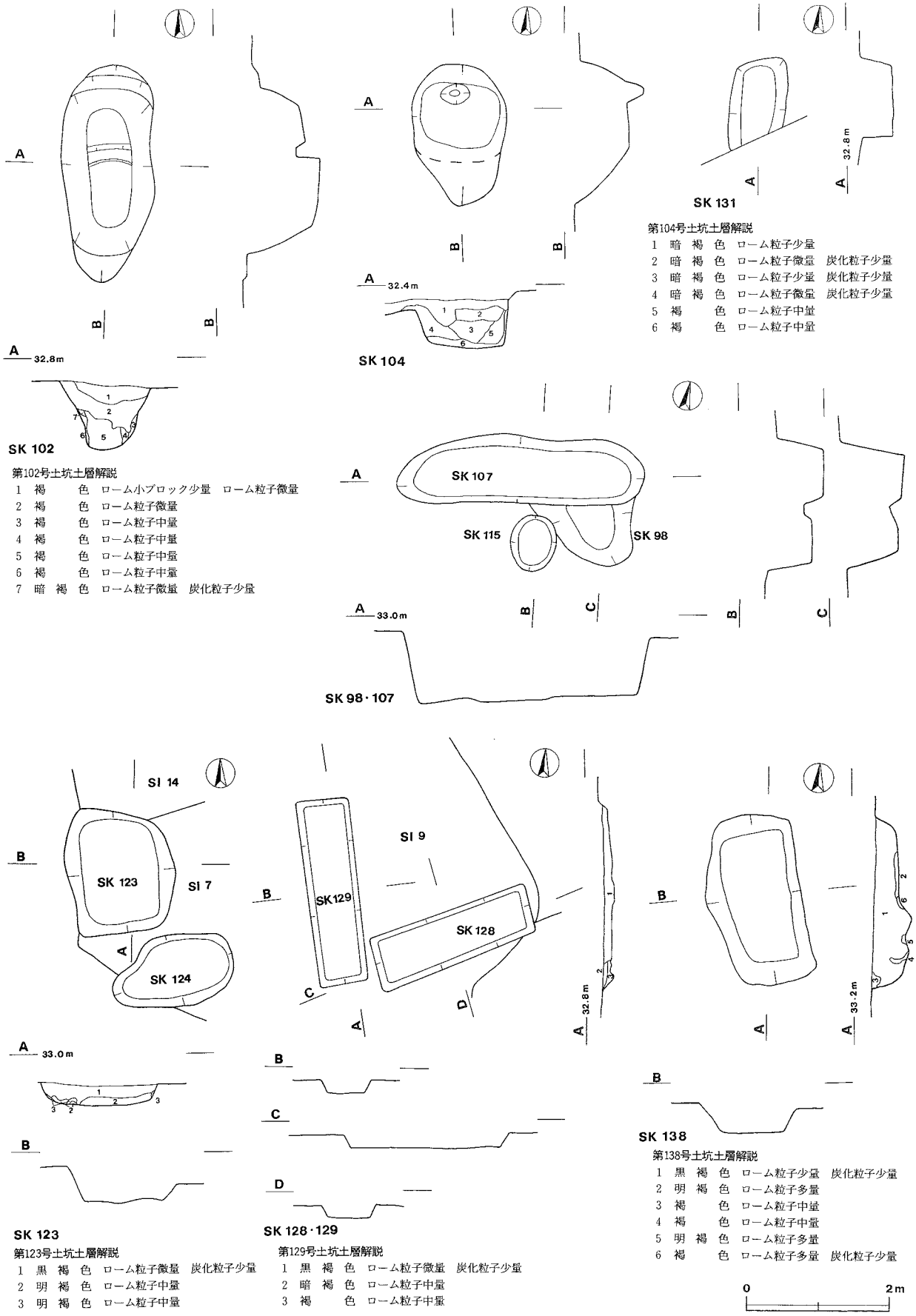
第10号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子中量 焼土粒子多量 炭化粒子少量

第75号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子多量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック微量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量

第76号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 褐 色 ローム粒子中量

第78号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量

第453図 第6・10・11・12・15・17・28・31・36・61・62・64・75・76・78・79号土坑



第102号土坑土層解説
1 褐 色 ローム小ブロック少量 ローム粒子微量
2 褐 色 ローム粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子中量
6 褐 色 ローム粒子中量
7 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量

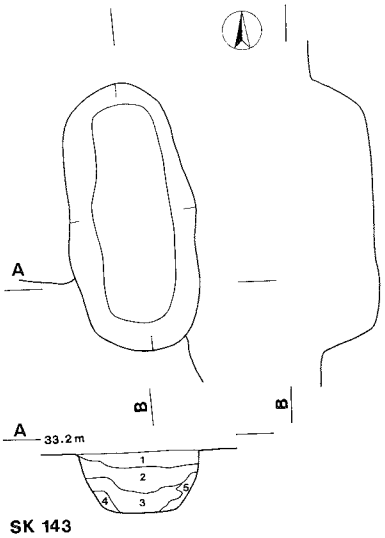
第104号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子中量
6 褐 色 ローム粒子中量

第123号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 明 褐 色 ローム粒子中量
3 明 褐 色 ローム粒子中量

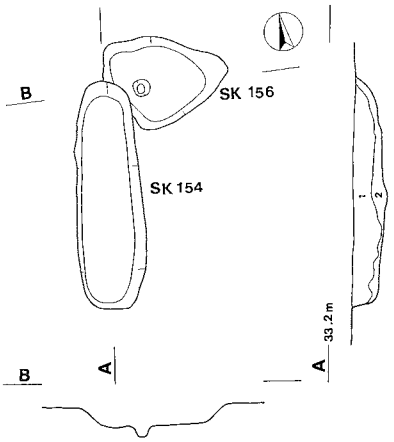
第129号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子中量

第138号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 明 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 明 褐 色 ローム粒子多量
6 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量

第454図　第98・102・104・107・123・128・129・131・138号土坑



SK 143



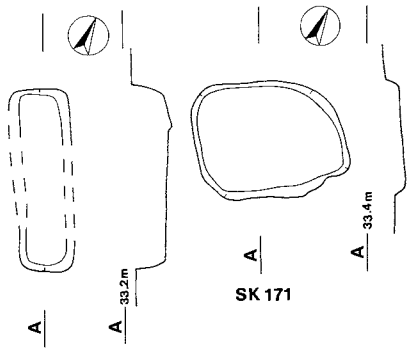
SK 154・156

第143号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子多量

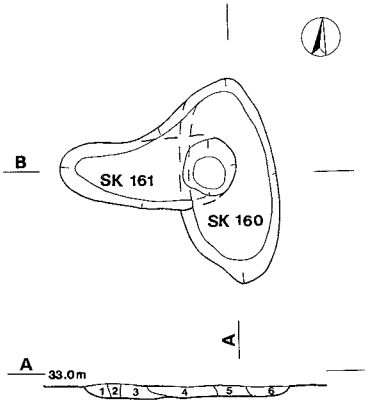
第154号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量 焼土粒子中量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量

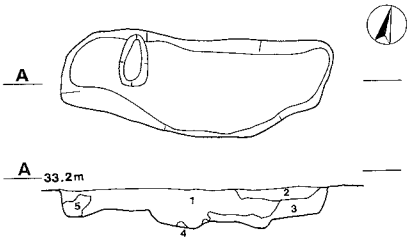


SK 171

SK 166

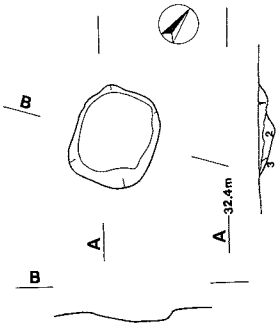


SK 160・161



第167号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量



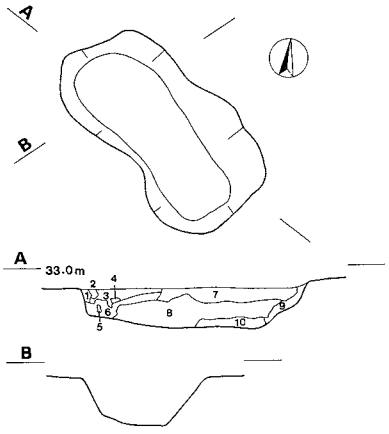
SK184

第184号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子多量

第160号土坑土層解説

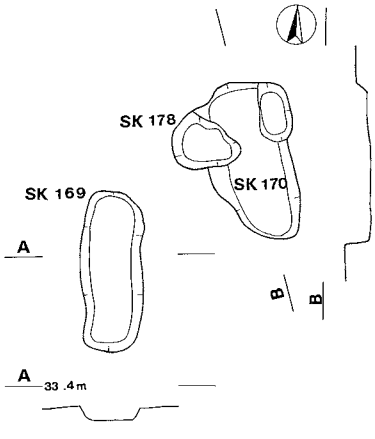
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
6 暗 褐 色 炭化粒子少量



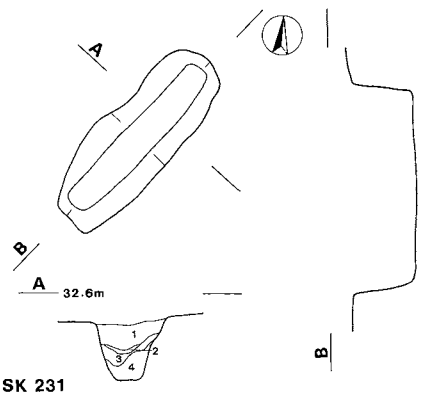
SK 175

第175号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
5 黒 褐 色 炭化粒子中量
6 褐 色 ローム粒子中量
7 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
8 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
9 褐 色 ローム粒子多量
10 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量



SK 169・170



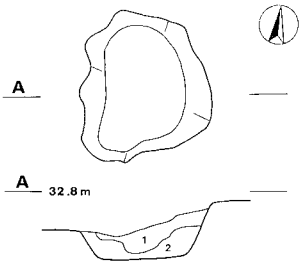
SK 231

第231号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量

0 2m

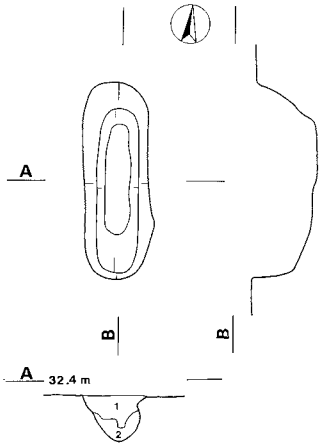
第455図　第143・154・156・160・161・166・167・169・170・171・175・184・231号土坑



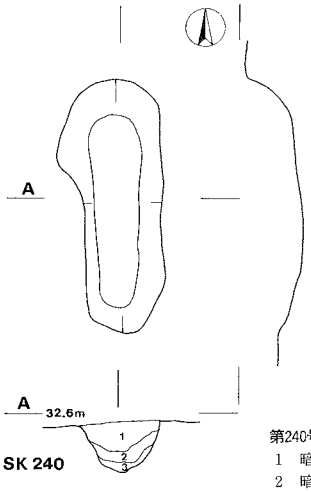
SK 236

第236号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量

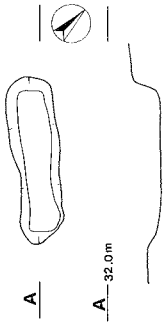
第238号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子中量



SK238

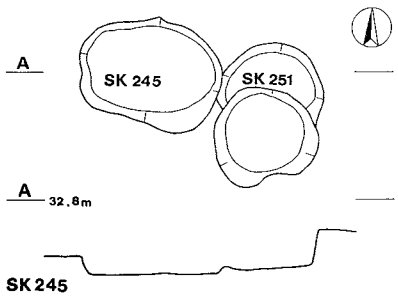


SK 240

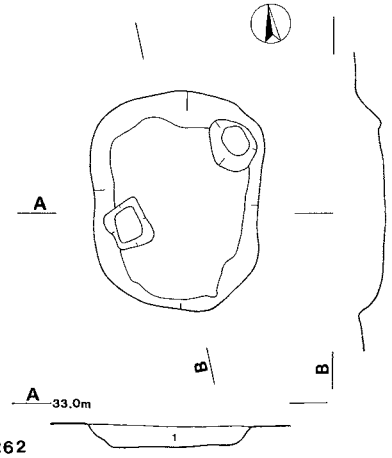


SK 272

第240号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量

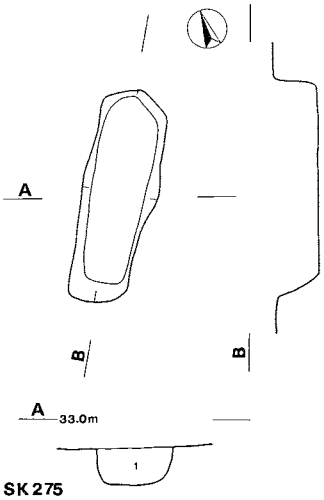


SK245



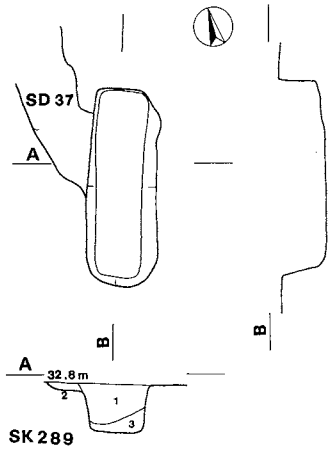
SK 262

第262号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土小ブロック少量

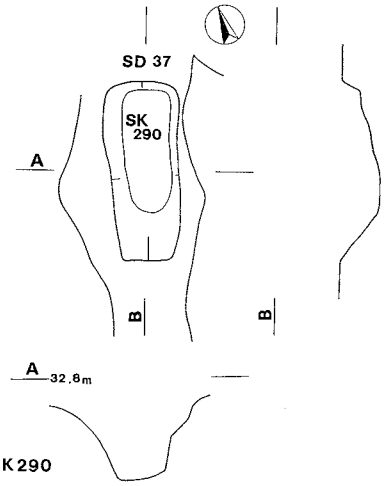


SK 275

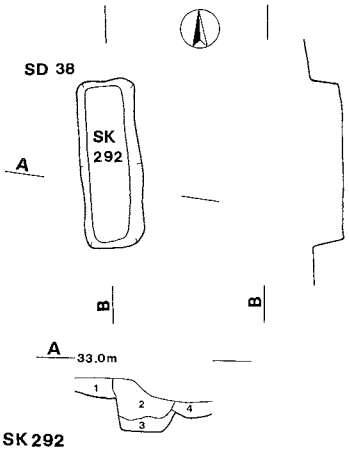
第275号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量



SK289



SK290

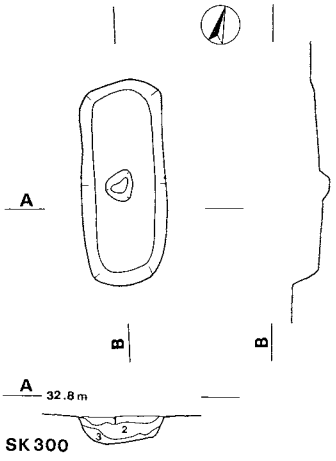


SK 292

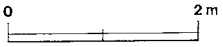
第289号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム大物多量
3 褐 色 ローム粒子多量

第300号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

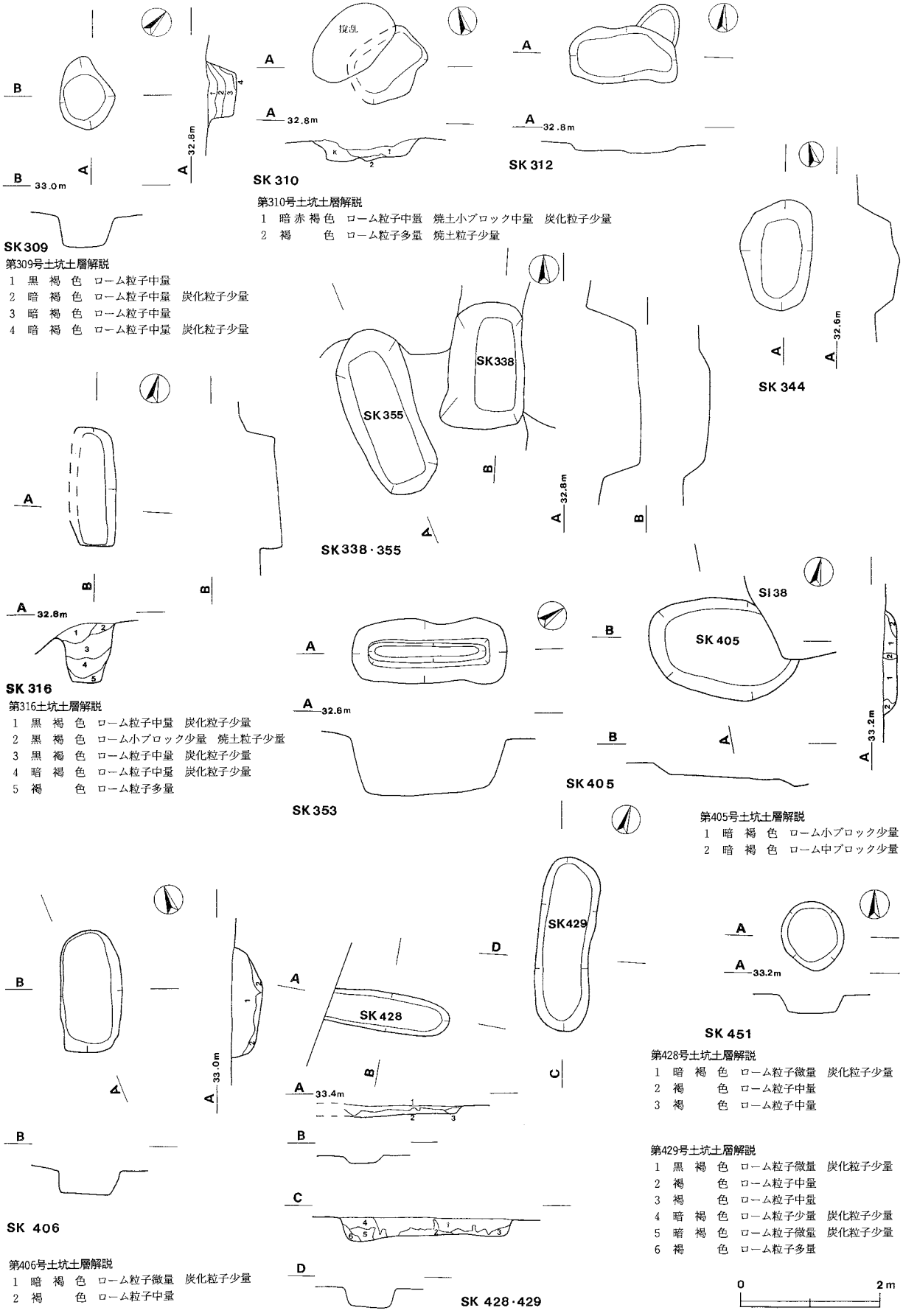
第292号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 焼土粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量



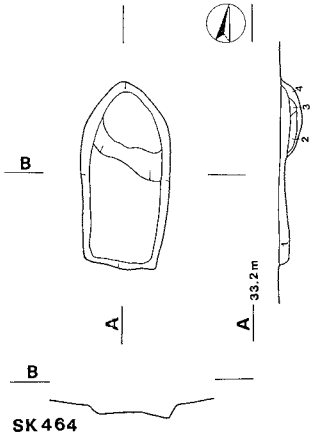
SK300



第456図　第236・238・240・245・262・272・275・289・290・292・300号土坑

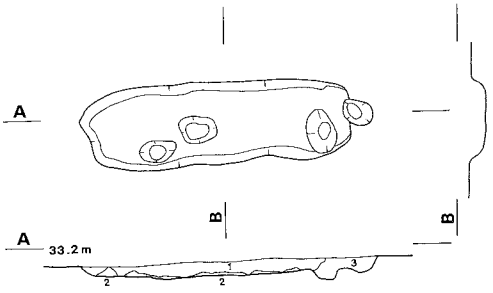


第457図　第309・310・312・316・338・344・353・355・405・406・428・429・451号土坑



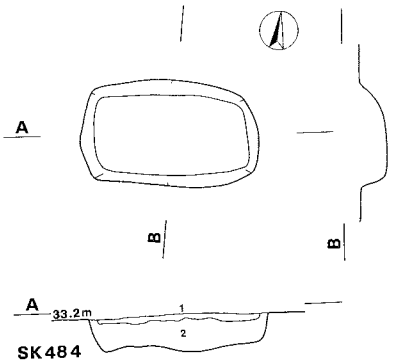
SK464

第464号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量



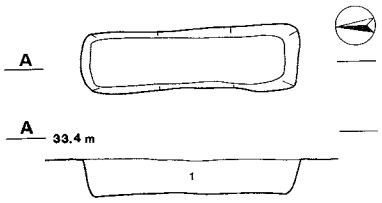
SK479

第479号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 炭化粒子少量



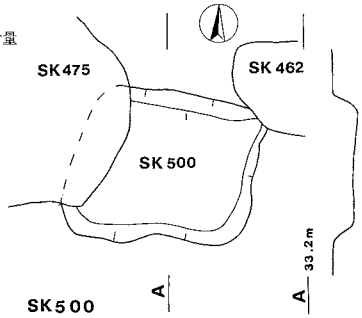
SK484

第484号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量

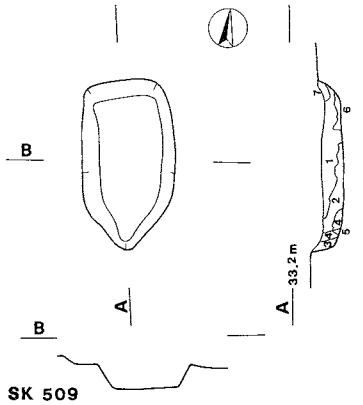


SK485

第485号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

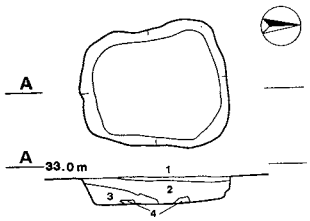


SK500



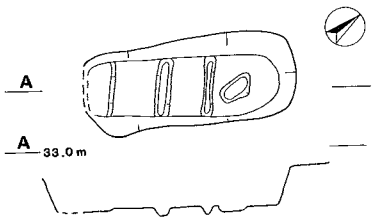
SK509

第509号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 褐 色 ローム粒子中量
6 褐 色 ローム粒子中量
7 褐 色 ローム小ブロック少量

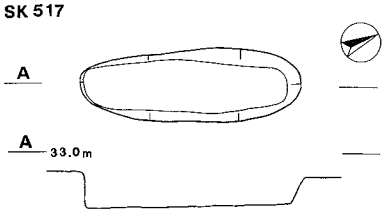


SK490

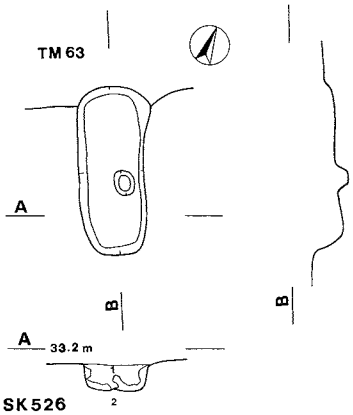
第490号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック微量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量



SK517

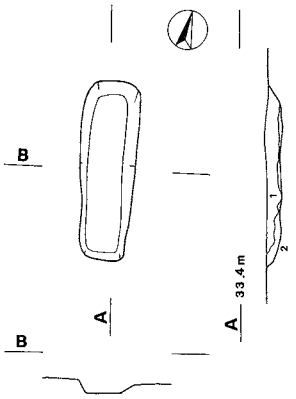


SK534



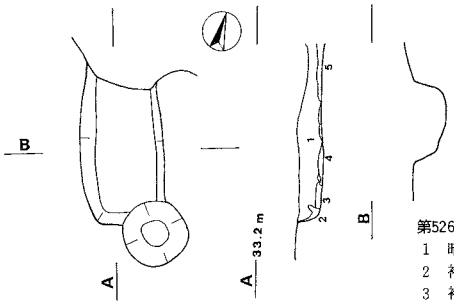
SK526

第526号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量



SK514

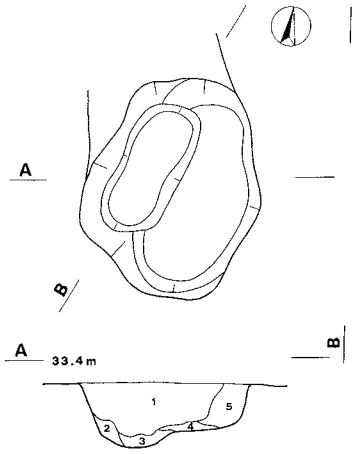
第514号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子中量
2 褐 色 焼土粒子少量 炭化粒子少量



SK533

第533号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土小ブロック少量 炭化粒子中量
2 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化物少量

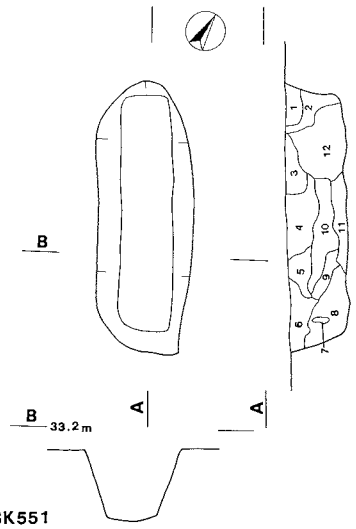
第458図 第464・479・484・485・490・500・509・514・517・526・533・534号土坑



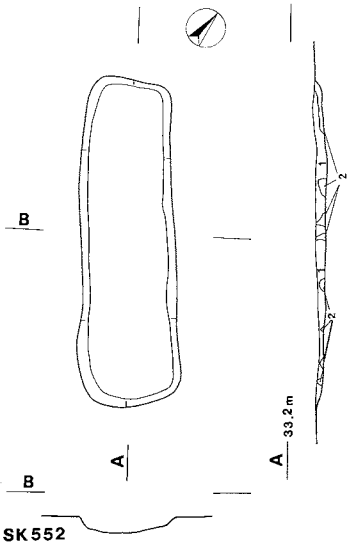
SK540

第540号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子多量



SK551



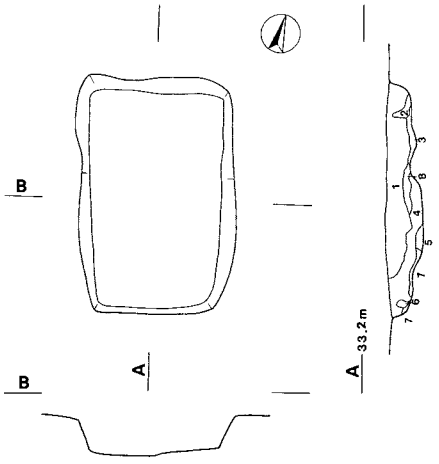
SK552

第552号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量

第551号土坑土層解説

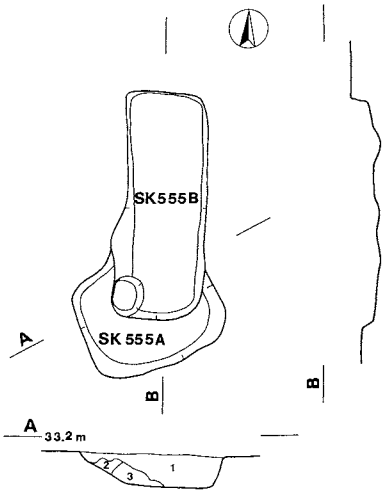
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子多量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
9 褐 色 ローム粒子多量
10 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
11 褐 色 ローム粒子極めて多量
12 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量



SK553

第553号土坑土層解説

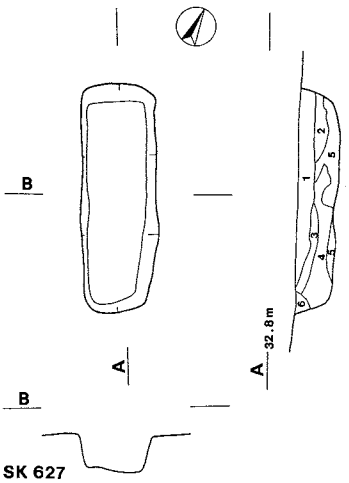
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子多量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量



SK555A・555B

第555号土坑土層解説

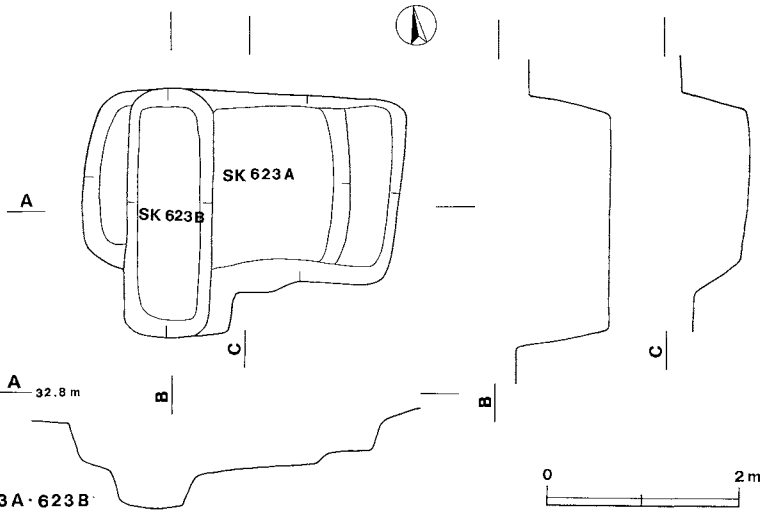
1 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 炭化物少量
2 褐 色 ローム粒子多量
3 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量



SK627

第627号土坑土層解説

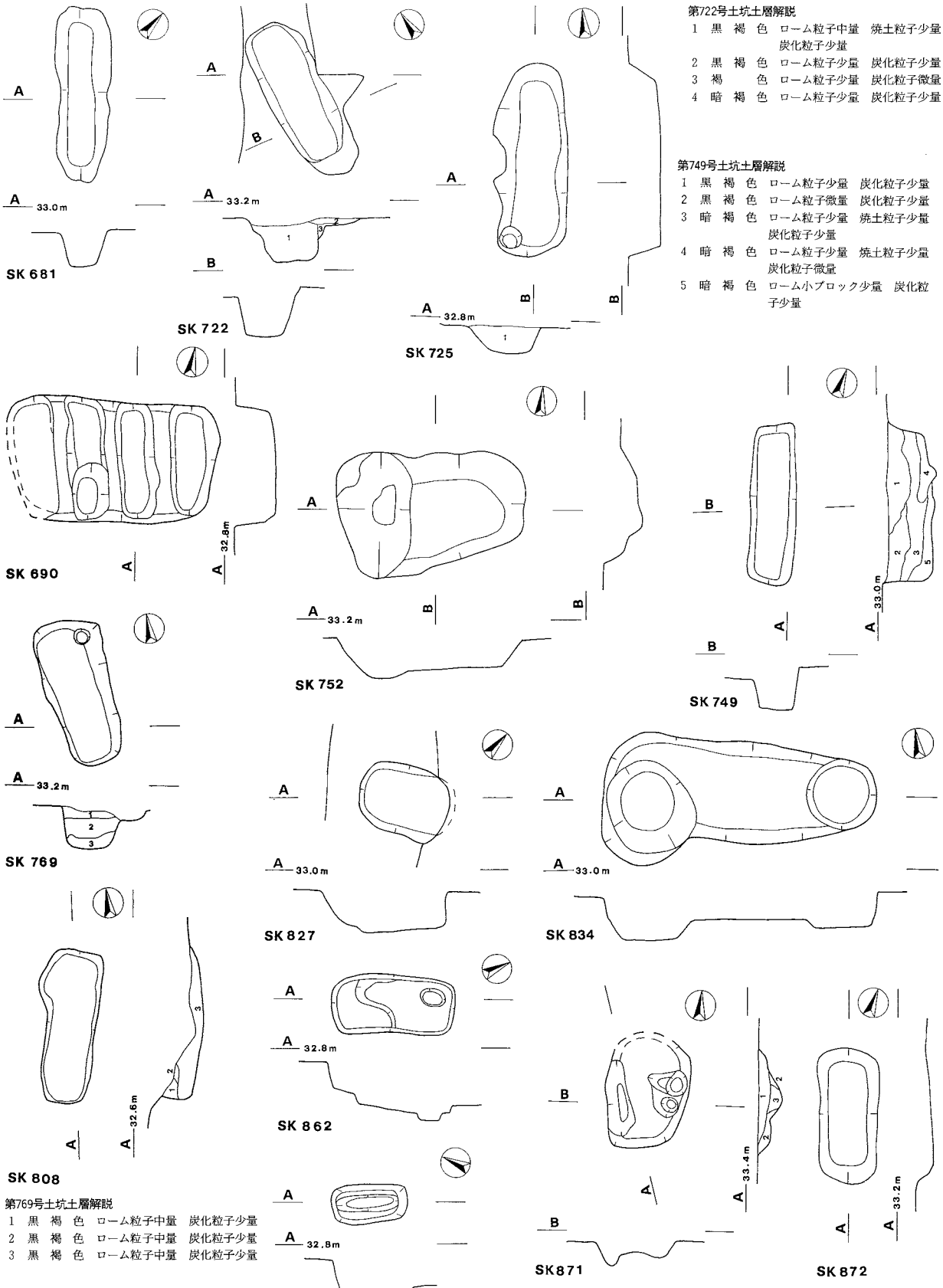
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 炭化物中量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量
6 褐 色 ローム粒子多量



SK623A・623B

0 2m

第459図　第540・551・552・553・555A・B・623A・B・627号土坑



第722号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

第749号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量

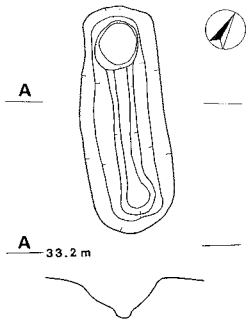
第769号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

第808号土坑土層解説
1 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量

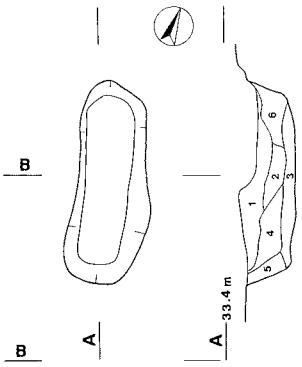
第871号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量

0 2m

第460図　第681・690・722・725・749・752・769・808・827・834A・862・867・871・872号土坑

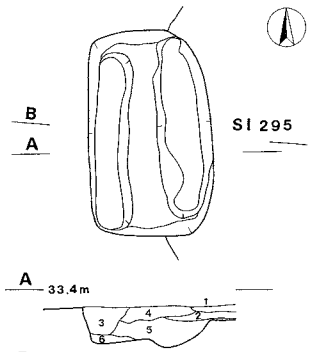


SK 873

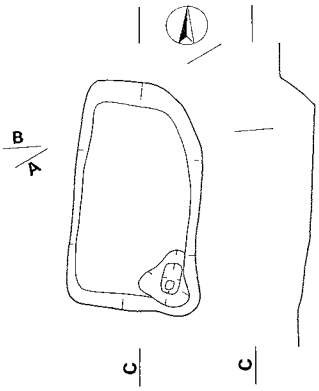


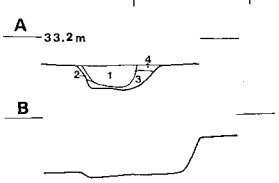
SK 876

第876号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム小ブロック微量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
6 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量



SK 885

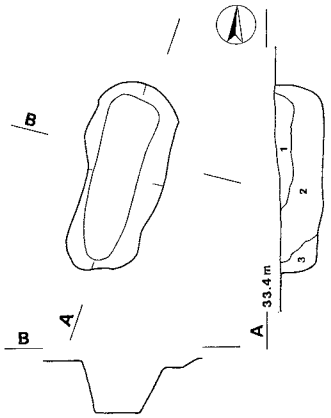




SK 889

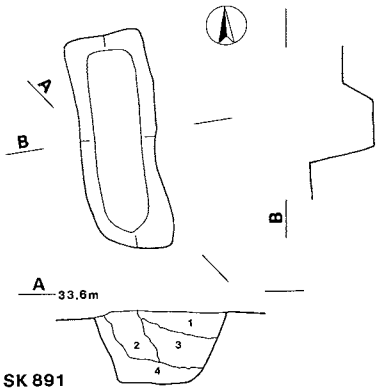
第889号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 焼土小ブロック少量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量

第885（S Ⅰ－295）号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量



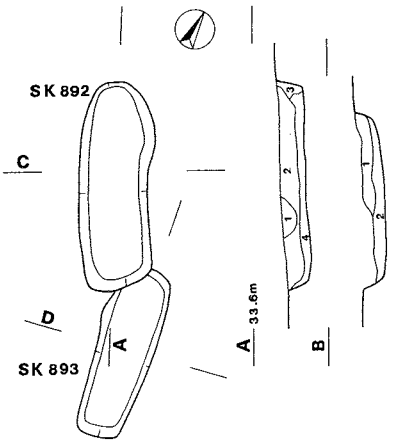
SK890

第890号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

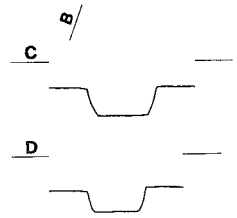


SK 891

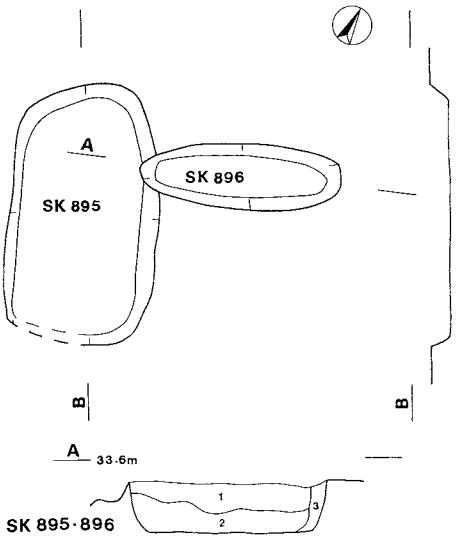
第891号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量



第895号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 褐 色 ローム粒子中量



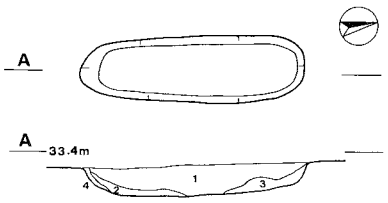
SK 892・893



SK 895・896

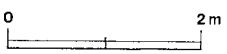
第892号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量

第893号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量

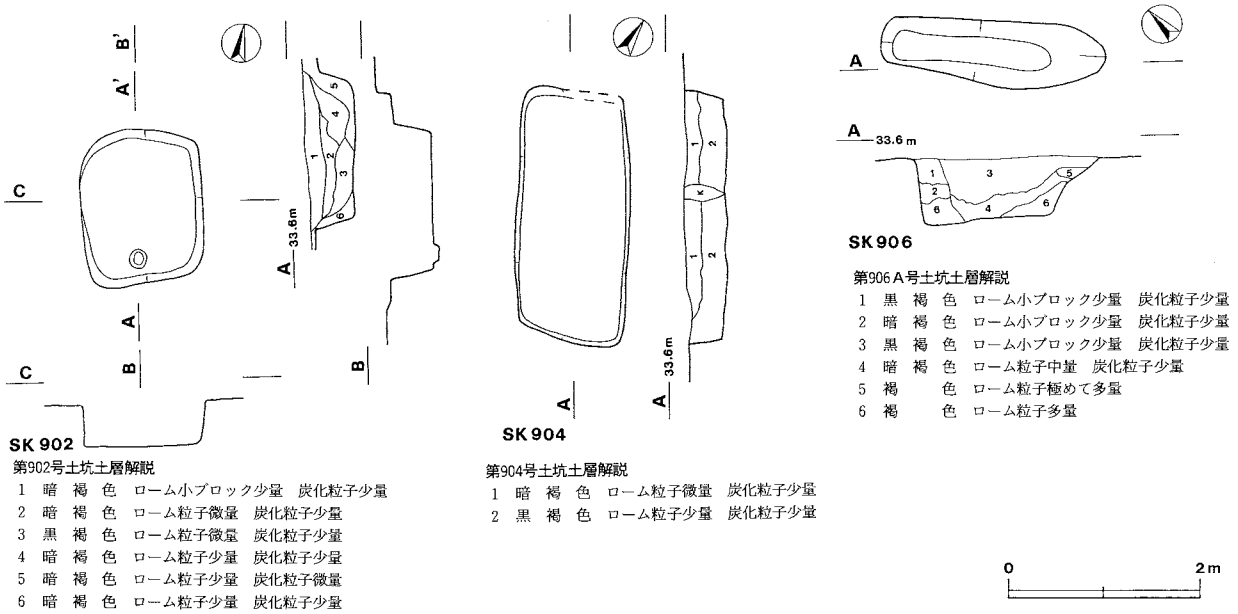


SK900

第900号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
4 明 褐 色 ローム粒子多量



第461図　第873・876・885・889・890・891・892・895・896・900号土坑



第902号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
3 黒褐色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

第904号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子微量 炭化粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量

第906A号土坑土層解説
1 黒褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
3 黒褐色 ローム小ブロック少量 炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
5 褐色 ローム粒子極めて多量
6 褐色 ローム粒子多量

第462図　第902・904・906A号土坑

中世土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第452図5	香炉 陶器	A [15.8] B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部はほぼ垂直に立ち上がり，口縁部で外反する。口縁端部に稜をもつ。	ロクロ成形。内・外面とも施釉。	砂粒 オリーブ黄色 緑釉 普通	SK834A P2351 20% 覆土 瀬戸・美濃系

3　井戸

井戸はA区の中央部の東側と西側にそれぞれ2基づつ確認した。遺物は，SK781とSK824の覆土中より埋め戻した際に混入したと考えられる縄文式土器，土師器，須恵器の破片が多数みられる。また，SK824からは土師質土器の皿が1点出土した。

第1号井戸（第463図　SK261）

位置　D2j$_1$区から確認された。

規模と形状　掘り方は，上面が長径0.98mの円形で，確認面から0.7mの深さまで急傾斜をもち，そこから下は円筒形に掘り込まれており，深さ1.85mまで調査をしたが，それ以下は未完掘である。

覆土　自然堆積である。

所見　本跡は形状から中世以降のものと考えられる。

第2号井戸（第463図　SK360）

位置　D3i$_8$区から確認された。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.27m，短径1.29mの不整円形で，確認面から0.3mの深さまで急傾斜をもち，そこから下は円筒形に掘り込まれている。深さ2.0mまで調査したが，それ以下は未完掘である。

覆土　自然堆積である。

所見　本跡は形状から中世以降のものと考えられる。

中・近世

第3号井戸（第463図　SK781）

位置　F4d$_2$区から確認された。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1,52m，短径1.28mの不整円形で，確認面より円筒形状に掘り込まれている。深さ1.8mまで調査したが，それ以下は未完掘である。

覆土　人為堆積である。

所見　本跡は形状から中世以降のものと考えられる。

第4号井戸（第463図SK824）

位置　E5i$_3$区から確認した。

規模と形状　掘り方は，上面が長径2.20m，短径2.10mの不整円形で，確認面から0.8mの深さまで急傾斜をもち，そこから下は円筒形に掘り込まれている。深さ3.5mまで調査したが，それ以下は未完掘である。

覆土　人為堆積である。

遺物　覆土中層から土師質土器の皿が出土した。

所見　本跡は，土師質土器より新しい遺物が出土しないことから，13世紀頃に埋められたものと考えられる。

表24　中世A区井戸一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
1	D2j0	N－0°	円形	0.98 × 0.98	(185)	垂直		自然		(SK261)	463
2	D3i8	N－78°－E	不整円形	1.27 × 1.26	(200)	垂直		自然		(SK360)	463
3	F4d2	N－39°－E	不整円形	1.52 × 1.28	(135)	垂直		人為	縄文式土器27点　土師器6点　石器1点	(SK781)	463
4	E5i3	N－19°－E	不整円形	2.20 × 2.10	(330)	垂直		人為	縄文式土器・土師器・須恵器 第452図3(土師質皿覆土P2345)	(SK824)	463

中世A区井戸出土遺物観察表

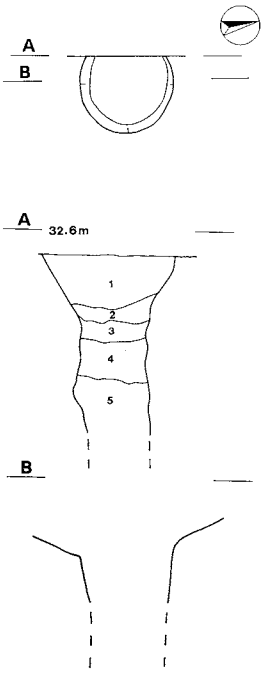
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第452図3	皿 土師質土器	A 7.1 B 2.6 C 2.0	口縁部の一部欠損。底部は丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。	非ロクロ成形。内・外面の口縁部は横ナデ。見込み部ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	第4号井戸(SK824) P2345　98% 2次焼成

4　遺構外出土遺物

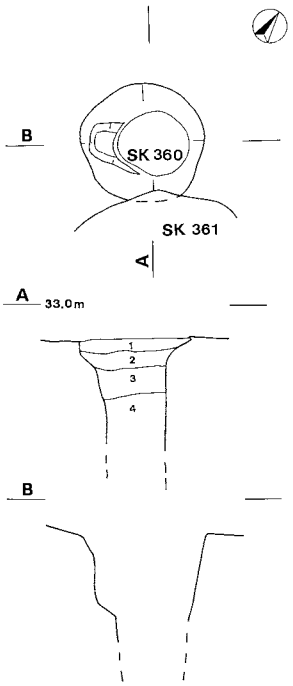
縄文時代の袋状土坑から土師質土器片と第2号墳石室内から近世の陶磁器片が少量出土した。ここでは完形にちかい土師質土器の皿を1点だけ掲載した。

遺構外出土遺物観察表

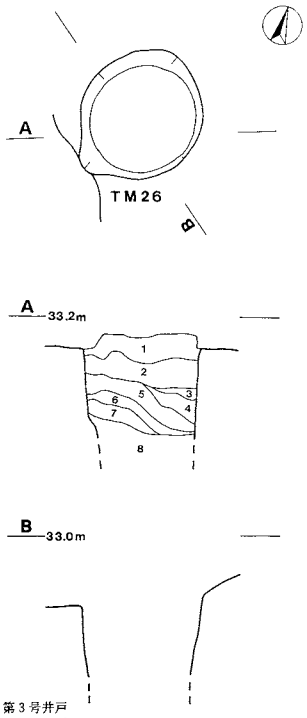
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第452図6	皿 土師質土器	A 7.5 B 2.1 C 4.2	底部と口縁部の一部欠損。底部は丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。	非ロクロ成形。内面と口縁部外面は横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	SK33 P1024　95% 口縁部煤付着



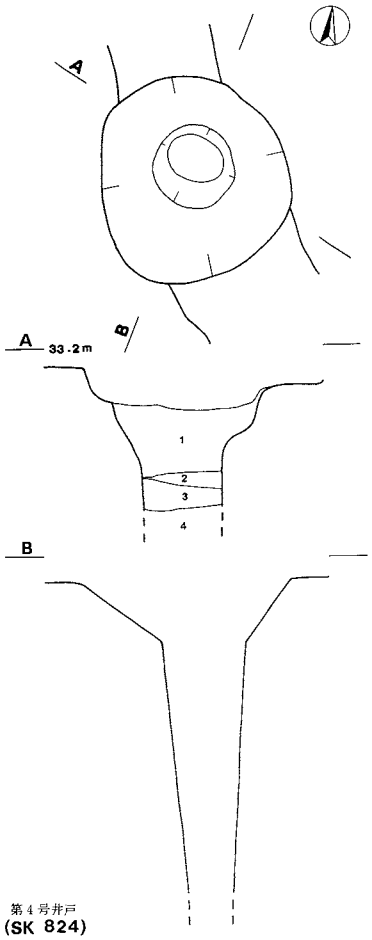
第1号井戸
(SK 261)



第2号井戸
(SK360)



第3号井戸
(SK781)



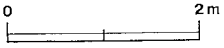
第4号井戸
(SK 824)

第1号井戸 (S K261) 土層解説
1 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 焼土粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子多量 焼土小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子多量 焼土小ブロック少量 炭化粒子少量
4 褐 色 ローム粒子多量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
5 褐 色 ローム粒子多量

第2号井戸 (S K360) 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子少量
4 黒 褐 色 ローム小ブロック少量 ローム粒子少量

第3号井戸 (S K781) 土層解説
1 褐 色 ローム粒子中量 砂中量
2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム中ブロック少量 ローム粒子少量
5 褐 色 ローム小ブロック少量 砂中量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子中量
8 暗 褐 色 ローム小ブロック中量 砂中量

第4号井戸 (S K824) 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 砂少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量



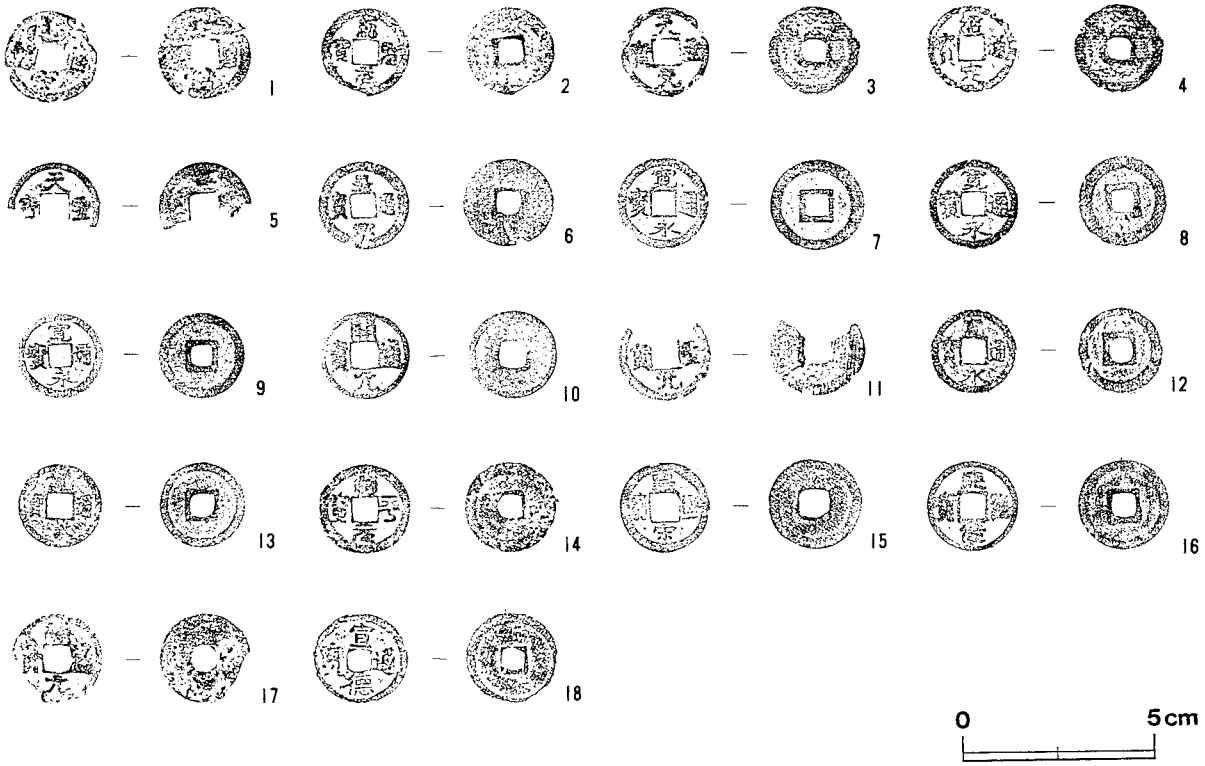
第463図 第1・2・3・4号井戸

5　古銭

当遺跡から出土した古銭は18枚である。すべてＡ区から確認された。遺構に伴うと考えられるものは，ＳＫ17の覆土中から出土した「紹聖元寶」と第５号方形竪穴遺構（ＳＫ２８５）の覆土中から出土した「紹定通寶」であり，その他の16枚は遺構外からの出土である。種類別にみてみると「皇宋通寶」「紹聖元寶」「天聖通寶」「治平元寶」等の北宋銭が９枚と「寛永通寶」の５枚で９割を占める。

表25　古銭一覧表

図版番号	鋳造	初鋳年（西暦）	鋳造地名	出土地点	備考
第464図1	皇宋通寶	１０３９	北宋	SK　3	M 1001
2	紹聖元寶	１０９４	北宋	SK　17	M 1002
3	天聖元寶	１０２３	北宋	SK　844　覆土	M 1012
4	紹定通寶	１２２８	南宋	SK　285　覆土	M 1029
5	天聖元寶	１２０３	北宋	TM　2　石室覆土	M 3005
6	皇宋通寶	１０３９	北宋	TM　2　主体部覆土	M 3006
7	寛永通寶	１６３２	日本	TM　9　周溝覆土	M 3026
8	寛永通寶	１６３２	日本	TM　9　周溝覆土	M 3027
9	寛永通寶	１６３２	日本	TM　9　周溝覆土	M 3028
10	開元通寶	６２１	唐	TM　2　石室覆土	M 3045
11	天聖元寶	１２０３	北宋	TM　2　石室覆土	M 3048
12	寛永通寶	１６３２	日本	TM　2　墳丘覆土	M 3089
13	寛永通寶	１６３２	日本	TM　2　墳丘覆土	M 3090
14	治平元寶	１０６４	北宋	TM　2　主体部覆土	M 3091
15	皇宋通寶	１０３９	北宋	TM　2　主体部覆土	M 3092
16	天聖元寶	１２０３	北宋	TM　2　主体部覆土	M 3093
17	開元通寶	６２１	唐	TM　2　主体部覆土	M 3094
18	宣徳通寶	１４２６	明	TM　2　墳丘覆土	M 3097



第464図　古銭

6　まとめ

中台遺跡の今回の発掘調査で中世の遺構としてとらえた方形竪穴遺構は，A区より21基ほど確認されている。平面形は長方形または隅丸長方形で，規模が小さい。掘り込みも浅いものが多い。柱穴と考えられるピットは，1～3本とまちまちで，ピットのないものもある。壁のコーナー部に出入り口と考えられる緩やかな傾斜部をもつものもある。

遺物は非常に少なく，第5号方形竪穴遺構(SK285)の覆土中から縄文式土器や須恵器，土師器と一緒に土師質土器の皿が1点と南宋銭が一枚。第13号方形竪穴遺構(SK830)の覆土中から土師質土器の内耳土鍋が1点。第18号方形竪穴遺構(SK868)から土師質土器の皿が1点出土しただけである。

このような方形竪穴遺構は県内にもいくつかの報告例があり，今後更に注目される遺構と考えられることから，ここでは県内の報告例を紹介するとともに，中台遺跡における方形竪穴遺構の性格について考え，まとめとする。

各報告書には「住居跡」，「土坑」，「竪穴状遺構」，「小竪穴遺構」とさまざまな名称で報告されている。平面図等から中台遺跡の方形竪穴遺構に類似するものだけに限り抽出した。なお，明らかに中世の遺構でないものや，ピットをもたない長方形の墓壙と考えられるものについては省いた。

(1)　白石遺跡[1]

小竪穴状遺構という名称で52基確認されている。遺構全体をⅠ～Ⅳ期にわけ，方形竪穴遺構はⅢ期とⅣ期に属している。Ⅲ期は15世紀中葉から15世紀後葉。Ⅳ期は16世紀後葉から16世紀前葉と報告されている。

白石遺跡の場合，出入り口をもつものが29基，もたないものが23基で，どちらも柱穴のないものが比較的多い。柱穴のあるものでは出入り口をもつタイプでは2本，もたないタイプでは1本が多いことがわかる。出入り口をもつ2本柱のタイプとして，白石遺跡では第23・30・33号と中台遺跡の第13号(SK883)があげられる。白石遺跡の場合は，出入り口が壁のコーナー部にあるのに対し，中台遺跡では南壁の中央に構築されている。また，白石遺跡の第33号と中台遺跡の第4号(SK282)・第19号(SK869)の形状が似ている。

(2)　屋代BⅡ遺跡[2]

11基確認されており，そのうち9基は墓壙として考えられている。出入り口をもつタイプともたないタイプが存在し，柱穴のあるものが比較的多い。出入り口をもつ2本柱のタイプとしてSK429も白石遺跡と同様に壁コーナーに出入り口をもっている。

(3)　屋代BⅢ遺跡[3]

21基確認されており，墓壙として考えられている。出入り口をもつタイプが12基，もたないタイプが9基である。出入り口をもつタイプでは柱穴が1～2本が比較的多く，もたないタイプでは1本が多い。出入り口をもたなく1本柱のタイプに属する第703号土坑は，底面より和鏡「籬菊双雀鏡」が出土しており，時期を鎌倉期後半としている。

(4)　砂川遺跡[4]

竪穴状遺構という名称で，出入り口をもつ2本柱のタイプが1基と，いずれも柱穴をもつ出入り口のないタイプが5基ほど確認されている。同類と考えられるのは，SI3と中台遺跡の第4号(SK282)・第19号(SK869)。SI8と中台遺跡の第8号(SK297)があげられる。

(5)　長峰遺跡[5]

第184号土坑の1基があてはまる。出入り口がなく，2本の柱穴をもつタイプである。

(6)　リュウガイ遺跡[6]

竪穴状遺構という名称で１基が報告されている。タイプは，出入り口をもたなく柱穴２本である。

このように各遺跡とも中世の遺構として考えられているが，性格については墓壙以外には明らかにされていない。中台遺跡でも形状はまちまちであるが，出入り口をもち柱穴のあるタイプと出入り口のない柱穴のあるタイプと出入り口がなく柱穴のないタイプの大きく３つに分けることができる。

出入り口をもち柱穴のあるタイプは２基（第13号・第17号）確認されており，いずれも底面に炭化物や灰が薄く堆積している。また，出入り口部から底面にかけて硬くしまっている。これらの例は柴崎遺跡II区[7]・III区[8]からも確認されており，土生氏は住居跡として考えている[9]。柴崎遺跡II区・III区では時期を12世紀前半から13世紀前半とし，やや古い遺構としているものの，特徴は中台遺跡の第13号と第17号も類似する。これらのことから，性格は住居跡として考えてもいいのではないだろうか。

注・参考文献

(1) 茨城県教育財団 「白石遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第82集』 1993年３月
(2) 茨城県教育財団 「屋代ＢII」『茨城県教育財団文化財調査報告第40集』 1987年３月
(3) 茨城県教育財団 「屋代ＢIII」『茨城県教育財団文化財調査報告第45集』 1988年３月
(4) 茨城県教育財団 「砂川遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第16集』 1982年３月
(5) 茨城県教育財団 「長峰遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第58集』 1990年３月
(6) 高萩市教育委員会「リュウガイ遺跡」1976年３月
(7) 茨城県教育財団 「柴崎遺跡II区―1」『茨城県教育財団文化財調査報告第54集』 1989年３月
(8) 茨城県教育財団 「柴崎遺跡II区」『茨城県教育財団文化財調査報告第63集』 1990年３月
(9) 中・近世研究班 「中世の竪穴遺構について」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1991年７月

第9節　その他

1　竪穴住居跡

当遺跡から確認された竪穴住居跡で，時期の明確にできなかった11軒については，一覧表に示すことにする。

表26　その他の住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉/竈	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
12	A3j9	N－9°－W	[方形]	[3.35]×[1.58]	不明	平坦							自然	縄文式土器片	第465図
54	E4b8	N－47°－E	不明	(2.30)×(2.01)	－	平坦				2			不明	土師器片，縄文式土器片	第465図
148	F3h2	N－80°－E	長方形	[4.28]×3.64	0～9	平坦				1		炉	自然	縄文式土器片，土師器片	
201	C3i2	N－2°－E	[長方形]	[4.17]×3.29	－	平坦							自然	縄文式土器片	第465図
278B	F5a1	N－32°－E	長方形	4.17×2.71	18	平坦						竈	自然	縄文式土器片，土師器片，須恵器片	
285	B5g5	N－88°－E	長方形	3.42×2.46	9～20	平坦				2			人為	縄文式土器片，土師器片，埴輪片	第466図
290	B3j1	N－90°－E	不整長方形	[3.34]×[2.62]	8	平坦							不明		第465図
291	B3i1	N－0°	不整長方形	[3.50]×[2.78]	不明	平坦							不明		第466図
292	B3i1	N－9°－E	不整長方形	[3.56]×3.13	3～6	平坦							自然	縄文式土器片	第466図
297	B3j7	N－58°－E	不明	[4.02]×(2.03)	不明	平坦				1			自然	縄文式土器片	第466図

2　土坑

当遺跡から確認された土坑で，時期・性格の明確にできなかったものを一覧表で記載することにする。

表27　その他のA地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
2	A3h1	N－60°－W	楕円形	0.52×0.40	58	急斜	平坦	不明			
3	A2i0	N－67°－E	楕円形	1.44×1.22	10	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
4	A2h0	N－44°－W	楕円形	1.13×0.76	36	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器片		
5	A2i0	N－28°－E	楕円形	1.47×1.20	28	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
7	A2j0	N－7°－E	不整楕円形	1.75×1.19	16	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
8	A2j0	N－27°－W	不整楕円形	1.26×1.00	10	緩斜	平坦	自然			
9	A2i9	N－3°－E	[円形]	1.64×[0.96]	35	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片		
19	A3h2	N－29°－E	不整楕円形	5.07×1.86	55	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片		
22	B3a7	N－80°－E	[楕円形]	1.15×(9.03)	41	急斜	皿状	自然	縄文式土器片		
23	A2h0	N－59°－W	楕円形	1.35×0.60	16	緩斜	平坦	自然	土師器(坩)		
24	A2g0	N－17°－W	不定形	1.26×(9.60)	53	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		
25	A3g1	N－0°	隅丸長方形	1.18×1.04	37	緩斜	凹凸	自然			
26	B3a8	N－58°－E	円形	1.73×(1.24)	23	緩斜	平坦	自然			
30	A3h3	N－37°－E	円形	0.92×0.85	10	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
34	A3i3	N－10°－W	不定形	3.16	100	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢)，土師器片		
37	A3f2	N－69°－W	不整楕円形	0.80×0.62	52	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
38	A3f2	N－15°－W	楕円形	1.34×0.88	39	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
39	A2g0	N－12°－W	楕円形	1.08×0.81	10	緩斜	平坦	不明			
40	A3f2	N－13°－W	楕円形	0.73×0.62	37	急斜	凹凸	人為			
42	A3f2	N－47°－E	楕円形	2.19×1.78	67	緩斜	皿状	人為	縄文式土器片		
43	A3i8	N－92°－W	不整楕円形	1.50×1.18	28	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢)		
47	A3g3	N－113°－E	不整楕円形	0.57×0.35	48	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		
51	A3j3	N－82°－W	楕円形	[0.82]×0.70	5	緩斜	平坦	自然	縄文式土器(深鉢)		
56	A3f1	N－90°－E	円形	0.57×0.54	80	緩斜	平坦	自然			
59	B3a5	N－64°－W	円形	1.30×1.21	59	緩斜	平坦	自然			
60	A3f2	N－36°－W	円形	1.00×1.00	33	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
66	A3j6	N－11°－E	隅丸長方形	2.52×1.05	57	急斜	平坦	不明	縄文式土器(深鉢)，土師器片		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
67	A3i8	N−101°−E	不定形	1.48 × 0.85	32	緩斜	平坦	自然	土師器（高坏）		227
68	A3i8	N−83°−E	楕円形	1.23 × 0.98	25	緩斜	平坦	人為			227
69	A3i6	N−2°−E	隅丸長方形	0.96 × 0.65	20	緩斜	平坦	不明			
74	A3g9	N−7°−W	楕円形	1.24 × 0.98	28	緩斜	平坦	不明			
77	A3h8	N−91°−E	楕円形	0.83 × 0.37	24	緩斜	平坦	人為			227
81	A3h7	N−0°	隅丸方形	1.20 × 1.00	25	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
82	B3a3	N−42°−E	円形	0.88 × 0.83	28	緩斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		
83	A3g6	N−0°	長方形	1.21 × 1.03	27	緩斜	平坦	人為			
106	A3g8	N−24°−W	円形	2.02 ×(1.53)	59	急斜	平坦	自然			
108	A4h2	N−80°−W	不明	(2.47)×(0.88)	7	緩斜	平坦	自然			
114	A3f8	N−90°−W	不明	[1.43]×(1.06)	20	緩斜	平坦	人為			
115	A4h1	N−64°−E	円形	0.82 × 0.78	64	急斜	平坦	不明			
116	B3a3	N−61°−W	不定形	1.29 × 0.96	25	緩斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		369
117	A3g8	N−63°−W	楕円形	0.68 × 0.58	79	急斜	平坦	人為			
119	A4f2	N−4°−W	不定形	3.64 × 1.20	22	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器（深鉢）		
121	A4g3	N−40°−W	楕円形	0.60 × 0.51	50	急斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
122	A3g0	N−12°−W	楕円形	1.10 × 0.72	31	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
124	A3f4	N−67°−E	楕円形	1.79 × 1.07	41	緩斜	平坦	不明			370
126	A3g6	N−8°−E	楕円形	1.37 × 1.13	27	緩斜	皿状	不明			
136	A3j8	N−0°	円形	1.13 × 1.00	75	緩斜	平坦	不明			
139	B3e3	N−74°−E	不整円形	1.95 × 1.82	42	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
140	B3e4	N−6°−E	不整長方形	3.10 × 2.19	107	急斜	皿状	人為	縄文式土器片		
141	B3e4	N−37°−E	不整円形	1.09 ×(1.04)	30	緩斜	皿状	自然			
142	B3e5	N−1°−W	楕円形	1.70 × 1.20	35	緩斜	皿状	人為	縄文式土器片		
144	B3d3	N−30°−W	楕円形	0.65 × 0.45	44	急斜	平坦	不明			
146	B3f1	N−25°−W	不定形	2.14 × 1.34	52	緩斜	皿状	人為	縄文式土器（深鉢）		
147	B3e4	N−50°−E	楕円形	0.93 × 0.70	15	緩斜	平坦	不明			
148	B3e5	N−21°−W	楕円形	1.52 ×[1.24]	35	緩斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢）		
149	B3d2	N−88°−E	不整楕円形	3.00 × 1.31	66	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片		
152	B3f7	N−0°	円形	1.05 × 1.00	46	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
153	B3f6	N−29°−E	円形	1.41 × 1.33	25	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
155	B3f6	N−79°−W	楕円形	1.53 × 1.29	43	緩斜	皿状	自然			
157	B3f9	N−84°−W	不定形	1.07 ×[0.80]	32	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
162	B3d6	N−82°−E	不定形	1.91 × 1.51	42	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片		
163	B3d7	N−77°−W	楕円形	0.95 × 0.61	39	緩斜	皿状	人為			
164	B3d7	N−24°−W	不定形	1.38 × 0.45	18	緩斜	皿状	人為	縄文式土器片，粘土		
165	B3e7	N−26°−W	隅丸長方形	2.66 × 1.56	28	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
168	B3d8	N−8°−W	楕円形	[1.78]× 1.74	97	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
173	B3f0	N−24°−E	不整楕円形	1.55 × 1.11	18	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
174	B3c9	N−9°−W	不整楕円形	0.83 × 0.64	51	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
177	B3d3	N−12°−W	隅丸方形	0.60 × 0.50	29	緩斜	平坦	不明			
178	B3f9	N−82°−W	不定形	0.74 × 0.49	32	急斜	凹凸	人為			
180	B3d6	N−0°	[長方形]	(2.00)× 1.35	100	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片		
181	B3d7	N−10°−W	円形	0.62 × 0.60	146	垂直	平坦	不明			
183	B3d7	N−20°−W	隅丸長方形	1.04 × 0.86	15	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		
188	B4a1	N−48°−E	円形	1.49 × 1.39	55	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
190	B3b6	N−77°−E	隅丸長方形	2.01 × 0.90	30	緩斜	平坦	人為			
192	A4j3	N−0°	円形	[0.40]×[0.40]	75	垂直	平坦	人為			
193	A4j3	N−53°−E	不定形	(1.02)×(0.77)	83	急斜	平坦	不明			
195	B4j6	N−86°−E	[不整長方形]	(3.20)× 1.20	30	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器（甕）		
196	B4j6	N−14°−E	不整円形	4.20 ×[4.00]	50	緩斜	皿状	人為	縄文式土器（深鉢）		
198	C4a2	N−41°−E	楕円形	(1.50)× 1.42	50	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
201	D5e4	N−83°−E	不明	1.78 ×(0.88)	25	緩斜	平坦	人為			
203	D5f3	N−36°−E	不整楕円形	1.54 × 1.45	22	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
205	E5f7	N−12°−E	隅丸長方形	2.42 × 1.52	25	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
206	E3g7	N−9°−E	不定形	3.20 × 2.70	22	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
207	E4a9	N−70°−W	不整楕円形	2.14 × 0.86	40	緩斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢），弥生式土器（壺）		
208	E4b5	N−66°−E	円形	[1.32]×[1.28]	28	緩斜	凹凸	人為			

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
209	E4b5	N−27°−W	不定形	[2.55]× 1.77	49	緩斜	凹凸	人為			
213	E3g7	N−20°−W	楕円形	0.84 × 0.70	26	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
215	E4b4	N−1°−W	不整円形	0.75 × 0.74	15	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢)		
217	E2a9	N−90°−W	不明	(1.77)×(1.52)	80	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢), 土師器(甕)		
218	E2b9	N−9°−E	隅丸長方形	1.48 × 1.32	21	急斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢), 弥生式土器(広口壺)		
220	E2c9	N−43°−E	楕円形	2.54 × 1.34	44	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
222	E3e8	N−65°−W	円形	1.10 × 1.05	50	急斜	皿状	不明			
227	F2f0	N−0°	楕円形	2.09 × 1.12	28	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片, 土師器(甕)		
232	E3h3	N−9°−W	不整円形	1.15 × 1.00	25	緩斜	平坦	人為			
233	E3i2	N−54°−E	不定形	1.30 × 1.19	40	緩斜	平坦	不明			
235	E3g3	N−0°	不整楕円形	(1.53)× 1.46	44	緩斜	平坦	自然			
237	E3f4	N−71°−E	不整方形	1.09 × 0.97	45	緩斜	平坦	不明			243
239	E3f4	N−25°−W	不整方形	1.23 × 1.04	51	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		377
247	E3c1	N−2°−W	不定形	2.78 ×(1.58)	60	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片, 土師器片		
249	E3g4	N−76°−W	不整楕円形	[3.92]× 2.79	−	−	−	自然	縄文式土器片, 土師器(高台付坏)		
251	E3f5	N−21°−E	不整円形	1.60 × 1.13	63	急斜	平坦	人為	縄文式土器片, 土師器片		
253	E3f5	N−50°−W	不整円形	1.18 × 1.08	62	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		
254	E3e5	N−50°−W	不定形	1.25 ×(0.73)	76	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
255	E3f6	N−14°−E	隅丸長方形	2.53 × 1.70	45	急斜	平坦	自然			
263	D3j2	N−12°−W	不定形	1.36 × 0.73	52	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(浅鉢)		
266	D3i2	N−47°−E	不定形	1.66 × 1.50	20	緩斜	平坦	不明			
270	E3h8	N−80°−E	不定形	2.37 × 1.97	65	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢)		
280	D3c5	N−88°−W	方形	2.74 × 2.64	−	−	−	−	土師器(坏)		
281	D3i3	N−16°−E	楕円形	0.94 × 0.58	20	緩斜	平坦	自然			
286	D3e2	N−60°−W	隅丸長方形	2.20 × 0.78	80	緩斜	平坦	不明			383
294	E3c4	N−21°−E	隅丸方形	1.35 × 1.07	24	急斜	皿状	人為			
298	D4c8	N−47°−W	不整円形	1.11 × 0.93	7	緩斜	平坦	不明			
299	E3d4	N−92°−W	[楕円形]	[1.70]×(1.38)	59	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片, 須恵器(坏)		
303	D3j6	N−88°−W	隅丸長方形	(2.40)× 1.30	36	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
304	D3f4	N−40°−W	不整楕円形	1.38 × 0.92	26	緩斜	やや凹凸	不明			
311	E3d7	N−60°−E	隅丸方形	1.76 ×(1.04)	57	緩斜	平坦	不明			
314	E3e4	N−84°−E	隅丸方形	1.28 ×(1.05)	34	緩斜	皿状	不明	縄文式土器片, 埴輪片		
317	D3e9	N−32°−E	隅丸長方形	3.28 × 1.58	64	緩斜	平坦	自然	縄文式土器(有孔土器), 土師器(椀・壺)		
319	D4c2	N−67°−W	不整長方形	3.00 × 1.50	42	緩斜	凹凸	人為			
324	E4i7	N−33°−E	不整円形	2.33 × 2.30	12	緩斜	凹凸	人為			
336	E4f4	N−13°−E	隅丸長方形	1.97 × 1.83	72	急斜	平坦	不明			
339	E4h4	N−0°	不整円形	3.24 × 3.13	26	緩斜	平坦	人為			
342	D5h3	N−7°−W	隅丸方形	0.95 × 0.83	46	急斜	平坦	人為			
343	E4a1	N−52°−E	楕円形	2.96 × 1.63	125	急斜	平坦	不明			
348	E6a2	N−70°−E	楕円形	1.40 × 1.20	63	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
349	D6i4	N−47°−E	不整円形	1.43 × 1.26	24	緩斜	やや凹凸	自然	縄文式土器(把手)		
350	D6i5	N−35°−E	円形	1.58 ×(1.13)	48	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
352	E6a3	N−76°−W	隅丸長方形	2.03 × 1.38	77	緩斜	平坦	不明			
354	D6j2	N−24°−E	[方形]	[2.18]×(1.52)	12	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		
365	D3h3	N−14°−W	不整円形	1.10 × 1.07	91	急斜	平坦	人為			
402	B4e7	N−13°−E	方形	2.70 × 2.68	34	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
410	B4d4	N−61°−E	円形	1.03 × 0.91	68	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
411	B4b0	N−11°−W	円形	1.40 ×(0.85)	55	急斜	平坦	自然	縄文式土器(深鉢)		
413	B4d4	N−29°−E	不整楕円形	1.91 × 1.43	40	急斜	平坦	自然	縄文式土器(深鉢)		
417	B4d5	N−60°−E	不整方形	2.47 × 2.24	19	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
419	B4d6	N−18°−W	不整方形	2.10 ×(1.30)	32	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
420	B4c4	N−32°−E	不整楕円形	[2.10]× 1.30	50	緩斜	平坦	人為	縄文式土器(深鉢)		
425	B4c0	N−13°−W	不整楕円形	[1.86]× 0.97	68	緩斜	平坦	自然			
426	B4f1	N−40°−W	円形	1.00 × 0.96	22	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
431	A4j3	N−89°−E	[長方形]	(2.33)× 0.56	50	急斜	平坦	不明			
432	B4h2	N−1°−E	楕円形	1.17 × 1.04	47	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
433	B4c2	N−72°−E	楕円形	1.72 × 1.46	53	急斜	皿状	人為	縄文式土器片, 土師器片		
435	B3f1	N−55°−W	不整楕円形	1.72 × 1.52	102	急斜	皿状	自然	土師器(坩)		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
436	B4b3	N−79°−E	楕円形	1.90 ×[1.75]	56	緩斜	皿状	自然	縄文式土器（深鉢）		
437	B4c2	N−47°−W	楕円形	1.54 × 1.20	35	急斜	皿状	人為	縄文式土器片		
440	B4d4	N−3°−E	楕円形	(0.60)× 0.40	35	急斜	平坦	人為			
443	B3c9	N−8°−W	不整円形	0.59 × 0.58	104	急斜	平坦	自然			
445	B4i6	N−88°−E	不定形	0.86 × 0.56	10	緩斜	平坦	不明			
446	B3f4	N−26°−E	楕円形	0.97 × 0.78	34	緩斜	平坦	人為			
448	B3e4	N−63°−W	楕円形	0.49 × 0.45	130	急斜	平坦	人為			
450	C2f0	N−1°−W	[方形]	2.12 ×(1.25)	25	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
452	D3f0	N−32°−W	楕円形	1.82 ×(1.18)	34	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		249
453	D3b0	N−6°−W	円形	1.98 × 1.46	43	緩斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		
454	D3f0	N−44°−W	楕円形	0.68 × 0.64	29	急斜	平坦	人為			249
455A	C2g0	N−0°	円形	2.13 ×(1.46)	126	急斜	平坦	自然			
456	C2h0	N−2°−E	[方形]	2.23 ×(1.78)	33	急斜	凹凸	不明	縄文式土器（深鉢）		
457	C2a0	N−2°−E	長方形	0.84 ×(0.40)	55	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
458	C3d1	N−34°−E	楕円形	1.00 × 0.80	24	急斜	2段	人為	縄文式土器（深鉢）		
459	C3f1	N−53°−W	円形	0.76 × 0.72	21	緩斜	平坦	人為			
462	C3g1	N−71°−W	不整円形	1.13 × 1.00	50	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
463	C3h1	N−32°−W	不整楕円形	1.45 × 0.63	16	緩斜	平坦	人為			
465	C3f2	N−68°−W	不整円形	1.10 × 1.01	59	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
466	C3f2	N−25°−W	不整円形	1.16 × 1.01	50	急斜	平坦	自然			
469	C3e2	N−5°−E	不整長方形	[1.27]×[0.96]	40	急斜	やや凹凸	人為	縄文式土器（深鉢）		
470	D4e1	N−87°−E	楕円形	2.80 × 2.02	64	急斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢）		
471	D3d0	N−0°	不整円形	1.52 × 1.44	32	緩斜	平坦	不明			
480	D4f1	N−4°−E	不整楕円形	1.54 × 1.20	30	緩斜	2段	人為			
481	C3h2	N−42°−W	隅丸方形	0.98 × 0.97	78	急斜	平坦	人為	縄文式土器片，陶器		
483	C3h2	N−69°−W	円形	[0.91]×[0.87]	143	袋状	平坦	不明	縄文式土器（深鉢），土師器（坏）		
487	C3h1	N−77°−E	長方形	(1.97)× 1.57	21	緩斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢），土師器（台付甕）		
488	C3e4	N−9°−E	楕円形	1.26 × 1.10	60	緩斜	2段	人為	縄文式土器片		
489	C3i3	N−16°−E	円形	1.75 × 1.73	32	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		465
492	C3i4	N−0°	隅丸長方形	1.83 × 1.38	16	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
493	C3j5	N−10°−E	隅丸方形	2.01 × 2.00	30	緩斜	やや凹凸	人為	縄文式土器（深鉢），土師器（坏・高台付坏）		
494	C3h5	N−10°−W	楕円形	2.17 × 1.03	25	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
495	C3h6	N−57°−E	円形	1.12 × 1.07	24	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
496	C3j5	N−12°−E	方形	1.56 × 1.48	32	緩斜	平坦	人為			
497	C3h2	N−0°	楕円形	0.50 × 0.44	63	急斜	平坦	不明			
498	C3h1	N−47°−E	円形	0.85 ×[0.75]	45	急斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
501	C3h8	N−66°−E	円形	1.41 × 1.40	22	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片，土師器（坏）		
502	C3h9	N−31°−W	円形	1.14 × 1.05	15	緩斜	平坦	人為			
505	C3g5	N−16°−W	隅丸長方形	3.18 × 2.24	88	緩斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢），土師器片，須恵器（坏）		229
508	C3b2	N−5°−W	円形	1.21 × 1.20	44	急斜	平坦	人為			373
513	C4f2	N−8°−W	不整円形	1.21 × 0.76	54	緩斜	皿状	人為	縄文式土器片		
515	B4i4	N−0°	長方形	1.20 × 0.58	12	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		232
516	B4j5	N−21°−E	円形	0.86 × 0.74	42	急斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢・ミニチュア土器）		
519	B4h2	N−1°−W	隅丸長方形	2.17 × 0.76	60	急斜	平坦	不明	縄文式土器片		
520	B4e8	N−37°−W	楕円形	0.76 × 0.64	38	緩斜	平坦	自然			
521	B4e8	N−58°−E	隅丸長方形	0.98 × 0.71	40	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
527	C3c3	N−80°−E	不整長方形	1.30 × 0.90	21	緩斜	やや凹凸	自然	縄文式土器（深鉢）		
528	C2c0	N−0°	不整方形	1.45 × 1.30	45	急斜	皿状	人為	縄文式土器片		
529	C3c1	N−0°	不整円形	1.45 × 1.37	21	急斜	平坦	人為	縄文式土器片，陶器（甕）		
537	C4a1	N−33°−W	隅丸長方形	2.10 × 1.36	18	緩斜	皿状	人為	土師器（甕）		
539	C4d1	N−17°−E	楕円形	2.99 × 2.18	91	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
543	C3g6	N−4°−W	方形	1.74 × 1.57	55	急斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢），土師器（高台付坏・高坏），須恵器（甕）		
545	B4i8	N−68°−E	楕円形	[1.18]× 1.00	53	急斜	平坦	自然			
546	B4i8	N−47°−E	楕円形	[1.24]× 0.97	25	緩斜	平坦	自然			
549	C4c7	N−51°−E	不整楕円形	1.12 × 0.71	17	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
550	C4b7	N−55°−E	隅丸長方形	1.10 × 0.85	16	緩斜	平坦	人為			
554	C4d7	N−46°−W	円形	0.97 × 0.90	17	緩斜	皿状	自然			
555A	C4b7	N−2°−E	長方形	2.44 × 0.75	34	緩斜	平坦	人為			

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
564	F1c0	N−27°−E	楕円形	0.84 × 0.70	102	垂直	平坦	自然	縄文式土器片		
567	F2g0	N−79°−E	不定形	3.31 × 1.66	44	緩斜	凹凸	不明	縄文式土器（深鉢・把手・注口土器），弥生式土器（壺），土師器（坩・器台）		
568	F1d0	N−50°−W	不整楕円形	2.00 × 1.10	64	急斜	凹凸	自然	縄文式土器片		
569	F2c1	N−46°−E	円形	0.51 × 0.45	44	緩斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢）		
570	F2c1	N−85°−W	楕円形	[1.85]× 0.84	31	急斜	平坦	不明	縄文式土器（鉢）		
571	F1d0	N−2°−W	不整楕円形	1.60 × 1.10	90	急斜	凹凸	自然	縄文式土器（器台形土器・口縁部飾り）		
573	F1b0	N−11°−E	不定形	1.65 × 1.15	27	急斜	凹凸	不明	縄文式土器片		
578	F2f0	N−43°−E	不整楕円形	1.47 × 1.04	52	急斜	平坦	不明	縄文式土器片		
581	F1f6	N−21°−E	楕円形	1.37 × 1.25	30	垂直	平坦	人為			
582	F1a8	N−40°−E	円形	1.55 ×[1.35]	70	急斜	平坦	不明		SK583と重複	
583	F1b8	N−42°−E	楕円形	1.60 × 1.42	60	垂直	平坦	不明	縄文式土器片	SK582と重複	
587	F1e8	N−59°−W	円形	1.64 ×(1.08)	31	緩斜	皿状	自然	須恵器（坏）		
588	F2c5	N−11°−E	隅丸長方形	3.47 × 2.24	55	急斜	平坦	自然	縄文式土器(深鉢・ミニチュア土器)，弥生式土器（壺）		
593	F2f5	N−21°−E	方形	2.53 × 2.29	15	緩斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
594	F2f5	N−0°	楕円形	2.84 × 1.32	71	急斜	平坦	人為	縄文式土器（深鉢），弥生式土器（高坏），須恵器（高台付坏）		
597	F2h0	N−6°−E	不整楕円形	3.04 × 2.36	32	急斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		
598	F2f9	N−30°−E	円形	1.55 ×(1.14)	50	急斜	平坦	不明	縄文式土器（把手），土師器（坏・高台付坏），須恵器（坏）		
606	F2e3	N−1°−E	不整長方形	1.22 × 1.02	53	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
609	F2g2	N−2°−E	円形	1.10 × 1.00	50	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
611	F2c8	N−75°−W	[方形]	(0.78)×(0.59)	44	急斜	平坦	自然			
614	F2g2	N−53°−W	楕円形	2.50 × 1.60	45	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
616	F2h8	N−59°−E	隅丸長方形	1.52 × 1.30	16	緩斜	平坦	自然			
618	F2f2	N−90°−W	不定形	[2.72]×[1.98]	18	緩斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
620	F2h9	N−22°−W	不整円形	1.38 × 1.19	97	急斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		
621	F2h9	N−38°−W	楕円形	1.82 × 1.28	120	急斜	平坦	自然	縄文式土器（深鉢）		
635	F1a8	N−20°−E	円形	1.39 × 1.32	77	垂直	平坦	自然	土師質土器		
638	F1a9	N−75°−W	[方形]	0.85 × 0.60	95	垂直	平坦	自然			
654	F2e9	N−31°−E	楕円形	2.60 × 2.32	92	急斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢），土師器（高台付坏）		
655	F2e8	N−0°	[円形]	[1.25]×[1.25]	13	不明	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
657	F2g3	N−33°−W	楕円形	(1.70)×(0.80)	35	急斜	平坦	不明	縄文式土器片		
658	F2f9	N−55°−E	隅丸長方形	2.65 × 1.45	50	緩斜	平坦	不明	縄文式土器（深鉢）		
659A	F2g9	N−31°−W	不定形	2.60 × 1.23	69	急斜	平坦	不明			
670	F1g8	N−38°−E	楕円形	1.71 × 1.10	20	緩斜	平坦	自然			
673	F3i6	N−2°−W	長方形	1.45 × 0.93	92	垂直	平坦	不明	縄文式土器片		
674	F3i6	N−18°−E	楕円形	1.36 × 1.22	46	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
679	F3c3	N−0°	円形	2.64 × 2.47	104	袋状	平坦	自然	縄文式土器片		
686	F3d3	N−53°−W	楕円形	1.32 ×[1.11]	20	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
694	F4h4	N−82°−E	不整楕円形	3.86 × 1.57	67	緩斜	皿状	自然	縄文式土器（深鉢）		
701	F3d5	N−78°−E	楕円形	1.00 × 0.85	47	急斜	平坦	不明	縄文式土器片		
710	F3f8	N−80°−E	不整円形	1.64 × 1.55	29	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
741	F3e7	N−5°−E	不整長方形	1.22 × 1.04	38	急斜	平坦	人為			
748	F3a6	N−90°−E	不整円形	0.84 × 0.78	158	急斜	平坦	不明			
756A	F4c9	N−88°−W	不定形	[3.36]× 3.00	65	緩斜	平坦	自然			
774	F4h1	N−0°	円形	1.90 × 1.70	109	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
839	E5d3	N−5°−E	隅丸長方形	[3.44]× 1.85	15	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
863	E5b4	N−38°−W	円形	1.40 × 1.34	65	急斜	平坦	人為			
865	E5a4	N−67°−W	円形	1.10 × 1.05	37	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
866	E5a4	N−32°−W	不定形	2.03 × 1.88	57	急斜	皿状	人為	縄文式土器片		
877	E4e0	N−24°−W	円形	1.55 × 1.52	40	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
880B	C3a5	N−90°−E	不整円形	1.80 × 1.53	91	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
881	B3i6	N−7°−W	隅丸長方形	3.16 × 1.90	111	2段	平坦	人為	縄文式土器片		
895	B3i9	N−28°−W	隅丸長方形	2.75 × 1.60	21	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
897	B3g7	N−5°−W	不整長方形	3.63 × 1.63	81	急斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
898	B3g7	N−50°−W	不整楕円形	1.83 × 1.61	51	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
899	B3f8	N−3°−E	不整長方形	3.36 × 2.93	128	急斜	凹凸	人為	縄文式土器片		
907	E6e8	N−55°−W	楕円形	2.17 × 1.68	47	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		255
908	F6g7	N−87°−W	不定形	1.56 × 0.60	23	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片		

表28　その他のB地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
6	C7a4	N−81°−W	不整隅丸長方形	1.16 × 0.76	53	緩斜	平坦	人為			
7	C7j4	N−74°−W	楕円形	0.74 × 0.56	36	緩斜	平坦	不明			
8	C7j4	N−74°−W	楕円形	1.19 × 0.45	33	緩斜	平坦	不明			
9	C8c2	N−21°−E	隅丸長方形	1.70 × 0.74	38	緩斜	平坦	不明			

表29　その他のC地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
2	G9h3	N−76°−E	楕円形	(1.30)× 0.90	33	急斜	平坦	人為	土師器片		
4	G8c9	N−58°−W	不整円形	2.64 × 2.52	23	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片		
5	G9c9	N−9°−W	不整長方形	1.66 × 1.18	13	緩斜	平坦	自然			
6	G9c8	N−62°−E	不定形	1.66 × 1.46	15	緩斜	平坦	不明			
7	G9f0	N−32°−W	[楕円形]	0.93 ×(0.42)	18	急斜	平坦	人為			
8	F8i6	N−32°−W	不整楕円形	1.15 × 1.00	92	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
9	F8h5	N−59°−E	不整長方形	1.17 × 0.84	37	緩斜	やや凹凸	人為	土師器片		
10	F8h5	N−41°−E	不定形	1.51 × 1.27	17	緩斜	平坦	人為			
11	F8h5	N−26°−E	不整円形	0.89 × 0.77	71	緩斜	平坦	人為			
12	G9h3	N−85°−W	円形	0.58 × 0.52	68	急斜	平坦	人為	縄文式土器片		
13	G9i4	N−56°−E	円形	0.60 × 0.53	48	急斜	平坦	人為			
14	G9h3	N−47°−W	楕円形	0.68 × 0.33	12	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片		
17	G8a0	N−7°−W	不整隅丸長方形	2.01 × 1.62	31	緩斜	平坦	不明	土師器片		
18	G9a1	N−21°−W	不整長方形	1.86 × 1.40	25	緩斜	平坦	不明	縄文式土器片，土師器片		
19	F8g8	N−45°−W	不整楕円形	0.48 × 0.38	26	急斜	平坦	自然	縄文式土器片		
20	F8g8	N−53°−W	不整楕円形	0.39 × 0.35	16	急斜	平坦	自然			

表30　その他のD地区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
2	J12j5	N−77°−W	楕円形	2.00 × 1.70	35	急斜	平坦	人為	土師器片		280
3	J12i4	N−19°−W	楕円形	0.97 × 0.73	98	垂直	平坦	自然	土師器片		367
4	J12i3	N−62°−E	不整円形	1.53 × 1.44	108	垂直	平坦	自然			367
8	J11c9	N−0°	隅丸方形	1.30 × 1.20	60	急斜	平坦	人為	土師器片		
9	J11e8	N−24°−W	楕円形	1.30 × 0.65	18	緩斜	凹凸	自然			
10	J11c7	N−70°−E	楕円形	0.90 × 0.50	25	緩斜	平坦	不明			
12	J12h2	N−33°−W	円形	0.95 × 0.95	70	袋状	平坦	人為	土師器片		368
13	J12i3	N−40°−W	[楕円形]	1.85 ×(0.70)	70	緩斜	平坦	人為	土師器片		
14	J12g1	N−13°−W	長方形	2.10 × 1.10	22	緩斜	平坦	人為			
16	J12g2	N−45°−W	長方形	2.20 × 0.85	30	緩斜	平坦	不明			
17	J11d0	N−77°−E	[楕円形]	[1.41]× 0.90	48	急斜	平坦	人為			
18	J11d0	N−51°−E	隅丸長方形	0.94 × 0.64	32	緩斜	平坦	不明			
19	J12i4	N−20°−W	長方形	1.06 × 0.94	73	急斜	平坦	自然			367
20	J12i4	N−74°−W	方形	0.84 × 0.80	42	緩斜	凹凸	自然			367
21	J12i3	N−0°	円形	0.82 × 0.82	73	垂直	平坦	不明			367
22	J12j3	N−28°−E	楕円形	0.66 × 0.57	78	垂直	平坦	人為			367

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
23	K12a4	N－8°－E	円形	1.10 × 1.04	117	垂直	平坦	人為			367
24	J11c8	N－47°－W	隅丸長方形	1.55 × 0.90	55	緩斜	平坦	人為			

3　溝

当遺跡から確認された溝で，時期の明確にできなかったものについては，一覧表に示すことにする。

表31　その他のA地区溝一覧表

溝番号	位置	長径方向(長軸方向)	断面	規模（m） 長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
7	B3～B4	N－77°－E	逆台形状	28.56	1.10	0.76	0.76	急斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器片，瓦		467
12	C4	－	皿状	(14.0)	1.41	1.05	0.13	緩斜	凹凸	自然	土師器（手捏土器），縄文式土器片		467
13	C4	N－80°－E	皿状	(20.1)	0.66	0.59	0.12	緩斜	平坦	自然	須恵器(短頸壺)，土師器(片口土器)，縄文式土器片		467
15	C4	N－63°－E	逆台形状	4.50	0.65	1.80	0.15	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器片		467
19	D3	N－4°－E	皿状	(41.6)	0.84	0.34	0.17	緩斜	平坦	自然			467
20	D5	N－86°－E	皿状	(3.8)	0.5	0.4	0.05	緩斜	平坦	自然			
25	E3～E4	N－89°－W	皿状	(3.4)	0.55	0.38	0.15	緩斜	平坦	自然			467
26	E2	N－30°－E	皿状	51.2	1.02	0.7	0.10	緩斜	平坦	自然			468
31	D4～D	N－94°－E	逆台形状	21.5	1.55	0.60	0.54	緩斜	平坦	自然	土師器片，埴輪片，磨石		468
33	E4	N－61°－W	皿状	[12.2]	0.82	0.50	0.14	緩斜	平坦	自然	土師質土器（皿），縄文式土器片，土師器片，埴輪片		468
35	E3～F3	N－45°－W	皿状	(2.6)	0.86	0.47	0.40	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器片		469
36	E4	N－50°－E	皿状	15.37	0.50	0.20	0.88	急斜	平坦	自然	土師器片，埴輪片，瓦		469
37	D3	N－5°－E	皿状	(42.0)	0.38	0.19	0.20	緩斜	平坦	自然			469
43	D5～E5	－	皿状	[28.0]	1.74	1.30	0.44	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片，土師器片，埴輪片		
44	F1	N－13°－E	皿状	8.60	2.60	2.10	0.36	緩斜	凹凸	自然	土師器（坩・甕・高台付坏），縄文式土器片		469
47	E5	N－52°－W	皿状	35.0	0.95	0.75	0.15	緩斜	平坦	自然			469

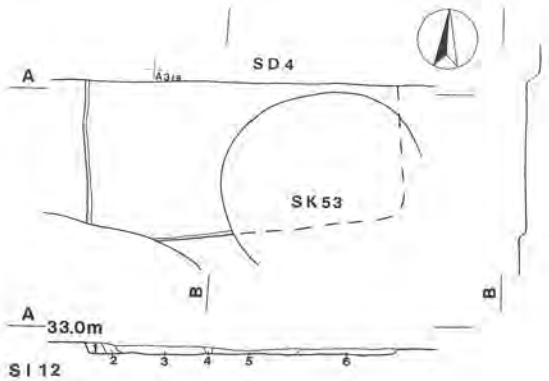
表32　その他のB地区溝一覧表

溝番号	位置	長径方向(長軸方向)	断面	規模（m） 長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
2	C7	N－74°－W	皿状	(4.60)	0.80	0.70	0.12	急斜	平坦	自然	須恵器片	本跡→SI2・SB1	

表33　その他のD地区溝一覧表

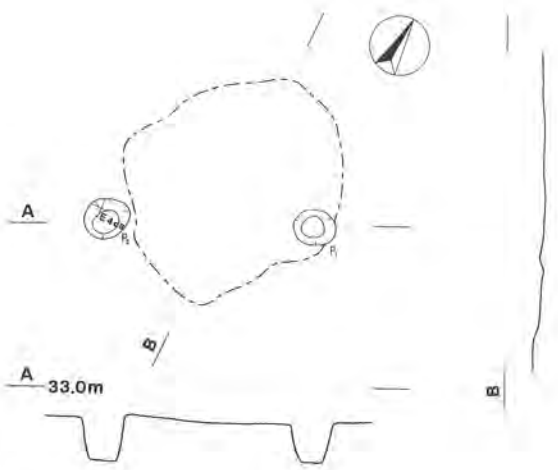
溝番号	位置	長径方向(長軸方向)	断面	規模（m） 長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
1	J11	N－7°－W	逆台形状	(8.4)	0.95	0.50	0.60	急斜	平坦	自然	土師器（盤・ミニチュア土器），須恵器片	SI10・SK17→本跡→SK6	429

その他

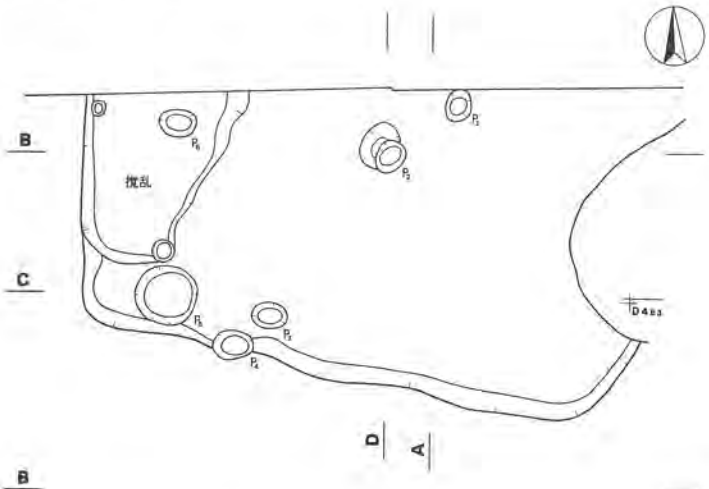


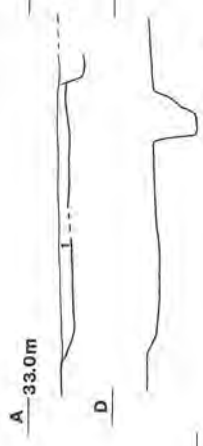
SI12

第12号住居跡土層解説
1 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子微量
2 褐 色 ローム粒子中量 炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム小ブロック少量 炭化粒子微量
4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

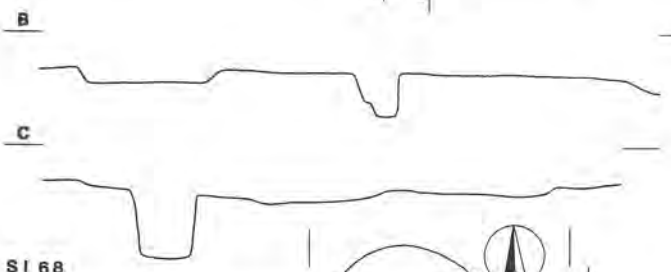


SI54

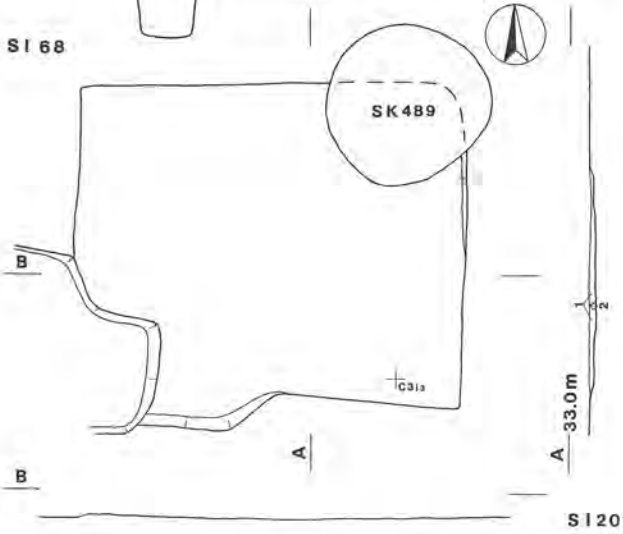




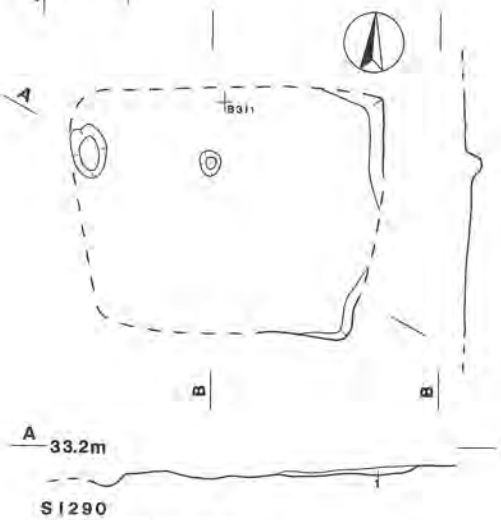
第68号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い



SI68



SI201

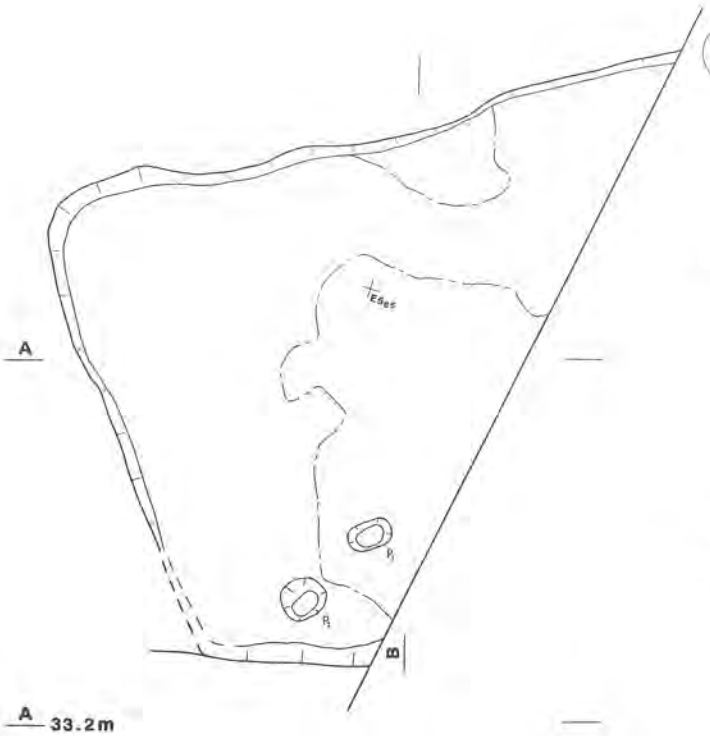


SI290

第201号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子微量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子中量 粘性弱い

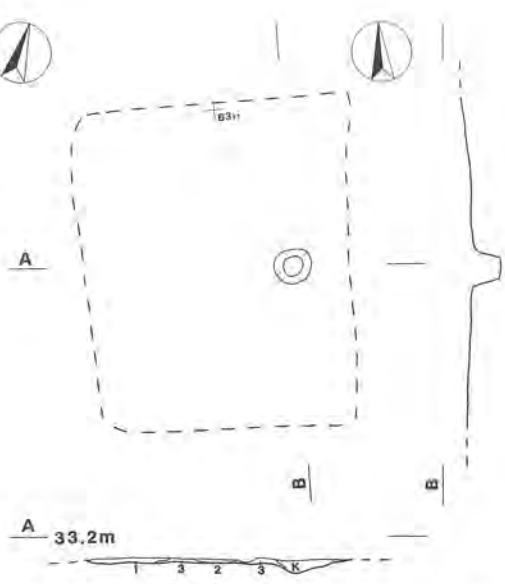
第290号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 粘性弱い

第465図　第12・54・68・201・290号住居跡



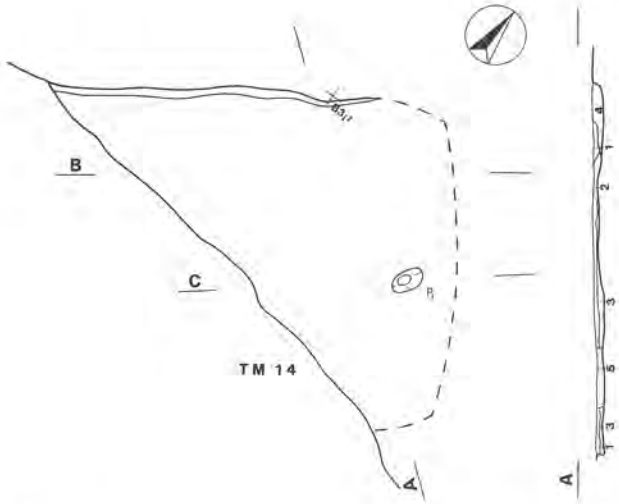
SI 285

第285号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 粘性弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 粘性弱い

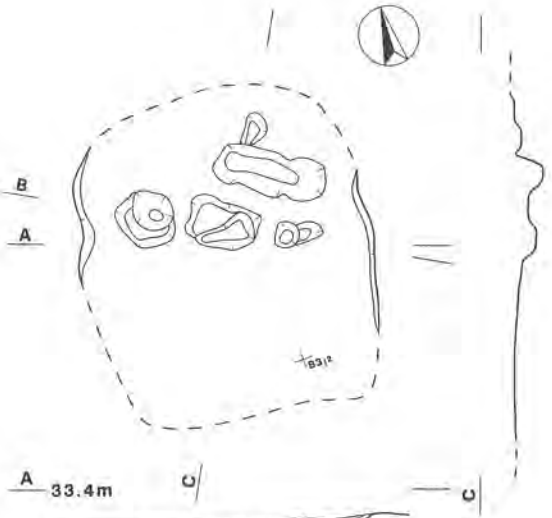


SI 291

第291号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 焼土粒子微量 粘性締まり弱い
2 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量
3 褐 色 ローム粒子中量 締まり弱い



SI 297

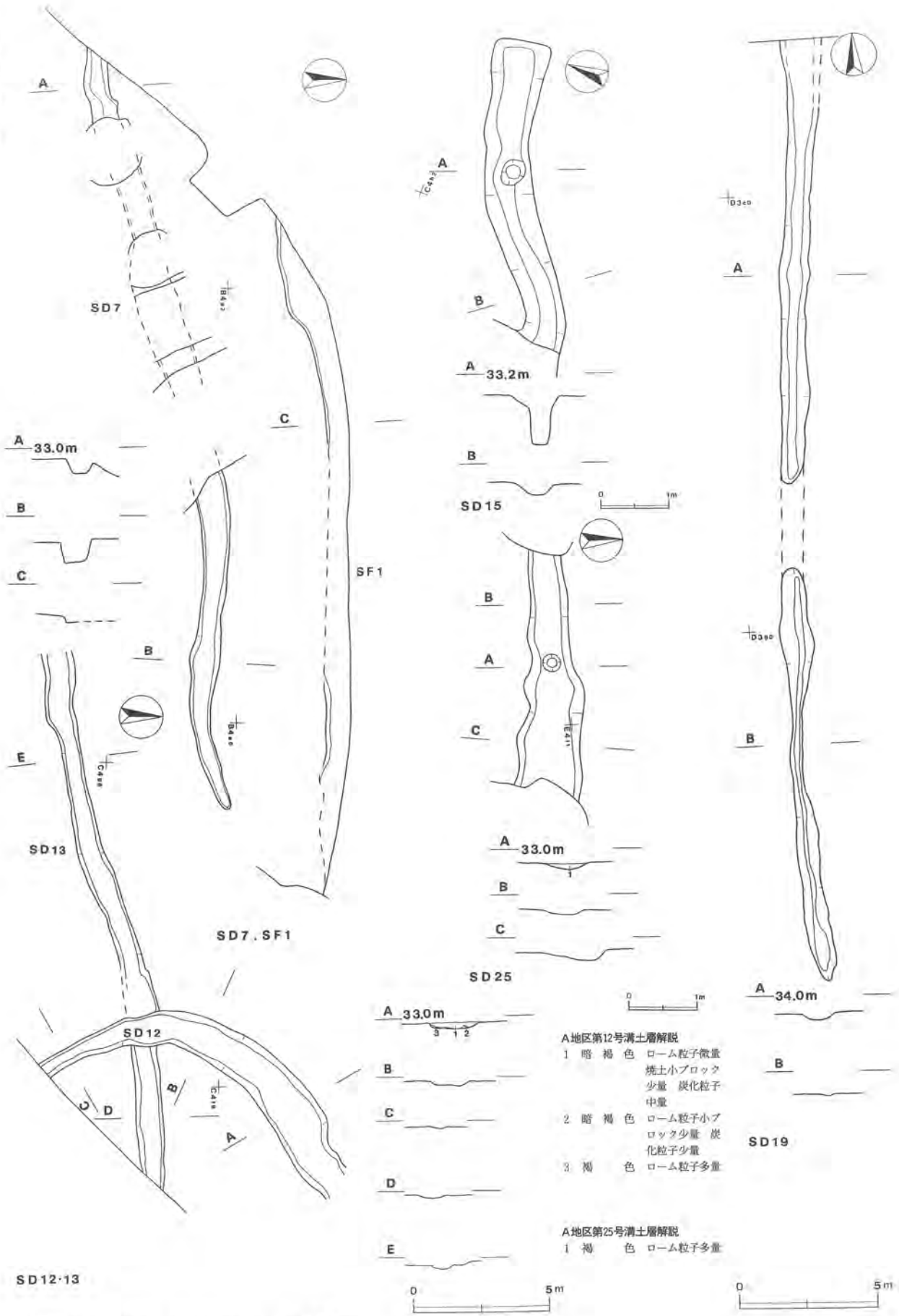


SI 292

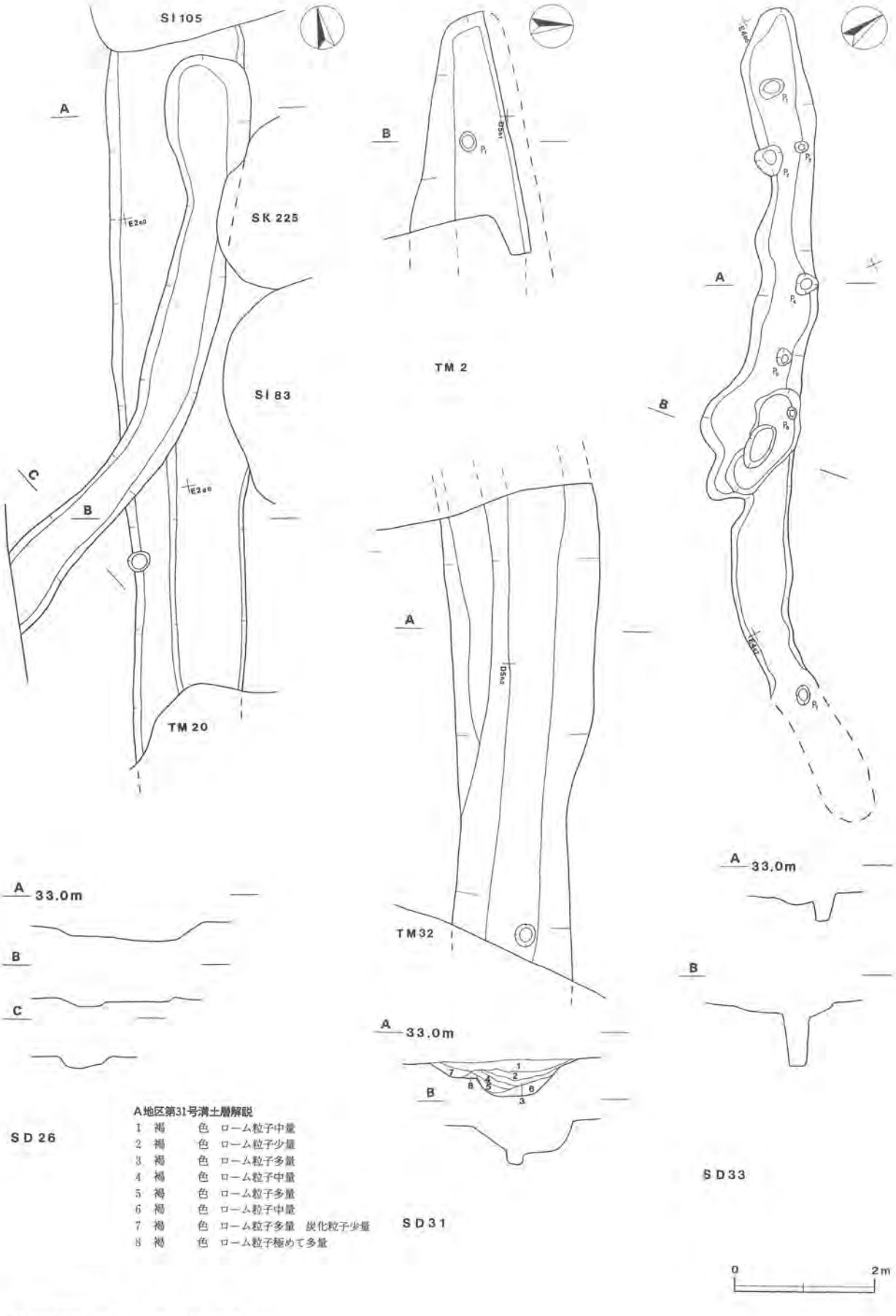
第292号住居跡土層解説
1 黒 褐 色 焼土粒子微量 粘性締まり弱い
2 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性締まり弱い
3 暗 褐 色 ローム粒子少量 粘性弱い
4 暗 褐 色 ローム粒子少量 炭化物微量 粘性弱い
5 暗 褐 色 ローム粒子微量

第297号住居跡土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子中量 ローム小ブロック少量 焼土粒子微量

第466図 第285・291・292・297号住居跡



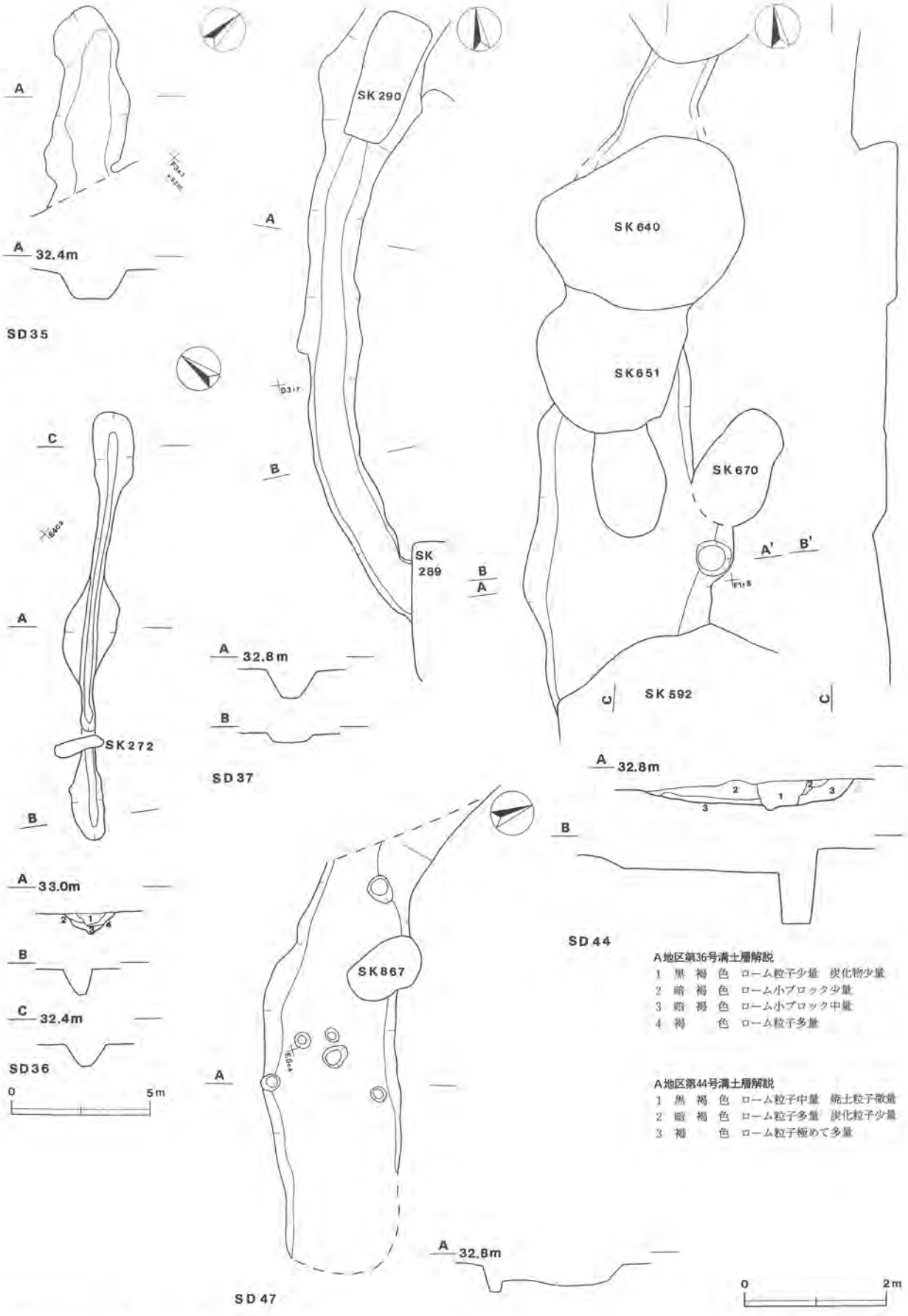
第467図　第7・12・13・15・19・25号溝



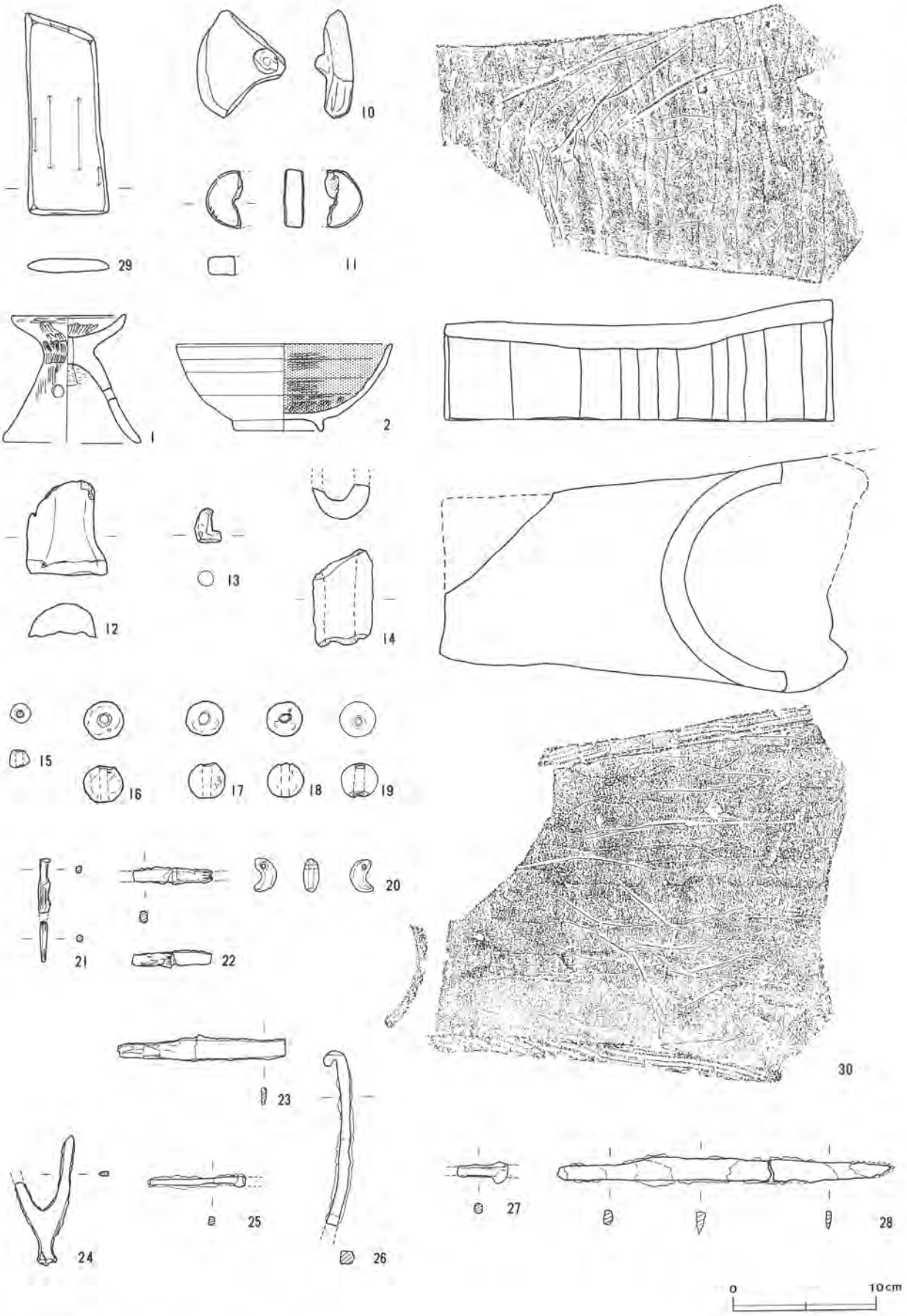
A地区第31号溝土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子多量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子多量
6 褐 色 ローム粒子中量
7 褐 色 ローム粒子多量 炭化粒子少量
8 褐 色 ローム粒子極めて多量

第468図 第26・31・33号溝

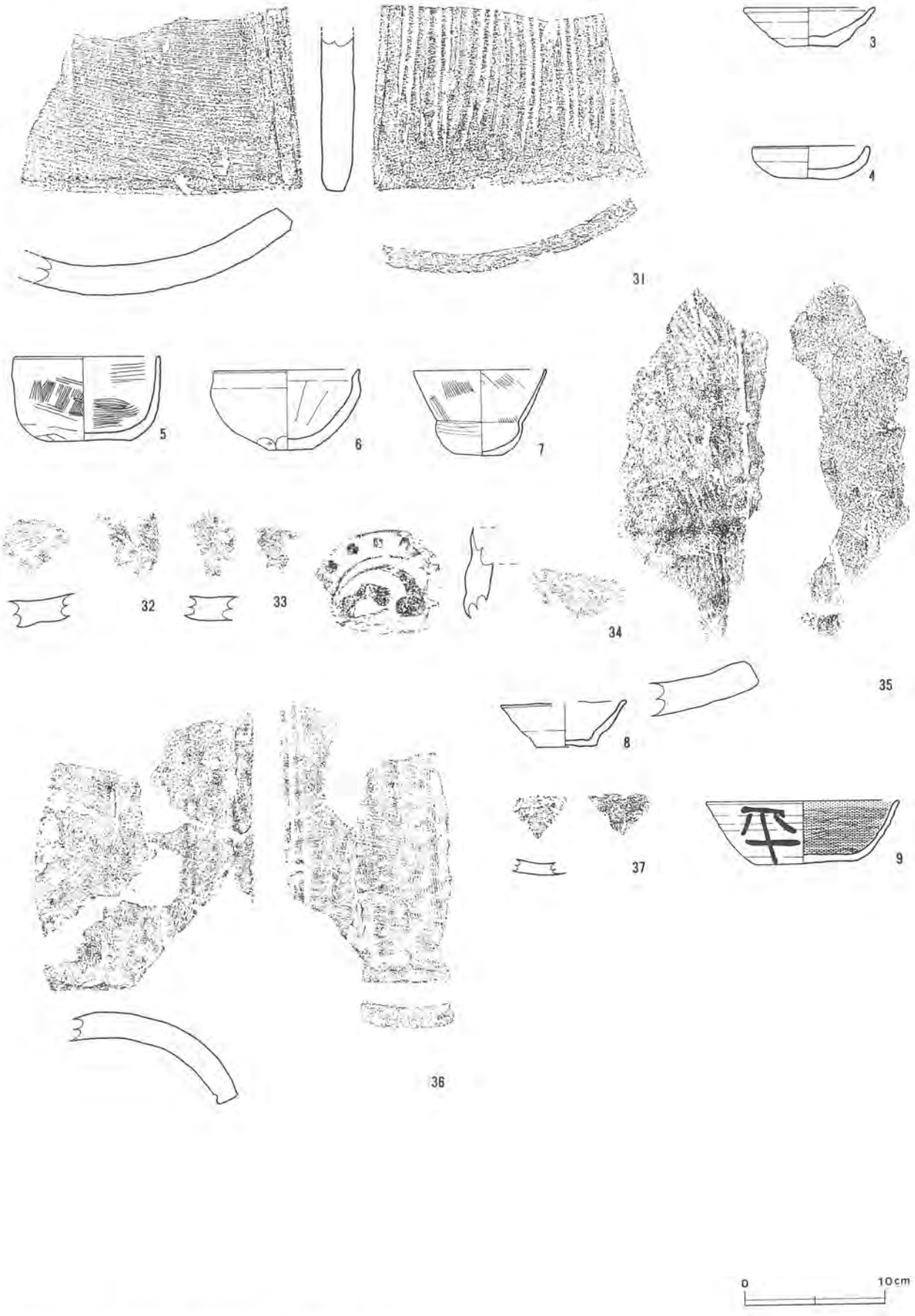


第469図　第35・36・37・44・47号溝

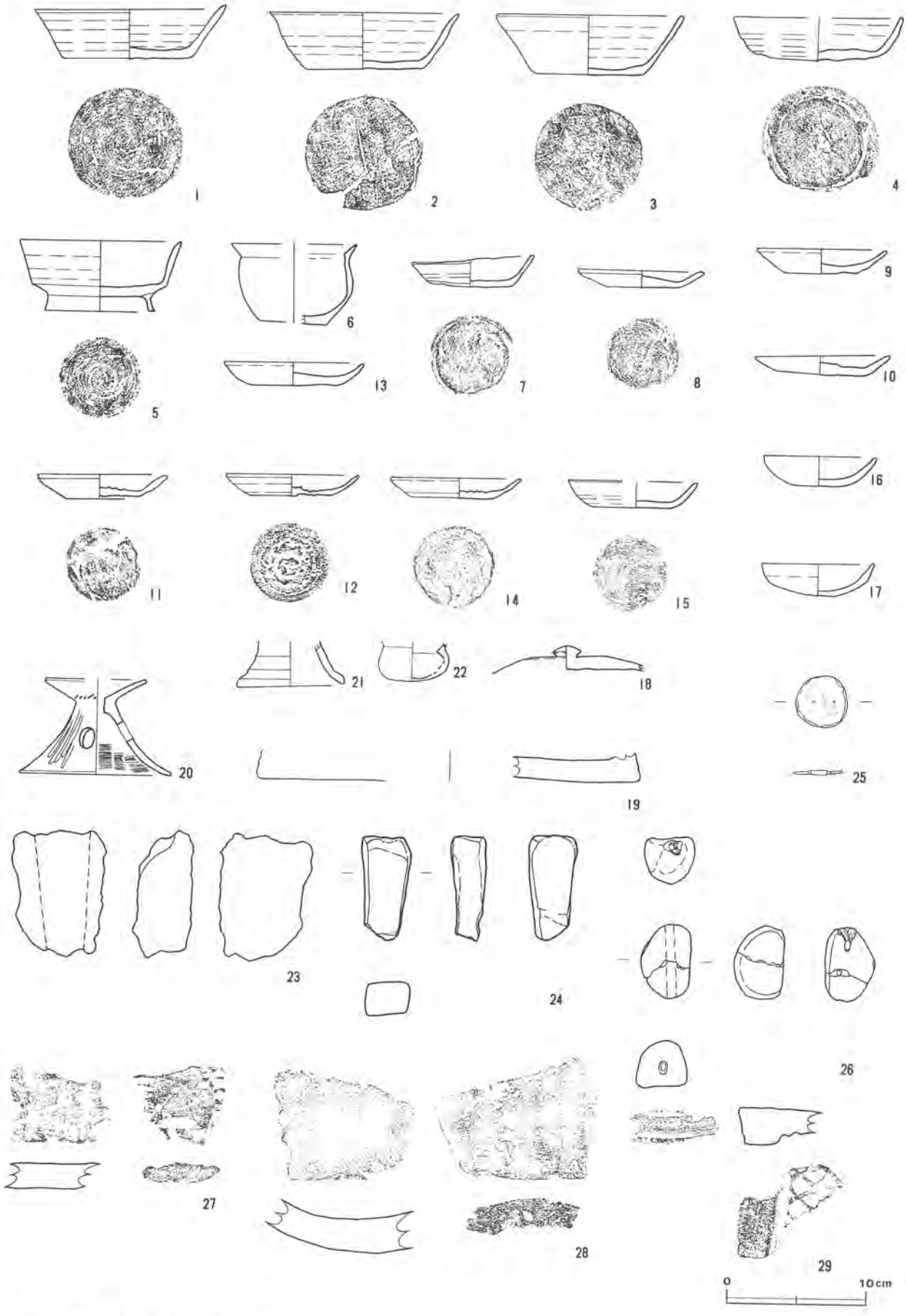


第470図　時期不明遺構外出土遺物(1)

その他

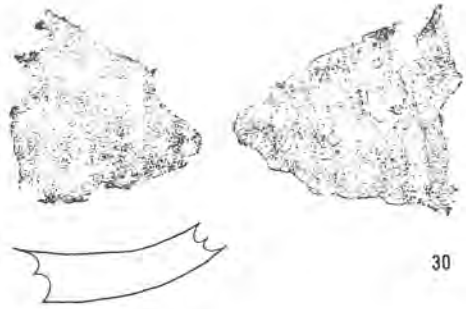


第471図　時期不明遺構外出土遺物(2)

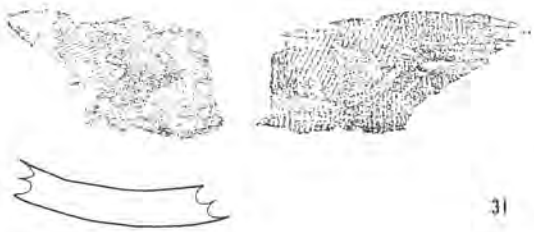


第472図　遺構外出土遺物(1)

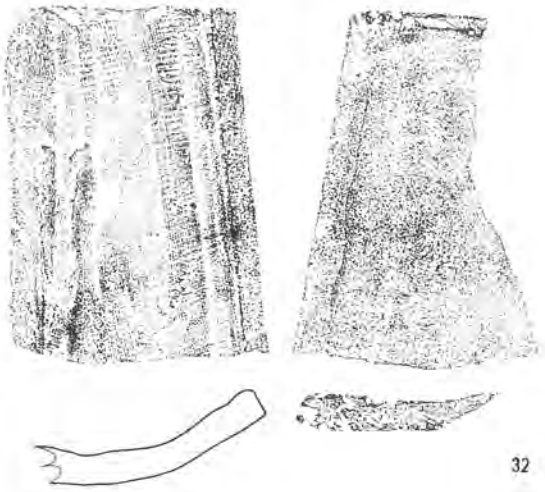
その他



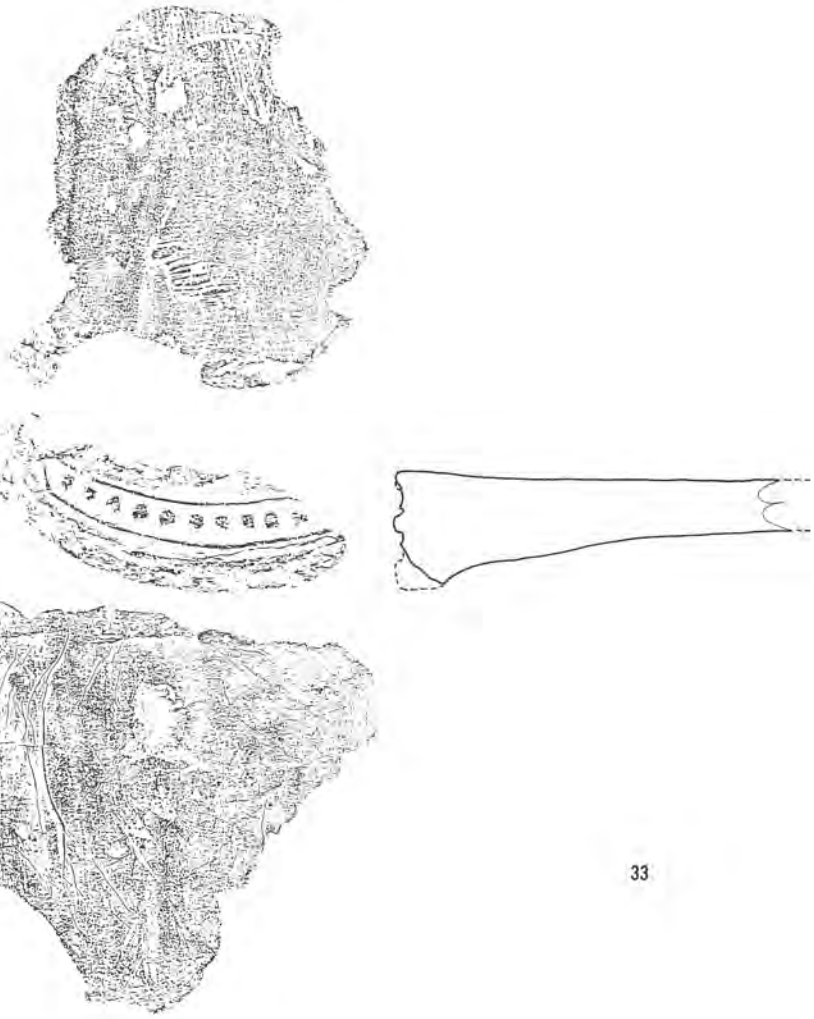
30



31



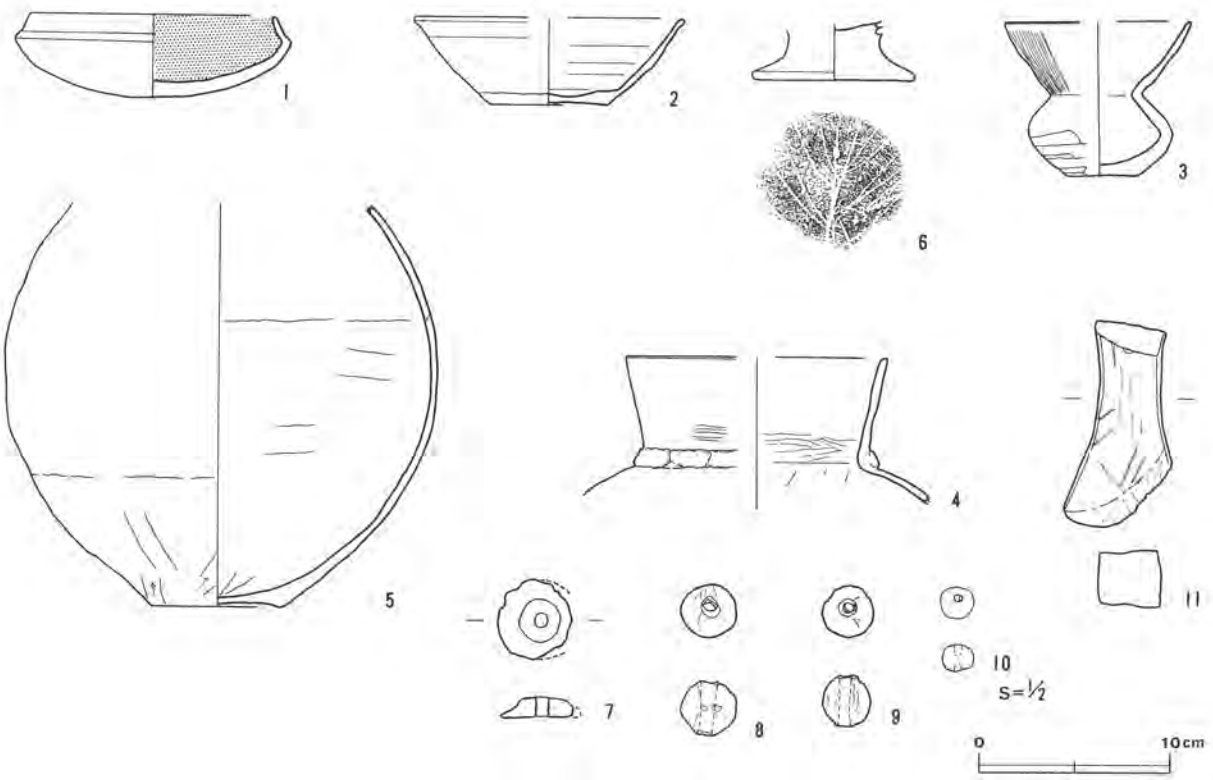
32



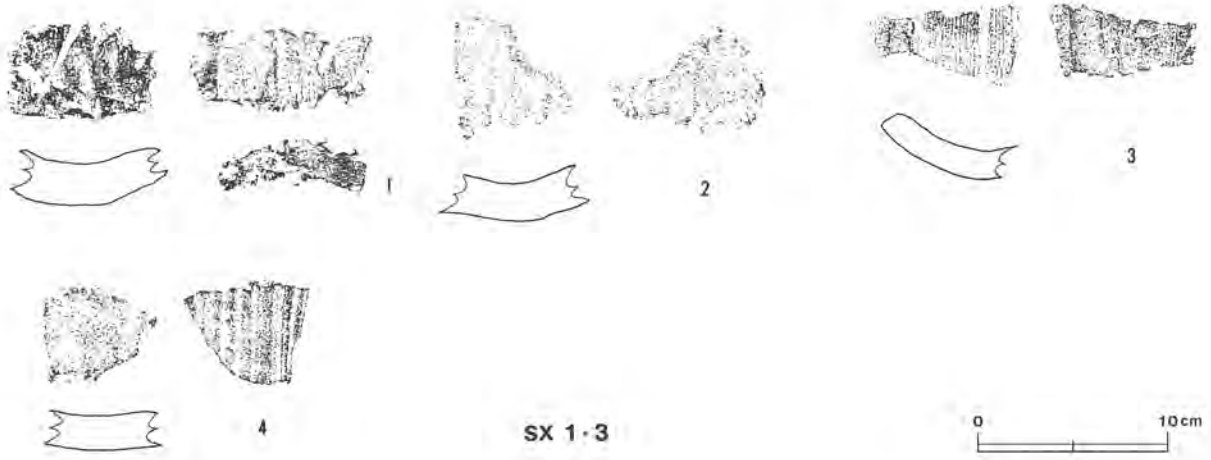
33

0 10cm

第473図　遺構外出土遺物(2)



第474図　遺構外出土遺物(3)



第475図　遺構外出土遺物(4)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	器台 土師器	A 8.0 B 9.3 D [9.6] E 6.5	脚部はラッパ状に開く。器受部は外傾して立ち上がり，口縁部でほぼ直立する。	器受部内・外面ヘラ磨き。器受部下端から脚部外面ハケ目整形。脚部内面上位ヘラ削り。	砂粒・長石 褐色 普通	SK776 P2031 60％ 覆土
2	高台付埦 土師器	A 15.4 B 6.3 D 6.2	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き後黒色処理。高台貼り付け後ナデ。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	SK752 P2204 80％
第471図 3	皿 土師質土器	A 9.2 B 2.8 C 3.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	SD33 P5111 90％ 覆土
4	皿 土師質土器	A 8.1 B 2.6	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	SD23 P5110 95％覆土
5	埦 土師器	A 10.2 B 6.1 C 6.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，体部下位から口縁部は直立する。	口縁部及び体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き。口縁部内面ヘラ磨き。体部外面下端ヘラ削り。内面横位のハケ目整形。内・外面煤付着。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	SD44 P5113 80％ 覆土
6	埦 土師器	A 10.2 B 5.8 C 2.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	SD45 P5115 90％ 覆土
7	坩 土師器	A 9.5 B 6.2 C 3.2	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面ハケ目整形後横ナデ。体部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	SD2 P5101 80％ 覆土
8	皿 土師質土器	A [8.9] B 3.3 C 4.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	B地区SK10 P4023 80％ 覆土
9	坏 土師器	A 13.6 B 4.6	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。内面ヘラ磨き後黒色処理。	砂粒・雲母 明褐色 普通	SI220 P806 90％ 覆土 墨書「平」か

A地区表採遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	坏 須恵器	A 13.9 B 3.8 C 8.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰色 普通	P5153 95％
2	坏 須恵器	A 13.6 B 14.1 C 8.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・黒色粒 灰色 普通	P5154 95％
3	坏 須恵器	A 13.2 B 4.3 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部多方向の手持ちヘラ削り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 灰色 普通	P5155 70％
4	坏 須恵器	A [12.2] B 2.8 C [8.8]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P5156 60％
5	高台付坏 須恵器	A 11.6 B 5.1 D 7.9 E 1.0	平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部下位に明瞭な稜をもち，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P5157 85％
6	鉢 土師器	A [9.0] B 5.8 C [4.8]	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部がりヘラ削り後ヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5159 70％
7	皿 土師質土器	A 8.9 B 2.5 C 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。	石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5160 100％

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 8	皿 土師質土器	A 9.1 B 1.3 C 5.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5161 100％
9	皿 土師質土器	A 9.4 B 1.8 C 4.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P5162 100％
10	皿 土師質土器	A 10.0 B 1.5 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P5163 100％
11	皿 土師質土器	A 9.3 B 1.7 C 5.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5164 90％
12	皿 土師質土器	A 9.8 B 1.6 C 5.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P5165 85％
13	皿 土師質土器	A 9.9 B 1.8 C 6.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5166 75％
14	皿 土師質土器	A 9.5 B 1.5 C 5.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P5167 70％
15	皿 土師質土器	A 9.3 B 1.9 C 5.3	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P5168 65％
16	皿 土師質土器	A 8.1 B 2.2	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P5169 95％
17	皿 土師質土器	A 8.1 B 2.4	丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P5170 95％
18	蓋 須恵器	B (2.1) F 2.1 G 0.8	天井部から丸みをもって垂下する。中央部の突出した扁平なつまみが付く。	天井部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石 褐灰色 普通	P5171 55％
19	鉢 土師器	B 1.1 C 27.6	底部片。平底。	外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P5192 10％
20	器台 土師器	A [7.2] B 6.9 D 11.0 E 5.3	脚部はラッパ状に大きく開く。器受部は外傾して立ち上がる。脚部3孔。器受部中央に上がった下に単孔。	脚部外面ナデ。脚部外面ヘラ磨き，内部横位のハケ目整形。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P5173 60％
21	高坏 土師器	B (3.3)	脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 褐灰色 普通	P5174 30％
22	ミニチュア土器 土師器	B (2.9)	体部は扁平な球形状である。	体部外面ナデ。	砂粒・石英 橙色 普通	P5175 75％

A地区遺構外出土埴輪観察表

刷毛目（本／2 cm）

図版番号	器種	計測値 (cm)	形態・調整技法等の特徴	刷毛目	胎土・色調・焼成	備考
第361図 1	形象埴輪 人物埴輪	長さ (9.7) 幅 3.0	人物埴輪の左腕。表面ナデ。つくりはていねい。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP102 SD23覆土
2	形象埴輪 人物埴輪	長さ (10.4) 幅 3.4	人物埴輪の左腕。表面ナデ。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	DP1003 SK96覆土
3	形象埴輪 人物埴輪	長さ (7.6)	人物埴輪の顔部片。口は木葉形である。鼻は三角錐状の粘土を貼り付けている。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP1019 SK288覆土
4	形象埴輪 動物埴輪	長さ (9.6)	馬形埴輪の鞍。表面ナデ。つくりはていねい。	—	砂粒・石英・雲母 橙色 良好	DP1028 SK521覆土
9	円筒埴輪	口径 31.8 器高 55.8 底径 21.8	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内全面ヨコハケ・ナナメハケ。口縁端部は凹む。円形透孔。凸帯は断面M字形。基底部は左。外面二次焼成受け劣化。	外面 9 内面 9	砂粒・雲母 橙色 普通	DP5149 SX3

付　　編

付編1

1　縄文時代中期深鉢型土器内灰状試料分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

中台遺跡（つくば市北条字中台所在）は，桜川左岸の台地上に立地する。これまでの発掘調査により，縄文時代から奈良・平安時代にわたる遺構・遺物が確認されている。とくに縄文時代中期の袋状土坑が379基検出された。そのうちSK-637土坑では，土坑覆土上位から口縁部を土坑の底面に向けた逆位の状態で深鉢型土器（器高約50cm）が検出された。深鉢型土器の内部には，底部から胴部にかけて灰褐色の灰状物質が充填しており，胴部から頸部にかけてローム混じりの土壌が充填していた。発掘調査所見では，この灰状物質は灰と考えられている。また，この灰状物質が土器内に意図的に充填されたものなのか，あるいは自然に充填されたものなのか詳細は不明である。さらに，土坑覆土上位には焼土の集中部が認められた。しかし，焼土の埋積過程についても詳細は不明である。

今回，財団法人茨城県教育財団より，灰状物質の素材を明らかにすることが当社に要望された。当社では，この灰状物質の由来を植物珪酸体分析により明らかにすることとした。

1．試料

試料は，財団法人茨城県教育財団により一括で採取された灰状物質1点（試料名：TNA　SI-235　No.37土器内灰）である。本試料は，灰褐色のシルトより構成され，炭化物が混入する。肉眼観察では，植物が燃焼した後に残る繊維状物質は認められなかった。

2．分析方法

分析は，近藤・佐瀬（1986）の方法を参考にした。試料中の植物珪酸体は，過酸化水素水（H_2O_2）・塩酸（HCl）処理，超音波処理（70w，250KHz，1分間），沈定法，重液分離法（臭化亜鉛，比重2.3）の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈し，カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後，プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し，その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下，短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下，機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。今回は，特にイネ科葉部短細胞列や葉身機動細胞列といった組織片に注目して分析を行った。これは，植物珪酸体が熱に強く，炉などで草本類が燃焼した後の灰中に植物珪酸体が組織片の形で残留している例（佐瀬，1982：大越，1985）が多いためである。

3．結果

分析結果を表1に示す。試料中には，植物の組織片は全く認められなかった。しかし，保存状態は非常に悪いが，イネ科葉部起源の短細胞珪酸体あるいは機動細胞珪酸体が認められる。検出された種類は，タケ亜科・ヨシ属・イチゴツナギ亜科・不明である。

4．考察

ここでは，灰状物質が何かを燃やした結果の灰であると仮定し，しかもそれがイネ科植物（イナワラ・ススキ・タケ・ヨシなど）であった場合から考える。

分析の結果は，検出された珪酸体のうち，葉部に形成される短細胞も葉身に形成される機動細胞も共にタケ亜科が多かった。このことから，燃やした植物はタケ類の素材が考えられる。しかし，珪酸体の保存状態が全体的に不良であること，一般にイネ科植物を燃料材にした場合，植物組織が灰中に残ることがあるが，本試料中に植物組織片が全く検出されなかったことを考慮すると，積極的にタケ類を燃やした結果形成された灰であると言えない。灰と思われる本試料は，深鉢型土器内に充塡されていたことを考えると，一度燃やされてできた灰を土器内に持ち込んだと判断されるので，燃やしたままの状態の灰とは言えない。したがって，保存状態が不良であったり，組織片が見られなかったことは，灰の意図的な移動を裏付けるものと思われる。

今後，同時代時期の炉や集石などの遺構覆土について植物珪酸体分析を行い，今回の分析結果と比較検討を行うことも必要と思われる。

〈引用文献〉

近藤錬三・佐藤隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用，第四紀研究，25，p．31－64。

大越昌子（1985）プラント・オパール分析。平賀遺跡群発掘調査報告書，p．803－815，平賀遺跡調査会。

佐藤隆（1982）古墳時代住居址の炉に関する焼土について，－植物起源粒子の植物珪酸体から見て－。多摩ニュータウン遺跡，東京都埋蔵文化財センター調査報告書（第2集），p．303－308。

表1　植物珪酸体分析結果

種類（Taxa）	試料名	TNA SI-235 No.37 土器内灰
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科		13
イチゴツナギ亜科		1
不明キビ型		1
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
キビ族		2
タケ亜科		14
ヨシ属		1
不明		5
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体		15
イネ科葉身機動細胞珪酸体		22
検　出　個　数		37

付編2

2　中台遺跡横穴式石室出土鉄器の金属学的解析

岩手県立博物館　赤沼英男

1．はじめに

茨城県つくば市に立地する中台遺跡からは6基の横穴式石室をもつ古墳が検出されている。古墳造営の時期は，古墳の形態によって6世紀後半から7世紀初頭と推定されている。

これまで，関東地方古墳の出土鉄器の金属学的解析については，茨城県協和町小栗地内古墳[1]，神奈川県横浜市熊ケ谷古墳[2]，神奈川県座間市石名坂古墳[3]などの報告があり，それらの解析によって関東地方では7世紀前半には砂鉄の使用によって製造された地金を素材とする鉄器の流通があったことが明らかにされている。しかし，関東地方に分布する古墳の数に比べこれまでに解析された鉄器の数はきわめて少ない。さらに，同一の石室内から検出された鉄器についてもその一部が分析されているにすぎない関係上，古墳時代における鉄器の流通の実態については未だに不明の点が多く，鉄器の製作に使用された地金の製造方法についても不確定な点が多々ある。

このたび茨城県教育財団の依頼により，2号墳と21号墳の石室内から出土した27点の鉄器の金属学的解析を行う機会に恵まれた。

解析の結果，古墳時代の鉄器の供給は複数のルートによって行われていることが確認され，さらに，含銅の鉄鉱石を始発原料とする地金を素材とした鉄器の存在によって，大陸から列島内に製品もしくは素材の形で搬入された可能性の高いことが判明するなど，関東における古墳時代の鉄器の製作と流通を解明するうえで興味深い事実が得られた。以下に上述の結果が導きだされた過程を述べることとする。

2．分析用資料

分析した資料は，No.1直刀を始めとする27点の鉄器である。分析に供した資料の一覧を表1の最右欄に，また，資料の外観を図1に示す。

3．分析用試料の調製

鉄器からの分析用試料の採取は，保存処理の際に採取することができた微小な錆片を用いて行った。採取した錆試料片をさらに2分し，大きい方の試料片を組織観察，他方を化学分析に供した。

なお，No.1，No.2の各直刀，No.5山刀，およびNo.1直刀付着刀子⑨の4点の鉄器については，刃および棟部の2箇所から分析用試料片を採取した。各鉄器からの分析用試料の採取位置は，図1に示すとおりである。

4．分析方法

組織観察用試料は樹脂に埋め込み，表面生成錆層の垂直面をできるだけ浅く削り取った後，ダイヤモンドペーストを用いて仕上げ研磨を行った。研磨の工程では試料中の化学成分の溶出を避けるため，水を一切使用しない方法をとった。研磨した試料は金属顕微鏡によるミクロ観察に供し，また，残存する非金属介在物（原料鉱石に含まれる不純物および原料鉱石から鋼を製造する過程で，人為的に添加された物質が完全に分離されず鋼中に残ったもの）についてはEPMA（エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー）によりその組成を決定した。

化学分析用試料はダイヤモンドカッターを使い，表面の錆層を除去した。このようにして得られた約30mgの錆片を酸で完全に溶解し，誘導結合プラズマ発光分光分析法（ICP-AES法）により，各含有成分を定量した。

5．分析結果

(1) 化学組成

表1左欄は各鉄器より採取した試料片の化学組成を示したものである。No.1直刀（棟），No.3直刀（刃），No.1直刀付着直刀①，No.1直刀付着鍔⑧の4点についてはほぼ健全なメタルが，また，No.2直刀（刃）・（棟），No.1直刀付着刀子⑨（棟），No.1直刀付着馬具⑧のT.Feは70～74％であり，黒錆と赤錆層からなる試料が分析に供されたものと判断される。他の23点の鉄器のT.Feは58～70％未満と上述の8点に比べ赤錆化が進んでいるものの鉄分がよく残っており，埋蔵環境は良好であったと推定される。

No.1直刀（刃）・（棟），No.5山刀（刃）・（棟），No.1直刀付着刀子⑨（棟），No.1直刀付着刀子⑪，No.21・No.30鏃のCu分はいずれも0.13％以上と高いレベルにある。No.15直刀（残欠），No.48刀剣（残欠），No.1直刀付着刀子⑨（刃），No.30馬具，No.37鏃，No.25不明鉄器のCu含有量も0.06％以上と比較的高い値を示している。さらに，No.1直刀（刃）・（棟）についてはCo分がそれぞれ0.050，0.089％，No.48刀剣（残欠）についてはP分が0.162％含有されている。No.24刀子・No.42不明鉄器についてはP分が0.176，0.184％，No.3直刀（刃），No.1直刀付着直刀①，No.1値刀付着直刀②，No.1直刀付着刀子⑩についてはCo分が0.065，0.060，0.069％，No.14直刀（残欠）についてはP，Co分それぞれ0.148，0.056％と高い。

No.1直刀（棟），No.3直刀（刃），No.1直刀付着直刀①はほぼ健全なメタル試料であることから，検出されたCuまたはCo分は地金に含有されていたものとして扱うことができる。他の鉄器については錆化した試料であるため，検出された元素が埋納環境から富化による可能性も考えられる。しかし，錆化はしているもののCu分が高いレベルにあるNo.5山刀（刃）については，銅製品の付着は認められず，さらに錆化が同程度と評価されるNo.14直刀のCu分が低レベルにあることを考え合わせると，検出されたCu分はもとの健全な地金に含有されていたものとみなすことができる。No.15直刀（残欠），No.5山刀（棟），No.1直刀付着刀子⑨（刃）・（棟），No.1直刀付着刀子⑪，No.30馬具，No.21・No.30・No.37鏃，No.25不明鉄器から検出されたCu分，No.24刀子，No.42不明鉄器から検出されたP分，No.3直刀（刃），No.1直刀付着直刀①・②，No.1直刀付着刀子⑩から検出されたCo分，No.1直刀（刃）・（棟）から検出されたCu，Co分，No.14直刀残欠から検出されたP，Co分，No.48刀剣（残欠）から検出されたCu，P分についても同様のことがいえる。

(2) マクロおよびミクロ組織

図2は各鉄器から採取した錆片のマクロ組織である。白色部分は健全なメタル，灰色部分は黒錆層，暗灰色部分は赤錆層，黒色部分は試料中の欠落孔および亀裂に対応する。

No.1直刀（棟），No.5山刀（棟），No.1直刀付着鍔⑧はほとんど健全なメタルによって構成されている。No.4直刀（刃），No.48刀剣（残欠），No.1直刀付着直刀①，No.1直刀付着刀子⑨（刃）の多くも健全なメタルからなり，No.3直刀（刃），No.5山刀（刃），No.1直刀付着刀子⑩，No.25不明鉄器についてはわずかではあるが健全なメタルが認められる。他の試料は黒錆層，赤錆層，亀裂・欠落孔からなる。特にNo.26鏃の断面中央部分は赤錆層と欠落孔からなり，錆化が進んでいることがわかる。

図3－aはNo.1直刀（刃），図2-a_1枠で囲んだ部分のミクロ組織である。白色を呈した細線状の結晶が観察されるが，この結晶はもとの健全な鋼におけるパーライトのうち，フェライト部分が錆化によって失われ，セメンタイトのみが残った組織とみなすことができる[4]。セメンタイトは非常に緻密であり，その組織全域に占める面積割合から，もとの健全な地金は炭素含有量0.5％強の鋼と判定される[5]。図3-b_1・b_2，d_1・d_2，i_1i_2，j，k_1・k_2，o_1・o_2，p_1・p_2，w_1・w_2，x_1・x_2から明らかなように，同様の組織はNo.1直刀（棟），No.2直刀（棟），No.

48刀剣（残欠），No.5山刀（刃），No.1直刀付着直刀②，No.24刀子，No.1直刀付着不明鉄器（馬具？）⑤，No.37・No.38鏃にも認められる。

図3-c_1・c_2はNo.2直刀（刃），図2-b_1領域A，B部のミクロ組織である。内部に微細な白色を呈した細線状の結晶セメンタイトとその欠落孔，暗灰色を呈した網目状の組織が観察される。図4-a_1・a_2はNo.2直刀（刃）に見いだされた網目状組織の反射電子像であるが，太さ1～2μmの結晶が欠落して生じた組織と推定される。網目状組織の内部が微細なセメンタイトによって構成されていることを考え合わせると，網目状組織は初析セメンタイトが欠落して生じた組織と推定される[6]。図3-q_1・q_2，図4-b_1・b_2から明らかなように，No.1直刀付着馬具⑧もNo.2直刀（刃）と同様の組織からなり，これら2点の鉄器の製作には過共析鋼が使用された可能性の高いことがわかる。

図3-e_1・e_2は直刀（刃）部から採取した試料片，図2-cの枠で囲んだ部分のミクロ組織である。白色を呈した細線状の結晶とその欠落孔が観察されるが，この組織ももとの健全な鋼におけるパーライト相中のセメンタイトとその欠落孔とみなすことができ，このそのからもとの健全な鋼の炭素含有量は0.3～0.4％と評価される。図3－f，g_1・g_2，h_1・h_2，l_1・l_2，m_1・m_2，n，s_1・s_2，t_1・t_2，u，v_1・v_2，y_1・y_2が示すように，No.4直刀（刃），No.14・No.15直刀（残欠），No.1直刀付着刀子⑨（刃）・（棟），No.30馬具，No.21・No.26・No.27・No.30鏃，No.25不明鉄器についても同様の組織が観察される。そして，これらの組織からNo.14直刀（残欠），No.1直刀付着刀子⑩，No.30鏃のもとの健全な鋼の炭素含有量は0.1～0.2％，No.15直刀（残欠），No.1直刀付着刀子⑨（刃）・（棟），No.21・No.26鏃については0.2～0.3％，No.4直刀（刃），No.25不明鉄器については0.3～0.4％と判定される。なお，No.30馬具，No.27鏃のミクロ組織にはわずかにセメンタイトおよびその欠落孔が認められるものの，それらの組織からもとの健全な地金の状態を推定することは困難である。また，No.5山刀（棟），No.1直刀付着直刀①，No.1直刀付着刀子⑪，No.1直刀付着鍔⑧，No.29鏃，No.42不明鉄器については錆化が著しくもとの健全な地金の状態を推定できる組織を見いだすことができなかった。上述の観察結果は表2の右欄に総括される。

(3) 非金属介在物組成

図5-aはNo.1直刀（棟）から採取した試料片に見いだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像である。非金属介在物は暗灰色を呈した化合物（F）と黒色領域（D）からなる。図5-bはEPMAによる定性分析結果であるが，化合物（F）からはFe，Mg，Siが強く検出されており$FeO-MgO-SiO_2$系の化合物，黒色領域（D）は$FeO-SiO_2-CaO-Al_2O3-K_2O-MgO-MnO-TiO_2$系のガラス質けい酸塩と判定される。

図6はNo.4直刀（刃）から採取した試料片に観察される非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果である。非金属介在物は$SiO_2-CaO-K_2O-Al_2O_3-MgO-FeO$系のガラス質けい酸塩（D）からなる。表2に示すEPMAによる定量分析値によると，ガラス質けい酸塩はSiO_2，CaO，Al_2O_3を主成分とし，FeOは2.45％と低レベルにある。図7から明らかなように，No.3直刀（刃），No.5山刀（刃），No.1直刀付着直刀①・②，No.1直刀付着刀子⑩，No.1直刀付着鍔⑧，No.1直刀付着不明鉄器（馬具？）⑤，No.21・No.27・No.37・No.38鏃から採取された試料片の非金属介在物もガラス質けい酸塩（D）から成る。なお，No.5山刀（刃）には微細な結晶の析出が認められるが，EPMAによる定性は困難であった。

図8はNo.48刀剣にみいだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果である。非金属介在物は灰色を呈した粒状のウスタイト（W：FeO），暗灰色を呈した$FeO-SiO_2$系の化合物（F：鉄かんらん石，$2FeO・SiO_2$と推定される），およびマトリックス（M）によって構成されており，マトリックスか

らはFe，Al，Ca，K，P，Naが検出されている。図9に示す2次電子像と反射電子像によると，No.1直刀（刃）・（棟）はそれぞれ，FeO-MgO-SiO_2系化合物（F）とマトリックス（M），FeO－MgO－SiO_2系化合物（F）とガラス質けい酸塩（D），No.5山刀（棟）はウスタイト（W：FeO）およびガラス質けい酸塩（D），No.1直刀付着刀子⑨（刃）はウスタイト（W：FeO），FeO-MgO-SiO_2系化合物（F）とガラス質けい酸塩（D），No.1直刀付着刀子⑨（棟）はFeO-MgO-SiO_2系化合物（F）とガラス質けい酸塩（D）から成ることがわかる。

図10はNo.24刀子に見いだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果である。非金属介在物は暗灰色を呈したFeO-CaO-SiO_2系の化合物から成る。化合物は1片が1μm以下と非常に微細であるためEPMAによる定量が困難であるが，定性分析におけるCa強度が高いことから，鉄カルシウムオリビンの可能性も考えられる。

図11はNo.25不明鉄器に見いだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果であるが，非金属介在物は灰色を呈した粒状のウスタイト（W：FeO）によって構成されていることがわかる。

上述の解析結果は表1の最右欄に示すとおりである。なお，No.2直刀（刃）・（棟），No.14直刀（残欠），No.15直刀（残欠），No.1直刀付着刀子⑪，No.1直刀付着馬具⑧，No.30馬具，No.26・No.29・No.30鏃，No.42不明鉄器については錆化が進んでおり，非金属介在物を見いだすことができなかった。

6．考察

(1) 鉄器の分類

鉄器は大きく鍛造鉄器と鋳造鉄器の2つに分類される[7]。マクロおよびミクロ組織観察によって，セメンタイトおよびその欠落孔が観察されたNo.1・No.2・No.3・No.4・No.14・No.15直刀，No.48刀剣，No.5山刀，No.1直刀付着直刀②，No.1直刀付着刀子⑨・⑩，No.24刀子，No.1直刀付着不明鉄器（馬具？）⑤，No.1直刀付着馬具⑧，No.21・No.26・No.30・No.37・No.38鏃，No.25不明鉄器は鍛造鉄器であることが明らかである。No.1直刀付着鍔⑧についても非金属介在物組成から鍛造鉄器と判断される。No.29鏃，No.42不明鉄器については非金属介在物組成も不明であるため鍛造鉄器と断定できる自然科学的根拠はないが，図12の鍛造鉄器にみられる片状黒鉛やレーデブライト組織がミクロ組織中に観察されないこと，および器種を考慮すると，鍛造鉄器の可能性が高い。

初析セメンタイトの欠落孔の観察によって，No.2直刀刃部およびNo.1直刀付着馬具⑧の製造にあたっては過共析鋼が意図的に用いられたのか，もしくは炭素含有量の不均一なむらのある鋼が使用されたのかのいずれかであることが判明した。前者であればこの時期に過共析鋼を製造する技術があったことになり，また，後者であれば過共析鋼も混在する鋼の製造法を想定しなければならない。この点については今後の分析データの蓄積を待って検討することとしたい。

(2) 地金の製造に使用された原料鉱石

地金の製造に使用される原料鉱石としては，一般に砂鉄と鉄鉱石の2つを挙げることができる。鋼の製造過程において砂鉄が使用された場合，還元雰囲気（酸素分圧）に応じ砂鉄中のFeO-Fe_2O_3-TiO_2系チタン化合物は還元され，ウルボスピネル（$2FeO \cdot TiO_2$），イルメナイト（$FeO \cdot TiO_2$）へというようにチタンの濃縮された化合物が順次生成する。このようにして生成したチタン化合物の多くは，鉄滓として鋼から分離・除去されるが，その一部は非金属介在物に残る。

なお，図13には比較のため鋼の製造に砂鉄が使用された場合の非金属介在物にチタン化合物が残存する例を示したい[8]。

表1最右欄に示す各鉄器にみいだされた代表的な非金属介在物組成に基づくと，No.1直刀を始めとする17点の鉄器にはチタン化合物が観察されないことから，鋼の製造に使用された原料鉱石は鉄鉱石と判定される。これらの中でNo.1直刀付着刀子⑨，No.21・No.37鏃，No.25不明鉄器に就いては銅含有量が0.1％強，もしくは0.1％にきわめて近い値をとっており含銅の鉄鉱石が，No.24刀子については含りんの鉄鉱石が，No.3直刀，No.1直刀付着直刀①・②，No.1直刀付着刀子⑩についてはコバルト含有量の高い鉄鉱石が始発原料として，また，No.1直刀については銅，コバルト，No.48刀剣（残欠）については銅，りん含有量のともに高い鉄鉱石が用いられたとみなすことができる。同じ石室内から出土した鉄器の製作に原料鉱石の異なった鋼の使用が認められたことから，古墳時代の鉄器の供給に複数のルートがあったものと判断される。なお，No.14・No.15直刀（残欠）およびNo.30馬具，No.30鏃から採取した試料片からは非金属介在物がみいだされなかったものの，前者についてはりん，コバルト，後者の3点については銅含有量が高いレベルにあることを考慮すると，前者の始発原料はりん，コバルト分の高い含銅の鉄鉱石，後者の3点については含銅の鉄鉱石である可能性が高い。

図14は列島内，および大陸における含銅の鉄鉱石を産出する主な鉱山の分布を示したものである[9)10)]。わが国において含銅の鉄鉱石を産出する鉱山としては，岩手県の釜石鉱山，新潟県の赤谷鉱山の2つが知られている。しかし，これらの鉱山より産出される鉄鉱石を原料鉱石として製錬を行ったとみなすことのできる遺跡は発見されていない。図14に示す分布状況および時代を考慮すると，少なくとも銅含有量の高い地金の製造に使用された原料鉱石の産出された地域としては，大陸，とりわけ山東半島から揚子江下流域が有力である。表3はこれまでの解析によって明らかとなった5世紀後半から8世紀初頭に比定される遺跡より検出された鉄器の中で，含銅の鉄鉱石を原料鉱石として製造された地金を素材としているとみなすことができるものの一覧である。九州地方北部，関東，東北地方北部および北海道でも含銅の鉄鉱石が始発原料として使用されたとみなすことのできる地金を素材とする鉄器の出土が確認されており，列島内の広範囲にわたる流通があったことも指摘できる。

最後に問題となるのが上述の鉄器の製作に使用された鋼の製造法である。この点については今後，6世紀後半から7世紀前半に比定される鉄生産関連遺跡より排出される鉄滓の組成，その組成から推定される鉄滓の生成反応と鉄器中に見いだされる非金属介在物組成を対比させ検討する必要がある。しかし，No.4直刀の刃部から採取した試料片に見いだされた非金属介在物のFeOは2.45％と低いレベルにあることから，高還元雰囲気下で生成した鉄滓の一部が鋼中に残ったものとみなければならない。鉄滓の生成温度域が不明であるため断定はできないが，コークス，もしくは溶融銑鉄との接触により生成した鉄滓の可能性が高い。また，No.24刀子から採取した試料片からの$FeO-CaO-SiO_2$系化合物の検出により，No.24刀子を製作する際に素材として使用された鋼の製造にあたっては，人為的に含カルシウム材が用いられたものとみなすこともできる[11)]。

7．まとめ

中台遺跡より検出された古墳の横穴式石室内出土鉄器27点の金属学的解析を行ったところ，直刀をはじめとする12点の鉄器の地金の始発原料として，含銅の鉄鉱石の使用が認められた。また，刀子から採取した試料片の非金属介在物からは$FeO-CaO-SiO_2$系化合物が検出され，地金の製造にあたって人為的な含カルシウム物質の使用があったことが指摘された。さらに，鉄分の低いガラス質けい酸塩からなる非金属介在物が直刀に見いだされたことにより，鋼の製造時に鉄滓がコークス，もしくは溶融銑鉄と接触する状態にあったことも推定された。

含銅の鉄鉱石が産出される鉱山として列島内では釜石，赤谷鉱山を挙げることができるが，時代を考慮すると大陸，とりわけ山東半島から揚子江下流域が有力であり，列島内に製品，もしくは鉄素材（鋼か銑鉄）とし

て持ち込まれ列島内で製作されたもののうちのいずれかの可能性が高いことが明らかになった。

註）

1） 佐々木稔，伊藤薫「小栗地内古墳出土鉄器の金属学的解析」『小栗地内遺跡群発掘調査報告書』1986年 P283～294

2） 奈良地区遺跡調査団『横浜市緑区奈良町奈良地区遺跡群発掘調査報告書II』1984年 住宅・都市整備公団P133～140

3） 伊藤薫「遺跡出土鉄器の金属学的調査」古代関東の鉄生産開始時期の推定検討会資料 鉱山金属分科会 1986年

4） 日吉製鉄史同好会「稲荷山鉄剣の六片の錆」『鉄の文化史』東洋経済新聞社 1984年 P148～159

5） 西沢泰二，佐久間健人『金属組織写真集』日本金属学会 1979年

6）・7） 5）に同じ

8） 赤沼英男「EPMAによる東北地方北部出土鉄器の金属学的解析」『国立歴史民俗博物館研究報告第38集』国立歴史民俗博物館 1992年 P77～91

9） 『アジア東部の鉄鉱資源』海外製鉄原料委員会 1969年

10） 赤沼英男「蕨手刀から推定される古代東北地方北部の鉄・鉄器生産と流通」『㈳日本鋳物協会東北支部創立40周年記念大会講演要旨』1991年 P49～65

11） 同種の化合物は福岡県苅田町の番塚古墳出土の鉄器からも検出されており，EPMAによる定量分析と面分析によって鉄・カルシウムオリビン［2（Ca，Fe，Mg）O・SiO_2］であることが確認されている。

12） 赤沼英男，佐々木稔「番塚古墳出土鉄器の金属学的解析」『番塚古墳』九州大学文学部考古学研究室 1993年 P193～202

表1　鉄器の分析結果

資料名	化学成分（%） T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	As	S	ミクロ組織	N.M.I
No.1直刀（刃）	68.54	0.424	0.007	0.067	0.006	0.050	0.006	0.354	0.020	0.052	0.017	tr	0.059	0.059	Ce（0.5%強）	F, M
〃（棟）	100.18	0.378	0.004	0.029	0.015	0.089	0.004	0.181	0.032	0.021	0.026	tr	0.069	0.003	〃	F, D
No.2直刀（刃）	70.79	0.001	0.010	0.055	0.005	0.011	0.022	0.353	0.068	0.067	0.013	tr	0.019	nd	PCe, Ce	no
〃（棟）	73.78	0.001	0.013	0.022	0.007	0.009	0.004	0.269	0.022	0.048	0.004	tr	-	-	Ce（0.5%強）	no
No.3直刀（刃）	Me	0.032	0.002	0.008	0.041	0.119	0.005	0.026	-	-	-	-	-	-	Ce（0.3～0.4%）	D
No.4直刀（刃）	67.23	0.026	0.008	0.068	0.023	0.020	0.016	-	-	-	-	-	-	-	〃	D
No14直刀（残欠）	63.87	0.025	0.008	0.148	0.012	0.056	0.002	0.270	0.023	0.042	0.015	nd	-	-	Ce（0.1～0.2%）	no
No15直刀（残欠）	66.07	0.082	0.005	0.082	0.044	0.022	0.002	0.231	0.013	0.036	0.017	0.001	-	-	Ce（0.2～0.3%）	no
No48刀剣（残欠）	67.87	0.062	0.026	0.162	0.008	0.009	0.015	0.435	0.112	0.071	0.027	-	-	-	Ce（0.5%強）	W, F, M
No.5山刀（刃）	63.15	0.382	0.027	0.017	0.016	0.030	0.004	0.490	0.102	-	0.031	tr	-	-	〃	M
〃（棟）	66.52	0.423	0.010	0.040	0.011	0.030	0.005	0.482	0.126	-	0.017	0.001	-	-	推定不能	W, D
No.1直刀付着直刀①	99.51	0.044	0.001	0.009	0.026	0.065	0.001	0.827	0.016	0.012	0.002	tr	-	-	〃	D
No.1直刀付着直刀②	69.88	0.048	0.009	0.031	0.023	0.060	0.014	0.416	0.021	0.067	0.020	tr	-	-	Ce（0.5%強）	D
No.1直刀付着刀子⑨刃	58.99	0.060	0.024	0.050	0.009	0.018	0.008	0.591	0.083	-	0.027	0.003	-	-	Ce（0.2～0.3%）	W, F, D
〃 ⑨棟	71.56	0.129	0.007	0.025	0.014	0.022	0.010	0.339	0.055	0.099	0.011	tr	0.098	0.120	〃	F, D
No.1直刀付着刀子⑩	67.43	0.044	0.028	0.019	0.027	0.069	0.015	0.314	0.013	0.049	0.013	tr	0.090	nd	Ce（0.1～0.2%）	D
No.1直刀付着刀子⑪	60.16	0.166	0.007	0.053	0.019	0.019	0.034	1.51	0.102	0.637	0.061	0.003	0.091	0.066	推定不能	no
No24刀子	62.57	0.044	0.003	0.176	0.010	0.019	0.001	0.221	0.069	0.030	0.015	nd	-	-	Ce（0.5%強）	O
No.1直刀付着鐏⑧	98.16	0.036	0.011	0.023	0.012	0.020	0.017	0.094	0.053	-	0.004	0.001	-	-	推定不能	D
No.1直刀付着不明鉄器（馬具？）⑤	67.17	0.022	0.009	0.039	0.032	0.025	0.011	0.427	0.138	0.107	0.014	tr	-	-	Ce（0.5%強）	D
No.1直刀付着馬具⑧	70.16	0.001	0.018	0.034	0.026	0.025	0.009	0.443	0.057	0.128	0.001	tr	-	-	PCe, Ce	no
No30馬具	61.19	0.082	0.011	0.030	0.035	0.016	0.003	0.435	0.048	0.051	0.025	0.002			推定不能	no
No21 鏃	62.24	0.134	0.006	0.038	0.015	0.016	0.007	0.318	0.025	0.087	0.014	0.002			Ce（0.2～0.3%）	D
No26 鏃	65.46	0.001	0.005	0.051	0.007	0.013	0.008	0.652	0.060	-	0.022	0.003	-	-	〃	no
No27 鏃	64.21	0.045	0.006	0.059	0.017	0.021	0.002	0.410	0.031	0.064	0.014	0.003			推定不能	D
No29 鏃	65.68	0.037	0.014	0.066	0.009	0.034	0.014	0.765	0.041	0.235	0.023	0.003	-	-	〃	no
No30 鏃	64.51	0.409	0.006	0.067	0.005	0.023	0.005	0.378	0.021	0.211	0.020	0.004			Ce（0.1～0.2%）	no
No37 鏃	66.28	0.099	0.019	0.020	0.007	0.008	0.015	0.247	0.021	0.025	0.012	tr	0.077	0.141	Ce（0.5%強）	D
No38 鏃	65.74	0.032	0.030	0.036	0.008	0.010	0.004	0.390	0.074	0.150	0.034	0.002			〃	D
No25 不明鉄器	65.43	0.077	0.005	0.012	0.010	0.041	0.001	0.046	0.026	0.036	0.007	0.002	0.030	0.080	Ce（0.3～0.4%）	W
No42 不明鉄器	60.50	0.047	0.012	0.184	0.006	0.013	0.009	0.655	0.035	0.249	0.030	0.001	-	-	推定不能	no

注1) trは痕跡，ndは検出されず，noは観察されず，－は分析せずを表す。　注2) Meは健全なメタル試料を表す。

注3) Ceはセメンタイトもしくはその欠落孔，P，Ceは初折セメンタイトもしくは欠落孔を表す。

注4) N.M.Iは非金属介在物組成であり，Wはウスタイト（FeO），FはFeO-MgO-SiO_2系化合物，OはFeO-CaO-SiO_2系化合物，Dはガラス質けい酸塩，Mはマトリックスを表す。

表2　No.4直刀（刃）から採取した試料片に観察される非金属介在物のＥＰＭＡによる定量（%）

測定位置	MgO	Al_2O_3	SiO_2	CaO	TiO_2	V_2O_5	MnO	FeO	P_2O_5	K_2O	Na_2O	total
D	1.56	11.77	60.24	20.18	0.48	＜0.01	0.37	2.45	＜0.01	3.00	0.59	100.66

表３　比較として挙げられる胴含有量の高い鉄器の分析例

出　土　地	器　種	推定年代	T.Fe	Cu	P	N.M.I
奈良県大和６号墳	鉄鋌	５Ｃ　後半	M	0.048	0.019	D
〃	〃	５Ｃ　後半	M	0.11	0.027	W，D
埼玉県稲荷山古墳	鉄剣	５Ｃ　後半	－	0.35	-	D
番塚古墳	№205 釘	５Ｃ末～６Ｃ前半	87.83	0.170	0.044	D
〃	刀３背部	〃	68.84	0.080	0.027	O，D
〃	№50斧	〃	60.17	0.114	0.050	D
〃	小札	〃	60.41	0.065	0.029	W
茨城県小栗地内１号墳	№67鉄鏃	６Ｃ末～７Ｃ初	59.45	0.414	0.047	nd
〃	№94鎧鞐	〃	58.85	0.105	0.058	nd
〃	№125鋤先	〃	59.69	0.185	0.142	W，D
〃	№２直刀	〃	62.45	0.147	0.034	nd
〃	№19直刀	〃	58.85	0.113	0.037	nd
岩手県藤沢狄森14号墳	６鉄鏃	７Ｃ中葉～末	62.10	0.193	0.027	W，F，D
〃	17小刀	〃	50.8	0.200	0.034	W，F，D
北海道天内山１号墳	№１刀子刃	６Ｃ末～８Ｃ初	56.75	0.122	0.048	nd
３号墳	№９刀子刃		60.83	0.112	0.117	nd

＊出典の記載は省略した。

＊＊Ｍは健全なメタル試料，－は分析せずを，ndは観察されずを表す。

＊＊＊N.M.Iは非金属介在物組成，Ｗはウスタイト（FeO），ＦはFeO-SiO_2系化合物，Ｄはガラス質けい酸塩を表す。

付編3

3　中台遺跡出土鉄鋌状鉄製品の金属学的解析

岩手県立博物館　赤沼英男

1．はじめに

茨城県つくば市に立地する中台遺跡において確認された住居跡から検出された8本の鉄鋌状鉄製品は，その形状から発掘担当者によって鉄器製作のための鉄素材と推定された。住居跡の年代は土器を始めとする関係出土品によって，10世紀代～11世紀に比定されている[1]。

このたび茨城県教育財団の依頼により，上述の8点の鉄鋌状鉄製品の金属学的解析を行う機会に恵まれた。これまでの関東，東北地方北部，および北海道から出土した鉄器，鉄塊，鉄滓の金属学的解析によって，平安期には鋼製造，もしくは鋳造鉄器製作の素材となる銑鉄塊の供給があったことが指摘されてはいるが[2][3]，その流通形態については不明である。また，平安期においては鋼の流通に関する確認はいまだなされておらず，中台遺跡より検出された8点の鉄鋌状鉄製品の金属学的解析結果は平安期における鉄器，もしくは鉄素材の流通を検討するうえできわめて有益な事実を提供するものと判断される。金属学的解析の結果，8本の鉄鋌状鉄製品はいずれも鋼製であることが明らかとなったが，以下に解析の結果を述べることとする。

2．分析用資料

分析した資料は，8点の鉄鋌状鉄製品である。資料の名称および重量を表1左欄に，外観を図1に示す[4]。

3．分析用試料の調製

鉄器からの分析用試料の採取は，保存処理の際に採取することができた微小な錆片を用いて行った。採取した錆試料片をさらに2分し，大きい方の試料片を組織観察，他方を化学分析に供した。

なお，№7鉄鋌状鉄製品については阿久津久氏のご好意により，2箇所から大きな試料片を採取することができた。各鉄器からの分析用試料の採取位置は，図1に示すとおりである。

4．分析方法

組織観察用試料は樹脂に埋め込み，表面生成錆層の垂直面をできるだけ浅く削り取った後，ダイヤモンドペーストを用いて仕上げ研磨を行った。研磨の工程では試料中の化学成分の溶出を避けるため，水を一切使用しない方法をとった。研磨した試料は金属顕微鏡によるミクロ観察に供し，また，残存する非金属介在物（原料鉱石に含まれる不純物および原料鉱石から鋼を製造する過程で，人為的に添加された物質が完全に分離されず鋼中に残ったもの。）についてはEPMA（エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー）によりその組成を決定した。

なお，№7鉄鋌状鉄製品から採取した試料片については，採取した試料片を酸で腐食し，そのミクロ組織を観察した。

化学分析用試料はダイヤモンドカッターを使い，表面の錆層を除去した。このようにして得られた約30mgの錆片を酸で完全に溶解し，誘導結合プラズマ発光分光分析法（ICP-AES法）により，各含有成分を定量した。

5．分析結果

(1)　化学組成

表1左欄は8本の鉄鋌状鉄製品より採取した試料片の化学組成を示したものである。No.7鉄鋌状鉄製品B部より採取した試料片のT.Feは64.06％であり，かなり赤錆化が進んだ試料であるものの，他については94％以上を示しており，ほぼ健全なメタル試料が分析に供されたことが分かる。

No.6・No.10・No.11・No.13の4点の鉄鋌状鉄製品から採取した試料片についてはPが0.05％以上とやや高い値をとっている。また，Coはすべての試料において0.039％以上検出され，特にNo.6・No.7A部・No.12・No.13の4点については0.05％以上と高いレベルにある。

(2) マクロおよびミクロ組織

図2は各鉄器から採取した錆片のマクロ組織である。白色部分は健全なメタル，灰色部分は黒錆層，暗灰色部分は赤錆層，黒色部分は試料中の欠落孔および亀裂に対応する。No.7A部・No.8・No.9・No.10・No.11・No.12・No.13の7点の鉄鋌状鉄製品から採取した試料はほぼ健全なメタルによって構成されていることがわかる。また，No.6鉄鋌状鉄製品については採取した試料片の中央部にわずかではあるがメタルの残存が認められる。

図3-a_1はNo.7鉄鋌状鉄製品A部から採取した試料片，図2-b_1枠で囲んだ部分のミクロ組織，図3-a_2は図3-a_1をさらに高倍で観察したものである。微細な黒点群によって形成される網目状組織が観察されるが，この組織はパーライト中のセメンタイトが欠落して生じた組織と推定される[5]。網目状の組織をもとの健全な地金におけるパーライトとし錆化による結晶の膨張を無視すると，もとの健全な地金は炭素含有量0.1～0.2％の鋼とみなすことができる。図3-b_1・b_2，c_1・c_2が示すように，同様の組織はNo.7鉄鋌状鉄製品B部，No.11鉄鋌状鉄製品から採取した試料片にも観察され，網目状組織の占める面積割合から炭素含有量0.2～0.3％の鋼と評価される[6]。

図4-aはNo.7鉄鋌状鉄製品から採取した試料片のナイタール[7]によるマクロエッチング組織である。酸により黒く腐食された部分とあまり腐食されない白色の部分の2つの領域が認められる。図4-b_1は図4-a領域A部のミクロエッチング組織，図4-b_2は図4-b_1をさらに高倍で拡大観察したものである。図4-b_1には黒色を呈した島状の組織，パーライトが認められ，図4－b2に示す高倍での観察によってパーライトは黒色を呈したセメンタイトと白色のフェライトが交互に並んだ微細な層状組織をとっていることがわかる。パーライトの占める面積割合から，炭素含有量0.4～0.5％の鋼と評価される。図4-cは領域B部のミクロエッチング組織であるが，パーライトの占める面積はわずかであり，炭素含有量0.1％程度の鋼と判定される。上述の黒錆層のミクロ組織観察結果を考え合わせると，No.7鉄鋌状鉄製品は炭素含有量0.4～0.5，0.1～0.2％の鋼からなることが判明した。No.6・No.8・No.9・No.10・No.12・No.13の鉄鋌状鉄製品から採取した試料片についてもナイタールによるエッチングによって地金の材質を確認できるが，エッチングによる錆化の進行と非金属介在物の喪失を考慮し，今回は見合わせた。

(3) 非金属介在物組成

図5-aはNo.7鉄鋌状鉄製品のA部から採取した試料片に見いだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像である。非金属介在物は灰色を呈した化合物（T），暗灰色を呈した化合物（F），黒色領域（D）からなる。図5-bはEPMAによる定性分析結果であるが，化合物（T）からはFe，Ti，V，Al，化合物（F）からはFe，Mg，Si，黒色領域（D）からはFe，Si，Al，Ca，K，Mg，S，Tiが強く検出されており，それぞれ$FeO-TiO_2-V_2O_5-Al2O3$系のチタン化合物，$FeO-MgO-SiO_2$系の化合物（マグネシウムを固溶した鉄かんらん石と推定される），$FeO-SiO_2-Al_2O_3-CaO-K_2O-MgO-TiO_2-SO_3$系のガラス質けい酸塩と判定される。図6からも明ら

かなように，No.6・No.12鉄鋌状鉄製品から採取した試料片にも上述と同様の組成の非金属介在物が観察される。

付編3

図7はNo.8鉄鋌状鉄製品にみいだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果である。非金属介在物は$FeO-TiO_2-Al_2O_3-MgO$系のチタン化合物（T），$FeO-SiO_2-Al2O_3-CaO-K_2O-MgO-TiO_2-MnO$系のガラス質けい酸塩（D）からなる。表2はEPMAによる定量分析結果であるが，チタン化合物（T）のTiO_2は73.80％ときわめて高いレベルにある一方，ガラス質けい酸塩のFeOは9.85％と低い。図8が示すように，同様の鉱物組成の非金属介在物はNo.9・No.12鉄鋌状鉄製品にも認められる。なお，表2によるとNo.9鉄鋌状鉄製品のTiO_2は63.41％と高いが，No.12鉄鋌状鉄製品については26.83％と低く，ガラス質けい酸塩中のFeO含有量も20.52％とそれほど高くない。

図9はNo.9鉄鋌状鉄製品にみいだされた非金属介在物の2次電子像と反射電子像，EPMAによる定性分析結果である。非金属介在物は灰色を呈した粒状の化合物ウスタイト（W：FeO），$FeO-TiO_2-V_2O_5-Al_2O_3-MgO$系のチタン化合物（T），$FeO-SiO_2-MgO$系の化合物（マグネシウムを固溶した鉄かんらん石と推定される），マトリックス（M）によって構成されている。表2に示すEPMAによる定量分析結果によれば，TiO_2は20.86％と低いレベルにある。なお，図10によって，No.10・No.13鉄鋌状鉄製品についても同じ組成の非金属介在物が観察される。また，No.6鉄鋌状鉄製品については，採取した試料片に非金属介在物を見いだすことができなかった。

6．考察

(1) 鉄器の分類

鉄器は大きく鍛造鉄器と鋳造鉄器の2つに分類される。マクロ・ミクロ組織，およびミクロエッチング組織観察によって，パーライトおよびセメンタイトの欠落孔が観察されたNo.7およびNo.11鉄鋌状鉄製品は鍛造鉄器であることは明らかである。No.6鉄鋌状鉄製品を除く他の5点についても非金属介在物組成から鍛造鉄器と判断される。No.6鉄鋌状鉄製品については，鍛造鉄器，あるいは鋳造鉄器の判定が困難であるが，ミクロ組織中に鋳造鉄器にみられる片状黒鉛やレーデブライト組織が認められないことや，形態が他の6点と同じであることを考慮すると，やはり鍛造鉄器と判断される。なお，No.7鉄鋌状鉄製品は炭素含有量の異なる2種類の鋼が意図的に配合されたものか，あるいはむらの多い鋼によって製作されたもののいずれかである。

(2) 地金の製造に使用された原料鉱石

地金の製造に使用される原料鉱石としては，一般に砂鉄と鉄鉱石の2つを挙げることができる。鋼の製造過程において砂鉄が使用された場合，還元雰囲気（酸素分圧）に応じ砂鉄中の$FeO-Fe_2O_3-TiO_2$系チタン化合物は還元され，ウルボスピネル（$2FeO・TiO_2$），イルメナイト（$FeO・TiO_2$）へというようにチタンの濃縮された化合物が順次生成される。このようにして生成したチタン化合物の多くは，鉄滓として鋼から分離・除去されるが，その一部は非金属介在物に残る。

表1最右欄に示す非金属介在物組成に基づくと，No.6を除く7点の鉄鋌状鉄製品からはその非金属介在物中にチタン化合物がみいだされたことから，砂鉄の使用によって製造された鋼であることがわかる。

ここで問題となるのが鋼の製造方法である。現在わが国の研究者によって提案されている古代・中世の鋼製造法は直接製鋼法と間接製鋼法の2つである。

直接製鋼法は原料鉱石（鉄鉱石もしくは砂鉄）と還元材（古代・中世においては木炭）を製錬炉の中に装入し，還元して得られた鉄塊を破砕して鋼部分を摘出するという方法である。摘出された鋼は鉄滓などの不純物

を多量に含んでおり，炭素量も不均一な粗成品である。そこで加熱と鍛練を繰り返し，鋼中に残存する不純物を絞り出す操作が行われる。このようにして得られた鋼素材を鍛造整形して目的の鉄器が製作される。製錬炉で鉄塊を製造する段階で排出される鉄塊は製錬滓，摘出した鋼から不純物を分離除去する過程で排出される鉄塊は一般に鍛冶滓と定義されている[8]。

間接製鋼法では，原料鉱石を製錬炉で還元し銑鉄を生産する。ついで銑鉄を小型の炉に入れ再加熱・溶融し，脱炭して鋼にする。脱炭の手段としては，鉄鉱石粉あるいは砂鉄を加える方法が仮説として出されている[9][10]。鉄鉱石粉を使用した場合，鉄鉱石中の酸化鉄（Fe_3O_4 あるいは Fe_2O_3）は銑鉄中の炭素で還元されてFeO，さらに還元が進めばFeに変わって溶鉄中に付け加わる。砂鉄の場合には，以下に示す式に従って砂鉄中のチタン化合物（$FeO-Fe_2O_3-TiO_2$ 系の化合物）が還元され，ウルボスピネル（$2FeO\cdot TiO_2$），イルメナイト（$FeO\cdot TiO2$），フェロシュードブルッカイト（$FeO\cdot 2TiO_2$），ルチルに近い組成のチタン酸化物（TiO_2），チタンの炭窒化物［Ti（C，N）］へと順次変化する[11]。鉄鉱石の還元で生成したウスタイトや砂鉄の還元で生成したチタン化合物は炉壁材などと反応して鉄滓になり，精製された鋼から分離される。この脱炭・精製の工程は精錬，または鉄滓は精錬滓と呼ばれる。上述をまとめて図示すると図11のとおりとなる。図11-Aに示す直製鋼法では，精錬によって直接に鋼を得ることができるから，製錬が行われる場所で実際に使用される原料鉱石は鉄鉱石か砂鉄のいずれかであり，両者が混合して用いられることはまずない。一方，図11-Bの間接製鋼法の場合，まず銑鉄が生産され，その銑鉄をもとに鋼が製造される。銑鉄と鋼の製造場所は同じ場合もあるが，生産された銑鉄が他の場所に運ばれ精製されることも考えられる。この場合，脱炭材としては，砂鉄と鉄鉱石のうち鋼を製造する所で入手容易なものが利用されることになる。なお，生産された銑鉄は鋼の他に，鋳造鉄器の素材としても利用される。

＜反応式＞

$$FeO-Fe_2O_3-Ti\overset{\underline{C}}{O_2}\rightarrow 2FeO\cdot TiO_2+Fe+CO\uparrow$$

$$2FeO\cdot Ti\overset{\underline{C}}{O_2}\rightarrow FeO\cdot TiO_2+Fe+CO\uparrow$$

$$FeO\cdot Ti\overset{\underline{C}}{O_2}\rightarrow FeO\cdot 2TiO_2+Fe+CO\uparrow$$

$$FeO\cdot 2Ti\overset{\underline{C}}{O_2}\rightarrow\cdots\overset{\underline{C}}{\rightarrow} TiO_2+Fe+CO\uparrow$$

$$Ti\overset{\underline{C}}{O_2}\rightarrow TiC+CO\uparrow$$（Cの一部をNが置換）　※$\underline{C}$は鉄浴中の炭素を表わす。

No.8およびNo.9鉄鋌状鉄製品の非金属介在物には TiO_2 が73.80，63.41％含有されるチタン化合物が検出されている。フェロシュードブルッカイト（$FeO\cdot 2TiO_2$）が鉄浴中の炭素で還元されルチルに近い組成のチタン酸化物（TiO_2）へと変化する過程で生成した化合物とみることができる。さらに，分析を行った8点の鉄鋌状鉄製品からはいずれも高含有量のCoが検出されている。これらの事実を総合すると，少なくともNo.6を除く7点の鉄鋌状鉄製品は，Co含有量の高い鉄鉱石を始発原料として生産された銑鉄を素材とし，脱炭材として砂鉄を使用する間接製鋼法によって製造された鋼を用いて製作された鉄器と考えることもできるが，この点については鉄生産関連移籍から検出される鉄滓，鉄塊の組成との対比，および間接製鋼法の具体的操業プロセスを考察した後，改めて検討することとしたい[12]。

なお，8点の鉄器は重量が178～255gであり，形状もほぼ一致している。また，Co含有量が高く，砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鍛造製品であり，材質的にも同じである。従ってこれら8点の鉄鋌状鉄製品は同一の場所で製造された可能性が高く，さらに鉄鋌状鉄製品が検出された住居跡からは鉄生産に関連する遺構が検出されなかったことを考慮すると，外部から供給されたものと判断される。

図12は16世紀に比定される青森県浪岡城跡から検出された30数本の鉄鋌状鉄製品のうちの金属学的解析を行った2本（FおよびF3鉄鋌状鉄製品）の実測図と試料採取位置を示したものである。表3はその金属学的解析結果であるが，中台遺跡出土鉄鋌状鉄製品同様砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鉄器であることがわかる。中台遺跡のものに比べ小型であり，Co分の分析がなされていないので断定はできないが，中台遺跡出土のものと同じ方法によって製造されたとみなしても矛盾はない。

これまで9世紀から16世紀における鉄素材の流通については，銑鉄の流通の可能性が指摘されているにすぎず，鋼については不明であった。上述の中台遺跡，さらには浪岡城跡出土鉄鋌状鉄製品の金属学的解析によって，目的とする鉄器の製作に使用された鋼の流通があったことが明らかとなった。さらに，鉄鋌状鉄製品の製作に使用された鋼の材質上の差異点も認められないことから，その供給地も特定の地域である可能性が高い。今後の発掘調査によって，同形態の鉄器が検出され材質上の特性が解明されれば，流通の実態をより明確にすることができるのであろう。

7．まとめ

中台遺跡より検出された8点の鉄鋌状鉄製品の金属学的解析を行ったところ，砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鍛造鉄器であることが判明した。さらに，鉄器のCo含有量，および非金属介在物中に観察されたチタン化合物のTiO_2含有量ならびにガラス質けい酸塩のFeO含有量を考慮すると，鋼は間接製鋼法によって製造された可能性が高い。また，鉄器の形状が8点ともほぼ同じであること，および小型ではあるが砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鉄鋌状鉄製品が青森県浪岡城跡からも出土しているという事実に基づけば，古代末から中世において鍛造鉄器製作に不可欠な鋼の広範囲にわたる供給があったことも明らかになった。

註）

1） 茨城県教育財団　阿久津久氏のご教授による。

2） 「古代から中世における北の鉄の変遷」『北の鉄文化』1990年　岩手県立博物館　P74～81

3） 赤沼英男「EPMAによる東北地方北部出土鉄器の金属学的解析」『国立歴史民俗博物館研究報告第38集』国立歴史民俗博物館　1992年　P77～91

4） 表1に掲載した鉄鋌状鉄製品の重量は，表面に付着している土砂等を除去した後の重量である。

5） 日吉製鉄史同好会「稲荷山鉄剣の六片の錆」『鉄の文化史』東洋経済新聞社　1984年　P148～159

6） 西沢泰二，佐久間健人『金属組織写真集』日本金属学会　1979年

7） 硝酸2.5ccとエチルアルコール100ccの混合溶液である。

8） 大沢正巳「古墳出土鉄塊からみた古代製鉄」『古代製鉄史論集』1983年　P85～131

9） 佐々木稔「ふたたび炒鋼法について」『たたら研究27』1985年　P40～50

10） 赤沼英男「EPMAによる東北地方北部出土鉄器の金属学的解析」『国立歴史民俗博物館研究報告第38集』国立歴史民俗博物館　1992年　P77～91

11） 赤沼英男，岡田康弘，川上貞雄「遺物の解析からみた半地下式竪型炉の性格」平成4年度　たたら研究

会発表要旨

12) 8点の鉄鋌状鉄製品にみいだされたチタン化合物のTiO_2含有量は20～74％の間にある。鋼を製造する際の還元雰囲気が局所的に異なっていたことを示しているものと考えられる。また，No.8鉄鋌状鉄製品にみいだされたTiO_2含有量の高いチタン化合物を取り囲むガラス質けい酸塩のFeO含有量が9.85％と低いレベルにあることは既に述べたとおりである。粘性および融点の高いガラス質けい酸塩と推定される。このような組成の鉄滓の生成経路と鋼からの分離法が明らかになれば，鋼の具体的な製造法をより明確にすることができるであろう。

表1 鉄鋌状鉄製品の分析結果

No.	資料名	重量(g)	化学成分(%) T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	ミクロ組織	N.M.I
1	No.6 鉄鋌状鉄製品	254.4	99.88	0.009	0.003	0.064	0.032	0.050	0.041	0.111	0.013	0.019	0.007	0.001	推定不能	T, F
2	No.7 〃 A部	178.3	M	0.014	nd	0.032	0.029	0.056	0.002	0.723	0.005	0.016	0.002	nd	Ce (0.2～0.3％)	T, F, D
	No.7 〃 B部		64.06	0.012	0.004	0.045	0.017	0.039	0.009	0.588	0.025	0.177	0.012	0.001	Ce(0.4~0.5%),0.1%程度	no
3	No.8 〃	224.3	M	0.012	0.001	0.026	0.021	0.042	0.012	0.028	nd	0.005	0.002	0.002	推定不能	T, D
4	No.9 〃	241.9	M	0.014	0.006	0.036	0.028	0.048	0.010	0.078	nd	0.012	0.001	0.001	〃	非1;W,F,T,D 非2;T,D
5	No.10 〃	202.7	99.64	0.012	0.010	0.051	0.026	0.040	0.044	0.098	0.026	0.025	0.013	0.006	〃	W, T, M
6	No.11 〃	209.8	94.90	0.017	0.008	0.078	0.020	0.045	0.038	0.244	0.025	0.041	0.012	0.002	Ce (0.2～0.3％)	T, D
7	No.12 〃	244.4	M	0.013	0.006	0.031	0.026	0.055	0.038	0.107	0.013	0.038	0.008	0.003	推定不能	非1;T,F,M 非2;T,D
8	No.13 〃	234.1	M	0.035	0.008	0.096	0.038	0.064	0.053	0.098	0.020	0.051	0.012	0.002	〃	非1;W,F,T,D 非2;D

注[1] ndは検出されず，noは観察されず，Ceはセメンタイト，－は検出されずを表す。
注[2] N.M.Iは非金属介在物組成，Wはウスタイト（FeO），Tはチタン化合物，Fは$FeO-MgO-SiO_2$系化合物，Dはガラス質けい酸塩，Mはマトリックスを表す。
注[3] No.10，No.12，No.13の3つの鉄鋌状鉄製品については組成の異なった2つの代表的な非金属介在物がみいだされたため，それぞれ非1，非2として記載した。
注[4] Mは健全なメタル試料を表す。

表2 鉄鋌状鉄製品にみいだされた非金属介在物のＥＰＭＡによる定量（％）

資料名	測定箇所	MgO	Al_2O_3	SiO_2	CaO	TiO_2	V_2O_5	MnO	FeO	P_2O_5	K_2O	Na_2O	total
No.8 鉄鋌状鉄製品	T	8.68	2.91	0.16	0.37	73.80	11.06	0.23	6.00	0.04	0.04	0.02	103.31
	D	11.03	12.42	41.44	11.78	6.86	0.67	1.39	9.85	0.24	2.71	0.56	98.95
No.9 鉄鋌状鉄製品	非1－T	3.22	11.43	0.26	0.06	20.86	2.77	0.41	58.26	<0.01	0.02	<0.01	97.31
	非2－T	4.68	10.68	3.18	0.30	63.41	6.50	0.27	11.66	0.02	0.05	0.09	100.84
No.10鉄鋌状鉄製品	T	2.74	7.05	0.16	0.20	23.00	2.69	0.45	63.02	0.09	0.04	<0.01	99.45
No.12鉄鋌状鉄製品	非2－T	2.48	5.55	2.87	0.17	26.83	4.90	0.30	58.24	<0.10	0.10	0.11	101.56
	非2－D	2.63	13.83	51.11	5.69	2.20	<0.01	0.35	20.52	0.34	1.47	0.95	99.10

注）No.9鉄鋌状鉄製品非1，非2の組成はそれぞれT，F，M，T，D，No.12鉄鋌状鉄製品非2の組成はT，Dである。

表3 青森県浪岡城跡出土鉄鋌状鉄製品の化学組成

資料名	T.Fe	Cu	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	N.M.I
Ｆ3鉄鋌状鉄製品	58.76	0.006	0.005	0.283	0.001	0.412	0.098	-	0.050	W, F, T, M
Ｆ 鉄鋌状鉄製品	63.63	0.021	0.002	0.162	0.004	0.258	0.016	0.012	0.002	T

注）N.M.Iは非金属介在物組成，Wはウスタイト（FeO），Tはチタン化合物（T），Fは$FeO-SiO_2$系介在物，Mはマトリックスを表す。

茨城県教育財団文化財調査報告第102集

（仮称）北条住宅団地建設工事
地内埋蔵文化財調査報告書

中　台　遺　跡
（中　巻）

平成７（1995）年３月31日　編集
平成７（1995）年12月25日　印刷・発行

発　行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市見和１丁目356番地の２
ＴＥＬ 029-225-6587

印　刷　ワタヒキ印刷株式会社
ＴＥＬ029－221－4381